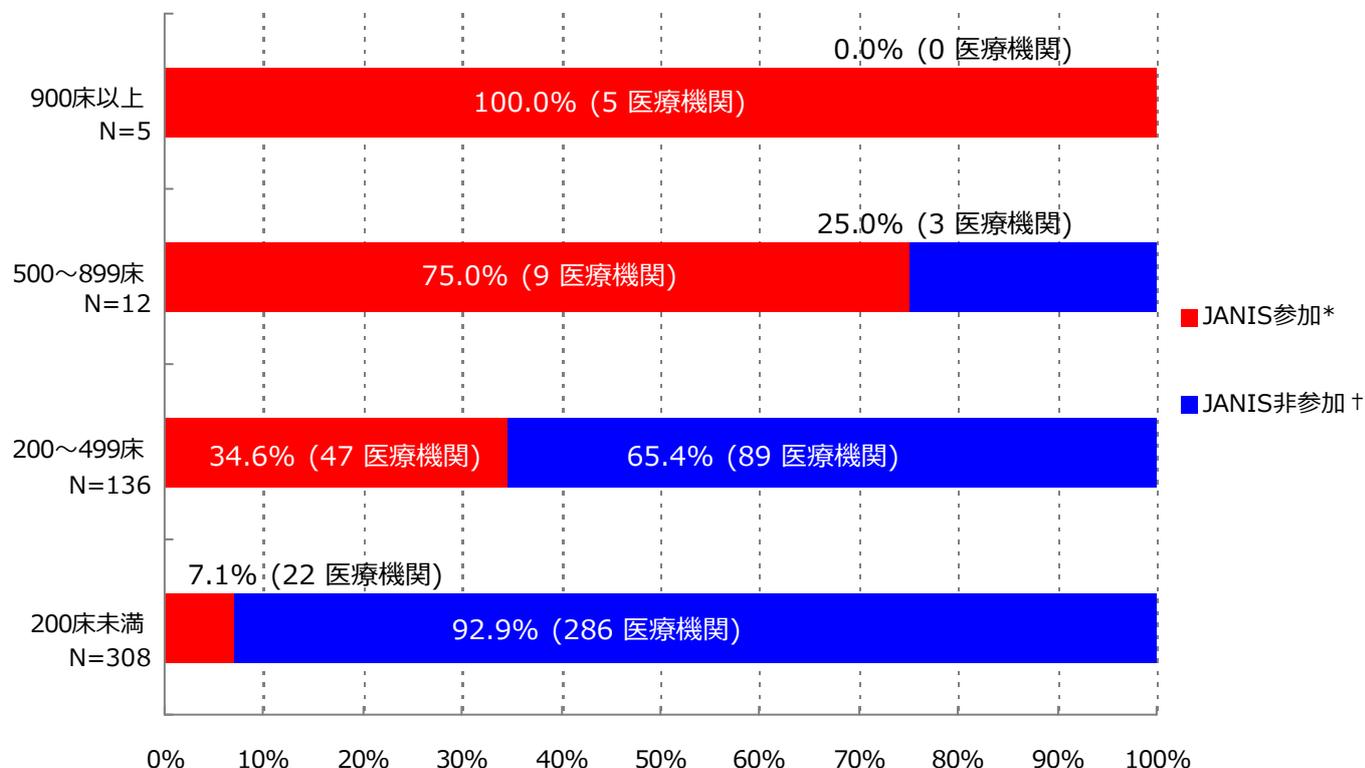




1. 集計対象医療機関数(83医療機関)



*JANIS参加 = 2017年1～3月 集計対象医療機関数

† JANIS非参加 = (2016年 都道府県別医療機関数 †) - (2017年1～3月 集計対象医療機関数)

| 病床数 | 2016年 都道府県別医療機関数 † | 2017年1月～3月 集計対象医療機関数 (都道府県別医療機関数に占める割合) | |
|----------|--------------------|--|----------|
| 900床以上 | 5 | 5 | (100.0%) |
| 500～899床 | 12 | 9 | (75.0%) |
| 200～499床 | 136 | 47 | (34.6%) |
| 200床未満 | 308 | 22 | (7.1%) |
| 病床数不明 | - | 0 | (-) |
| 合計 | 461 | 83 | (18.0%) |

† 平成28年医療施設 (動態) 調査を参照した

2. 検査材料別集計対象医療機関数、検体数、分離菌数

| 検査材料分類 | 集計対象医療機関数 | 検体数 | 陽性検体数 (分離菌数) |
|--------|-----------|--------|--------------------|
| 呼吸器系検体 | 83 | 30,414 | 17,947 (34,288) |
| 尿検体 | 81 | 12,656 | 6,637 (10,188) |
| 便検体 | 82 | 7,385 | 3,719 (7,277) |
| 血液検体 | 82 | 30,805 | 3,382 (3,865) |
| 髄液検体 | 48 | 1,016 | 52 (70) |
| その他 | 82 | 13,267 | 6,541 (11,610) |
| 合計 | 83 | 95,543 | 38,278 (67,298) |

入院として報告された検体を集計

集計対象菌：コメントのみ(菌名コード9999)の報告以外の全ての菌

検査材料分類は以下に該当する検査材料コードを集計

呼吸器系検体：

101(喀出痰)、102(気管内採痰)、103(気管支洗浄液)、104(咽頭粘液)、105(鼻腔内)、106(口腔内)、
107(生検材料(肺))、109(その他(呼吸器))、404(胸水)

尿検体：

201(自然排尿)、202(採尿カテーテル)、203(留置カテーテル)、206(カテーテル尿(採尿、留置カテの区別不能))

便検体：

301(糞便)

血液検体：

401(静脈血)、402(動脈血)

髄液検体：

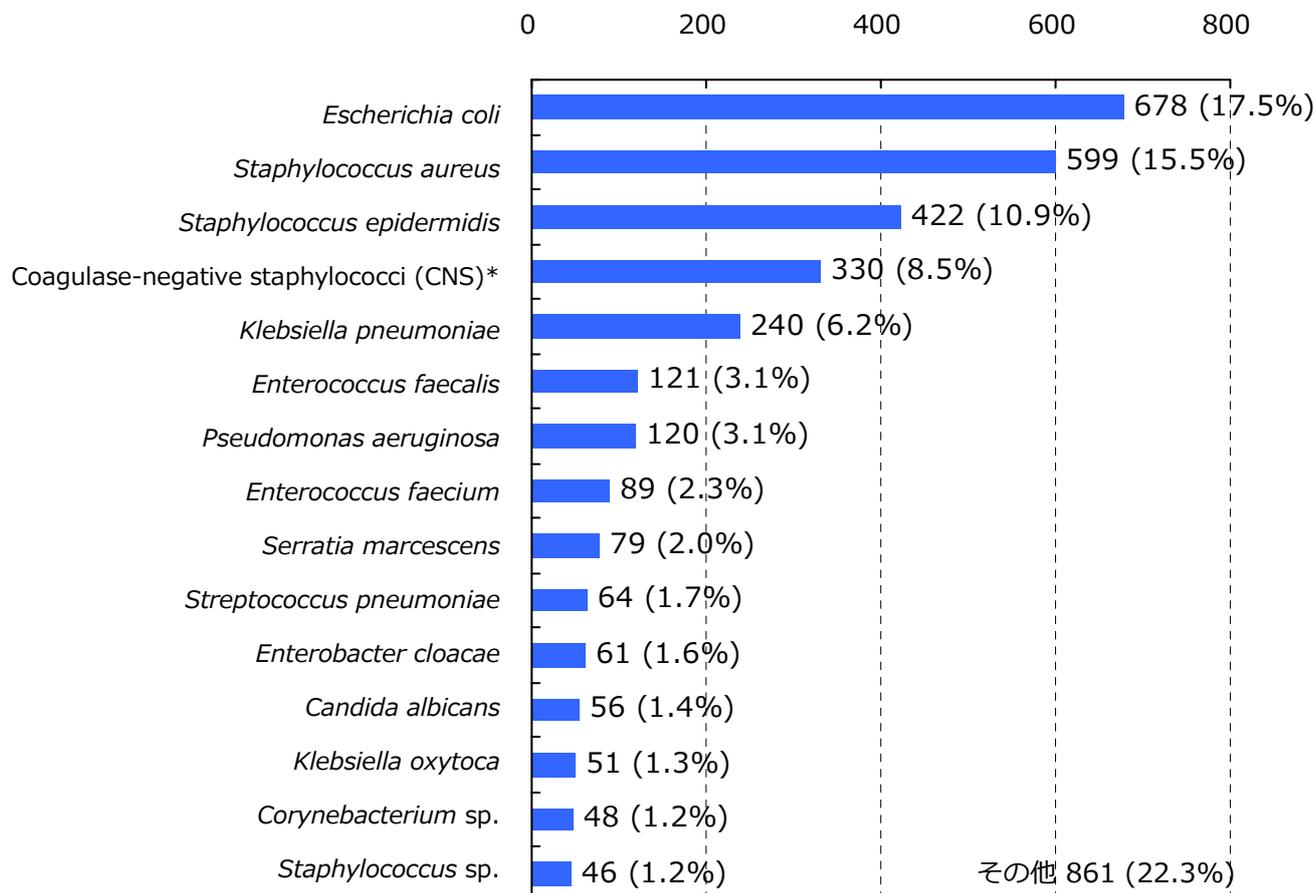
403(髄液)

その他：上記以外の検査材料コード

検査材料コード：JANISホームページ>各部門について>検査部門 <https://janis.mhlw.go.jp/section/kensa.html>

3. 検査材料別分離菌数割合

血液検体分離菌 (N=3,865)



*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌（1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外）

入院として報告された検体を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：静脈血(検査材料コード401)と動脈血(同402)

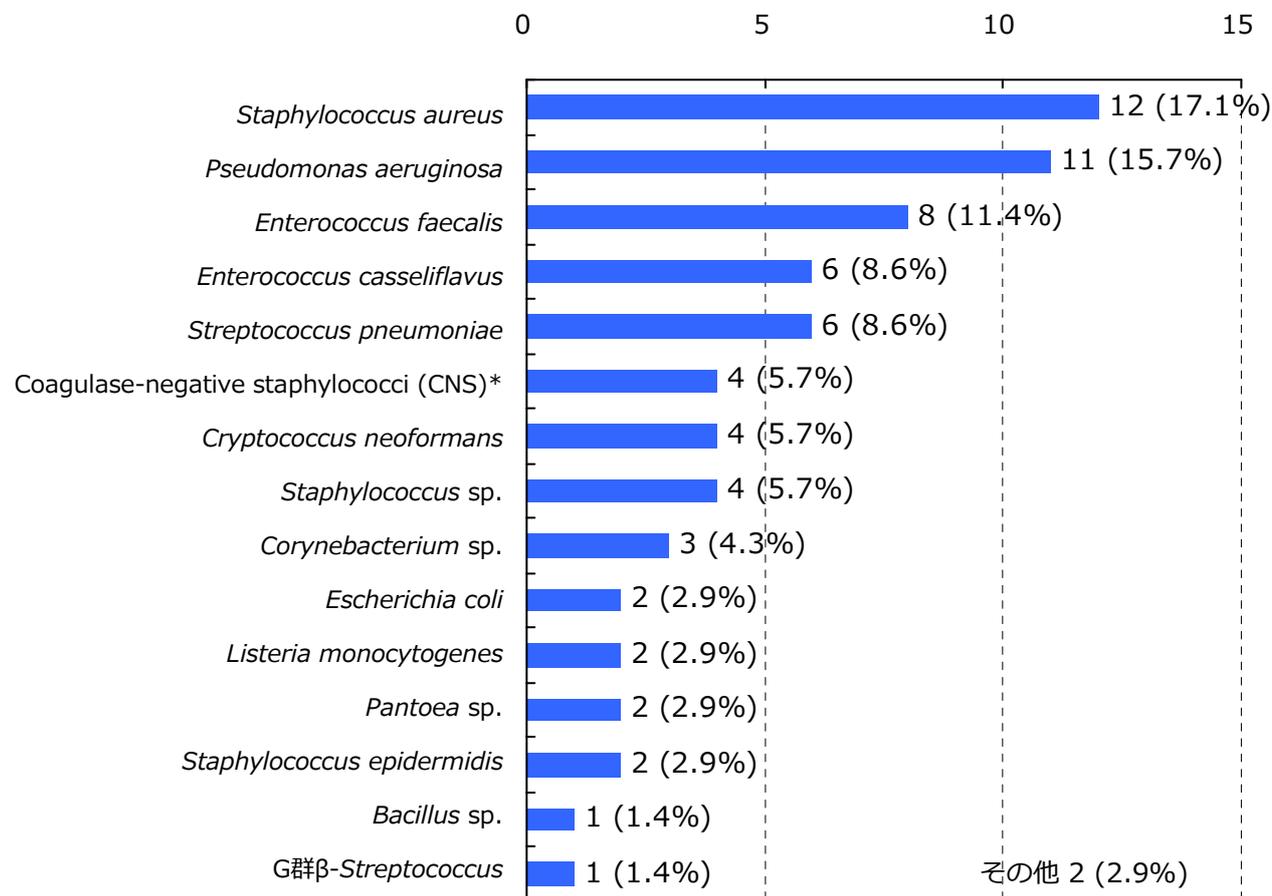
血液検体分離菌数割合 = (対象菌の血液検体分離菌数) ÷ (血液検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <https://janis.mhlw.go.jp/section/kensa.html>

3. 検査材料別分離菌数割合

髄液検体分離菌 (N=70)



*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌（1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外）

入院として報告された検体を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

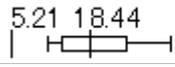
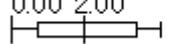
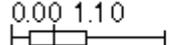
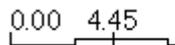
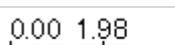
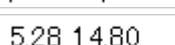
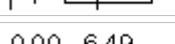
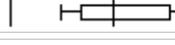
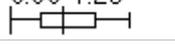
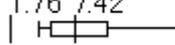
集計対象検査材料：髄液(検査材料コード403)

髄液検体分離菌数割合 = (対象菌の髄液検体分離菌数) ÷ (髄液検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <https://janis.mhlw.go.jp/section/kensa.html>

4. 主要菌分離患者数*と全医療機関†の分離率分布

| | 検体提出・菌分離患者数 全体の分離率‡ | 集計対象医療機関の 分離率¶(%)の分布 |
|---------------------------|------------------------|--|
| 検体提出患者数 | 32,701人 | |
| <i>S. aureus</i> | 5,692人 (17.41%) | 5.21 18.44 62.50  |
| <i>S. epidermidis</i> | 863人 (2.64%) | 0.00 2.00 9.40  |
| <i>S. pneumoniae</i> | 537人 (1.64%) | 0.00 1.10 9.00  |
| <i>E. faecalis</i> | 1,573人 (4.81%) | 0.00 4.45 14.84  |
| <i>E. faecium</i> | 704人 (2.15%) | 0.00 1.98 7.38  |
| <i>E. coli</i> | 4,871人 (14.90%) | 5.28 14.80 43.48  |
| <i>K. pneumoniae</i> | 2,099人 (6.42%) | 0.00 6.49 22.52  |
| <i>Enterobacter spp.</i> | 1,269人 (3.88%) | 0.00 3.23 10.81  |
| <i>S. marcescens</i> | 479人 (1.46%) | 0.00 1.25 8.11  |
| <i>P. aeruginosa</i> | 2,287人 (6.99%) | 1.76 7.42 31.61  |
| <i>Acinetobacter spp.</i> | 575人 (1.76%) | 0.00 1.32 7.79  |

入院として報告された検体を集計

*分離患者数と検体提出患者数は30日ごとに重複処理(巻末参照)している

†ここでは全医療機関は集計対象医療機関を表す

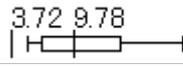
‡ここでの分離率は全体の分離率を表す

全体の分離率

= (集計対象医療機関の対象菌の分離患者数合計) ÷ (集計対象医療機関の検体提出患者数合計) × 100

¶分離率 = (対象菌の分離患者数) ÷ (検体提出患者数) × 100

5. 特定の耐性菌分離患者数*と全医療機関†の分離率分布

| | 検体提出・菌分離患者数 全体の分離率‡ | 集計対象医療機関の 分離率¶(%)の分布 |
|------------------------|------------------------|--|
| 検体提出患者数 | 32,701人 | |
| メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA) | 3,109人 (9.51%) | 3.72 9.78 37.50  |
| バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌(VRSA) | 0人 (0.00%) | 0.00  |
| バンコマイシン耐性腸球菌(VRE) | 15人 (0.05%) | 0.00 0.00 0.63  |
| ペニシリン耐性肺炎球菌(PRSP) | 175人 (0.54%) | 0.00 0.00 3.97  |
| 多剤耐性緑膿菌(MDRP) | 5人 (0.02%) | 0.00 0.00 0.35  |
| 多剤耐性アシネトバクター属(MDRA) | 0人 (0.00%) | 0.00  |
| カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE) | 113人 (0.35%) | 0.00 0.00 2.67  |
| カルバペネム耐性緑膿菌 | 291人 (0.89%) | 0.00 0.63 7.72  |
| 第三世代セファロスポリン耐性肺炎桿菌 | 260人 (0.80%) | 0.00 0.39 9.46  |
| 第三世代セファロスポリン耐性大腸菌 | 1,190人 (3.64%) | 0.00 3.15 26.45  |
| フルオロキノロン耐性大腸菌 | 1,792人 (5.48%) | 0.00 5.59 32.90  |

入院検体でかつ、検査法が原則微量液体希釈法又はEtestと設定されたMIC値が報告されている検体を集計

MRSAとVREは検査法によらず菌名コードで指定された場合はそれらを含む

*分離患者数と検体提出患者数は30日ごとに重複処理(巻末参照)している

†ここでは全医療機関は集計対象医療機関を表す

‡ここでの分離率は全体の分離率を表す

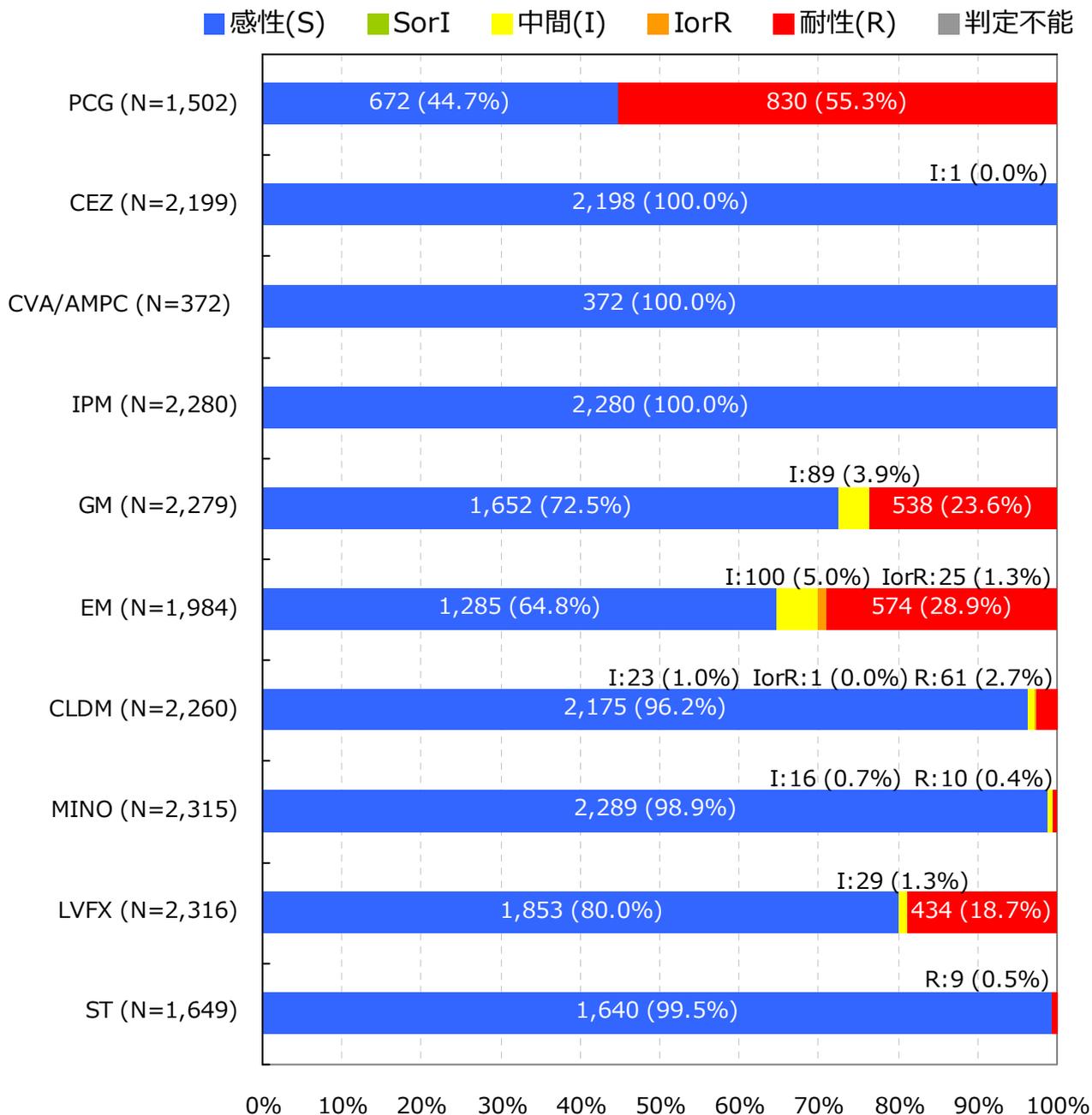
全体の分離率

= (集計対象医療機関の対象菌の分離患者数合計) ÷ (集計対象医療機関の検体提出患者数合計) × 100

¶分離率 = (対象菌の分離患者数) ÷ (検体提出患者数) × 100

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Staphylococcus aureus (MSSA) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

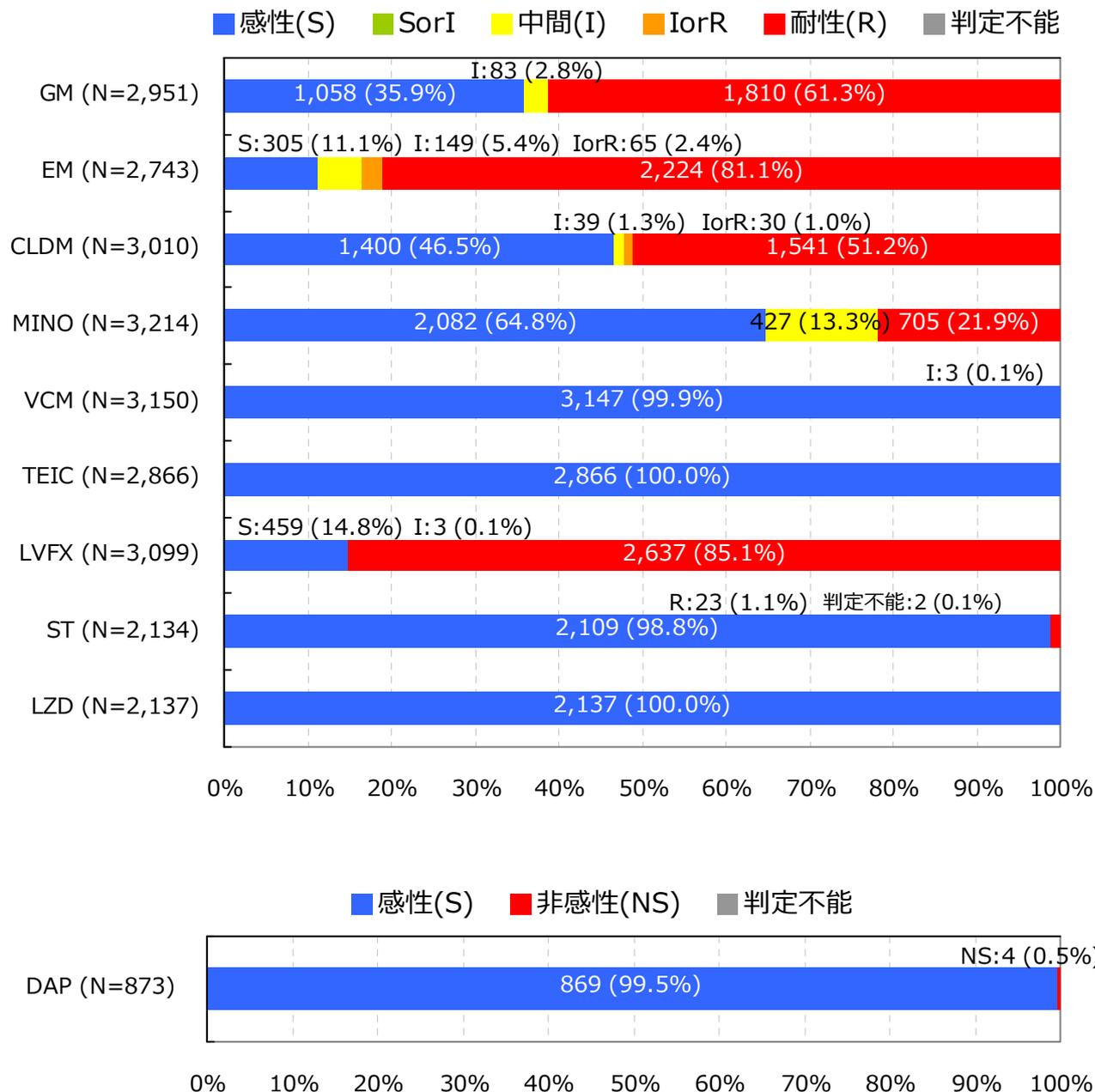
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1304, 1305, 1306と報告された菌および菌名コード : 1301と報告され抗菌薬コード : 1208 (オキサシリン) の感受性結果「S」の菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Staphylococcus aureus (MRSA) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

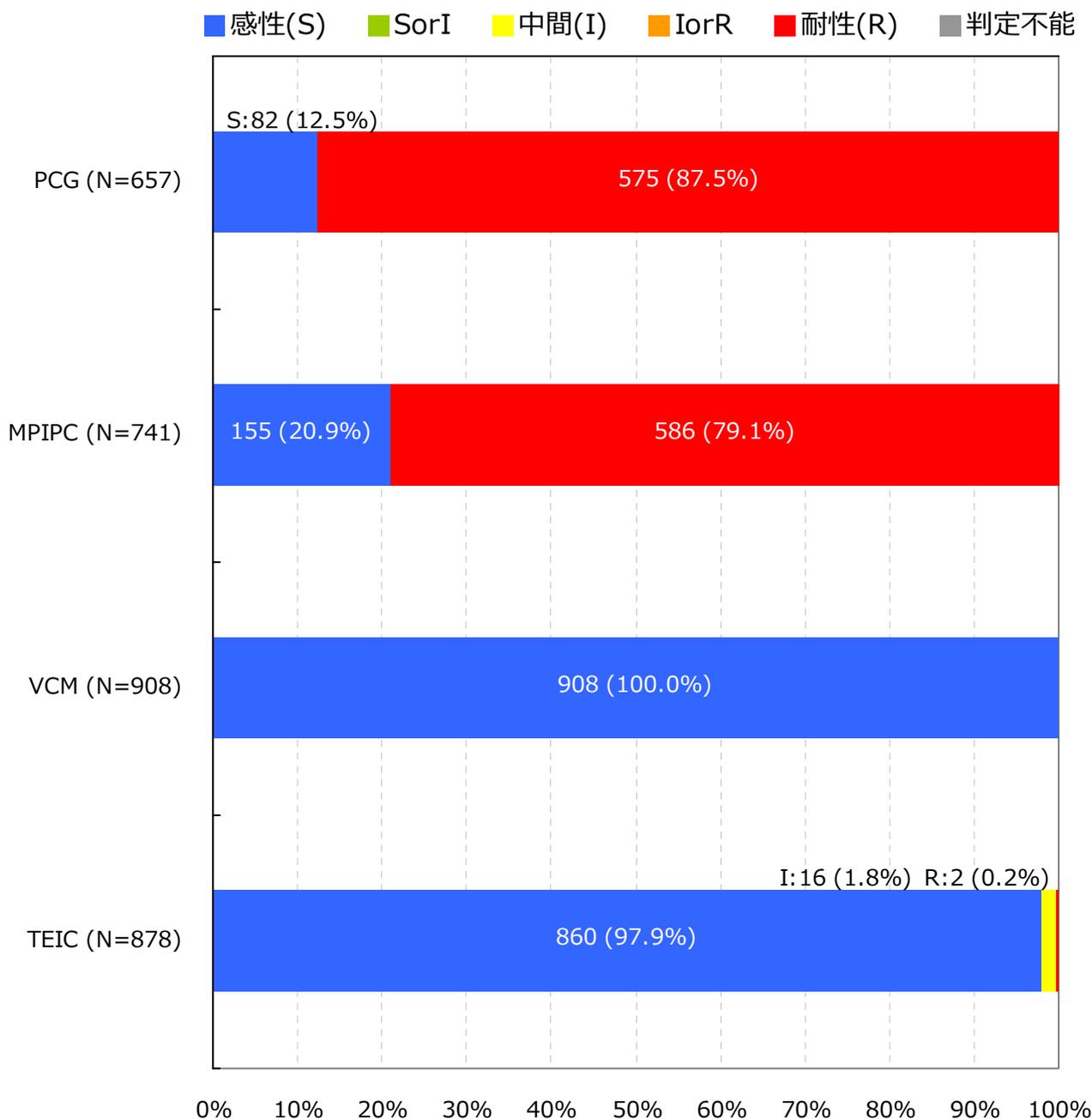
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1303と報告された菌および菌名コード : 1301と報告され抗菌薬コード : 1208 (オキサシリン) の感受性結果「R」の菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Staphylococcus epidermidis †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

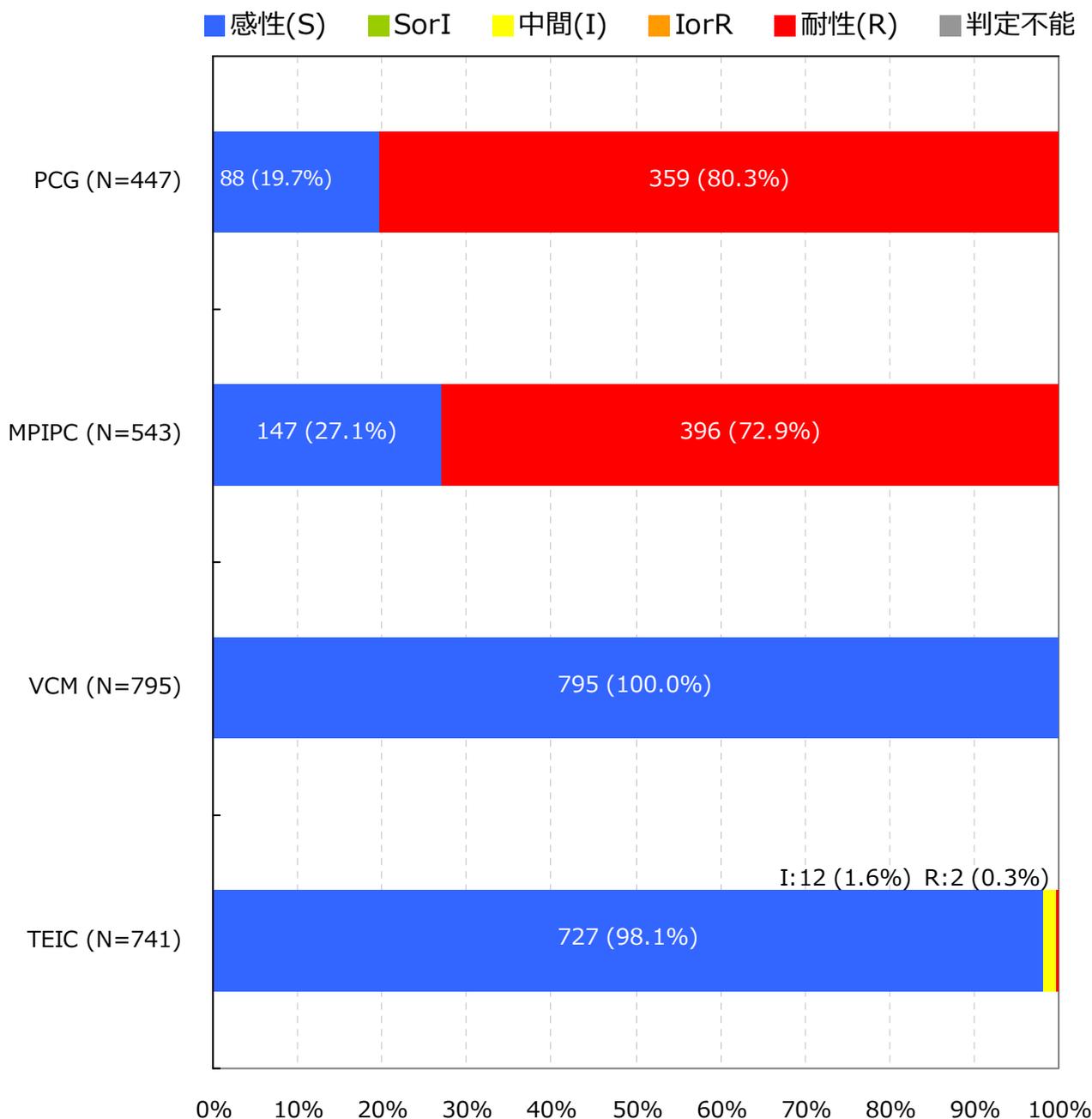
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1312と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Coagulase-negative staphylococci (CNS) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

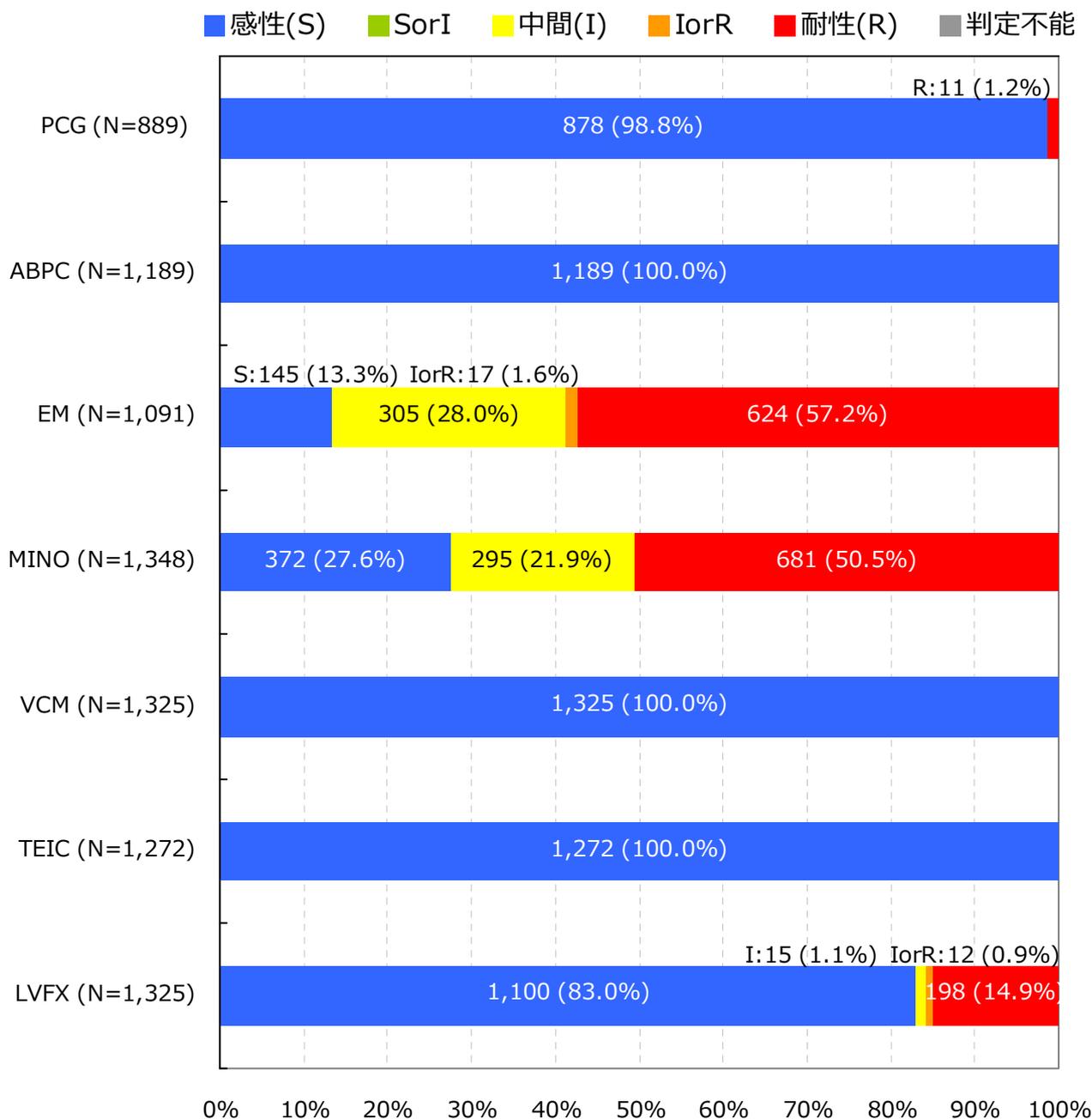
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1311, 1313~1325と報告された菌 (1312 : *Staphylococcus epidermidis*は対象外)

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Enterococcus faecalis †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

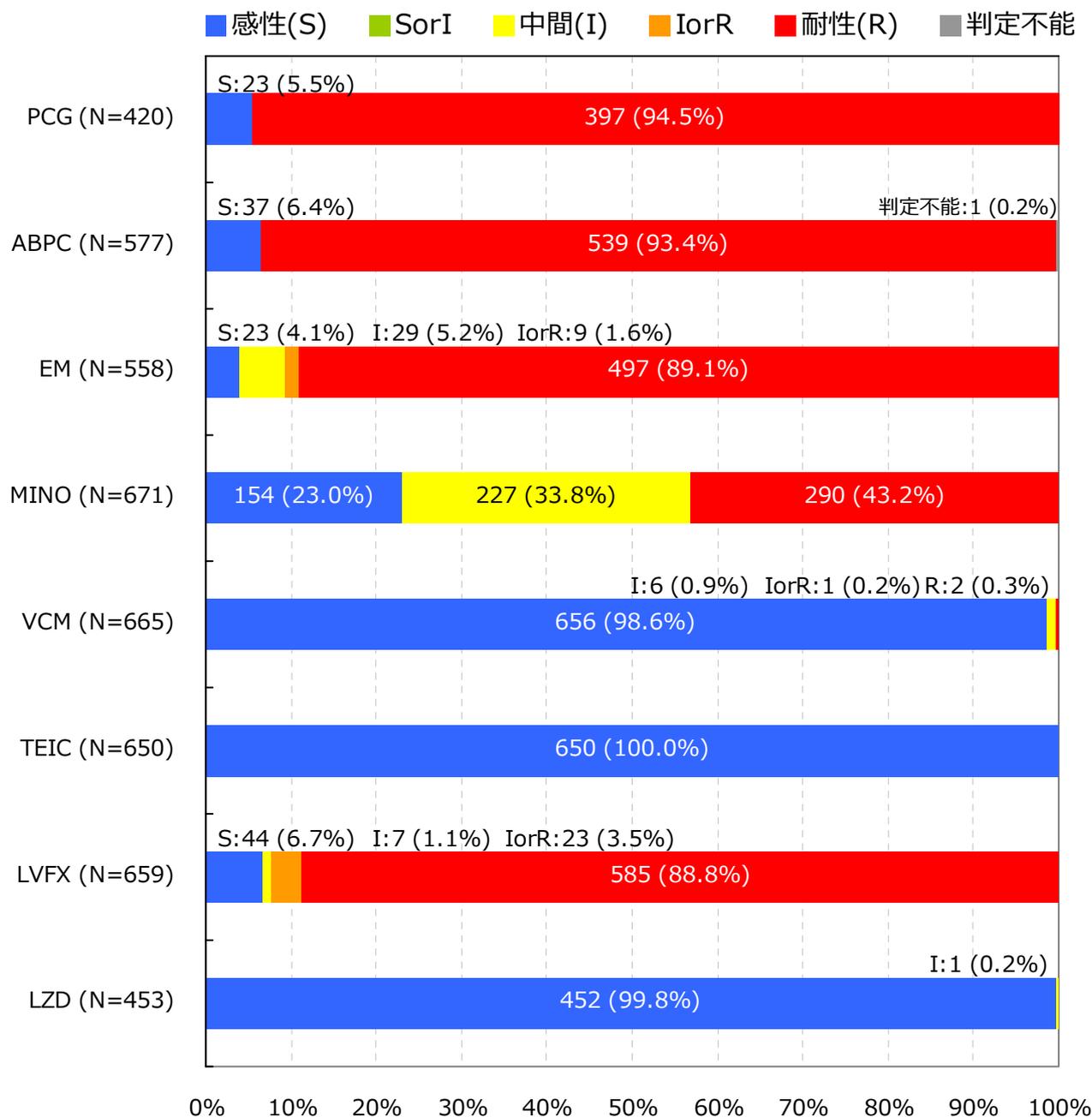
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1201, 1202と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Enterococcus faecium †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

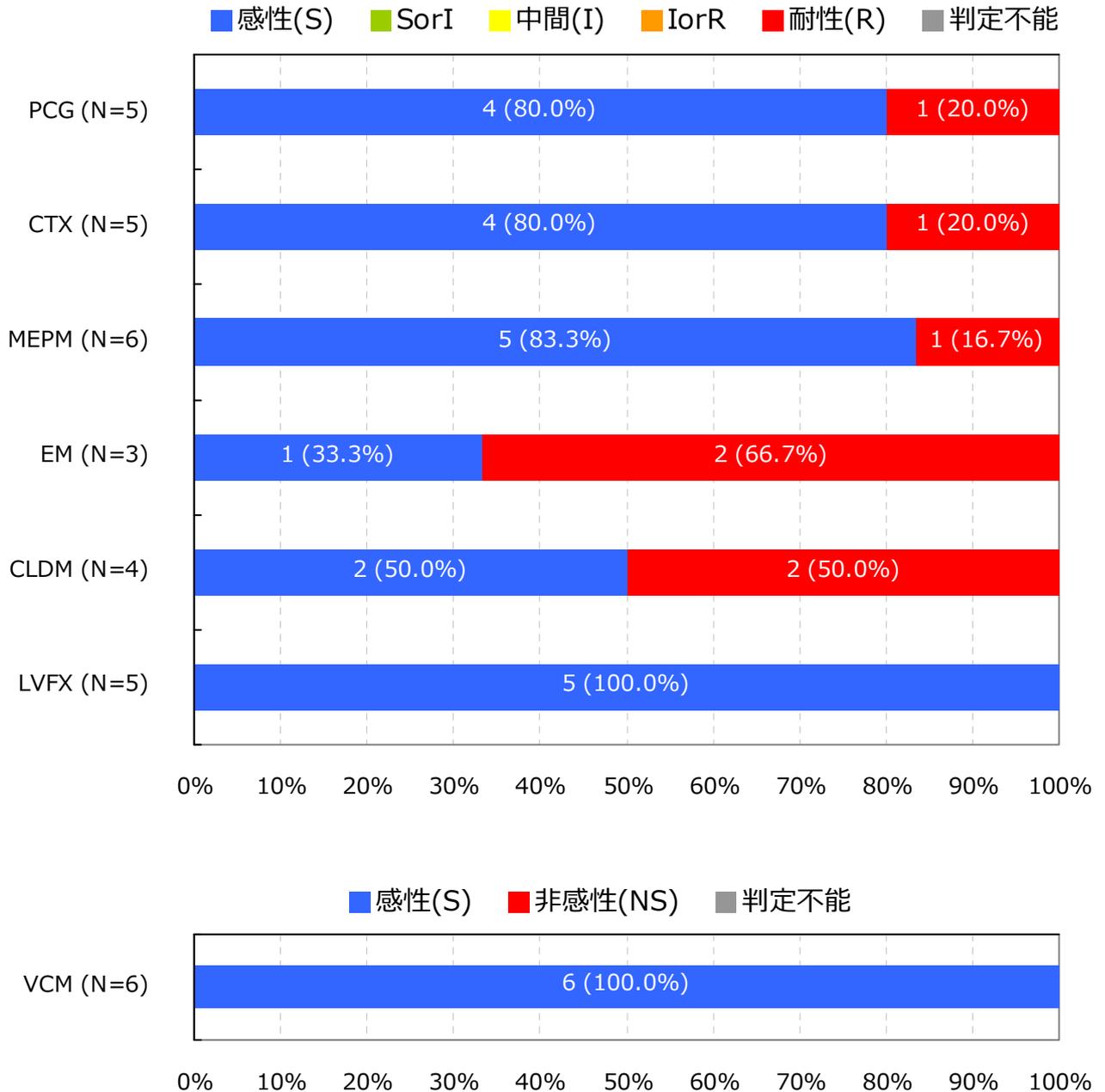
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1205, 1206と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Streptococcus pneumoniae(髄液検体) †



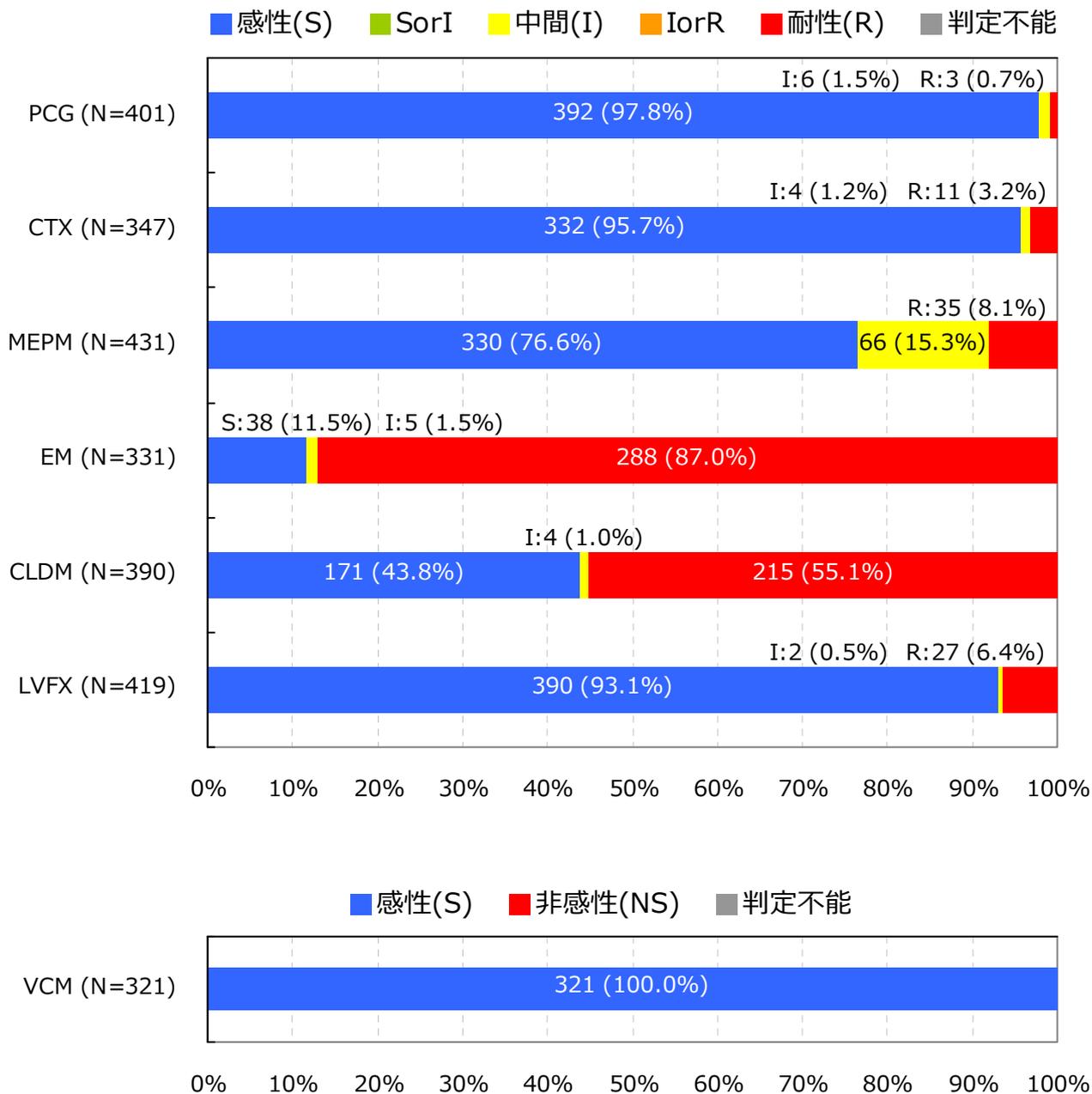
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1131と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Streptococcus pneumoniae(髄液検体以外) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

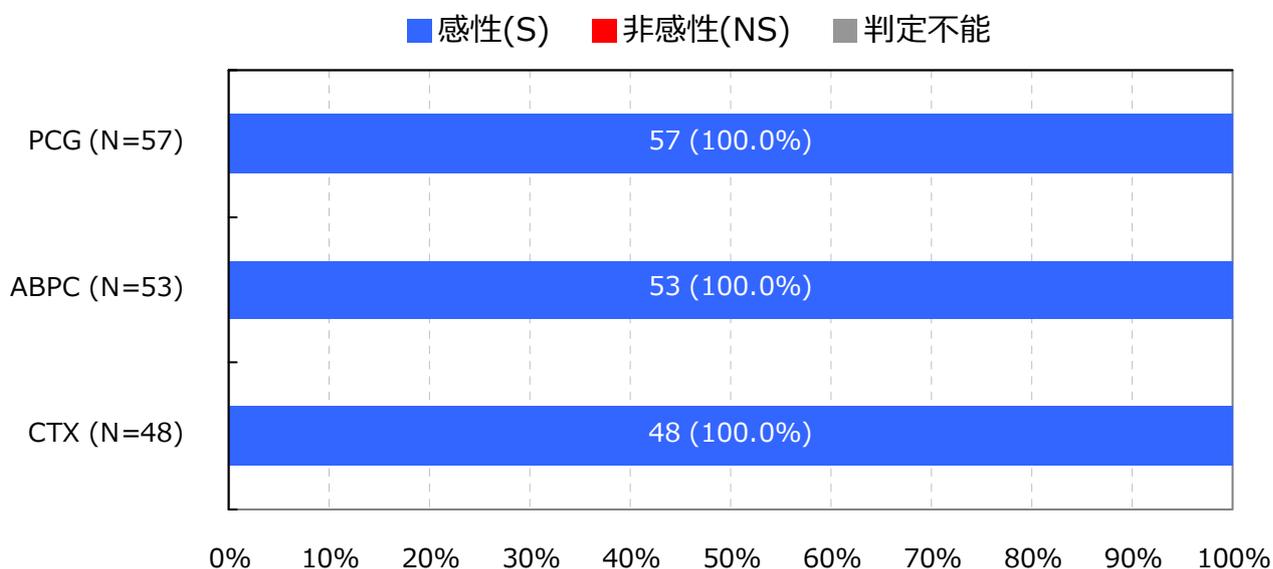
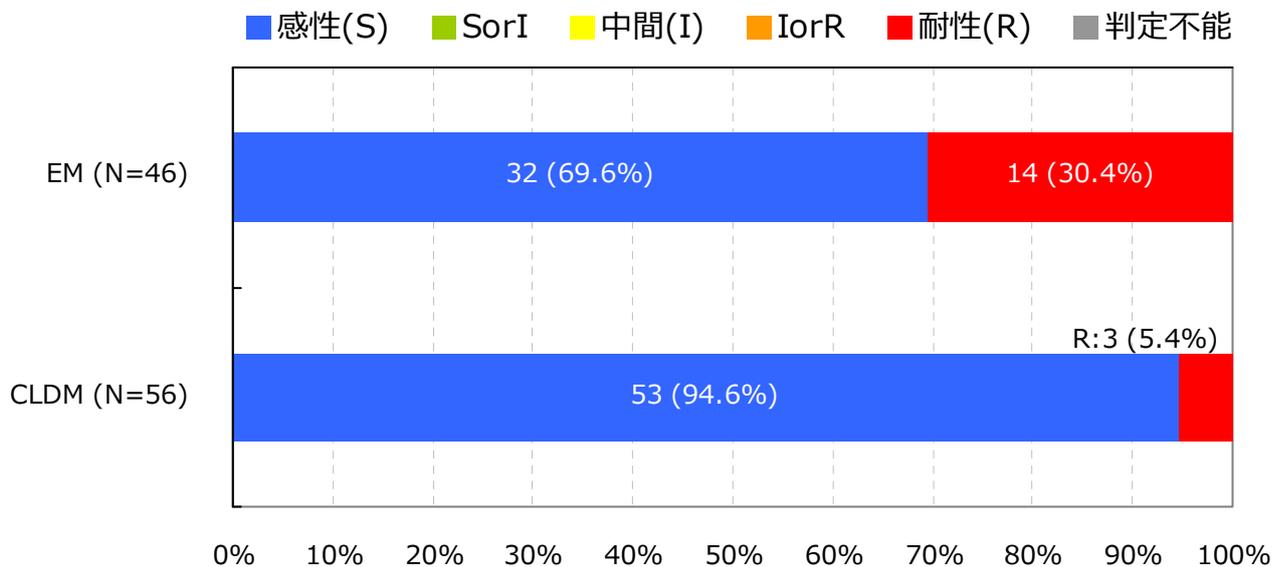
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1131と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Streptococcus pyogenes †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

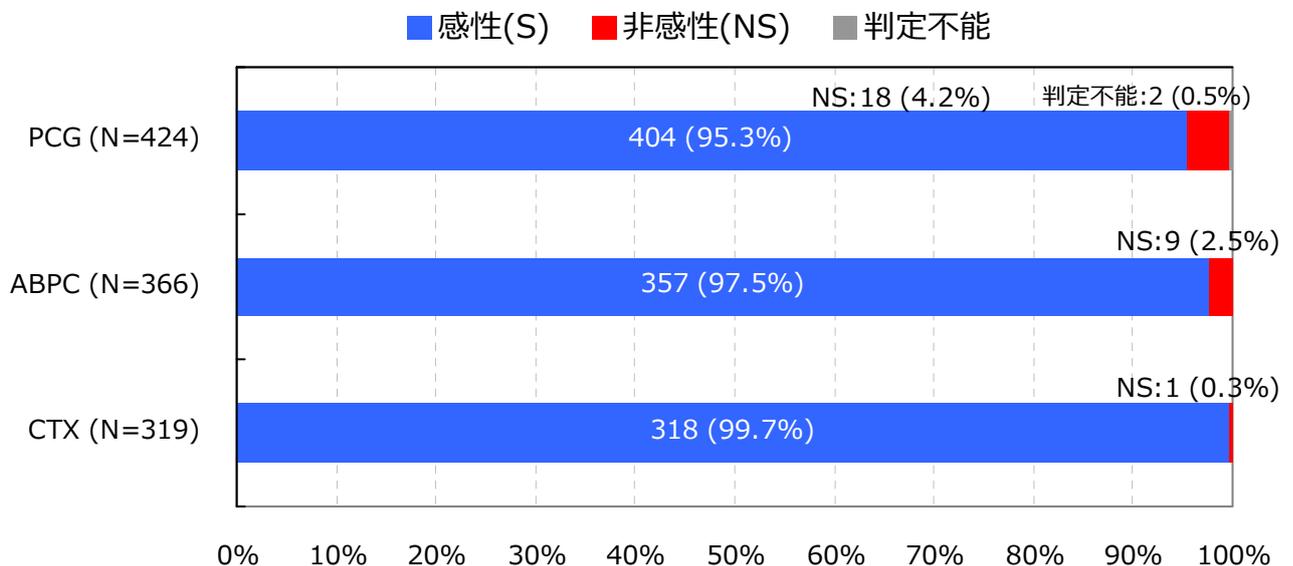
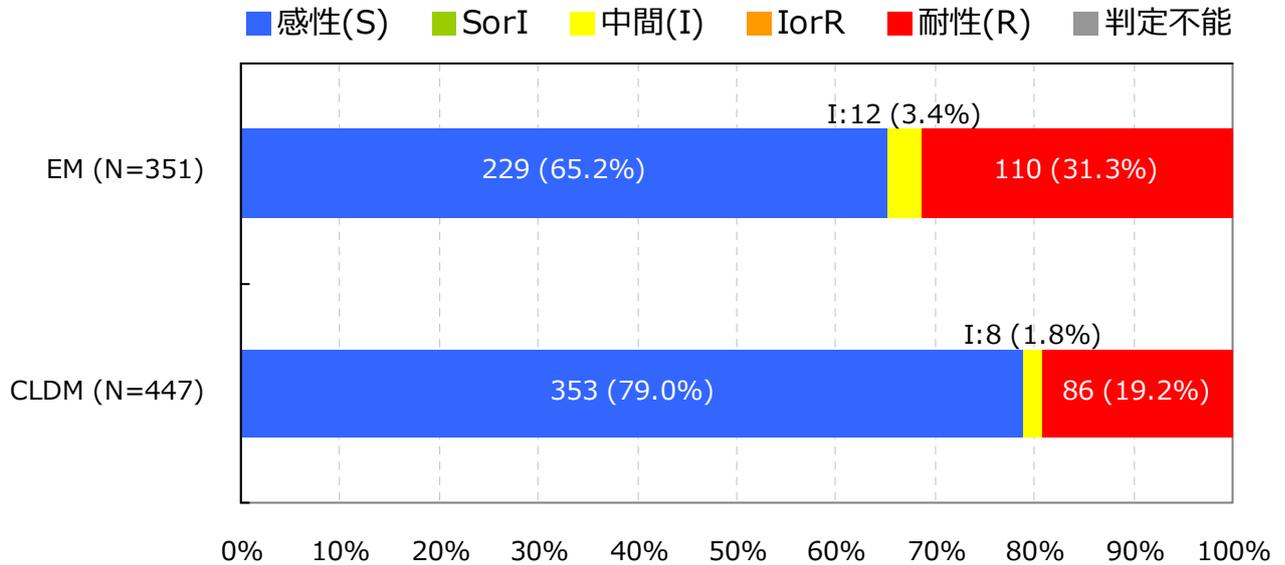
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1111と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Streptococcus agalactiae †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

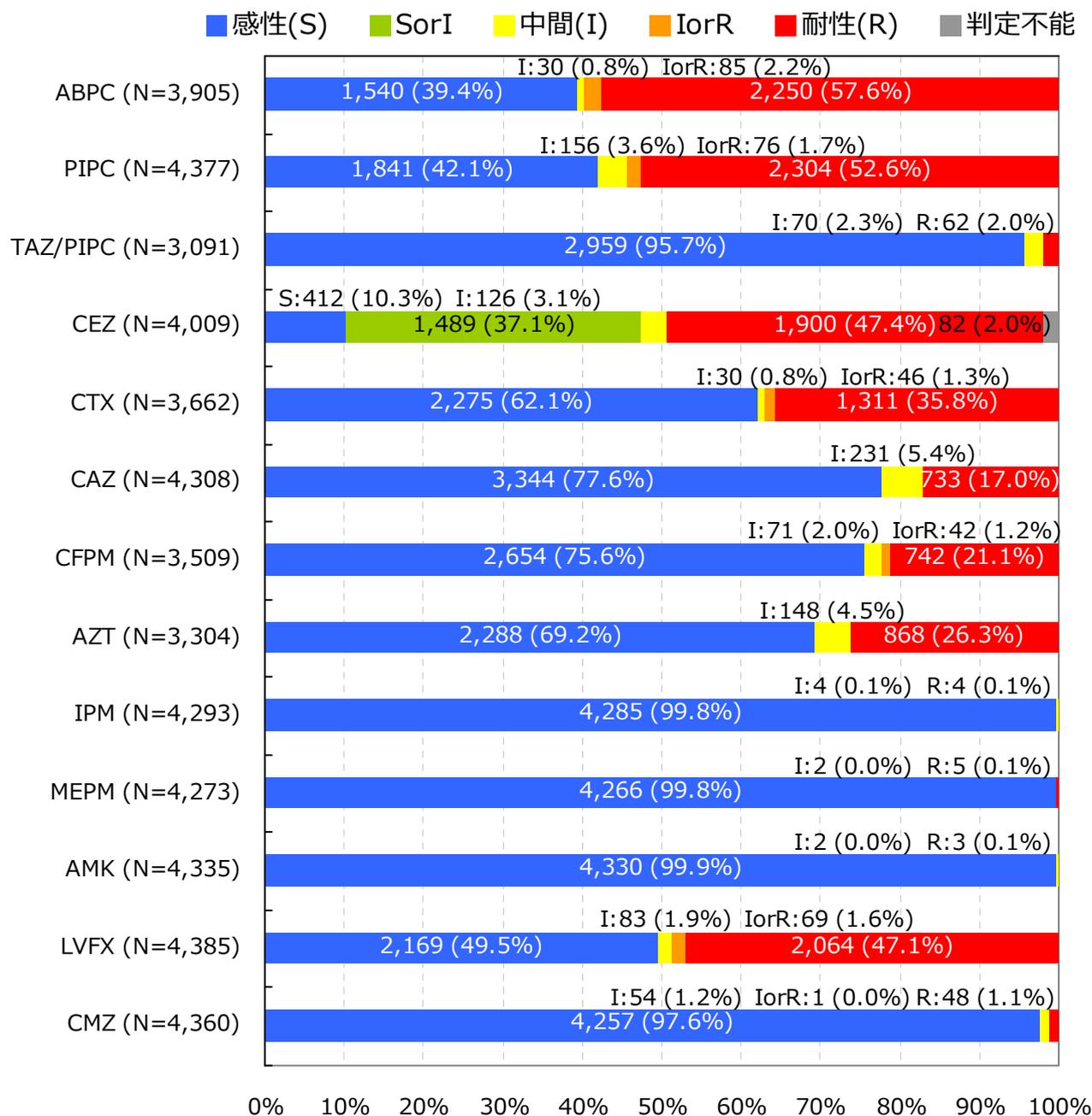
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1114と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Escherichia coli †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

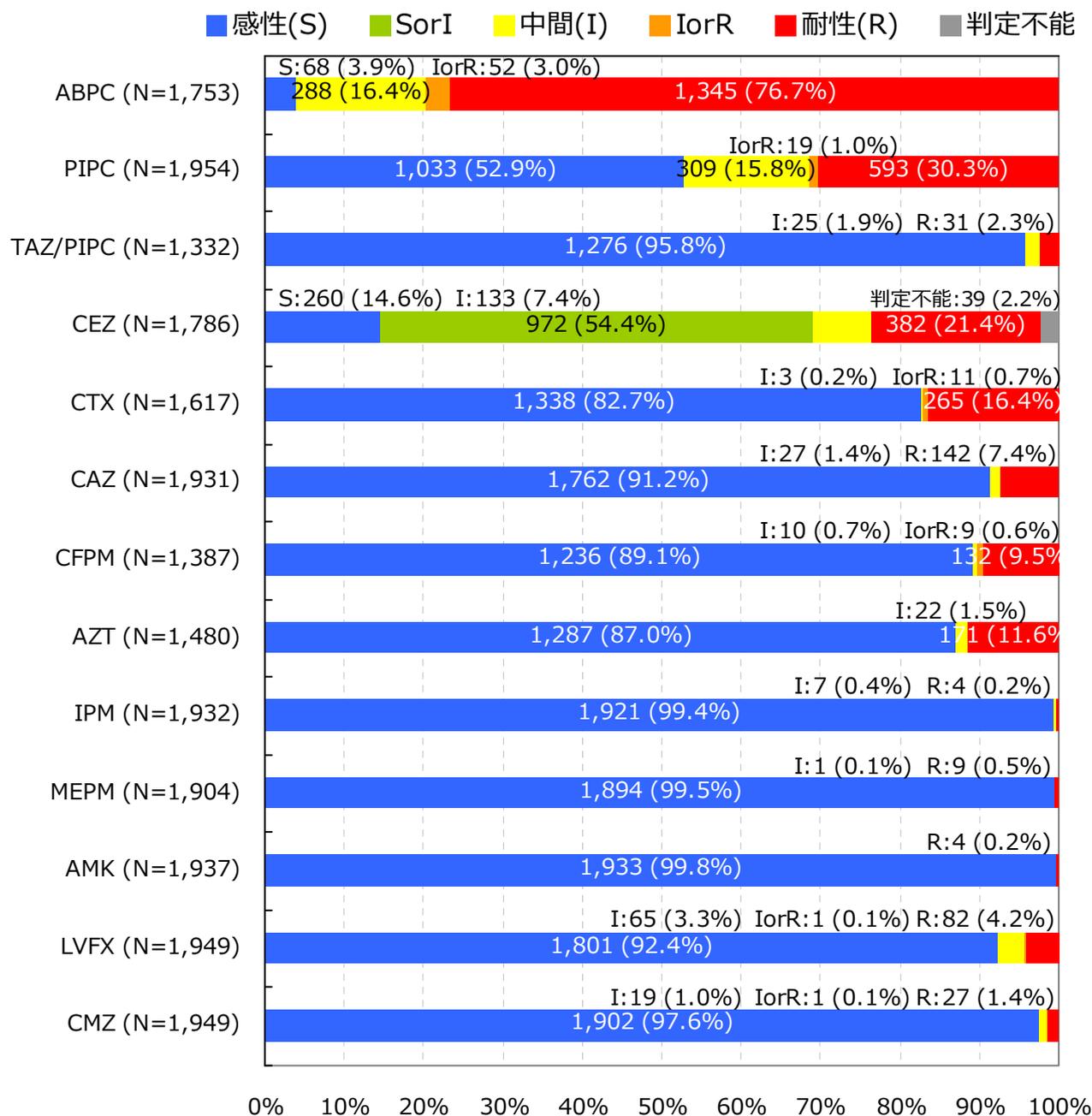
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 2001～2007と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Klebsiella pneumoniae †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

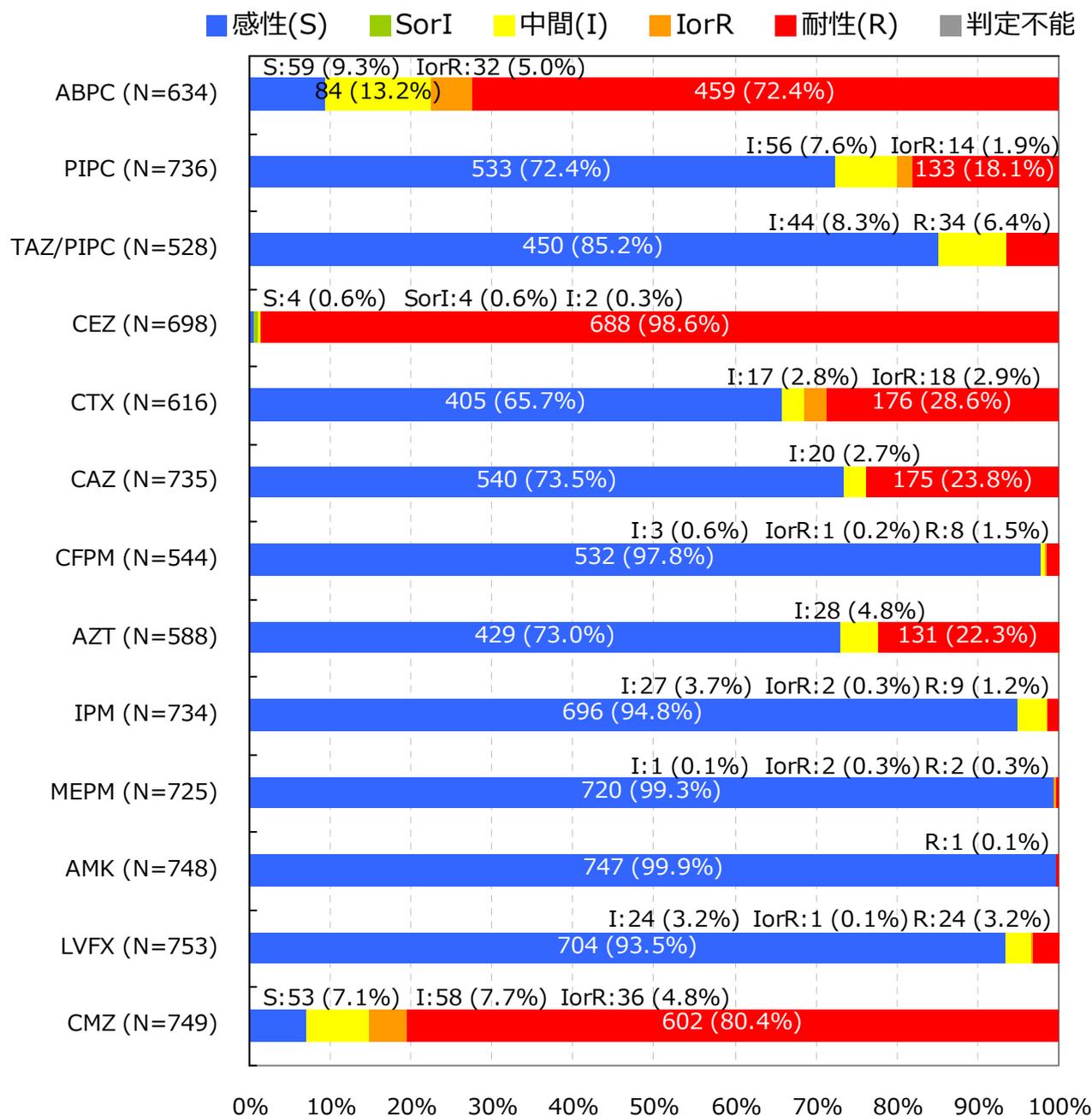
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 2351と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Enterobacter cloacae †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

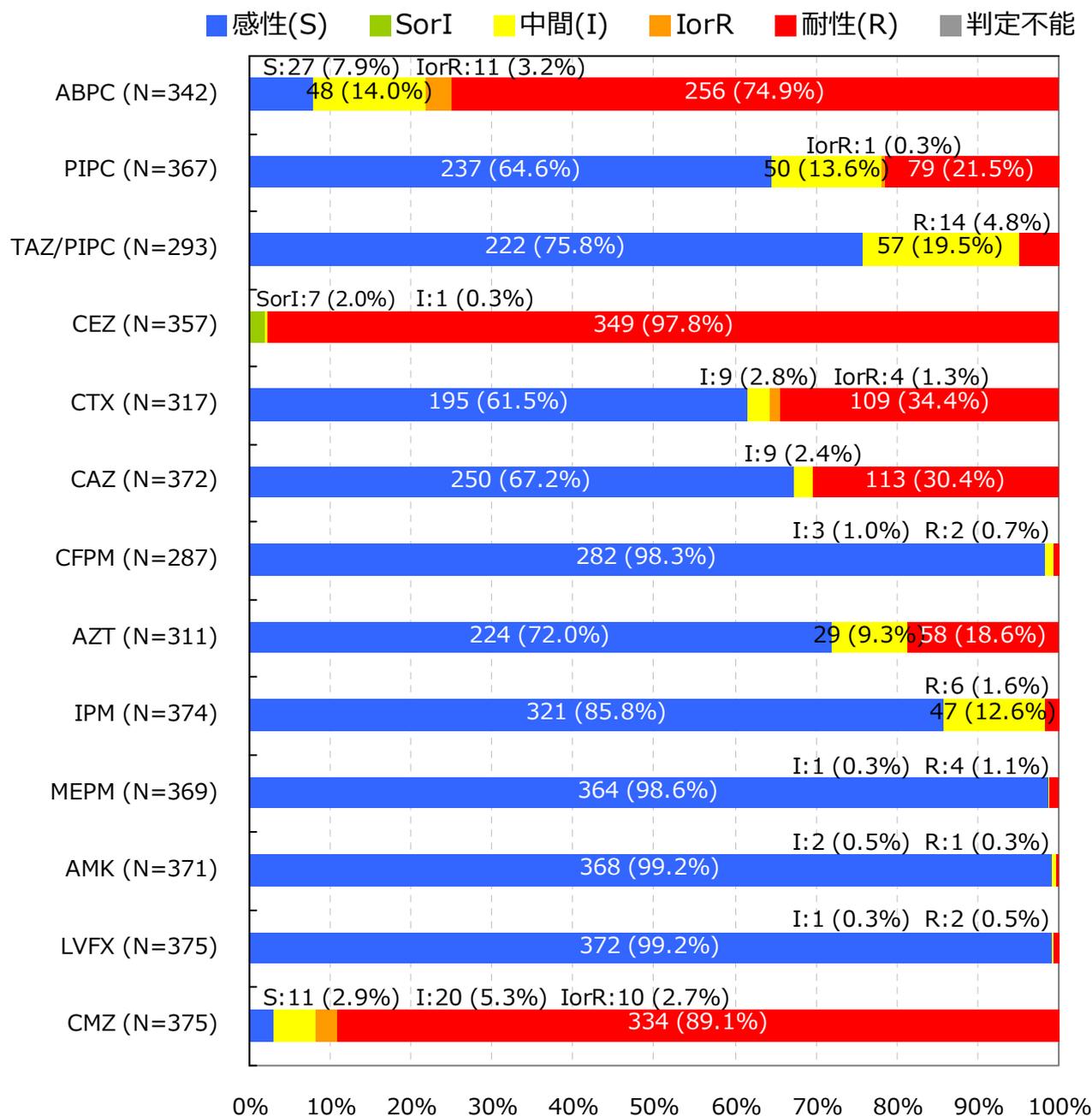
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 2151と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Enterobacter aerogenes †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

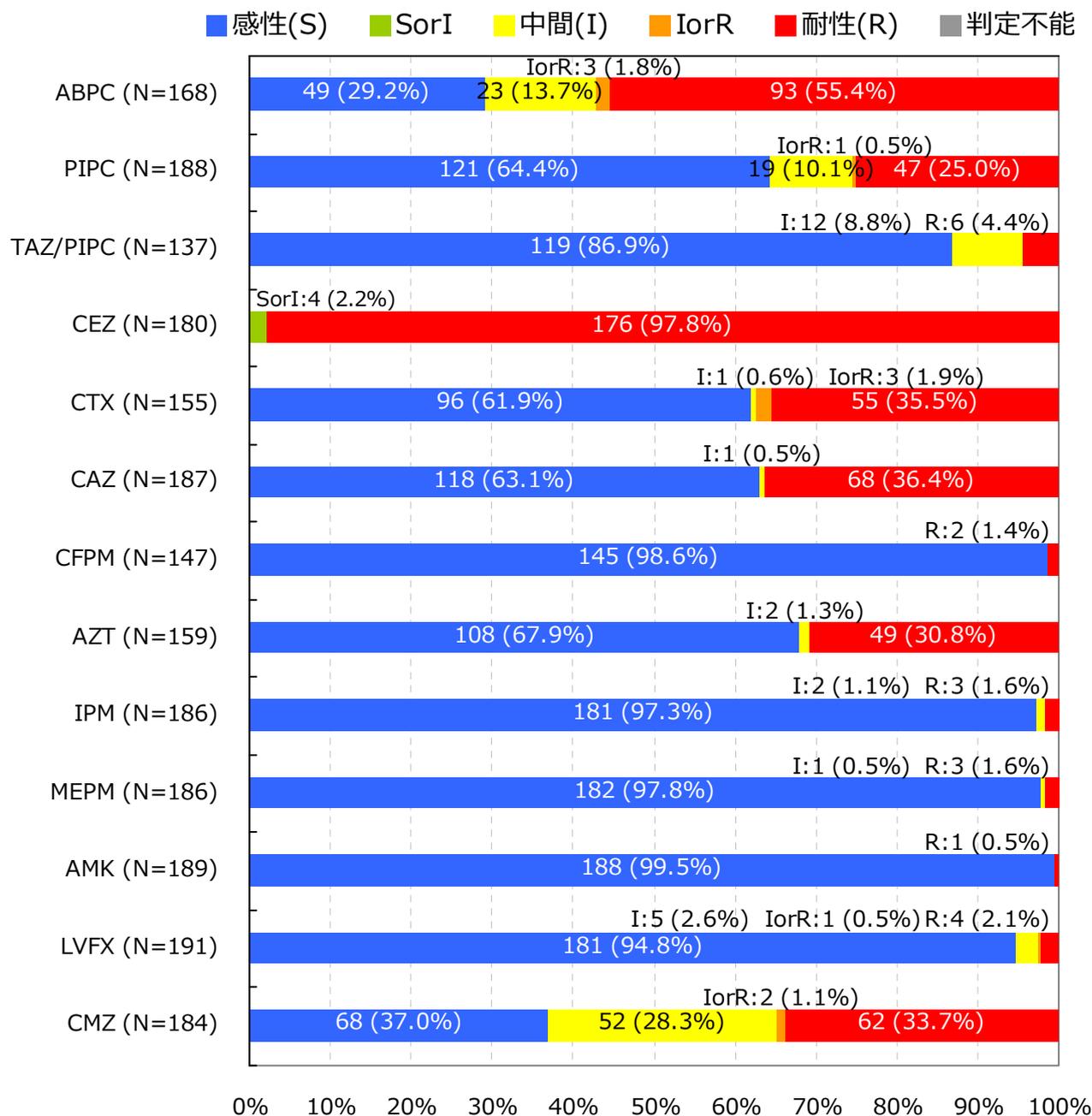
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 2152と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Citrobacter freundii †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

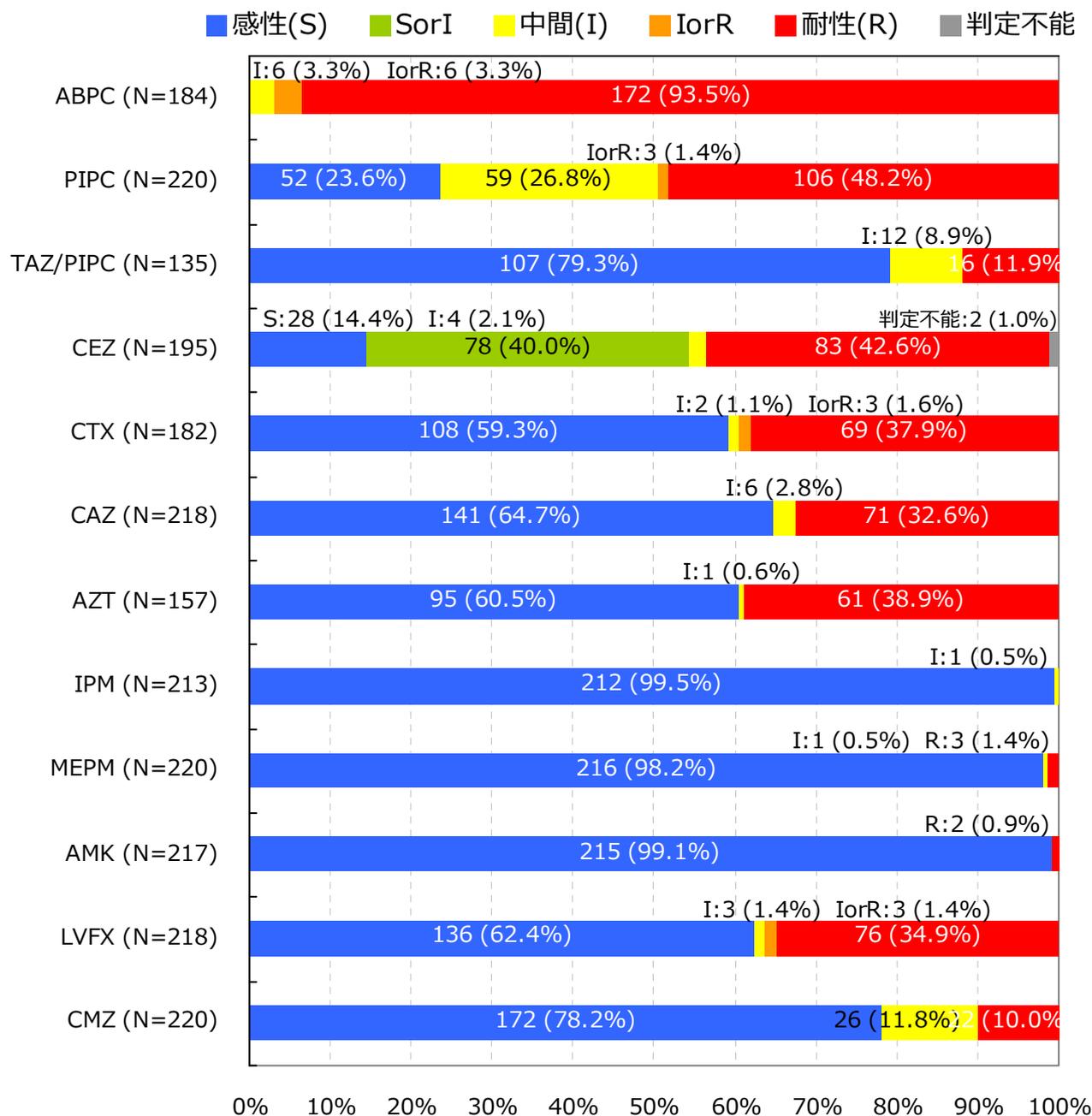
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2051と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Citrobacter koseri †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

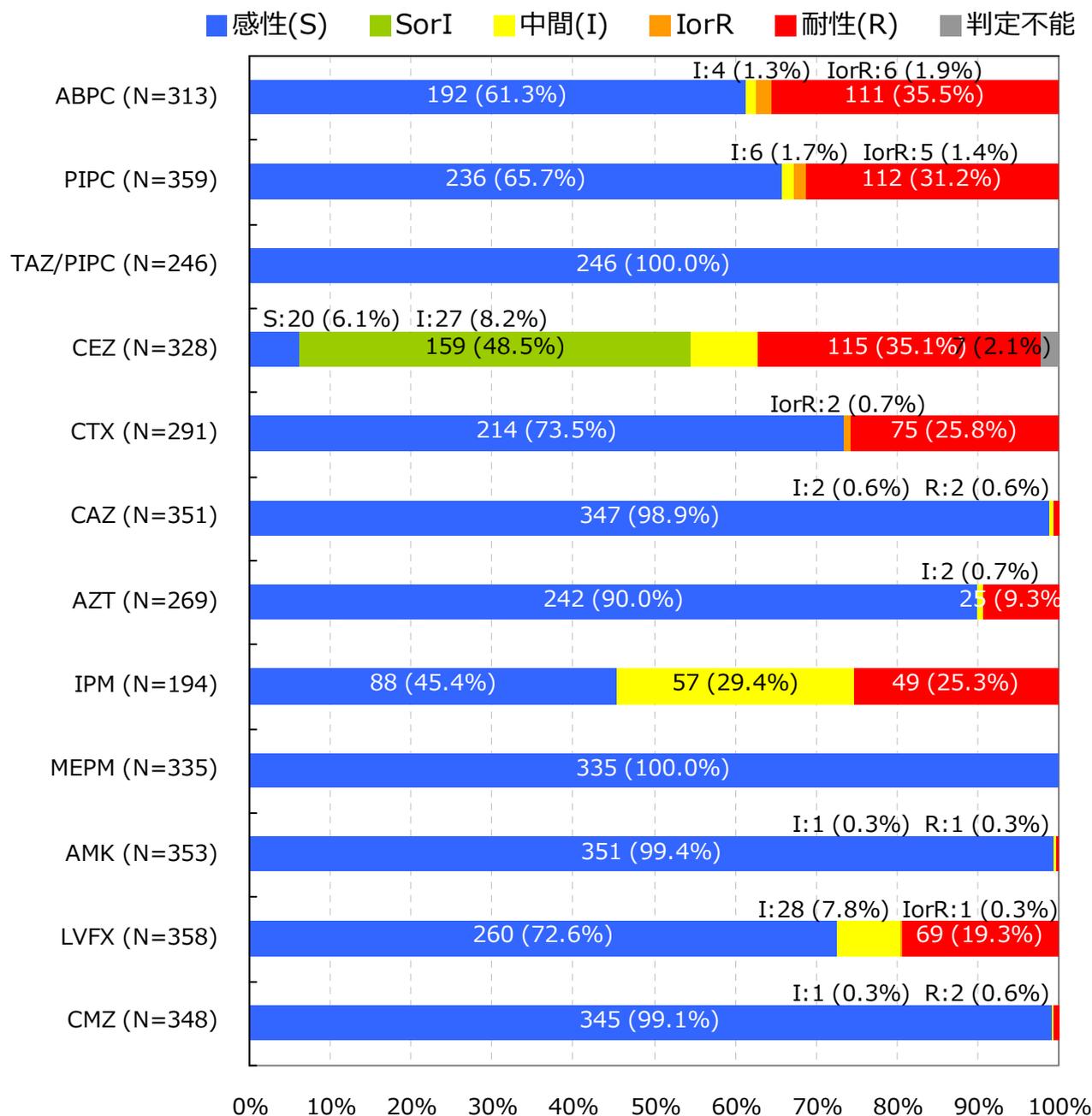
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2052と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Proteus mirabilis †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

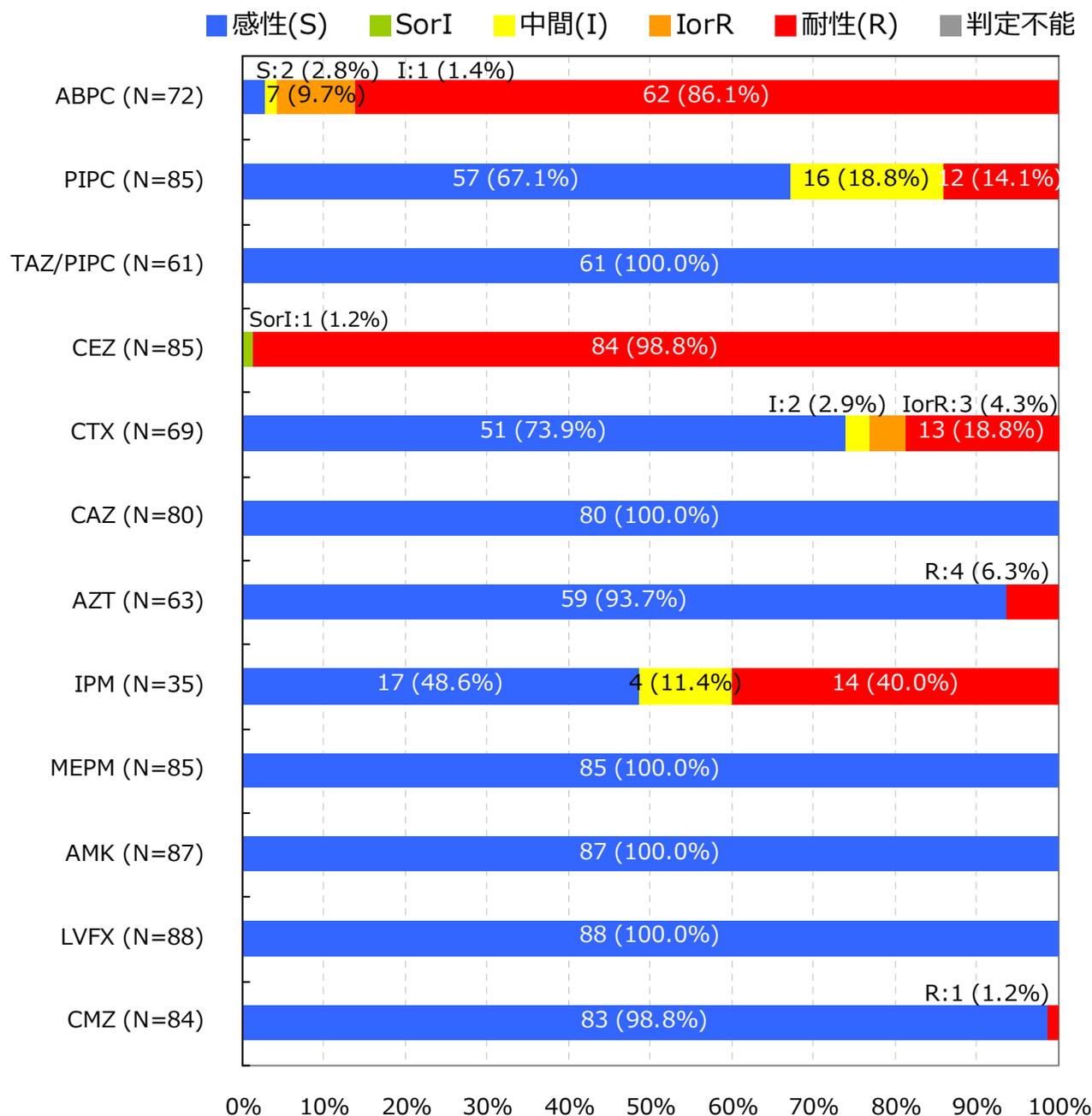
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 2201と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Proteus vulgaris †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

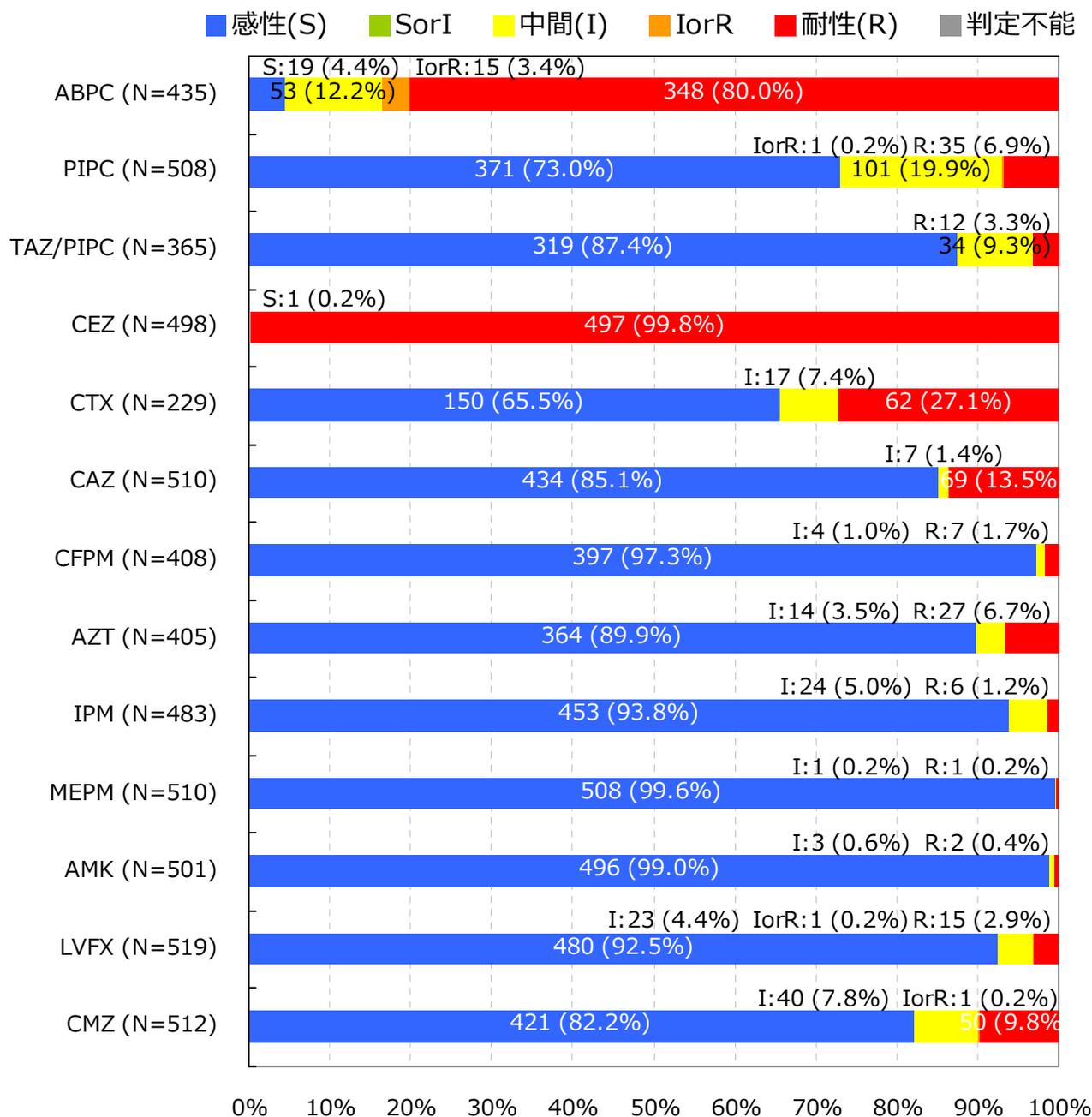
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2202と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Serratia marcescens †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

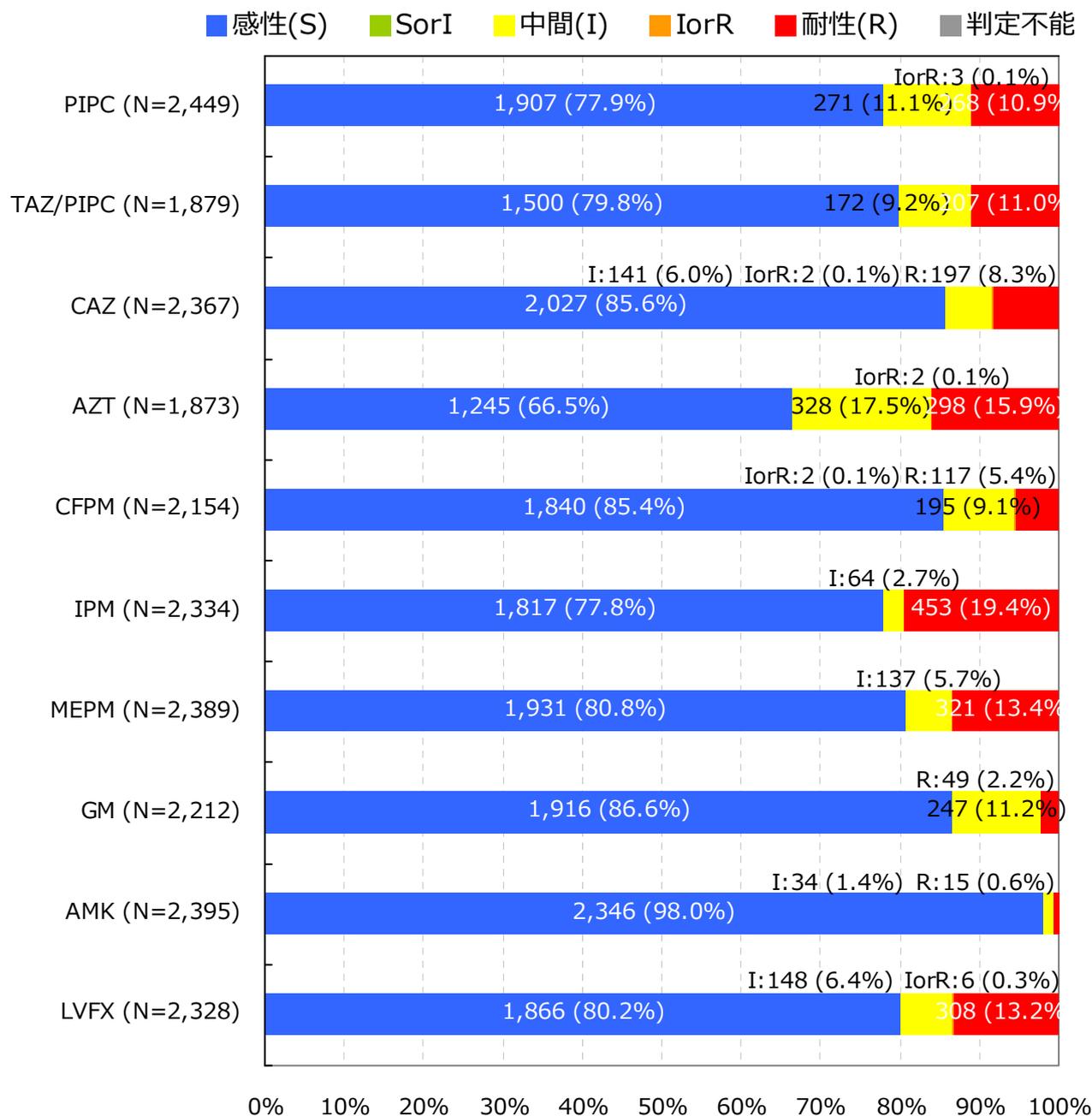
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 2101と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Pseudomonas aeruginosa †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

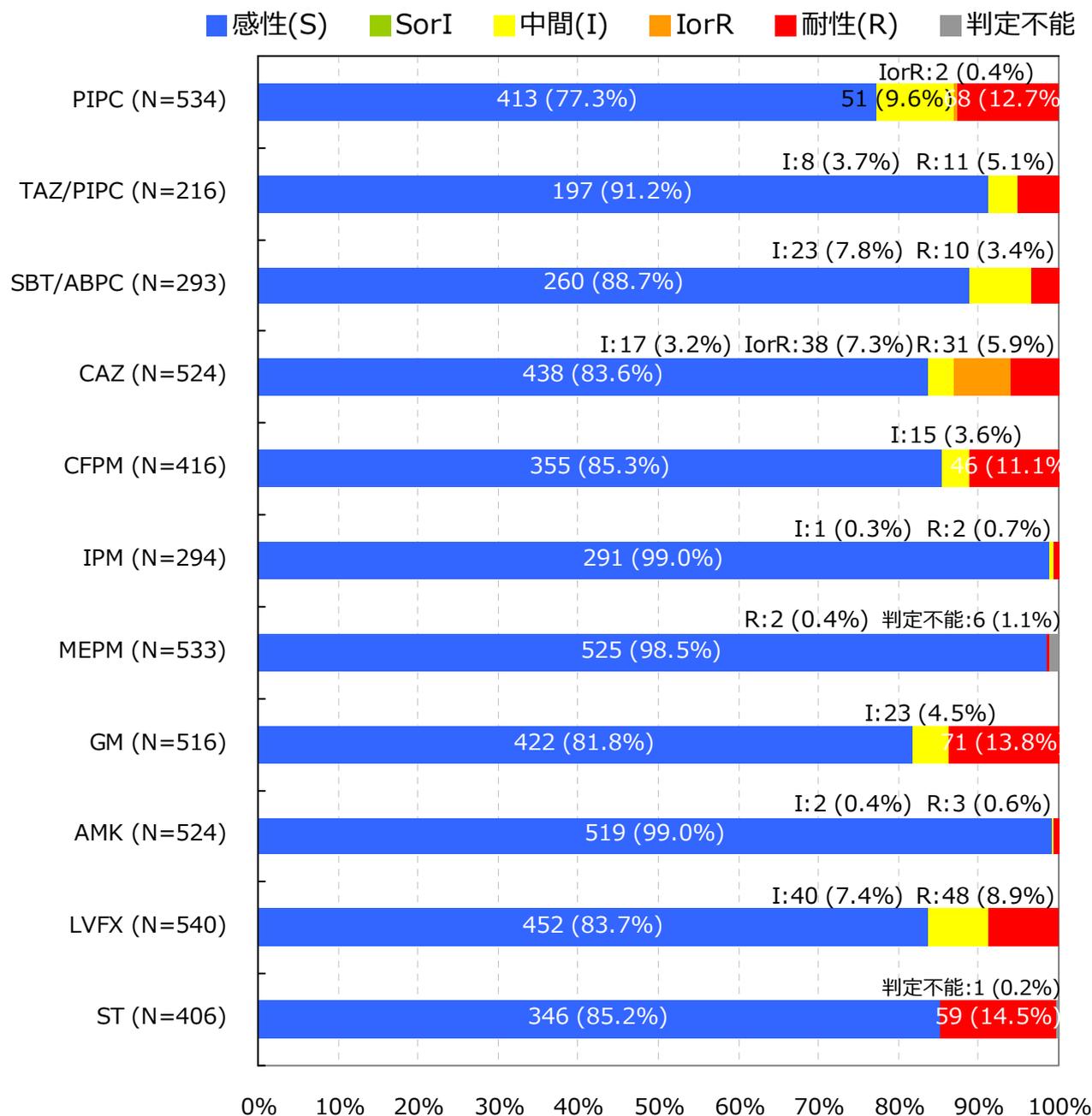
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 4001と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Acinetobacter spp. †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

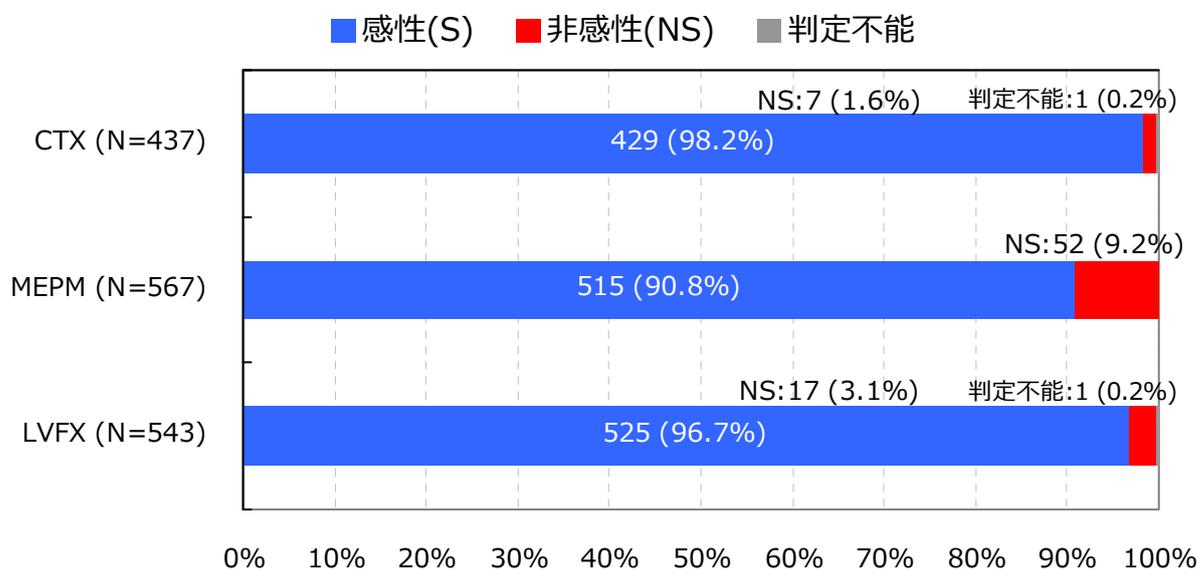
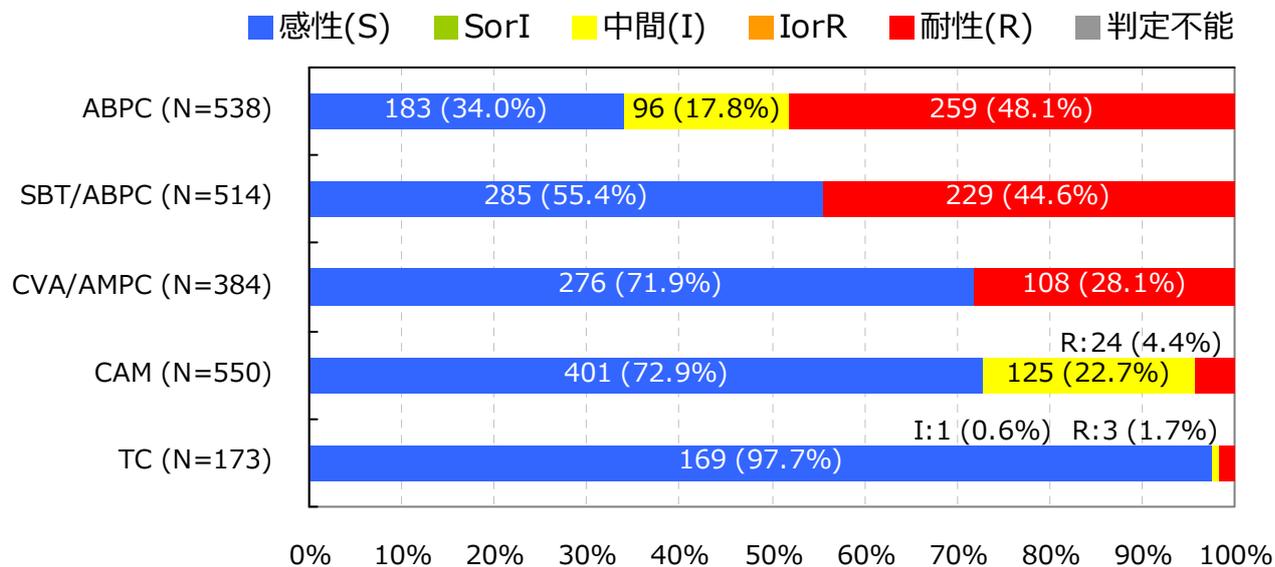
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 4400~4403と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Haemophilus influenzae †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 3201, 3202, 3203, 3205, 3208, 3211, 3214, 3217, 3220, 3223と報告された菌

【巻末資料 1 主要菌の菌名コード / 微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準】

主要菌の菌名コード（薬剤感受性条件なし）

| 菌名 | 菌名コード Ver.4.1 |
|-----------------------------------|----------------|
| <i>Staphylococcus aureus</i> | 1301,1303-1306 |
| <i>Staphylococcus epidermidis</i> | 1312 |
| <i>Streptococcus pneumoniae</i> | 1131 |
| <i>Enterococcus faecalis</i> | 1201,1202 |
| <i>Enterococcus faecium</i> | 1205,1206 |
| <i>Escherichia coli</i> | 2001-2007 |
| <i>Klebsiella pneumoniae</i> | 2351 |
| <i>Enterobacter</i> spp. | 2150-2156 |
| <i>Serratia marcescens</i> | 2101 |
| <i>Pseudomonas aeruginosa</i> | 4001 |
| <i>Acinetobacter</i> spp. | 4400-4403 |

「微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準」について

耐性菌の菌名※は以下の通り

MRSA : Methicillin-resistant *S. aureus* メチシリン耐性黄色ブドウ球菌

VRSA : Vancomycin-resistant *S. aureus* バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌

VRE : Vancomycin-resistant *Enterococcus* spp. バンコマイシン耐性腸球菌

PRSP : Penicillin-resistant *S. pneumoniae* ペニシリン耐性肺炎球菌

MDRP : Multidrug-resistant *P. aeruginosa* 多剤耐性緑膿菌

MDRA : Multidrug-resistant *Acinetobacter* spp. 多剤耐性アシネトバクター属

CRE : Carbapenem-Resistant Enterobacteriaceae カルバペネム耐性腸内細菌科細菌（2015年1月より集計開始）

* : 原則 S,I,R の判定は CLSI2012 (M100-S22) に準拠

† : 感染症発生動向調査の基準に準拠

2014年12月分データまでは CLSI2007 (M100-S17)、2015年1月分データより CLSI2012 (M100-S22) に準拠する。
薬剤耐性菌判定基準 (Ver.3.1) と 検査部門特定の耐性菌判定基準 (Ver.4.1) を基に作成した。

微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準

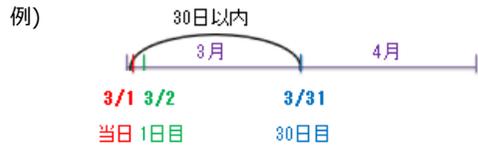
| 菌名※ | 概要* | 微量液体希釈法 (MIC 値) | 菌名コード Ver.4.1 |
|------|---|---|---|
| MRSA | MPIPC が "R" の <i>S. aureus</i> または選択培地で MRSA と確認された菌 | MPIPC $\geq 4\mu\text{g/mL}$ | 1301,1303 |
| VRSA | VCM が微量液体希釈法で "R" の <i>S. aureus</i> | VCM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ | 1301,1303-1306 |
| VRE | 下記のいずれかの条件を満たす <i>Enterococcus</i> spp. ・ VCM が微量液体希釈法で耐性† ・ 選択培地で VRE と確認された菌 注) 種の同定が行われていない <i>Enterococcus</i> sp. は除く | VCM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ † | 1201,1202,1205, 1206,1209,1210, 1213-1217 |
| PRSP | PCG が微量液体希釈法で耐性† の <i>S. pneumoniae</i> | PCG $\geq 0.125\mu\text{g/mL}$ † | 1131 |
| MDRP | 下記全てに該当する <i>P. aeruginosa</i> 1. カルバペネム系 (IPM, MEPM の何れか) が 微量液体希釈法で耐性† 2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈 法で耐性† 3. フルオロキノロン系 (NFLX, OFLX, LVFX、 CPFX, LFLX, GFLX の何れか) が "R" | 1. IPM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ †、 MEPM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ † 2. AMK $\geq 32\mu\text{g/mL}$ † 3. NFLX $\geq 16\mu\text{g/mL}$ 、 OFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ 、 LVFX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ 、 LFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ 、 GFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ 、 CPFX $\geq 4\mu\text{g/mL}$ | 4001 |

| 菌名※ | 概要* | 微量液体希釈法 (MIC 値) | 菌名コード Ver.4.1 |
|----------------------------|--|---|-------------------------|
| MDRA | 下記全てに該当する <i>Acinetobacter</i> spp. 1. カルバペネム系 (IPM, MEPM の何れか) が "R" 2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈 法で耐性† 3. フルオロキノロン系 (LVFX, CPFX, GFLX の 何れか) が "R" | 1. IPM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ †、 MEPM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ † 2. AMK $\geq 32\mu\text{g/mL}$ † 3. LVFX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ 、 CPFX $\geq 4\mu\text{g/mL}$ 、 GFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ | 4400-4403 |
| CRE | 下記の何れかの条件を満たす腸内細菌科 1. MEPM が耐性† 2. IPM が耐性†、かつ CMZ が "R" | 1. MEPM $\geq 2\mu\text{g/mL}$ † 2. IPM $\geq 2\mu\text{g/mL}$ † かつ CMZ $\geq 64\mu\text{g/mL}$ | 2000-2691, 3150-3151 |
| カルバペネム 耐性緑膿菌 | IPM または MEPM が耐性† の <i>P. aeruginosa</i> | IPM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ † MEPM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ † | 4001 |
| 第三世代セファロ スポリン耐性 肺炎桿菌 | CTX または CAZ が "R" の <i>K. pneumoniae</i> | CTX $\geq 4\mu\text{g/mL}$ CAZ $\geq 16\mu\text{g/mL}$ | 2351 |
| 第三世代セファロ スポリン耐性 大腸菌 | CTX または CAZ が "R" の <i>E. coli</i> | CTX $\geq 4\mu\text{g/mL}$ CAZ $\geq 16\mu\text{g/mL}$ | 2001-2007 |
| フルオロキノロン 耐性大腸菌 | フルオロキノロン系 (NFLX, OFLX, LVFX, LFLX、 GFLX, CPFX の何れか) が "R" の <i>E. coli</i> | NFLX $\geq 16\mu\text{g/mL}$ 、 OFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ 、 LVFX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ 、 LFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ 、 GFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ 、 CPFX $\geq 4\mu\text{g/mL}$ | 2001-2007 |

【巻末資料 2 公開情報の集計方法について】

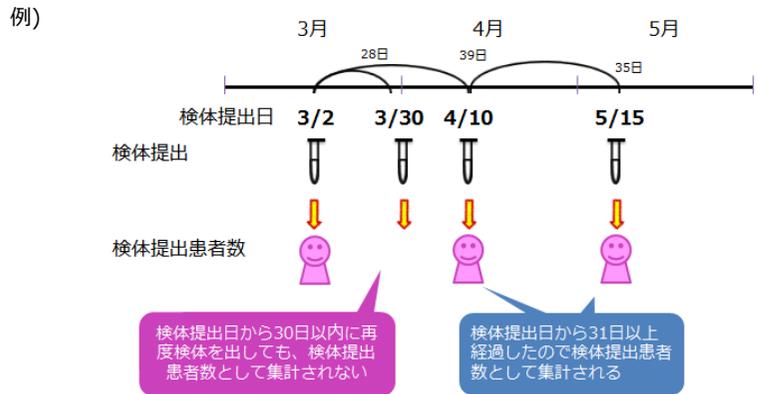
1. 日数の数え方

検体提出日の翌日を 1 日目とする。検体提出日が 3 月 1 日とすると、1 日目が 3 月 2 日、30 日目が 3 月 31 日となる。



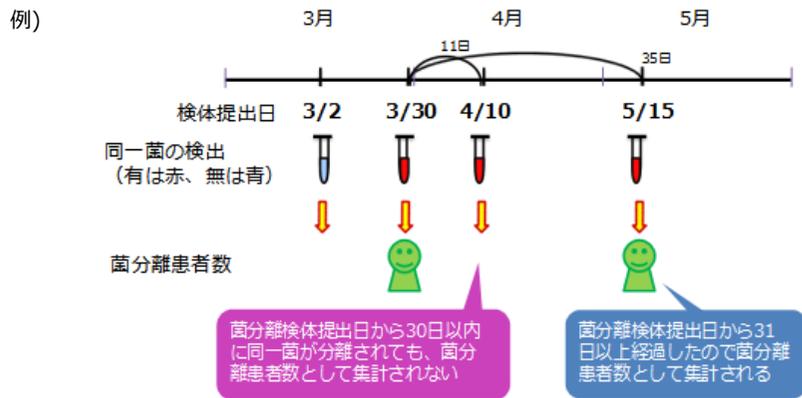
2. 検体提出患者数

検体提出患者数は、検体の種類や菌分離の有無に関わらず検体(入院検体)が提出された患者の数である。検体提出患者数は重複処理を行っており、30 日以内の同一患者からの複数の検体提出は 1 件とする。



3. 菌分離患者数

菌分離患者数も検体提出患者と同様の重複処理を行い、30 日以内に同一患者から同一菌が複数回検出された場合、菌分離患者数は 1 件とする。耐性菌分離患者数は、耐性菌の基準に合致する菌をまず抽出し、その中で上記重複処理を行っている。



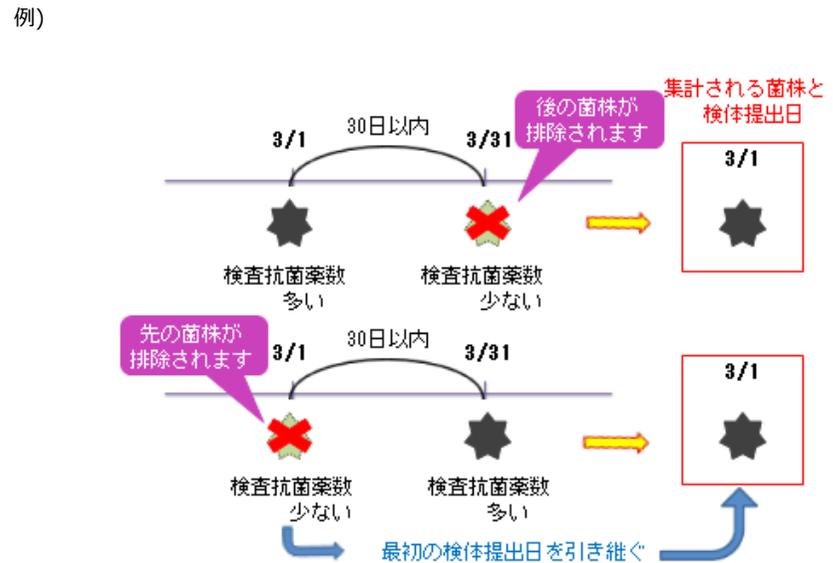
4. 抗菌薬感受性検査結果をもとにした同一菌と異なる菌との区別

30 日以内に同一患者から同一菌が検出された場合であっても、検査抗菌薬感受性結果に 1 つ以上不一致(下記①～④のいずれかに該当)がある場合は異なる菌株として集計される。

- ① MIC 値に 4 倍以上の違いがある
ただし、MIC > 2 は MIC ≥ 4 と考え、判定時は MIC = 4 として扱う
また、MIC < 16 は MIC ≤ 16 と考え、判定時は MIC = 16 として扱う
- ② SIR 判定では「S と R」の組み合わせ
- ③ +/- 判定では「-と++」または「+と+++」または「-と+++」の組み合わせ
- ④ 共通する検査抗菌薬数が 5 未満

5. 抗菌薬感受性結果の重複処理

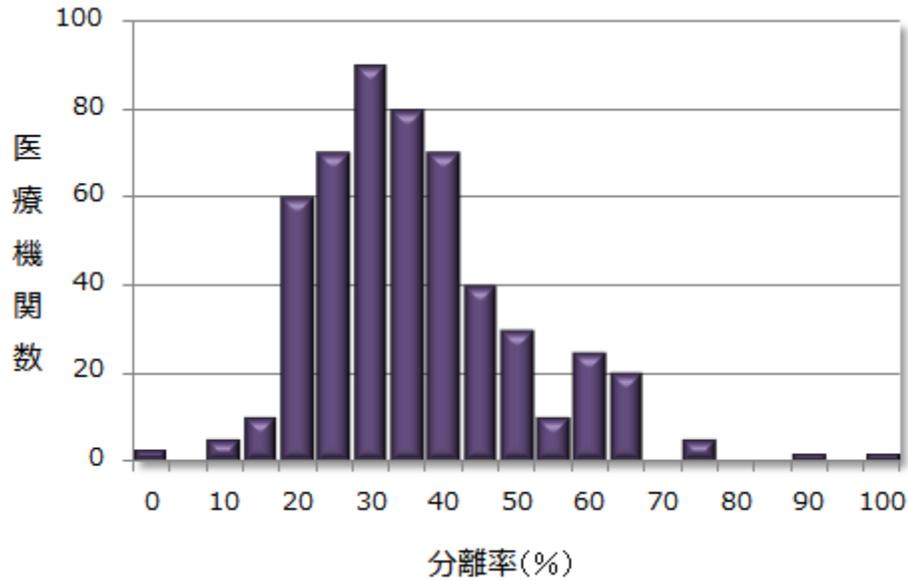
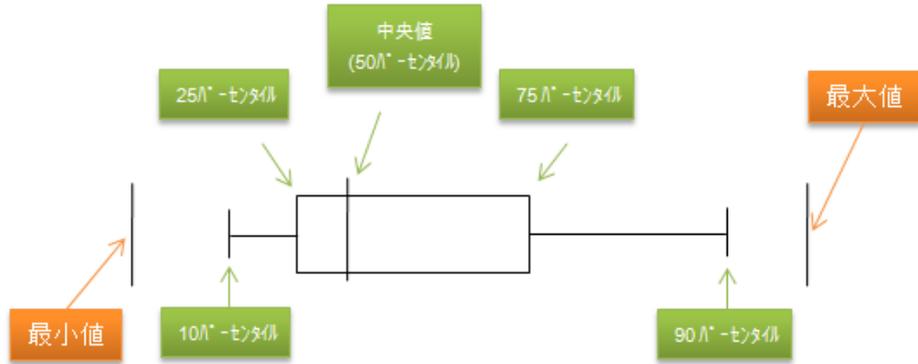
検体提出日が先の菌株の検査抗菌薬数が(30 日以内)の後の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、後の菌株の抗菌薬感受性検査結果は排除する。また、検体提出日が後の菌株の検査抗菌薬数が(30 日以内)の先の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、先の菌株の抗菌薬感受性検査結果を排除するが、先の検査の検体提出日を引き継ぐ。



【巻末資料 3 箱ひげ図について】

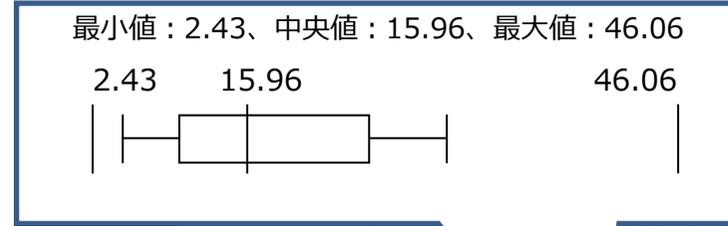
1. 箱ひげ図について

集計対象医療機関のデータのばらつきを示し、集計対象医療機関における自施設の位置を確認することができる。

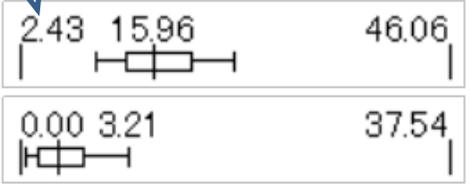


※ パーセンタイル：値を小さいものから大きいものへと順番に並べ、全体を 100 として何番目であるかを表したもの。
 例えば、10パーセンタイルは、全体を 100 として小さいほうから数えて 10 番目の計測値を示している。

2. 公開情報の箱ひげ図

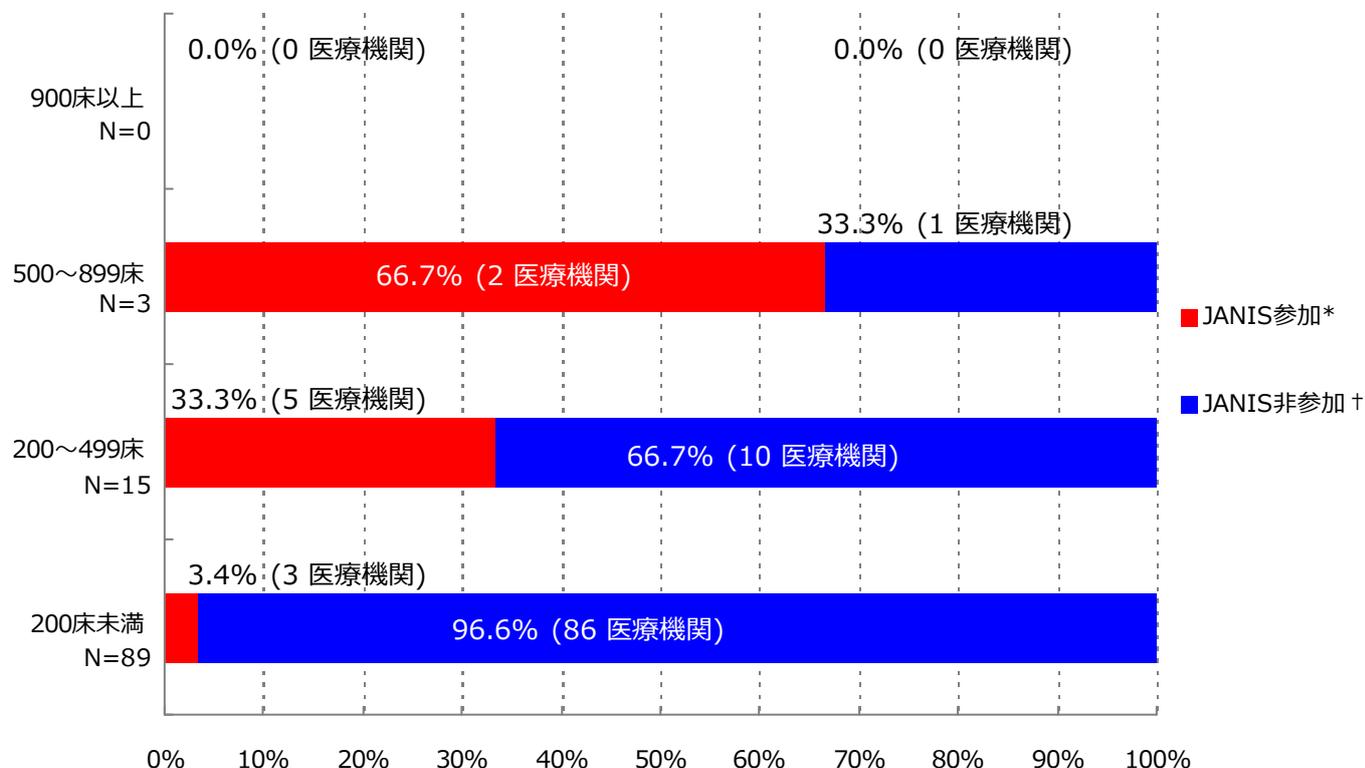


| 集計対象医療機関の分離率 (%) の分布 | |
|----------------------|-------------------|
| 2010年 * | 2011 |
| 1,069,216人 | 1,309,993人 |
| 175,145人 (16.38%) | 210,382人 (16.06%) |
| 47,523人 (4.44%) | 64,588人 (4.93%) |





1. 集計対象医療機関数(10医療機関)



*JANIS参加 = 2017年1～3月 集計対象医療機関数

† JANIS非参加 = (2016年 都道府県別医療機関数 †) - (2017年1～3月 集計対象医療機関数)

| 病床数 | 2016年 都道府県別医療機関数 † | 2017年1月～3月 集計対象医療機関数 (都道府県別医療機関数に占める割合) | |
|----------|--------------------|--|-----------|
| 900床以上 | 0 | 0 | (0.0%) |
| 500～899床 | 3 | 2 | (66.7%) |
| 200～499床 | 15 | 5 | (33.3%) |
| 200床未満 | 89 | 3 | (3.4%) |
| 病床数不明 | - | 0 | (-) |
| 合計 | 107 | 10 | (9.3%) |

† 平成28年医療施設 (動態) 調査を参照した

(佐賀県)

公開情報 2017年1月～3月 四半期報(全集計対象医療機関)

院内感染対策サーベイランス 検査部門

2. 検査材料別集計対象医療機関数、検体数、分離菌数

| 検査材料分類 | 集計対象医療機関数 | 検体数 | 陽性検体数 (分離菌数) |
|--------|-----------|--------|------------------|
| 呼吸器系検体 | 10 | 3,022 | 2,356 (5,657) |
| 尿検体 | 10 | 1,416 | 773 (1,197) |
| 便検体 | 10 | 460 | 253 (522) |
| 血液検体 | 10 | 3,168 | 335 (374) |
| 髄液検体 | 7 | 158 | 12 (12) |
| その他 | 9 | 2,474 | 1,083 (2,040) |
| 合計 | 10 | 10,698 | 4,812 (9,802) |

入院として報告された検体を集計

集計対象菌：コメントのみ(菌名コード9999)の報告以外の全ての菌

検査材料分類は以下に該当する検査材料コードを集計

呼吸器系検体：

101(喀出痰)、102(気管内採痰)、103(気管支洗浄液)、104(咽頭粘液)、105(鼻腔内)、106(口腔内)、
107(生検材料(肺))、109(その他(呼吸器))、404(胸水)

尿検体：

201(自然排尿)、202(採尿カテーテル)、203(留置カテーテル)、206(カテーテル尿(採尿、留置カテの区別不能))

便検体：

301(糞便)

血液検体：

401(静脈血)、402(動脈血)

髄液検体：

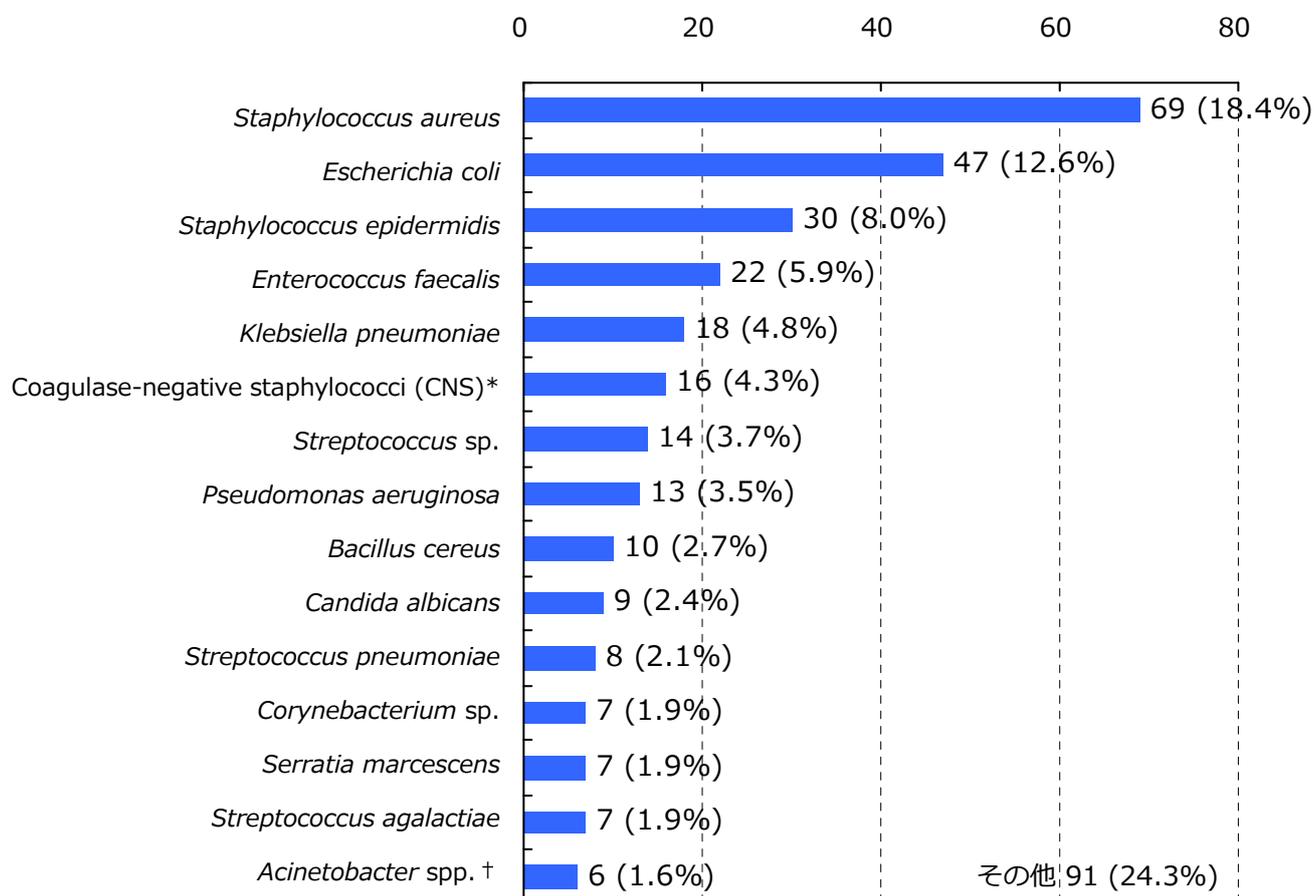
403(髄液)

その他：上記以外の検査材料コード

検査材料コード：JANISホームページ>各部門について>検査部門 <https://janis.mhlw.go.jp/section/kensa.html>

3. 検査材料別分離菌数割合

血液検体分離菌 (N=374)



*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌（1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外）

†菌名コード：4400～4403と報告された菌

入院として報告された検体を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：静脈血(検査材料コード401)と動脈血(同402)

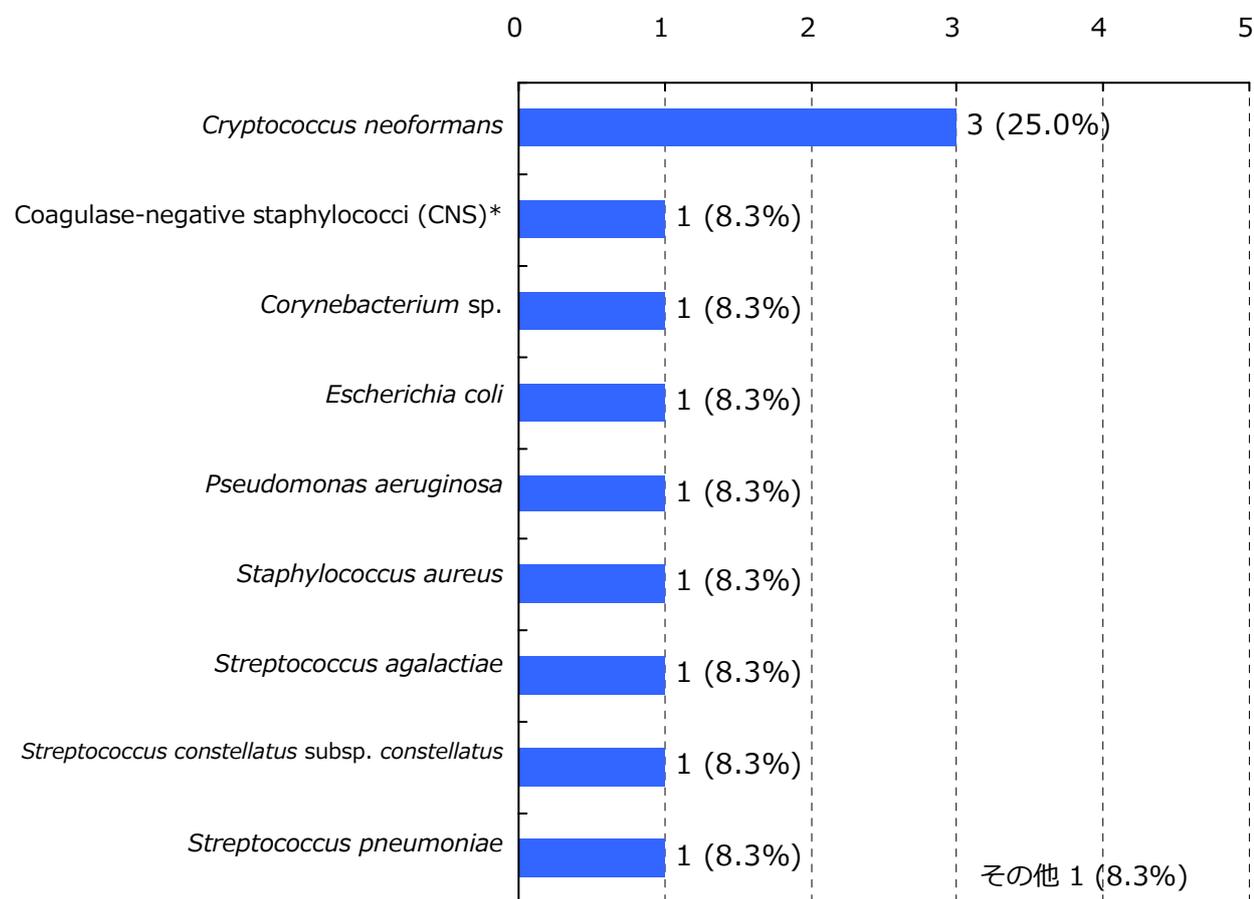
血液検体分離菌数割合 = (対象菌の血液検体分離菌数) ÷ (血液検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <https://janis.mhlw.go.jp/section/kensa.html>

3. 検査材料別分離菌数割合

髄液検体分離菌 (N=12)



*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌（1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外）

入院として報告された検体を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：髄液(検査材料コード403)

髄液検体分離菌数割合 = (対象菌の髄液検体分離菌数) ÷ (髄液検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <https://janis.mhlw.go.jp/section/kensa.html>

(佐賀県)

公開情報 2017年1月～3月 四半期報(全集計対象医療機関)

院内感染対策サーベイランス 検査部門

4. 主要菌分離患者数*と全医療機関†の分離率分布

| | 検体提出・菌分離患者数 全体の分離率 † | 集計対象医療機関の 分離率 ‡(%)の分布 |
|---------------------------|-------------------------|--------------------------|
| 検体提出患者数 | 3,750人 | |
| <i>S. aureus</i> | 626人 (16.69%) | 11.62 18.21 31.25 |
| <i>S. epidermidis</i> | 115人 (3.07%) | 0.00 1.91 5.57 |
| <i>S. pneumoniae</i> | 78人 (2.08%) | 0.73 2.52 6.18 |
| <i>E. faecalis</i> | 195人 (5.20%) | 1.71 4.01 12.50 |
| <i>E. faecium</i> | 82人 (2.19%) | 0.00 1.83 5.13 |
| <i>E. coli</i> | 519人 (13.84%) | 7.69 17.84 21.88 |
| <i>K. pneumoniae</i> | 199人 (5.31%) | 2.82 5.66 15.63 |
| <i>Enterobacter spp.</i> | 122人 (3.25%) | 0.00 2.89 5.98 |
| <i>S. marcescens</i> | 59人 (1.57%) | 0.00 1.33 6.04 |
| <i>P. aeruginosa</i> | 234人 (6.24%) | 0.71 5.67 18.75 |
| <i>Acinetobacter spp.</i> | 59人 (1.57%) | 0.00 1.47 7.14 |

入院として報告された検体を集計

*分離患者数と検体提出患者数は30日ごとに重複処理(巻末参照)している

†ここでは全医療機関は集計対象医療機関を表す

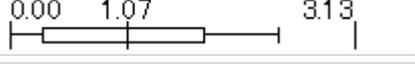
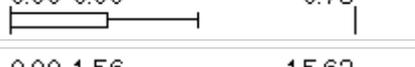
‡ここでの分離率は全体の分離率を表す

全体の分離率

= (集計対象医療機関の対象菌の分離患者数合計) ÷ (集計対象医療機関の検体提出患者数合計) × 100

‡分離率 = (対象菌の分離患者数) ÷ (検体提出患者数) × 100

5. 特定の耐性菌分離患者数*と全医療機関†の分離率分布

| | 検体提出・菌分離患者数 全体の分離率‡ | 集計対象医療機関の 分離率¶(%)の分布 |
|------------------------|------------------------|--|
| 検体提出患者数 | 3,750人 | |
| メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA) | 361人 (9.63%) | 4.94 9.81 27.16  |
| バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌(VRSA) | 0人 (0.00%) | 0.00  |
| バンコマイシン耐性腸球菌(VRE) | 0人 (0.00%) | 0.00  |
| ペニシリン耐性肺炎球菌(PRSP) | 36人 (0.96%) | 0.00 1.07 3.13  |
| 多剤耐性緑膿菌(MDRP) | 1人 (0.03%) | 0.00 0.00 0.55  |
| 多剤耐性アシネトバクター属(MDRA) | 0人 (0.00%) | 0.00  |
| カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE) | 3人 (0.08%) | 0.00 0.00 0.73  |
| カルバペネム耐性緑膿菌 | 24人 (0.64%) | 0.00 0.24 3.85  |
| 第三世代セファロスポリン耐性肺炎桿菌 | 7人 (0.19%) | 0.00 0.00 0.73  |
| 第三世代セファロスポリン耐性大腸菌 | 59人 (1.57%) | 0.00 1.56 15.63  |
| フルオロキノロン耐性大腸菌 | 171人 (4.56%) | 0.00 4.26 18.75  |

入院検体でかつ、検査法が原則微量液体希釈法又はEtestと設定されたMIC値が報告されている検体を集計

MRSAとVREは検査法によらず菌名コードで指定された場合はそれらを含む

*分離患者数と検体提出患者数は30日ごとに重複処理(巻末参照)している

†ここでは全医療機関は集計対象医療機関を表す

‡ここでの分離率は全体の分離率を表す

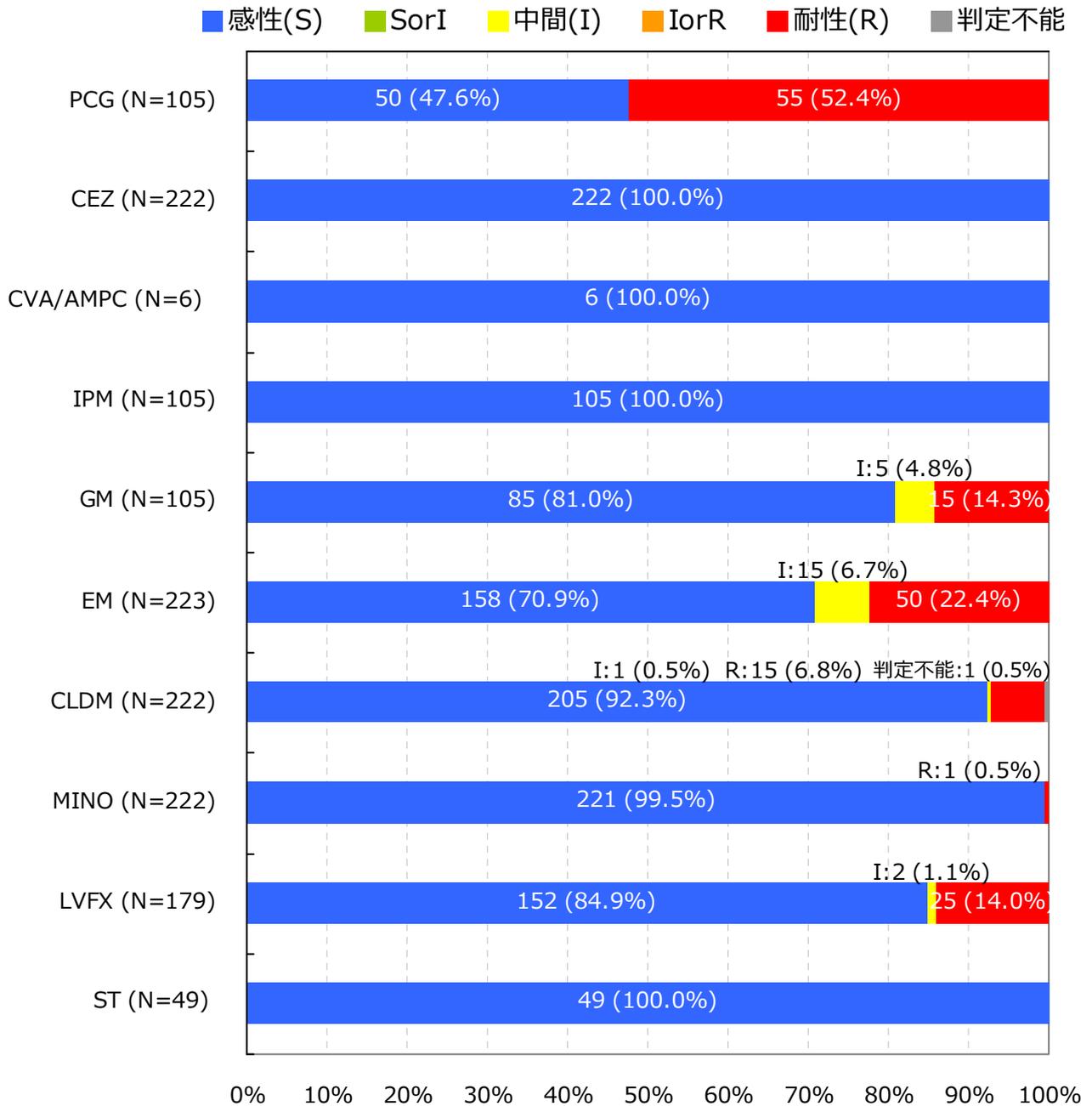
全体の分離率

$$= (\text{集計対象医療機関の対象菌の分離患者数合計}) \div (\text{集計対象医療機関の検体提出患者数合計}) \times 100$$

$$¶\text{分離率} = (\text{対象菌の分離患者数}) \div (\text{検体提出患者数}) \times 100$$

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Staphylococcus aureus (MSSA) †



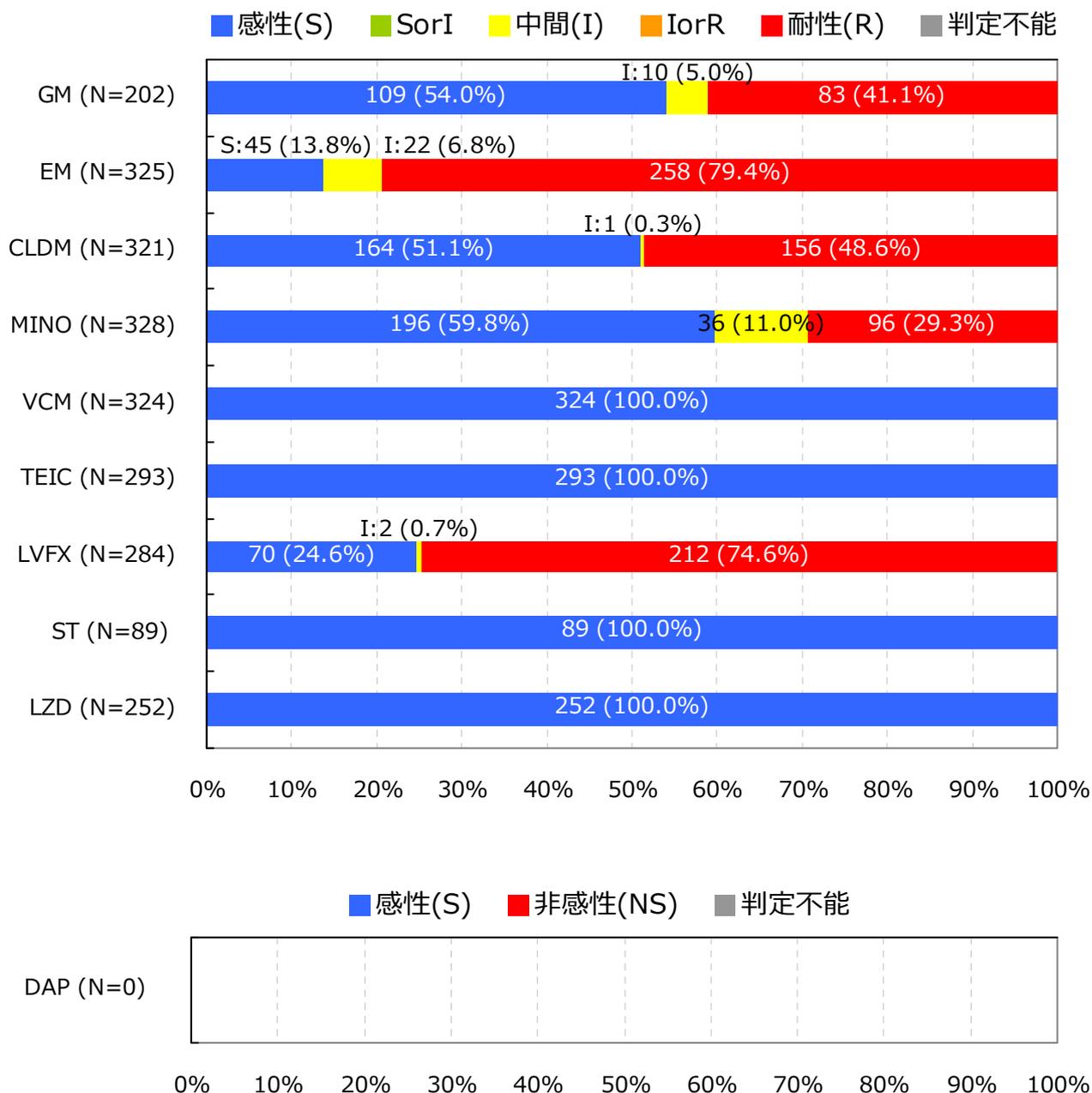
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1304, 1305, 1306と報告された菌および菌名コード : 1301と報告され抗菌薬コード : 1208 (オキサシリン) の感受性結果「S」の菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Staphylococcus aureus (MRSA) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

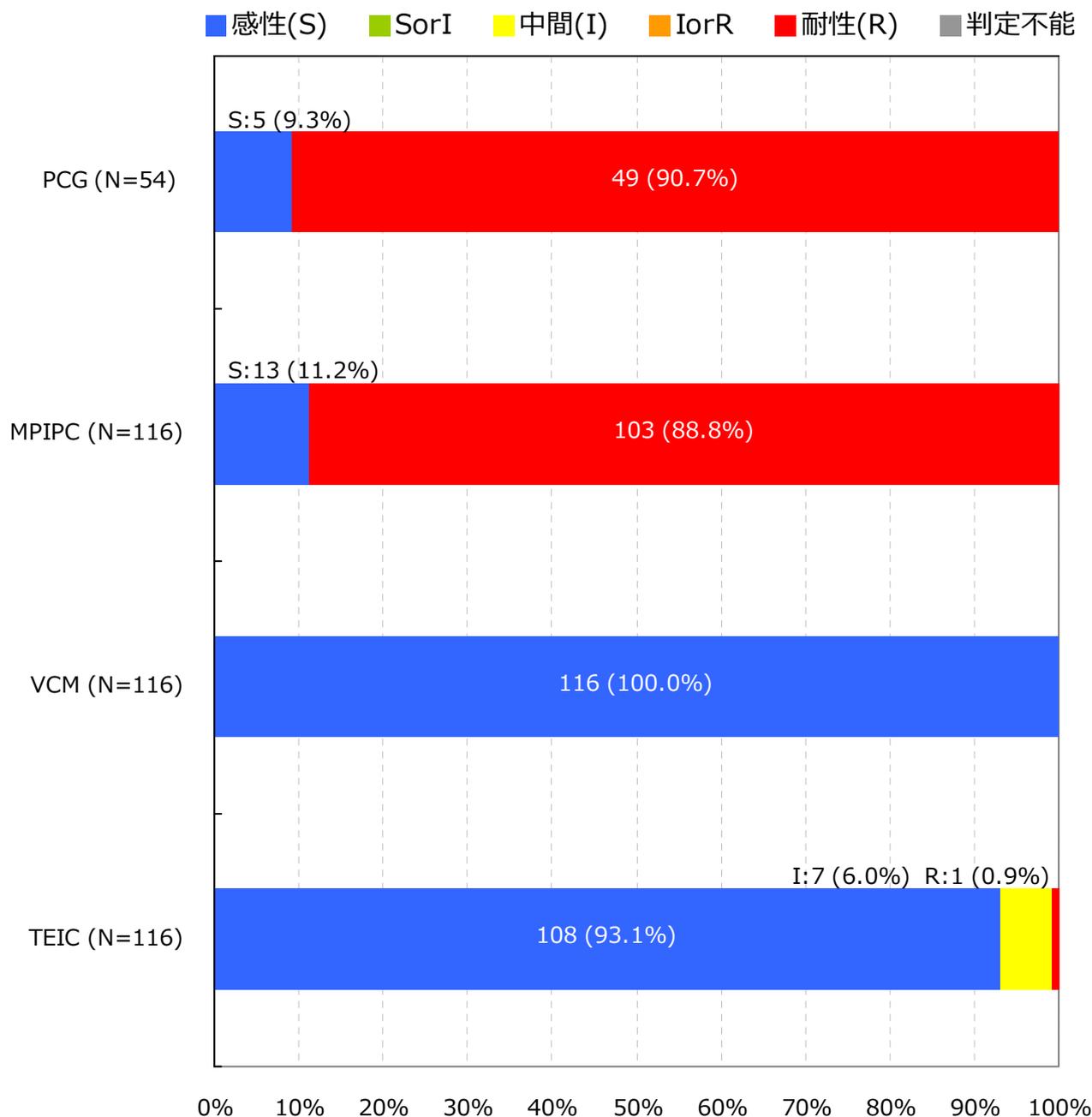
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1303と報告された菌および菌名コード : 1301と報告され抗菌薬コード : 1208 (オキサシリン) の感受性結果「R」の菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Staphylococcus epidermidis †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

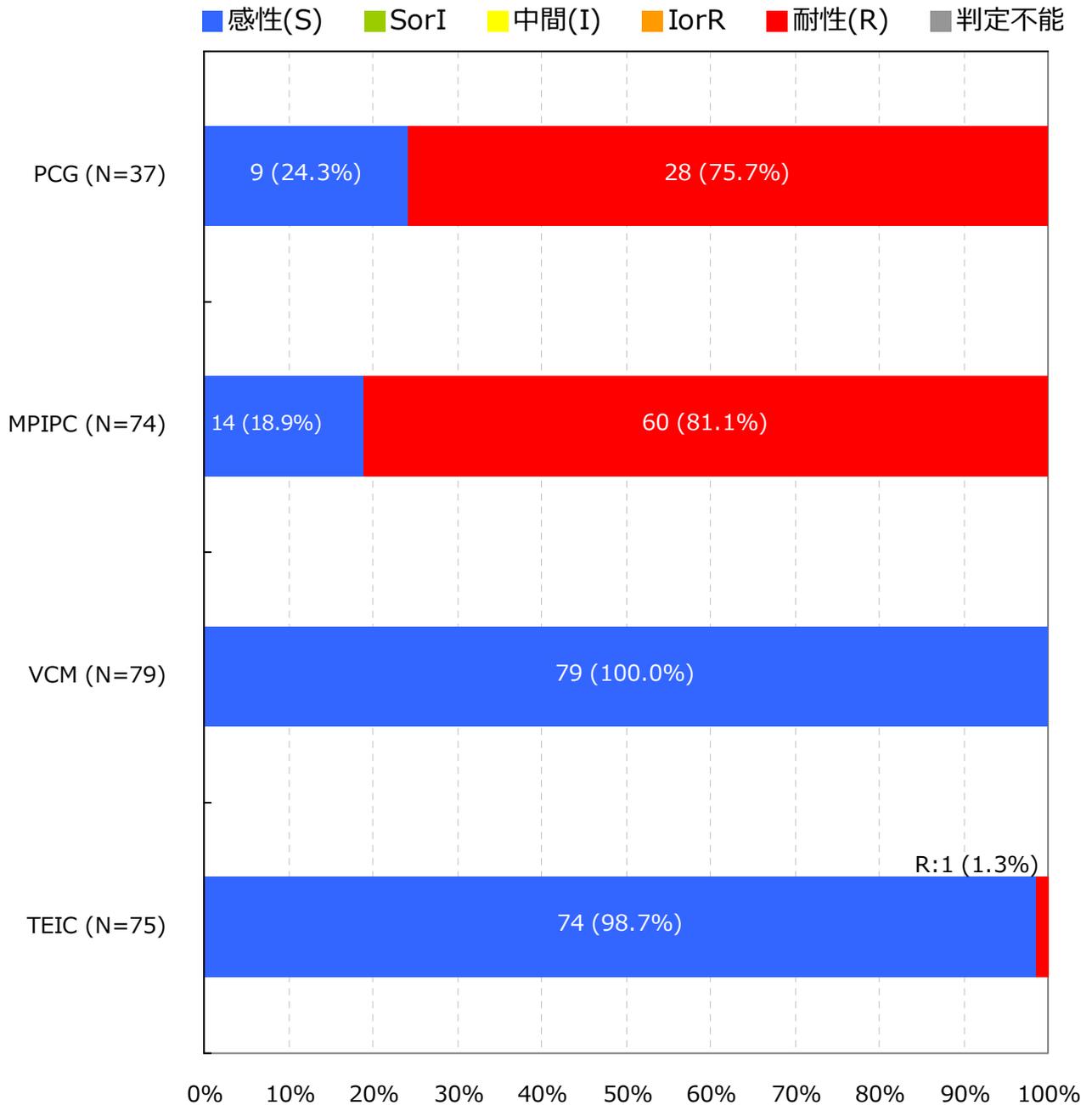
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1312と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Coagulase-negative staphylococci (CNS) †



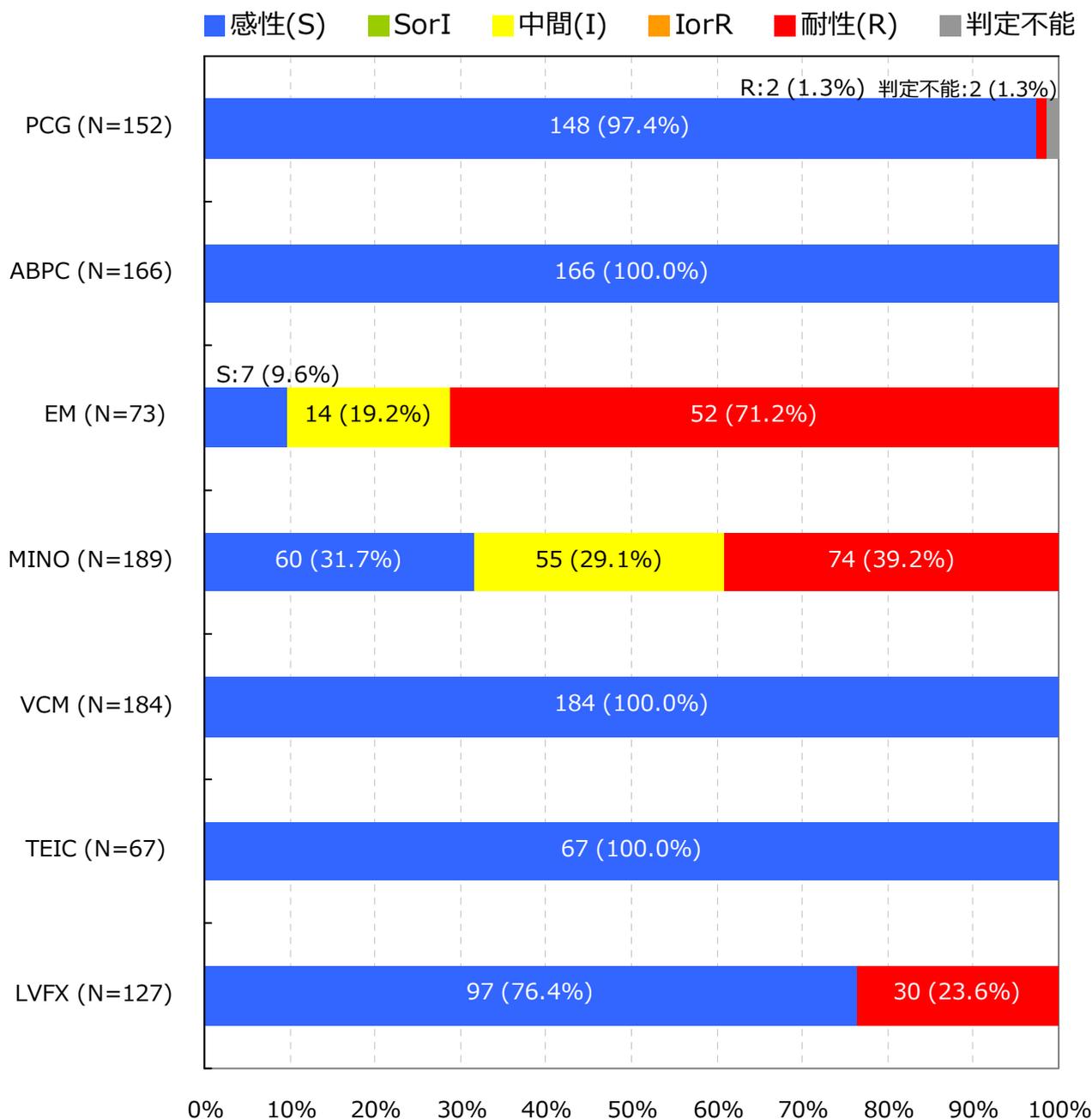
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1311, 1313~1325と報告された菌 (1312 : *Staphylococcus epidermidis*は対象外)

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Enterococcus faecalis †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

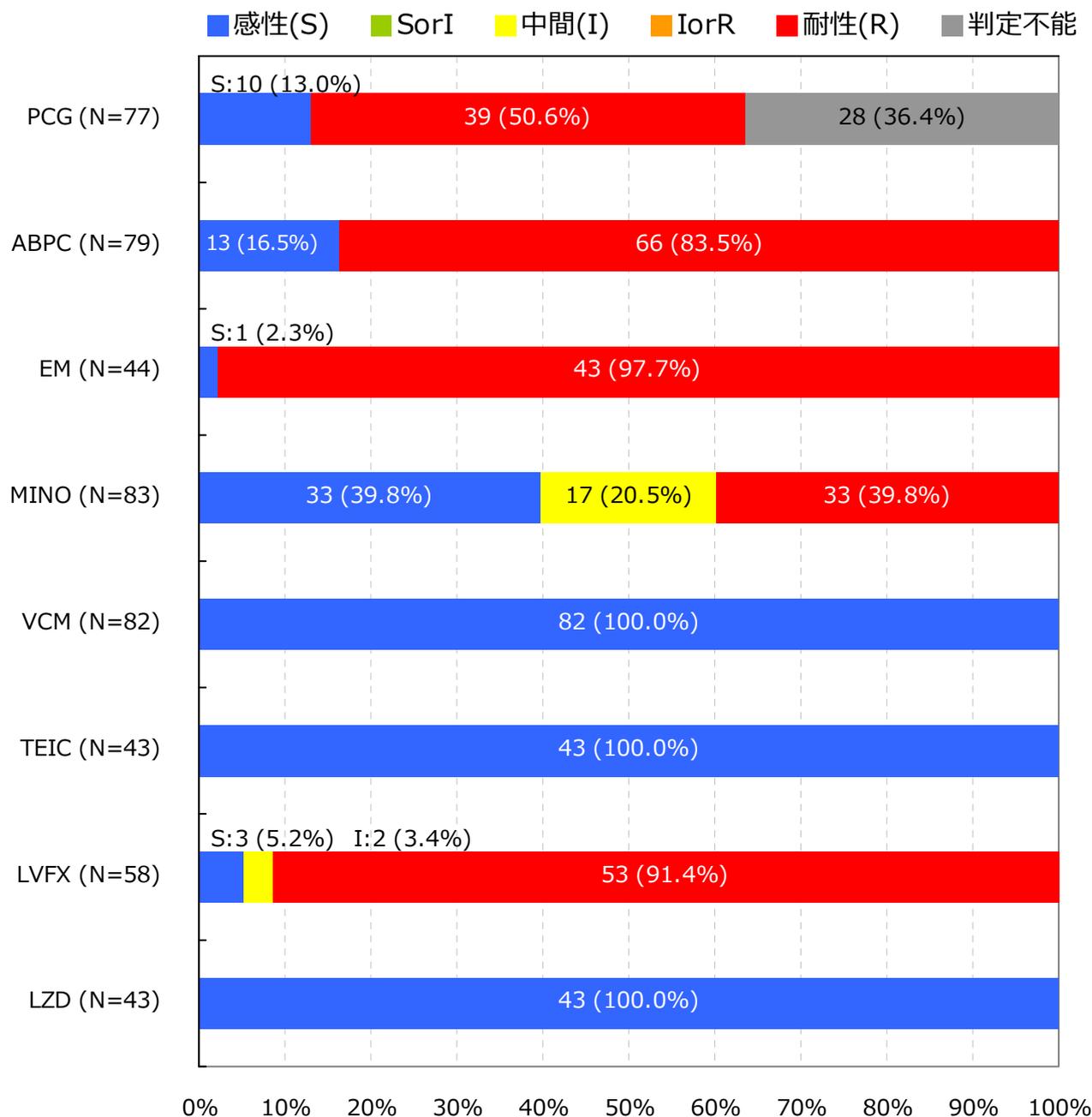
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1201, 1202と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Enterococcus faecium †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

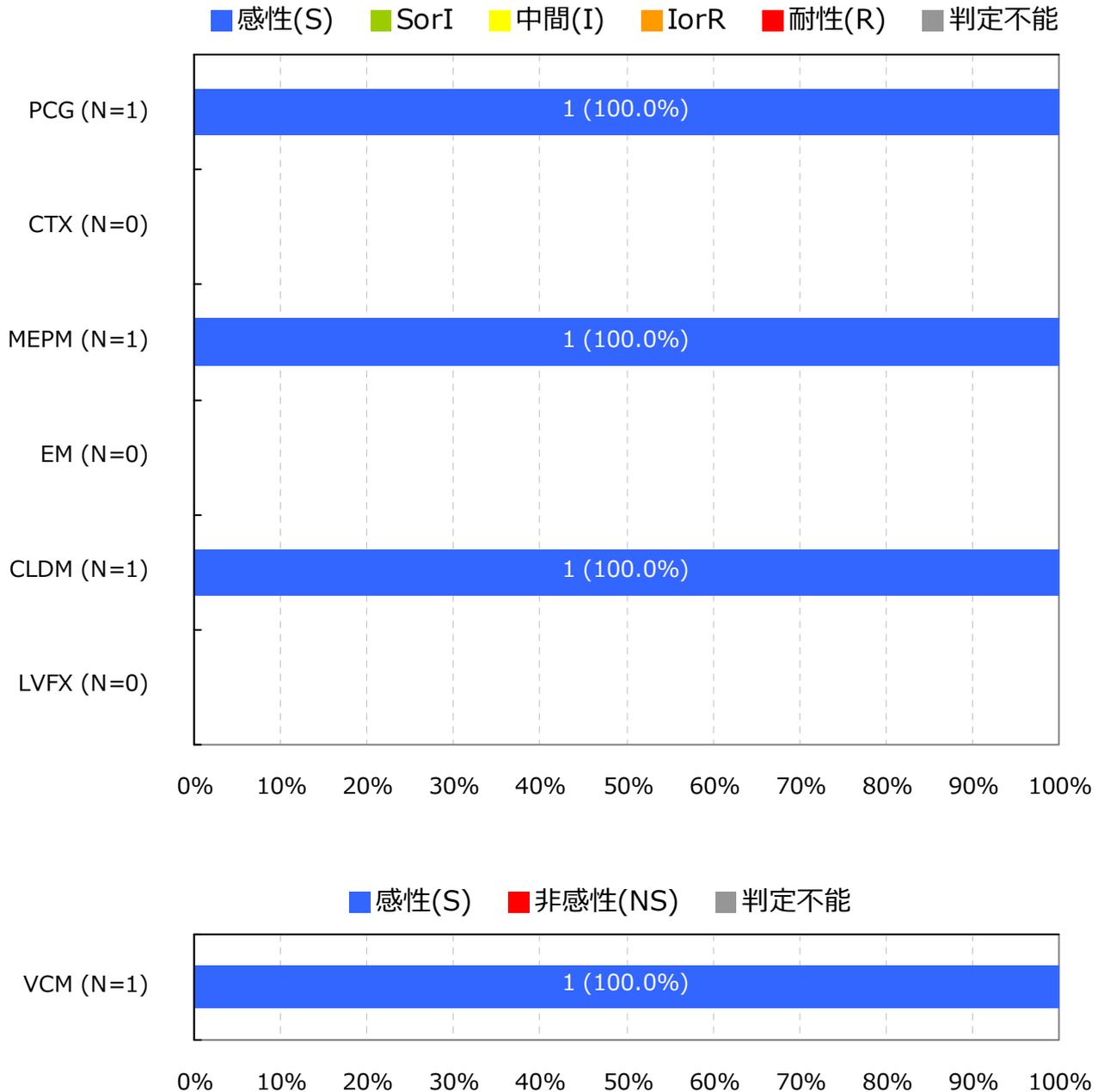
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1205, 1206と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Streptococcus pneumoniae(髄液検体) †



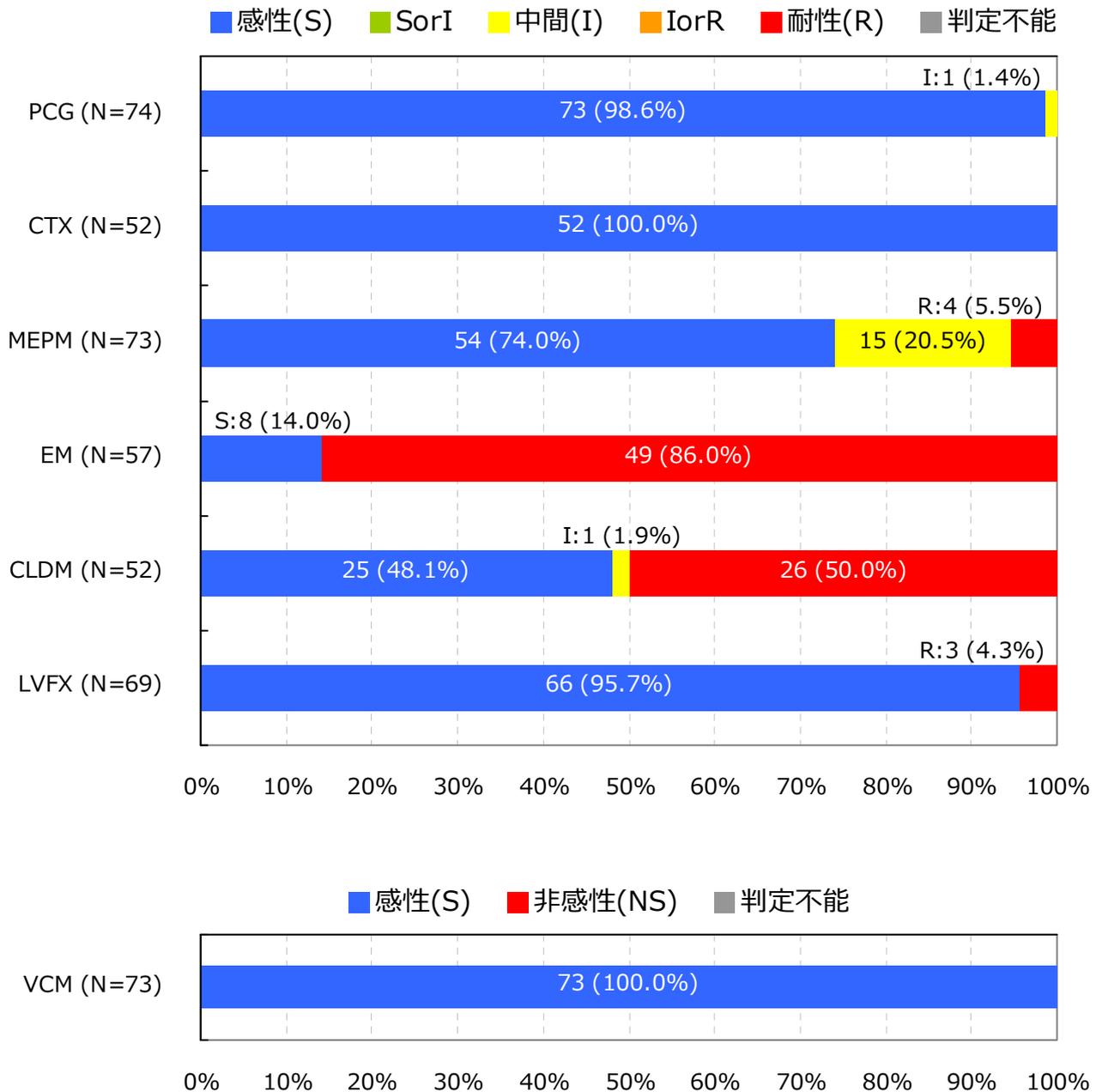
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1131と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Streptococcus pneumoniae(髄液検体以外) †



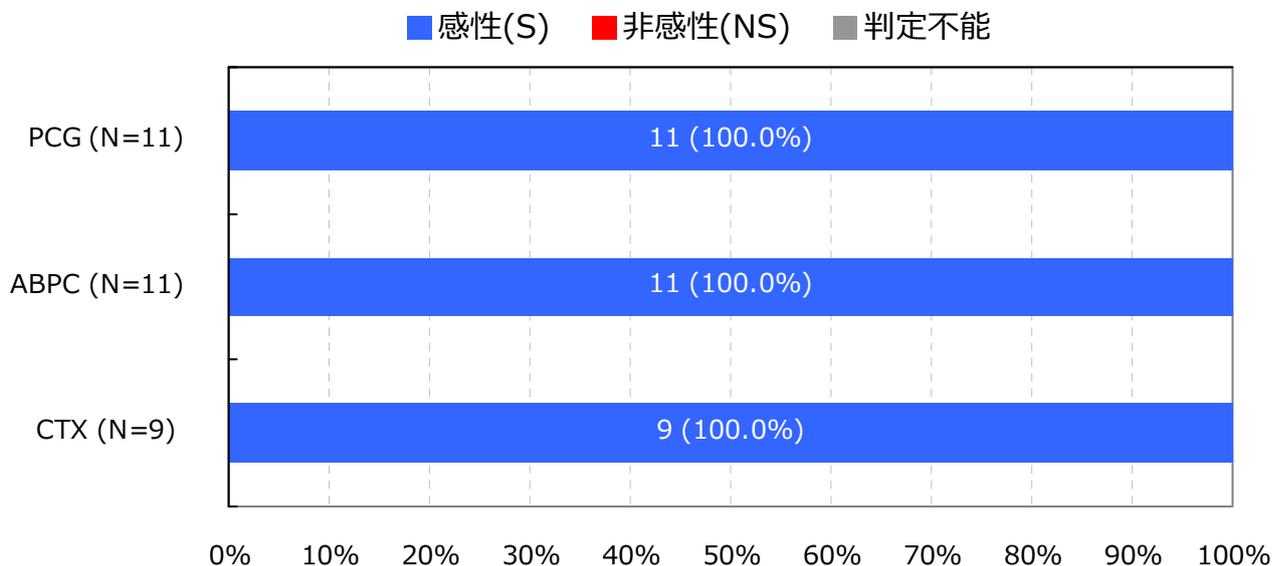
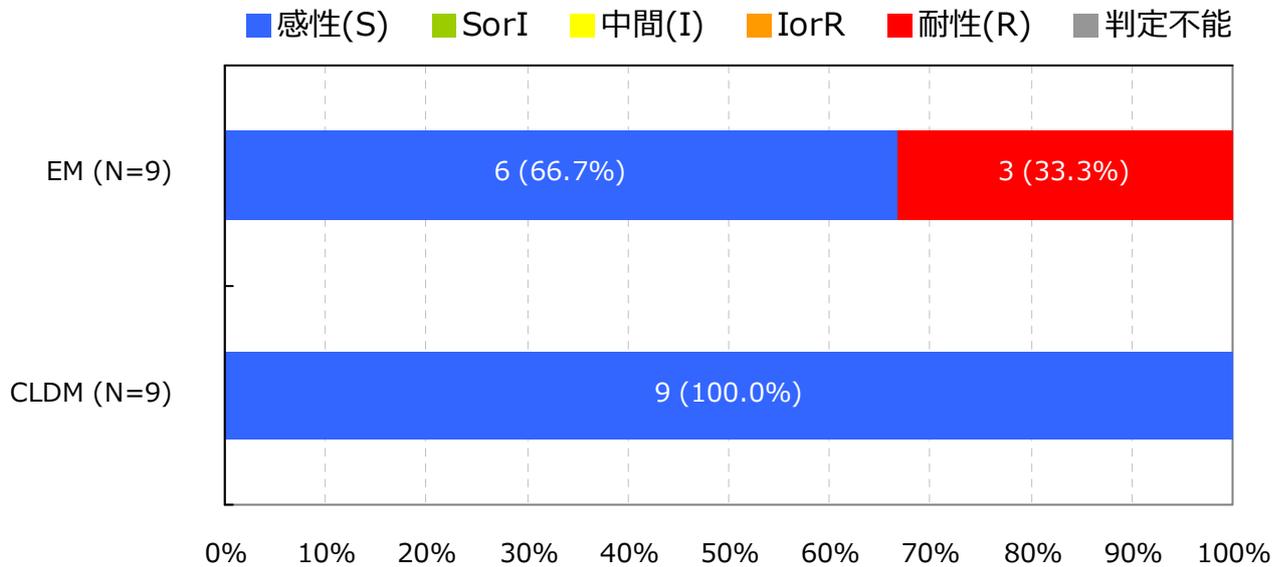
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1131と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Streptococcus pyogenes †



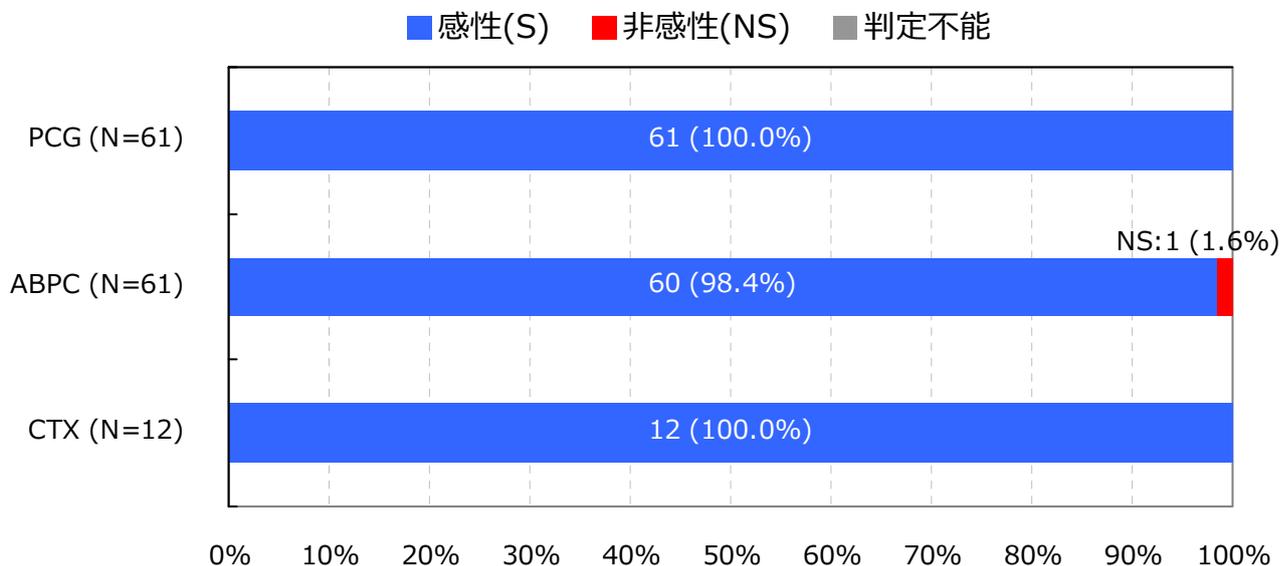
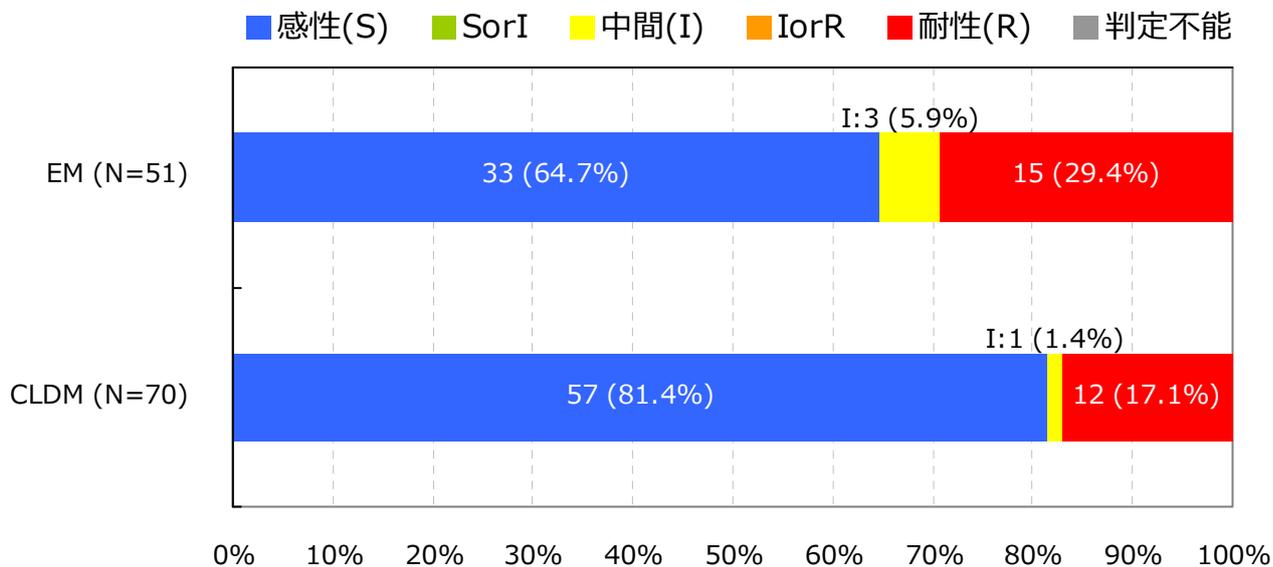
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1111と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Streptococcus agalactiae †



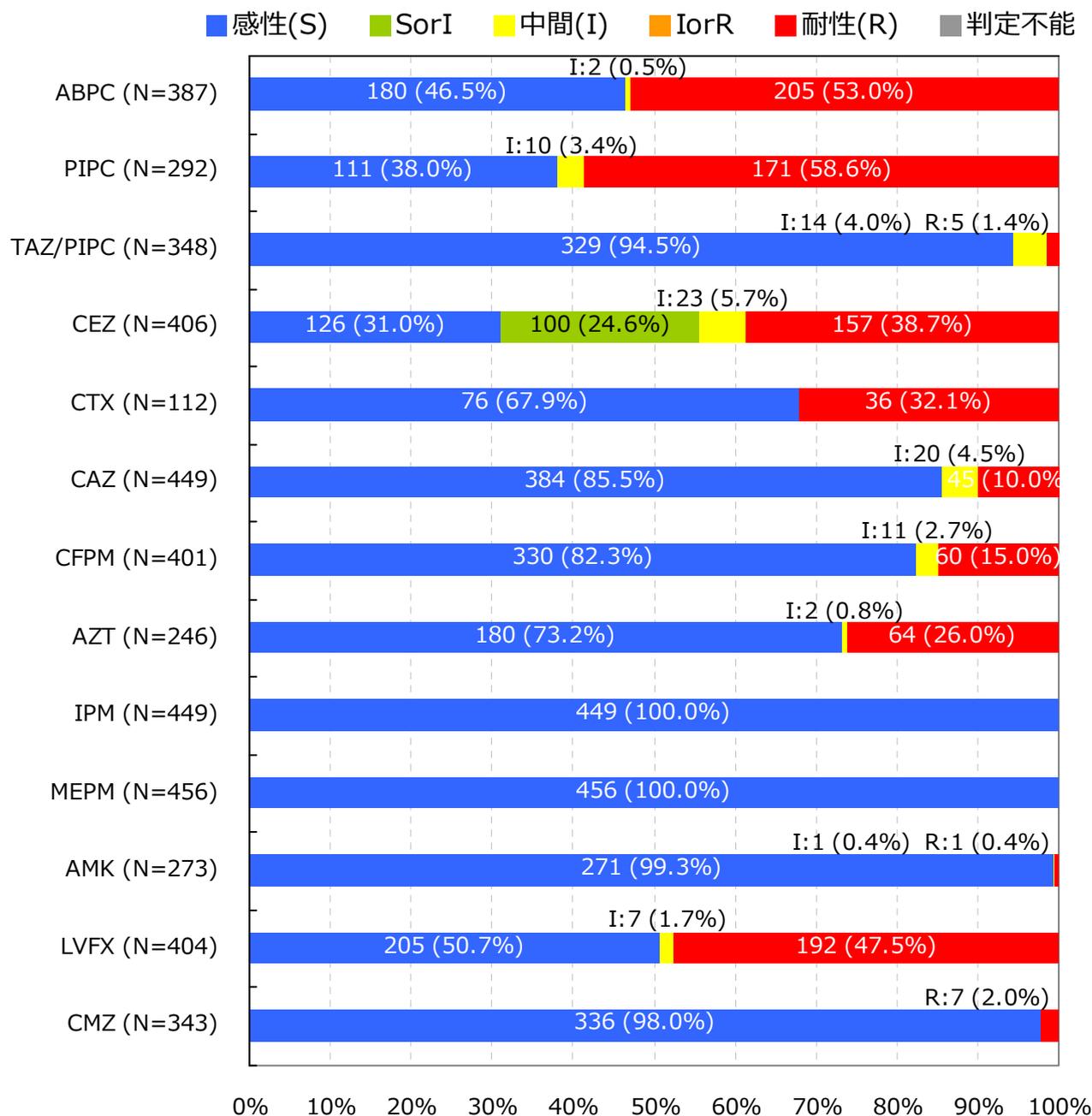
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1114と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Escherichia coli †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

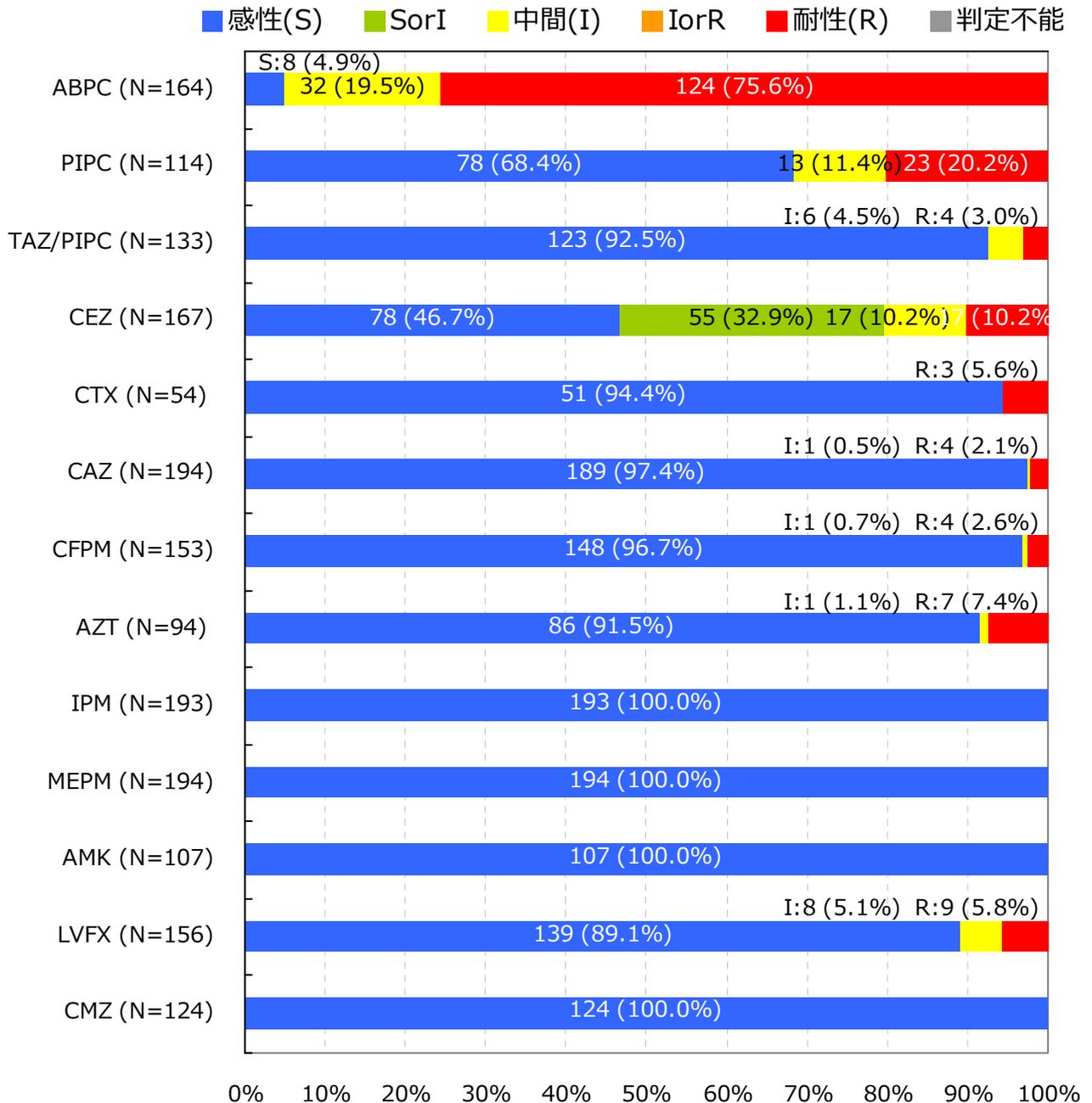
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2001～2007と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Klebsiella pneumoniae †



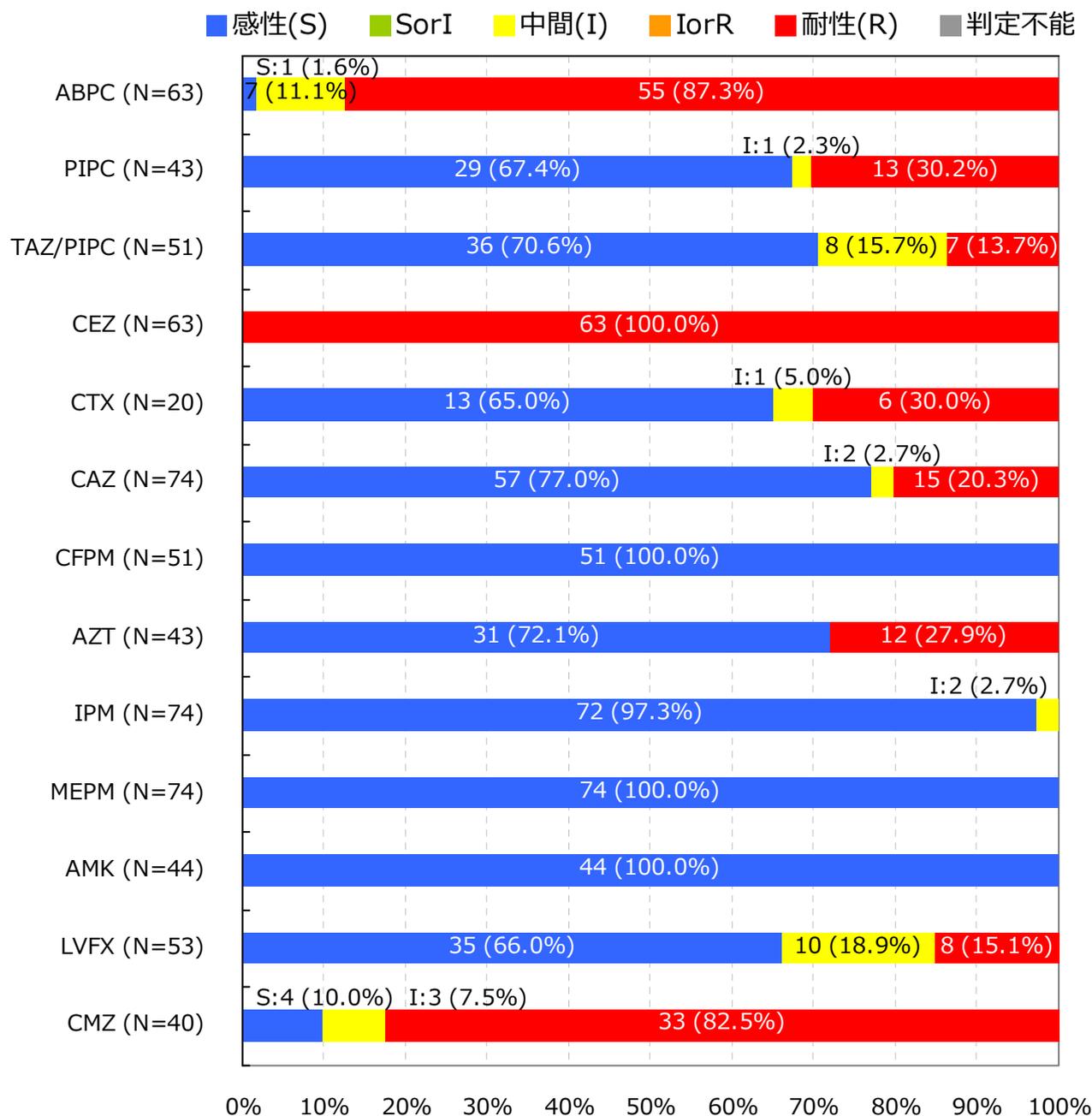
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2351と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Enterobacter cloacae †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

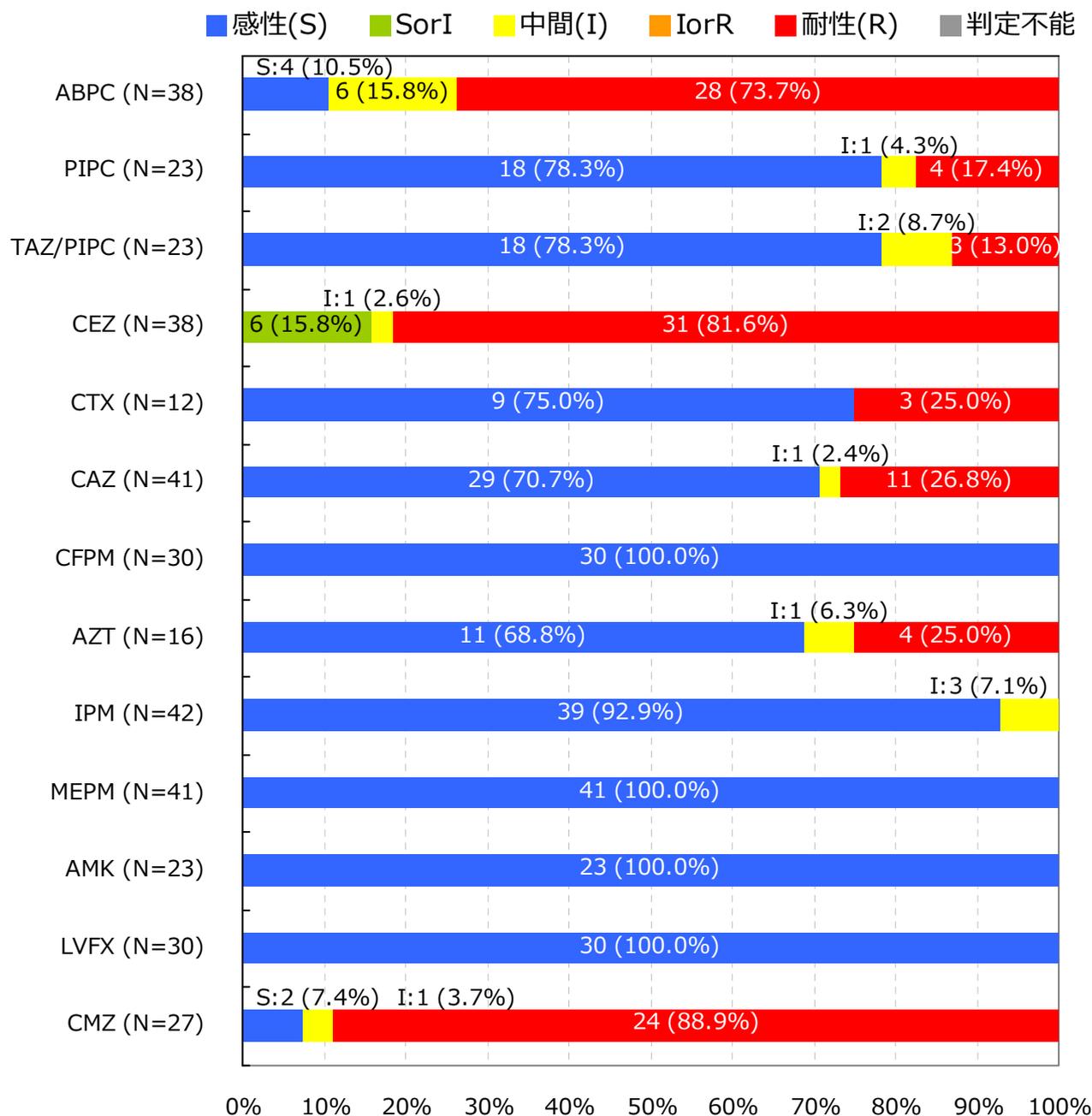
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2151と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Enterobacter aerogenes †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

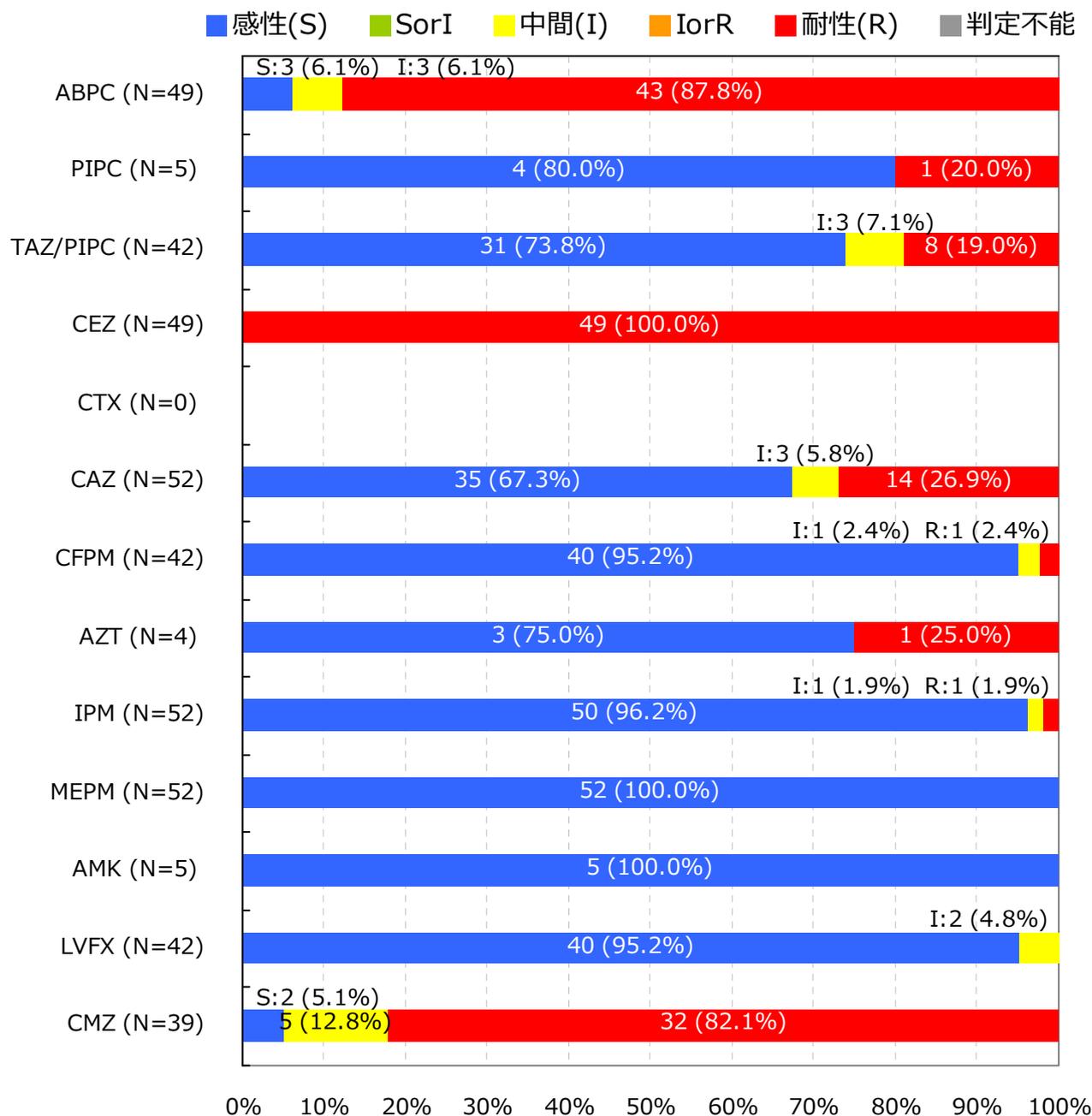
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2152と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Citrobacter freundii †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

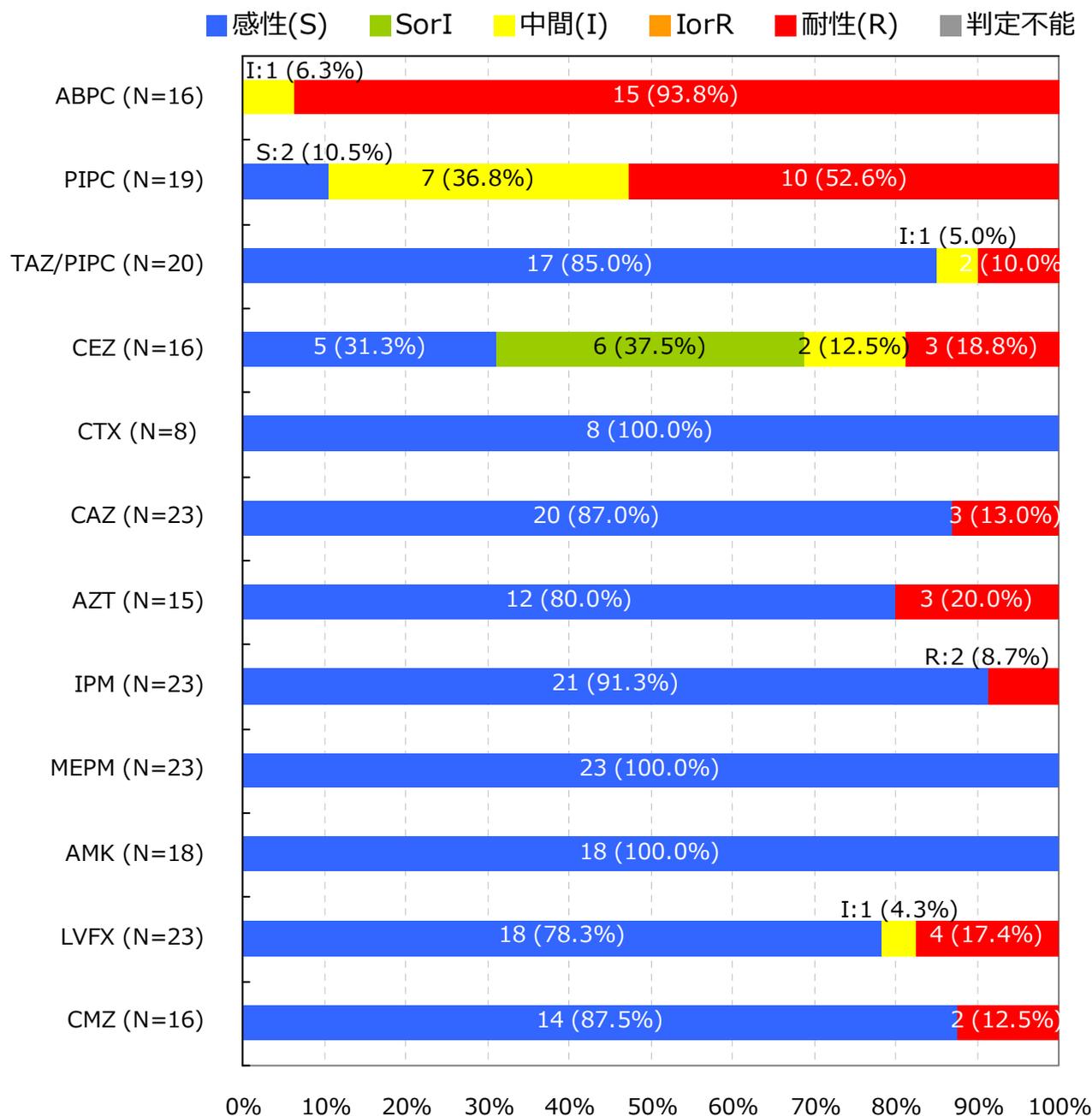
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 2051と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Citrobacter koseri †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

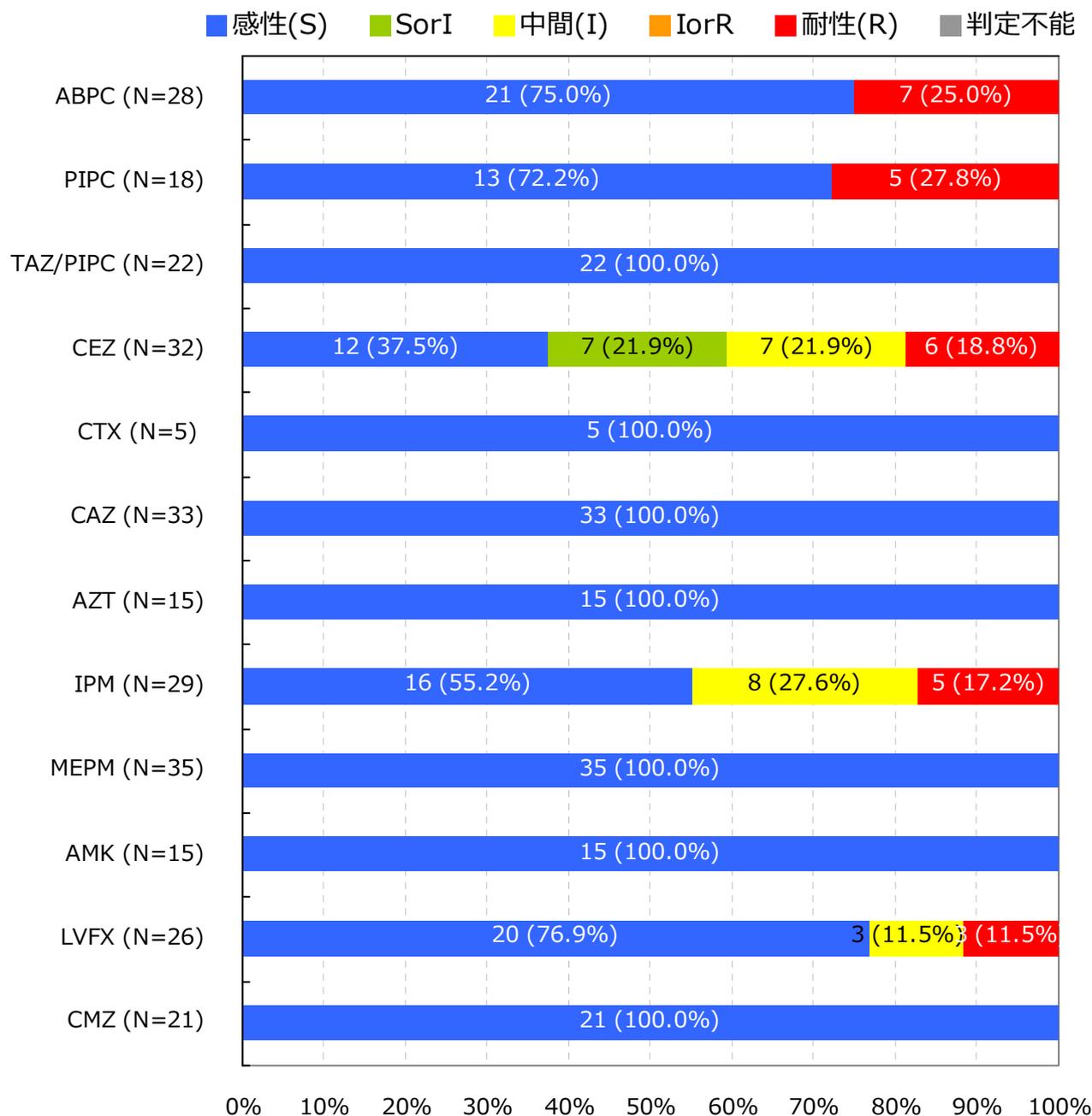
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2052と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Proteus mirabilis †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

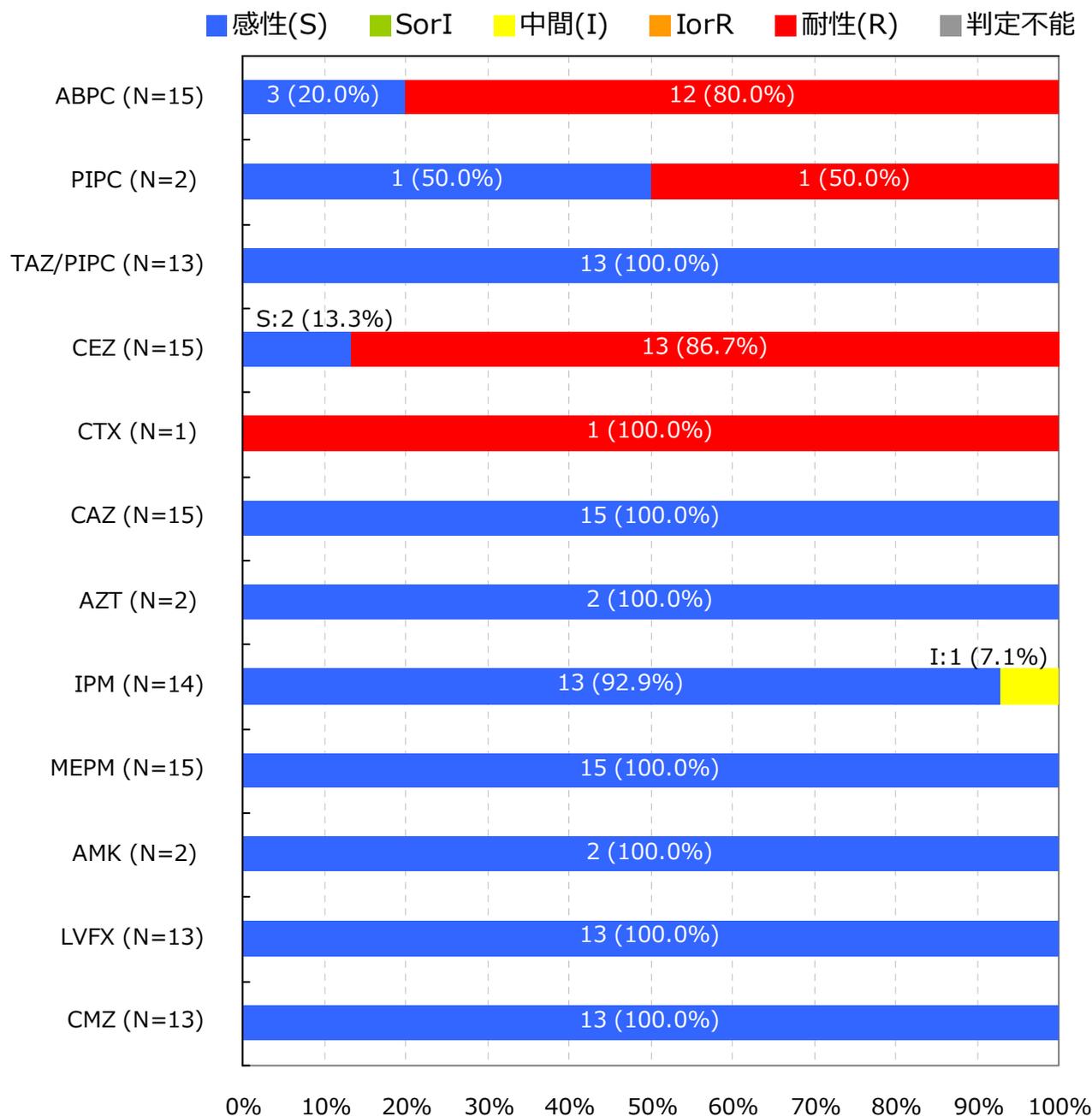
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2201と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Proteus vulgaris †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

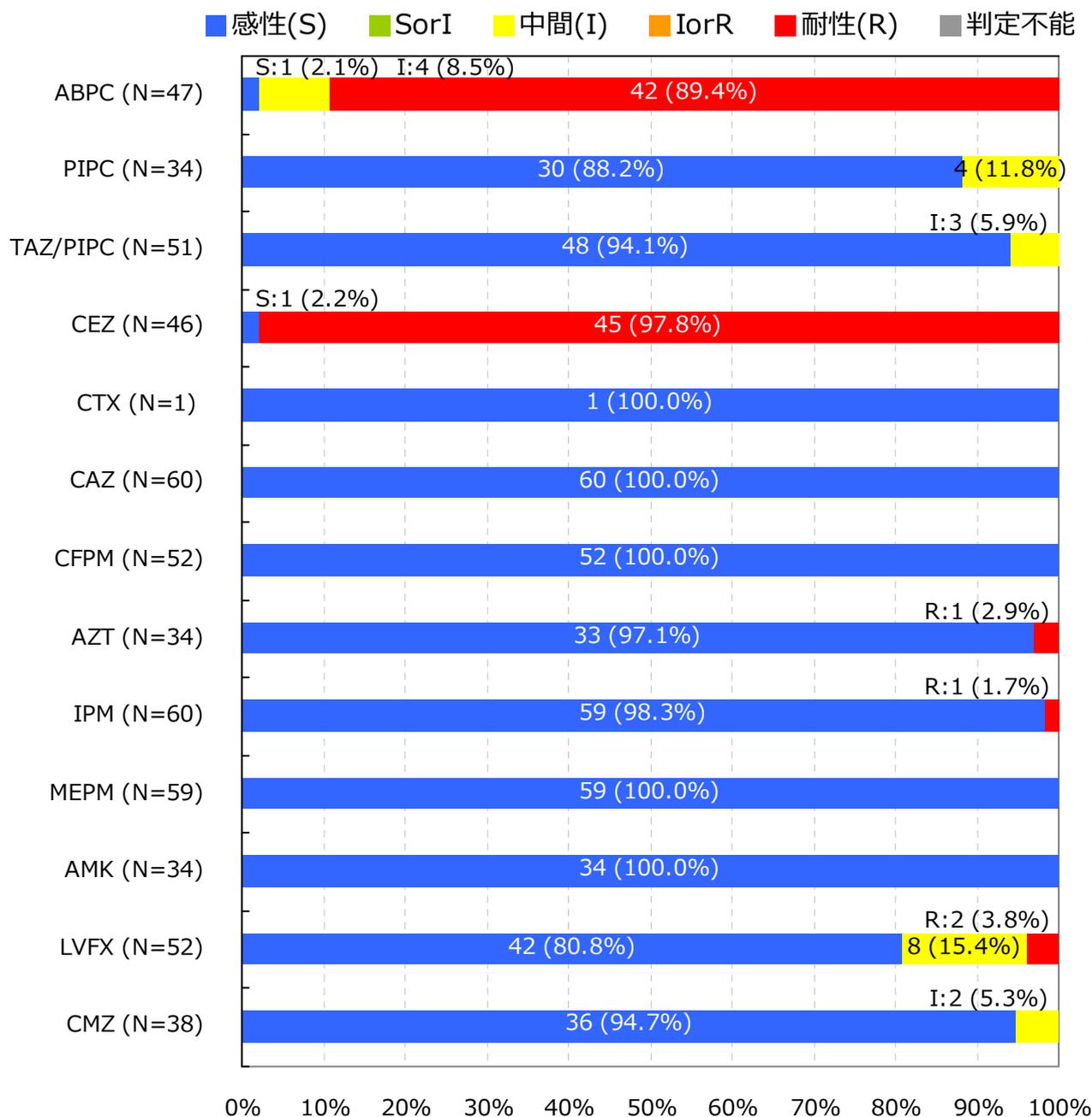
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2202と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Serratia marcescens †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

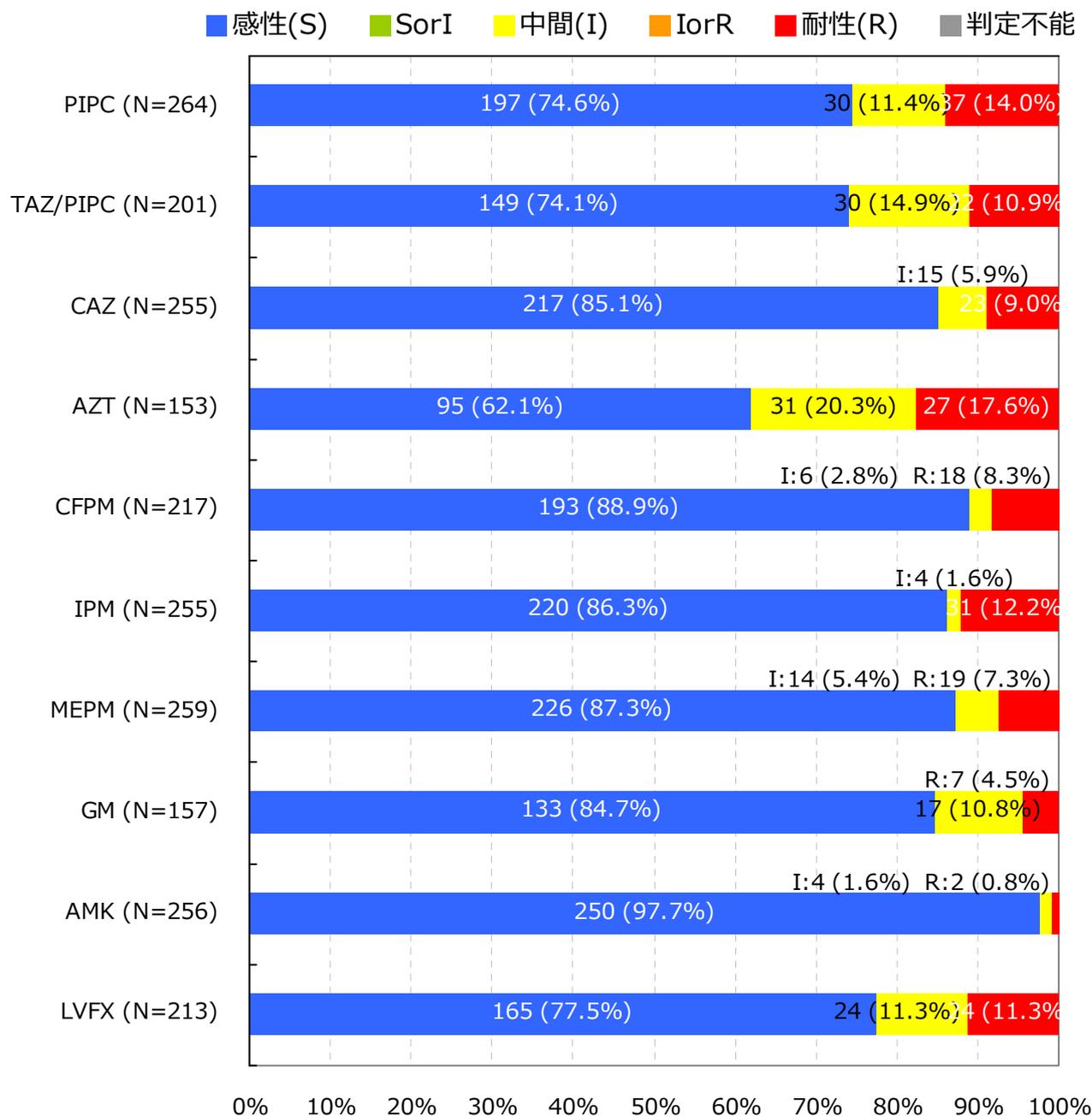
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2101と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Pseudomonas aeruginosa †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

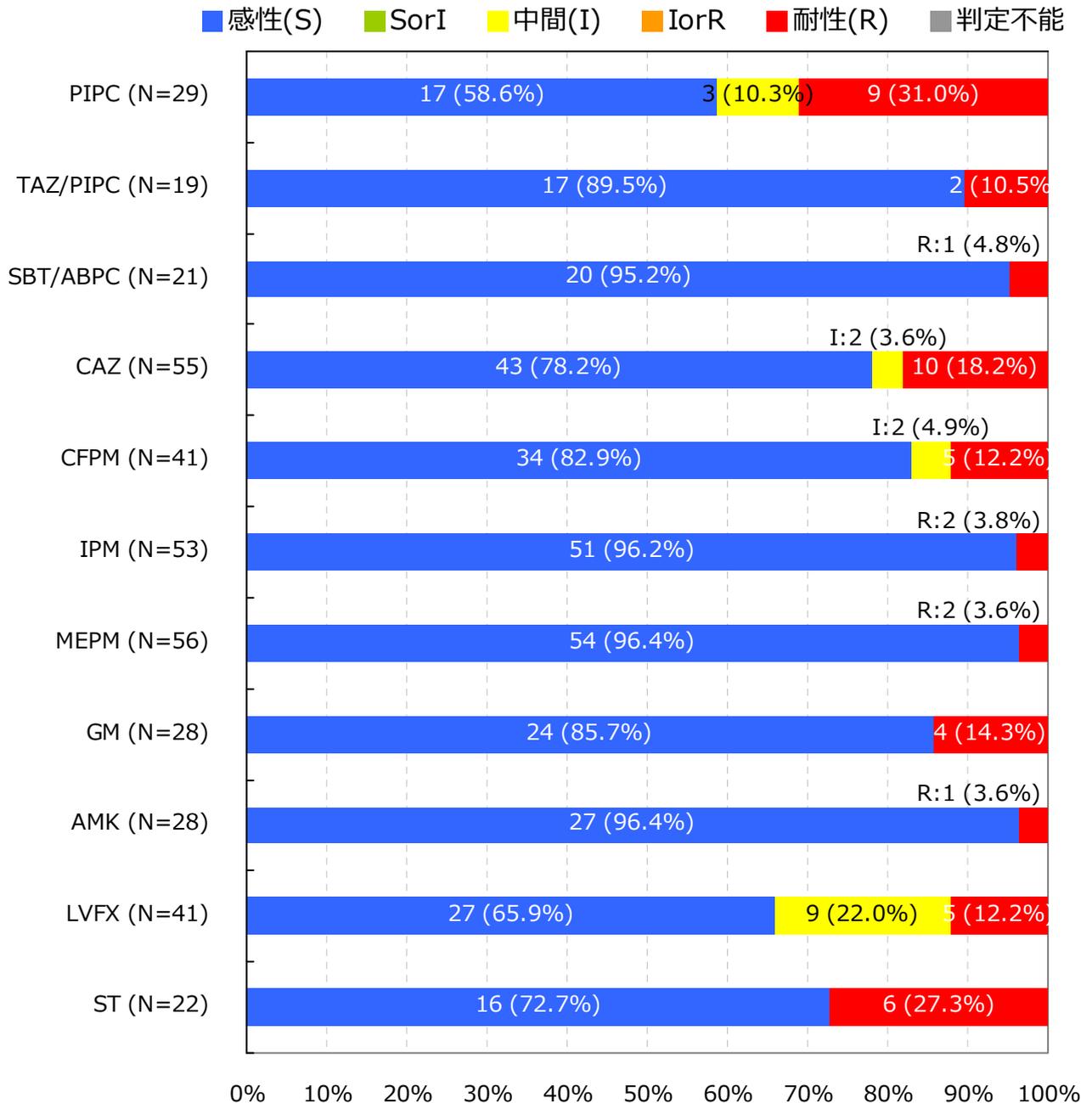
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：4001と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Acinetobacter spp. †



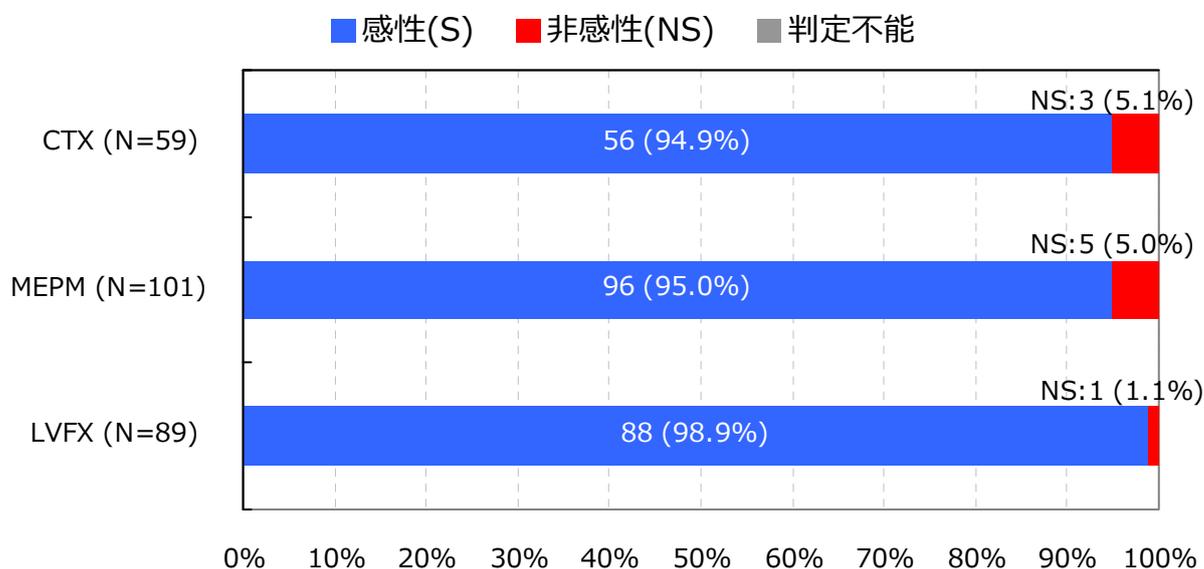
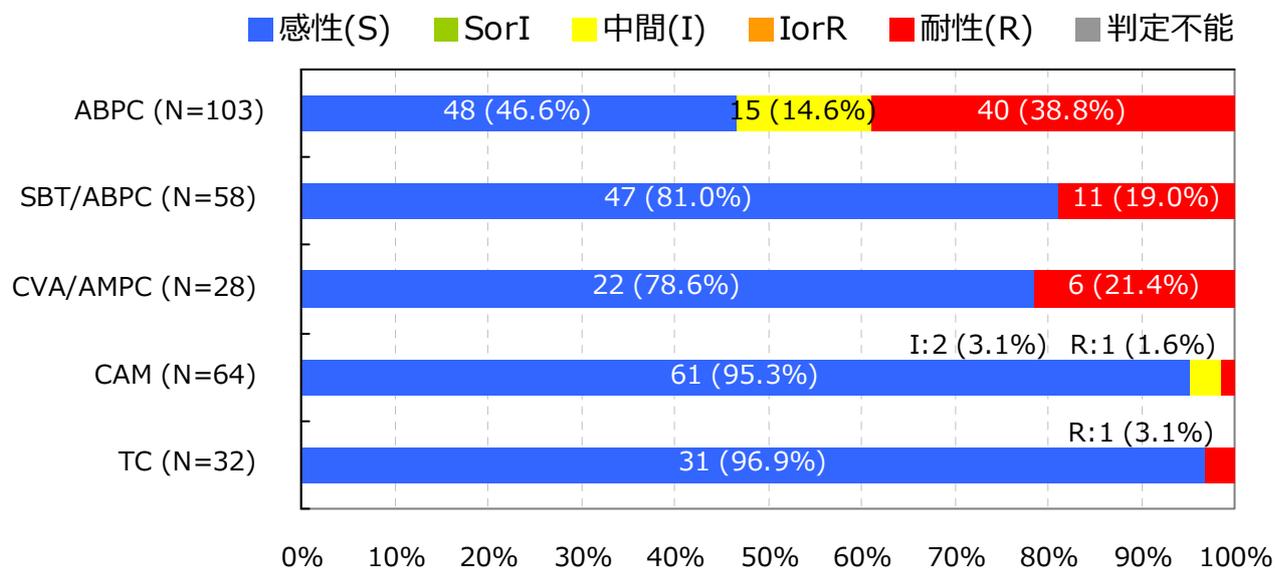
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 4400~4403と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Haemophilus influenzae †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 3201, 3202, 3203, 3205, 3208, 3211, 3214, 3217, 3220, 3223と報告された菌

【巻末資料 1 主要菌の菌名コード / 微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準】

主要菌の菌名コード（薬剤感受性条件なし）

| 菌名 | 菌名コード Ver.4.1 |
|-----------------------------------|----------------|
| <i>Staphylococcus aureus</i> | 1301,1303-1306 |
| <i>Staphylococcus epidermidis</i> | 1312 |
| <i>Streptococcus pneumoniae</i> | 1131 |
| <i>Enterococcus faecalis</i> | 1201,1202 |
| <i>Enterococcus faecium</i> | 1205,1206 |
| <i>Escherichia coli</i> | 2001-2007 |
| <i>Klebsiella pneumoniae</i> | 2351 |
| <i>Enterobacter</i> spp. | 2150-2156 |
| <i>Serratia marcescens</i> | 2101 |
| <i>Pseudomonas aeruginosa</i> | 4001 |
| <i>Acinetobacter</i> spp. | 4400-4403 |

「微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準」について

耐性菌の菌名※は以下の通り

MRSA : Methicillin-resistant *S. aureus* メチシリン耐性黄色ブドウ球菌

VRSA : Vancomycin-resistant *S. aureus* バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌

VRE : Vancomycin-resistant *Enterococcus* spp. バンコマイシン耐性腸球菌

PRSP : Penicillin-resistant *S. pneumoniae* ペニシリン耐性肺炎球菌

MDRP : Multidrug-resistant *P. aeruginosa* 多剤耐性緑膿菌

MDRA : Multidrug-resistant *Acinetobacter* spp. 多剤耐性アシネトバクター属

CRE : Carbapenem-Resistant Enterobacteriaceae カルバペネム耐性腸内細菌科細菌（2015年1月より集計開始）

* : 原則 S,I,R の判定は CLSI2012 (M100-S22) に準拠

† : 感染症発生動向調査の基準に準拠

2014年12月分データまでは CLSI2007 (M100-S17)、2015年1月分データより CLSI2012 (M100-S22) に準拠する。
薬剤耐性菌判定基準 (Ver.3.1) と 検査部門特定の耐性菌判定基準 (Ver.4.1) を基に作成した。

微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準

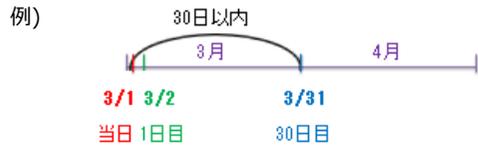
| 菌名※ | 概要* | 微量液体希釈法 (MIC 値) | 菌名コード Ver.4.1 |
|------|---|---|---|
| MRSA | MPIPC が "R" の <i>S. aureus</i> または選択培地で MRSA と確認された菌 | MPIPC $\geq 4\mu\text{g/mL}$ | 1301,1303 |
| VRSA | VCM が微量液体希釈法で "R" の <i>S. aureus</i> | VCM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ | 1301,1303-1306 |
| VRE | 下記のいずれかの条件を満たす <i>Enterococcus</i> spp. ・ VCM が微量液体希釈法で耐性† ・ 選択培地で VRE と確認された菌 注) 種の同定が行われていない <i>Enterococcus</i> sp. は除く | VCM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ † | 1201,1202,1205, 1206,1209,1210, 1213-1217 |
| PRSP | PCG が微量液体希釈法で耐性† の <i>S. pneumoniae</i> | PCG $\geq 0.125\mu\text{g/mL}$ † | 1131 |
| MDRP | 下記全てに該当する <i>P. aeruginosa</i> 1. カルバペネム系 (IPM, MEPM の何れか) が 微量液体希釈法で耐性† 2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈 法で耐性† 3. フルオロキノロン系 (NFLX, OFLX, LVFX、 CPFX, LFLX, GFLX の何れか) が "R" | 1. IPM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ †、 MEPM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ † 2. AMK $\geq 32\mu\text{g/mL}$ † 3. NFLX $\geq 16\mu\text{g/mL}$ 、 OFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ 、 LVFX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ 、 LFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ 、 GFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ 、 CPFX $\geq 4\mu\text{g/mL}$ | 4001 |

| 菌名※ | 概要* | 微量液体希釈法 (MIC 値) | 菌名コード Ver.4.1 |
|----------------------------|--|---|-------------------------|
| MDRA | 下記全てに該当する <i>Acinetobacter</i> spp. 1. カルバペネム系 (IPM, MEPM の何れか) が "R" 2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈 法で耐性† 3. フルオロキノロン系 (LVFX, CPFX, GFLX の 何れか) が "R" | 1. IPM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ †、 MEPM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ † 2. AMK $\geq 32\mu\text{g/mL}$ † 3. LVFX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ 、 CPFX $\geq 4\mu\text{g/mL}$ 、 GFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ | 4400-4403 |
| CRE | 下記の何れかの条件を満たす腸内細菌科 1. MEPM が耐性† 2. IPM が耐性†、かつ CMZ が "R" | 1. MEPM $\geq 2\mu\text{g/mL}$ † 2. IPM $\geq 2\mu\text{g/mL}$ † かつ CMZ $\geq 64\mu\text{g/mL}$ | 2000-2691, 3150-3151 |
| カルバペネム 耐性緑膿菌 | IPM または MEPM が耐性† の <i>P. aeruginosa</i> | IPM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ † MEPM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ † | 4001 |
| 第三世代セファロ スポリン耐性 肺炎桿菌 | CTX または CAZ が "R" の <i>K. pneumoniae</i> | CTX $\geq 4\mu\text{g/mL}$ CAZ $\geq 16\mu\text{g/mL}$ | 2351 |
| 第三世代セファロ スポリン耐性 大腸菌 | CTX または CAZ が "R" の <i>E. coli</i> | CTX $\geq 4\mu\text{g/mL}$ CAZ $\geq 16\mu\text{g/mL}$ | 2001-2007 |
| フルオロキノロン 耐性大腸菌 | フルオロキノロン系 (NFLX, OFLX, LVFX, LFLX、 GFLX, CPFX の何れか) が "R" の <i>E. coli</i> | NFLX $\geq 16\mu\text{g/mL}$ 、 OFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ 、 LVFX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ 、 LFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ 、 GFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ 、 CPFX $\geq 4\mu\text{g/mL}$ | 2001-2007 |

【巻末資料 2 公開情報の集計方法について】

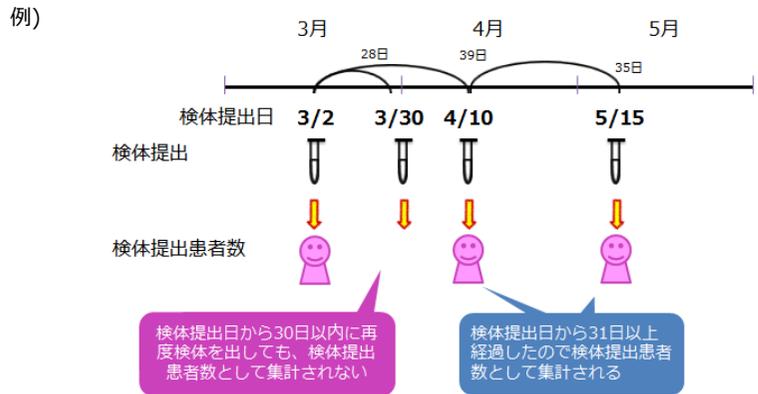
1. 日数の数え方

検体提出日の翌日を 1 日目とする。検体提出日が 3 月 1 日とすると、1 日目が 3 月 2 日、30 日目が 3 月 31 日となる。



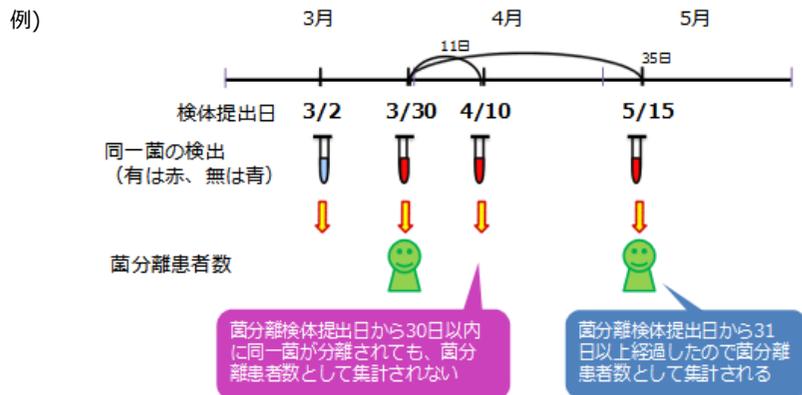
2. 検体提出患者数

検体提出患者数は、検体の種類や菌分離の有無に関わらず検体(入院検体)が提出された患者の数である。検体提出患者数は重複処理を行っており、30 日以内の同一患者からの複数の検体提出は 1 件とする。



3. 菌分離患者数

菌分離患者数も検体提出患者と同様の重複処理を行い、30 日以内に同一患者から同一菌が複数回検出された場合、菌分離患者数は 1 件とする。耐性菌分離患者数は、耐性菌の基準に合致する菌をまず抽出し、その中で上記重複処理を行っている。



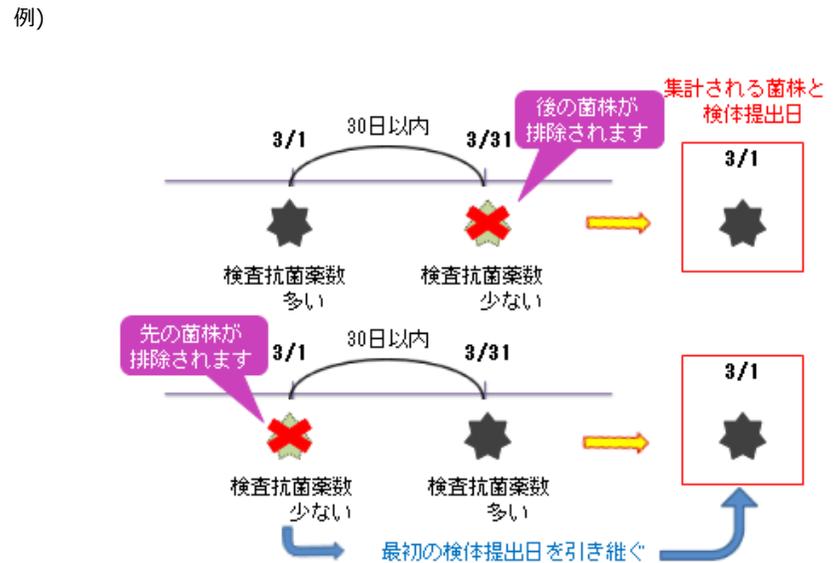
4. 抗菌薬感受性検査結果をもとにした同一菌と異なる菌との区別

30 日以内に同一患者から同一菌が検出された場合であっても、検査抗菌薬感受性結果に 1 つ以上不一致(下記①~④のいずれかに該当)がある場合は異なる菌株として集計される。

- ① MIC 値に 4 倍以上の違いがある
ただし、MIC > 2 は MIC ≥ 4 と考え、判定時は MIC = 4 として扱う
また、MIC < 16 は MIC ≤ 16 と考え、判定時は MIC = 16 として扱う
- ② SIR 判定では「S と R」の組み合わせ
- ③ +/- 判定では「-と++」または「+と+++」または「-と+++」の組み合わせ
- ④ 共通する検査抗菌薬数が 5 未満

5. 抗菌薬感受性結果の重複処理

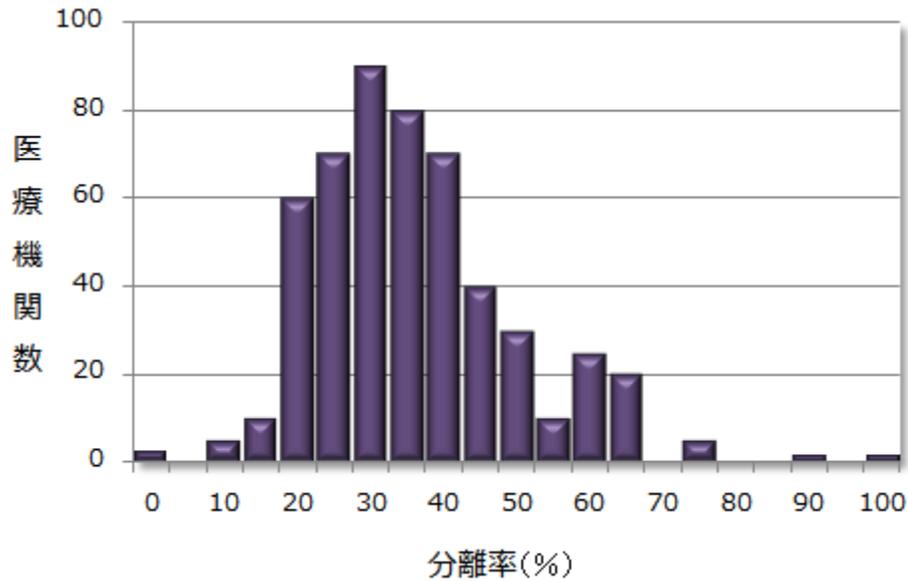
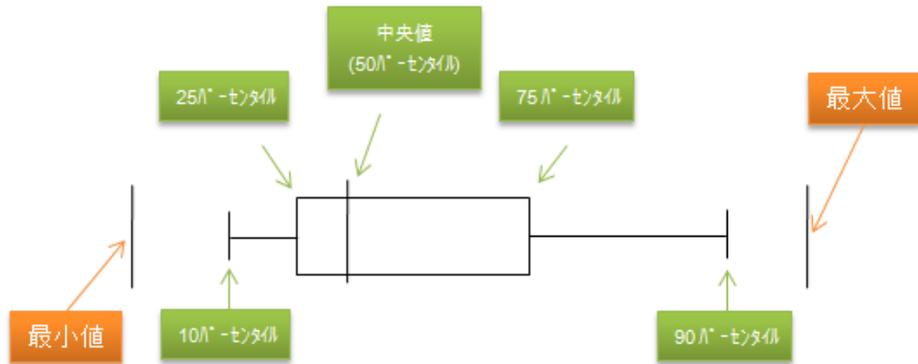
検体提出日が先の菌株の検査抗菌薬数が(30 日以内)の後の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、後の菌株の抗菌薬感受性検査結果は排除する。また、検体提出日が後の菌株の検査抗菌薬数が(30 日以内)の先の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、先の菌株の抗菌薬感受性検査結果を排除するが、先の検査の検体提出日を引き継ぐ。



【巻末資料3 箱ひげ図について】

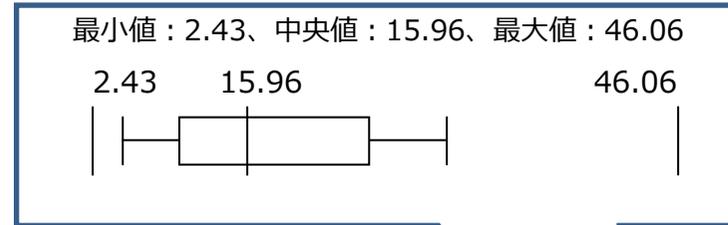
1. 箱ひげ図について

集計対象医療機関のデータのばらつきを示し、集計対象医療機関における自施設の位置を確認することができる。



※ パーセンタイル：値を小さいものから大きいものへと順番に並べ、全体を 100 として何番目であるかを表したもの。
 例えば、10パーセンタイルは、全体を 100 として小さいほうから数えて 10 番目の計測値を示している。

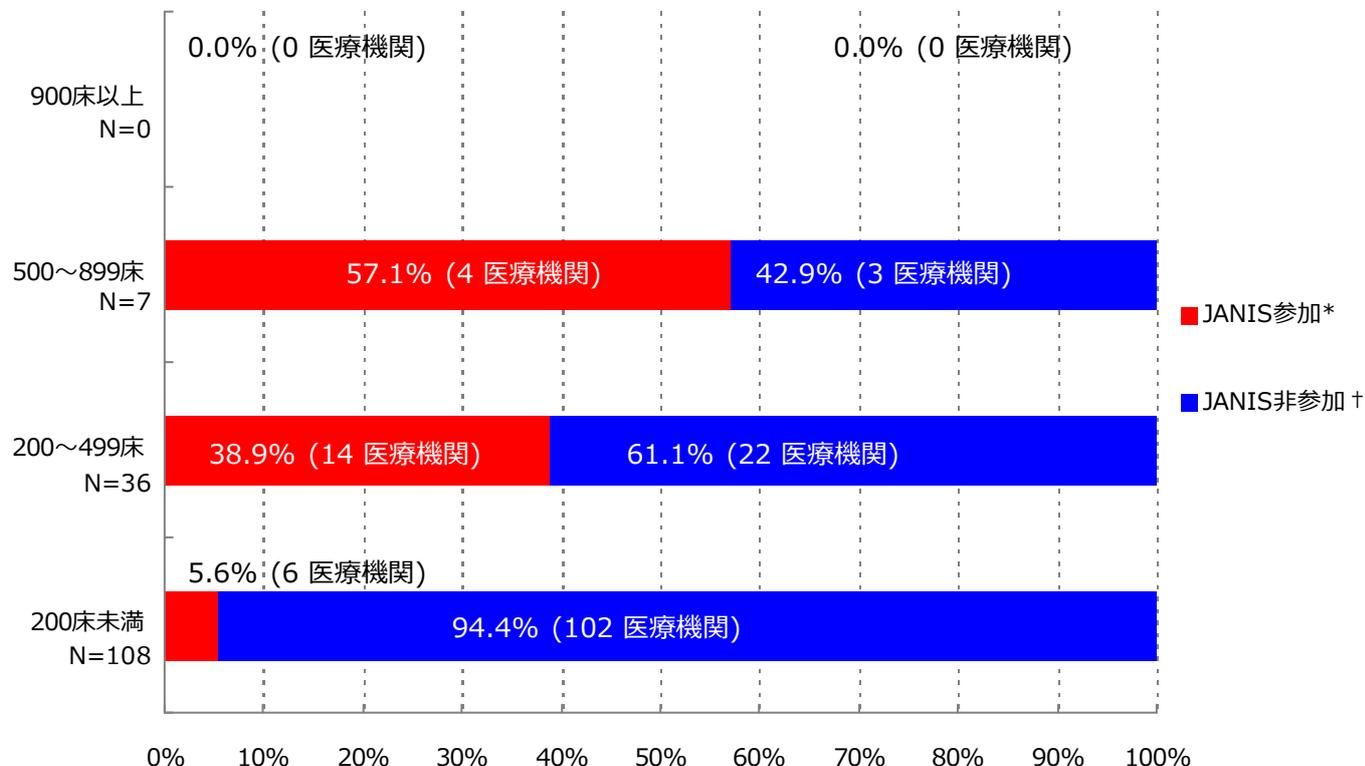
2. 公開情報の箱ひげ図



| 集計対象医療機関の分離率 (%) の分布 | | |
|----------------------|----------------------|------------------|
| 2010年 * | 2011 | |
| 1,069,216人 | 1,309,993人 | |
| 175,145人 (16.38%) | 210,382人 (16.06%) | 2.43 15.96 46.06 |
| 47,523人 (4.44%) | 64,588人 (4.93%) | 0.00 3.21 37.54 |



1. 集計対象医療機関数(24医療機関)



*JANIS参加 = 2017年1～3月 集計対象医療機関数

† JANIS非参加 = (2016年 都道府県別医療機関数 †) - (2017年1～3月 集計対象医療機関数)

| 病床数 | 2016年 都道府県別医療機関数 † | 2017年1月～3月 集計対象医療機関数 (都道府県別医療機関数に占める割合) | |
|----------|--------------------|--|-----------|
| 900床以上 | 0 | 0 | (0.0%) |
| 500～899床 | 7 | 4 | (57.1%) |
| 200～499床 | 36 | 14 | (38.9%) |
| 200床未満 | 108 | 6 | (5.6%) |
| 病床数不明 | - | 0 | (-) |
| 合計 | 151 | 24 | (15.9%) |

† 平成28年医療施設（動態）調査を参照した

(長崎県)

公開情報 2017年1月～3月 四半期報(全集計対象医療機関)

院内感染対策サーベイランス 検査部門



2. 検査材料別集計対象医療機関数、検体数、分離菌数

| 検査材料分類 | 集計対象医療機関数 | 検体数 | 陽性検体数 (分離菌数) |
|--------|-----------|--------|-------------------|
| 呼吸器系検体 | 24 | 4,955 | 2,928 (5,985) |
| 尿検体 | 24 | 2,289 | 1,520 (2,256) |
| 便検体 | 24 | 711 | 479 (851) |
| 血液検体 | 24 | 5,865 | 835 (1,024) |
| 髄液検体 | 17 | 203 | 12 (14) |
| その他 | 24 | 2,698 | 1,656 (2,820) |
| 合計 | 24 | 16,721 | 7,430 (12,950) |

入院として報告された検体を集計

集計対象菌：コメントのみ(菌名コード9999)の報告以外の全ての菌

検査材料分類は以下に該当する検査材料コードを集計

呼吸器系検体：

101(喀出痰)、102(気管内採痰)、103(気管支洗浄液)、104(咽頭粘液)、105(鼻腔内)、106(口腔内)、
107(生検材料(肺))、109(その他(呼吸器))、404(胸水)

尿検体：

201(自然排尿)、202(採尿カテーテル)、203(留置カテーテル)、206(カテーテル尿(採尿、留置カテの区別不能))

便検体：

301(糞便)

血液検体：

401(静脈血)、402(動脈血)

髄液検体：

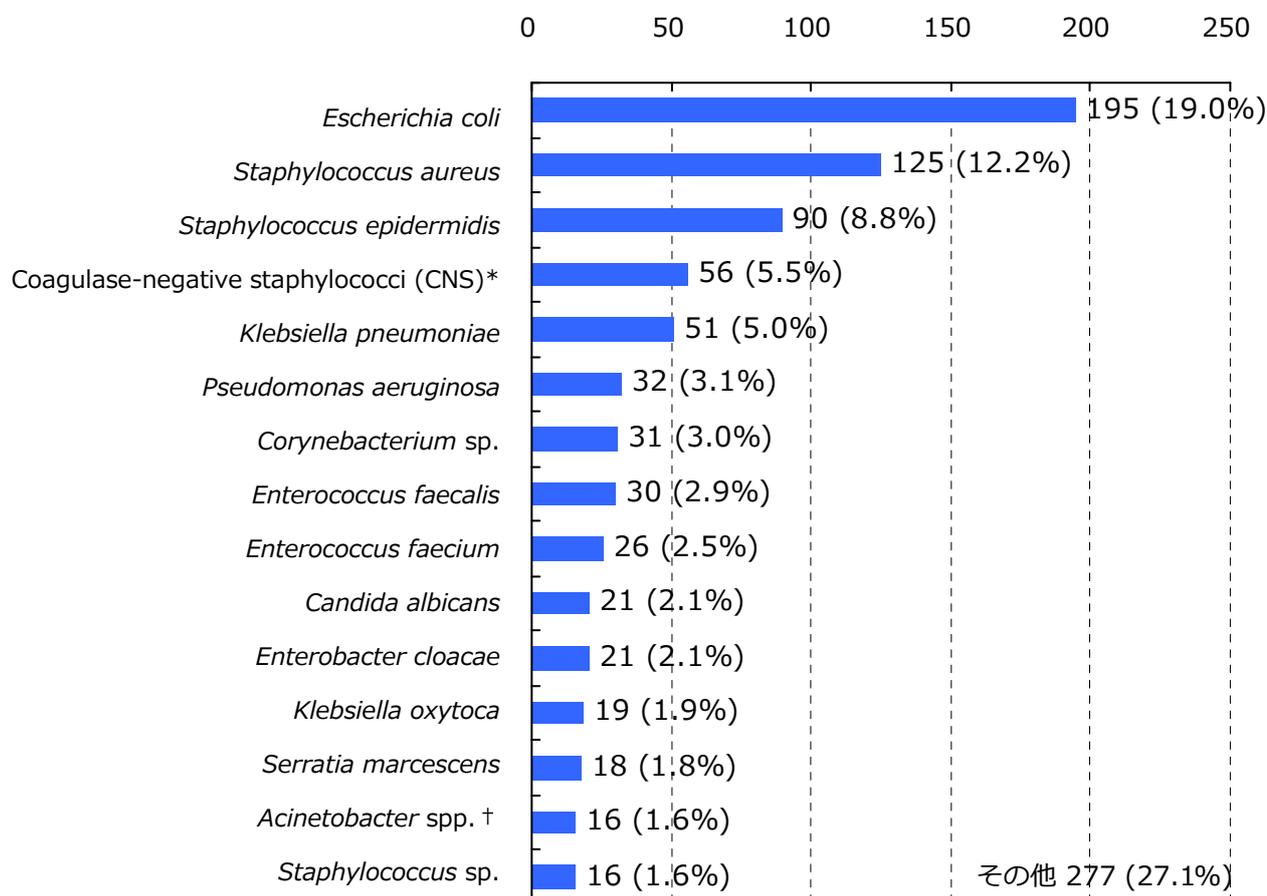
403(髄液)

その他：上記以外の検査材料コード

検査材料コード：JANISホームページ>各部門について>検査部門 <https://janis.mhlw.go.jp/section/kensa.html>

3. 検査材料別分離菌数割合

血液検体分離菌 (N=1,024)



*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌 (1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外)

†菌名コード：4400～4403と報告された菌

入院として報告された検体を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：静脈血(検査材料コード401)と動脈血(同402)

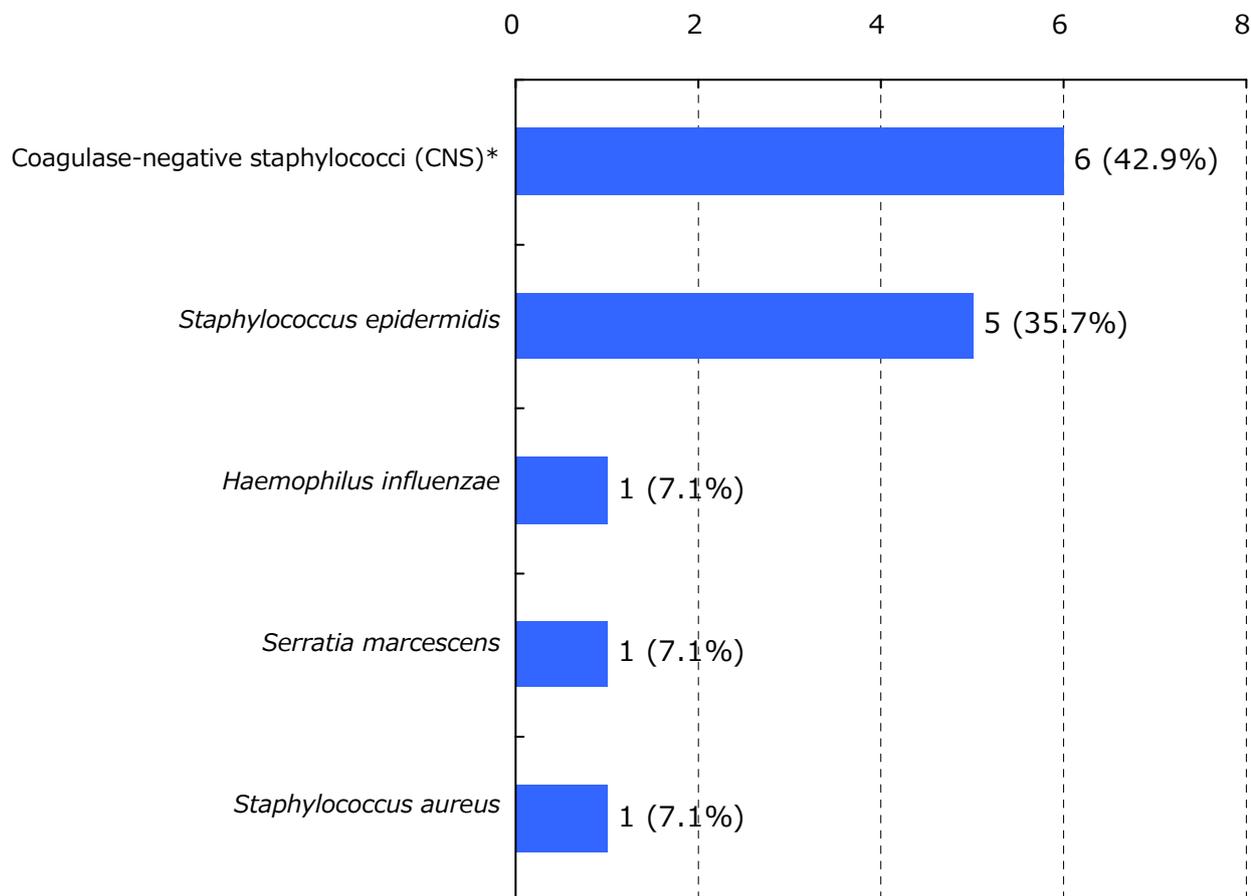
血液検体分離菌数割合 = (対象菌の血液検体分離菌数) ÷ (血液検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <https://janis.mhlw.go.jp/section/kensa.html>

3. 検査材料別分離菌数割合

髄液検体分離菌 (N=14)



*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌（1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外）

入院として報告された検体を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

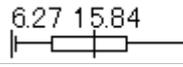
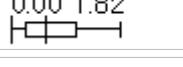
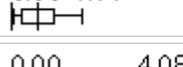
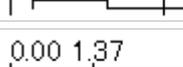
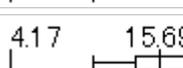
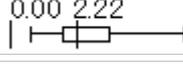
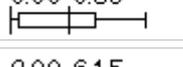
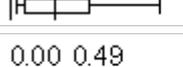
集計対象検査材料：髄液(検査材料コード403)

髄液検体分離菌数割合 = (対象菌の髄液検体分離菌数) ÷ (髄液検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <https://janis.mhlw.go.jp/section/kensa.html>

4. 主要菌分離患者数*と全医療機関†の分離率分布

| | 検体提出・菌分離患者数 全体の分離率 † | 集計対象医療機関の 分離率 ‡(%)の分布 |
|---------------------------|-------------------------|---|
| 検体提出患者数 | 7,083人 | |
| <i>S. aureus</i> | 939人 (13.26%) | 6.27 15.84 46.15  |
| <i>S. epidermidis</i> | 241人 (3.40%) | 0.00 1.82 18.30  |
| <i>S. pneumoniae</i> | 79人 (1.12%) | 0.00 1.17 15.38  |
| <i>E. faecalis</i> | 316人 (4.46%) | 0.00 4.08 9.15  |
| <i>E. faecium</i> | 149人 (2.10%) | 0.00 1.37 5.67  |
| <i>E. coli</i> | 1,036人 (14.63%) | 4.17 15.69 30.77  |
| <i>K. pneumoniae</i> | 320人 (4.52%) | 1.24 6.24 12.50  |
| <i>Enterobacter spp.</i> | 185人 (2.61%) | 0.00 2.22 11.54  |
| <i>S. marcescens</i> | 65人 (0.92%) | 0.00 0.89 5.33  |
| <i>P. aeruginosa</i> | 428人 (6.04%) | 2.00 6.15 34.62  |
| <i>Acinetobacter spp.</i> | 59人 (0.83%) | 0.00 0.49 7.25  |

入院として報告された検体を集計

*分離患者数と検体提出患者数は30日ごとに重複処理(巻末参照)している

†ここでは全医療機関は集計対象医療機関を表す

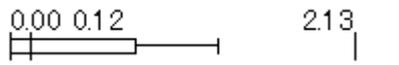
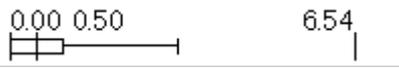
‡ここでの分離率は全体の分離率を表す

全体の分離率

= (集計対象医療機関の対象菌の分離患者数合計) ÷ (集計対象医療機関の検体提出患者数合計) × 100

‡分離率 = (対象菌の分離患者数) ÷ (検体提出患者数) × 100

5. 特定の耐性菌分離患者数*と全医療機関†の分離率分布

| | 検体提出・菌分離患者数 全体の分離率‡ | 集計対象医療機関の 分離率¶(%)の分布 |
|------------------------|------------------------|--|
| 検体提出患者数 | 7,083人 | |
| メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA) | 517人 (7.30%) | 1.83 8.29 34.62  |
| バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌(VRSA) | 0人 (0.00%) | 0.00  |
| バンコマイシン耐性腸球菌(VRE) | 0人 (0.00%) | 0.00  |
| ペニシリン耐性肺炎球菌(PRSP) | 33人 (0.47%) | 0.00 0.12 2.13  |
| 多剤耐性緑膿菌(MDRP) | 2人 (0.03%) | 0.00 0.00 0.65  |
| 多剤耐性アシネトバクター属(MDRA) | 0人 (0.00%) | 0.00  |
| カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE) | 14人 (0.20%) | 0.00 0.00 1.72  |
| カルバペネム耐性緑膿菌 | 55人 (0.78%) | 0.00 0.50 6.54  |
| 第三世代セファロスポリン耐性肺炎桿菌 | 29人 (0.41%) | 0.00 0.00 4.17  |
| 第三世代セファロスポリン耐性大腸菌 | 222人 (3.13%) | 0.00 2.58 11.76  |
| フルオロキノロン耐性大腸菌 | 343人 (4.84%) | 0.00 5.10 19.23  |

入院検体でかつ、検査法が原則微量液体希釈法又はEtestと設定されたMIC値が報告されている検体を集計

MRSAとVREは検査法によらず菌名コードで指定された場合はそれらを含む

*分離患者数と検体提出患者数は30日ごとに重複処理(巻末参照)している

†ここでは全医療機関は集計対象医療機関を表す

‡ここでの分離率は全体の分離率を表す

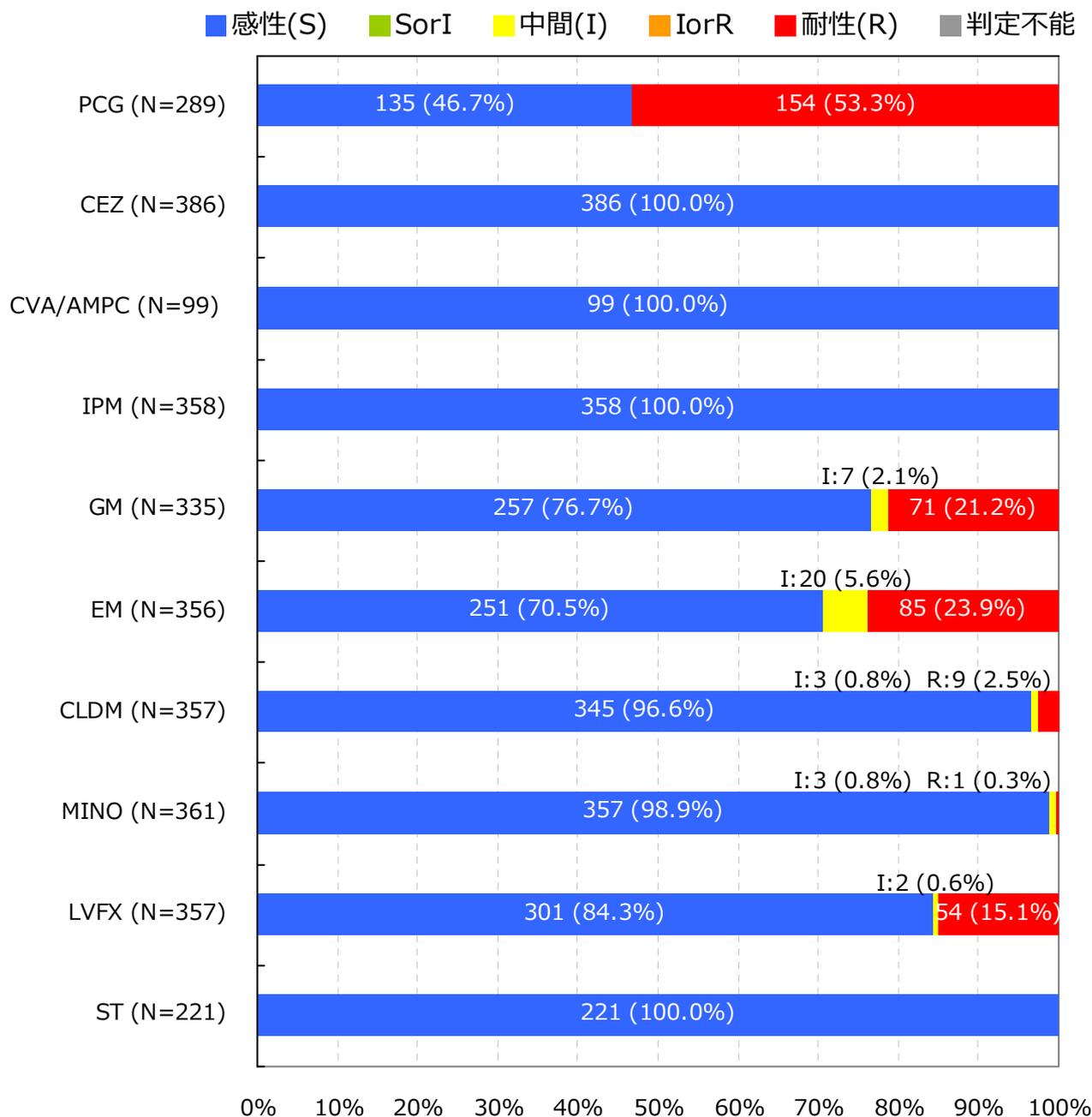
全体の分離率

= (集計対象医療機関の対象菌の分離患者数合計) ÷ (集計対象医療機関の検体提出患者数合計) × 100

¶分離率 = (対象菌の分離患者数) ÷ (検体提出患者数) × 100

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Staphylococcus aureus (MSSA) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

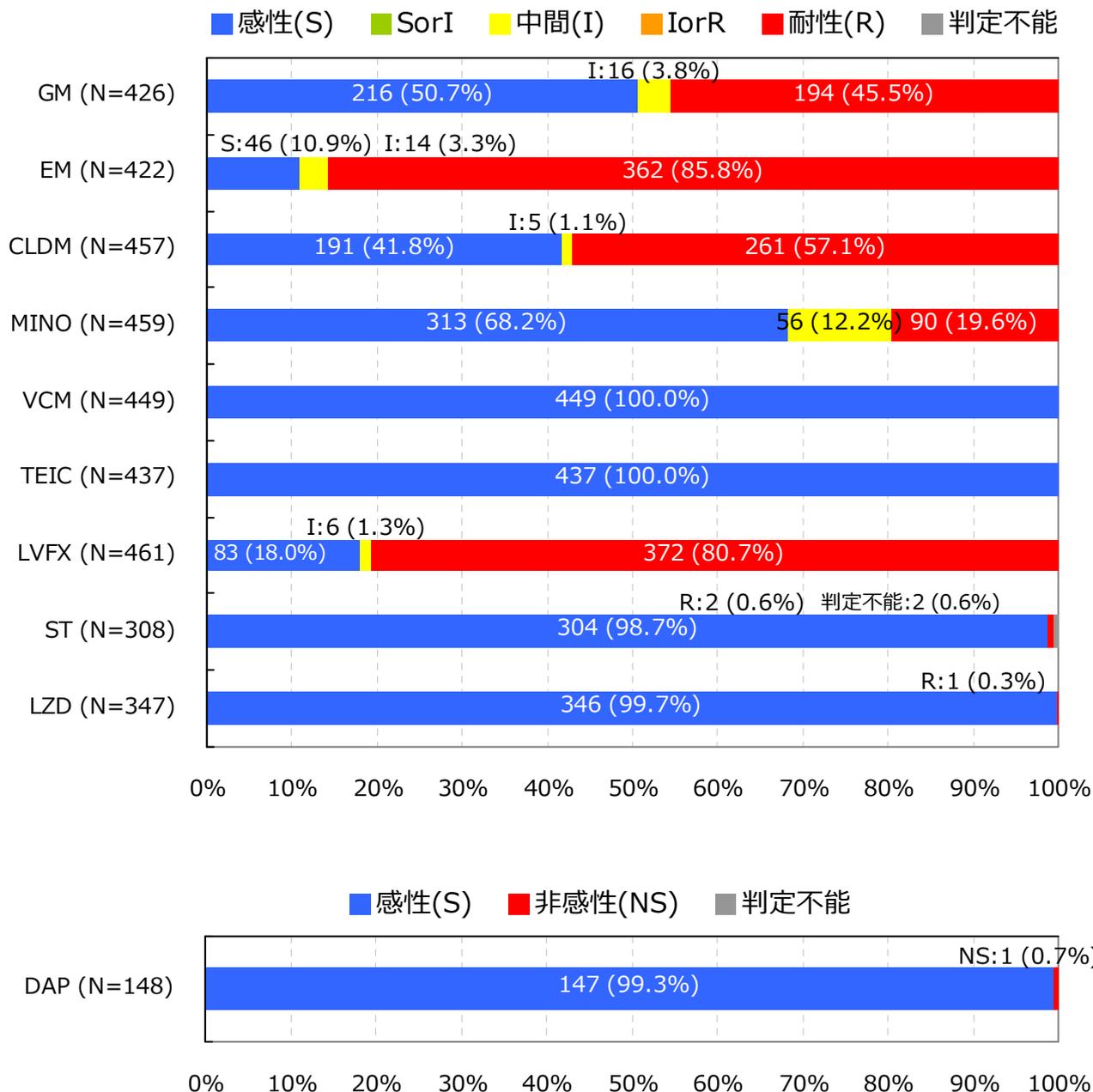
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1304, 1305, 1306と報告された菌および菌名コード : 1301と報告され抗菌薬コード : 1208 (オキサシリン) の感受性結果「S」の菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Staphylococcus aureus (MRSA) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

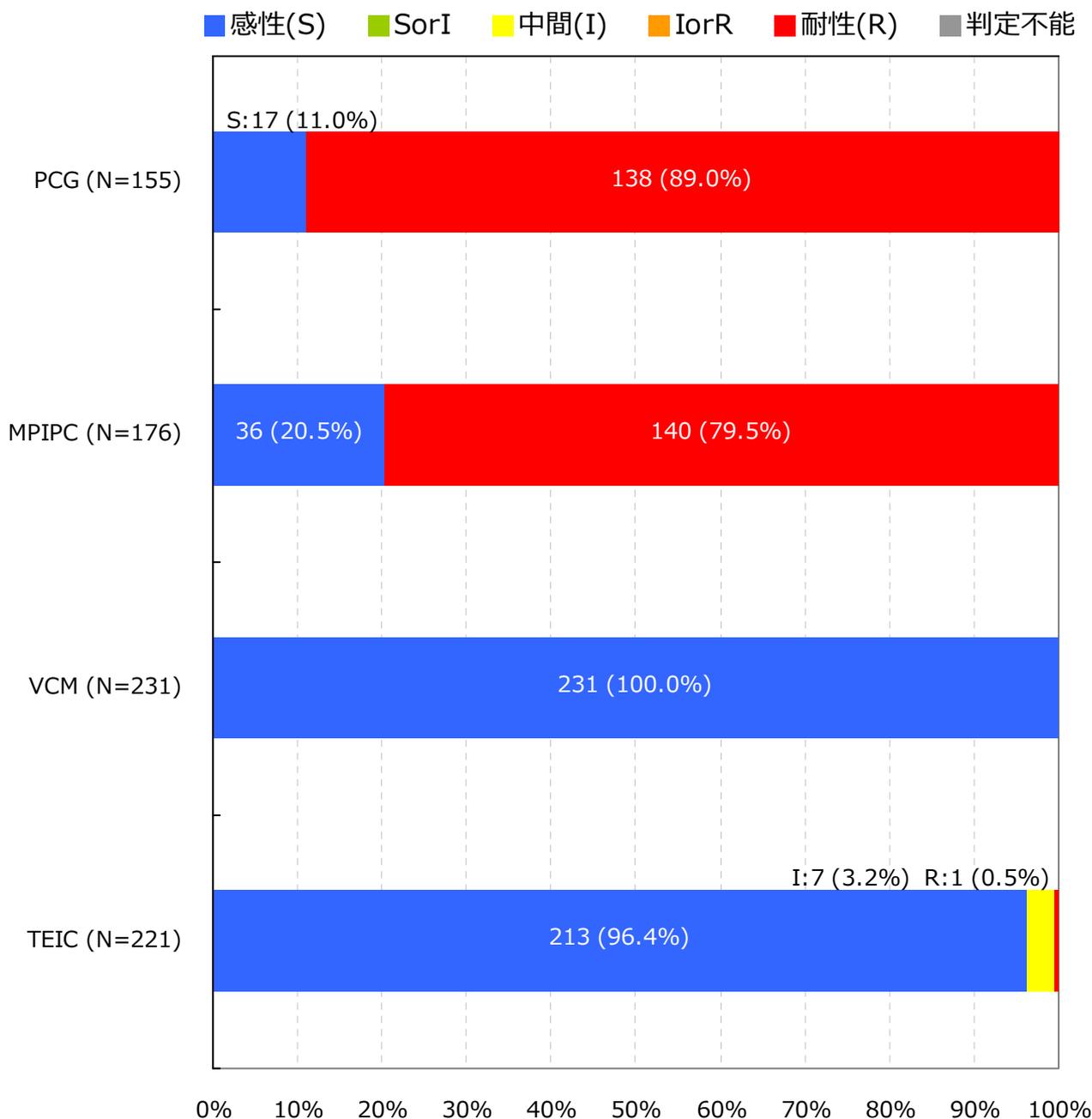
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1303と報告された菌および菌名コード : 1301と報告され抗菌薬コード : 1208 (オキサシリン) の感受性結果「R」の菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Staphylococcus epidermidis †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

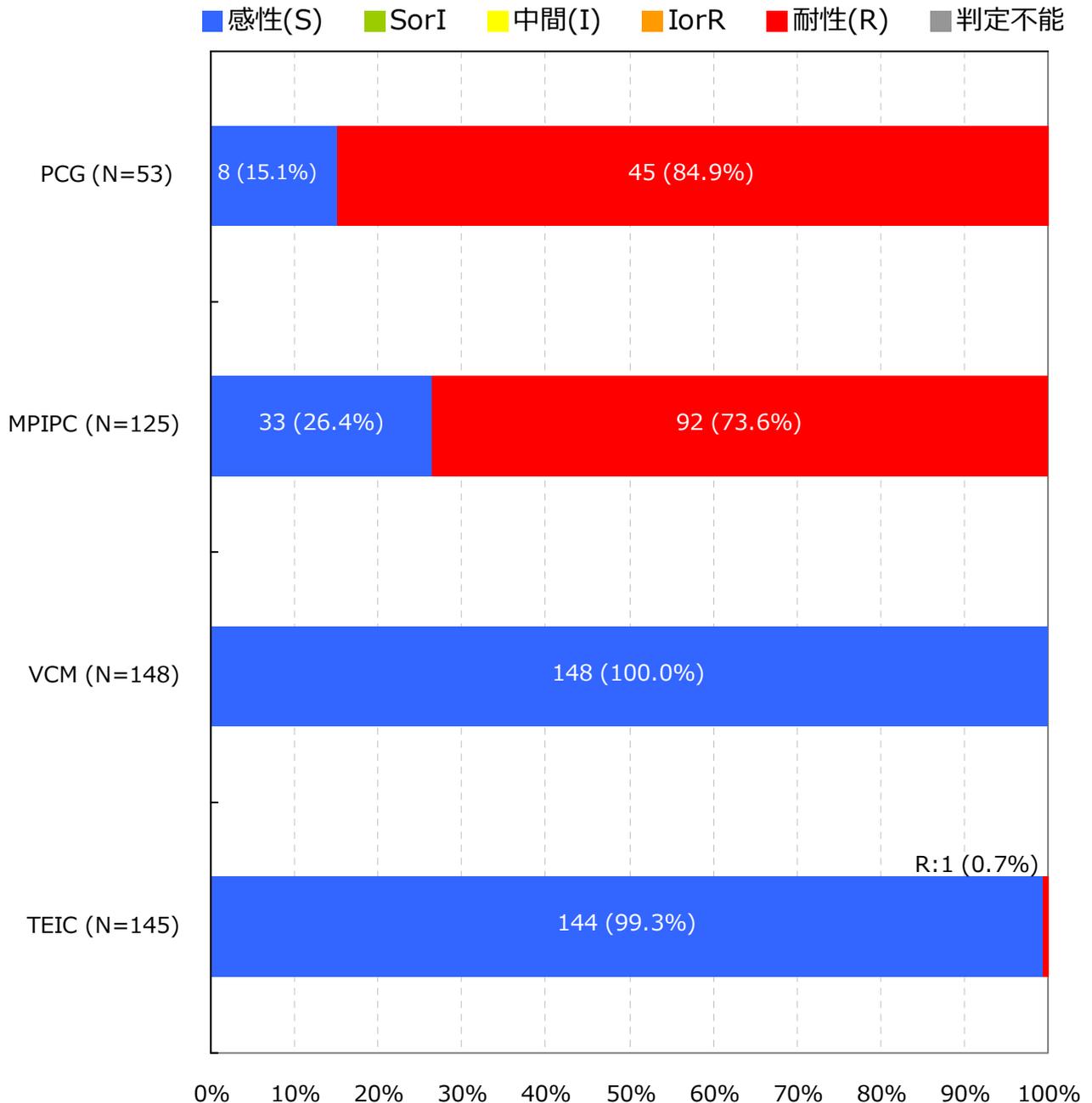
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1312と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Coagulase-negative staphylococci (CNS) †



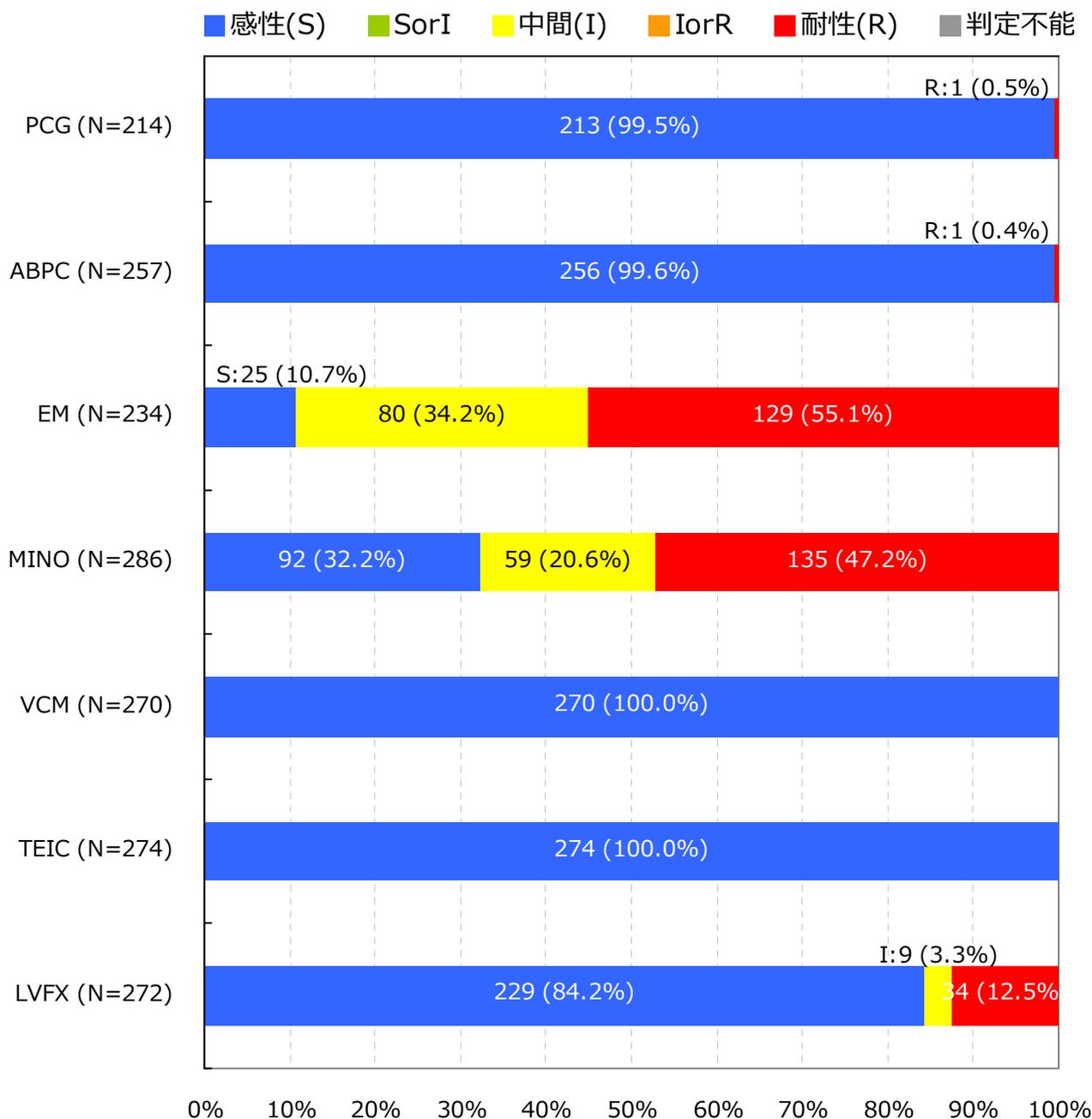
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1311, 1313~1325と報告された菌 (1312 : *Staphylococcus epidermidis*は対象外)

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Enterococcus faecalis †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

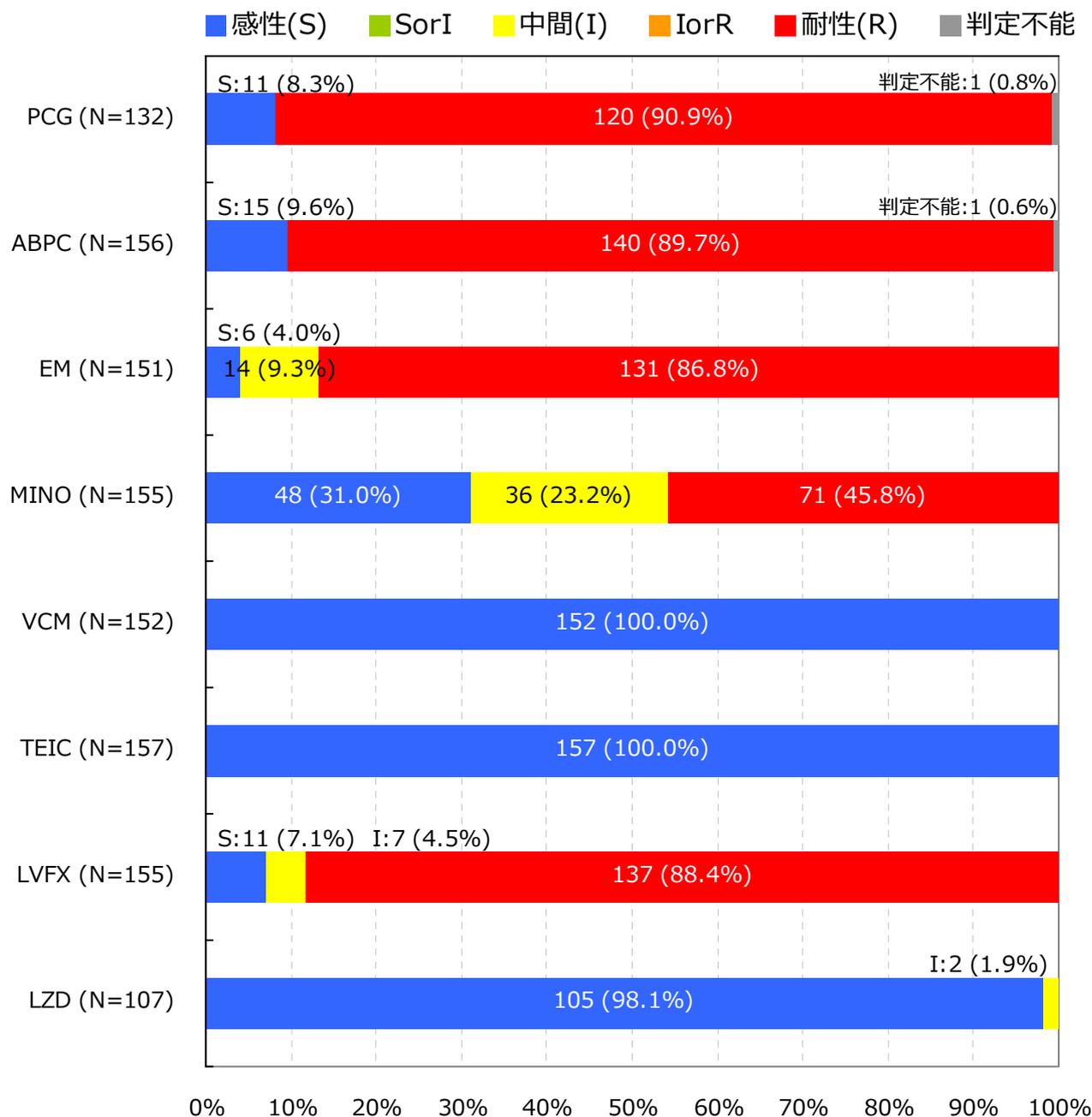
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1201, 1202と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Enterococcus faecium †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1205, 1206と報告された菌

(長崎県)

公開情報 2017年1月～3月 四半期報(全集計対象医療機関)

院内感染対策サーベイランス 検査部門

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Streptococcus pneumoniae(髄液検体) †

報告はありませんでした

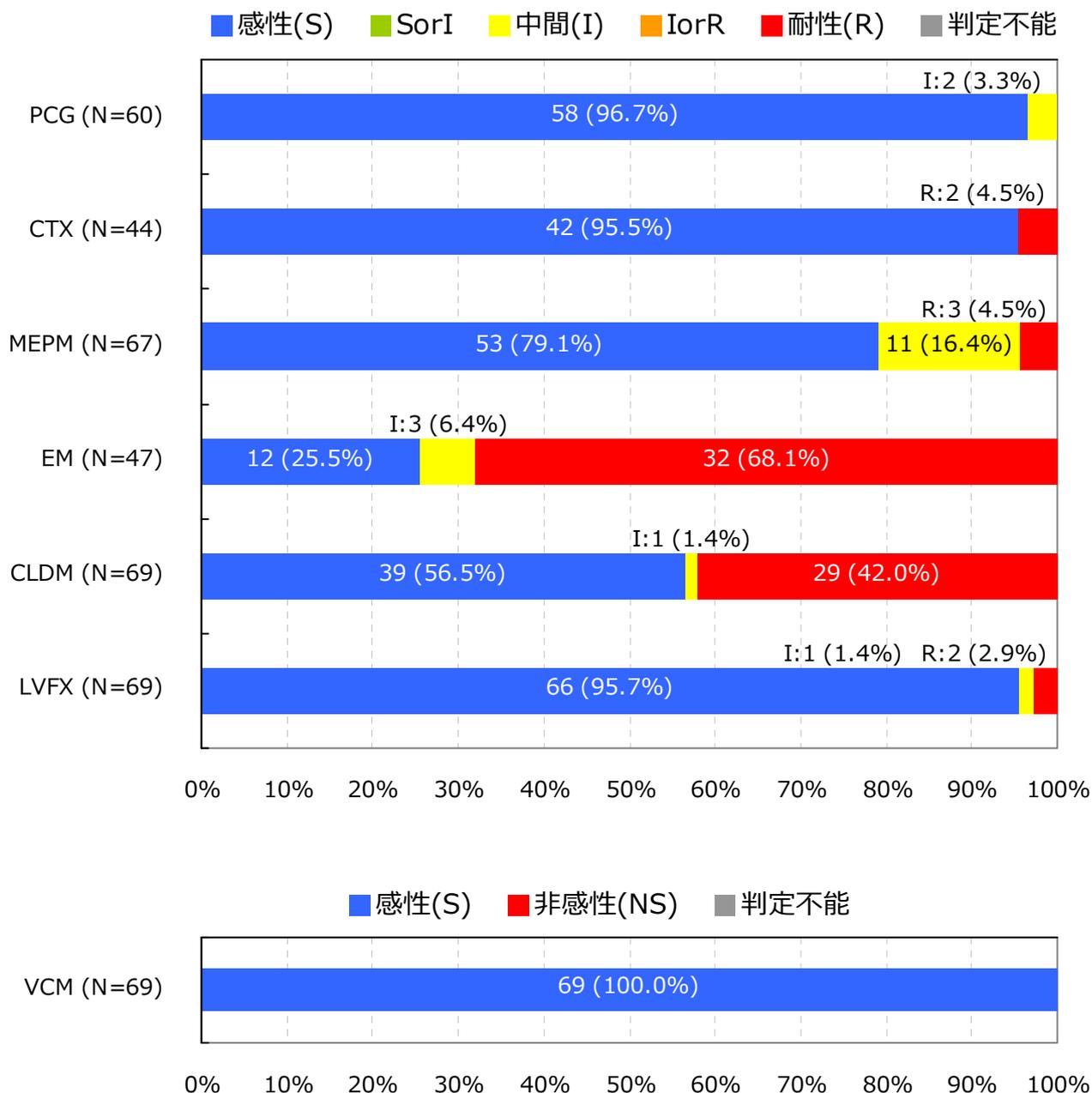
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1131と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Streptococcus pneumoniae(髄液検体以外) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

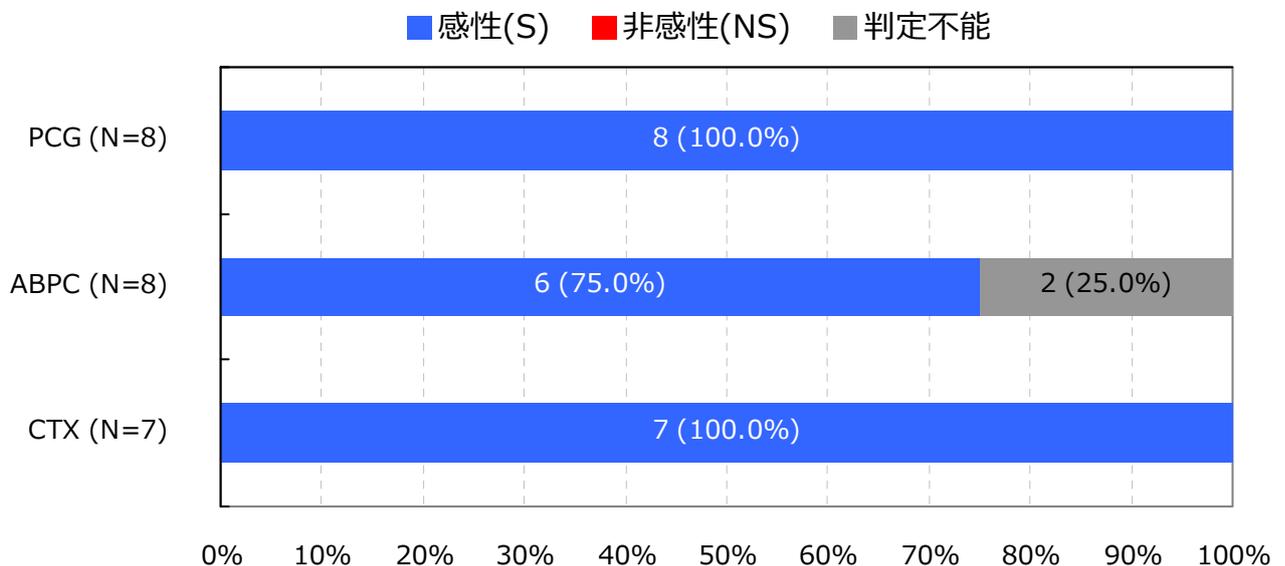
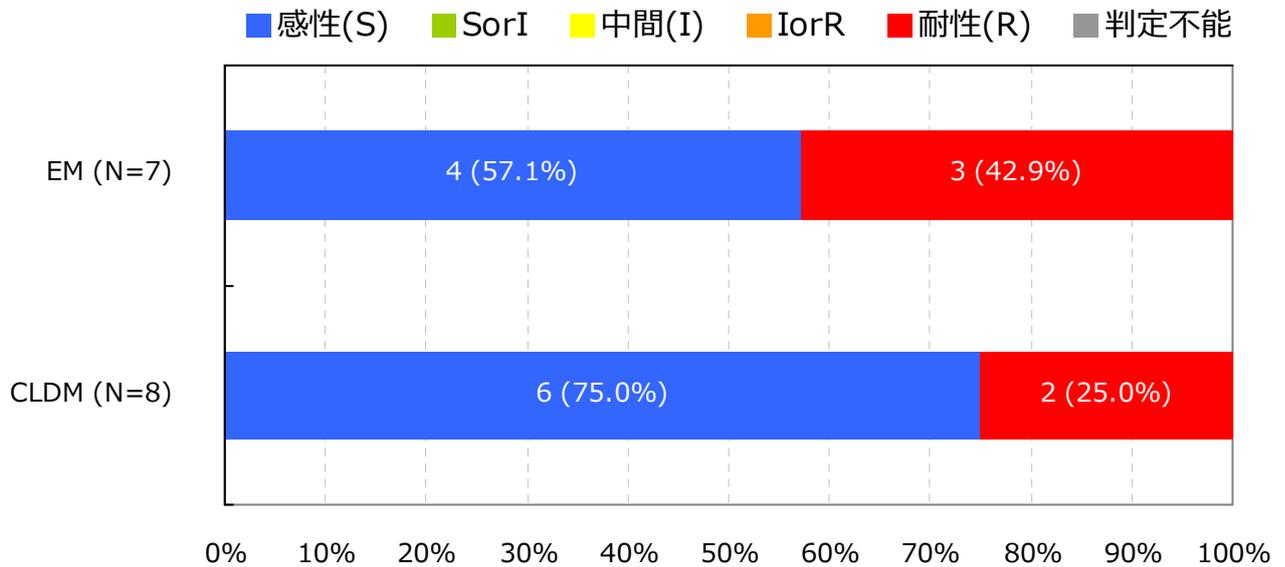
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1131と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Streptococcus pyogenes †



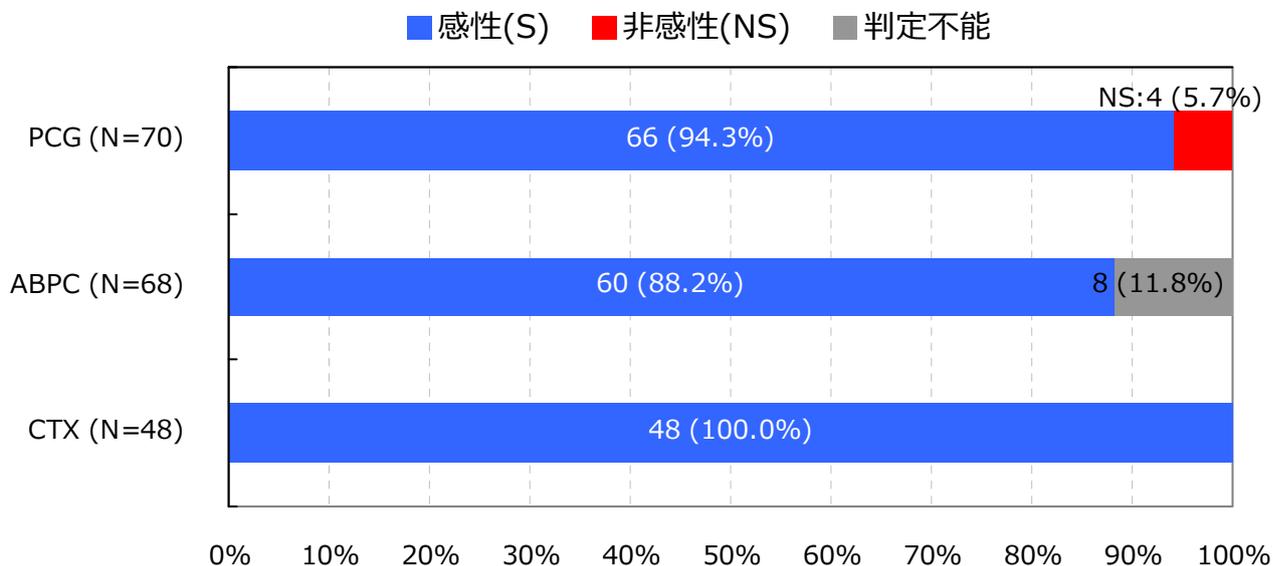
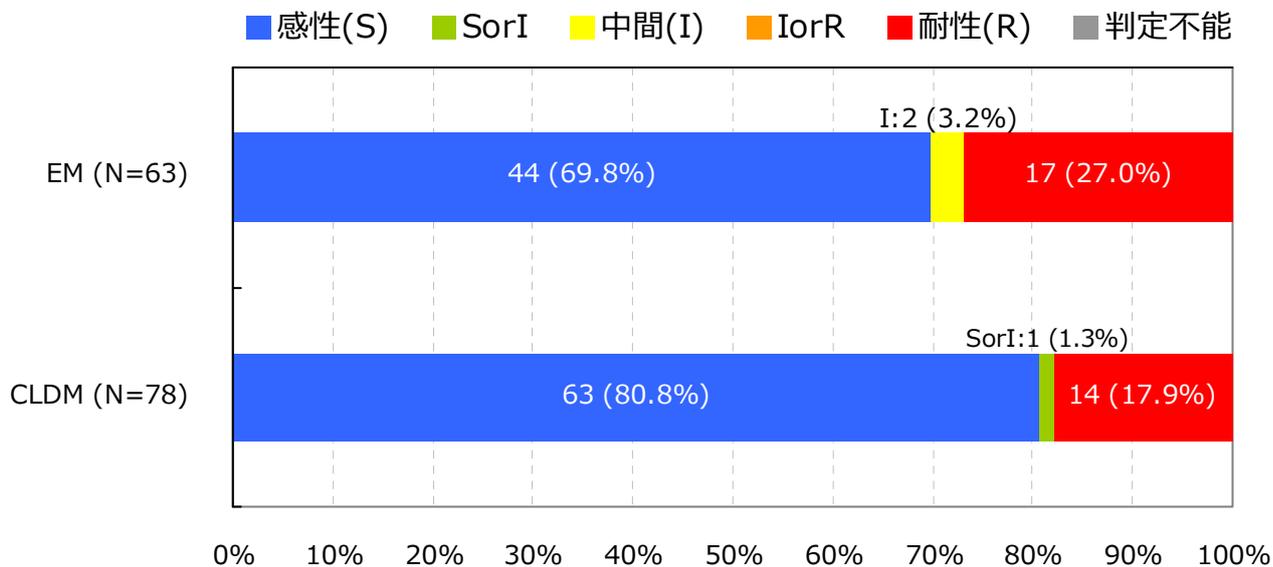
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1111と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Streptococcus agalactiae †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

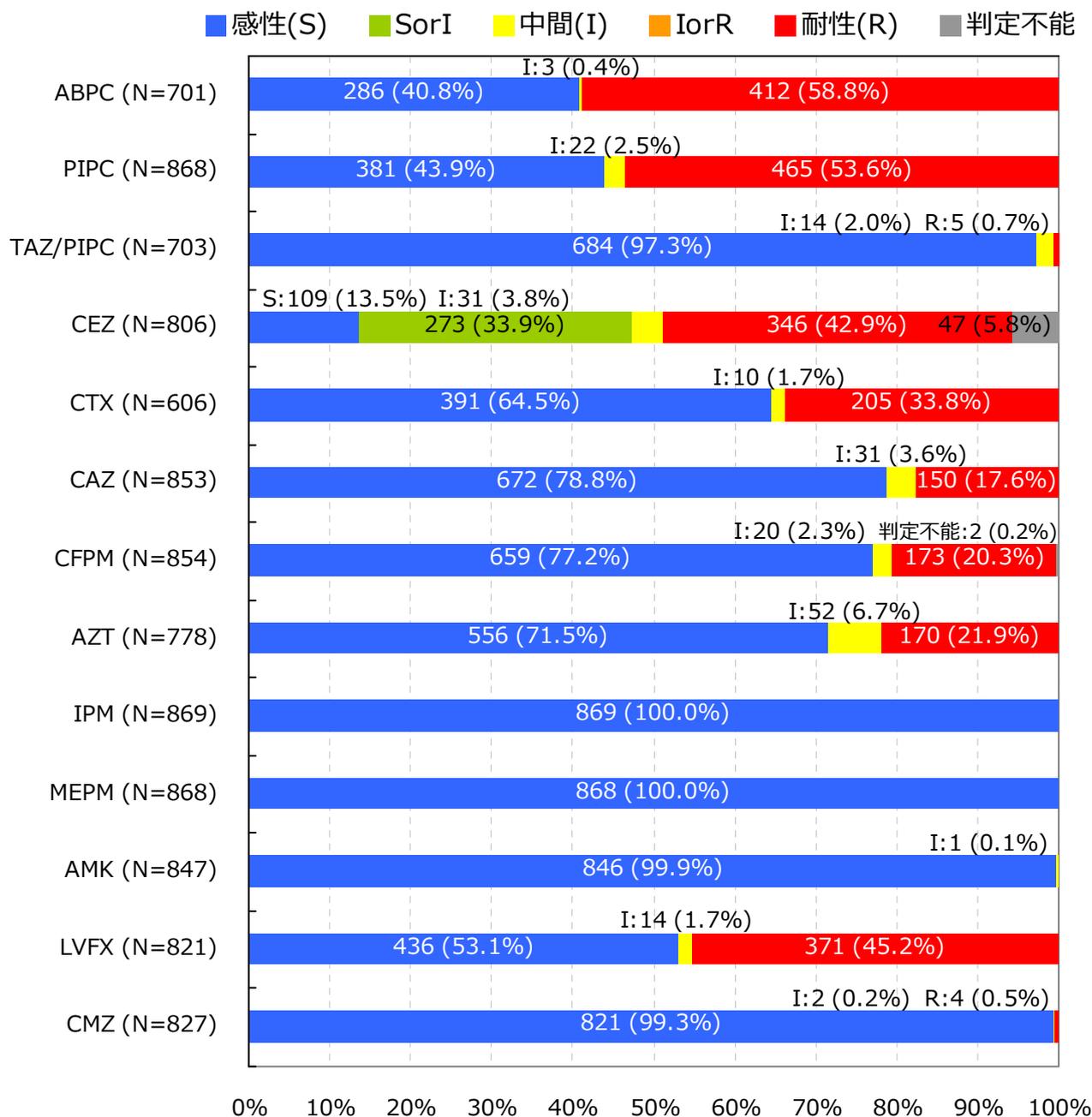
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1114と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Escherichia coli †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

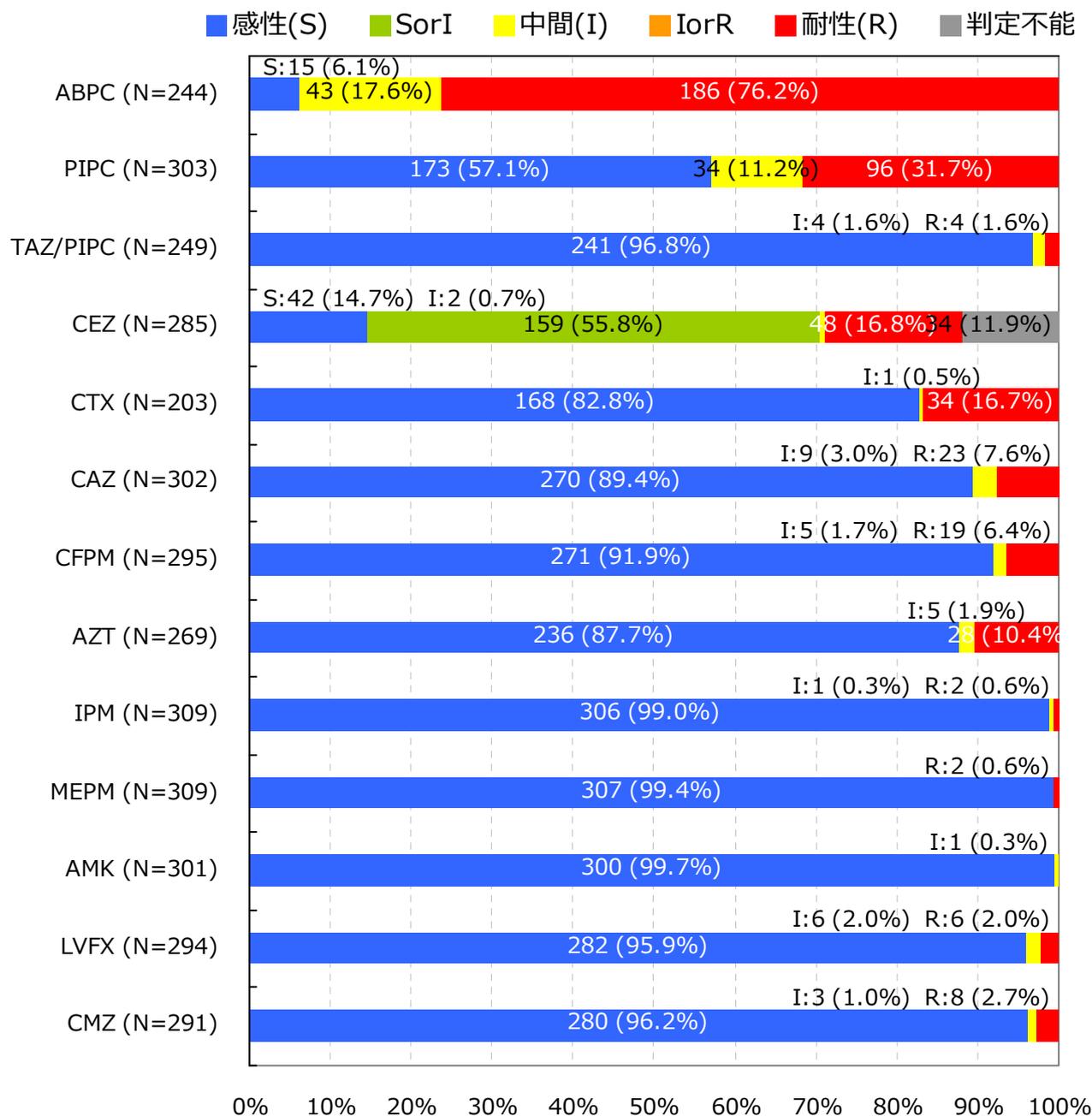
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2001～2007と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Klebsiella pneumoniae †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

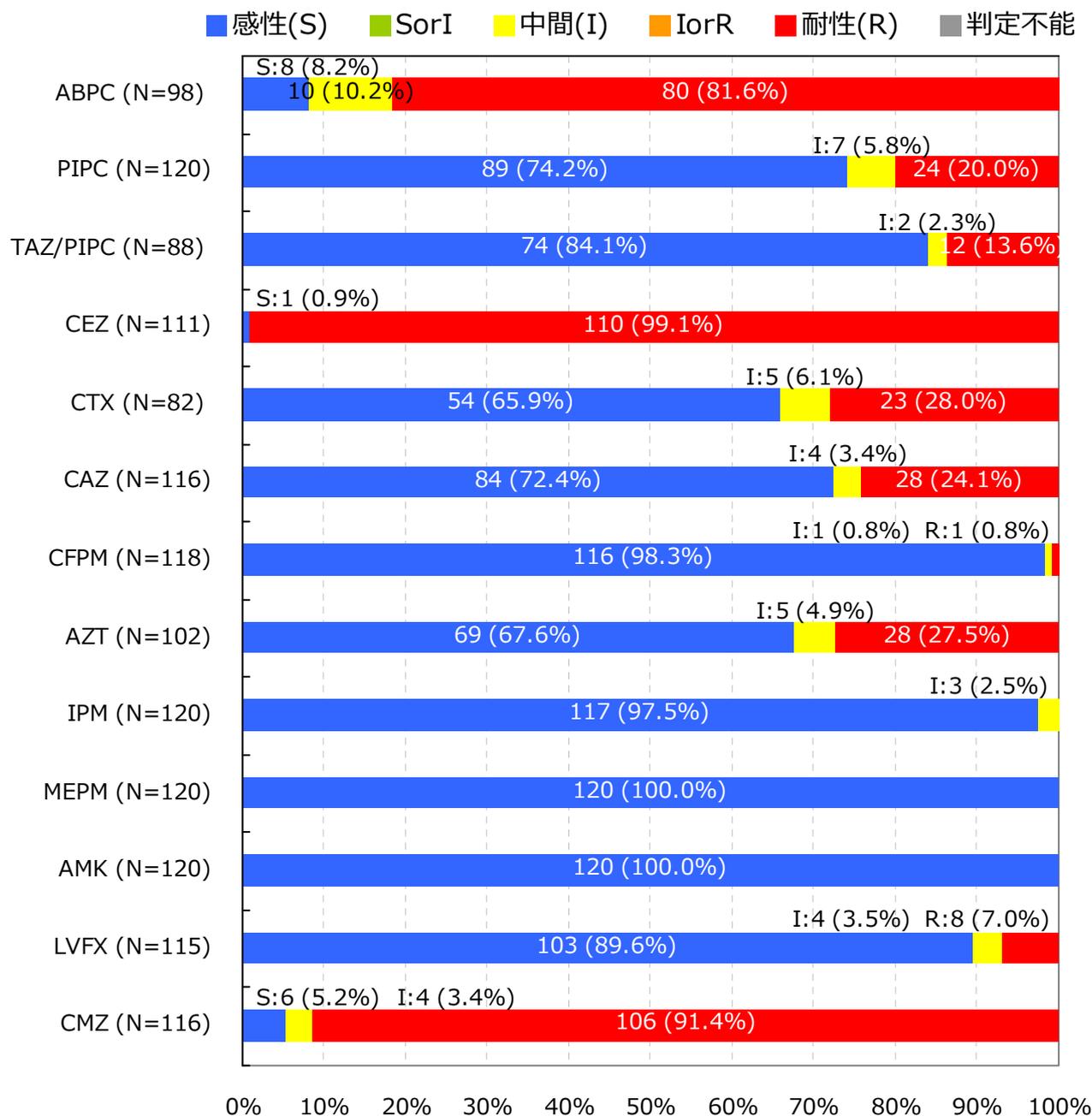
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2351と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Enterobacter cloacae †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

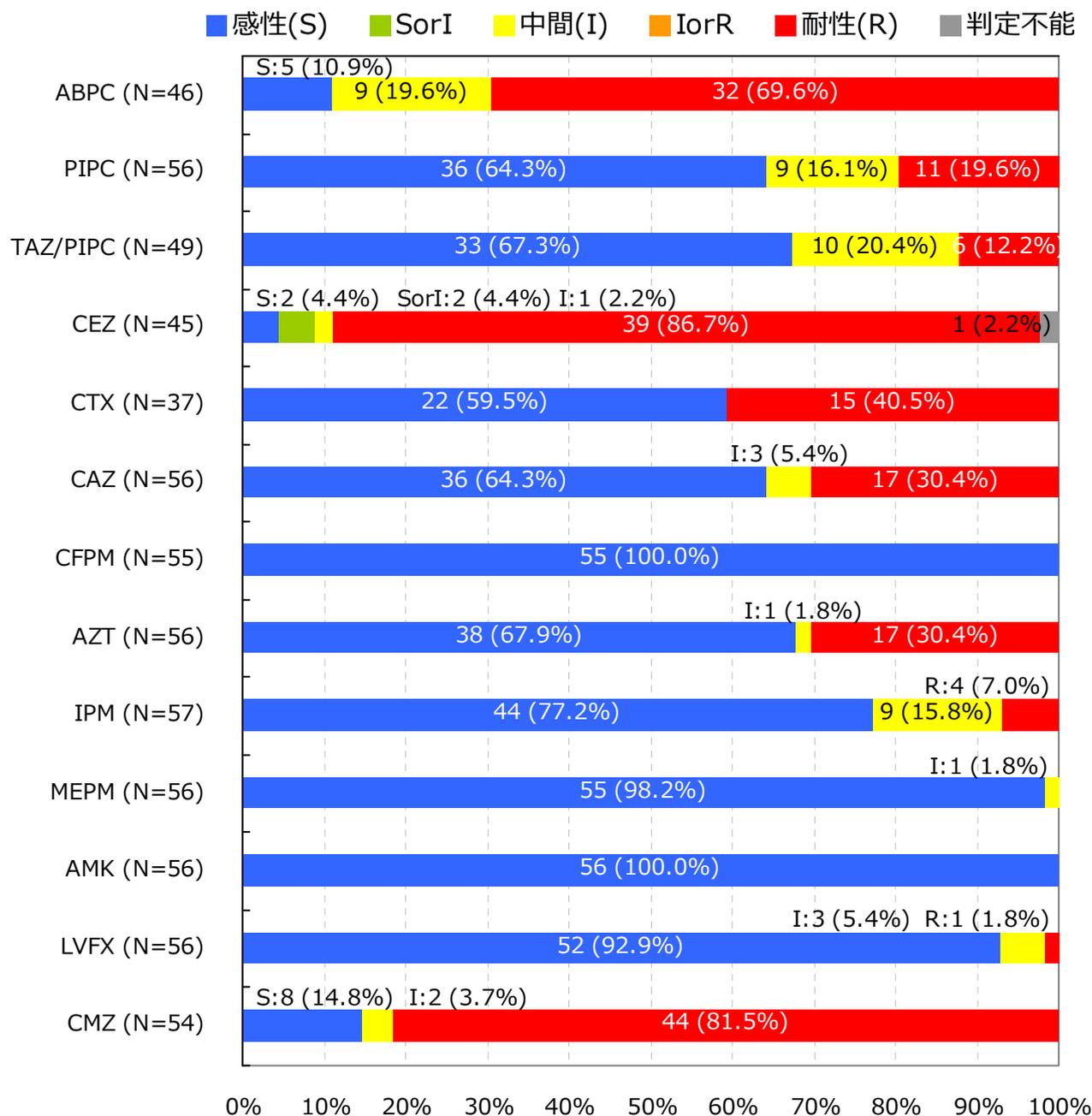
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 2151と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Enterobacter aerogenes †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

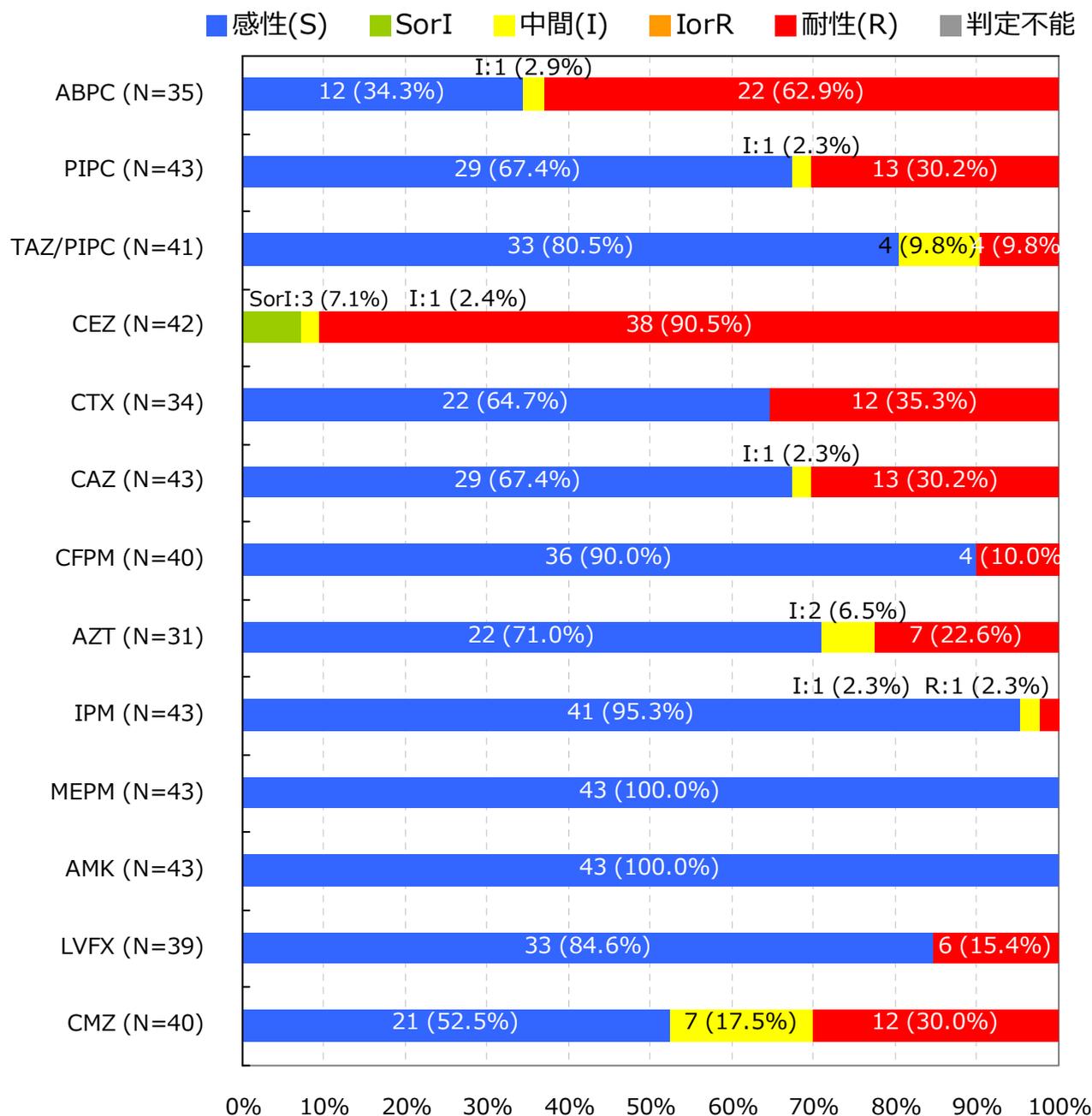
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2152と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Citrobacter freundii †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

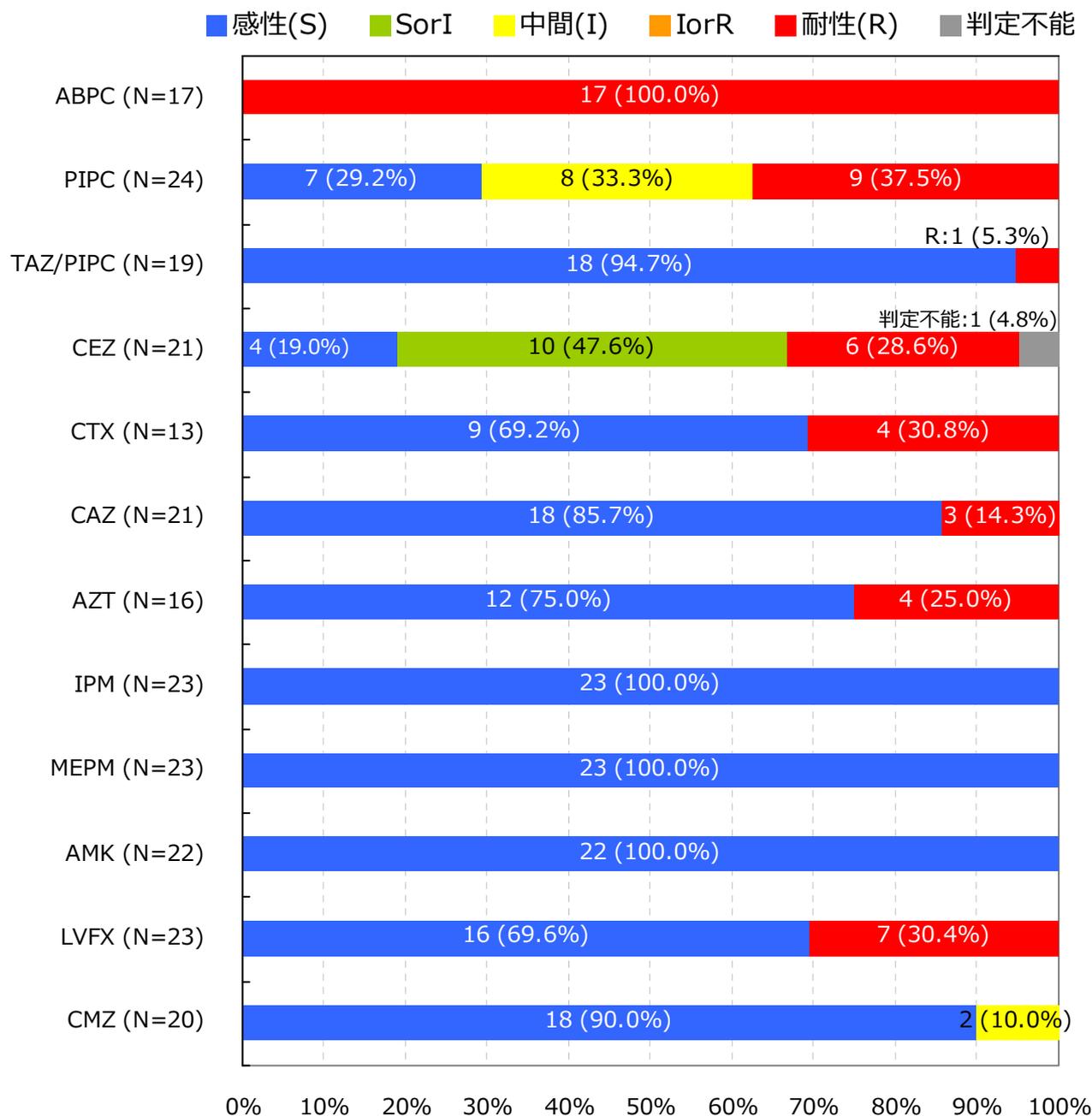
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2051と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Citrobacter koseri †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

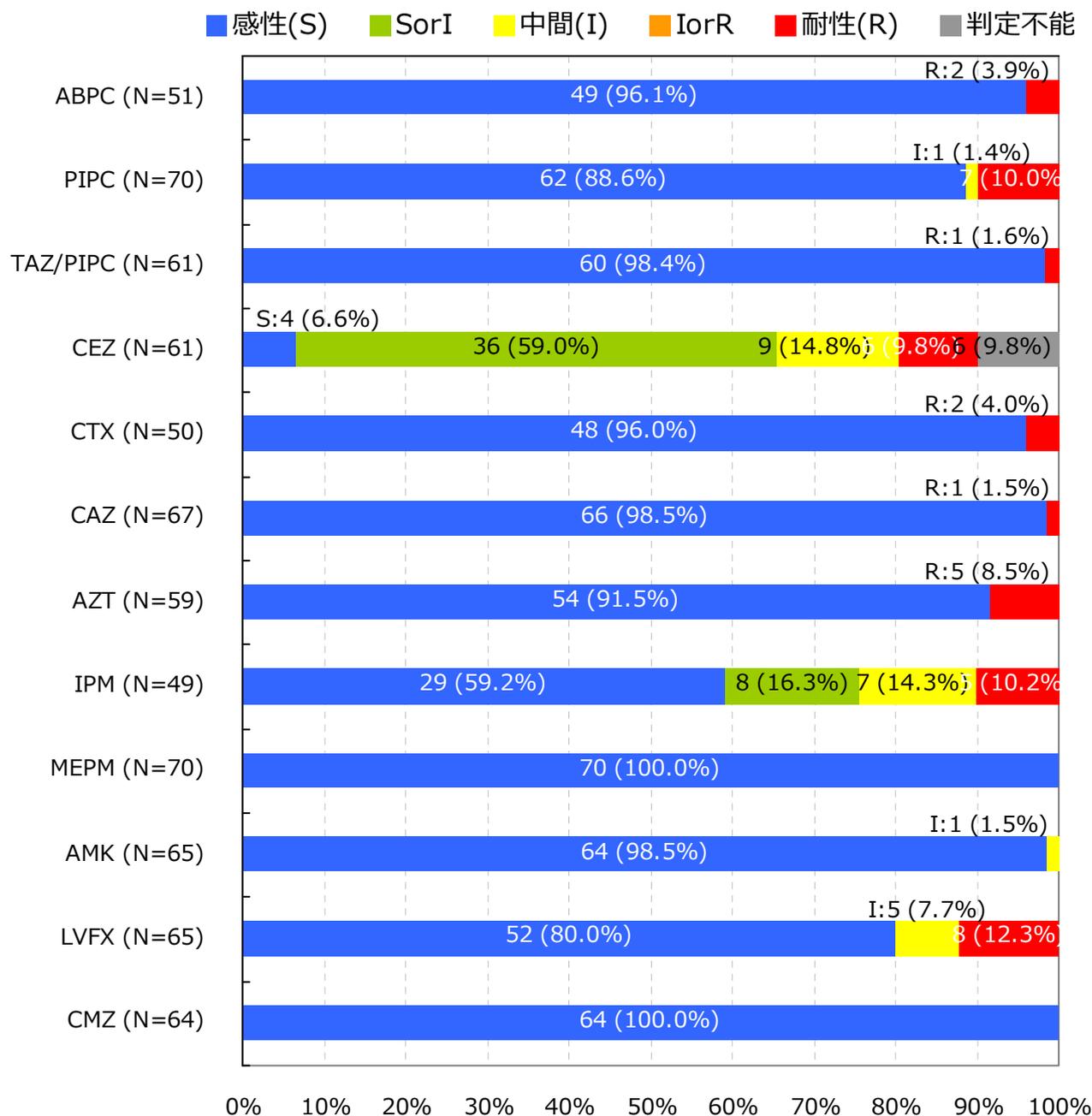
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2052と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Proteus mirabilis †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

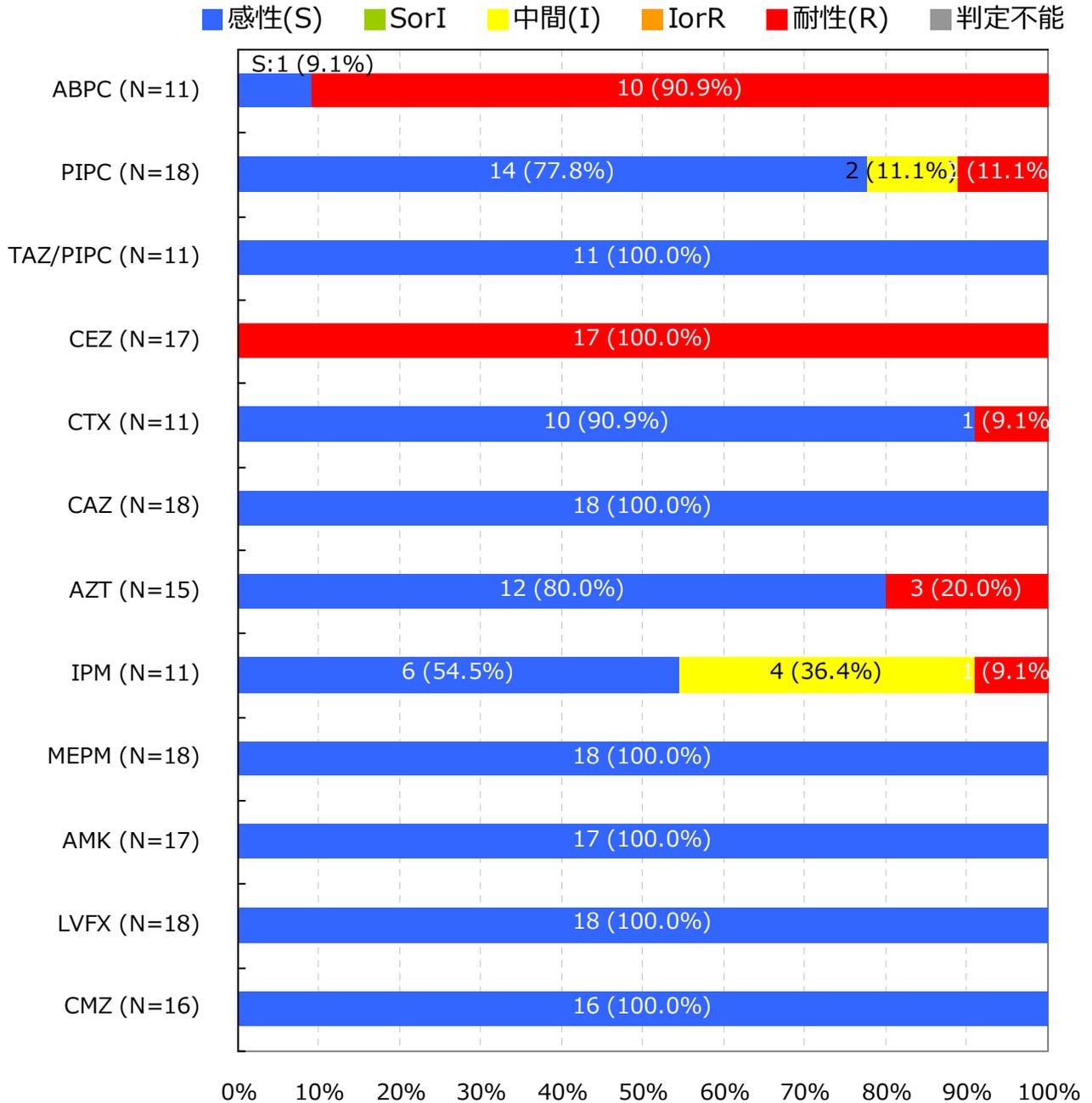
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2201と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Proteus vulgaris †



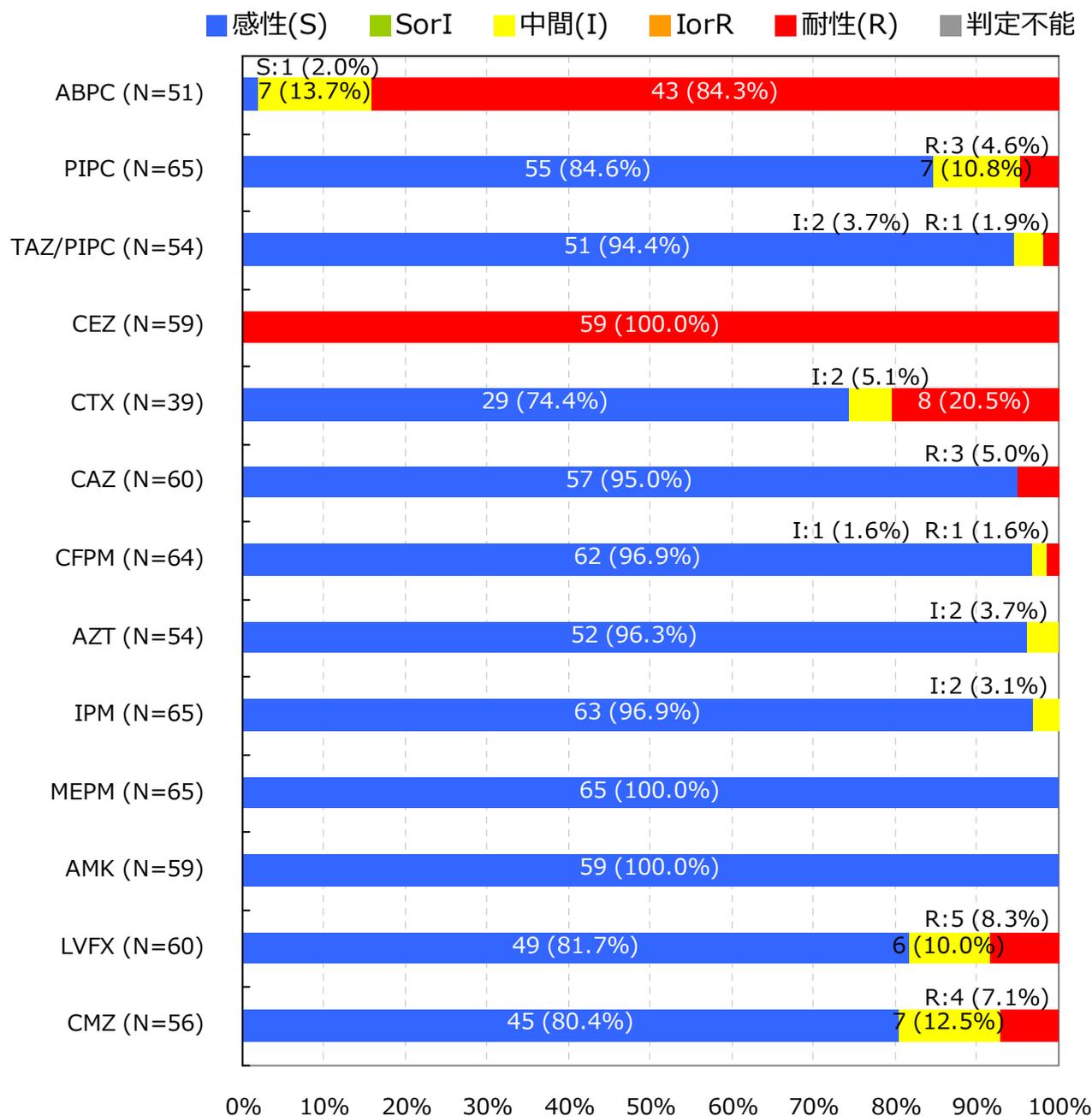
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2202と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Serratia marcescens †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

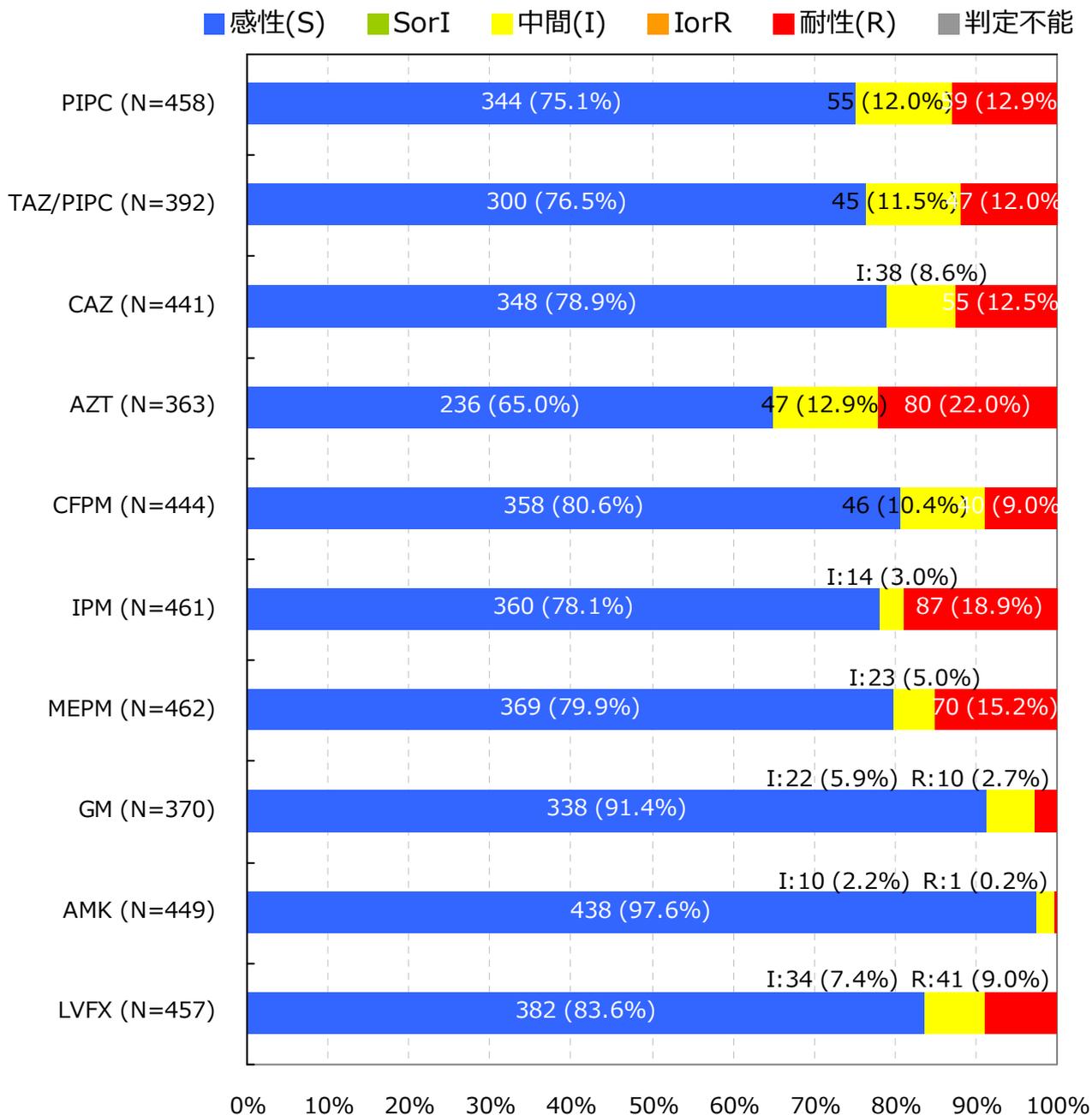
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2101と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Pseudomonas aeruginosa †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

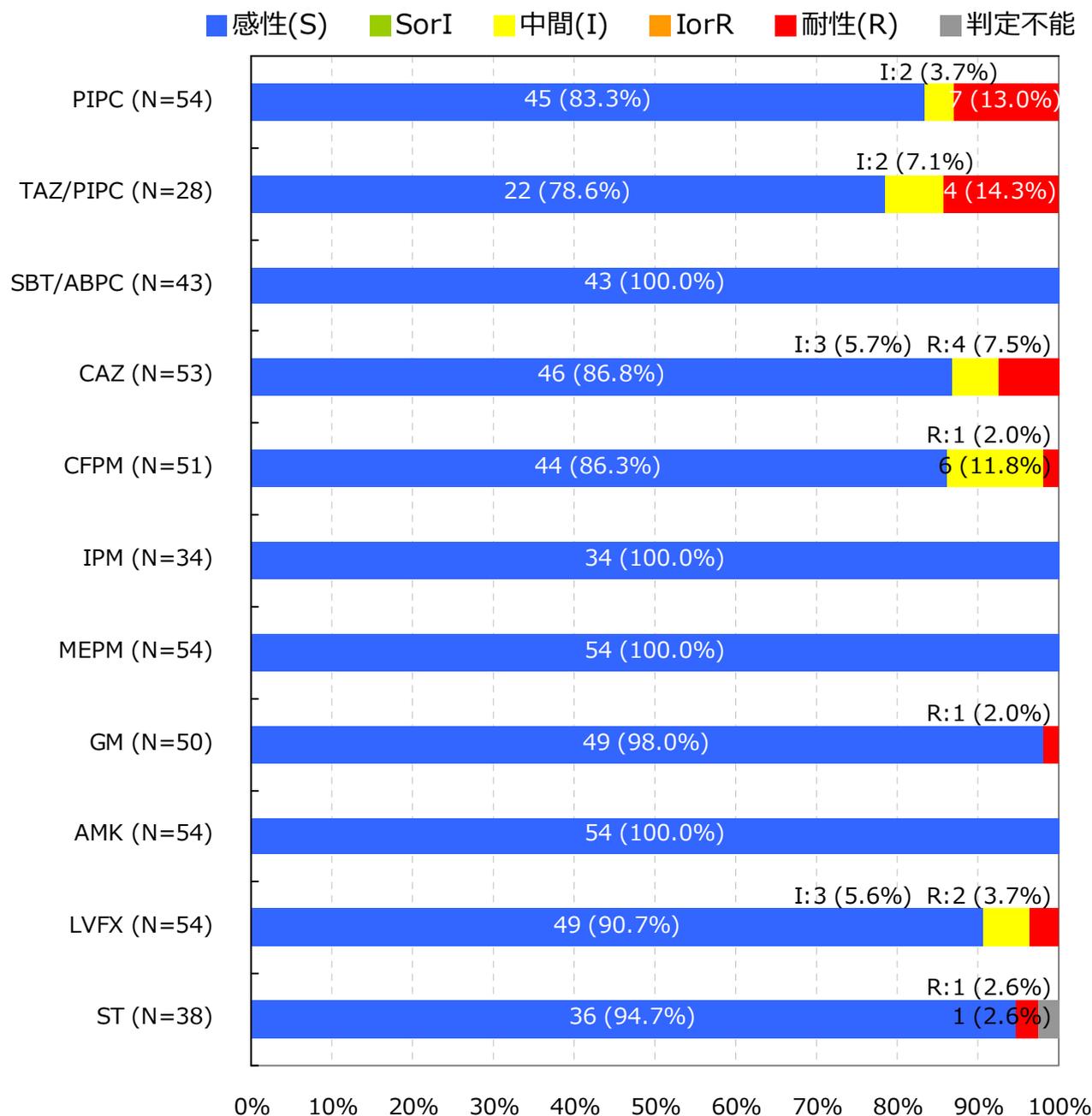
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：4001と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Acinetobacter spp. †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

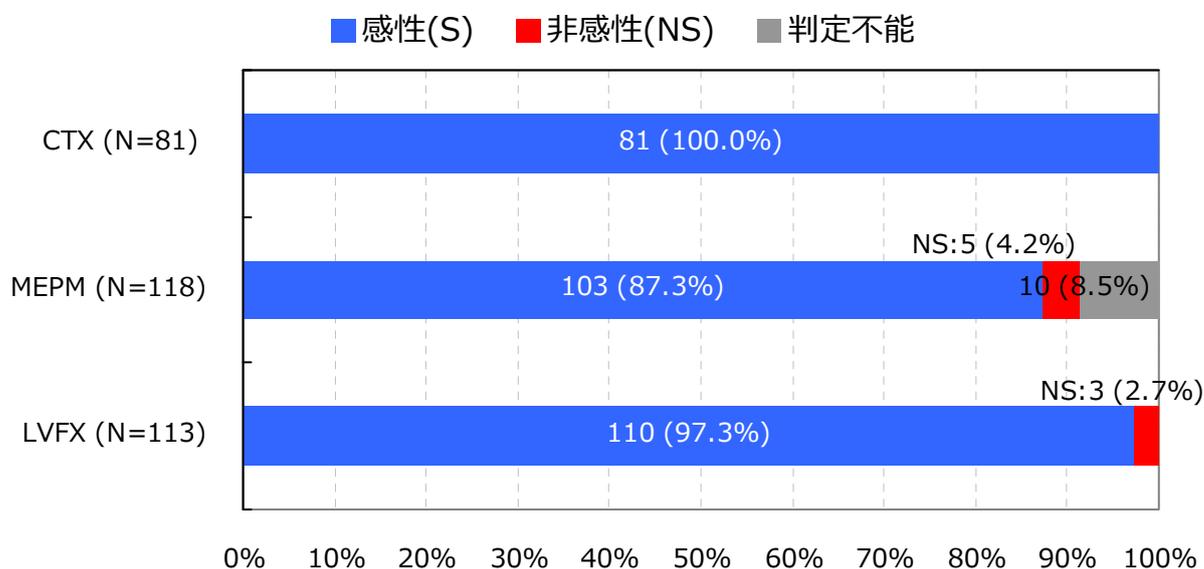
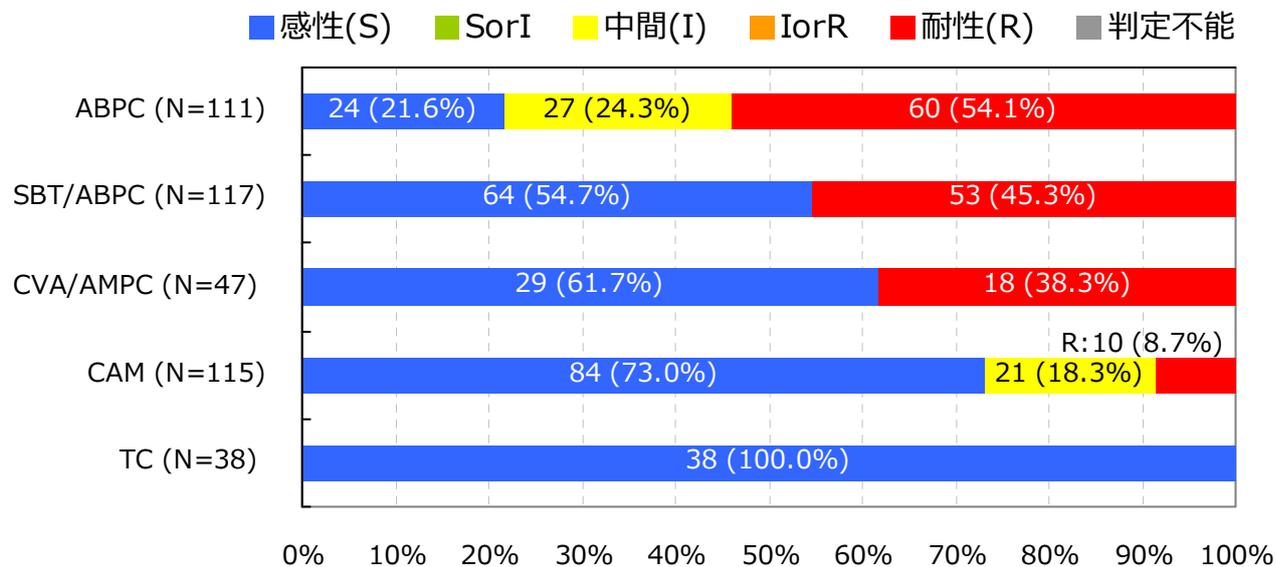
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 4400~4403と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Haemophilus influenzae †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 3201, 3202, 3203, 3205, 3208, 3211, 3214, 3217, 3220, 3223と報告された菌

【巻末資料 1 主要菌の菌名コード / 微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準】

主要菌の菌名コード（薬剤感受性条件なし）

| 菌名 | 菌名コード Ver.4.1 |
|-----------------------------------|----------------|
| <i>Staphylococcus aureus</i> | 1301,1303-1306 |
| <i>Staphylococcus epidermidis</i> | 1312 |
| <i>Streptococcus pneumoniae</i> | 1131 |
| <i>Enterococcus faecalis</i> | 1201,1202 |
| <i>Enterococcus faecium</i> | 1205,1206 |
| <i>Escherichia coli</i> | 2001-2007 |
| <i>Klebsiella pneumoniae</i> | 2351 |
| <i>Enterobacter</i> spp. | 2150-2156 |
| <i>Serratia marcescens</i> | 2101 |
| <i>Pseudomonas aeruginosa</i> | 4001 |
| <i>Acinetobacter</i> spp. | 4400-4403 |

「微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準」について

耐性菌の菌名※は以下の通り

MRSA : Methicillin-resistant *S. aureus* メチシリン耐性黄色ブドウ球菌

VRSA : Vancomycin-resistant *S. aureus* バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌

VRE : Vancomycin-resistant *Enterococcus* spp. バンコマイシン耐性腸球菌

PRSP : Penicillin-resistant *S. pneumoniae* ペニシリン耐性肺炎球菌

MDRP : Multidrug-resistant *P. aeruginosa* 多剤耐性緑膿菌

MDRA : Multidrug-resistant *Acinetobacter* spp. 多剤耐性アシネトバクター属

CRE : Carbapenem-Resistant Enterobacteriaceae カルバペネム耐性腸内細菌科細菌（2015年1月より集計開始）

* : 原則 S,I,R の判定は CLSI2012 (M100-S22) に準拠

† : 感染症発生動向調査の基準に準拠

2014年12月分データまでは CLSI2007 (M100-S17)、2015年1月分データより CLSI2012 (M100-S22) に準拠する。
薬剤耐性菌判定基準 (Ver.3.1) と 検査部門特定の耐性菌判定基準 (Ver.4.1) を基に作成した。

微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準

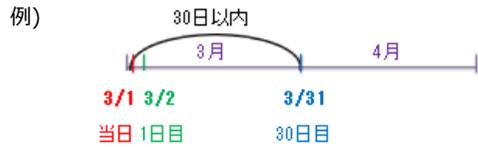
| 菌名※ | 概要* | 微量液体希釈法 (MIC 値) | 菌名コード Ver.4.1 |
|------|---|---|---|
| MRSA | MPIPC が "R" の <i>S. aureus</i> または選択培地で MRSA と確認された菌 | MPIPC $\geq 4\mu\text{g/mL}$ | 1301,1303 |
| VRSA | VCM が微量液体希釈法で "R" の <i>S. aureus</i> | VCM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ | 1301,1303-1306 |
| VRE | 下記のいずれかの条件を満たす <i>Enterococcus</i> spp. ・ VCM が微量液体希釈法で耐性† ・ 選択培地で VRE と確認された菌 注) 種の同定が行われていない <i>Enterococcus</i> sp. は除く | VCM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ † | 1201,1202,1205, 1206,1209,1210, 1213-1217 |
| PRSP | PCG が微量液体希釈法で耐性† の <i>S. pneumoniae</i> | PCG $\geq 0.125\mu\text{g/mL}$ † | 1131 |
| MDRP | 下記全てに該当する <i>P. aeruginosa</i> 1. カルバペネム系 (IPM, MEPM の何れか) が 微量液体希釈法で耐性† 2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈 法で耐性† 3. フルオロキノロン系 (NFLX, OFLX, LVFX、 CPFX, LFLX, GFLX の何れか) が "R" | 1. IPM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ †、 MEPM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ † 2. AMK $\geq 32\mu\text{g/mL}$ † 3. NFLX $\geq 16\mu\text{g/mL}$ 、 OFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ 、 LVFX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ 、 LFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ 、 GFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ 、 CPFX $\geq 4\mu\text{g/mL}$ | 4001 |

| 菌名※ | 概要* | 微量液体希釈法 (MIC 値) | 菌名コード Ver.4.1 |
|----------------------------|--|---|-------------------------|
| MDRA | 下記全てに該当する <i>Acinetobacter</i> spp. 1. カルバペネム系 (IPM, MEPM の何れか) が "R" 2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈 法で耐性† 3. フルオロキノロン系 (LVFX, CPFX, GFLX の 何れか) が "R" | 1. IPM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ †、 MEPM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ † 2. AMK $\geq 32\mu\text{g/mL}$ † 3. LVFX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ 、 CPFX $\geq 4\mu\text{g/mL}$ 、 GFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ | 4400-4403 |
| CRE | 下記の何れかの条件を満たす腸内細菌科 1. MEPM が耐性† 2. IPM が耐性†、かつ CMZ が "R" | 1. MEPM $\geq 2\mu\text{g/mL}$ † 2. IPM $\geq 2\mu\text{g/mL}$ † かつ CMZ $\geq 64\mu\text{g/mL}$ | 2000-2691, 3150-3151 |
| カルバペネム 耐性緑膿菌 | IPM または MEPM が耐性† の <i>P. aeruginosa</i> | IPM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ † MEPM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ † | 4001 |
| 第三世代セファロ スポリン耐性 肺炎桿菌 | CTX または CAZ が "R" の <i>K. pneumoniae</i> | CTX $\geq 4\mu\text{g/mL}$ CAZ $\geq 16\mu\text{g/mL}$ | 2351 |
| 第三世代セファロ スポリン耐性 大腸菌 | CTX または CAZ が "R" の <i>E. coli</i> | CTX $\geq 4\mu\text{g/mL}$ CAZ $\geq 16\mu\text{g/mL}$ | 2001-2007 |
| フルオロキノロン 耐性大腸菌 | フルオロキノロン系 (NFLX, OFLX, LVFX, LFLX、 GFLX, CPFX の何れか) が "R" の <i>E. coli</i> | NFLX $\geq 16\mu\text{g/mL}$ 、 OFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ 、 LVFX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ 、 LFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ 、 GFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ 、 CPFX $\geq 4\mu\text{g/mL}$ | 2001-2007 |

【巻末資料 2 公開情報の集計方法について】

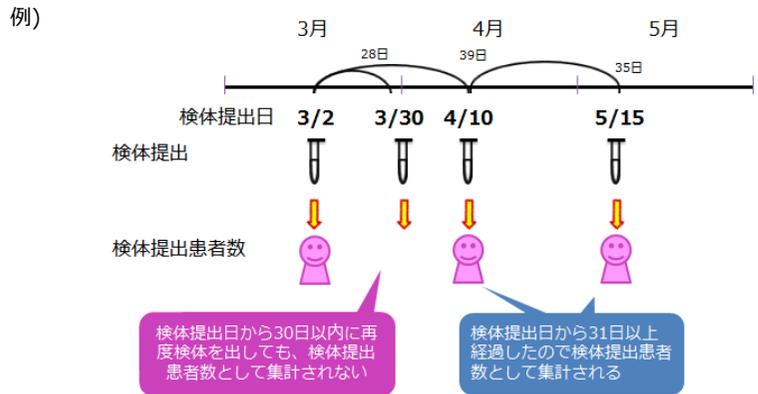
1. 日数の数え方

検体提出日の翌日を 1 日目とする。検体提出日が 3 月 1 日とすると、1 日目が 3 月 2 日、30 日目が 3 月 31 日となる。



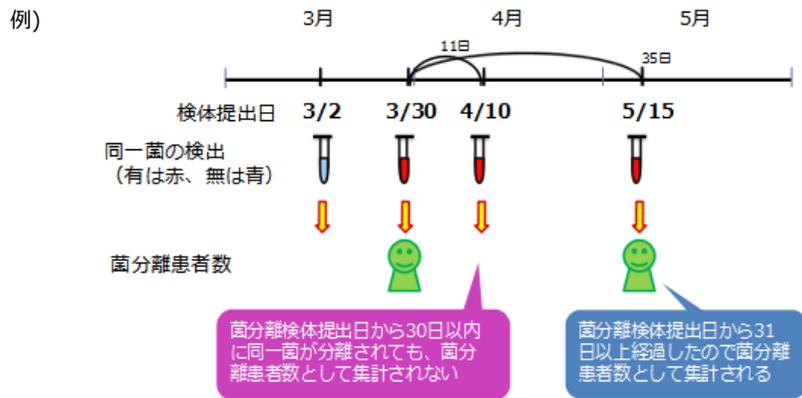
2. 検体提出患者数

検体提出患者数は、検体の種類や菌分離の有無に関わらず検体(入院検体)が提出された患者の数である。検体提出患者数は重複処理を行っており、30 日以内の同一患者からの複数の検体提出は 1 件とする。



3. 菌分離患者数

菌分離患者数も検体提出患者と同様の重複処理を行い、30 日以内に同一患者から同一菌が複数回検出された場合、菌分離患者数は 1 件とする。耐性菌分離患者数は、耐性菌の基準に合致する菌をまず抽出し、その中で上記重複処理を行っている。



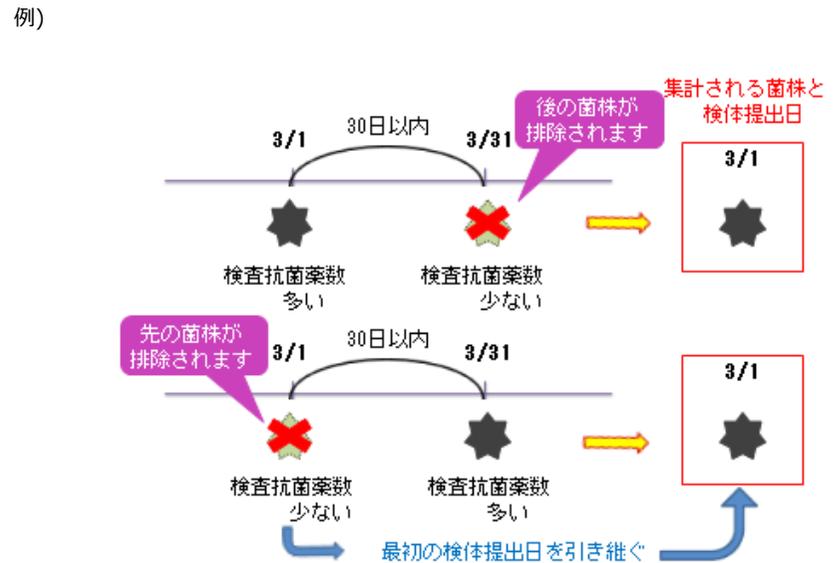
4. 抗菌薬感受性検査結果をもとにした同一菌と異なる菌との区別

30 日以内に同一患者から同一菌が検出された場合であっても、検査抗菌薬感受性結果に 1 つ以上不一致(下記①～④のいずれかに該当)がある場合は異なる菌株として集計される。

- ① MIC 値に 4 倍以上の違いがある
ただし、MIC > 2 は MIC ≥ 4 と考え、判定時は MIC = 4 として扱う
また、MIC < 16 は MIC ≤ 16 と考え、判定時は MIC = 16 として扱う
- ② SIR 判定では「S と R」の組み合わせ
- ③ +/- 判定では「-と++」または「+と+++」または「-と+++」の組み合わせ
- ④ 共通する検査抗菌薬数が 5 未満

5. 抗菌薬感受性結果の重複処理

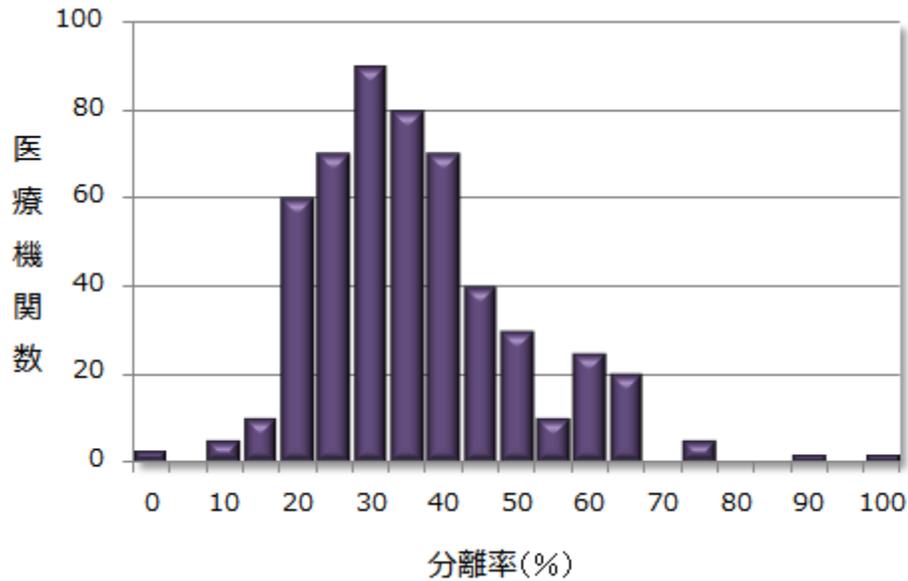
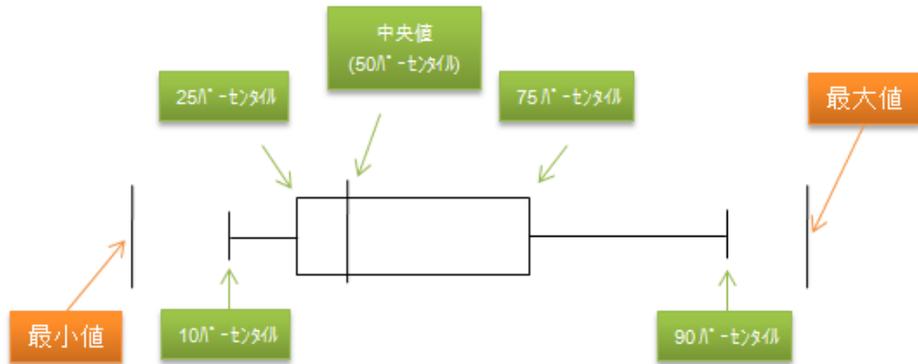
検体提出日が先の菌株の検査抗菌薬数が(30 日以内の)後の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、後の菌株の抗菌薬感受性検査結果は排除する。また、検体提出日が後の菌株の検査抗菌薬数が(30 日以内の)先の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、先の菌株の抗菌薬感受性検査結果を排除するが、先の検査の検体提出日を引き継ぐ。



【巻末資料3 箱ひげ図について】

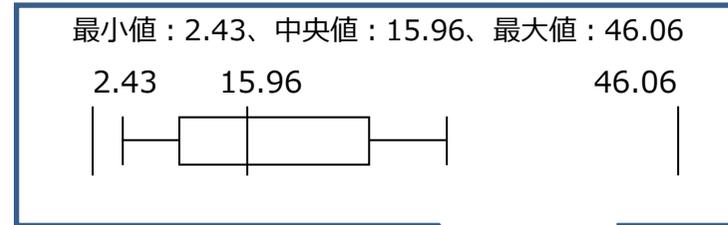
1. 箱ひげ図について

集計対象医療機関のデータのばらつきを示し、集計対象医療機関における自施設の位置を確認することができる。

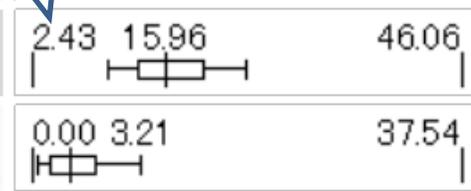


※ パーセンタイル：値を小さいものから大きいものへと順番に並べ、全体を 100 として何番目であるかを表したものの。
 例えば、10パーセンタイルは、全体を 100 として小さいほうから数えて 10 番目の計測値を示している。

2. 公開情報の箱ひげ図

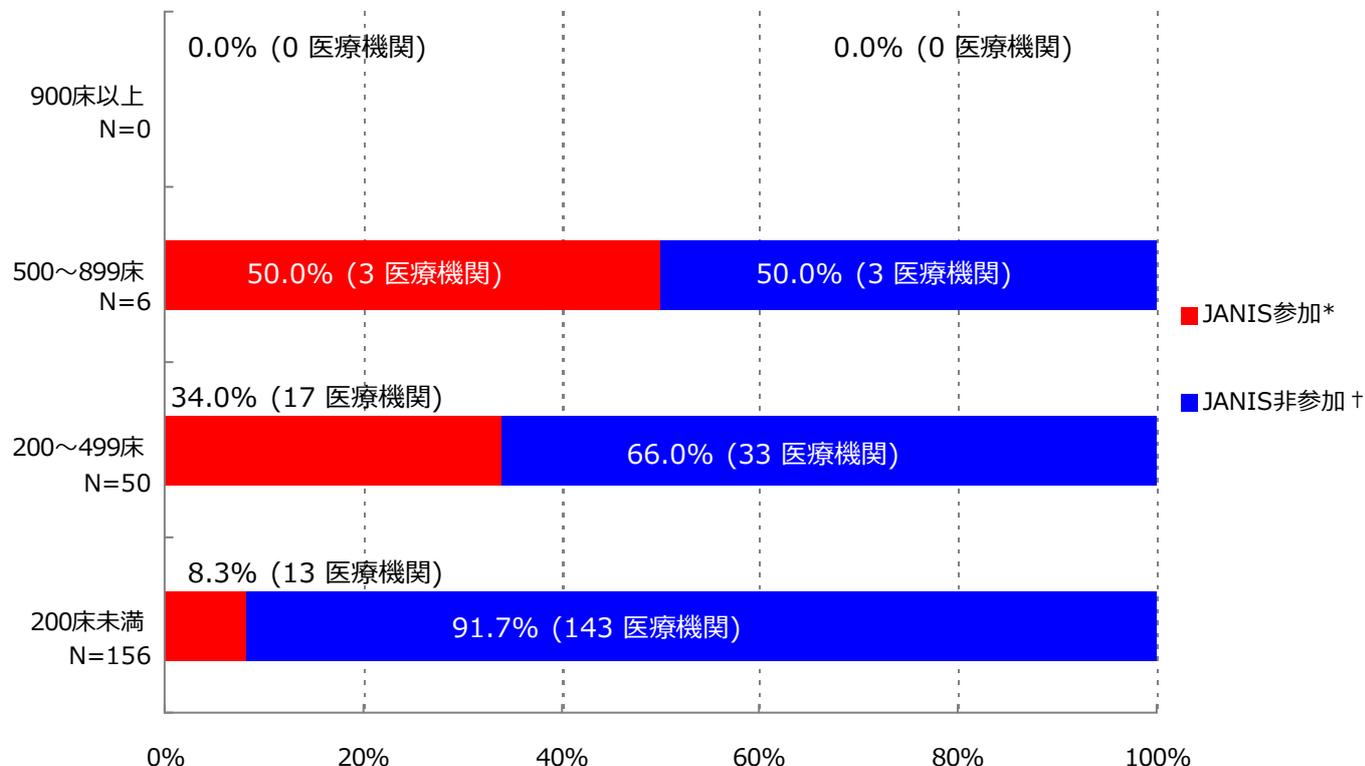


| 集計対象医療機関の分離率 (%)の分布 | |
|----------------------|----------------------|
| 2010年 * | 2011 |
| 1,069,216人 | 1,309,993人 |
| 175,145人 (16.38%) | 210,382人 (16.06%) |
| 47,523人 (4.44%) | 64,588人 (4.93%) |





1. 集計対象医療機関数(33医療機関)



*JANIS参加 = 2017年1～3月 集計対象医療機関数

† JANIS非参加 = (2016年 都道府県別医療機関数 †) - (2017年1～3月 集計対象医療機関数)

| 病床数 | 2016年 都道府県別医療機関数 † | 2017年1月～3月 集計対象医療機関数 (都道府県別医療機関数に占める割合) | |
|----------|--------------------|--|-----------|
| 900床以上 | 0 | 0 | (0.0%) |
| 500～899床 | 6 | 3 | (50.0%) |
| 200～499床 | 50 | 17 | (34.0%) |
| 200床未満 | 156 | 13 | (8.3%) |
| 病床数不明 | - | 0 | (-) |
| 合計 | 212 | 33 | (15.6%) |

† 平成28年医療施設（動態）調査を参照した

(熊本県)

公開情報 2017年1月～3月 四半期報(全集計対象医療機関)

院内感染対策サーベイランス 検査部門



2. 検査材料別集計対象医療機関数、検体数、分離菌数

| 検査材料分類 | 集計対象医療機関数 | 検体数 | 陽性検体数 (分離菌数) |
|--------|-----------|--------|--------------------|
| 呼吸器系検体 | 33 | 8,638 | 5,458 (13,777) |
| 尿検体 | 33 | 4,307 | 2,549 (3,976) |
| 便検体 | 31 | 3,062 | 1,127 (2,329) |
| 血液検体 | 32 | 8,823 | 976 (1,056) |
| 髄液検体 | 17 | 248 | 27 (29) |
| その他 | 33 | 4,303 | 2,010 (3,622) |
| 合計 | 33 | 29,381 | 12,147 (24,789) |

入院として報告された検体を集計

集計対象菌：コメントのみ(菌名コード9999)の報告以外の全ての菌

検査材料分類は以下に該当する検査材料コードを集計

呼吸器系検体：

101(喀出痰)、102(気管内採痰)、103(気管支洗浄液)、104(咽頭粘液)、105(鼻腔内)、106(口腔内)、
107(生検材料(肺))、109(その他(呼吸器))、404(胸水)

尿検体：

201(自然排尿)、202(採尿カテーテル)、203(留置カテーテル)、206(カテーテル尿(採尿、留置カテの区別不能))

便検体：

301(糞便)

血液検体：

401(静脈血)、402(動脈血)

髄液検体：

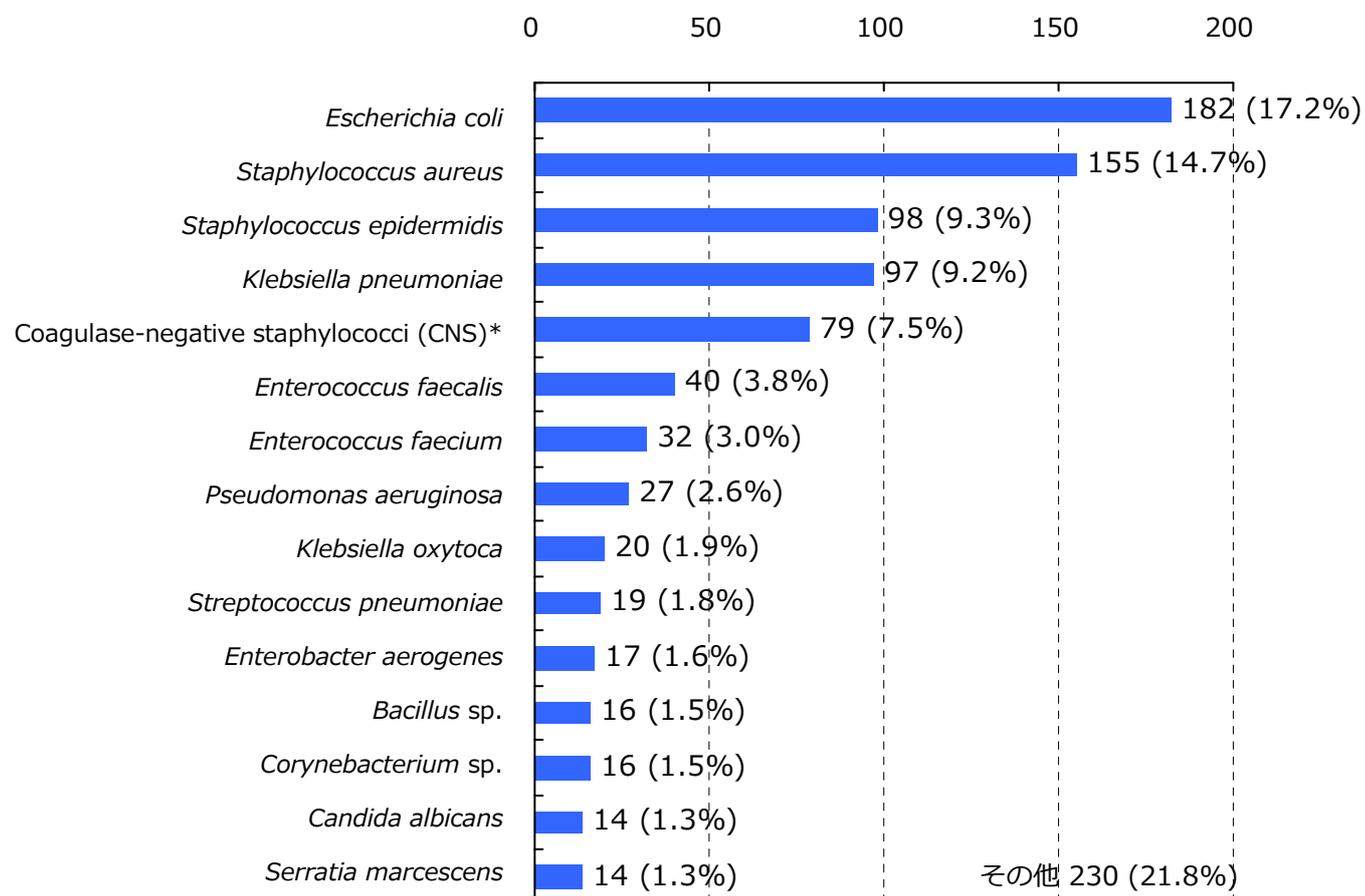
403(髄液)

その他：上記以外の検査材料コード

検査材料コード：JANISホームページ>各部門について>検査部門 <https://janis.mhlw.go.jp/section/kensa.html>

3. 検査材料別分離菌数割合

血液検体分離菌 (N=1,056)



*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌（1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外）

入院として報告された検体を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：静脈血(検査材料コード401)と動脈血(同402)

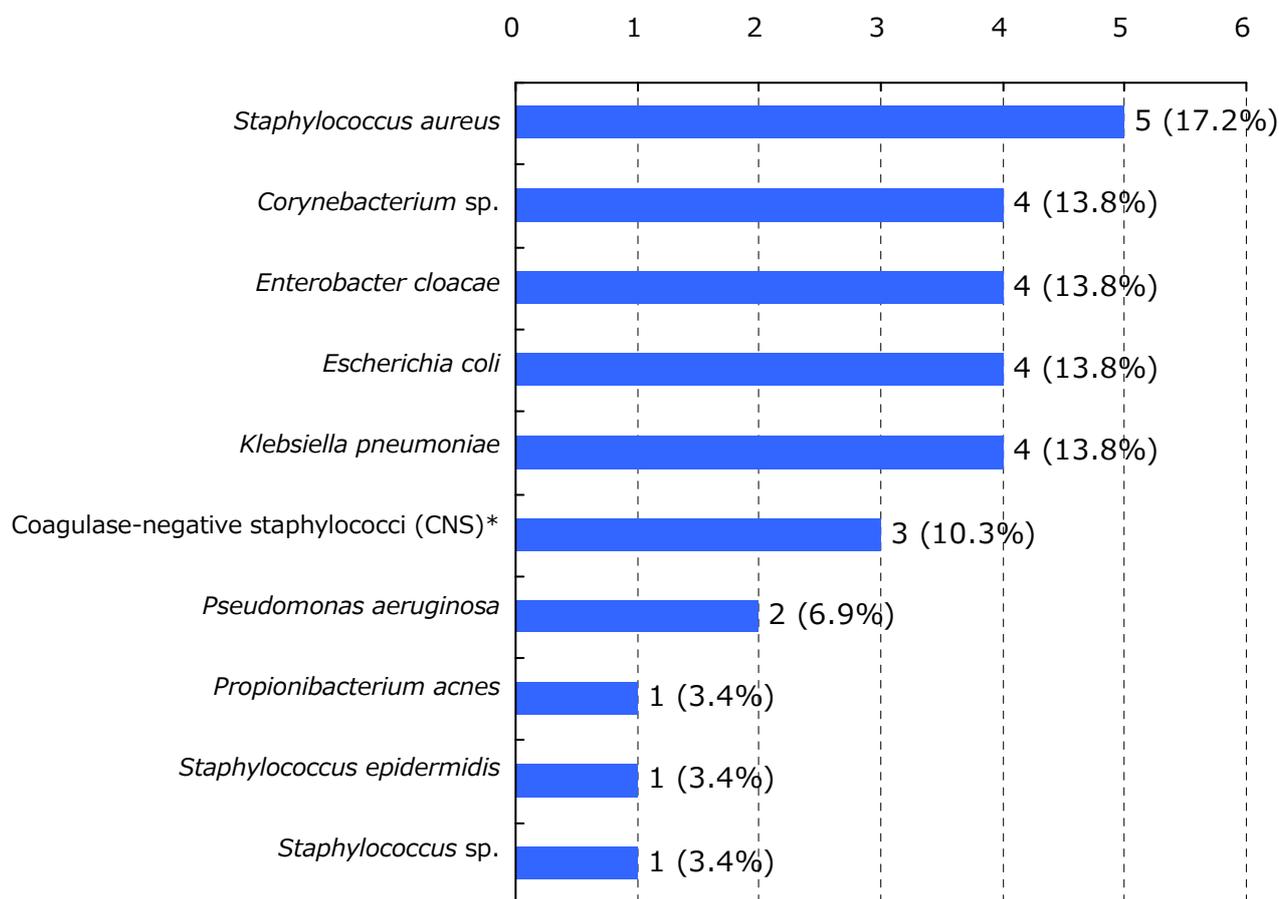
血液検体分離菌数割合 = (対象菌の血液検体分離菌数) ÷ (血液検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <https://janis.mhlw.go.jp/section/kensa.html>

3. 検査材料別分離菌数割合

髄液検体分離菌 (N=29)



*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌（1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外）

入院として報告された検体を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：髄液(検査材料コード403)

髄液検体分離菌数割合 = (対象菌の髄液検体分離菌数) ÷ (髄液検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <https://janis.mhlw.go.jp/section/kensa.html>

4. 主要菌分離患者数*と全医療機関†の分離率分布

| | 検体提出・菌分離患者数 全体の分離率‡ | 集計対象医療機関の 分離率¶(%)の分布 |
|---------------------------|------------------------|-------------------------|
| 検体提出患者数 | 10,733人 | |
| <i>S. aureus</i> | 1,455人 (13.56%) | 2.52 15.31 29.77 |
| <i>S. epidermidis</i> | 309人 (2.88%) | 0.00 1.10 20.00 |
| <i>S. pneumoniae</i> | 145人 (1.35%) | 0.00 0.94 7.07 |
| <i>E. faecalis</i> | 487人 (4.54%) | 0.00 4.84 12.63 |
| <i>E. faecium</i> | 216人 (2.01%) | 0.00 1.53 5.04 |
| <i>E. coli</i> | 1,665人 (15.51%) | 1.82 16.88 47.83 |
| <i>K. pneumoniae</i> | 696人 (6.48%) | 0.00 6.10 16.48 |
| <i>Enterobacter spp.</i> | 397人 (3.70%) | 0.00 3.16 7.16 |
| <i>S. marcescens</i> | 162人 (1.51%) | 0.00 1.27 9.16 |
| <i>P. aeruginosa</i> | 914人 (8.52%) | 0.00 8.08 27.27 |
| <i>Acinetobacter spp.</i> | 134人 (1.25%) | 0.00 0.80 9.45 |

入院として報告された検体を集計

*分離患者数と検体提出患者数は30日ごとに重複処理(巻末参照)している

†ここでは全医療機関は集計対象医療機関を表す

‡ここでの分離率は全体の分離率を表す

全体の分離率

= (集計対象医療機関の対象菌の分離患者数合計) ÷ (集計対象医療機関の検体提出患者数合計) × 100

¶分離率 = (対象菌の分離患者数) ÷ (検体提出患者数) × 100

5. 特定の耐性菌分離患者数*と全医療機関†の分離率分布

| | 検体提出・菌分離患者数 全体の分離率‡ | 集計対象医療機関の 分離率¶(%)の分布 |
|------------------------|------------------------|-------------------------|
| 検体提出患者数 | 10,733人 | |
| メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA) | 754人 (7.03%) | 0.00 6.49 23.30 |
| バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌(VRSA) | 0人 (0.00%) | 0.00 |
| バンコマイシン耐性腸球菌(VRE) | 0人 (0.00%) | 0.00 |
| ペニシリン耐性肺炎球菌(PRSP) | 30人 (0.28%) | 0.00 0.00 4.04 |
| 多剤耐性緑膿菌(MDRP) | 2人 (0.02%) | 0.00 0.00 0.24 |
| 多剤耐性アシネトバクター属(MDRA) | 0人 (0.00%) | 0.00 |
| カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE) | 27人 (0.25%) | 0.00 0.00 1.40 |
| カルバペネム耐性緑膿菌 | 158人 (1.47%) | 0.00 1.02 6.71 |
| 第三世代セファロスポリン耐性肺炎桿菌 | 58人 (0.54%) | 0.00 0.00 9.66 |
| 第三世代セファロスポリン耐性大腸菌 | 266人 (2.48%) | 0.00 1.40 20.29 |
| フルオロキノロン耐性大腸菌 | 554人 (5.16%) | 0.00 5.20 31.09 |

入院検体でかつ、検査法が原則微量液体希釈法又はEtestと設定されたMIC値が報告されている検体を集計

MRSAとVREは検査法によらず菌名コードで指定された場合はそれらを含む

*分離患者数と検体提出患者数は30日ごとに重複処理(巻末参照)している

†ここでは全医療機関は集計対象医療機関を表す

‡ここでの分離率は全体の分離率を表す

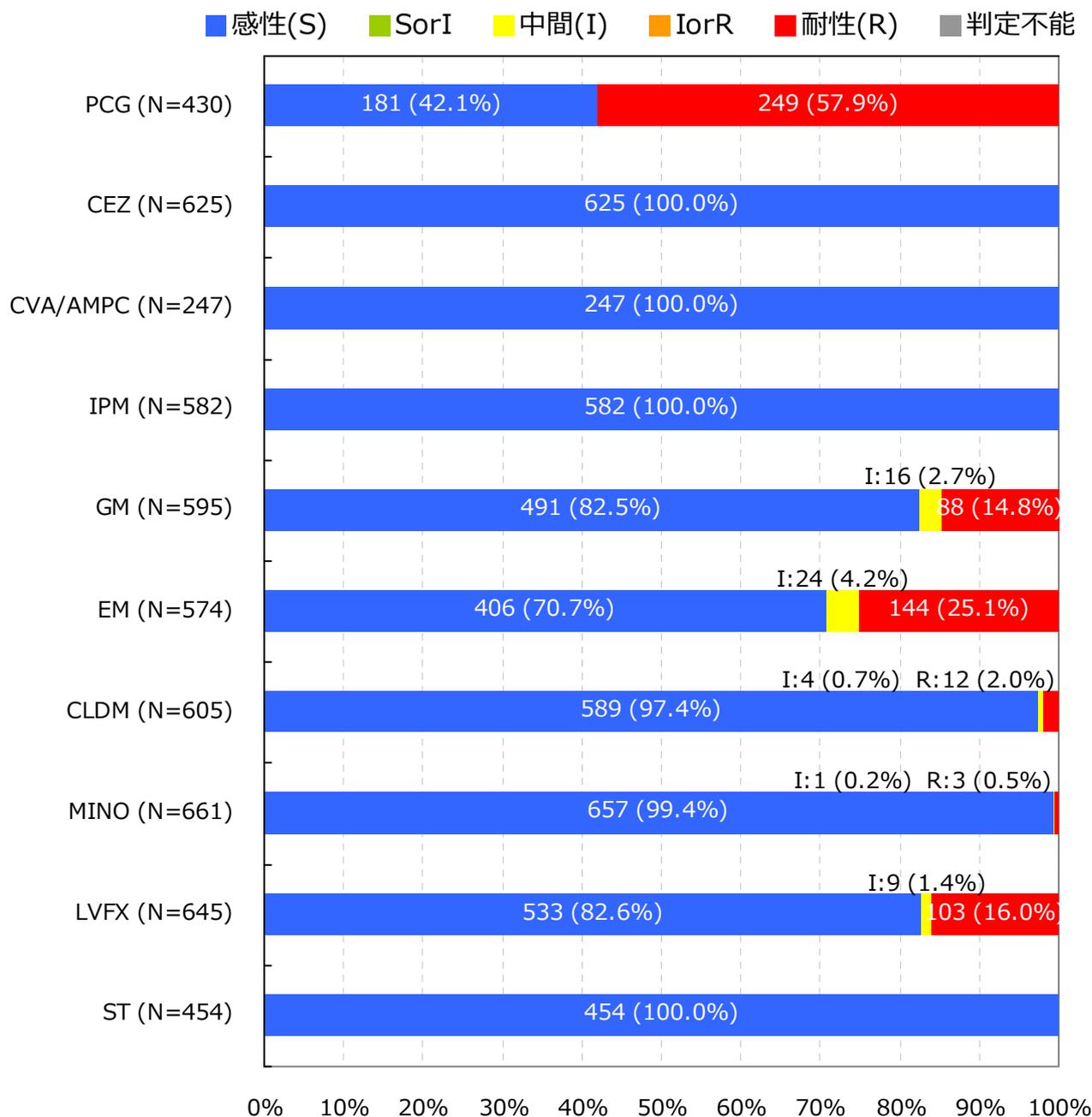
全体の分離率

= (集計対象医療機関の対象菌の分離患者数合計) ÷ (集計対象医療機関の検体提出患者数合計) × 100

¶分離率 = (対象菌の分離患者数) ÷ (検体提出患者数) × 100

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Staphylococcus aureus (MSSA) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

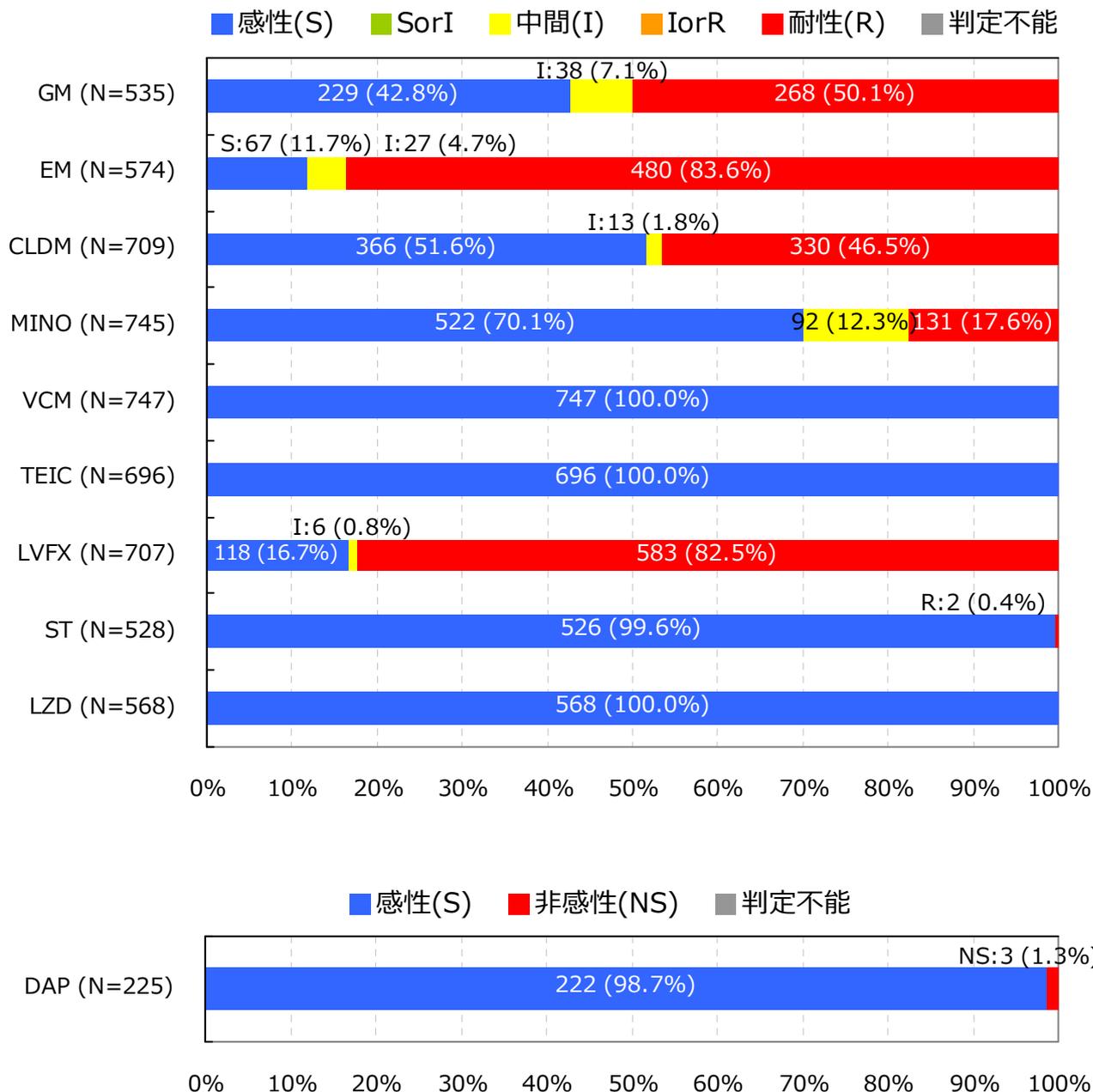
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1304, 1305, 1306と報告された菌および菌名コード : 1301と報告され抗菌薬コード : 1208 (オキサシリン) の感受性結果「S」の菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Staphylococcus aureus (MRSA) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

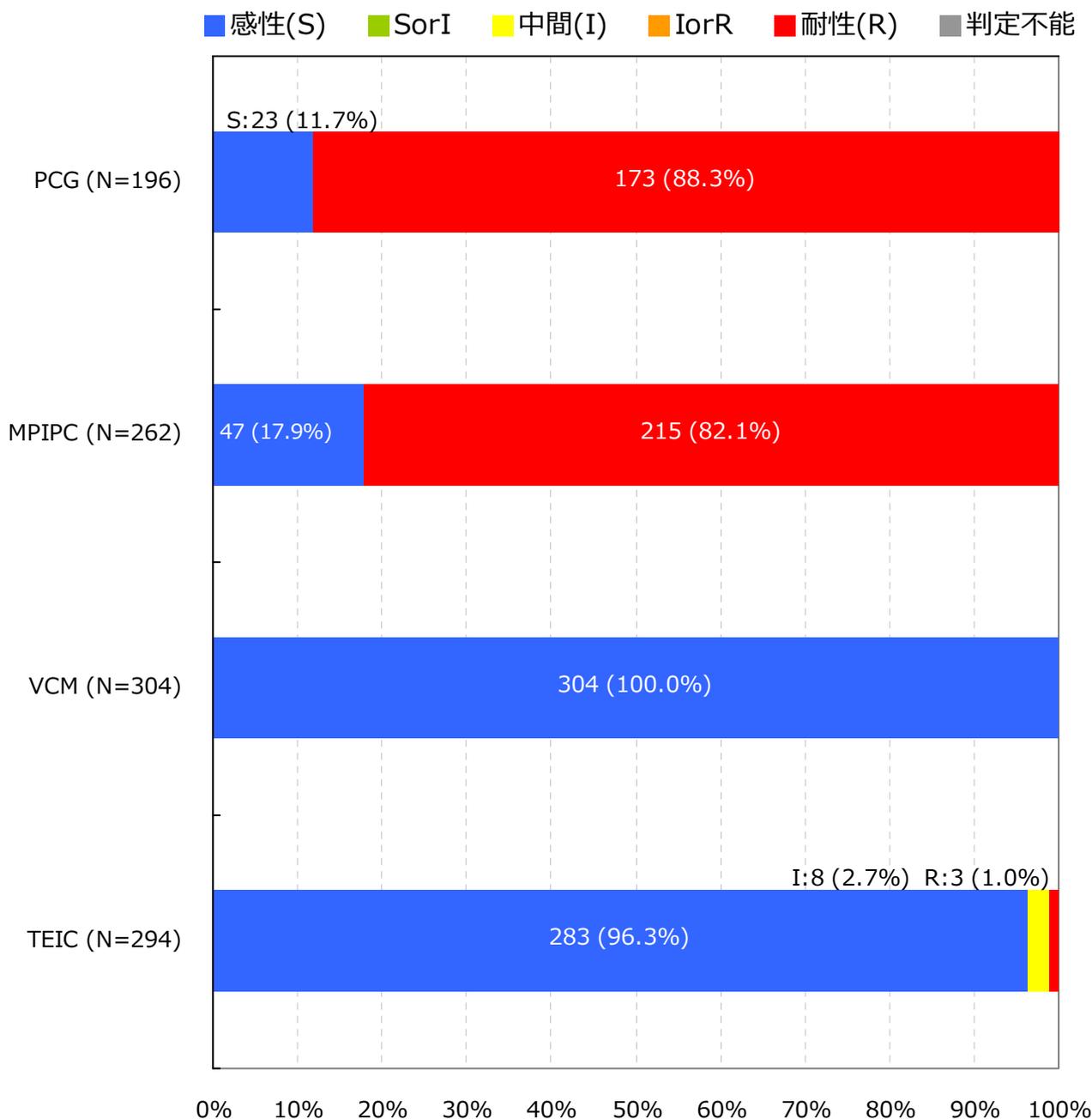
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1303と報告された菌および菌名コード：1301と報告され抗菌薬コード：1208 (オキサシリン) の感受性結果「R」の菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Staphylococcus epidermidis †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

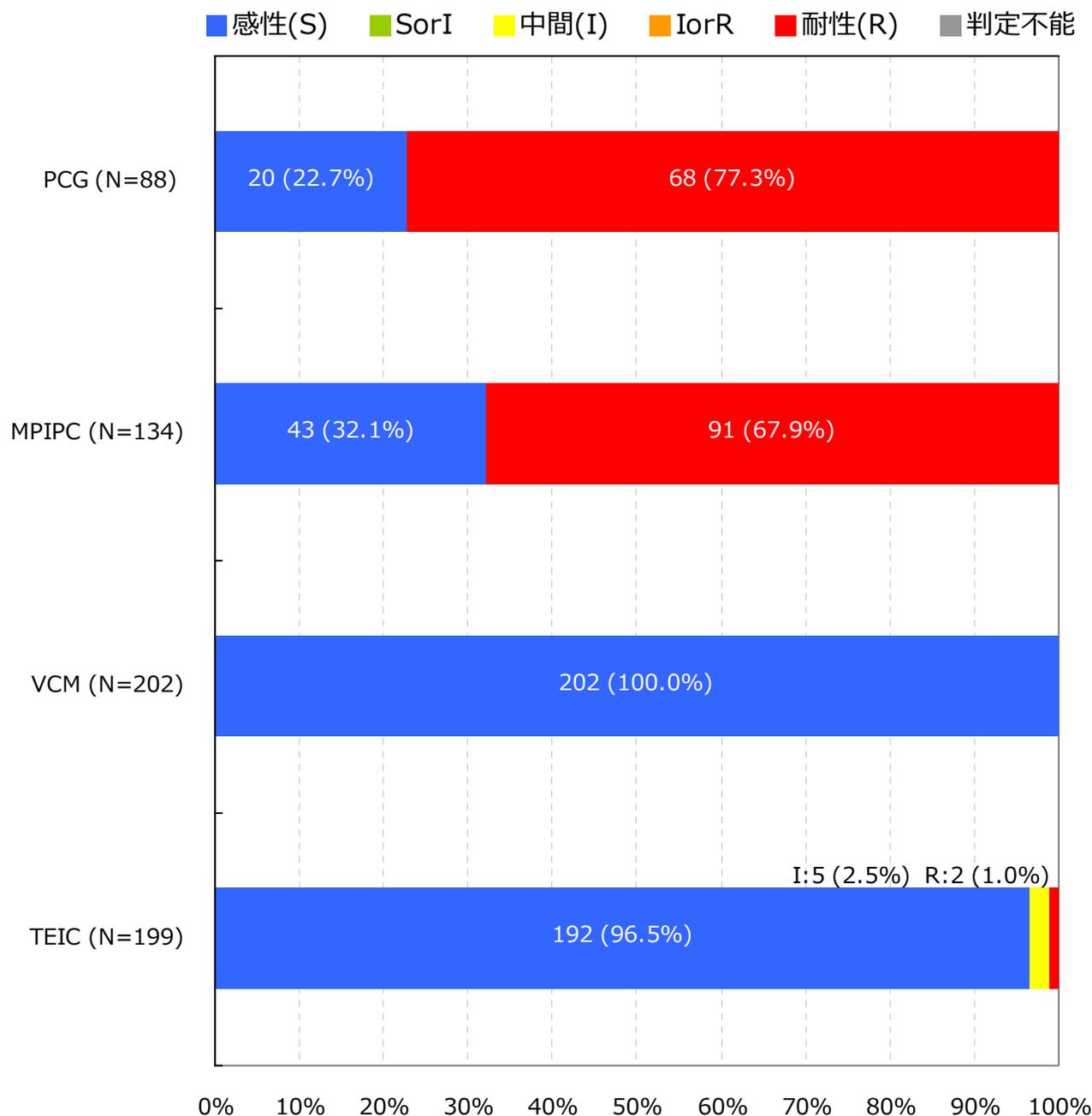
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1312と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Coagulase-negative staphylococci (CNS) †



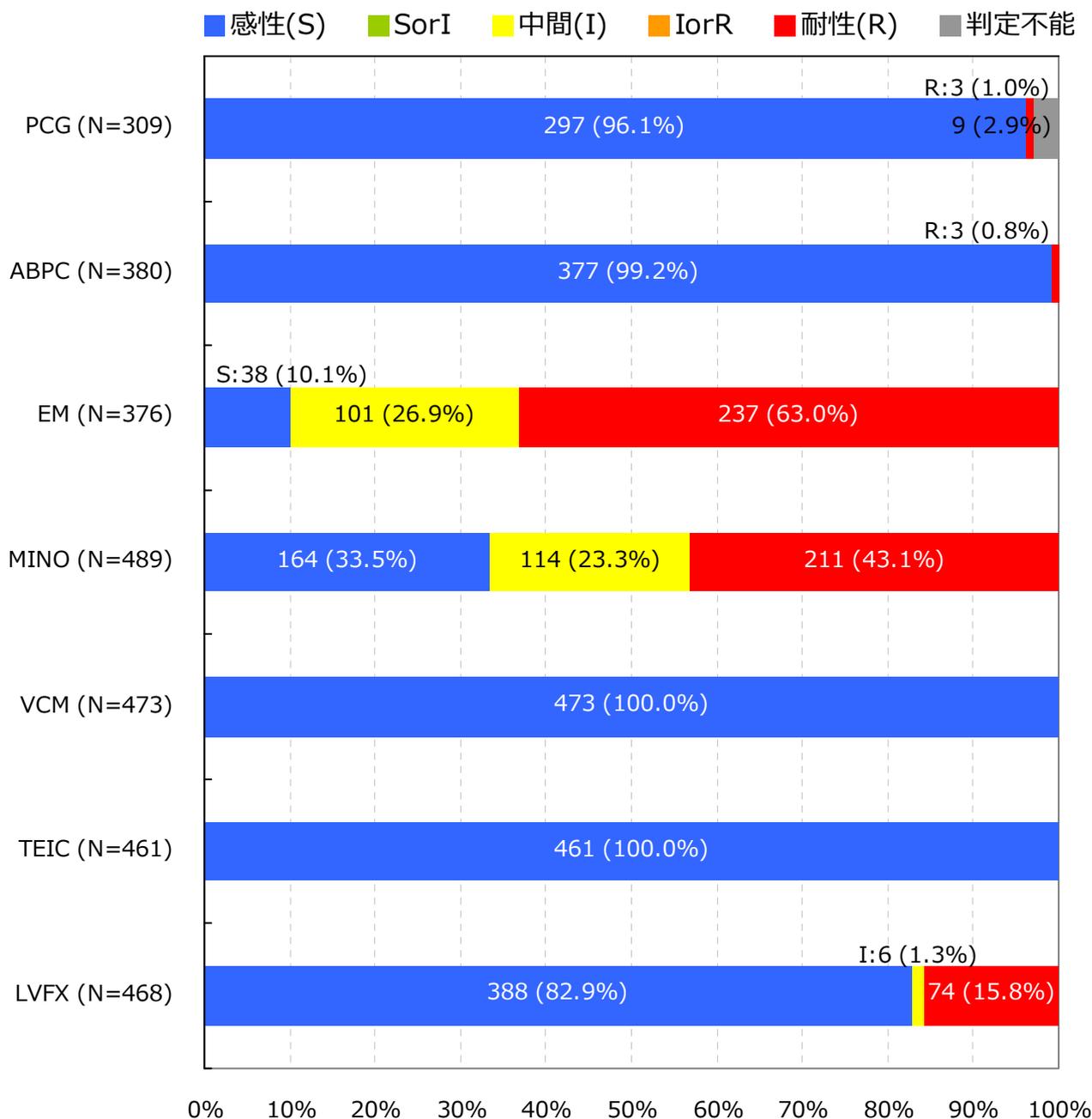
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1311, 1313~1325と報告された菌 (1312 : *Staphylococcus epidermidis*は対象外)

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Enterococcus faecalis †



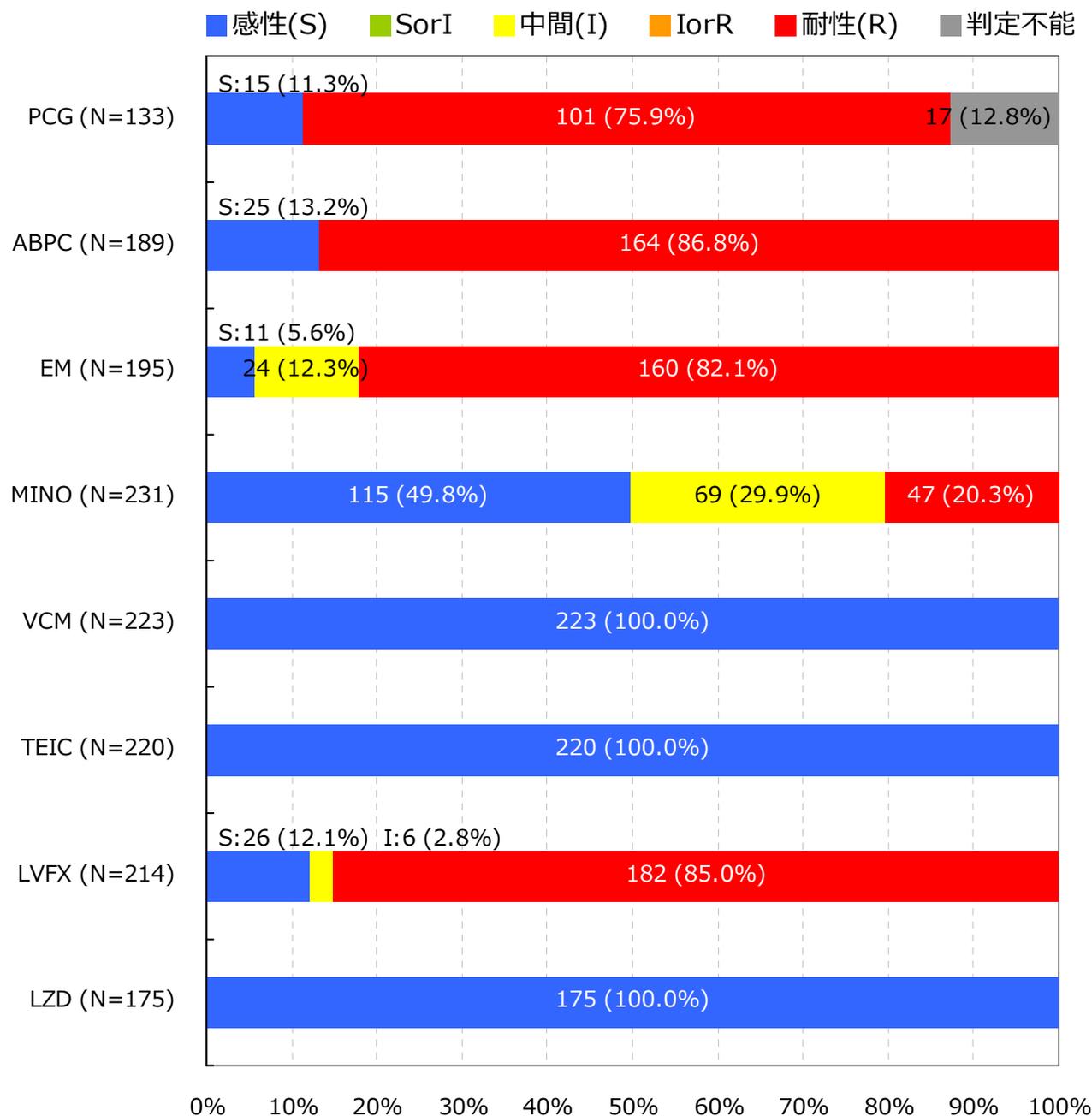
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1201, 1202と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Enterococcus faecium †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1205, 1206と報告された菌

(熊本県)

公開情報 2017年1月～3月 四半期報(全集計対象医療機関)

院内感染対策サーベイランス 検査部門

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Streptococcus pneumoniae(髄液検体) †

報告はありませんでした

入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

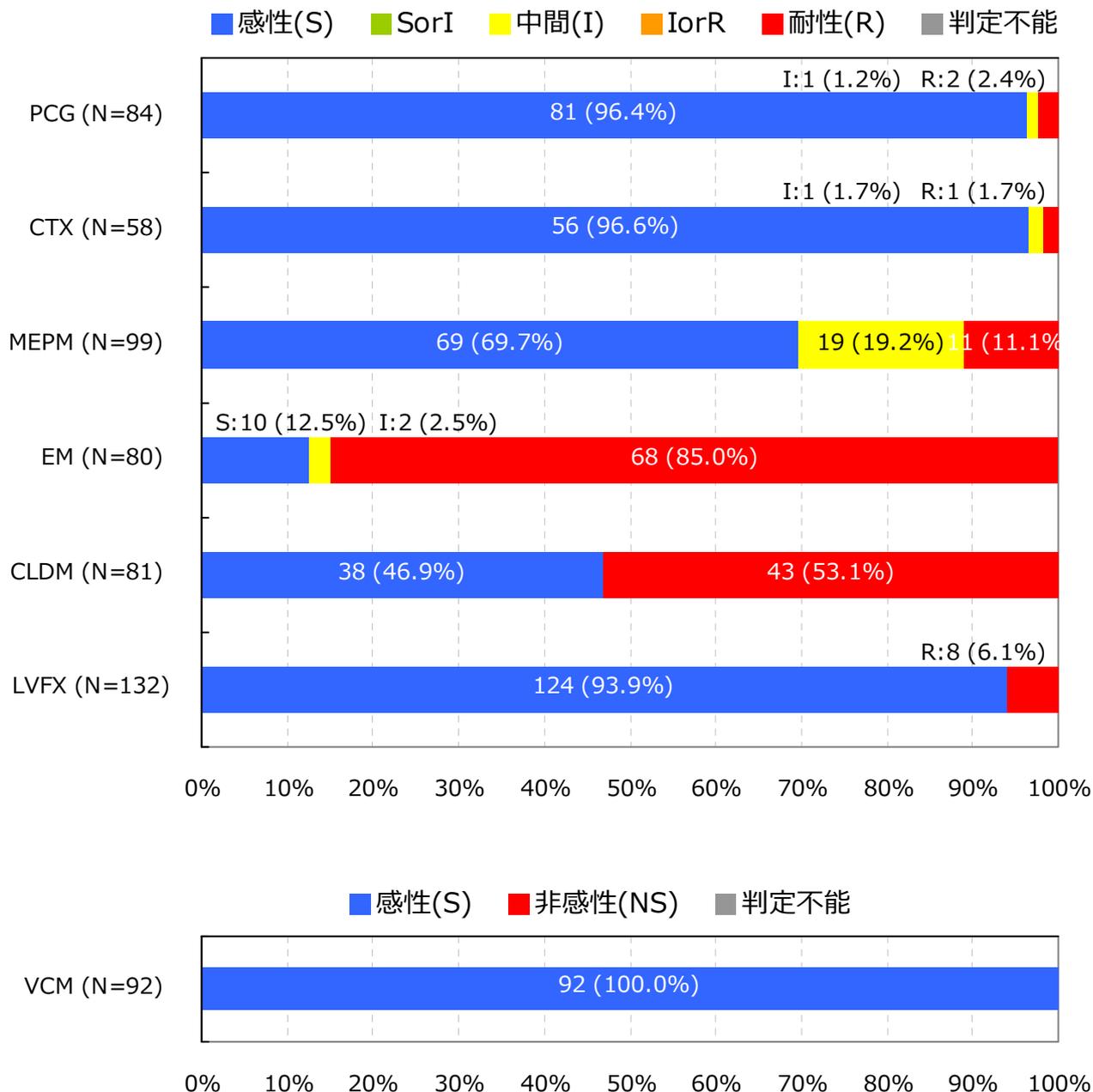
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1131と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Streptococcus pneumoniae(髄液検体以外) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

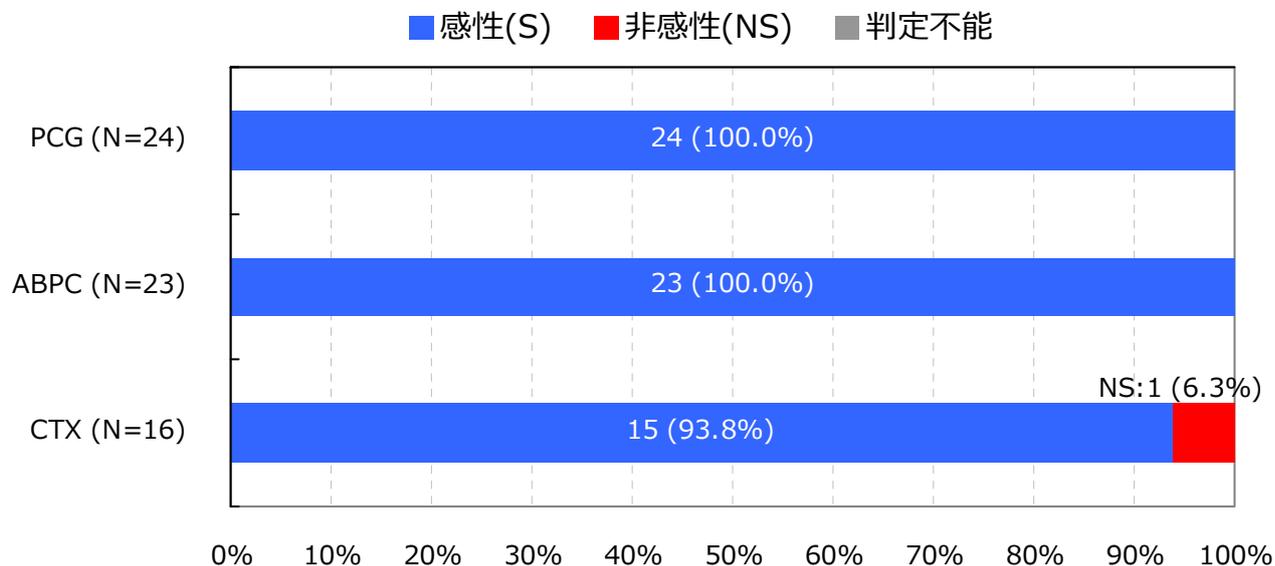
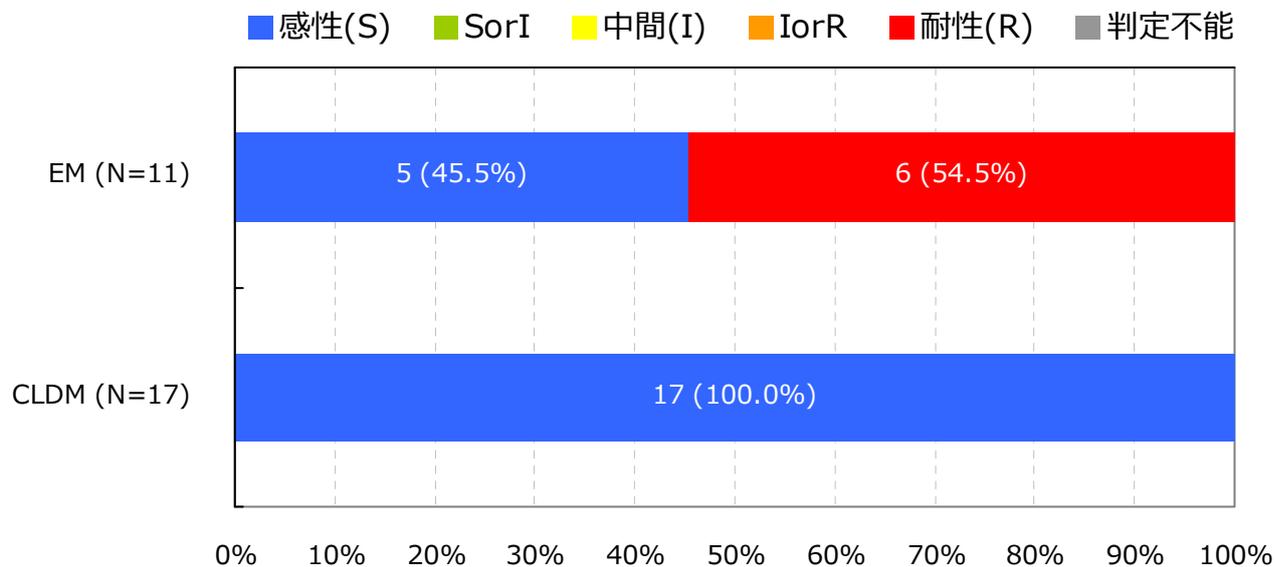
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1131と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Streptococcus pyogenes †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

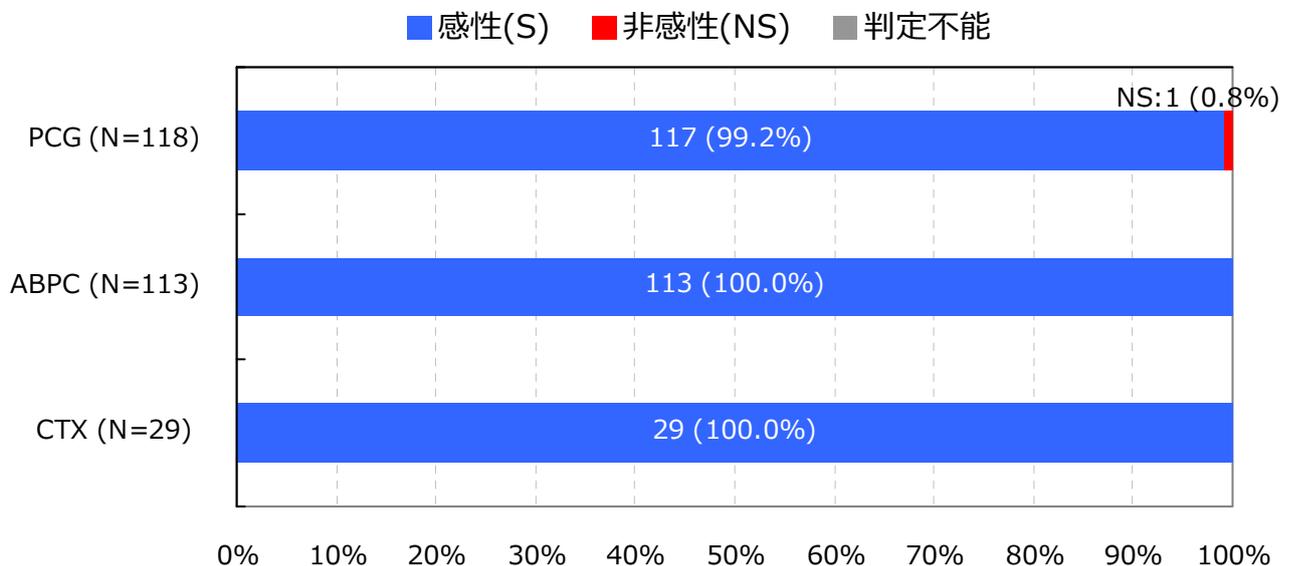
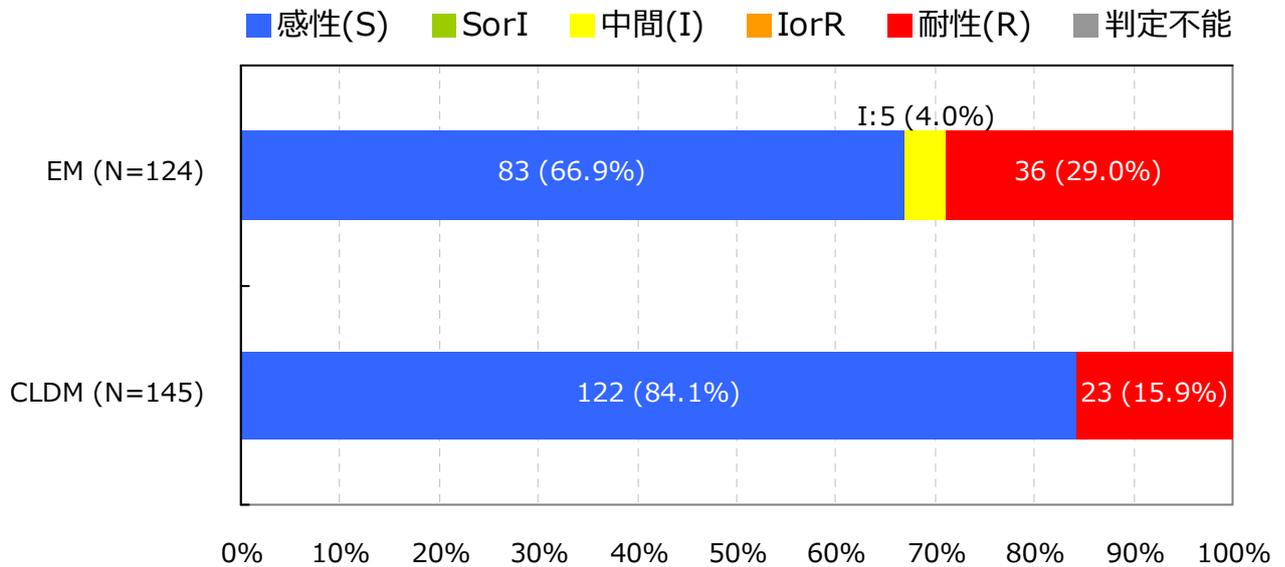
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1111と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Streptococcus agalactiae †



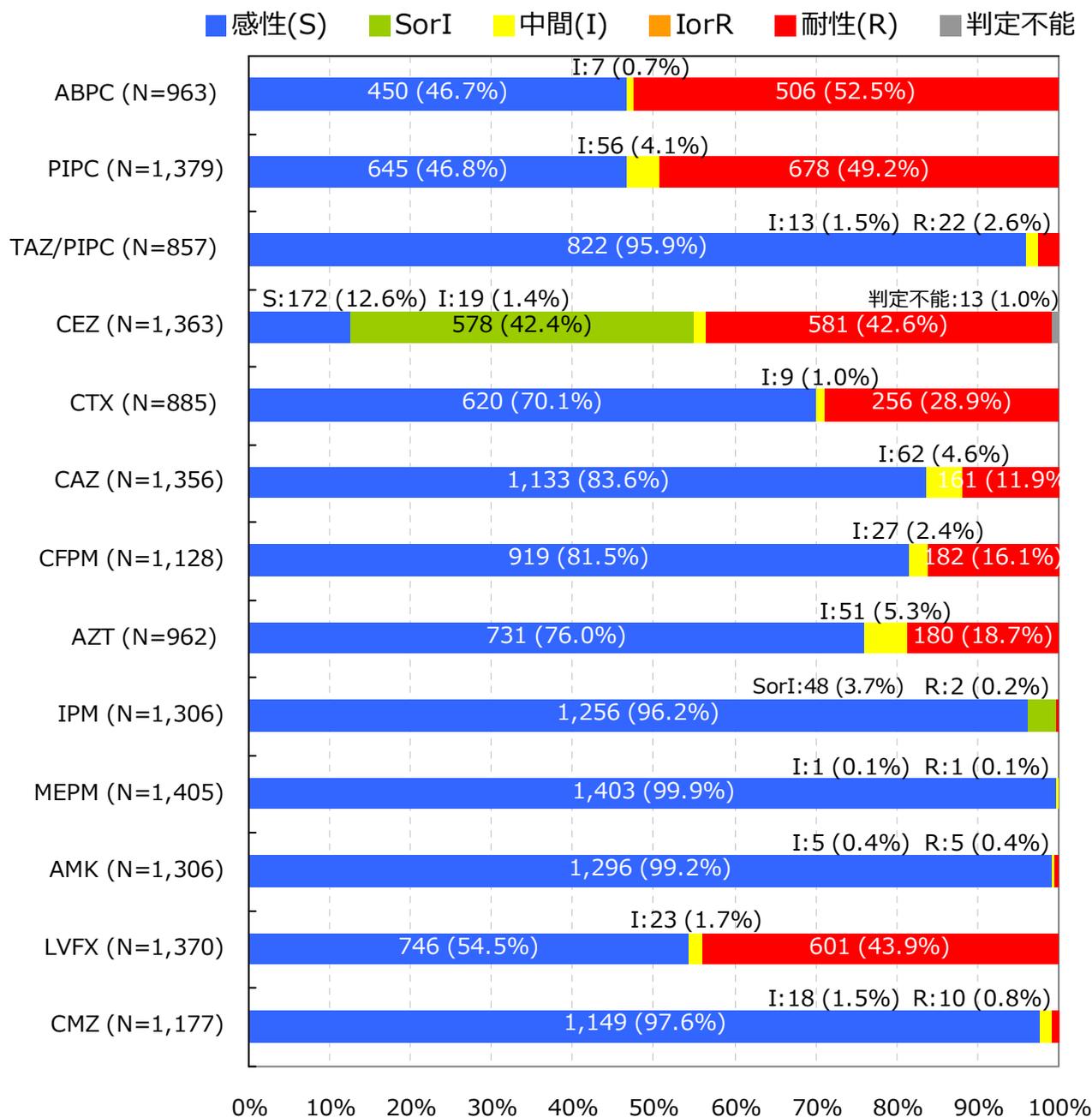
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1114と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Escherichia coli †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

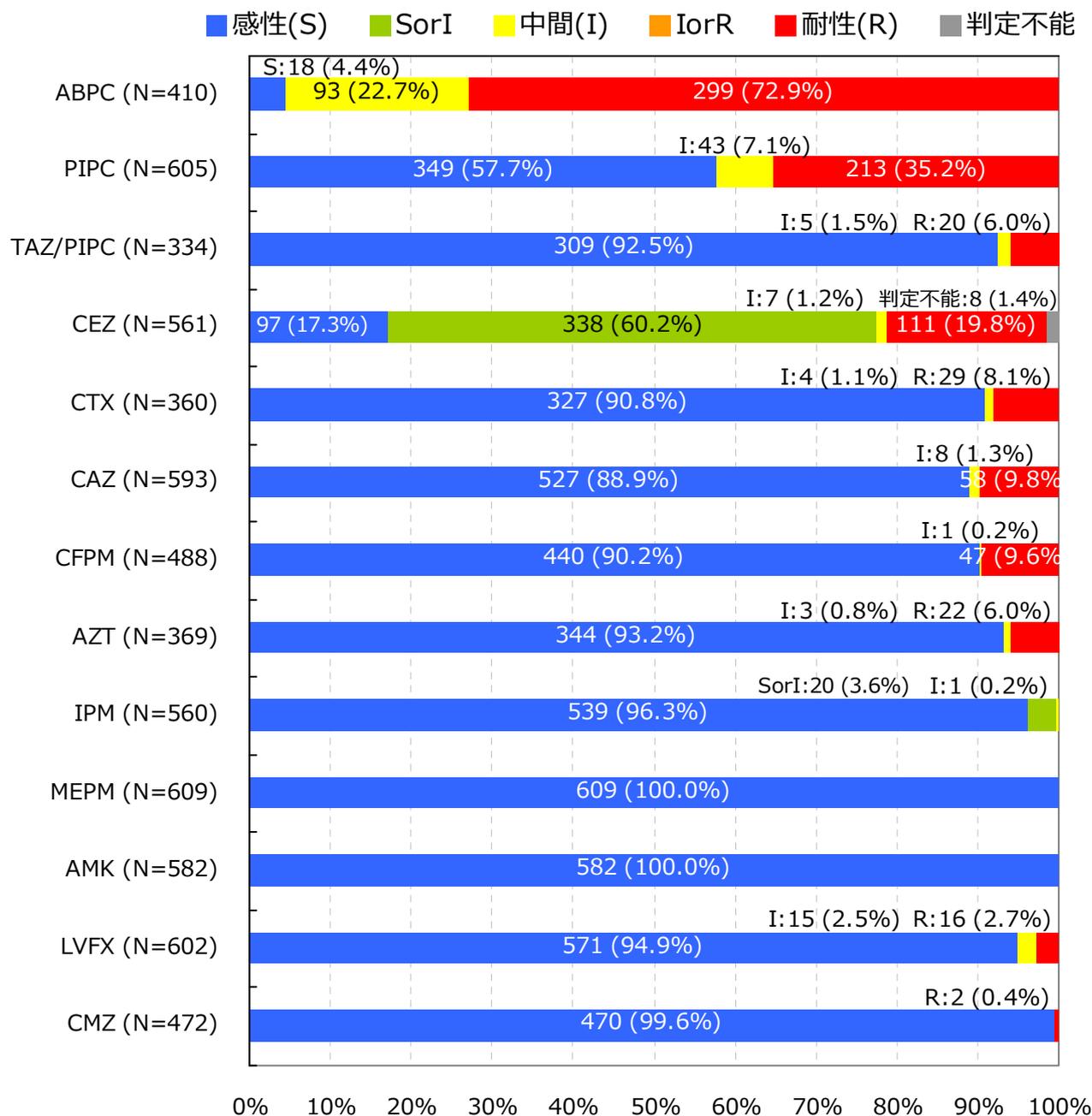
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 2001～2007と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Klebsiella pneumoniae †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

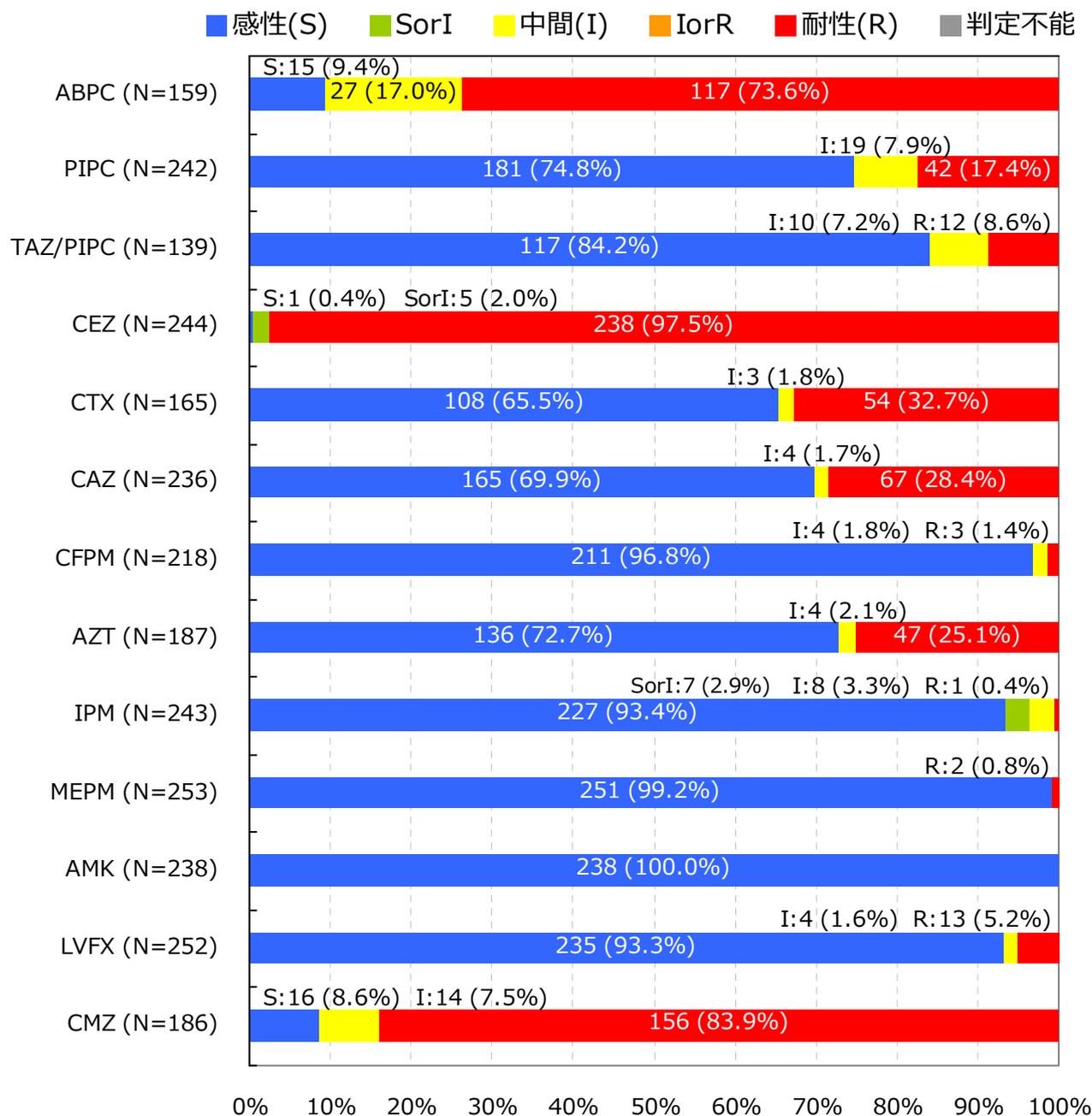
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2351と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Enterobacter cloacae †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

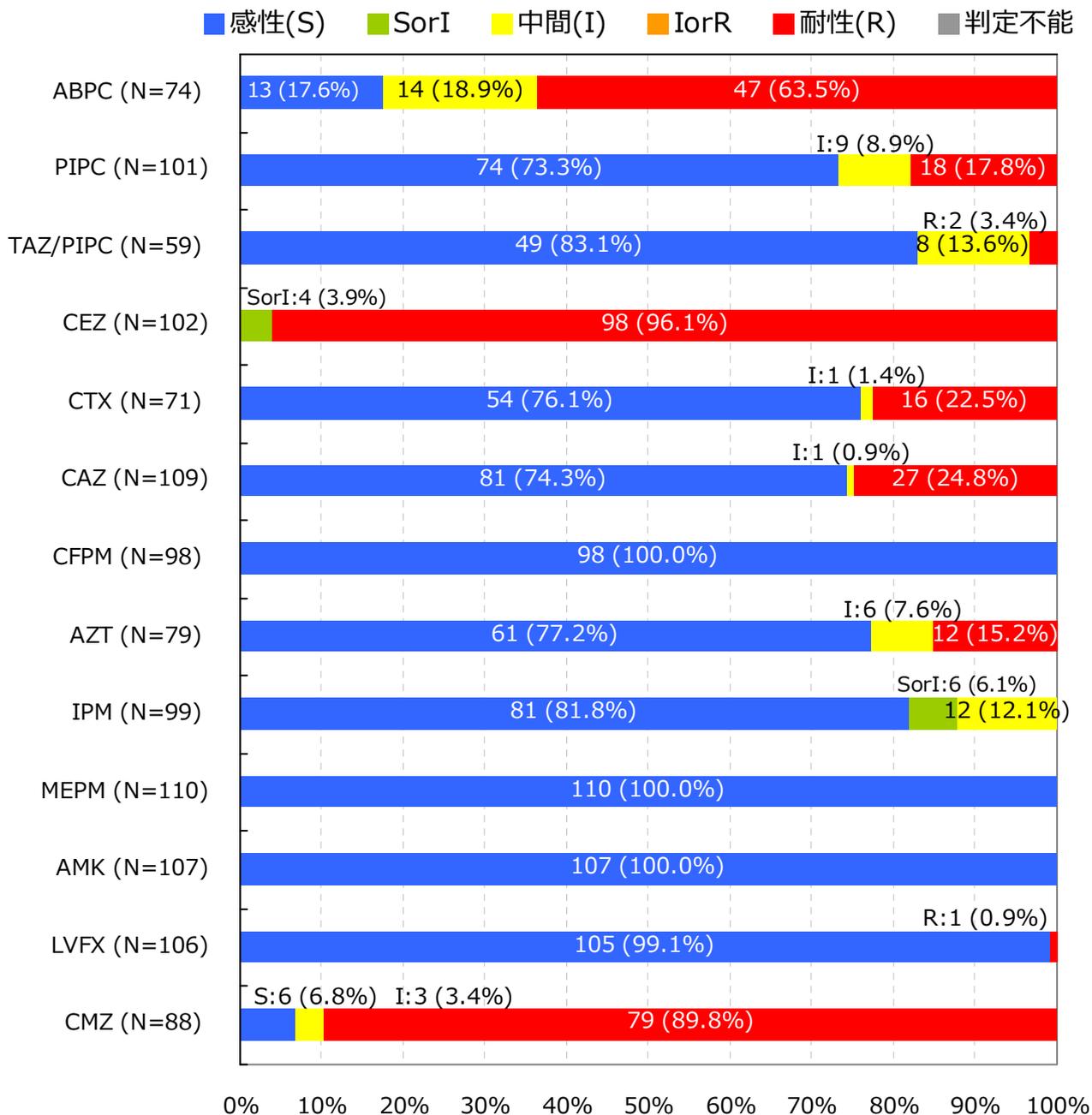
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 2151と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Enterobacter aerogenes †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

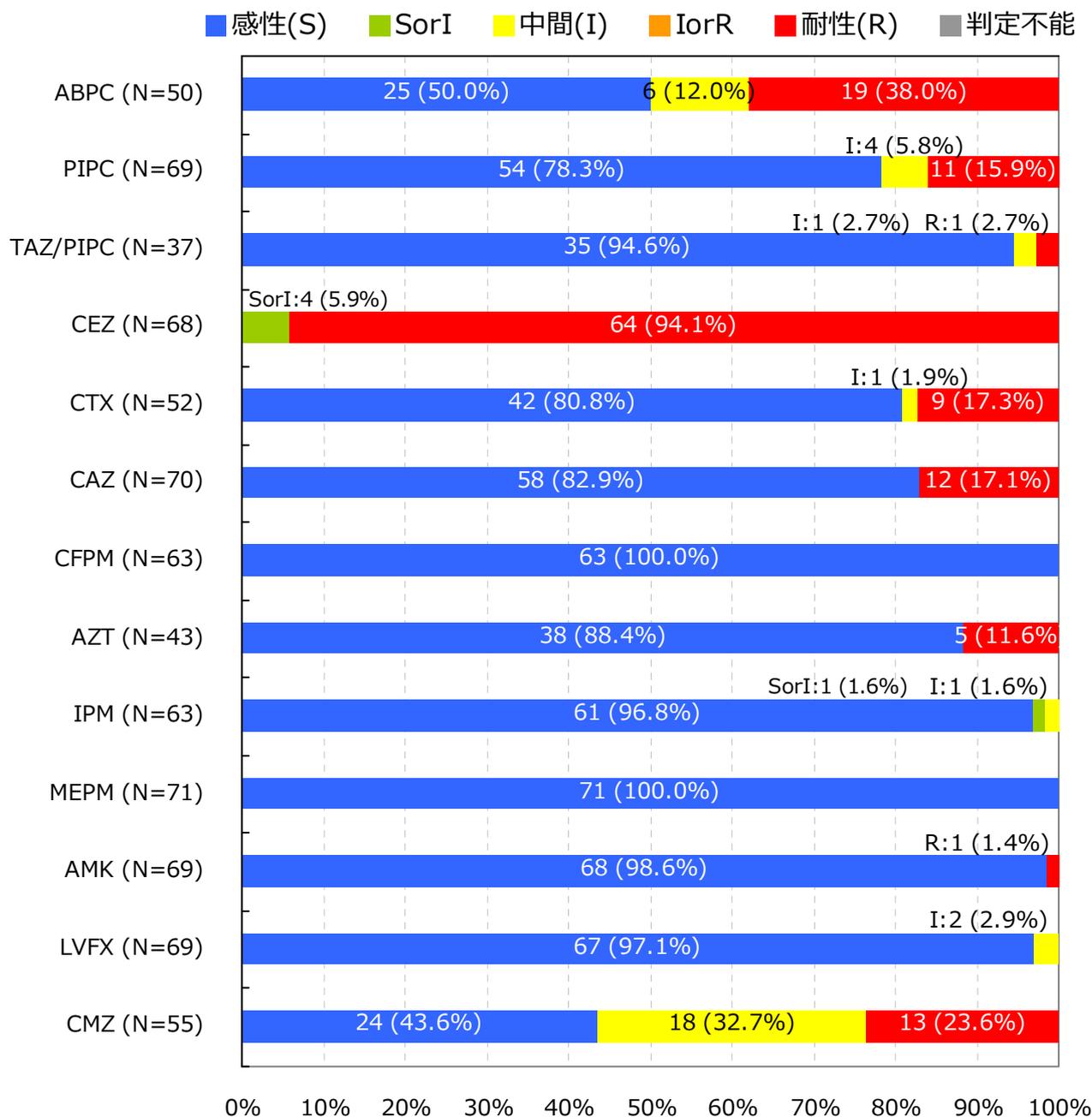
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 2152と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Citrobacter freundii †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

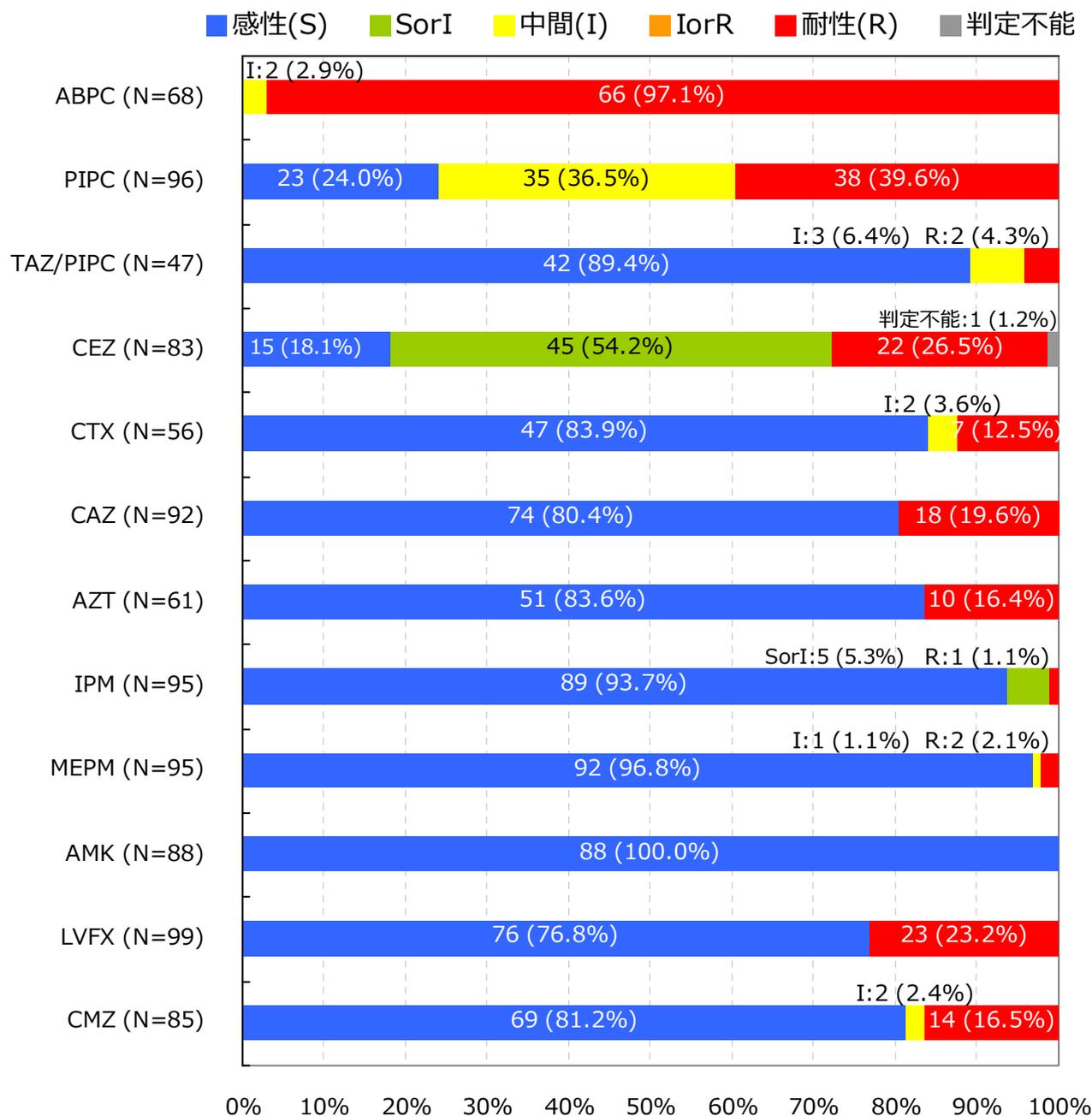
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2051と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Citrobacter koseri †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

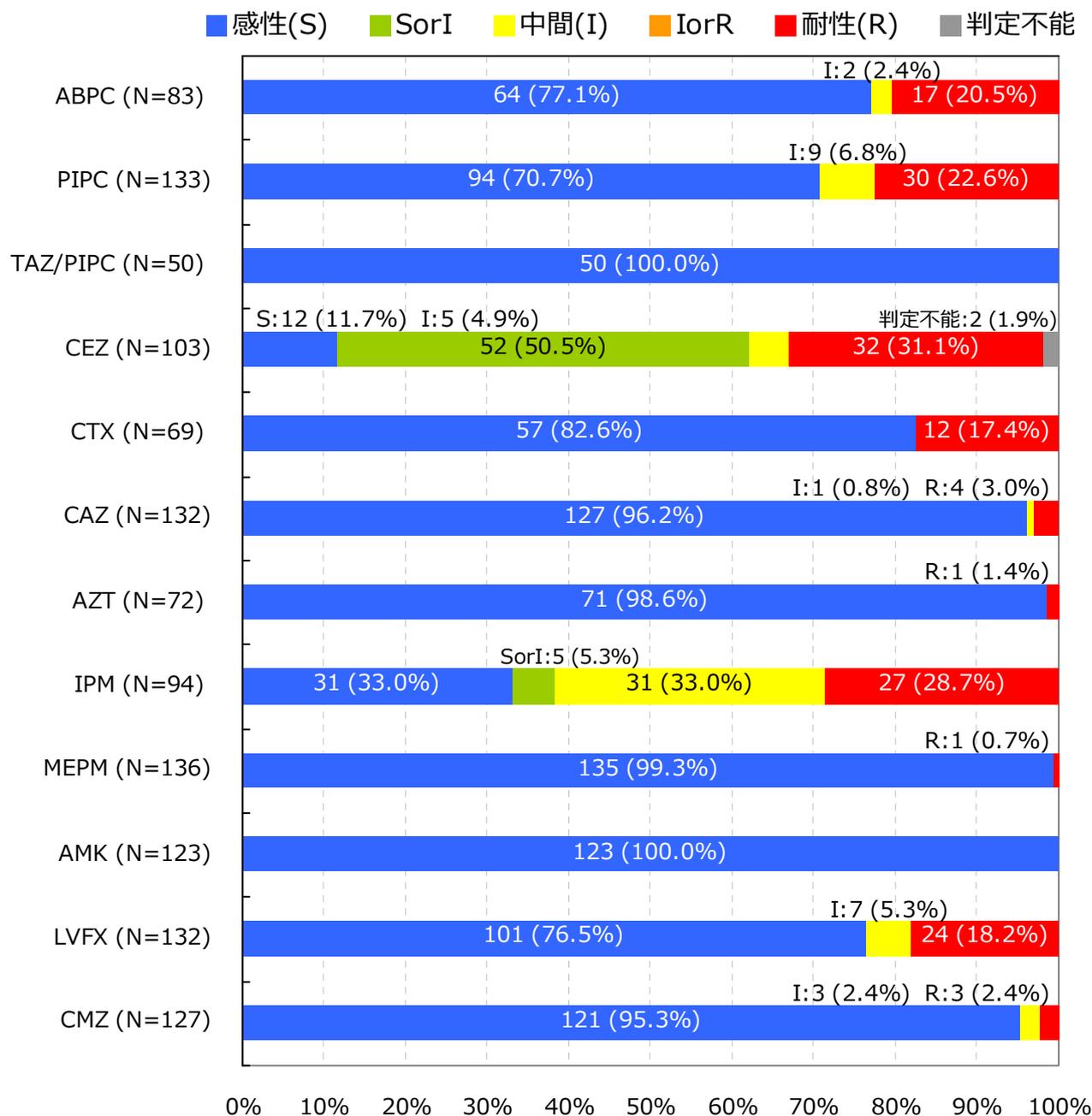
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2052と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Proteus mirabilis †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

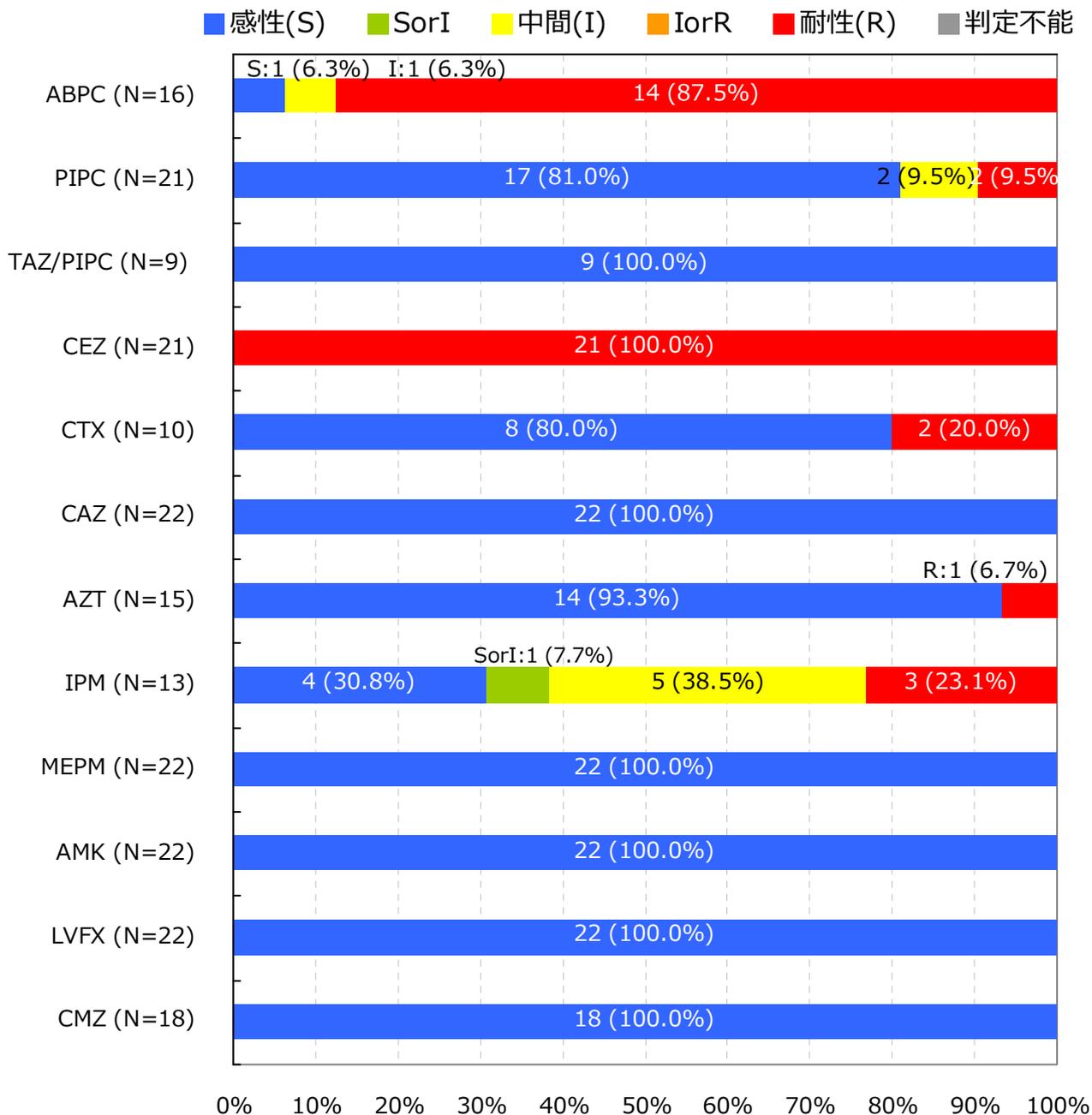
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2201と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Proteus vulgaris †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

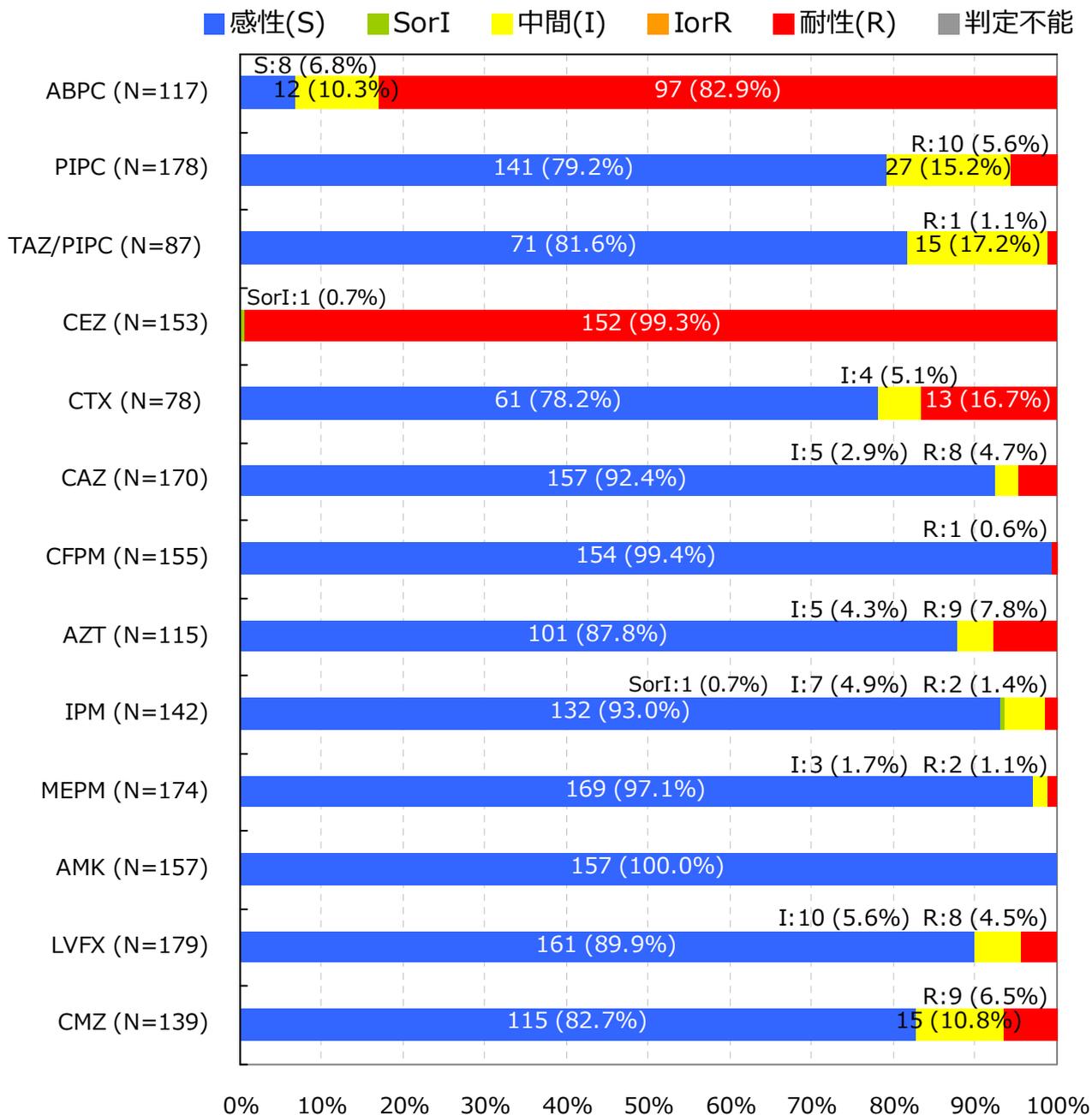
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2202と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Serratia marcescens †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

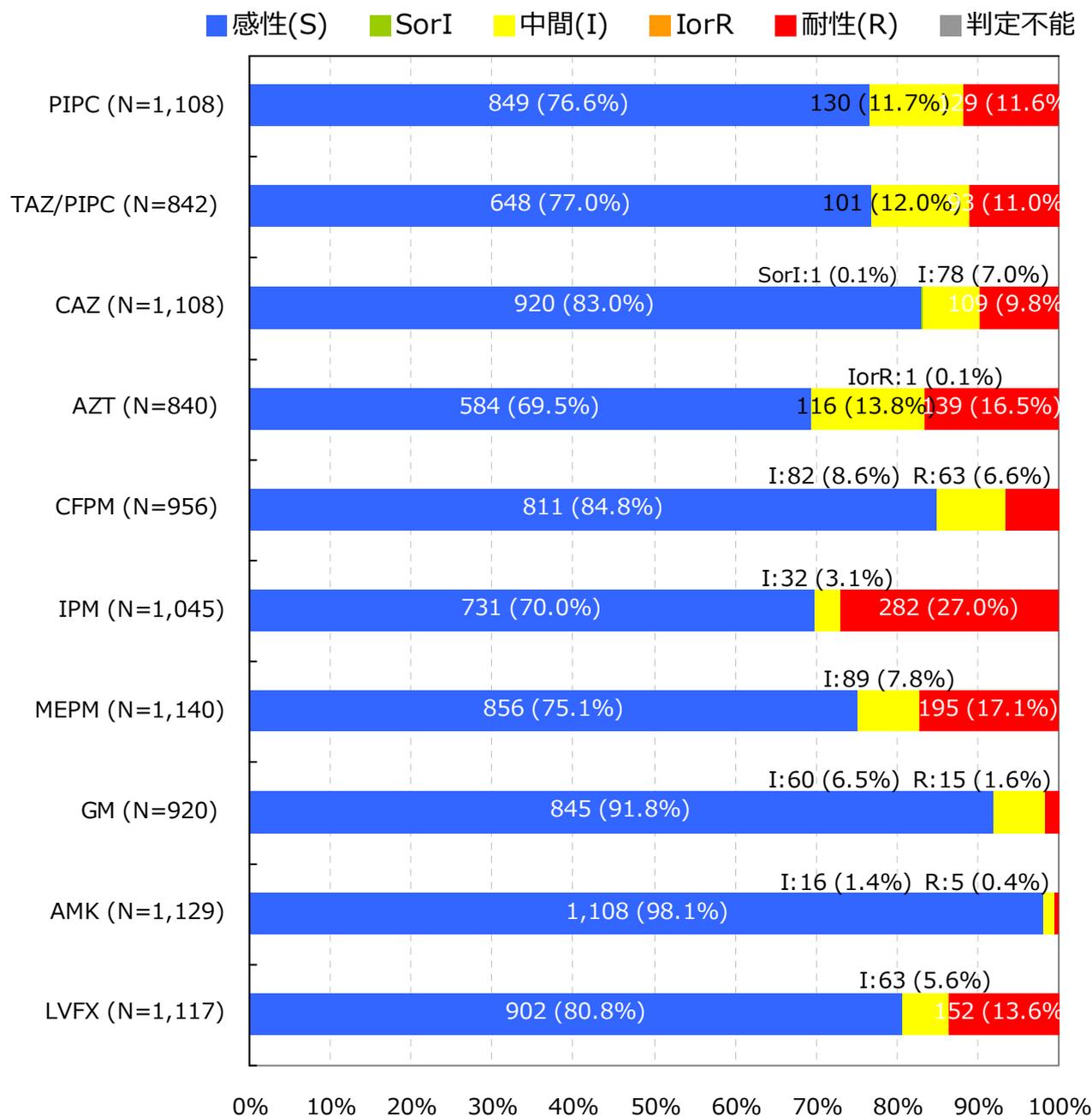
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 2101と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Pseudomonas aeruginosa †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

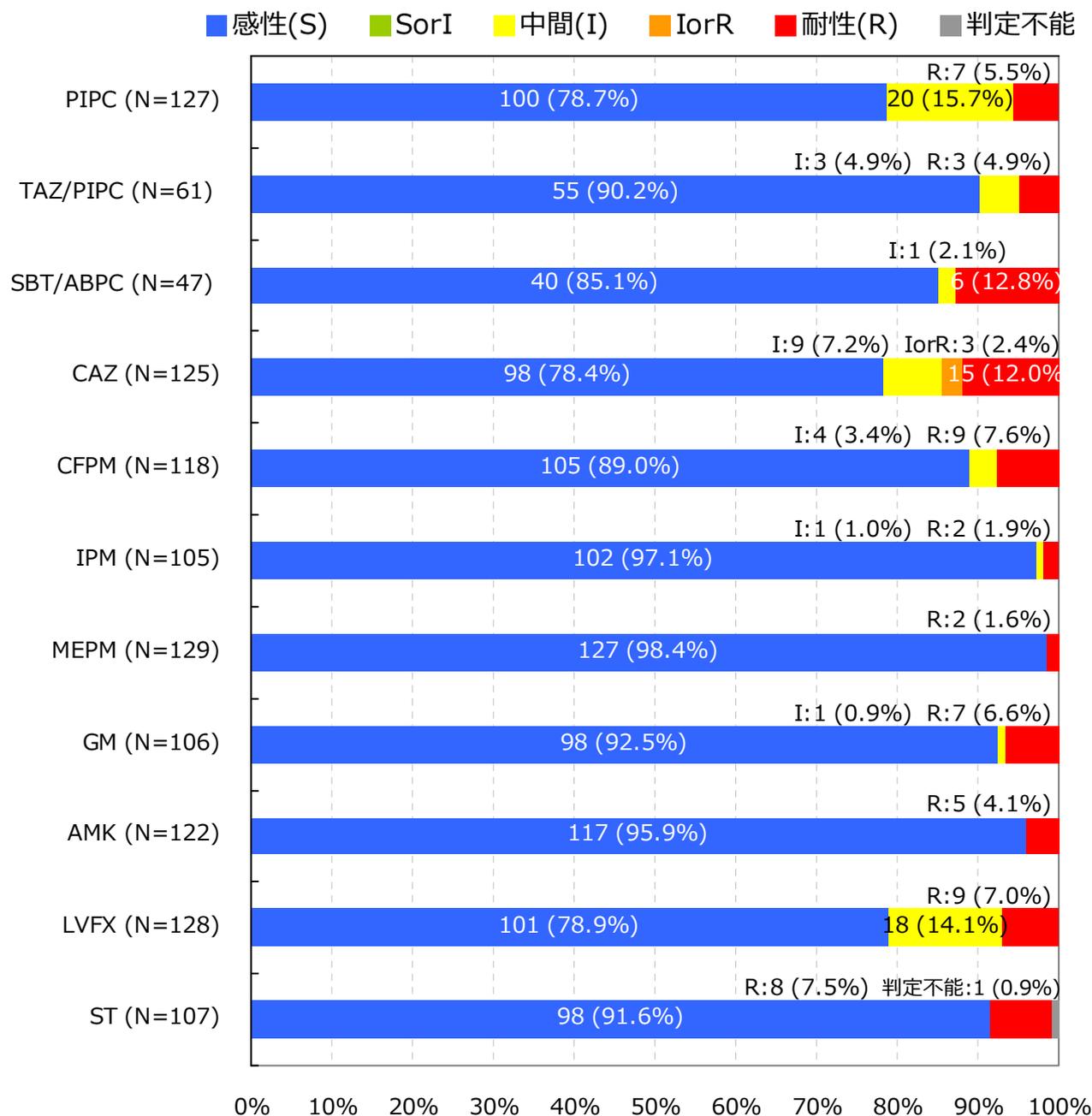
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：4001と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Acinetobacter spp. †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

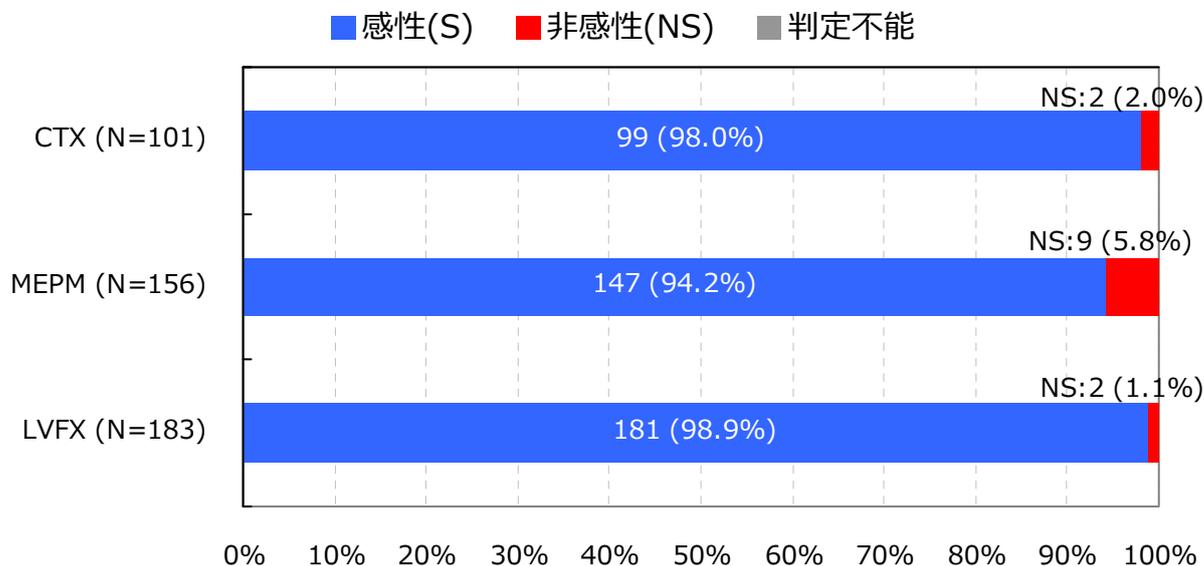
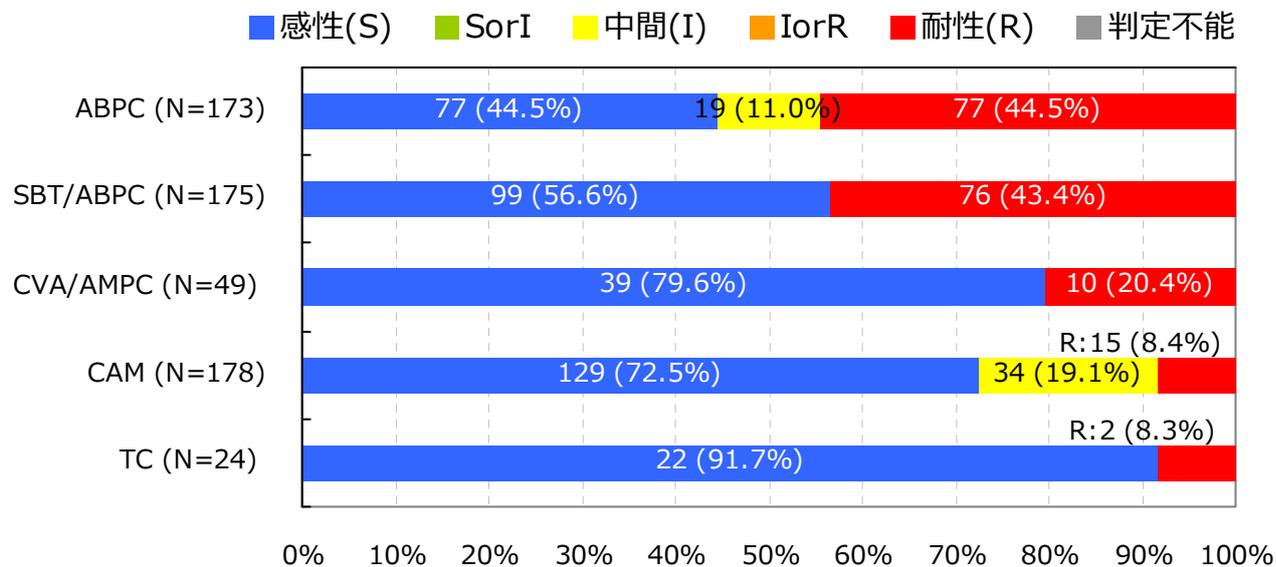
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 4400~4403と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Haemophilus influenzae †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 3201, 3202, 3203, 3205, 3208, 3211, 3214, 3217, 3220, 3223と報告された菌

【巻末資料 1 主要菌の菌名コード / 微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準】

主要菌の菌名コード（薬剤感受性条件なし）

| 菌名 | 菌名コード Ver.4.1 |
|-----------------------------------|----------------|
| <i>Staphylococcus aureus</i> | 1301,1303-1306 |
| <i>Staphylococcus epidermidis</i> | 1312 |
| <i>Streptococcus pneumoniae</i> | 1131 |
| <i>Enterococcus faecalis</i> | 1201,1202 |
| <i>Enterococcus faecium</i> | 1205,1206 |
| <i>Escherichia coli</i> | 2001-2007 |
| <i>Klebsiella pneumoniae</i> | 2351 |
| <i>Enterobacter</i> spp. | 2150-2156 |
| <i>Serratia marcescens</i> | 2101 |
| <i>Pseudomonas aeruginosa</i> | 4001 |
| <i>Acinetobacter</i> spp. | 4400-4403 |

「微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準」について

耐性菌の菌名※は以下の通り

MRSA : Methicillin-resistant *S. aureus* メチシリン耐性黄色ブドウ球菌

VRSA : Vancomycin-resistant *S. aureus* バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌

VRE : Vancomycin-resistant *Enterococcus* spp. バンコマイシン耐性腸球菌

PRSP : Penicillin-resistant *S. pneumoniae* ペニシリン耐性肺炎球菌

MDRP : Multidrug-resistant *P. aeruginosa* 多剤耐性緑膿菌

MDRA : Multidrug-resistant *Acinetobacter* spp. 多剤耐性アシネトバクター属

CRE : Carbapenem-Resistant Enterobacteriaceae カルバペネム耐性腸内細菌科細菌（2015年1月より集計開始）

* : 原則 S,I,R の判定は CLSI2012 (M100-S22) に準拠

† : 感染症発生動向調査の基準に準拠

2014年12月分データまでは CLSI2007 (M100-S17)、2015年1月分データより CLSI2012 (M100-S22) に準拠する。
薬剤耐性菌判定基準 (Ver.3.1) と 検査部門特定の耐性菌判定基準 (Ver.4.1) を基に作成した。

微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準

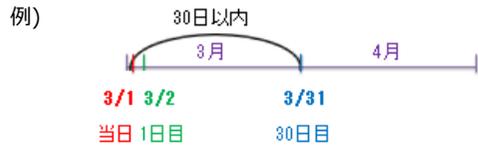
| 菌名※ | 概要* | 微量液体希釈法 (MIC 値) | 菌名コード Ver.4.1 |
|------|---|---|---|
| MRSA | MPIPC が "R" の <i>S. aureus</i> または選択培地で MRSA と確認された菌 | MPIPC $\geq 4\mu\text{g/mL}$ | 1301,1303 |
| VRSA | VCM が微量液体希釈法で "R" の <i>S. aureus</i> | VCM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ | 1301,1303-1306 |
| VRE | 下記のいずれかの条件を満たす <i>Enterococcus</i> spp. ・ VCM が微量液体希釈法で耐性† ・ 選択培地で VRE と確認された菌 注) 種の同定が行われていない <i>Enterococcus</i> sp. は除く | VCM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ † | 1201,1202,1205, 1206,1209,1210, 1213-1217 |
| PRSP | PCG が微量液体希釈法で耐性† の <i>S. pneumoniae</i> | PCG $\geq 0.125\mu\text{g/mL}$ † | 1131 |
| MDRP | 下記全てに該当する <i>P. aeruginosa</i> 1. カルバペネム系 (IPM, MEPM の何れか) が 微量液体希釈法で耐性† 2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈 法で耐性† 3. フルオロキノロン系 (NFLX, OFLX, LVFX, CPFX, LFLX, GFLX の何れか) が "R" | 1. IPM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ †、 MEPM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ † 2. AMK $\geq 32\mu\text{g/mL}$ † 3. NFLX $\geq 16\mu\text{g/mL}$ 、 OFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ 、 LVFX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ 、 LFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ 、 GFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ 、 CPFX $\geq 4\mu\text{g/mL}$ | 4001 |

| 菌名※ | 概要* | 微量液体希釈法 (MIC 値) | 菌名コード Ver.4.1 |
|----------------------------|--|---|-------------------------|
| MDRA | 下記全てに該当する <i>Acinetobacter</i> spp. 1. カルバペネム系 (IPM, MEPM の何れか) が "R" 2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈 法で耐性† 3. フルオロキノロン系 (LVFX, CPFX, GFLX の 何れか) が "R" | 1. IPM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ †、 MEPM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ † 2. AMK $\geq 32\mu\text{g/mL}$ † 3. LVFX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ 、 CPFX $\geq 4\mu\text{g/mL}$ 、 GFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ | 4400-4403 |
| CRE | 下記の何れかの条件を満たす腸内細菌科 1. MEPM が耐性† 2. IPM が耐性†、かつ CMZ が "R" | 1. MEPM $\geq 2\mu\text{g/mL}$ † 2. IPM $\geq 2\mu\text{g/mL}$ † かつ CMZ $\geq 64\mu\text{g/mL}$ | 2000-2691, 3150-3151 |
| カルバペネム 耐性緑膿菌 | IPM または MEPM が耐性† の <i>P. aeruginosa</i> | IPM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ † MEPM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ † | 4001 |
| 第三世代セファロ スポリン耐性 肺炎桿菌 | CTX または CAZ が "R" の <i>K. pneumoniae</i> | CTX $\geq 4\mu\text{g/mL}$ CAZ $\geq 16\mu\text{g/mL}$ | 2351 |
| 第三世代セファロ スポリン耐性 大腸菌 | CTX または CAZ が "R" の <i>E. coli</i> | CTX $\geq 4\mu\text{g/mL}$ CAZ $\geq 16\mu\text{g/mL}$ | 2001-2007 |
| フルオロキノロン 耐性大腸菌 | フルオロキノロン系 (NFLX, OFLX, LVFX, LFLX, GFLX, CPFX の何れか) が "R" の <i>E. coli</i> | NFLX $\geq 16\mu\text{g/mL}$ 、 OFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ 、 LVFX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ 、 LFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ 、 GFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ 、 CPFX $\geq 4\mu\text{g/mL}$ | 2001-2007 |

【巻末資料 2 公開情報の集計方法について】

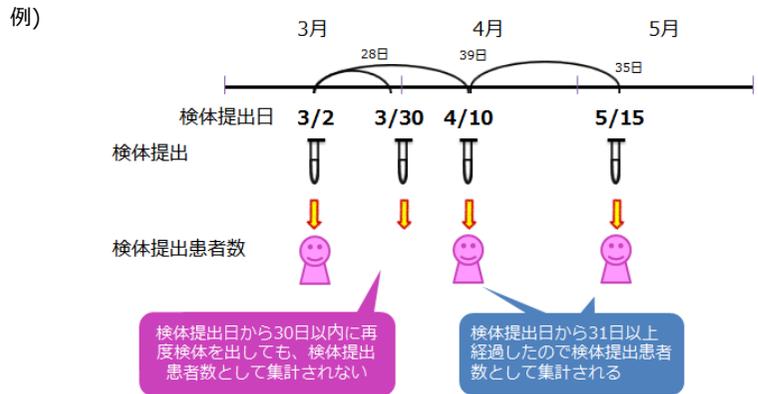
1. 日数の数え方

検体提出日の翌日を 1 日目とする。検体提出日が 3 月 1 日とすると、1 日目が 3 月 2 日、30 日目が 3 月 31 日となる。



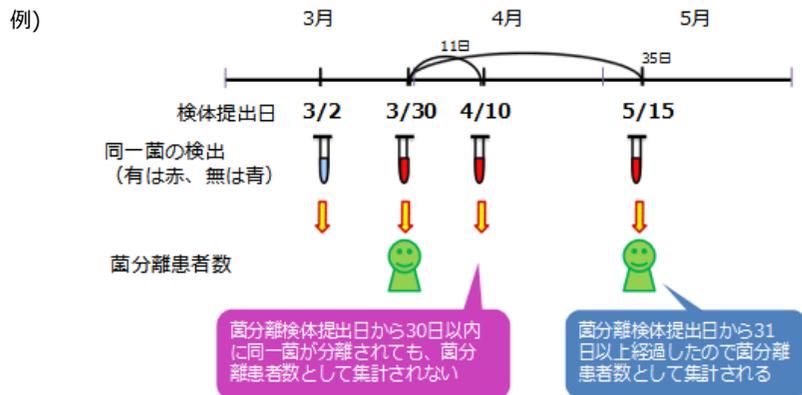
2. 検体提出患者数

検体提出患者数は、検体の種類や菌分離の有無に関わらず検体(入院検体)が提出された患者の数である。検体提出患者数は重複処理を行っており、30 日以内の同一患者からの複数の検体提出は 1 件とする。



3. 菌分離患者数

菌分離患者数も検体提出患者と同様の重複処理を行い、30 日以内に同一患者から同一菌が複数回検出された場合、菌分離患者数は 1 件とする。耐性菌分離患者数は、耐性菌の基準に合致する菌をまず抽出し、その中で上記重複処理を行っている。



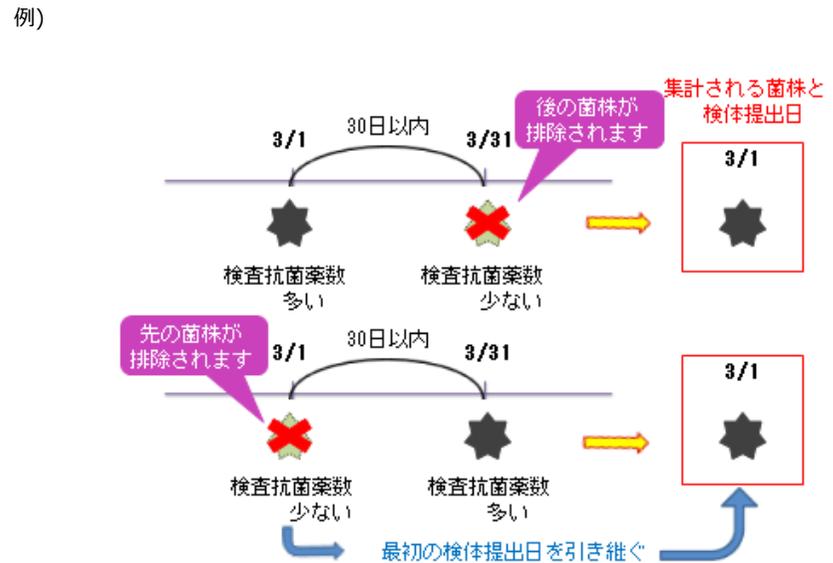
4. 抗菌薬感受性検査結果をもとにした同一菌と異なる菌との区別

30 日以内に同一患者から同一菌が検出された場合であっても、検査抗菌薬感受性結果に 1 つ以上不一致(下記①~④のいずれかに該当)がある場合は異なる菌株として集計される。

- ① MIC 値に 4 倍以上の違いがある
ただし、MIC > 2 は MIC ≥ 4 と考え、判定時は MIC = 4 として扱う
また、MIC < 16 は MIC ≤ 16 と考え、判定時は MIC = 16 として扱う
- ② SIR 判定では「S と R」の組み合わせ
- ③ +/- 判定では「-と++」または「+と+++」または「-と+++」の組み合わせ
- ④ 共通する検査抗菌薬数が 5 未満

5. 抗菌薬感受性結果の重複処理

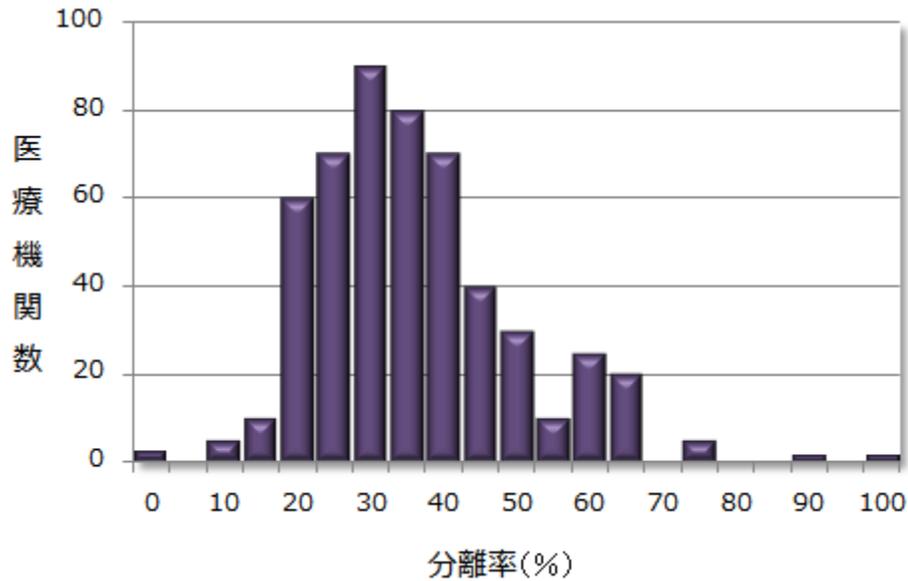
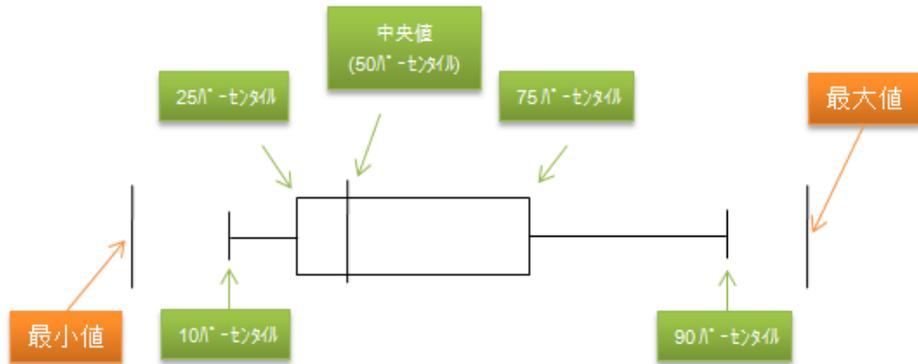
検体提出日が先の菌株の検査抗菌薬数が(30 日以内)の後の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、後の菌株の抗菌薬感受性検査結果は排除する。また、検体提出日が後の菌株の検査抗菌薬数が(30 日以内)の先の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、先の菌株の抗菌薬感受性検査結果を排除するが、先の検査の検体提出日を引き継ぐ。



【巻末資料3 箱ひげ図について】

1. 箱ひげ図について

集計対象医療機関のデータのばらつきを示し、集計対象医療機関における自施設の位置を確認することができる。



※ パーセンタイル：値を小さいものから大きいものへと順番に並べ、全体を 100 として何番目であるかを表したもの。
 例えば、10パーセンタイルは、全体を 100 として小さいほうから数えて 10 番目の計測値を示している。

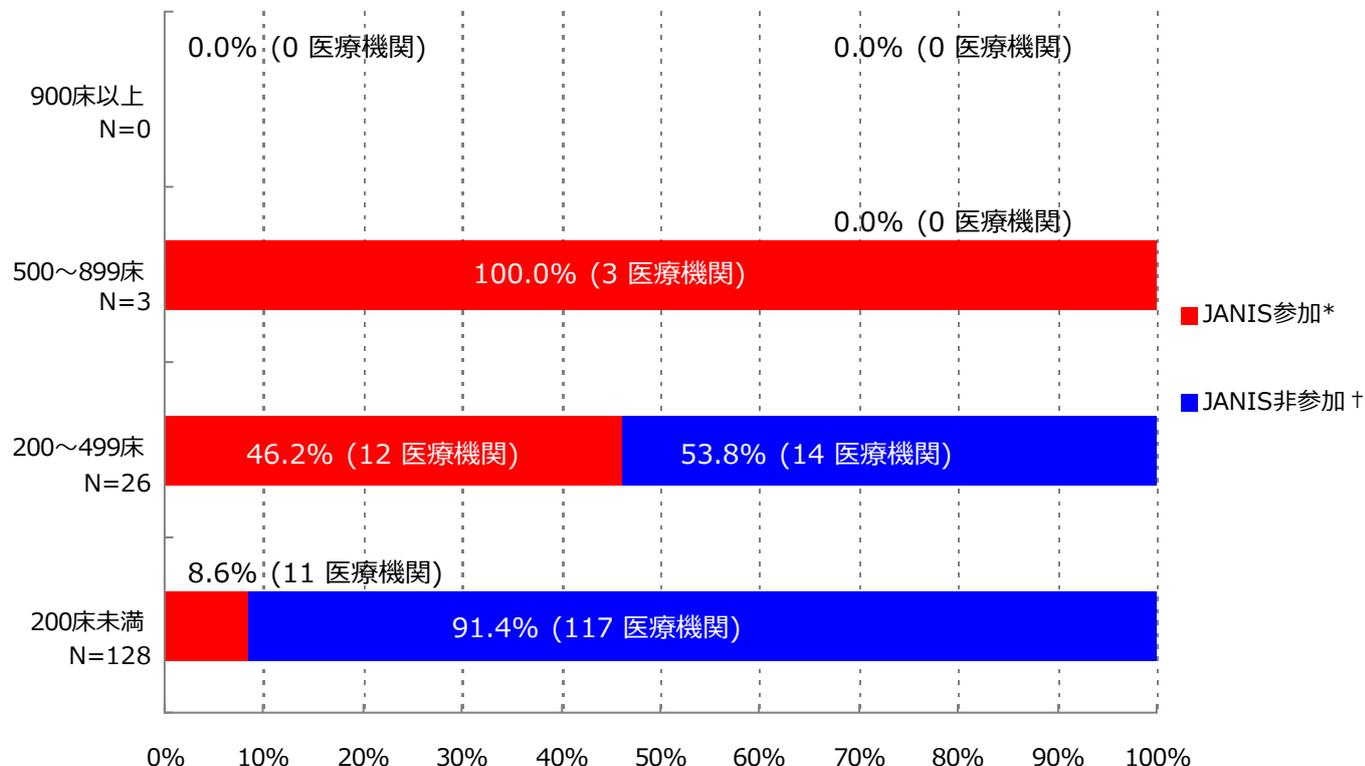
2. 公開情報の箱ひげ図



| | | 集計対象医療機関の分離率 (%)の分布 | |
|----------------------|----------------------|---------------------|-------------|
| 2010年 * | 2011年 | | |
| 1,069,216人 | 1,309,993人 | | |
| 175,145人 (16.38%) | 210,382人 (16.06%) | 2.43 | 15.96 46.06 |
| 47,523人 (4.44%) | 64,588人 (4.93%) | 0.00 | 3.21 37.54 |



1. 集計対象医療機関数(26医療機関)



*JANIS参加 = 2017年1～3月 集計対象医療機関数

† JANIS非参加 = (2016年 都道府県別医療機関数 †) - (2017年1～3月 集計対象医療機関数)

| 病床数 | 2016年 都道府県別医療機関数 † | 2017年1月～3月 集計対象医療機関数 (都道府県別医療機関数に占める割合) | |
|----------|--------------------|--|-----------|
| 900床以上 | 0 | 0 | (0.0%) |
| 500～899床 | 3 | 3 | (100.0%) |
| 200～499床 | 26 | 12 | (46.2%) |
| 200床未満 | 128 | 11 | (8.6%) |
| 病床数不明 | - | 0 | (-) |
| 合計 | 157 | 26 | (16.6%) |

† 平成28年医療施設（動態）調査を参照した

(大分県)

公開情報 2017年1月～3月 四半期報(全集計対象医療機関)

院内感染対策サーベイランス 検査部門

2. 検査材料別集計対象医療機関数、検体数、分離菌数

| 検査材料分類 | 集計対象医療機関数 | 検体数 | 陽性検体数 (分離菌数) |
|--------|-----------|--------|-------------------|
| 呼吸器系検体 | 26 | 4,151 | 3,202 (8,586) |
| 尿検体 | 26 | 1,990 | 1,143 (1,837) |
| 便検体 | 25 | 890 | 407 (892) |
| 血液検体 | 26 | 4,103 | 521 (554) |
| 髄液検体 | 13 | 184 | 6 (6) |
| その他 | 26 | 2,408 | 1,224 (1,983) |
| 合計 | 26 | 13,726 | 6,503 (13,858) |

入院として報告された検体を集計

集計対象菌：コメントのみ(菌名コード9999)の報告以外の全ての菌

検査材料分類は以下に該当する検査材料コードを集計

呼吸器系検体：

101(喀出痰)、102(気管内採痰)、103(気管支洗浄液)、104(咽頭粘液)、105(鼻腔内)、106(口腔内)、
107(生検材料(肺))、109(その他(呼吸器))、404(胸水)

尿検体：

201(自然排尿)、202(採尿カテーテル)、203(留置カテーテル)、206(カテーテル尿(採尿、留置カテの区別不能))

便検体：

301(糞便)

血液検体：

401(静脈血)、402(動脈血)

髄液検体：

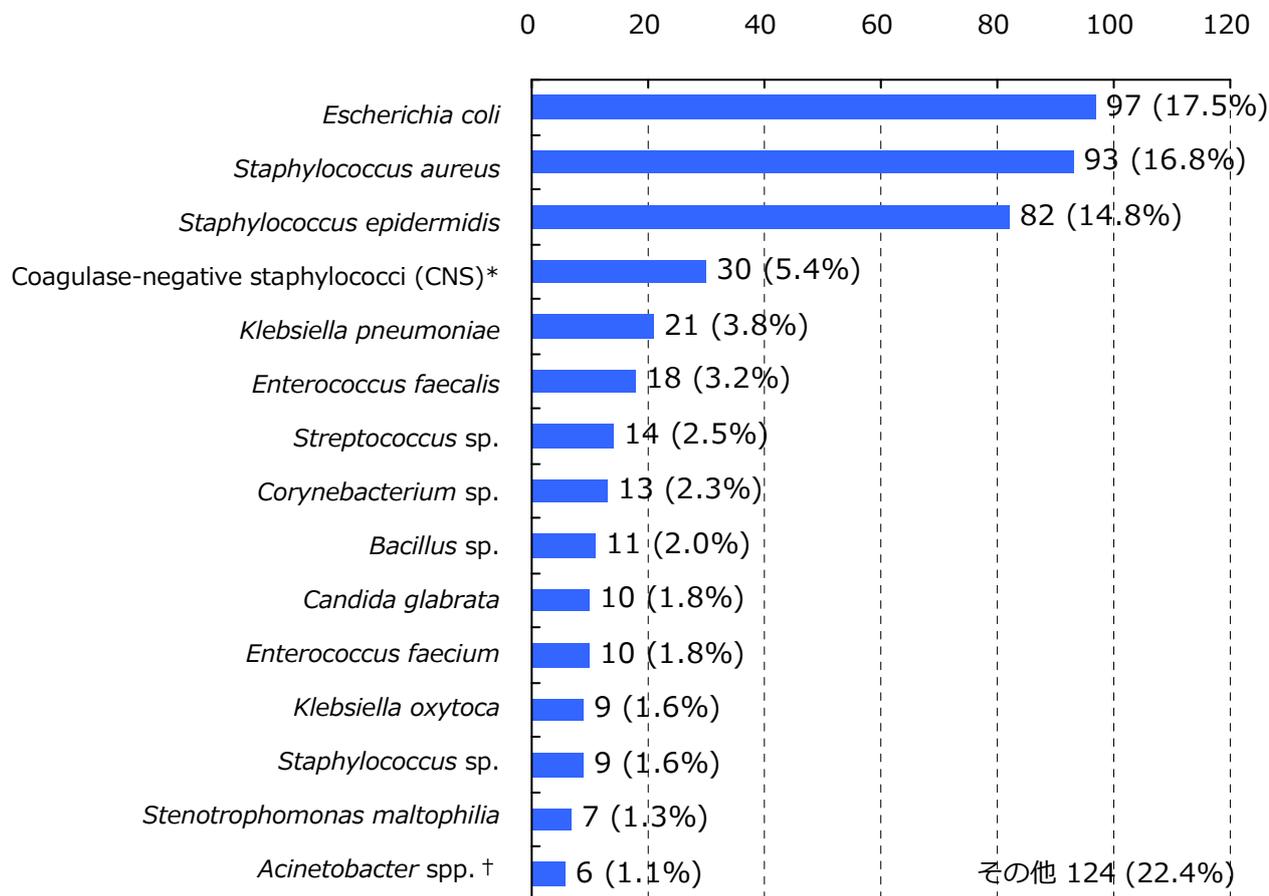
403(髄液)

その他：上記以外の検査材料コード

検査材料コード：JANISホームページ>各部門について>検査部門 <https://janis.mhlw.go.jp/section/kensa.html>

3. 検査材料別分離菌数割合

血液検体分離菌 (N=554)



*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌 (1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外)

†菌名コード：4400～4403と報告された菌

入院として報告された検体を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：静脈血(検査材料コード401)と動脈血(同402)

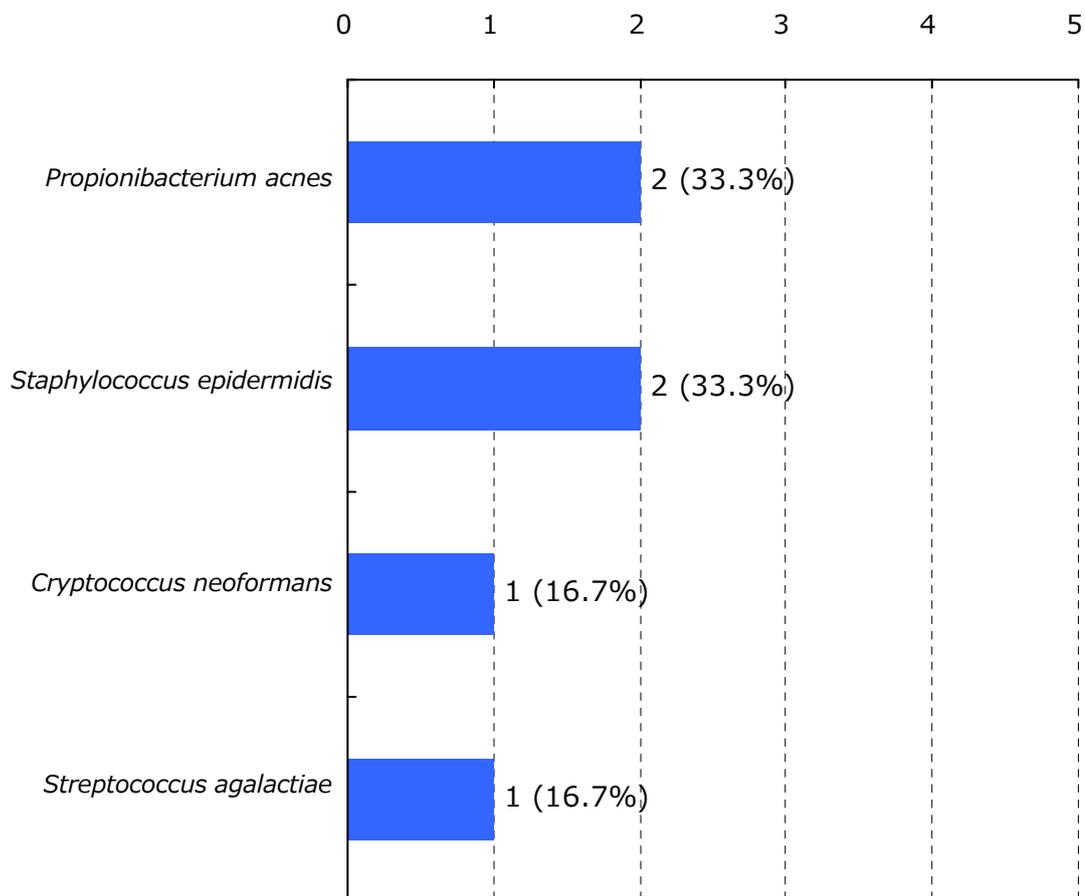
血液検体分離菌数割合 = (対象菌の血液検体分離菌数) ÷ (血液検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <https://janis.mhlw.go.jp/section/kensa.html>

3. 検査材料別分離菌数割合

髄液検体分離菌 (N=6)



入院として報告された検体を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：髄液(検査材料コード403)

髄液検体分離菌数割合 = (対象菌の髄液検体分離菌数) ÷ (髄液検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <https://janis.mhlw.go.jp/section/kensa.html>

4. 主要菌分離患者数*と全医療機関†の分離率分布

| | 検体提出・菌分離患者数 全体の分離率‡ | 集計対象医療機関の 分離率¶(%)の分布 |
|---------------------------|------------------------|-------------------------|
| 検体提出患者数 | 5,795人 | |
| <i>S. aureus</i> | 1,102人 (19.02%) | 6.58 19.64 45.36 |
| <i>S. epidermidis</i> | 250人 (4.31%) | 0.00 3.24 14.38 |
| <i>S. pneumoniae</i> | 86人 (1.48%) | 0.00 1.28 4.76 |
| <i>E. faecalis</i> | 342人 (5.90%) | 0.00 5.06 10.82 |
| <i>E. faecium</i> | 155人 (2.67%) | 0.00 2.64 7.84 |
| <i>E. coli</i> | 821人 (14.17%) | 1.89 14.81 30.00 |
| <i>K. pneumoniae</i> | 299人 (5.16%) | 0.00 4.31 9.80 |
| <i>Enterobacter spp.</i> | 168人 (2.90%) | 0.00 2.49 5.66 |
| <i>S. marcescens</i> | 169人 (2.92%) | 0.00 1.26 22.42 |
| <i>P. aeruginosa</i> | 555人 (9.58%) | 1.20 7.09 45.88 |
| <i>Acinetobacter spp.</i> | 158人 (2.73%) | 0.00 1.38 21.39 |

入院として報告された検体を集計

*分離患者数と検体提出患者数は30日ごとに重複処理(巻末参照)している

†ここでは全医療機関は集計対象医療機関を表す

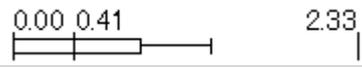
‡ここでの分離率は全体の分離率を表す

全体の分離率

= (集計対象医療機関の対象菌の分離患者数合計) ÷ (集計対象医療機関の検体提出患者数合計) × 100

¶分離率 = (対象菌の分離患者数) ÷ (検体提出患者数) × 100

5. 特定の耐性菌分離患者数*と全医療機関†の分離率分布

| | 検体提出・菌分離患者数 全体の分離率‡ | 集計対象医療機関の 分離率¶(%)の分布 |
|------------------------|------------------------|--|
| 検体提出患者数 | 5,795人 | |
| メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA) | 740人 (12.77%) | 4.53 13.80 39.95  |
| バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌(VRSA) | 0人 (0.00%) | 0.00  |
| バンコマイシン耐性腸球菌(VRE) | 0人 (0.00%) | 0.00  |
| ペニシリン耐性肺炎球菌(PRSP) | 35人 (0.60%) | 0.00 0.41 2.33  |
| 多剤耐性緑膿菌(MDRP) | 3人 (0.05%) | 0.00 0.00 0.77  |
| 多剤耐性アシネトバクター属(MDRA) | 0人 (0.00%) | 0.00  |
| カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE) | 13人 (0.22%) | 0.00 0.00 0.82  |
| カルバペネム耐性緑膿菌 | 99人 (1.71%) | 0.00 0.95 10.05  |
| 第三世代セファロスポリン耐性肺炎桿菌 | 25人 (0.43%) | 0.00 0.00 2.84  |
| 第三世代セファロスポリン耐性大腸菌 | 186人 (3.21%) | 0.00 2.97 14.69  |
| フルオロキノロン耐性大腸菌 | 360人 (6.21%) | 0.00 5.48 20.83  |

入院検体でかつ、検査法が原則微量液体希釈法又はEtestと設定されたMIC値が報告されている検体を集計

MRSAとVREは検査法によらず菌名コードで指定された場合はそれらを含む

*分離患者数と検体提出患者数は30日ごとに重複処理(巻末参照)している

†ここでは全医療機関は集計対象医療機関を表す

‡ここでの分離率は全体の分離率を表す

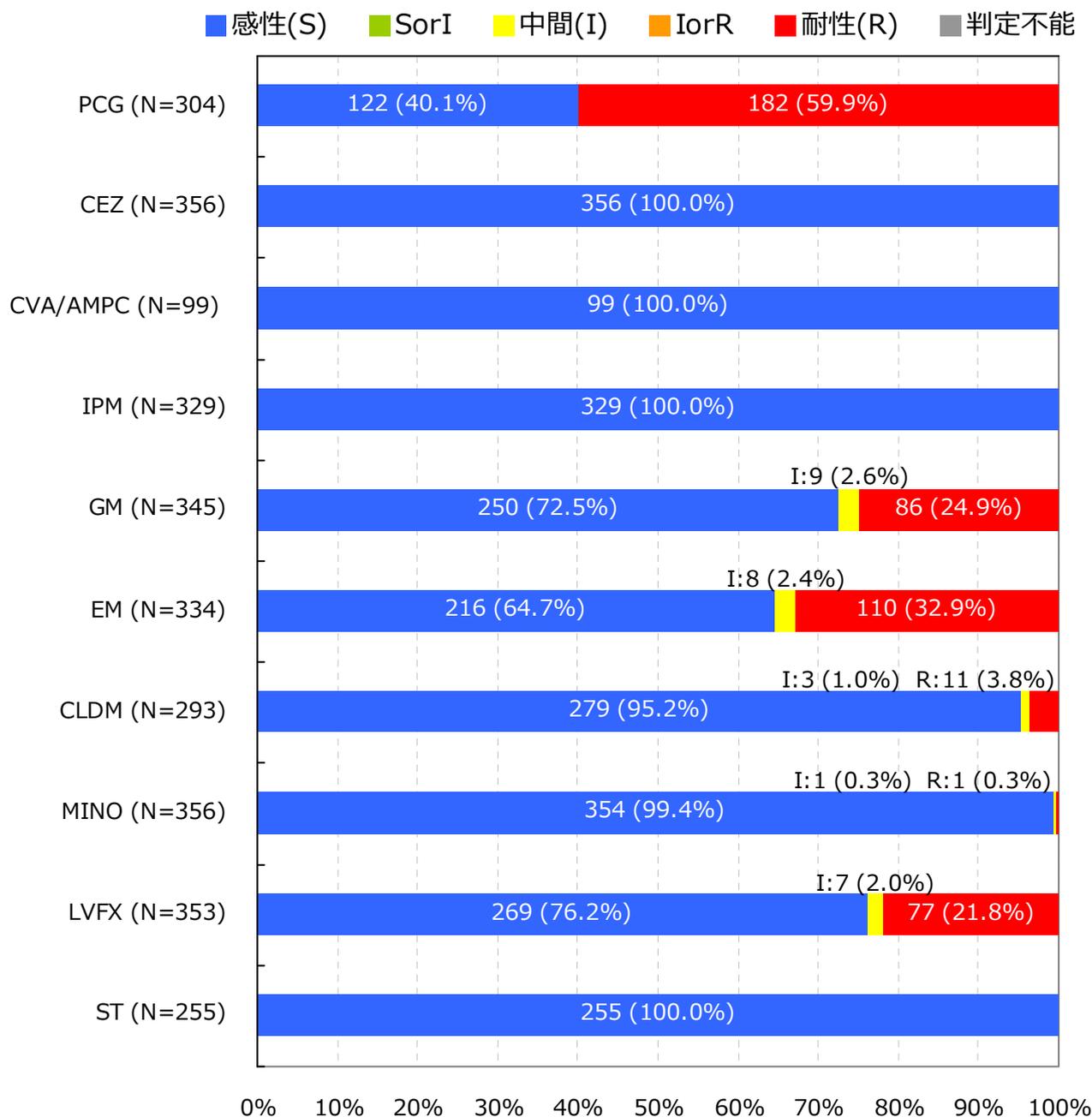
全体の分離率

$$= (\text{集計対象医療機関の対象菌の分離患者数合計}) \div (\text{集計対象医療機関の検体提出患者数合計}) \times 100$$

$$¶\text{分離率} = (\text{対象菌の分離患者数}) \div (\text{検体提出患者数}) \times 100$$

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Staphylococcus aureus (MSSA) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

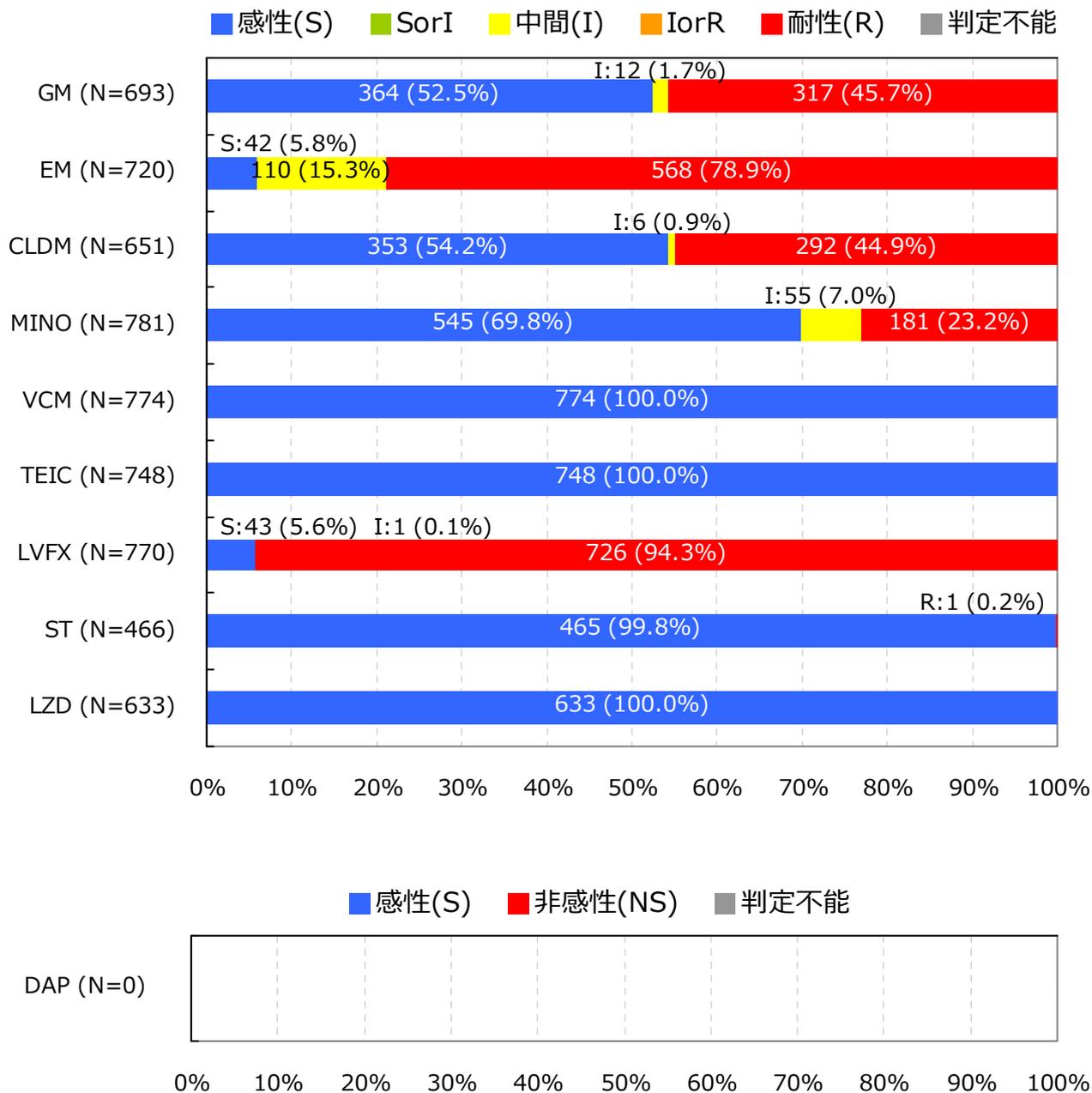
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1304, 1305, 1306と報告された菌および菌名コード : 1301と報告され抗菌薬コード : 1208 (オキサシリン) の感受性結果「S」の菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Staphylococcus aureus (MRSA) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

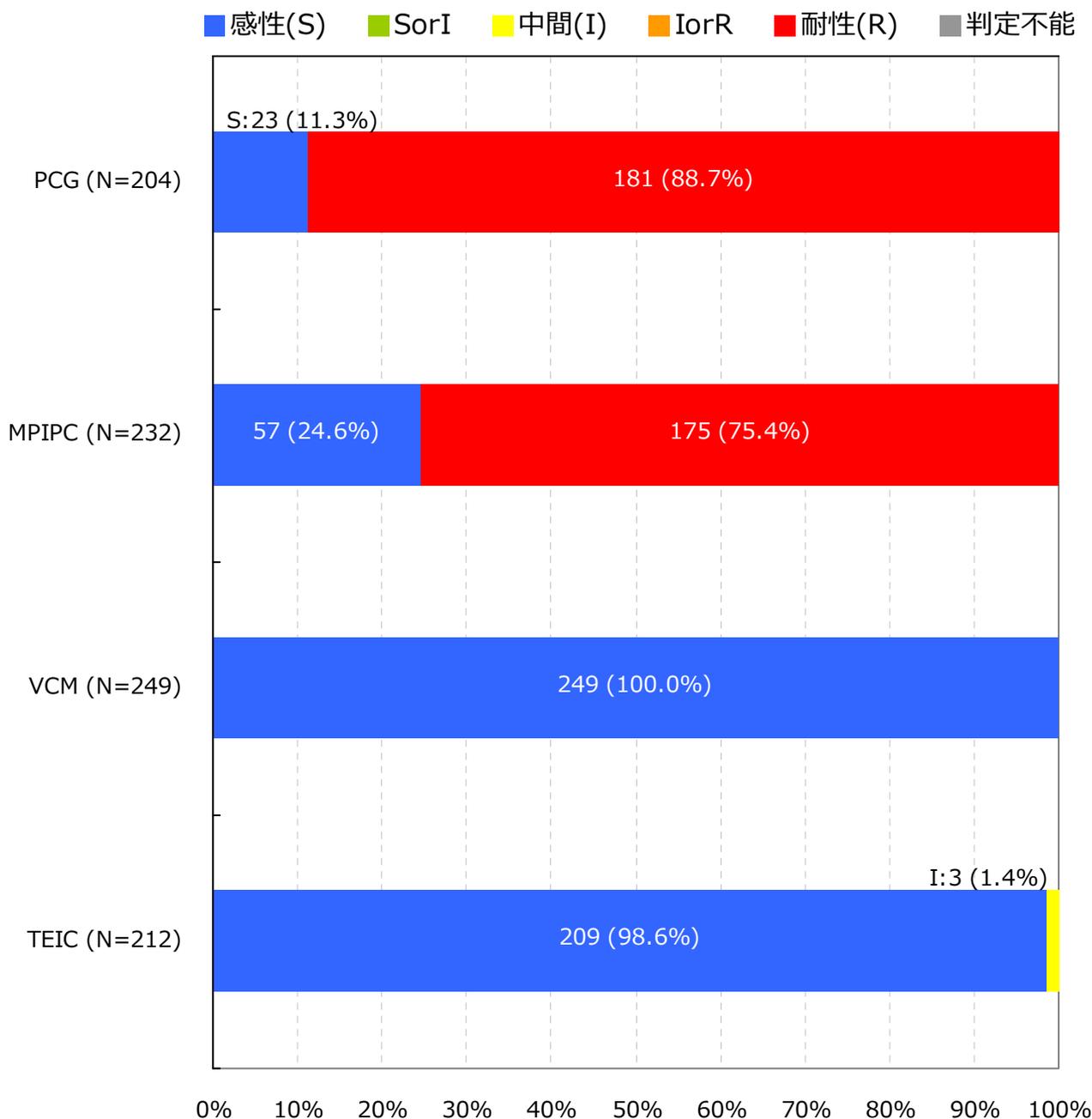
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1303と報告された菌および菌名コード : 1301と報告され抗菌薬コード : 1208 (オキサシリン) の感受性結果「R」の菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Staphylococcus epidermidis †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

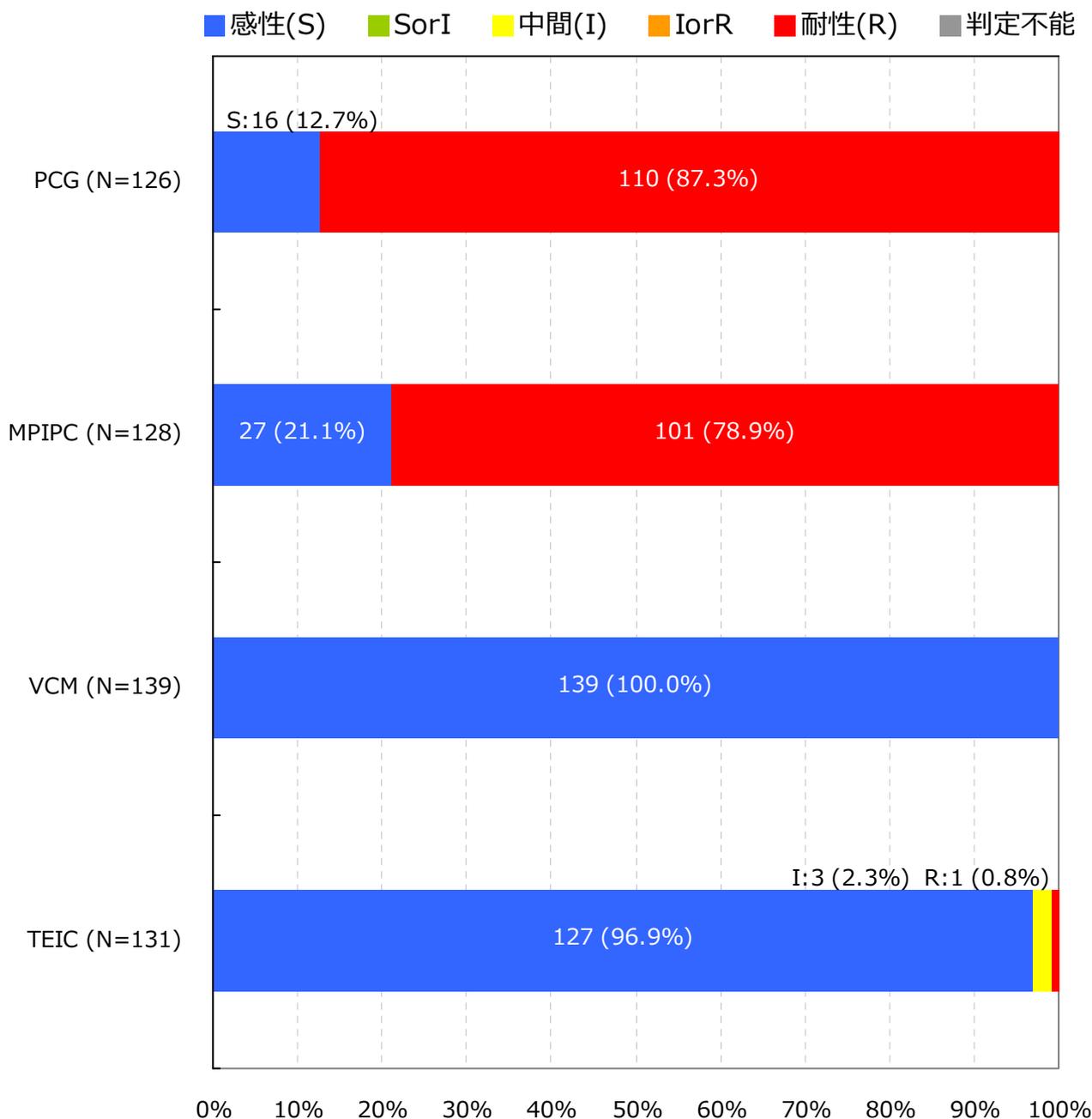
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1312と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Coagulase-negative staphylococci (CNS) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

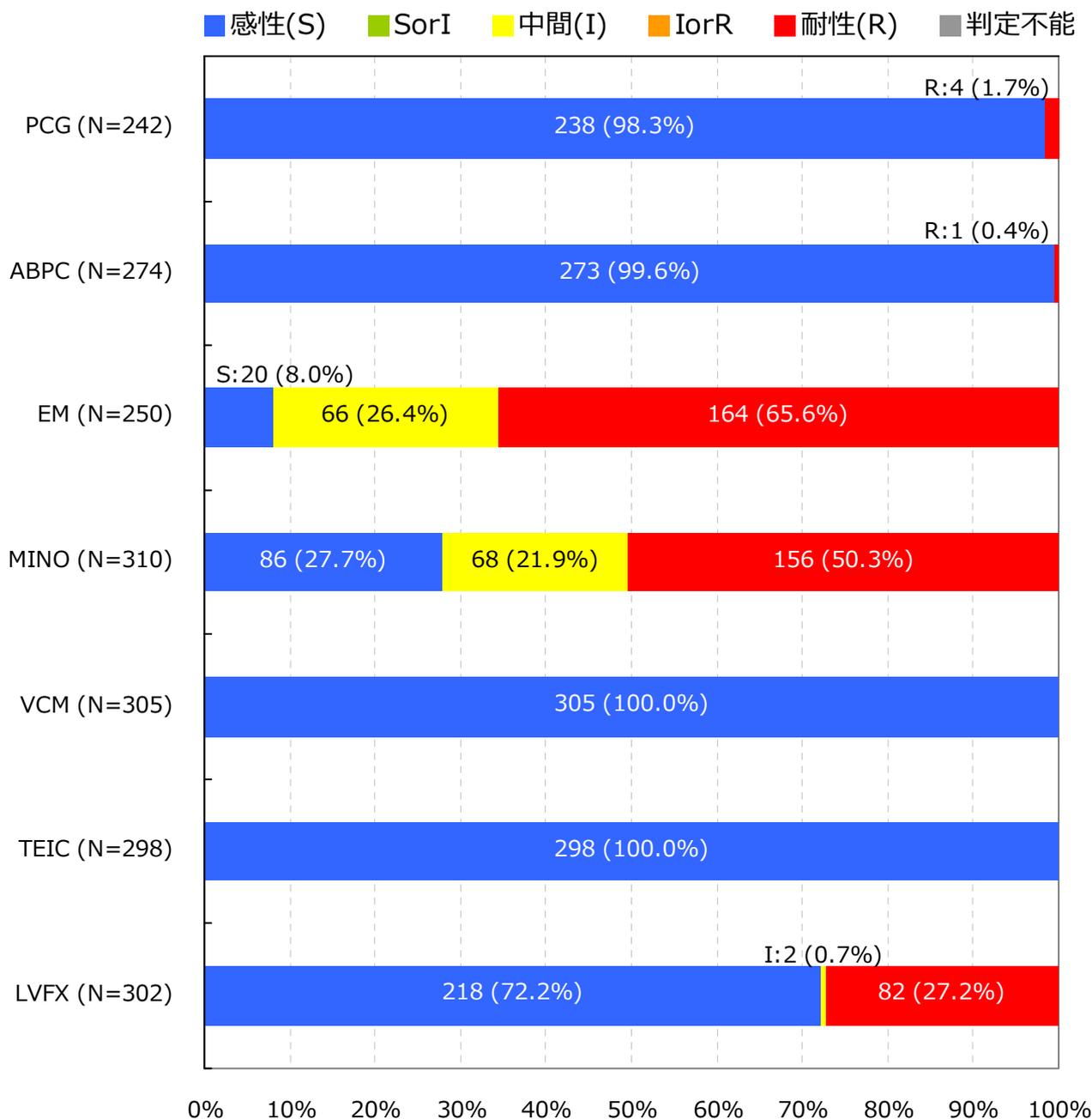
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1311, 1313~1325と報告された菌 (1312 : *Staphylococcus epidermidis*は対象外)

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Enterococcus faecalis †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

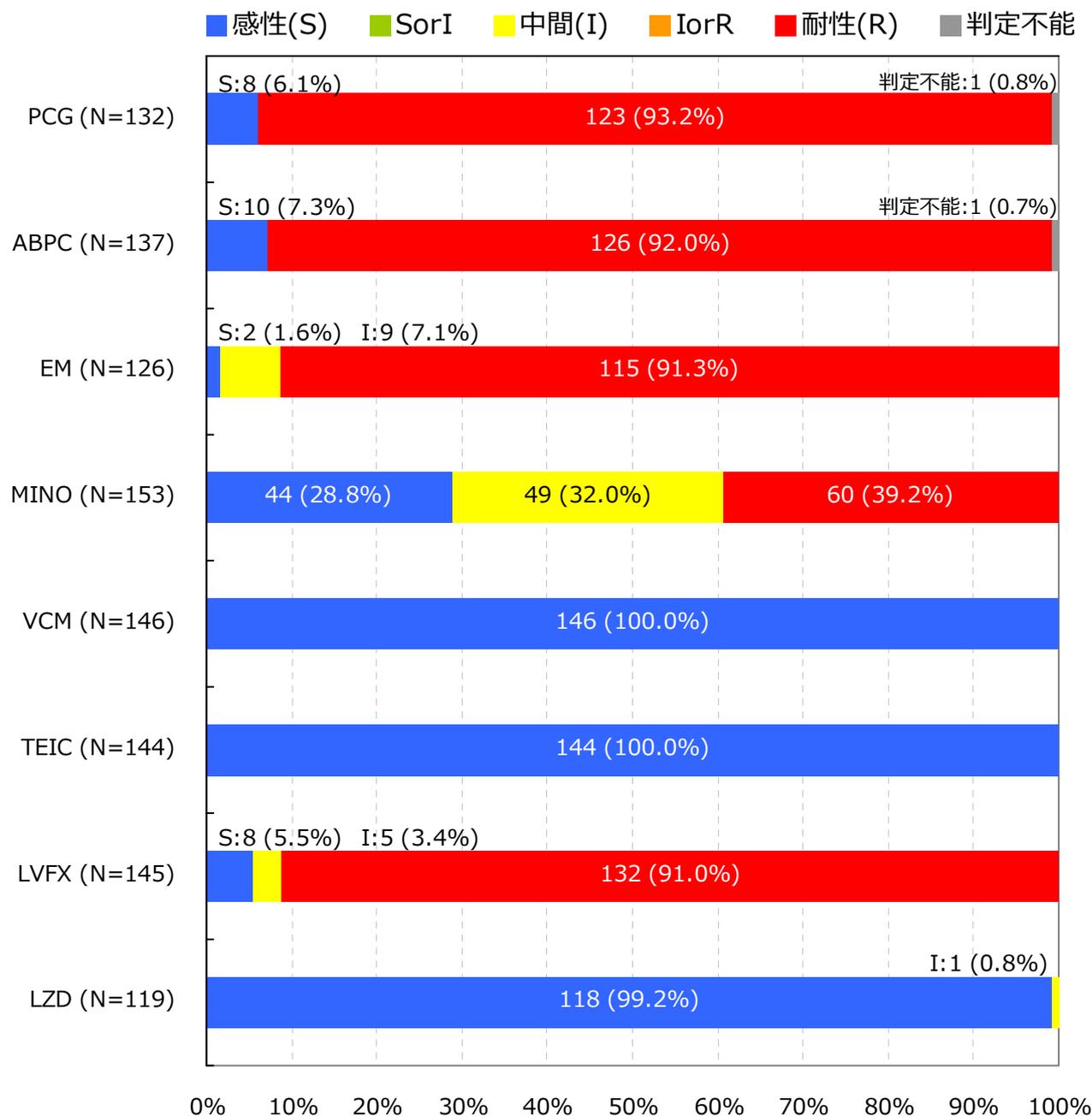
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1201, 1202と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Enterococcus faecium †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1205, 1206と報告された菌

(大分県)

公開情報 2017年1月～3月 四半期報(全集計対象医療機関)

院内感染対策サーベイランス 検査部門

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Streptococcus pneumoniae(髄液検体) †

報告はありませんでした

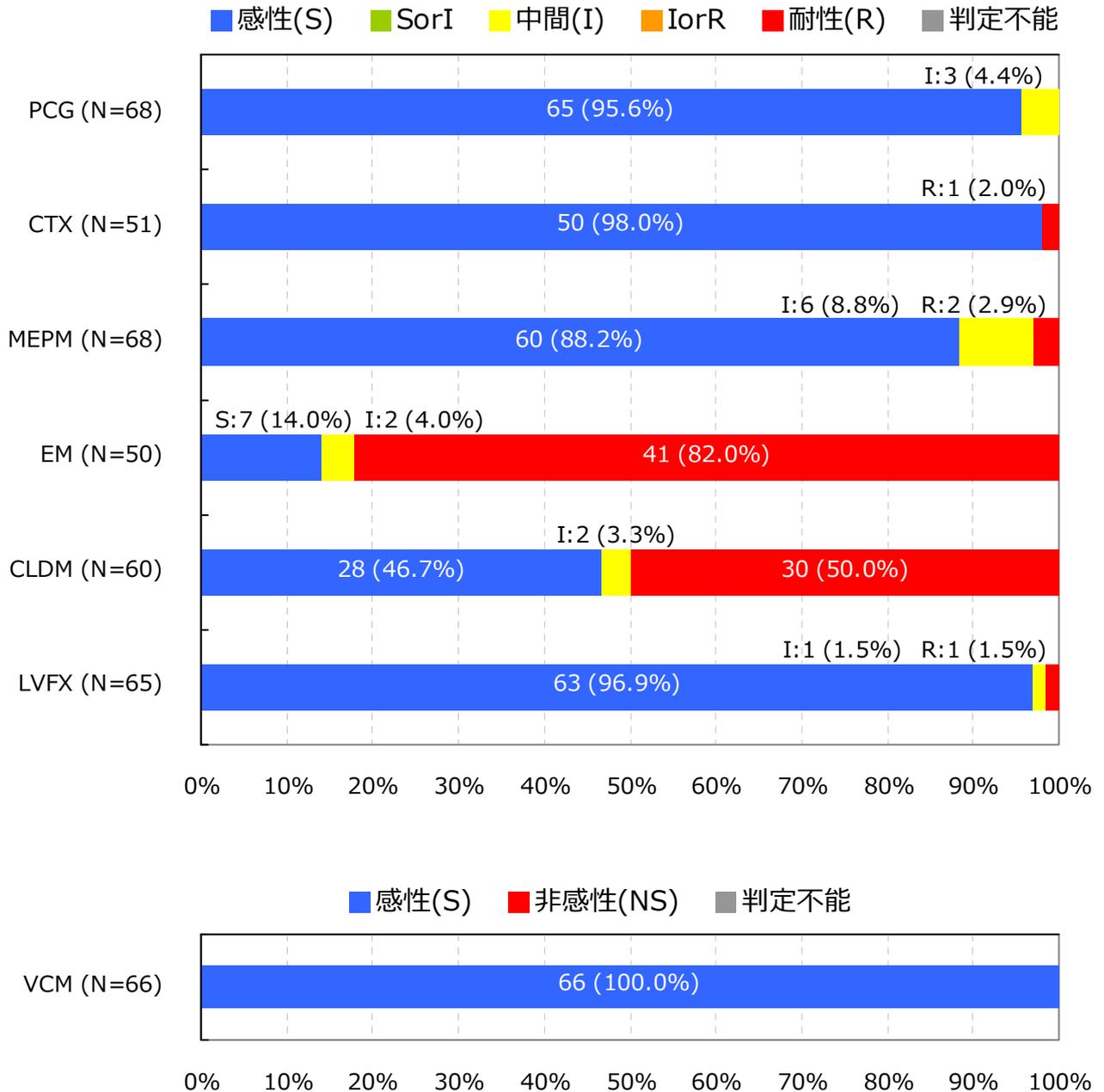
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1131と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Streptococcus pneumoniae(髄液検体以外) †



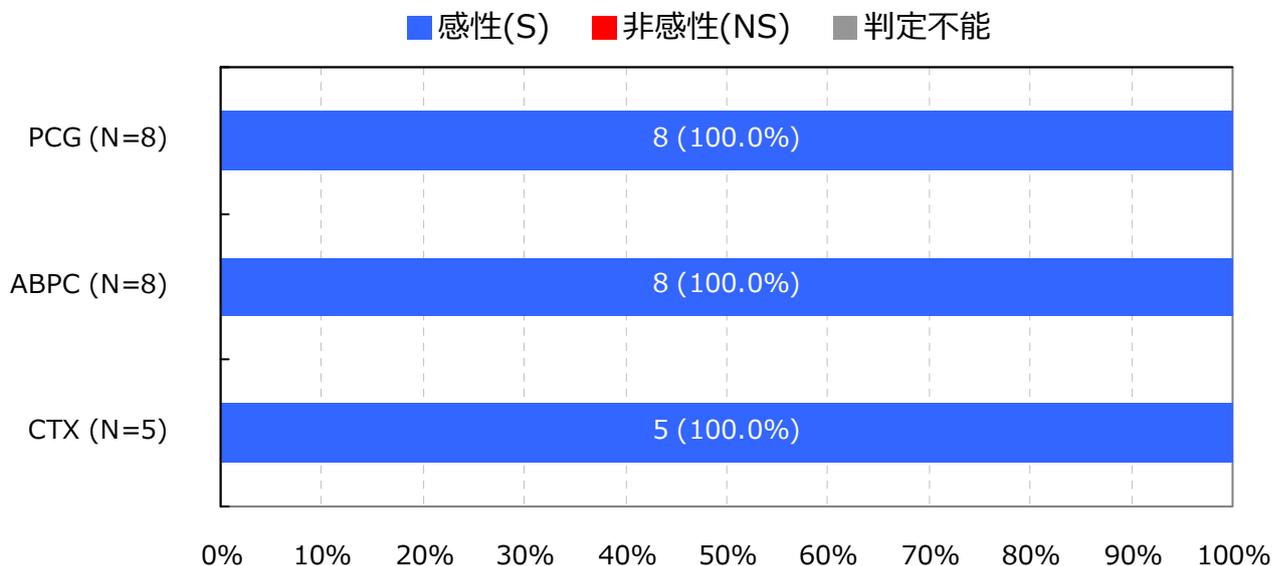
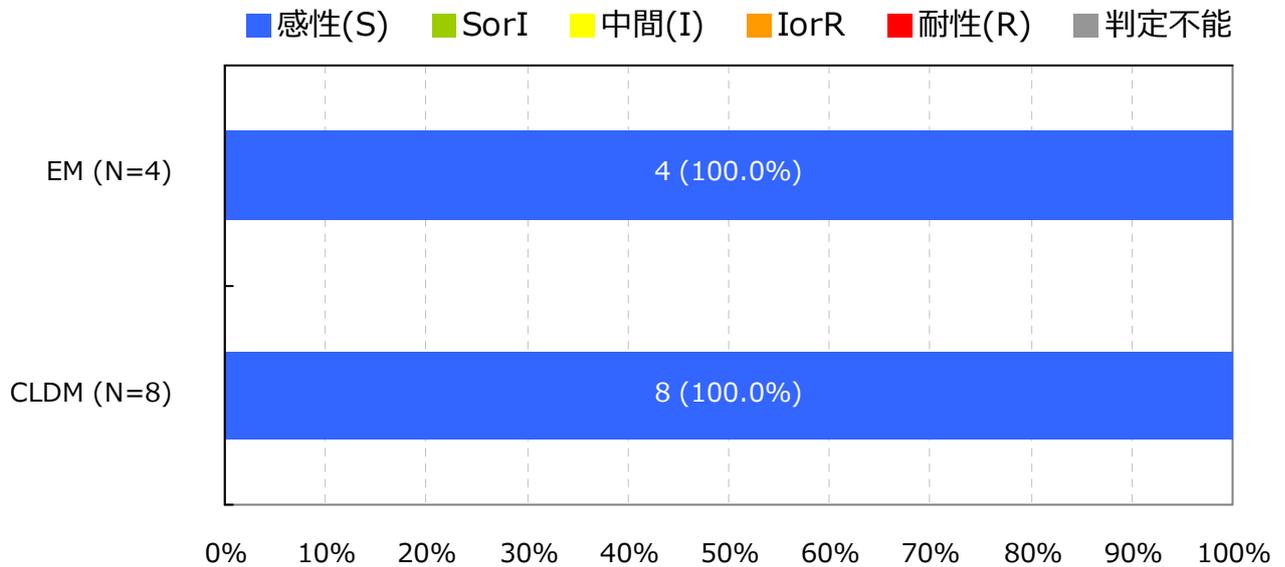
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1131と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Streptococcus pyogenes †



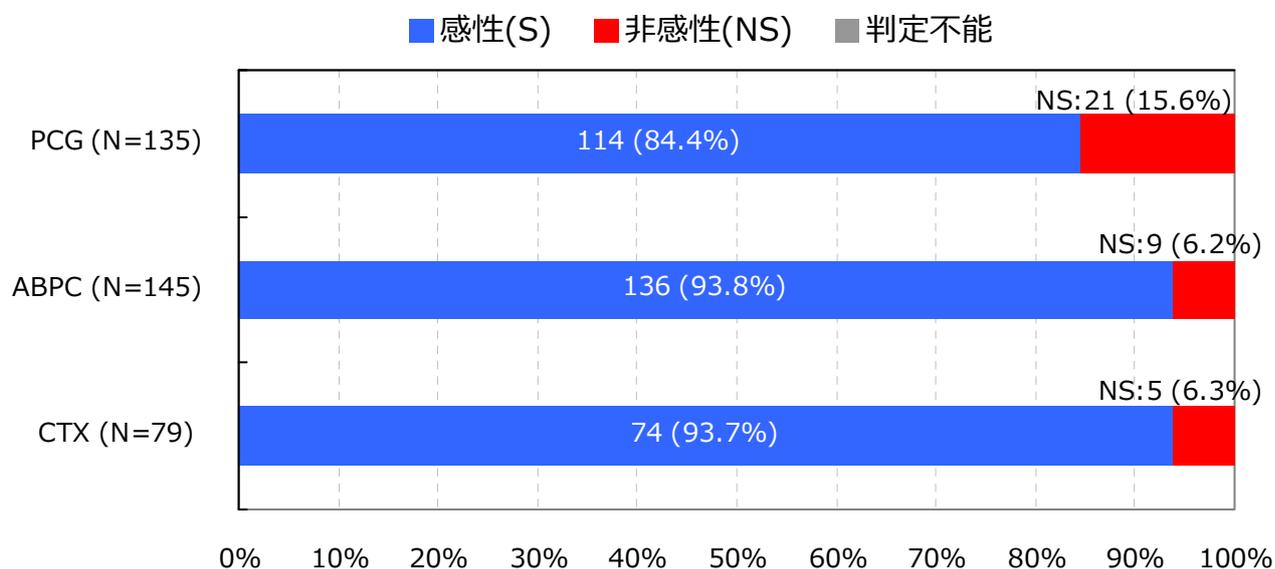
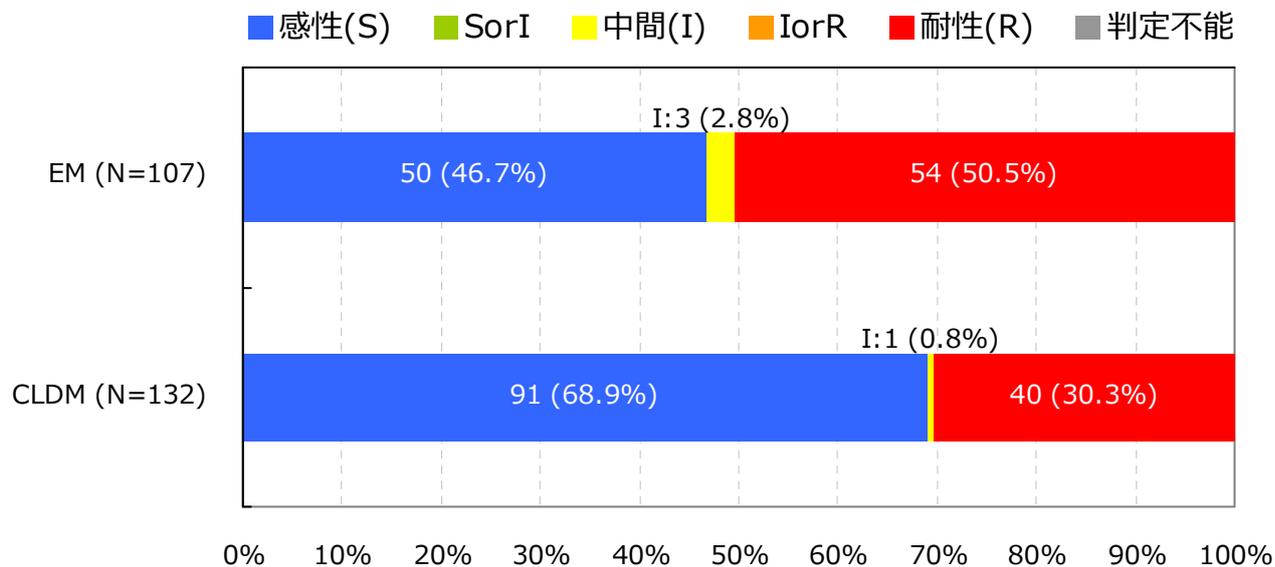
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1111と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Streptococcus agalactiae †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

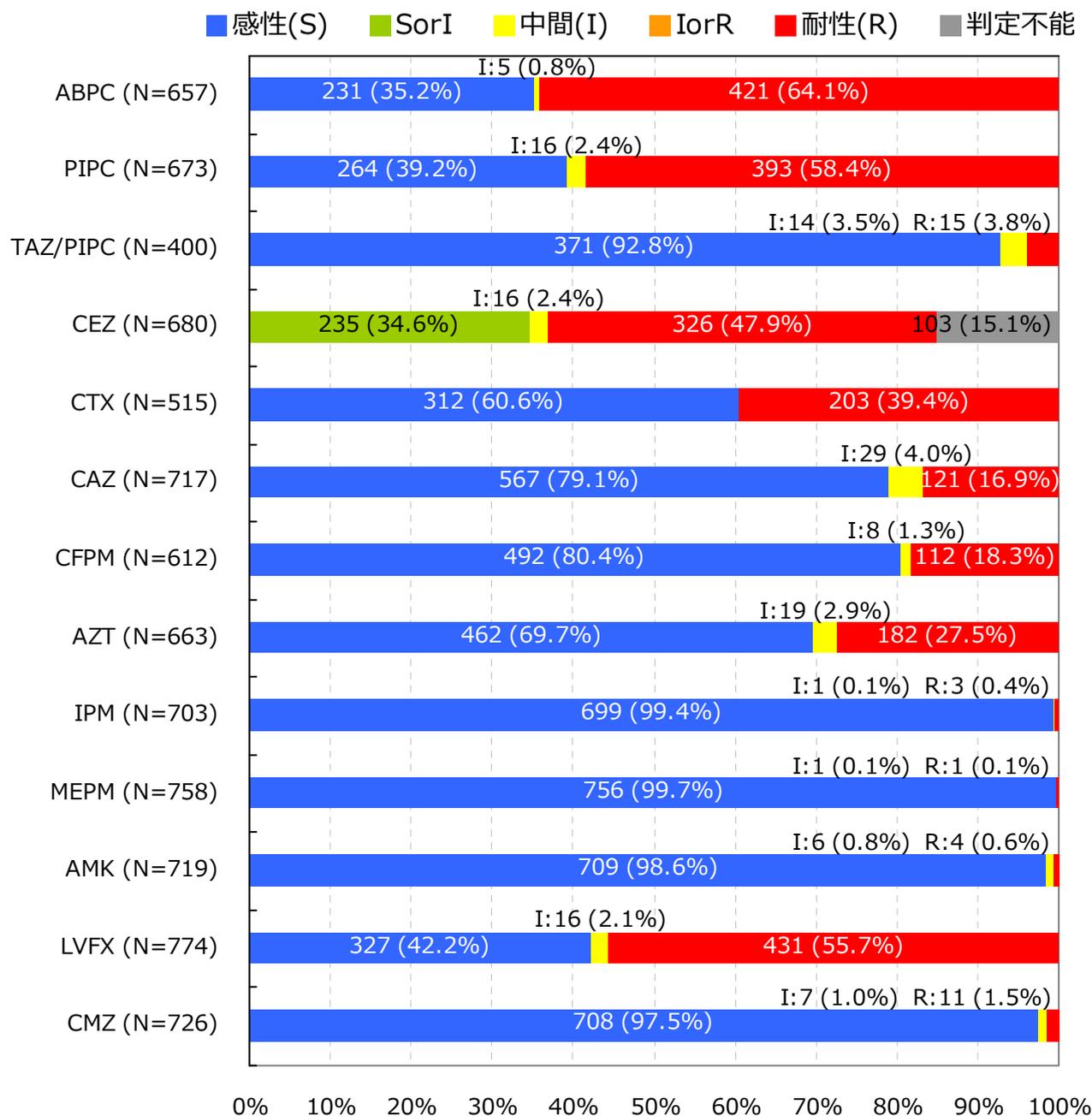
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1114と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Escherichia coli †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

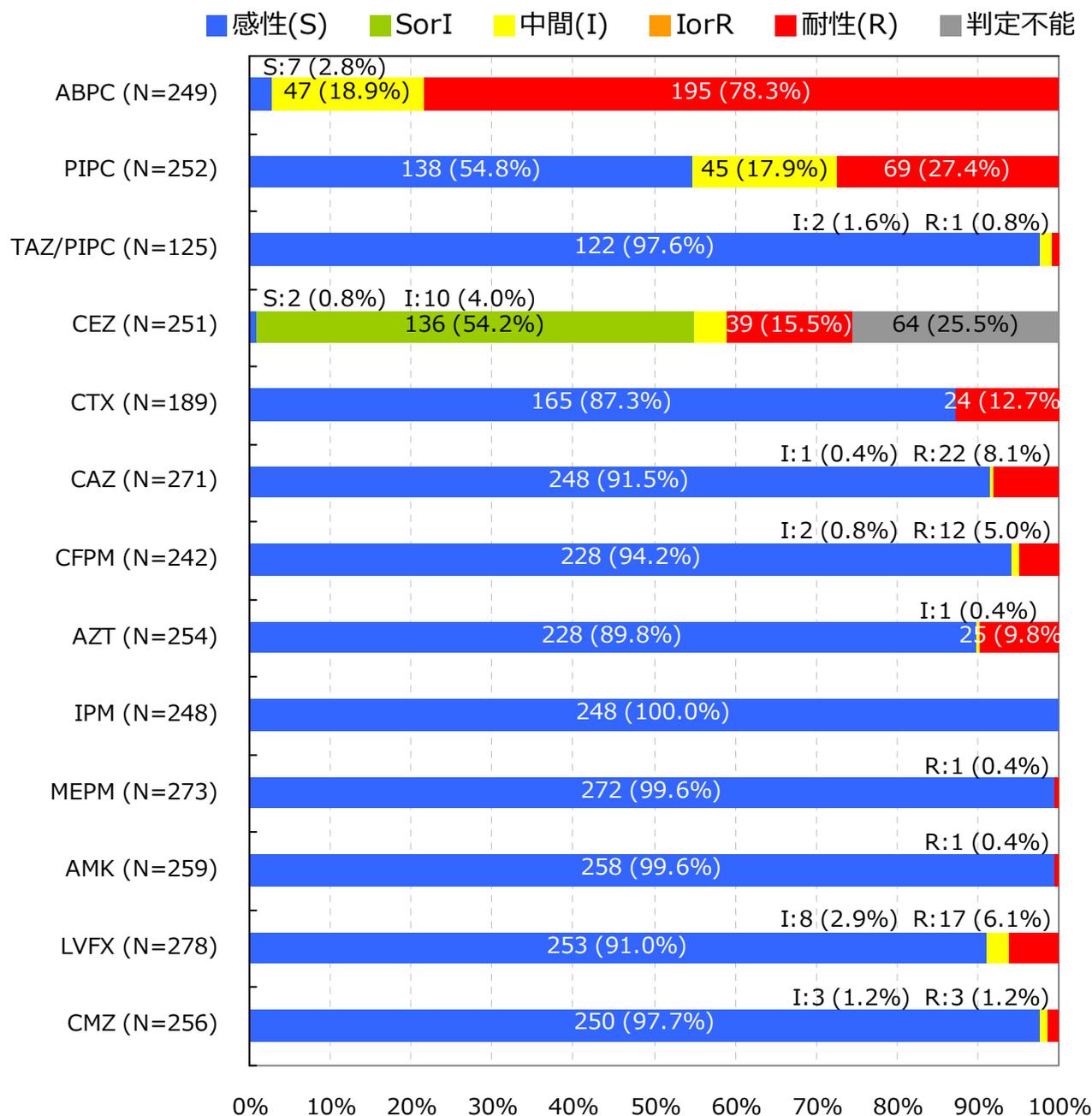
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 2001~2007と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Klebsiella pneumoniae †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

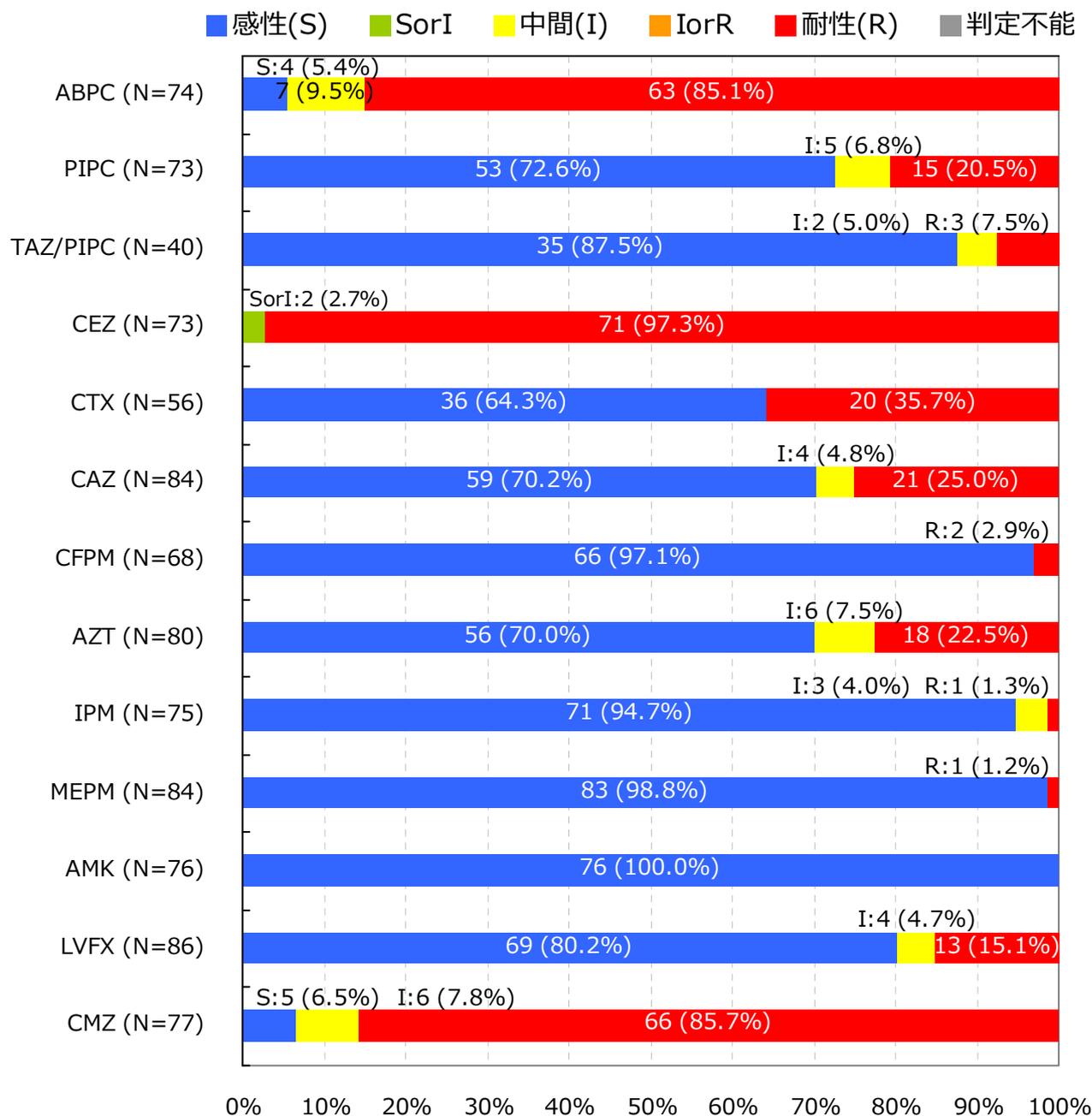
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 2351と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Enterobacter cloacae †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

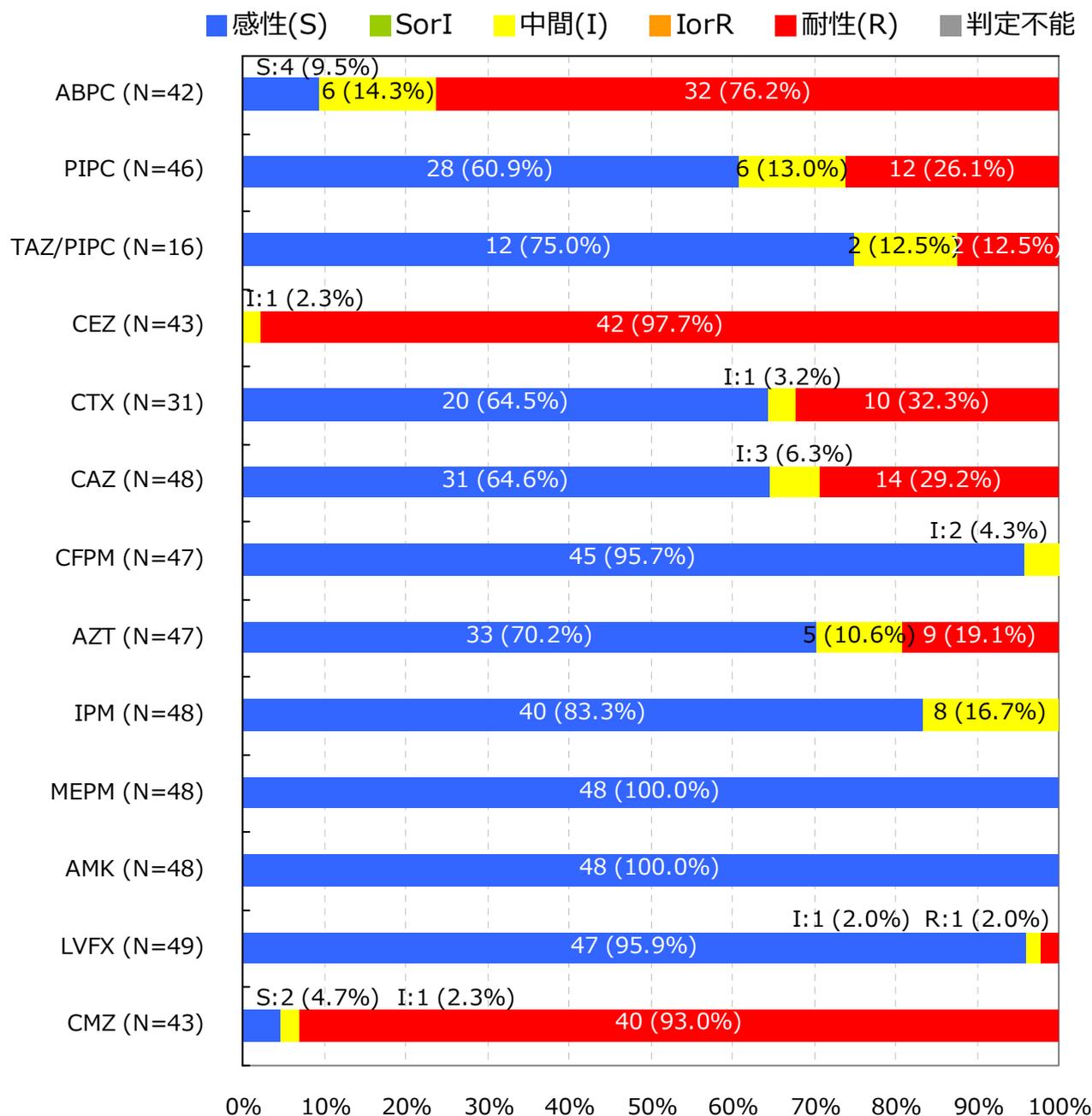
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 2151と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Enterobacter aerogenes †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

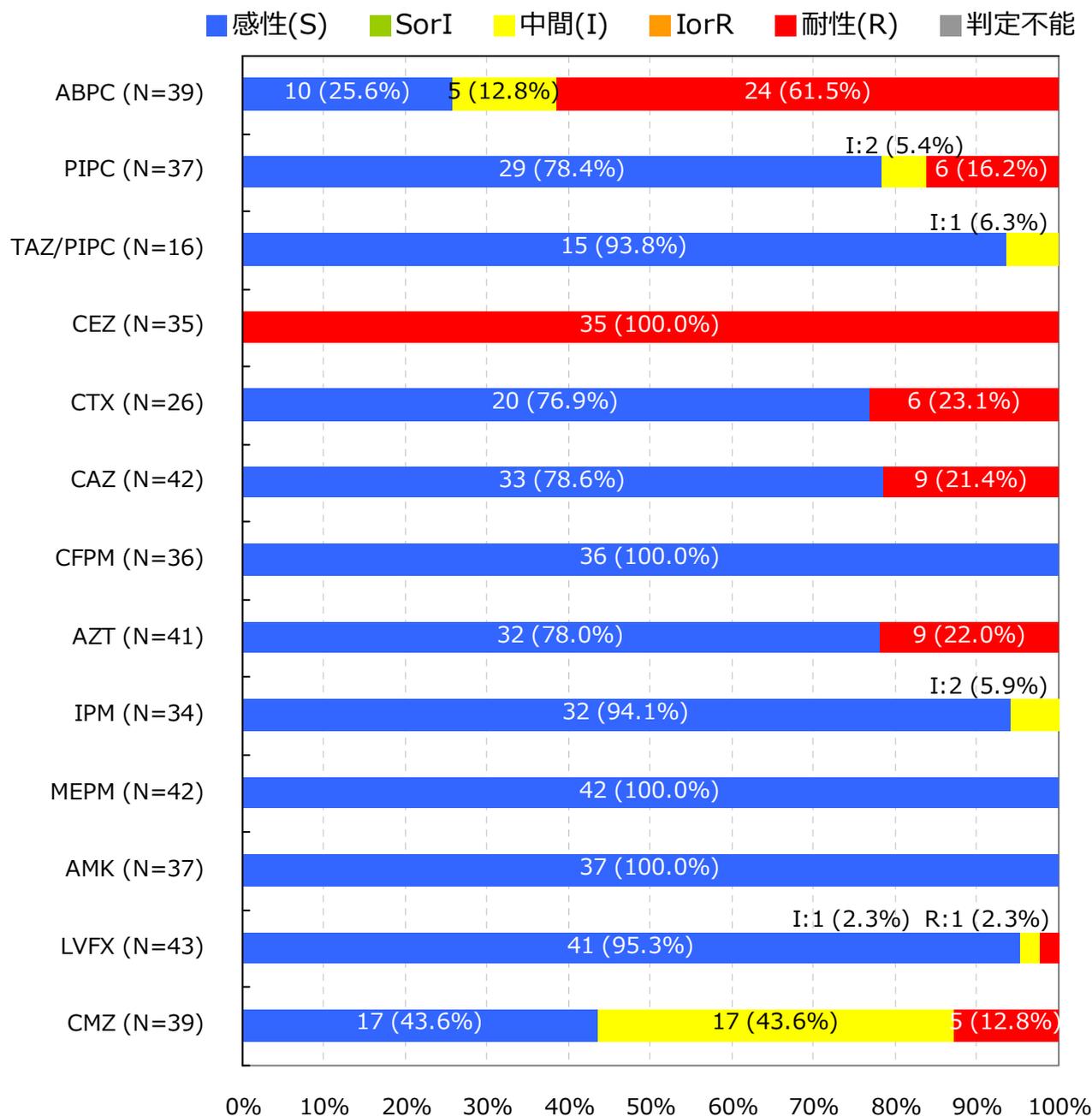
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 2152と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Citrobacter freundii †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

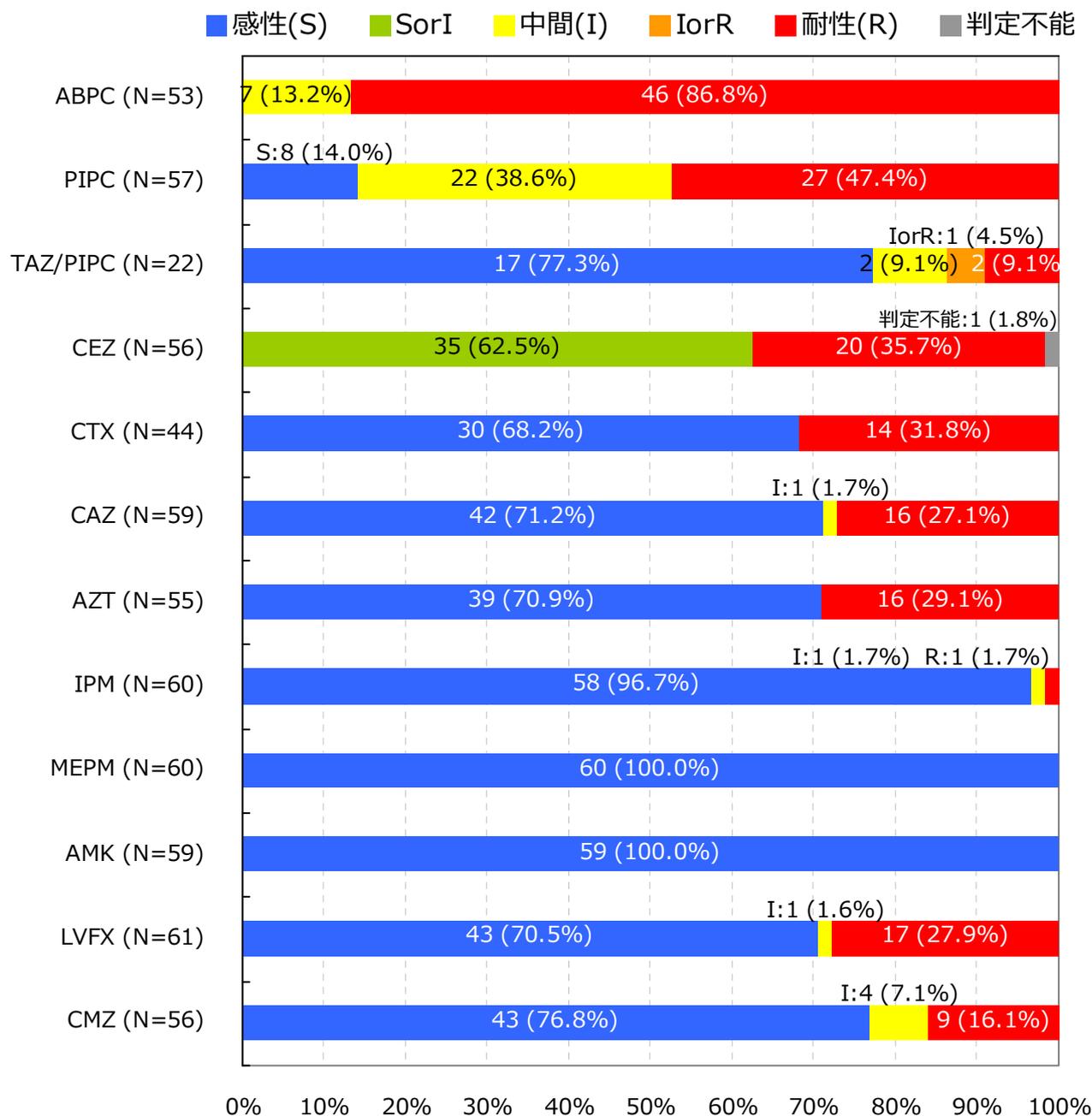
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2051と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Citrobacter koseri †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

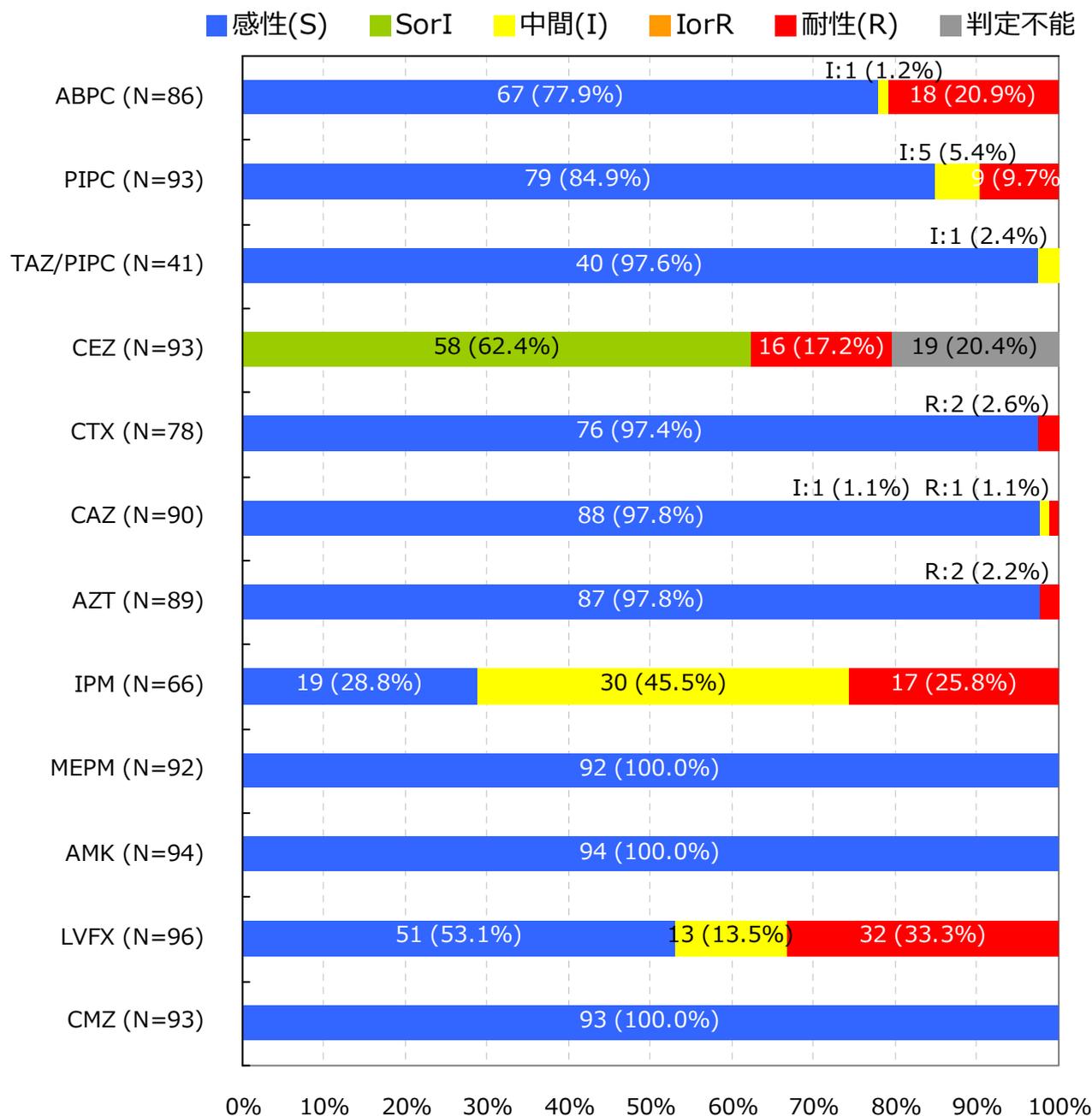
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2052と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Proteus mirabilis †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

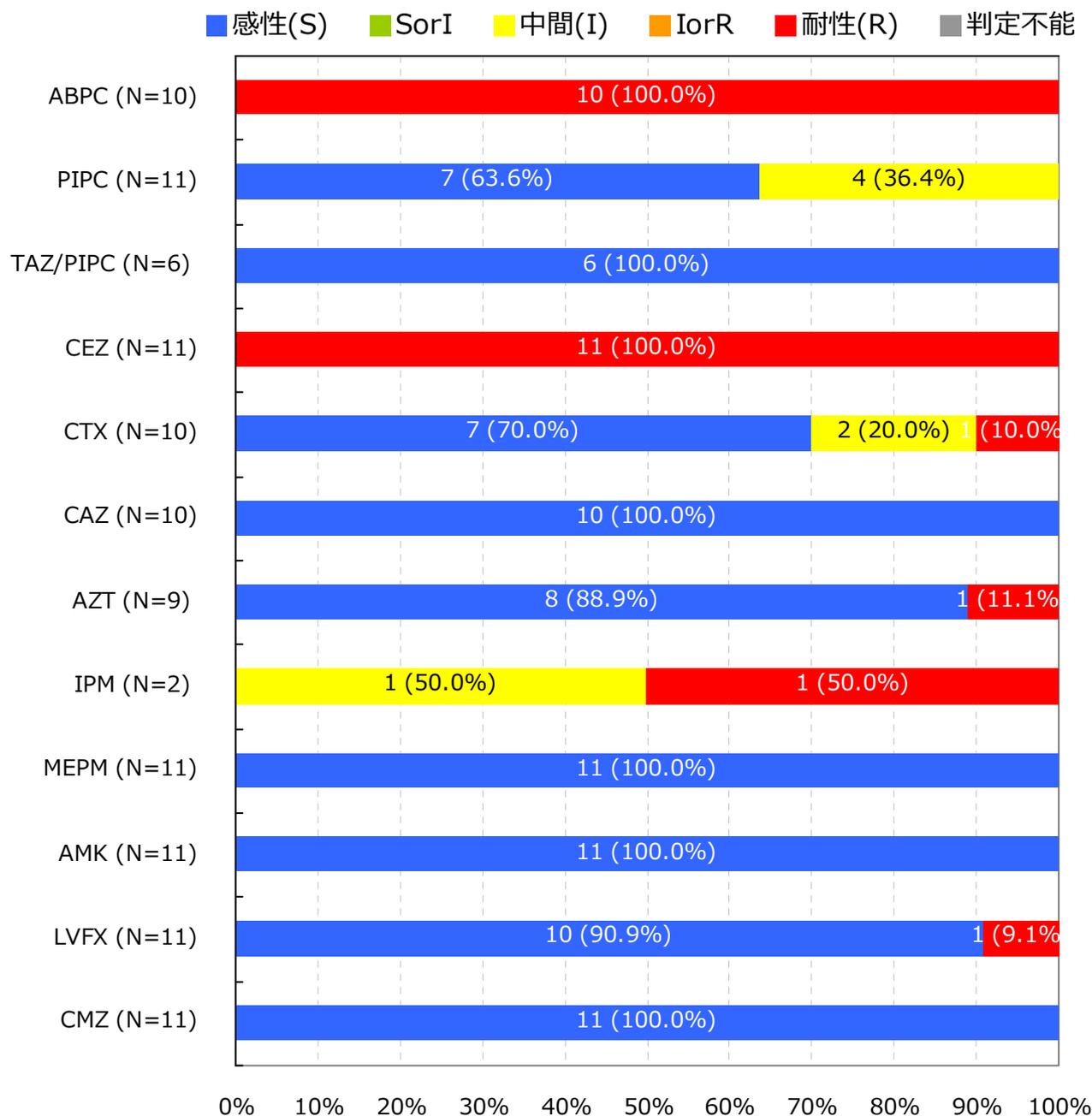
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2201と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Proteus vulgaris †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

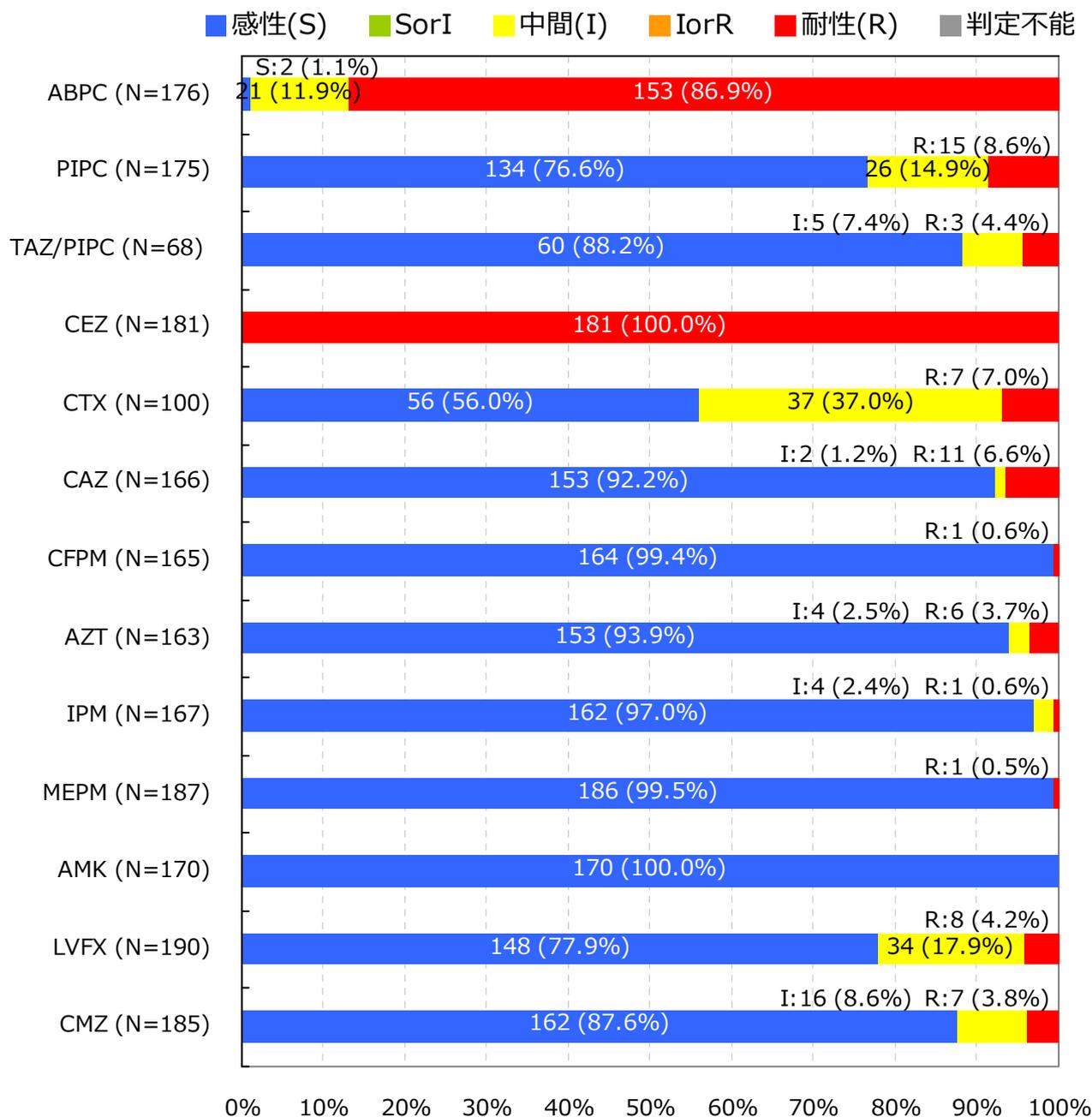
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2202と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Serratia marcescens †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

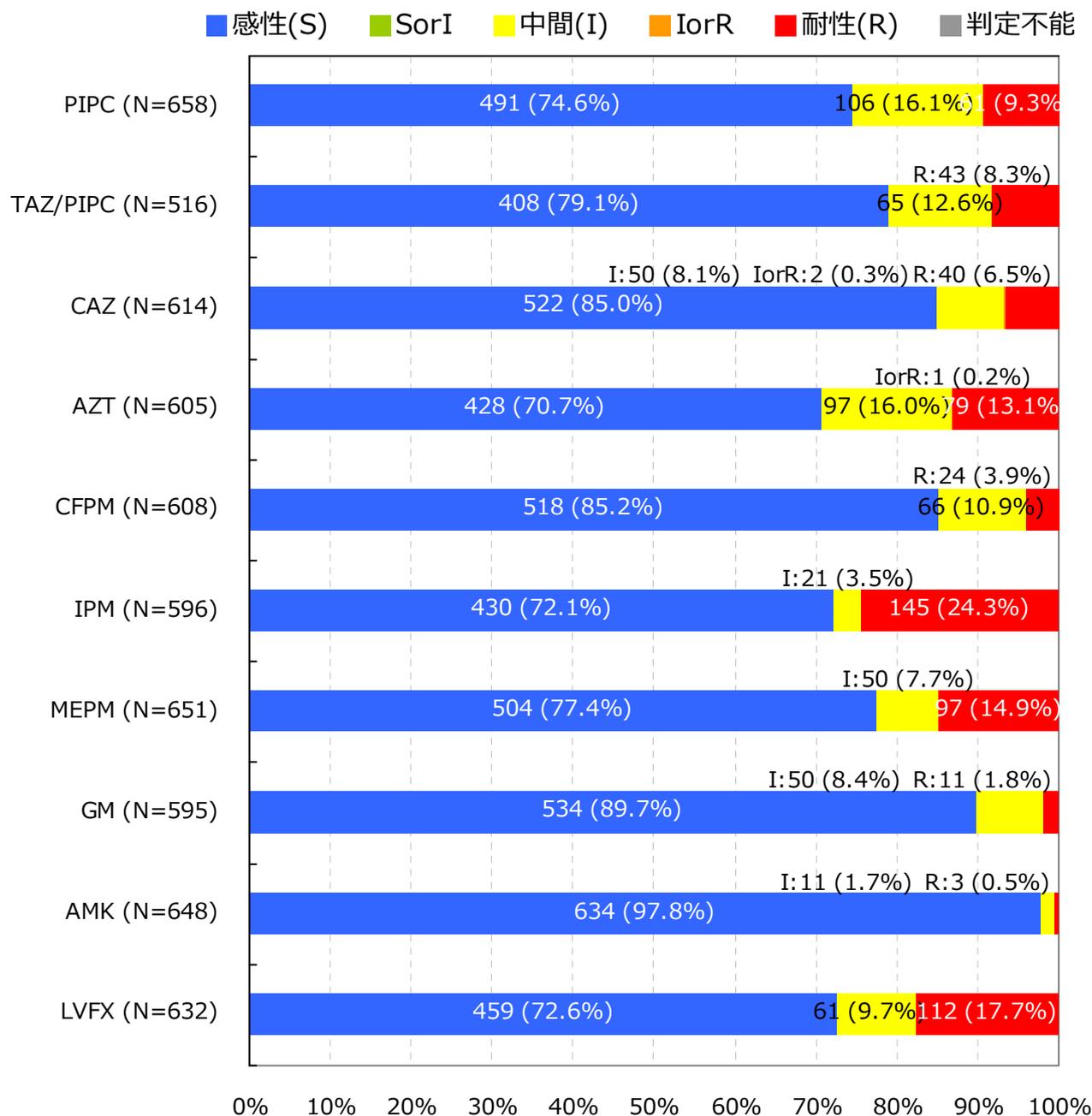
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2101と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Pseudomonas aeruginosa †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

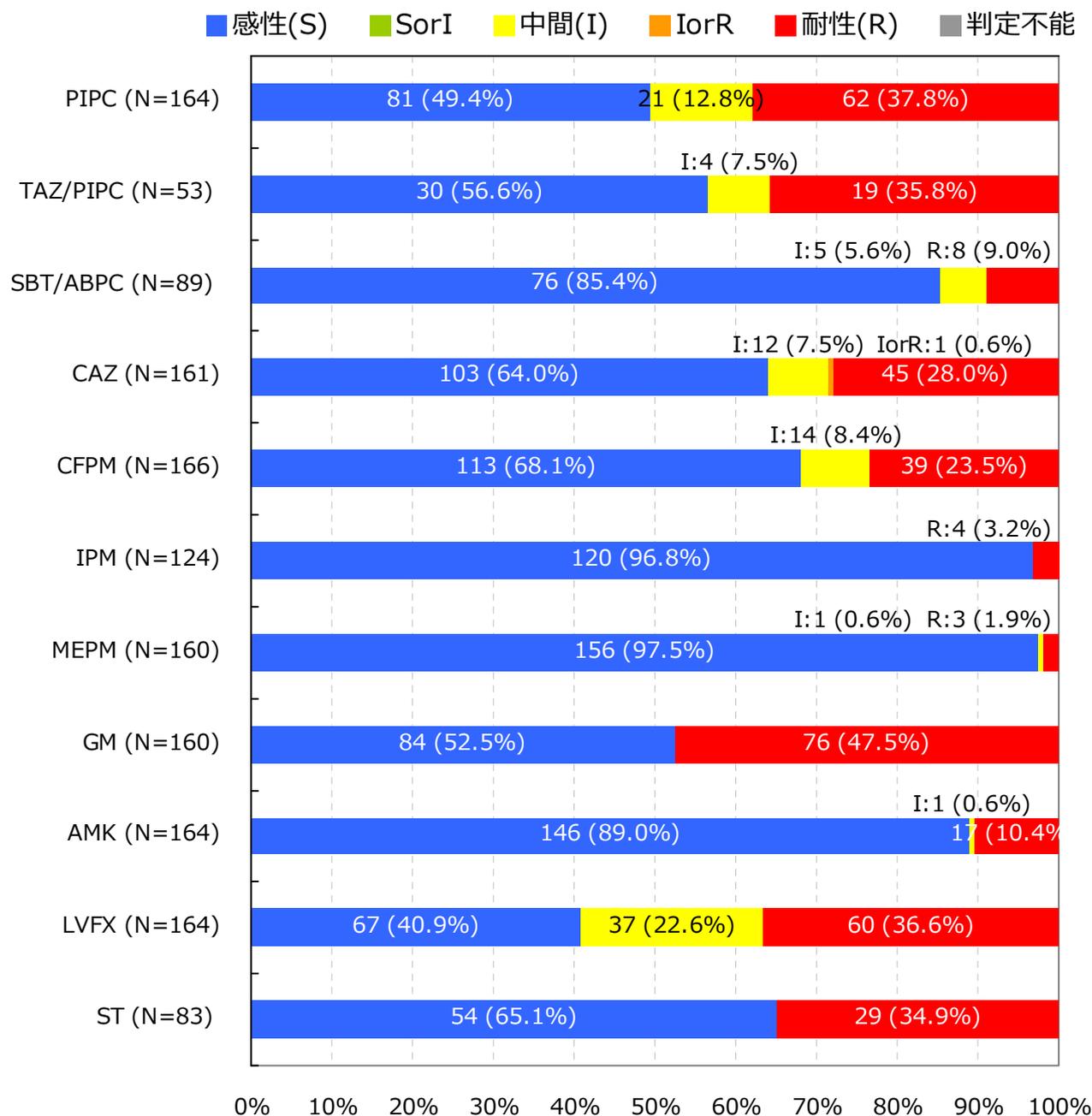
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 4001と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Acinetobacter spp. †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

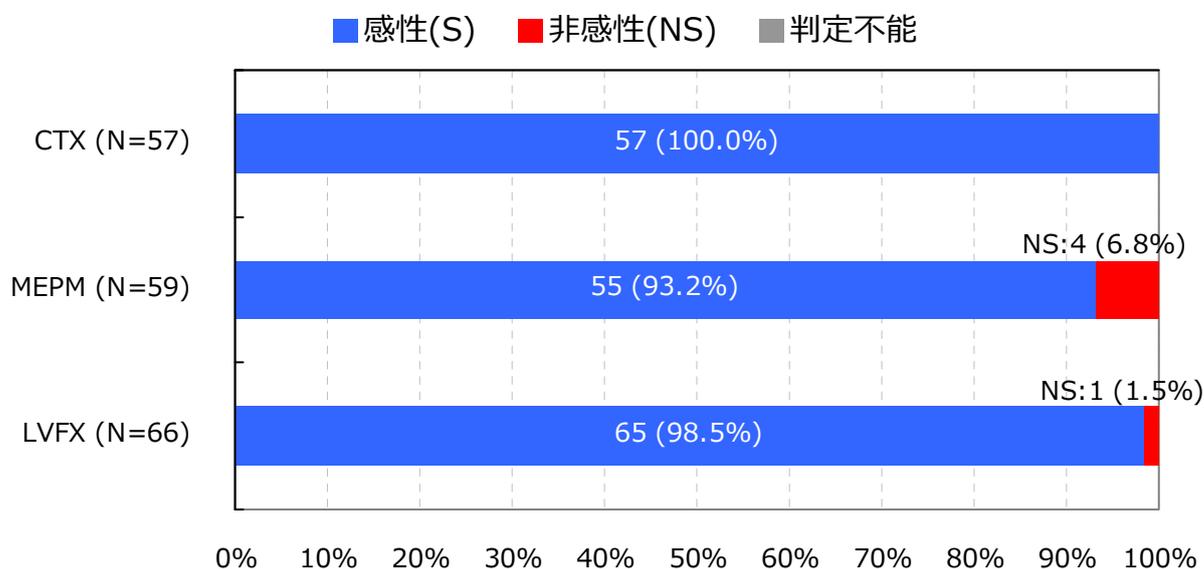
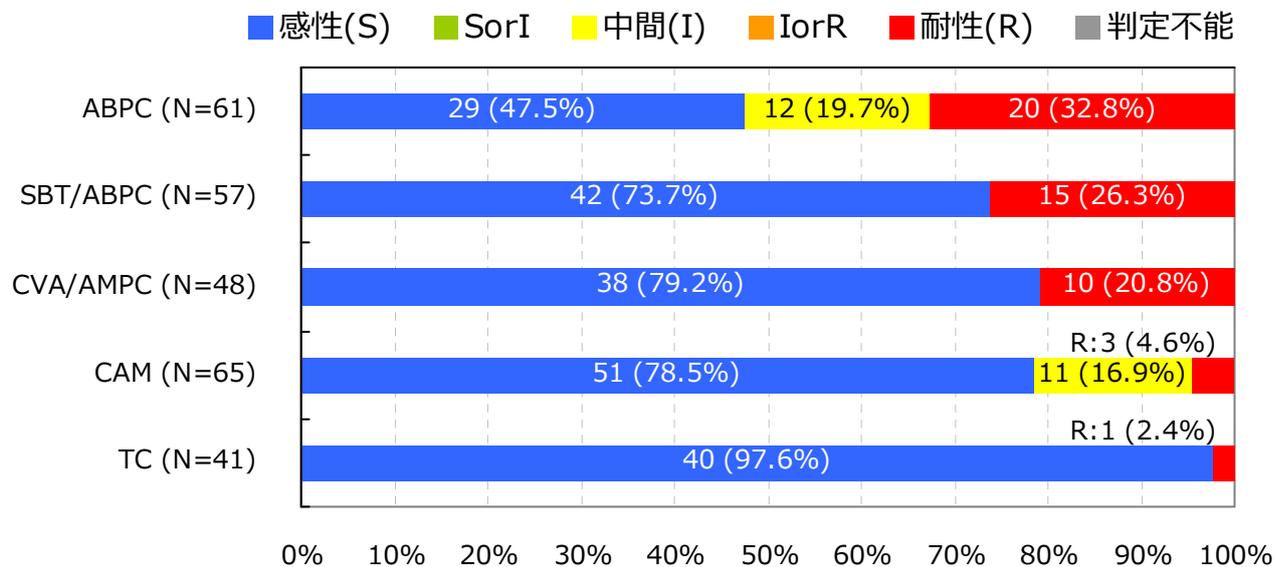
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 4400~4403と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Haemophilus influenzae †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 3201, 3202, 3203, 3205, 3208, 3211, 3214, 3217, 3220, 3223と報告された菌

【巻末資料 1 主要菌の菌名コード / 微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準】

主要菌の菌名コード（薬剤感受性条件なし）

| 菌名 | 菌名コード Ver.4.1 |
|-----------------------------------|----------------|
| <i>Staphylococcus aureus</i> | 1301,1303-1306 |
| <i>Staphylococcus epidermidis</i> | 1312 |
| <i>Streptococcus pneumoniae</i> | 1131 |
| <i>Enterococcus faecalis</i> | 1201,1202 |
| <i>Enterococcus faecium</i> | 1205,1206 |
| <i>Escherichia coli</i> | 2001-2007 |
| <i>Klebsiella pneumoniae</i> | 2351 |
| <i>Enterobacter</i> spp. | 2150-2156 |
| <i>Serratia marcescens</i> | 2101 |
| <i>Pseudomonas aeruginosa</i> | 4001 |
| <i>Acinetobacter</i> spp. | 4400-4403 |

「微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準」について

耐性菌の菌名※は以下の通り

MRSA : Methicillin-resistant *S. aureus* メチシリン耐性黄色ブドウ球菌

VRSA : Vancomycin-resistant *S. aureus* バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌

VRE : Vancomycin-resistant *Enterococcus* spp. バンコマイシン耐性腸球菌

PRSP : Penicillin-resistant *S. pneumoniae* ペニシリン耐性肺炎球菌

MDRP : Multidrug-resistant *P. aeruginosa* 多剤耐性緑膿菌

MDRA : Multidrug-resistant *Acinetobacter* spp. 多剤耐性アシネトバクター属

CRE : Carbapenem-Resistant Enterobacteriaceae カルバペネム耐性腸内細菌科細菌（2015年1月より集計開始）

* : 原則 S,I,R の判定は CLSI2012 (M100-S22) に準拠

† : 感染症発生動向調査の基準に準拠

2014年12月分データまでは CLSI2007 (M100-S17)、2015年1月分データより CLSI2012 (M100-S22) に準拠する。
薬剤耐性菌判定基準 (Ver.3.1) と 検査部門特定の耐性菌判定基準 (Ver.4.1) を基に作成した。

微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準

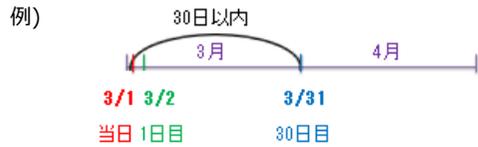
| 菌名※ | 概要* | 微量液体希釈法 (MIC 値) | 菌名コード Ver.4.1 |
|------|---|---|---|
| MRSA | MPIPC が "R" の <i>S. aureus</i> または選択培地で MRSA と確認された菌 | MPIPC $\geq 4\mu\text{g/mL}$ | 1301,1303 |
| VRSA | VCM が微量液体希釈法で "R" の <i>S. aureus</i> | VCM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ | 1301,1303-1306 |
| VRE | 下記のいずれかの条件を満たす <i>Enterococcus</i> spp. ・ VCM が微量液体希釈法で耐性† ・ 選択培地で VRE と確認された菌 注) 種の同定が行われていない <i>Enterococcus</i> sp. は除く | VCM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ † | 1201,1202,1205, 1206,1209,1210, 1213-1217 |
| PRSP | PCG が微量液体希釈法で耐性† の <i>S. pneumoniae</i> | PCG $\geq 0.125\mu\text{g/mL}$ † | 1131 |
| MDRP | 下記全てに該当する <i>P. aeruginosa</i> 1. カルバペネム系 (IPM, MEPM の何れか) が 微量液体希釈法で耐性† 2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈 法で耐性† 3. フルオロキノロン系 (NFLX, OFLX, LVFX、 CPFX, LFLX, GFLX の何れか) が "R" | 1. IPM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ †、 MEPM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ † 2. AMK $\geq 32\mu\text{g/mL}$ † 3. NFLX $\geq 16\mu\text{g/mL}$ 、 OFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ 、 LVFX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ 、 LFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ 、 GFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ 、 CPFX $\geq 4\mu\text{g/mL}$ | 4001 |

| 菌名※ | 概要* | 微量液体希釈法 (MIC 値) | 菌名コード Ver.4.1 |
|----------------------------|--|---|-------------------------|
| MDRA | 下記全てに該当する <i>Acinetobacter</i> spp. 1. カルバペネム系 (IPM, MEPM の何れか) が "R" 2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈 法で耐性† 3. フルオロキノロン系 (LVFX, CPFX, GFLX の 何れか) が "R" | 1. IPM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ †、 MEPM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ † 2. AMK $\geq 32\mu\text{g/mL}$ † 3. LVFX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ 、 CPFX $\geq 4\mu\text{g/mL}$ 、 GFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ | 4400-4403 |
| CRE | 下記の何れかの条件を満たす腸内細菌科 1. MEPM が耐性† 2. IPM が耐性†、かつ CMZ が "R" | 1. MEPM $\geq 2\mu\text{g/mL}$ † 2. IPM $\geq 2\mu\text{g/mL}$ † かつ CMZ $\geq 64\mu\text{g/mL}$ | 2000-2691, 3150-3151 |
| カルバペネム 耐性緑膿菌 | IPM または MEPM が耐性† の <i>P. aeruginosa</i> | IPM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ † MEPM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ † | 4001 |
| 第三世代セファロ スポリン耐性 肺炎桿菌 | CTX または CAZ が "R" の <i>K. pneumoniae</i> | CTX $\geq 4\mu\text{g/mL}$ CAZ $\geq 16\mu\text{g/mL}$ | 2351 |
| 第三世代セファロ スポリン耐性 大腸菌 | CTX または CAZ が "R" の <i>E. coli</i> | CTX $\geq 4\mu\text{g/mL}$ CAZ $\geq 16\mu\text{g/mL}$ | 2001-2007 |
| フルオロキノロン 耐性大腸菌 | フルオロキノロン系 (NFLX, OFLX, LVFX, LFLX、 GFLX, CPFX の何れか) が "R" の <i>E. coli</i> | NFLX $\geq 16\mu\text{g/mL}$ 、 OFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ 、 LVFX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ 、 LFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ 、 GFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ 、 CPFX $\geq 4\mu\text{g/mL}$ | 2001-2007 |

【巻末資料 2 公開情報の集計方法について】

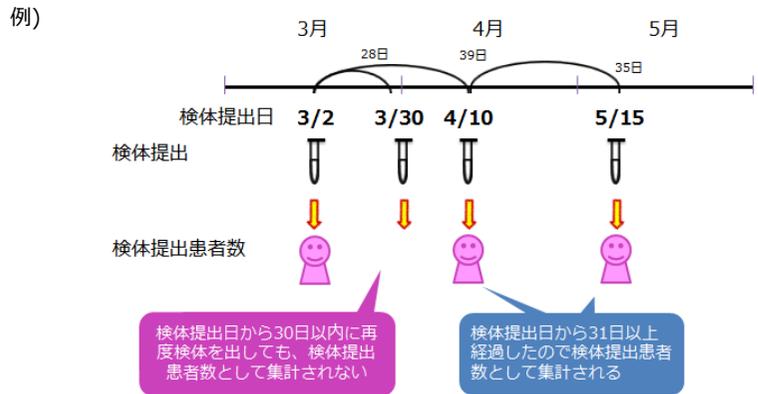
1. 日数の数え方

検体提出日の翌日を 1 日目とする。検体提出日が 3 月 1 日とすると、1 日目が 3 月 2 日、30 日目が 3 月 31 日となる。



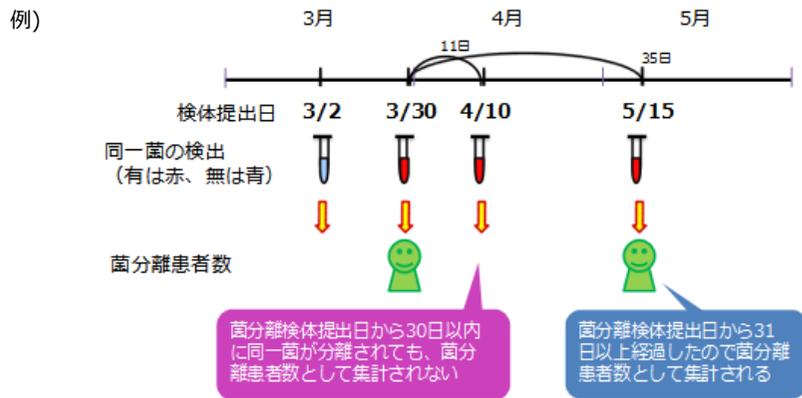
2. 検体提出患者数

検体提出患者数は、検体の種類や菌分離の有無に関わらず検体(入院検体)が提出された患者の数である。検体提出患者数は重複処理を行っており、30 日以内の同一患者からの複数の検体提出は 1 件とする。



3. 菌分離患者数

菌分離患者数も検体提出患者と同様の重複処理を行い、30 日以内に同一患者から同一菌が複数回検出された場合、菌分離患者数は 1 件とする。耐性菌分離患者数は、耐性菌の基準に合致する菌をまず抽出し、その中で上記重複処理を行っている。



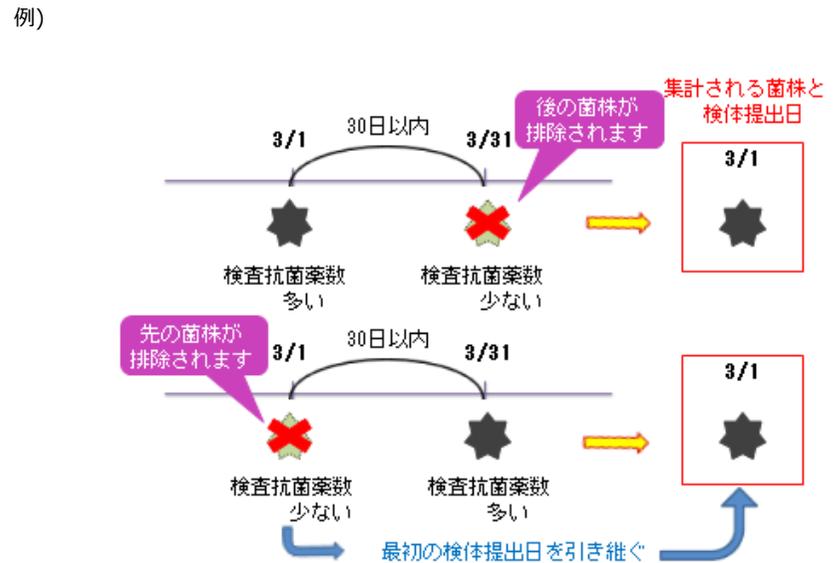
4. 抗菌薬感受性検査結果をもとにした同一菌と異なる菌との区別

30 日以内に同一患者から同一菌が検出された場合であっても、検査抗菌薬感受性結果に 1 つ以上不一致(下記①～④のいずれかに該当)がある場合は異なる菌株として集計される。

- ① MIC 値に 4 倍以上の違いがある
ただし、MIC > 2 は MIC ≥ 4 と考え、判定時は MIC = 4 として扱う
また、MIC < 16 は MIC ≤ 16 と考え、判定時は MIC = 16 として扱う
- ② SIR 判定では「S と R」の組み合わせ
- ③ +/- 判定では「-と++」または「+と+++」または「-と+++」の組み合わせ
- ④ 共通する検査抗菌薬数が 5 未満

5. 抗菌薬感受性結果の重複処理

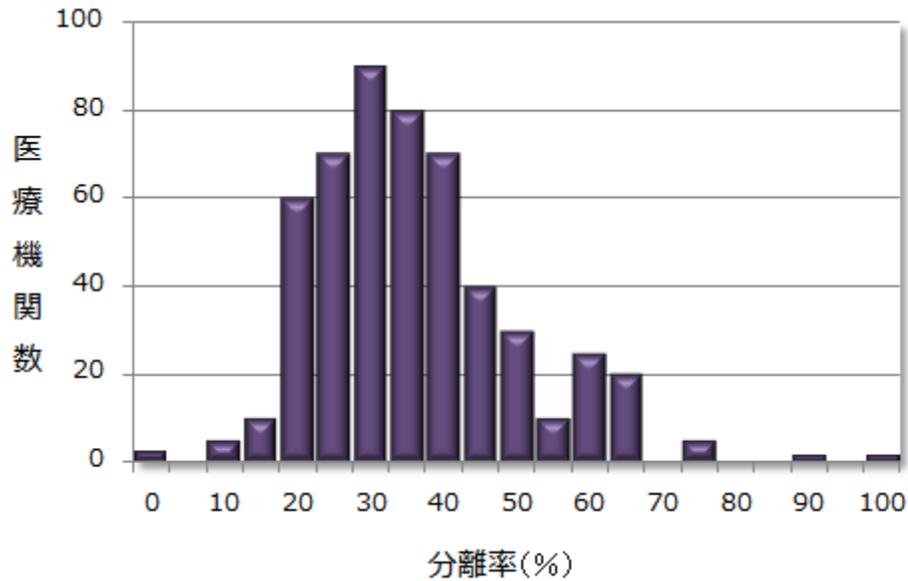
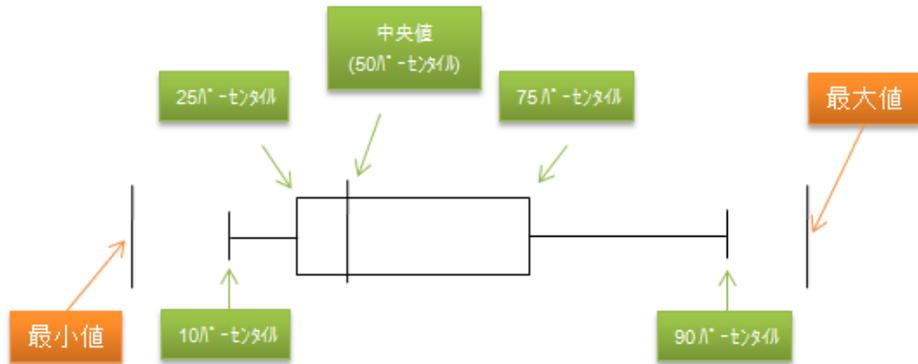
検体提出日が先の菌株の検査抗菌薬数が(30 日以内)の後の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、後の菌株の抗菌薬感受性検査結果は排除する。また、検体提出日が後の菌株の検査抗菌薬数が(30 日以内)の先の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、先の菌株の抗菌薬感受性検査結果を排除するが、先の検査の検体提出日を引き継ぐ。



【巻末資料3 箱ひげ図について】

1. 箱ひげ図について

集計対象医療機関のデータのばらつきを示し、集計対象医療機関における自施設の位置を確認することができる。



※ パーセンタイル：値を小さいものから大きいものへと順番に並べ、全体を 100 として何番目であるかを表したもの。
 例えば、10パーセンタイルは、全体を 100 として小さいほうから数えて 10 番目の計測値を示している。

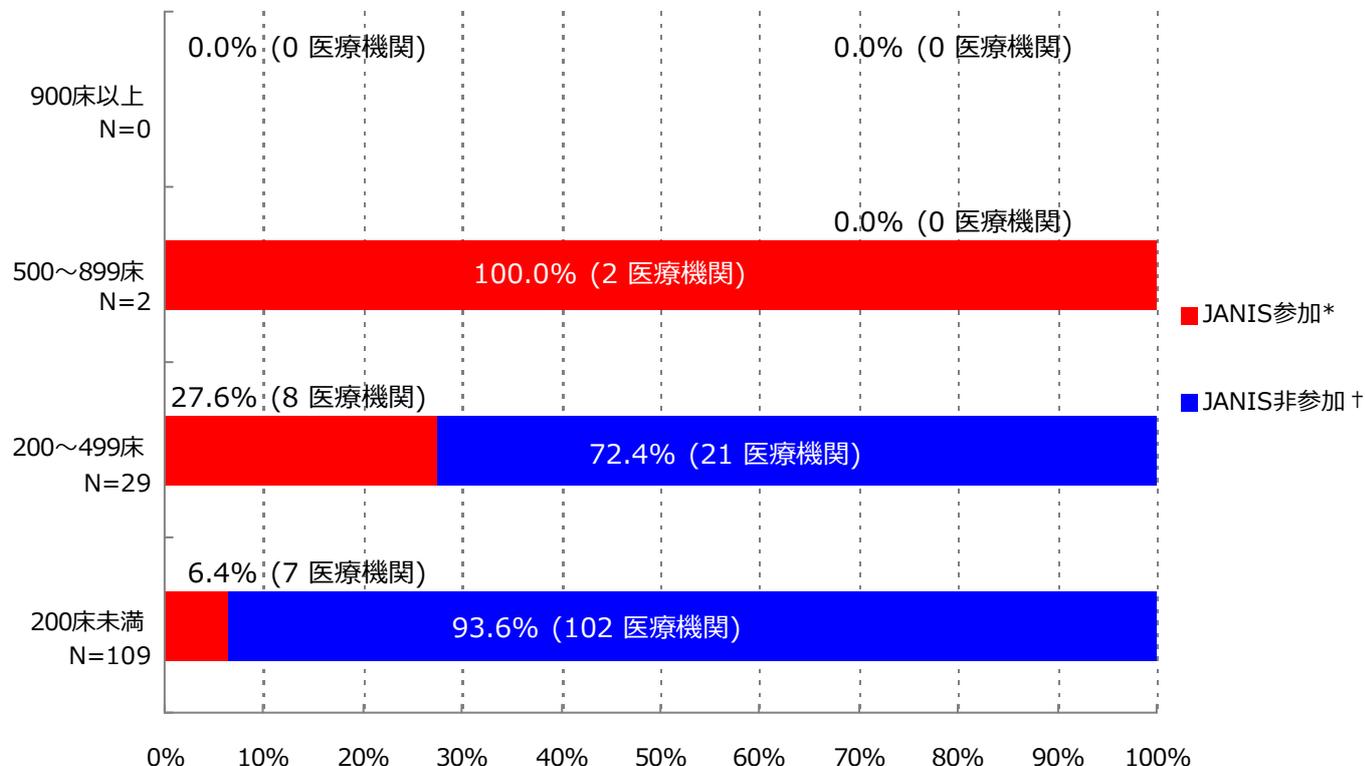
2. 公開情報の箱ひげ図



| 集計対象医療機関の分離率 (%)の分布 | | |
|----------------------|----------------------|--|
| 2010年 * | 2011 | |
| 1,069,216人 | 1,309,993人 | |
| 175,145人 (16.38%) | 210,382人 (16.06%) | |
| 47,523人 (4.44%) | 64,588人 (4.93%) | |



1. 集計対象医療機関数(17医療機関)



*JANIS参加 = 2017年1～3月 集計対象医療機関数

† JANIS非参加 = (2016年 都道府県別医療機関数 †) - (2017年1～3月 集計対象医療機関数)

| 病床数 | 2016年 都道府県別医療機関数 † | 2017年1月～3月 集計対象医療機関数 (都道府県別医療機関数に占める割合) |
|----------|--------------------|--|
| 900床以上 | 0 | 0 (0.0%) |
| 500～899床 | 2 | 2 (100.0%) |
| 200～499床 | 29 | 8 (27.6%) |
| 200床未満 | 109 | 7 (6.4%) |
| 病床数不明 | - | 0 (-) |
| 合計 | 140 | 17 (12.1%) |

† 平成28年医療施設（動態）調査を参照した

2. 検査材料別集計対象医療機関数、検体数、分離菌数

| 検査材料分類 | 集計対象医療機関数 | 検体数 | 陽性検体数 (分離菌数) |
|--------|-----------|--------|------------------|
| 呼吸器系検体 | 17 | 2,847 | 1,926 (3,905) |
| 尿検体 | 17 | 1,507 | 806 (1,255) |
| 便検体 | 13 | 665 | 301 (581) |
| 血液検体 | 17 | 3,926 | 455 (512) |
| 髄液検体 | 10 | 130 | 13 (14) |
| その他 | 17 | 2,532 | 1,389 (2,558) |
| 合計 | 17 | 11,607 | 4,890 (8,825) |

入院として報告された検体を集計

集計対象菌：コメントのみ(菌名コード9999)の報告以外の全ての菌

検査材料分類は以下に該当する検査材料コードを集計

呼吸器系検体：

101(喀出痰)、102(気管内採痰)、103(気管支洗浄液)、104(咽頭粘液)、105(鼻腔内)、106(口腔内)、
107(生検材料(肺))、109(その他(呼吸器))、404(胸水)

尿検体：

201(自然排尿)、202(採尿カテーテル)、203(留置カテーテル)、206(カテーテル尿(採尿、留置カテの区別不能))

便検体：

301(糞便)

血液検体：

401(静脈血)、402(動脈血)

髄液検体：

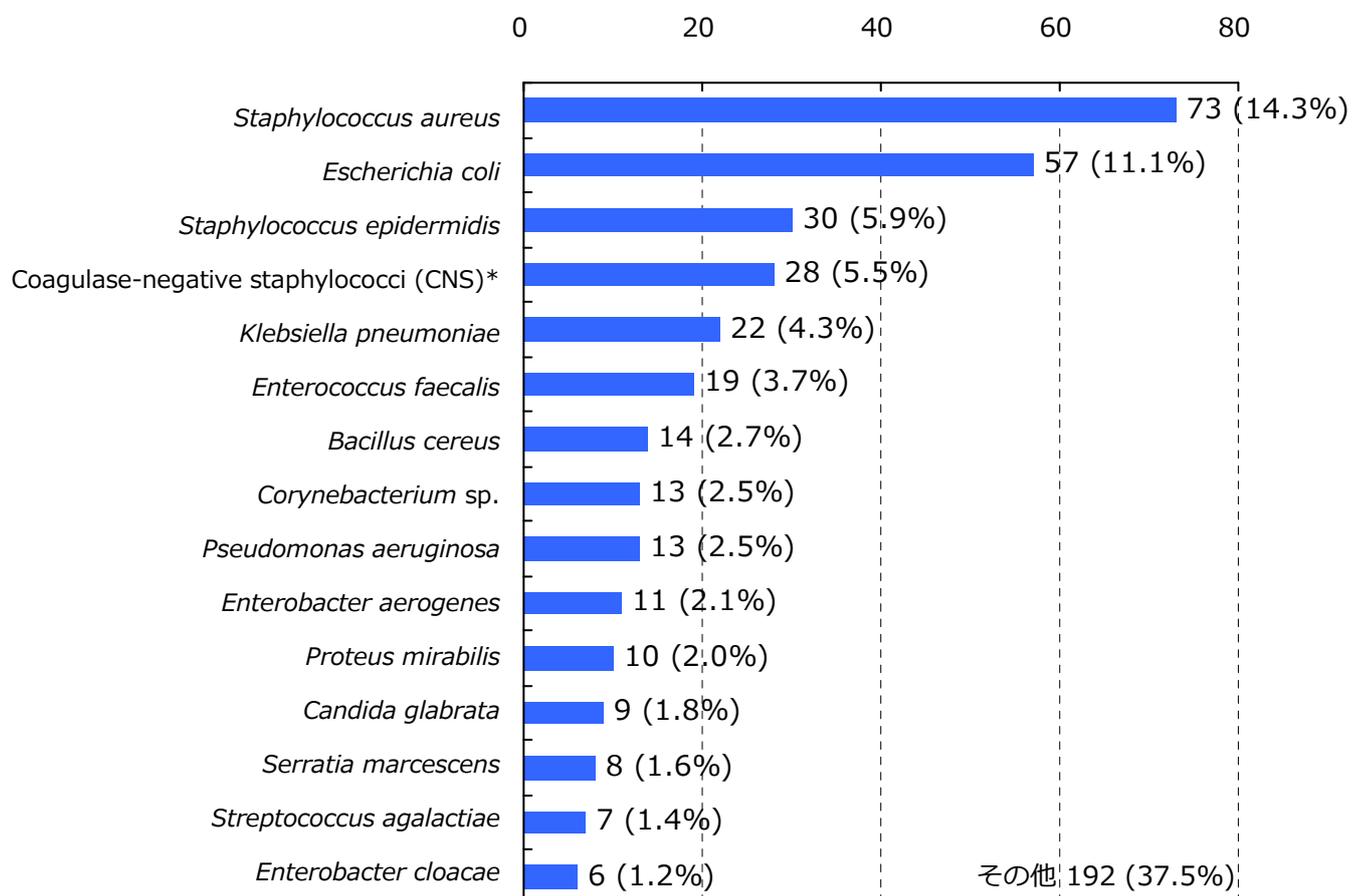
403(髄液)

その他：上記以外の検査材料コード

検査材料コード：JANISホームページ>各部門について>検査部門 <https://janis.mhlw.go.jp/section/kensa.html>

3. 検査材料別分離菌数割合

血液検体分離菌 (N=512)



*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌（1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外）

入院として報告された検体を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：静脈血(検査材料コード401)と動脈血(同402)

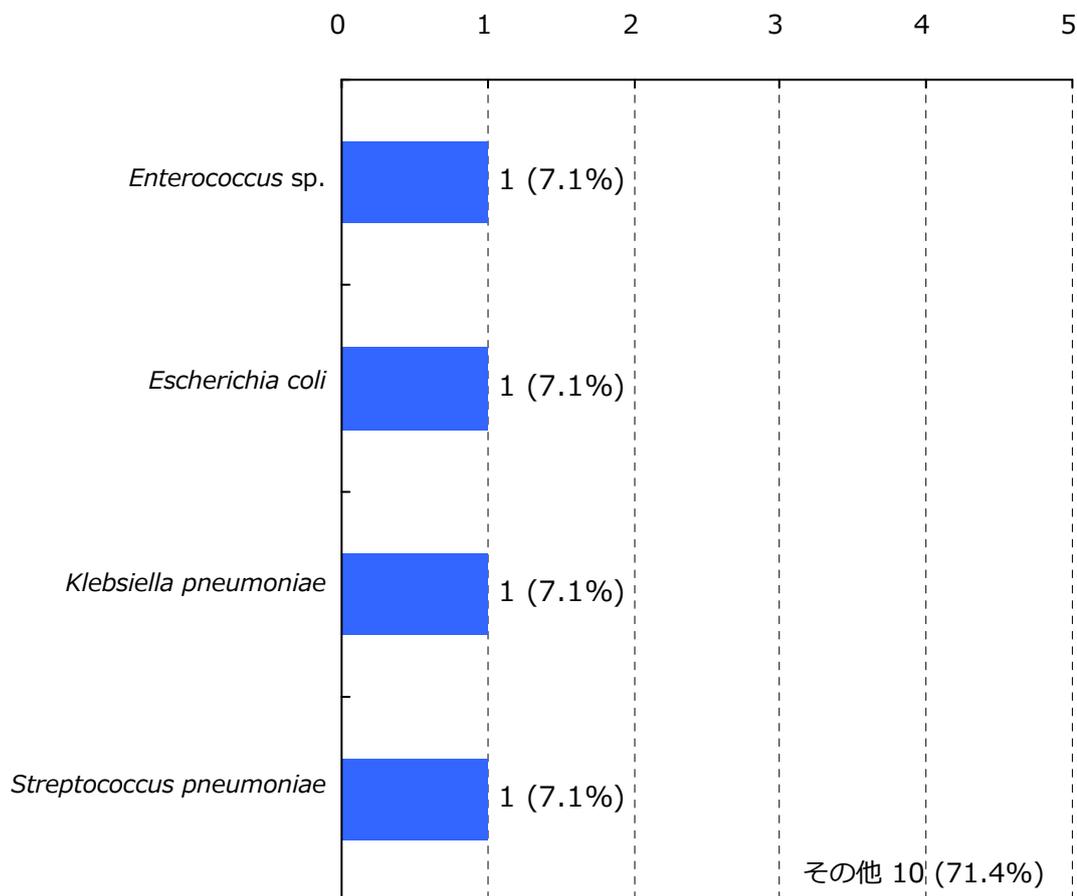
血液検体分離菌数割合 = (対象菌の血液検体分離菌数) ÷ (血液検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <https://janis.mhlw.go.jp/section/kensa.html>

3. 検査材料別分離菌数割合

髄液検体分離菌 (N=14)



入院として報告された検体を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

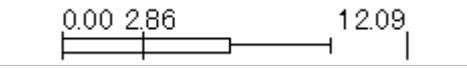
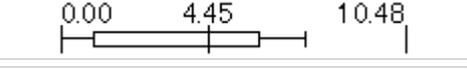
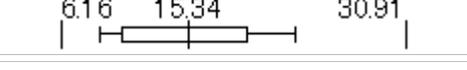
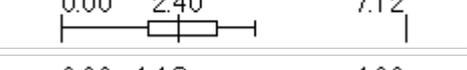
集計対象検査材料：髄液(検査材料コード403)

髄液検体分離菌数割合 = (対象菌の髄液検体分離菌数) ÷ (髄液検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <https://janis.mhlw.go.jp/section/kensa.html>

4. 主要菌分離患者数*と全医療機関†の分離率分布

| | 検体提出・菌分離患者数 全体の分離率 † | 集計対象医療機関の 分離率 ‡(%)の分布 |
|---------------------------|-------------------------|---|
| 検体提出患者数 | 4,277人 | |
| <i>S. aureus</i> | 554人 (12.95%) | 6.00 13.11 27.94  |
| <i>S. epidermidis</i> | 231人 (5.40%) | 0.00 2.86 12.09  |
| <i>S. pneumoniae</i> | 47人 (1.10%) | 0.00 1.04 4.44  |
| <i>E. faecalis</i> | 223人 (5.21%) | 0.00 4.45 10.48  |
| <i>E. faecium</i> | 67人 (1.57%) | 0.00 1.01 5.15  |
| <i>E. coli</i> | 573人 (13.40%) | 6.16 15.34 30.91  |
| <i>K. pneumoniae</i> | 234人 (5.47%) | 1.54 5.43 20.00  |
| <i>Enterobacter spp.</i> | 116人 (2.71%) | 0.00 2.40 7.12  |
| <i>S. marcescens</i> | 51人 (1.19%) | 0.00 1.18 4.00  |
| <i>P. aeruginosa</i> | 329人 (7.69%) | 1.50 5.90 38.54  |
| <i>Acinetobacter spp.</i> | 66人 (1.54%) | 0.00 1.02 14.58  |

入院として報告された検体を集計

*分離患者数と検体提出患者数は30日ごとに重複処理(巻末参照)している

†ここでは全医療機関は集計対象医療機関を表す

‡ここでの分離率は全体の分離率を表す

全体の分離率

= (集計対象医療機関の対象菌の分離患者数合計) ÷ (集計対象医療機関の検体提出患者数合計) × 100

‡分離率 = (対象菌の分離患者数) ÷ (検体提出患者数) × 100

5. 特定の耐性菌分離患者数*と全医療機関†の分離率分布

| | 検体提出・菌分離患者数 全体の分離率‡ | 集計対象医療機関の 分離率¶(%)の分布 |
|------------------------|------------------------|-------------------------|
| 検体提出患者数 | 4,277人 | |
| メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA) | 300人 (7.01%) | 2.50 6.52 21.32 |
| バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌(VRSA) | 0人 (0.00%) | 0.00 |
| バンコマイシン耐性腸球菌(VRE) | 0人 (0.00%) | 0.00 |
| ペニシリン耐性肺炎球菌(PRSP) | 22人 (0.51%) | 0.00 0.20 3.03 |
| 多剤耐性緑膿菌(MDRP) | 5人 (0.12%) | 0.00 0.00 1.92 |
| 多剤耐性アシネトバクター属(MDRA) | 0人 (0.00%) | 0.00 |
| カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE) | 9人 (0.21%) | 0.00 0.00 2.22 |
| カルバペネム耐性緑膿菌 | 56人 (1.31%) | 0.00 0.77 7.69 |
| 第三世代セファロスポリン耐性肺炎桿菌 | 8人 (0.19%) | 0.00 0.00 2.21 |
| 第三世代セファロスポリン耐性大腸菌 | 104人 (2.43%) | 0.00 3.75 9.52 |
| フルオロキノロン耐性大腸菌 | 173人 (4.04%) | 0.87 5.31 14.58 |

入院検体でかつ、検査法が原則微量液体希釈法又はEtestと設定されたMIC値が報告されている検体を集計

MRSAとVREは検査法によらず菌名コードで指定された場合はそれらを含む

*分離患者数と検体提出患者数は30日ごとに重複処理(巻末参照)している

†ここでは全医療機関は集計対象医療機関を表す

‡ここでの分離率は全体の分離率を表す

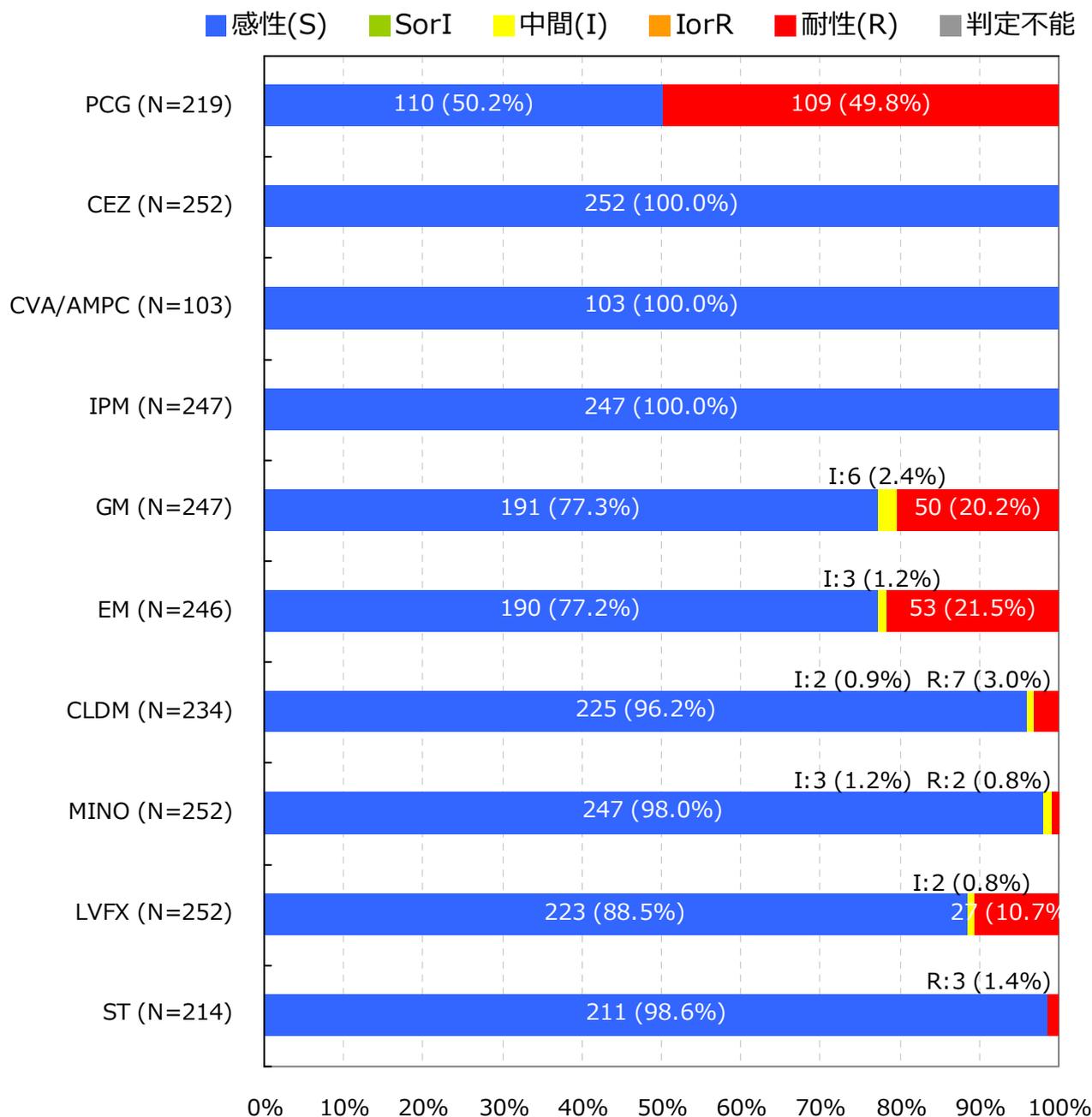
全体の分離率

= (集計対象医療機関の対象菌の分離患者数合計) ÷ (集計対象医療機関の検体提出患者数合計) × 100

¶分離率 = (対象菌の分離患者数) ÷ (検体提出患者数) × 100

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Staphylococcus aureus (MSSA) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

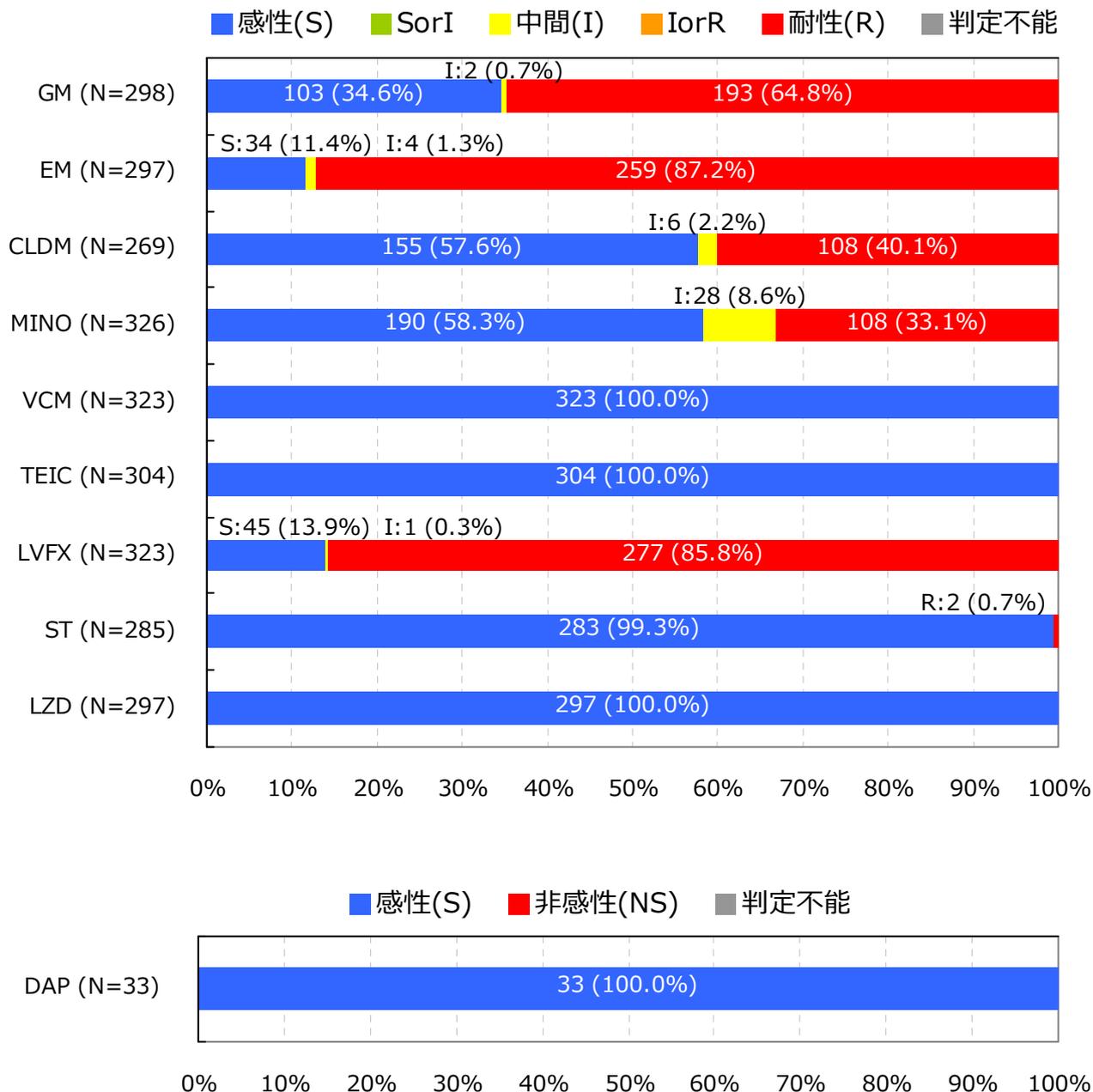
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1304, 1305, 1306と報告された菌および菌名コード : 1301と報告され抗菌薬コード : 1208 (オキサシリン) の感受性結果「S」の菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Staphylococcus aureus (MRSA) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

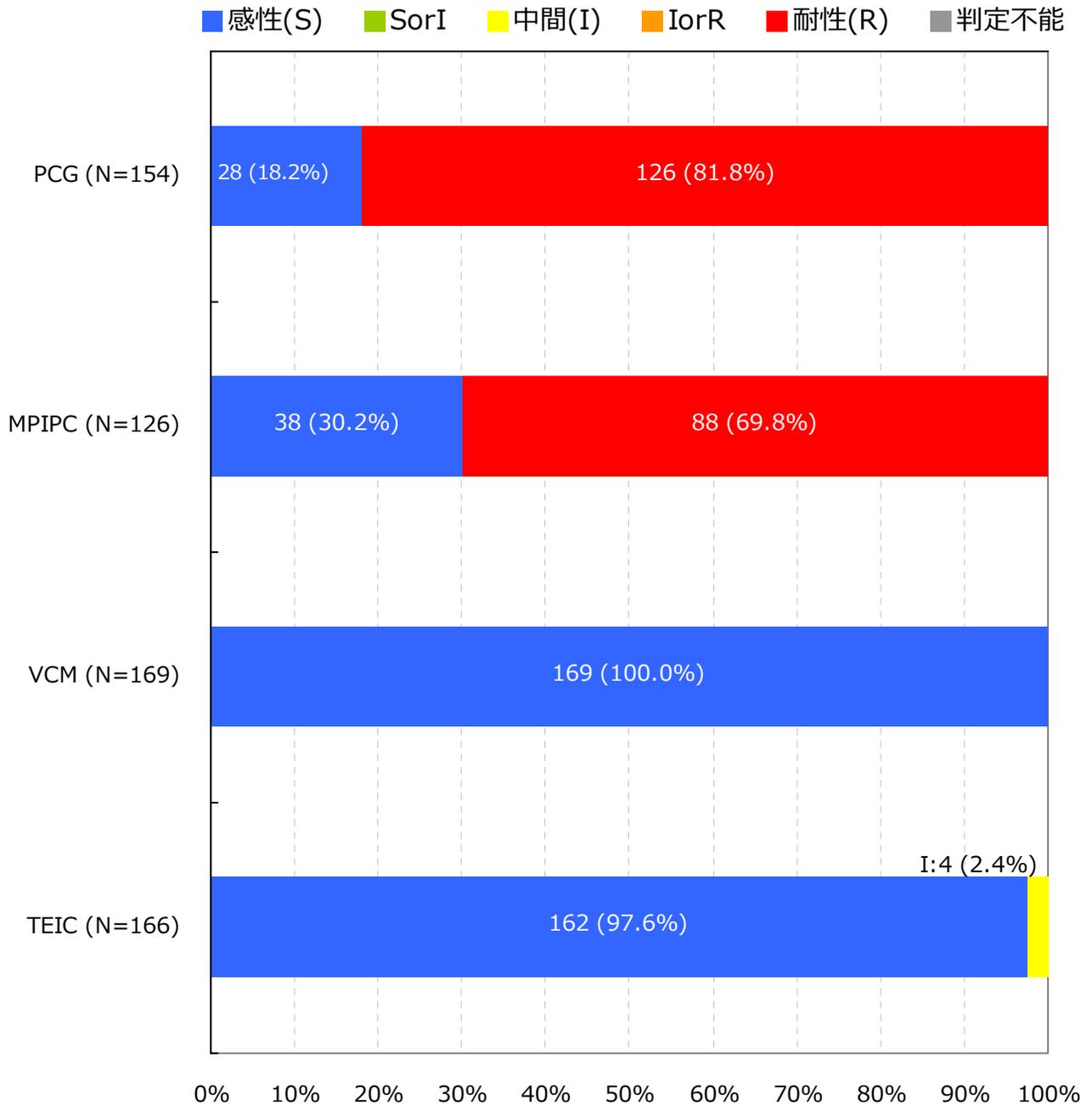
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1303と報告された菌および菌名コード : 1301と報告され抗菌薬コード : 1208 (オキサシリン) の感受性結果「R」の菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Staphylococcus epidermidis †



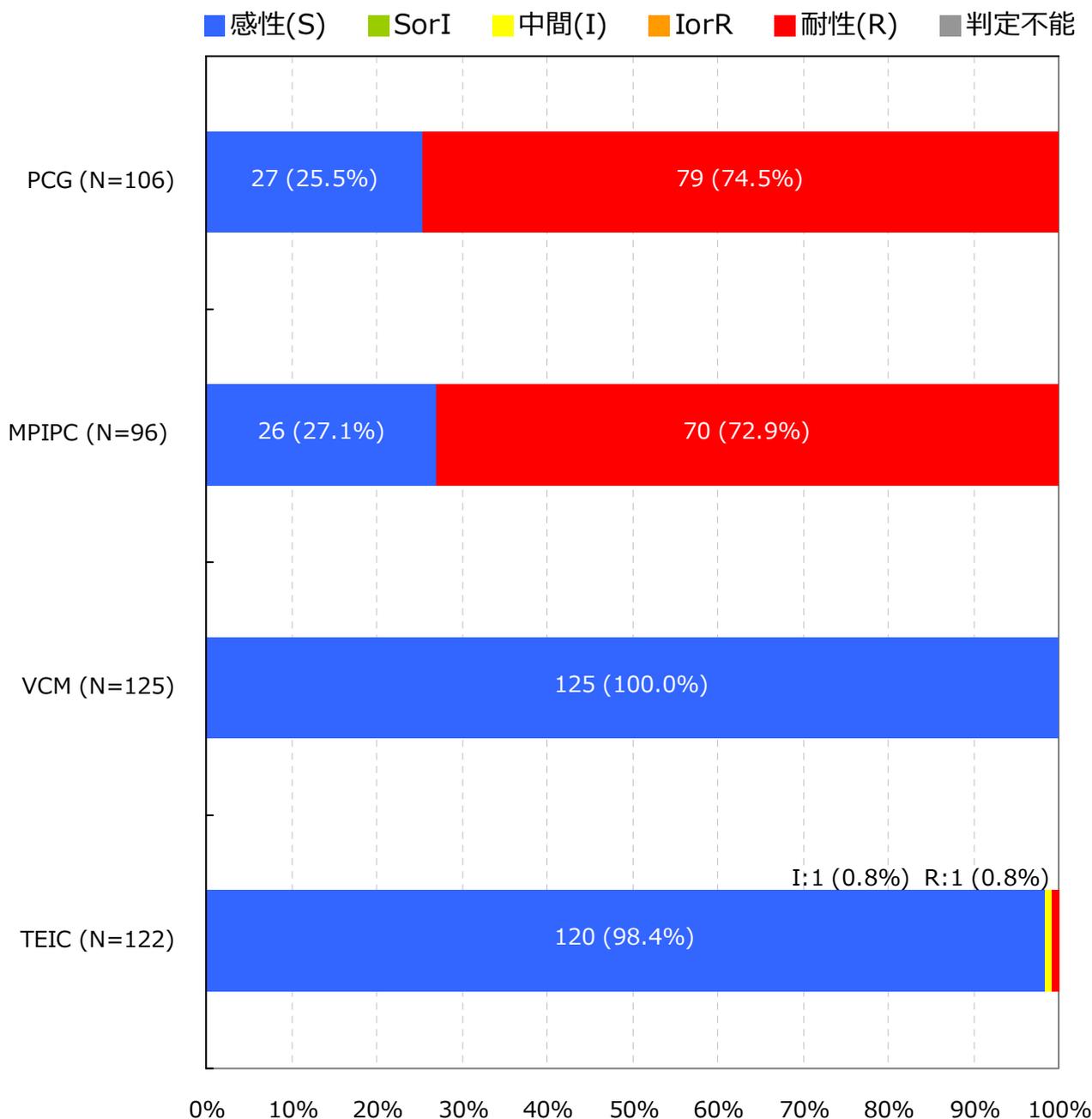
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1312と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Coagulase-negative staphylococci (CNS) †



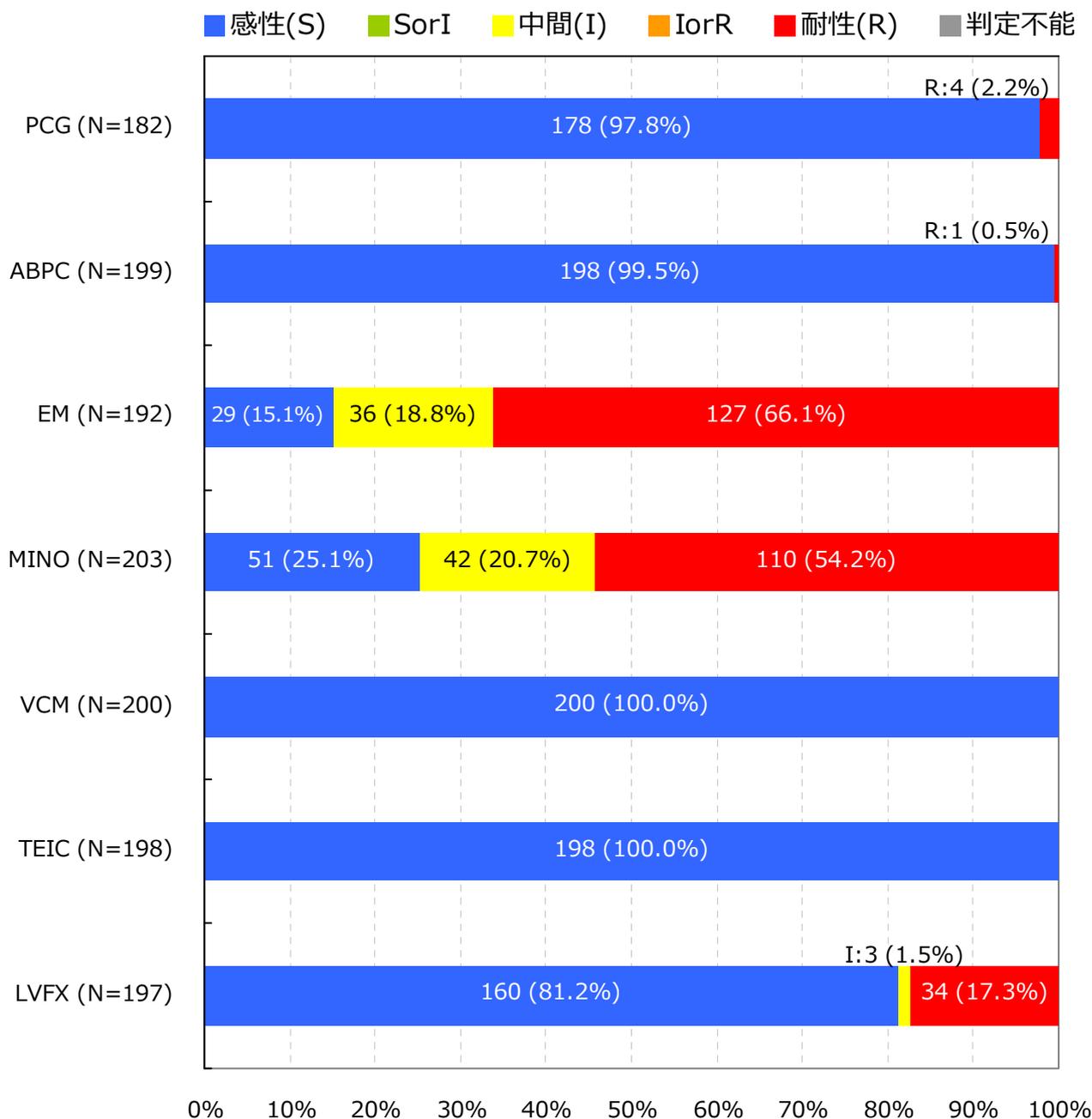
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1311, 1313~1325と報告された菌 (1312 : *Staphylococcus epidermidis*は対象外)

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Enterococcus faecalis †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

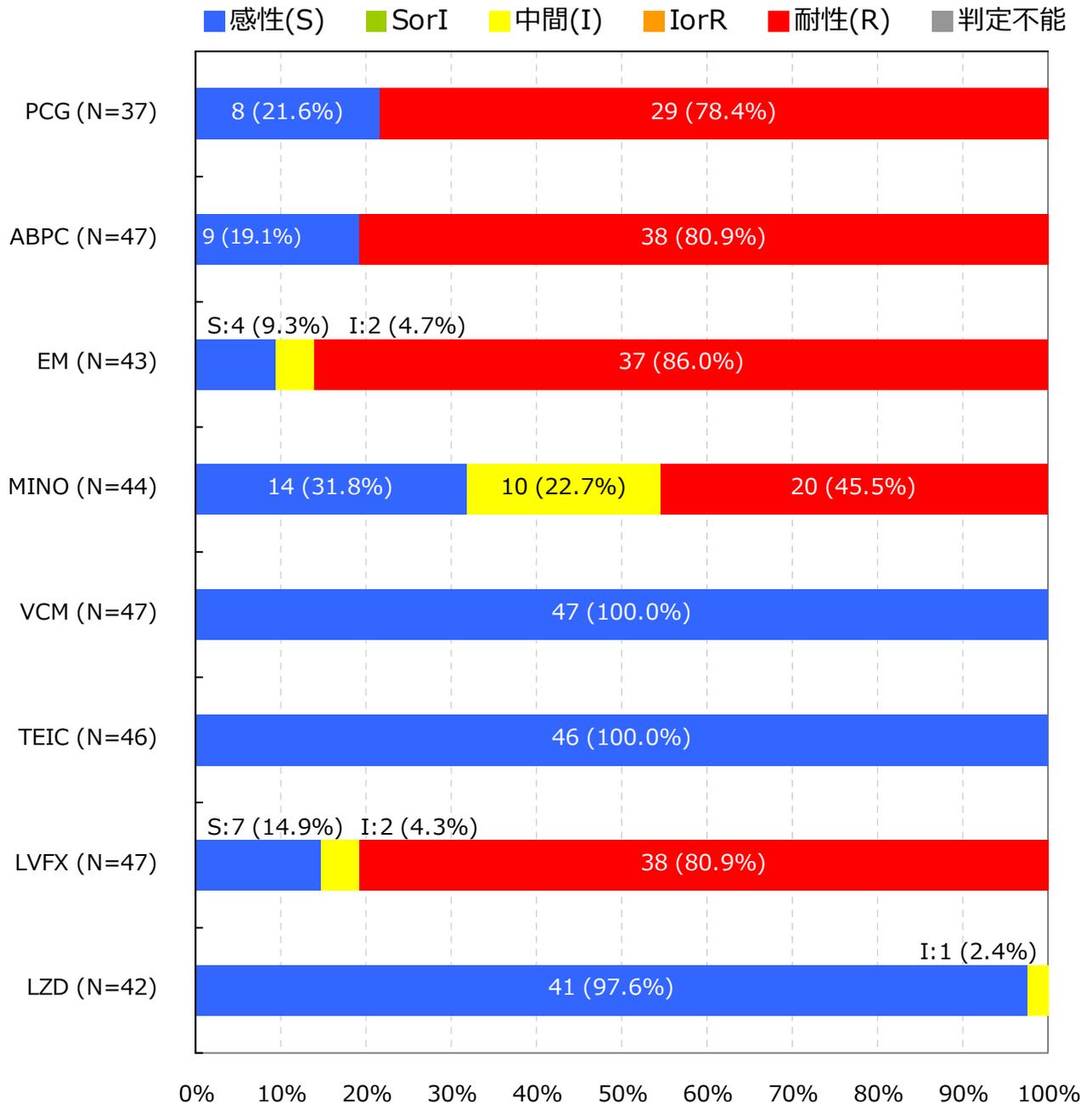
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1201, 1202と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Enterococcus faecium †



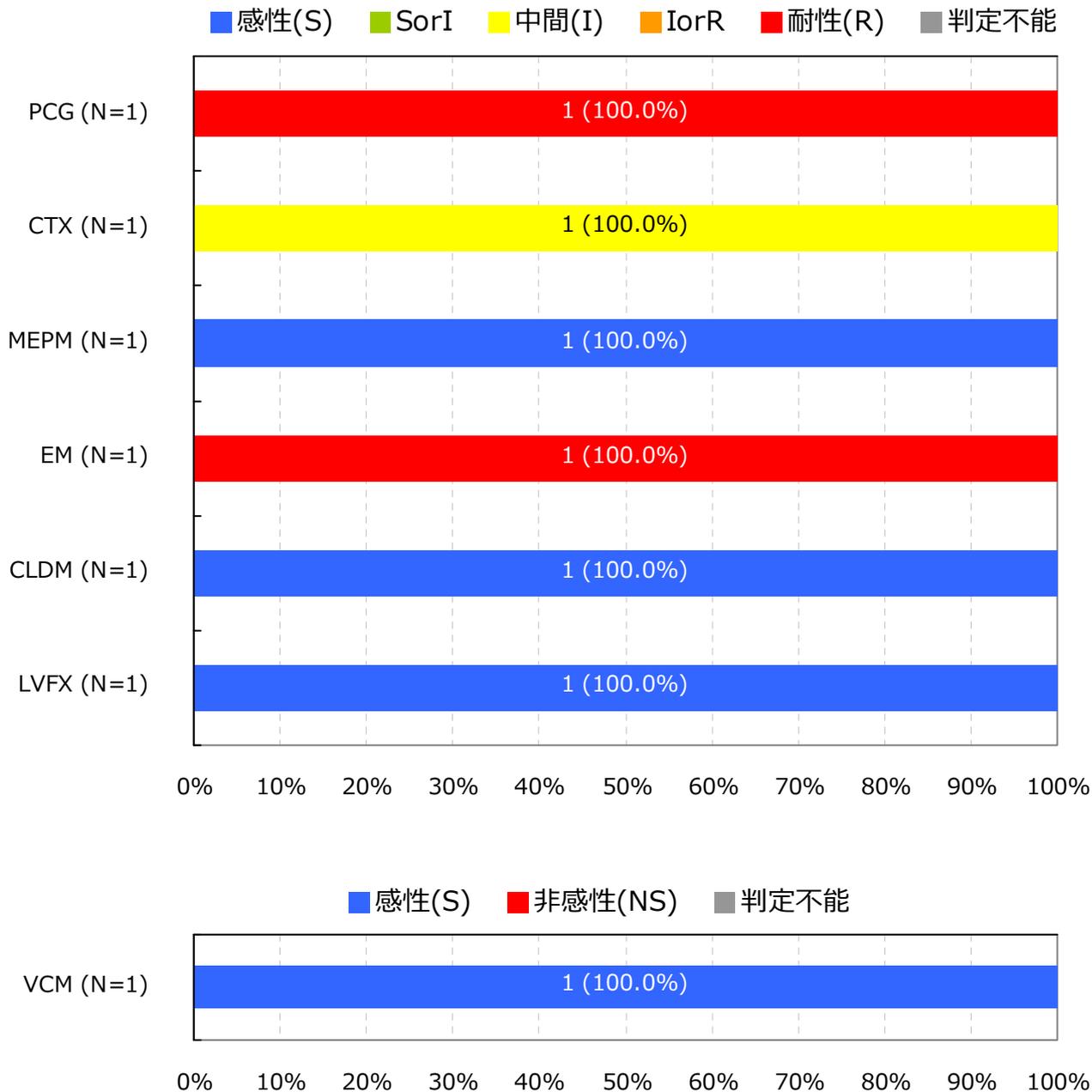
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1205, 1206と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Streptococcus pneumoniae(髄液検体) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

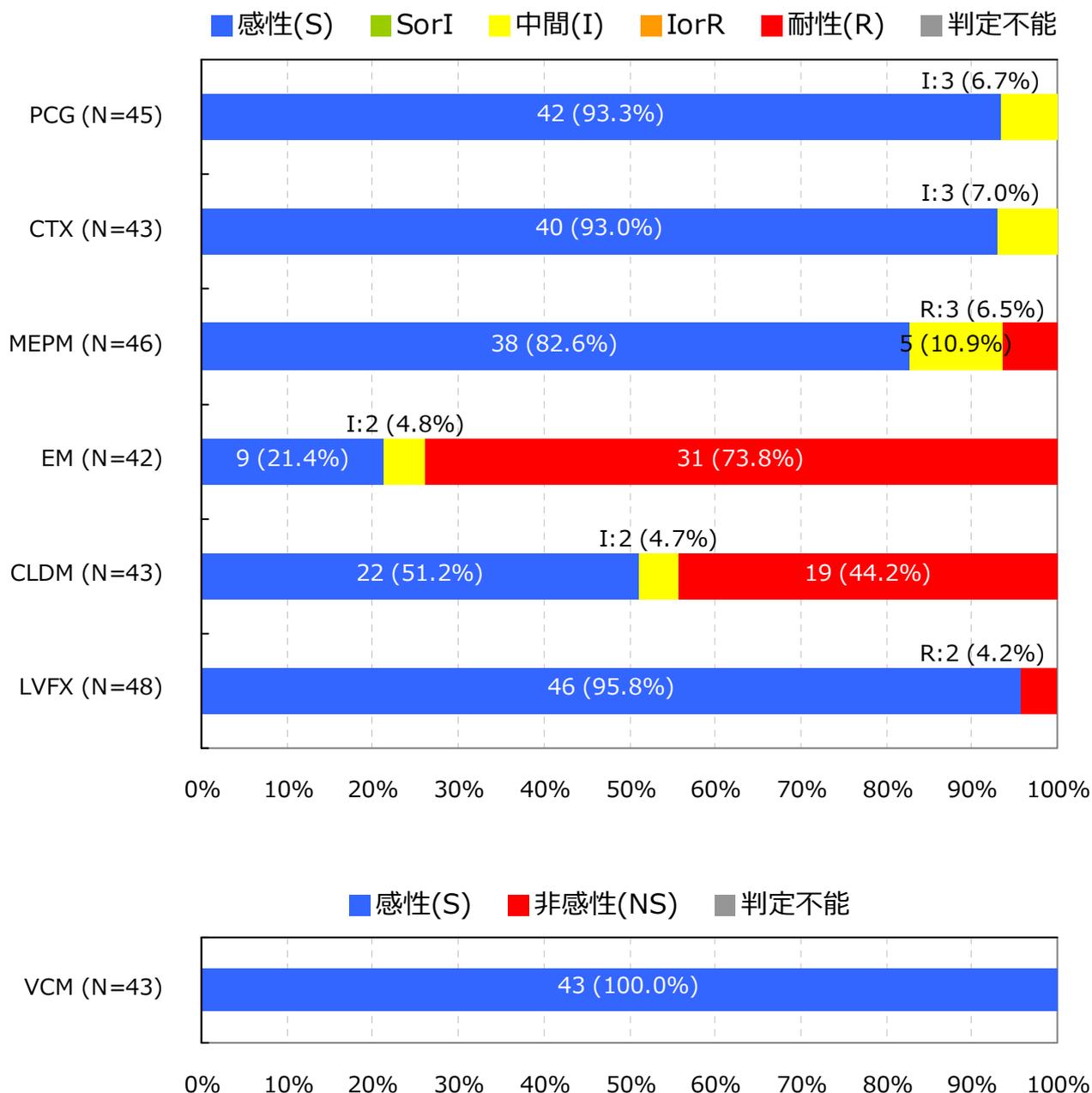
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1131と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Streptococcus pneumoniae(髄液検体以外) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

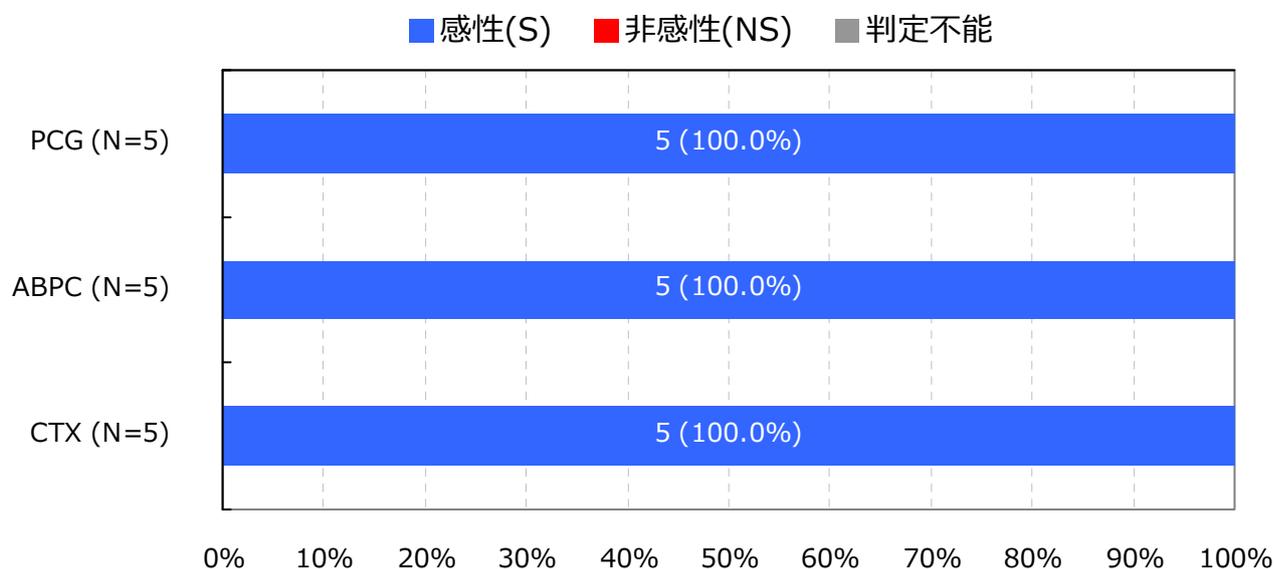
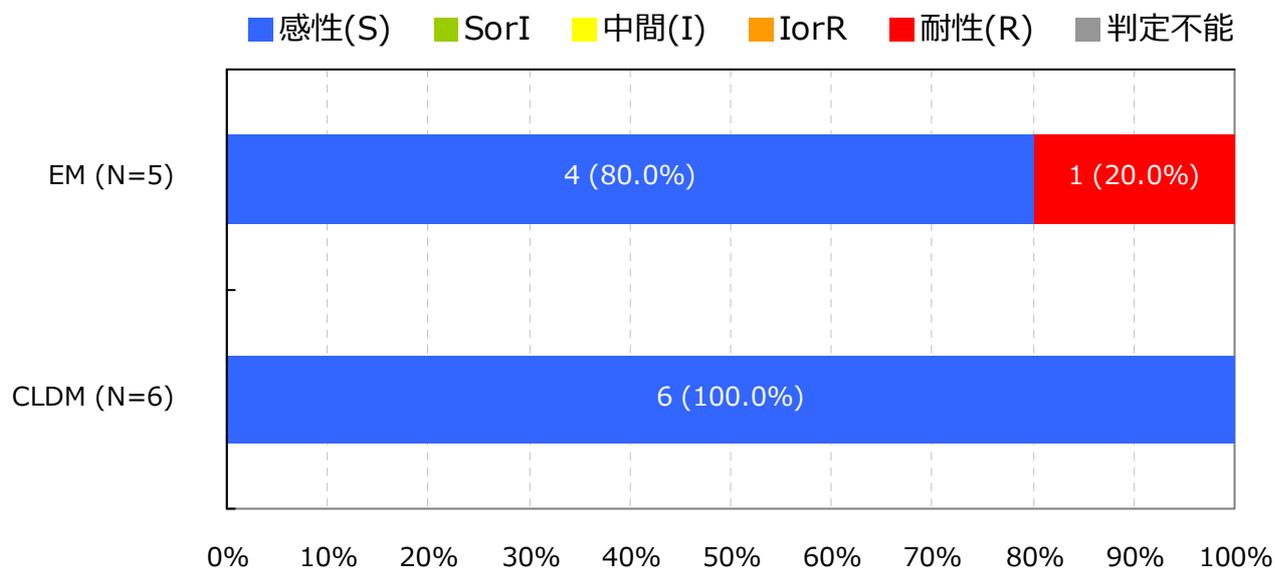
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1131と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Streptococcus pyogenes †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

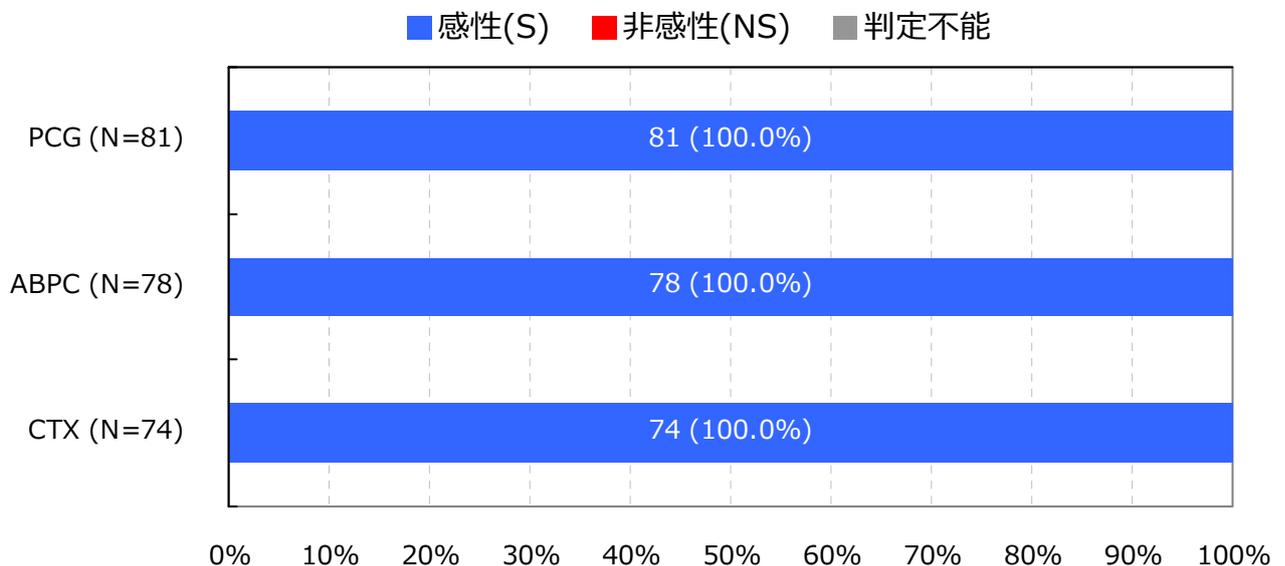
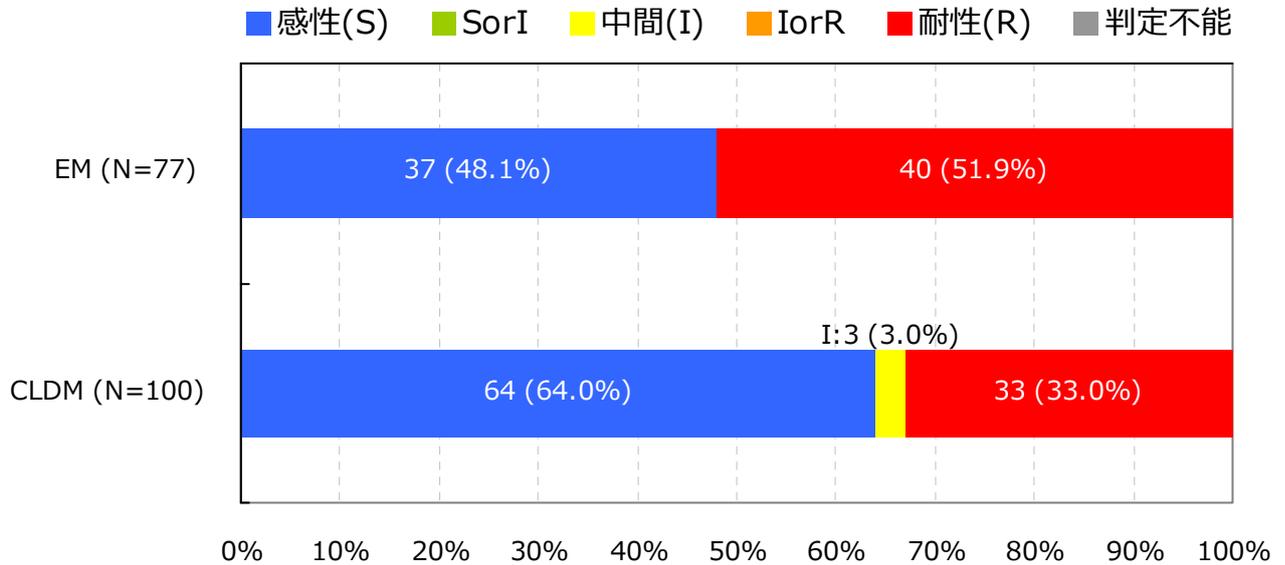
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1111と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Streptococcus agalactiae †



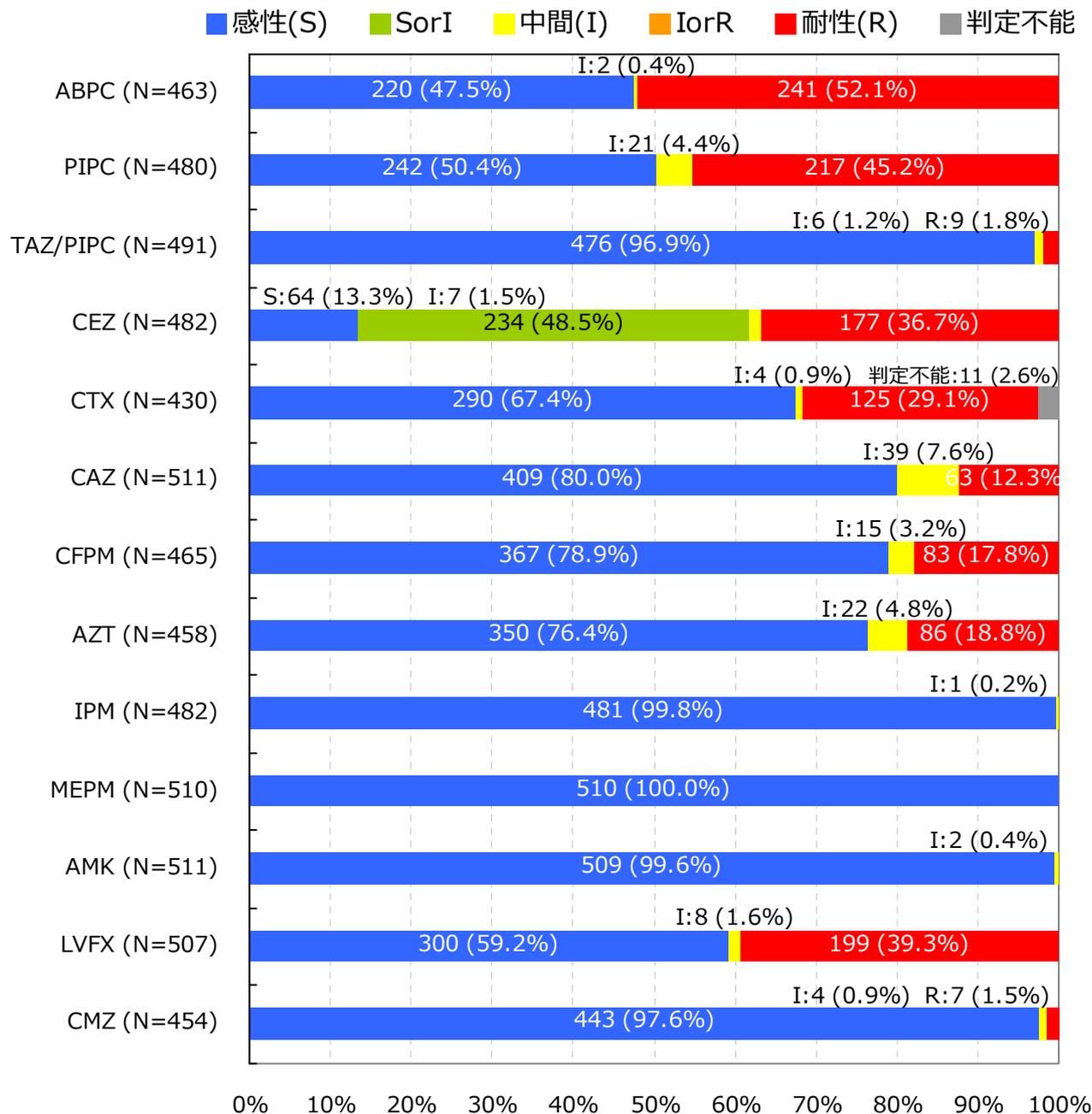
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1114と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Escherichia coli †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

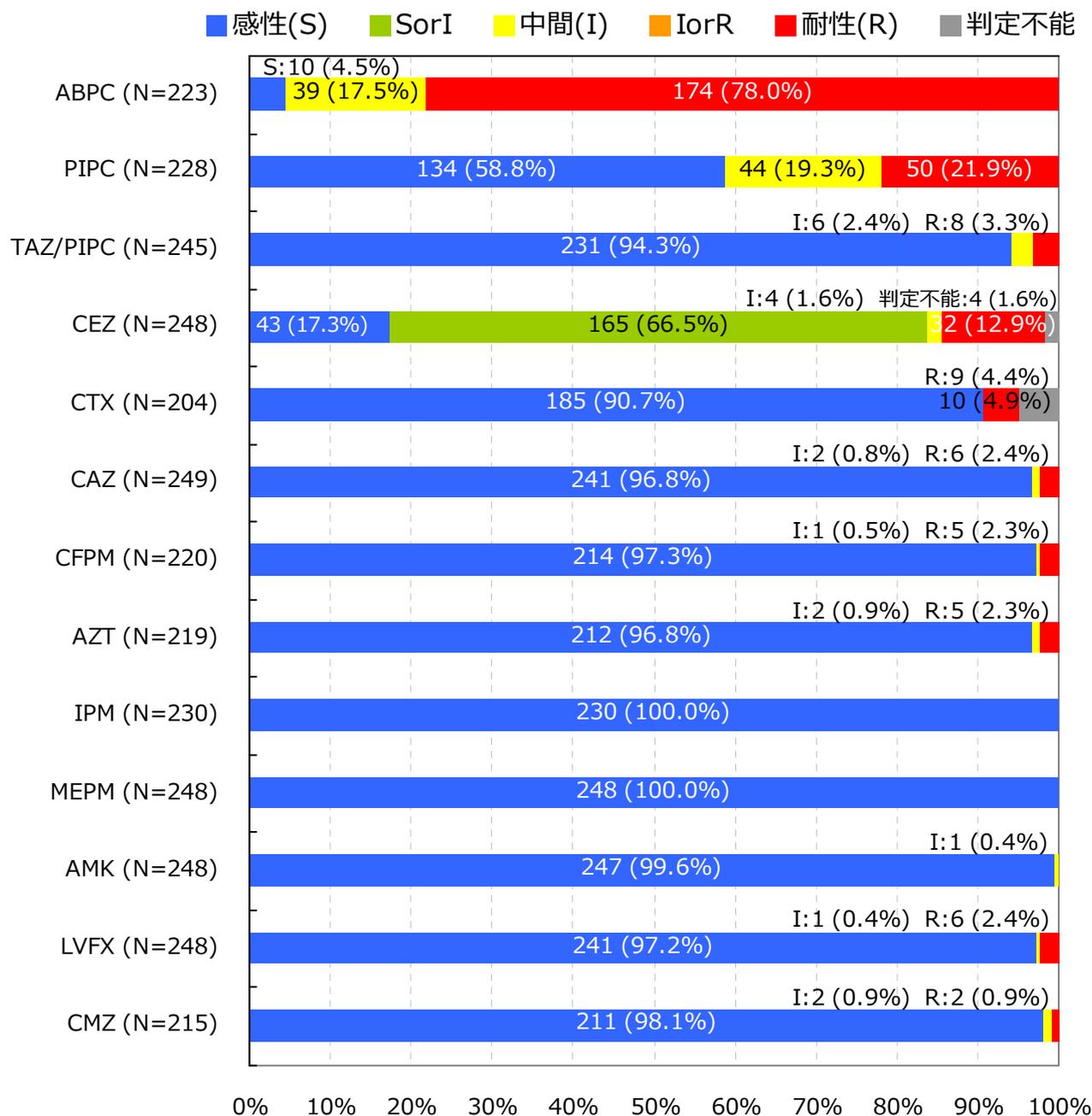
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2001～2007と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Klebsiella pneumoniae †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

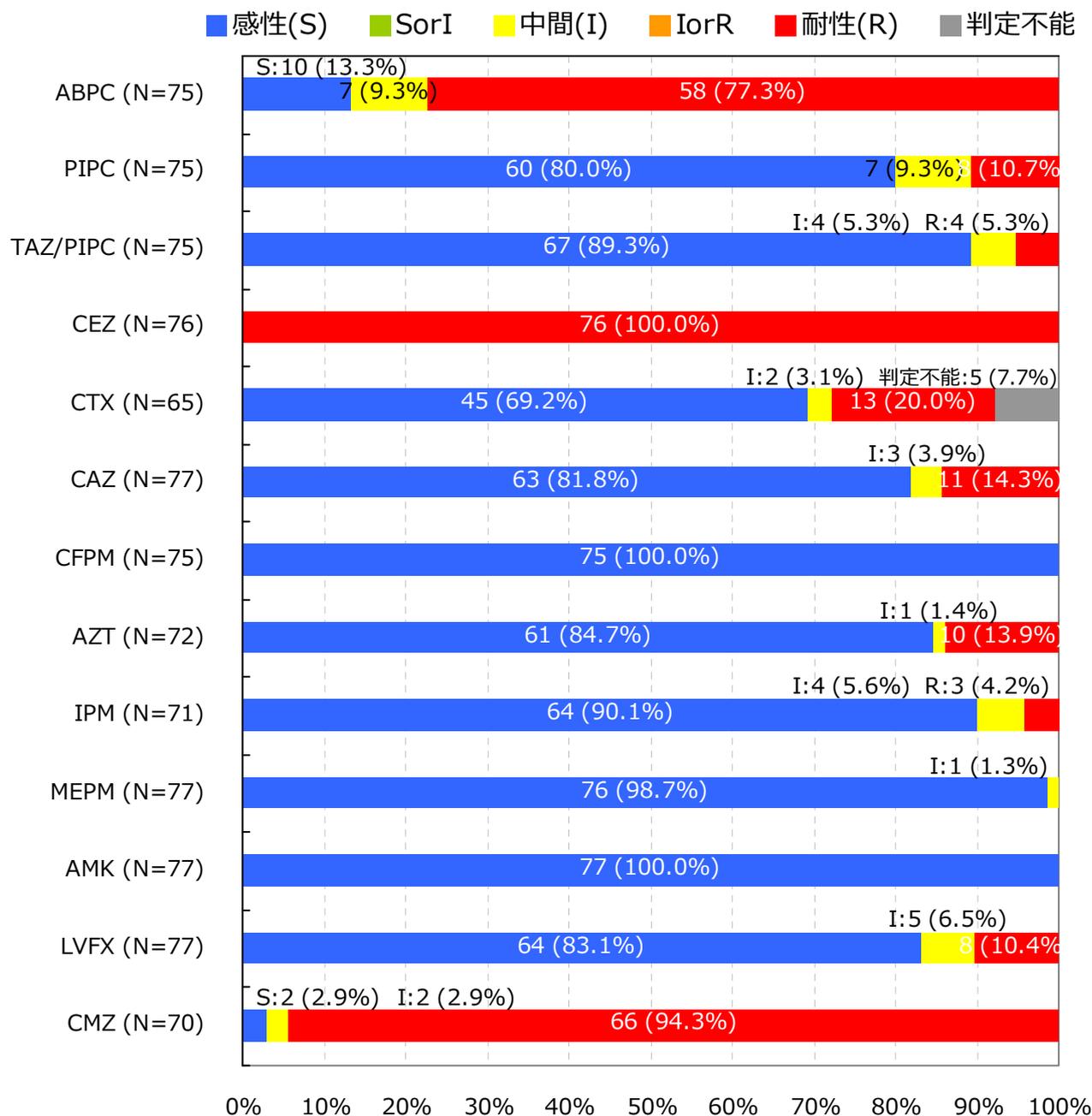
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2351と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Enterobacter cloacae †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

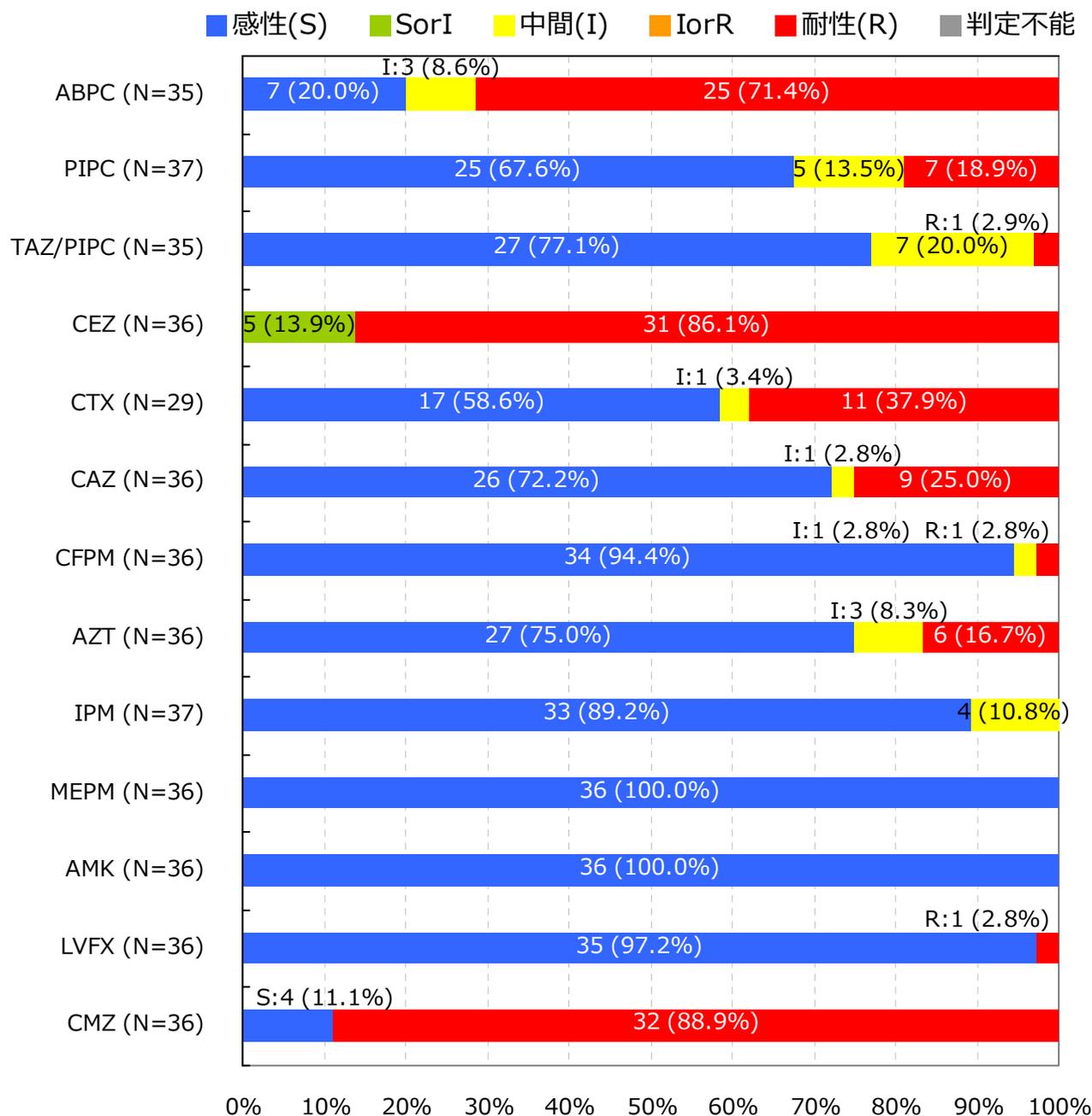
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 2151と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Enterobacter aerogenes †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

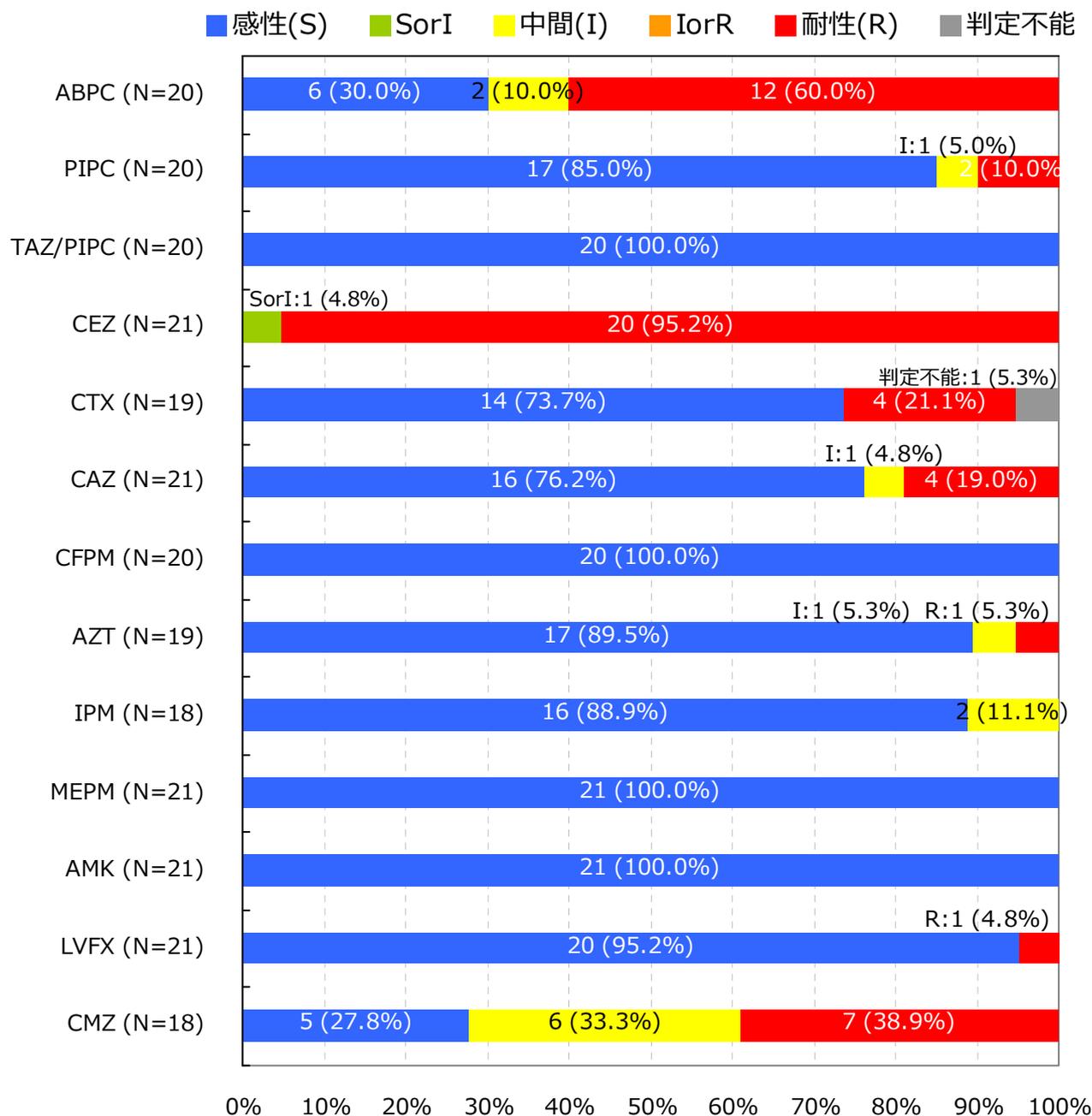
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2152と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Citrobacter freundii †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

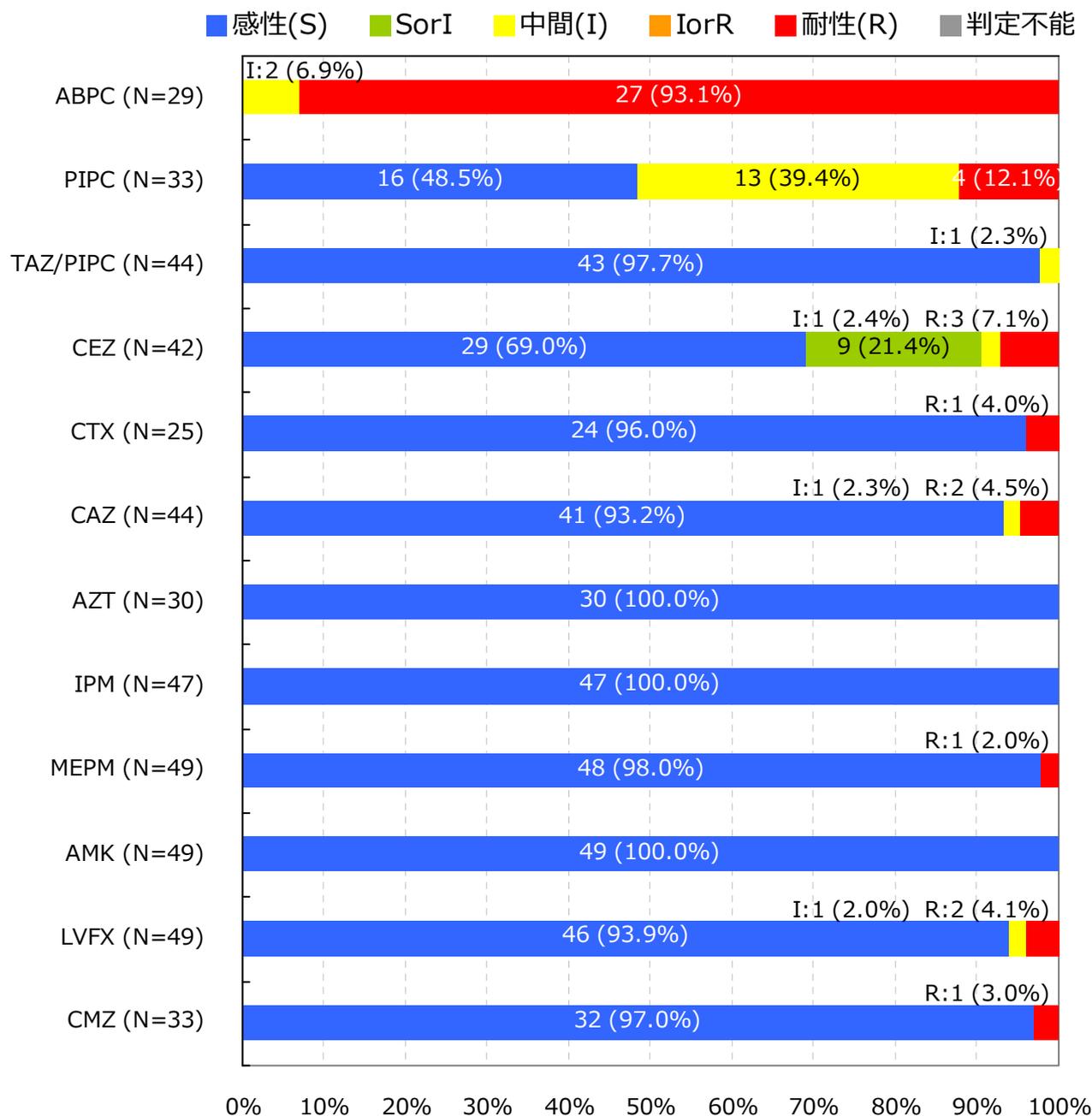
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2051と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Citrobacter koseri †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

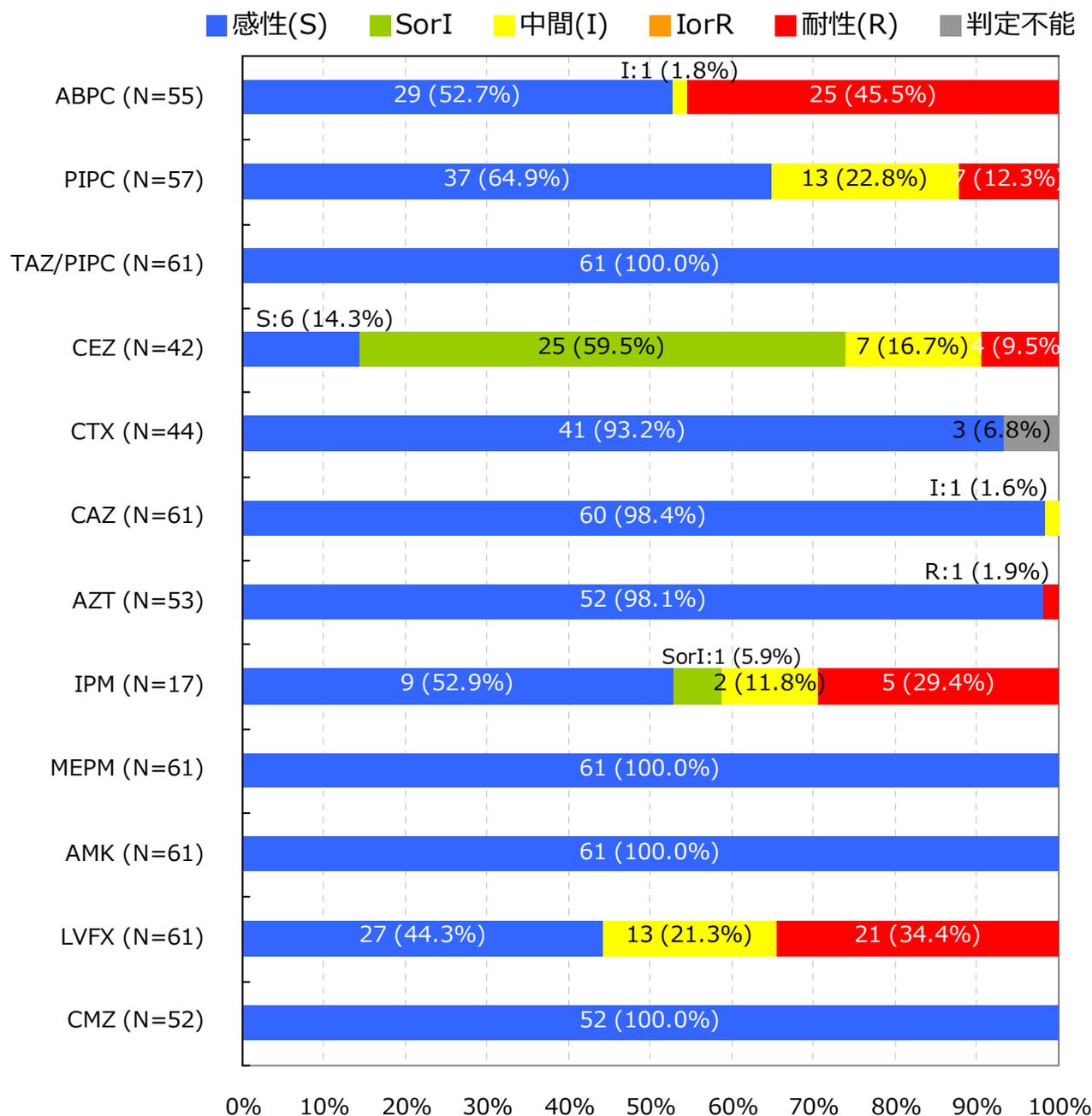
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2052と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Proteus mirabilis †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

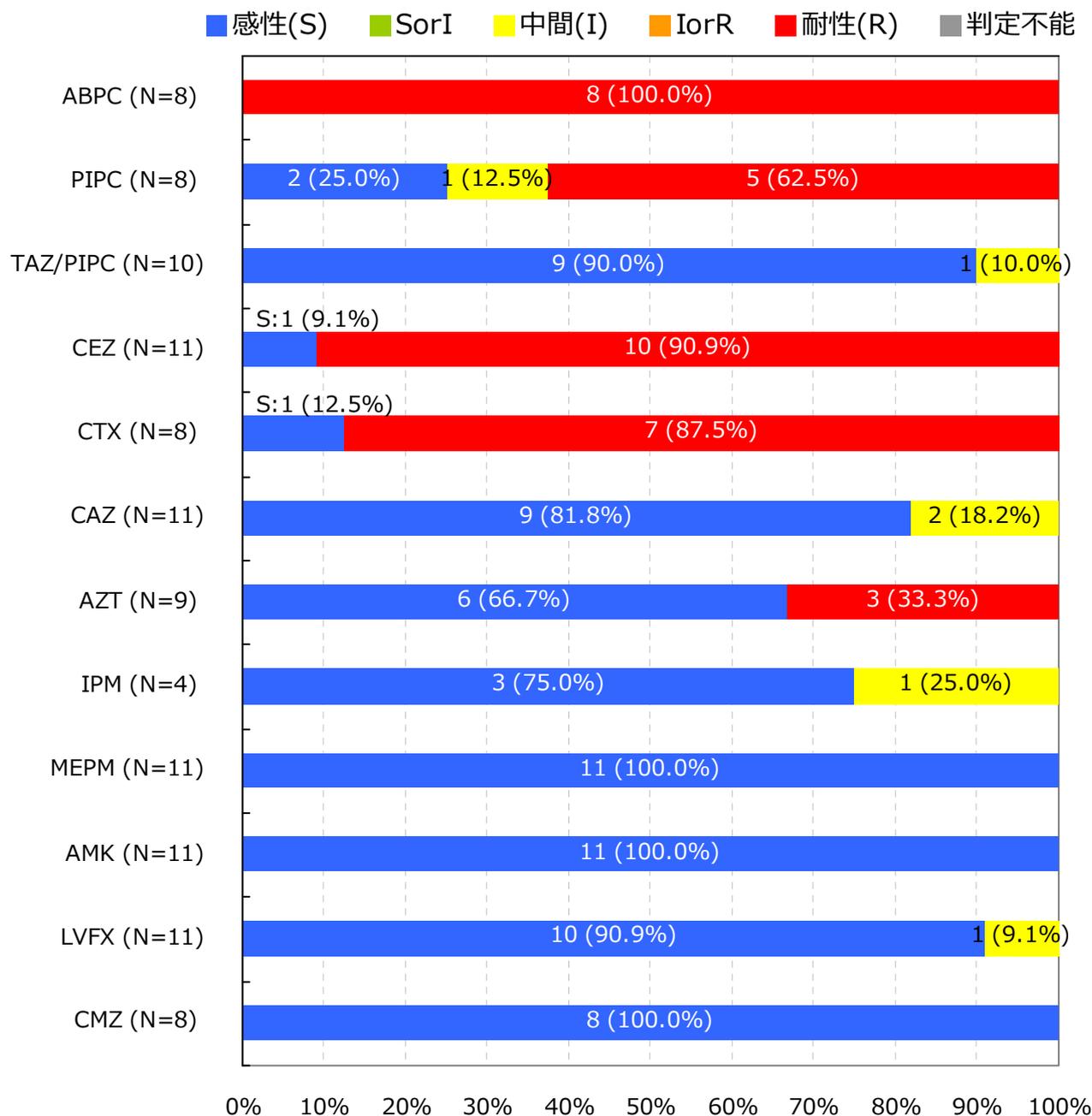
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2201と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Proteus vulgaris †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

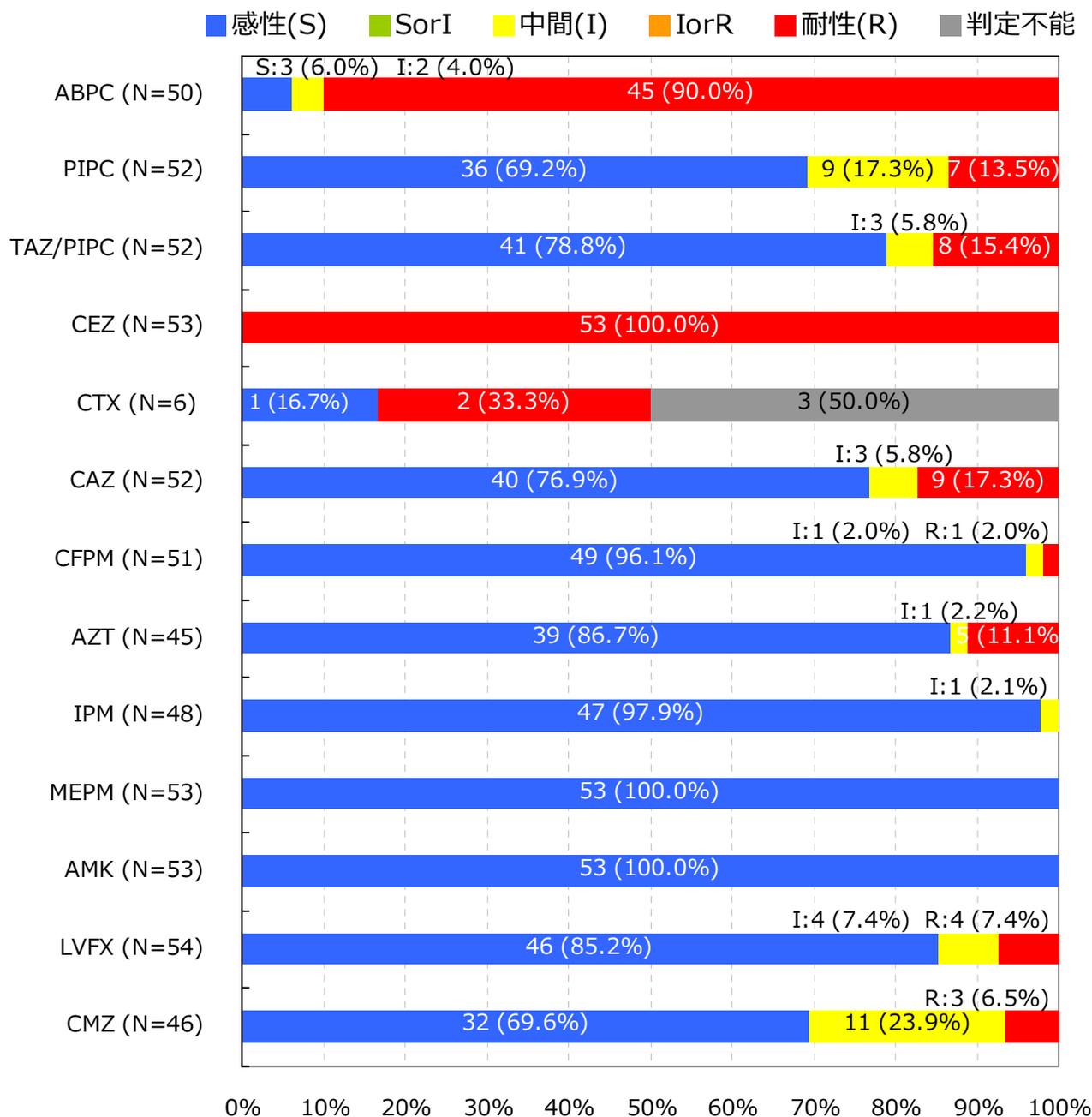
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2202と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Serratia marcescens †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

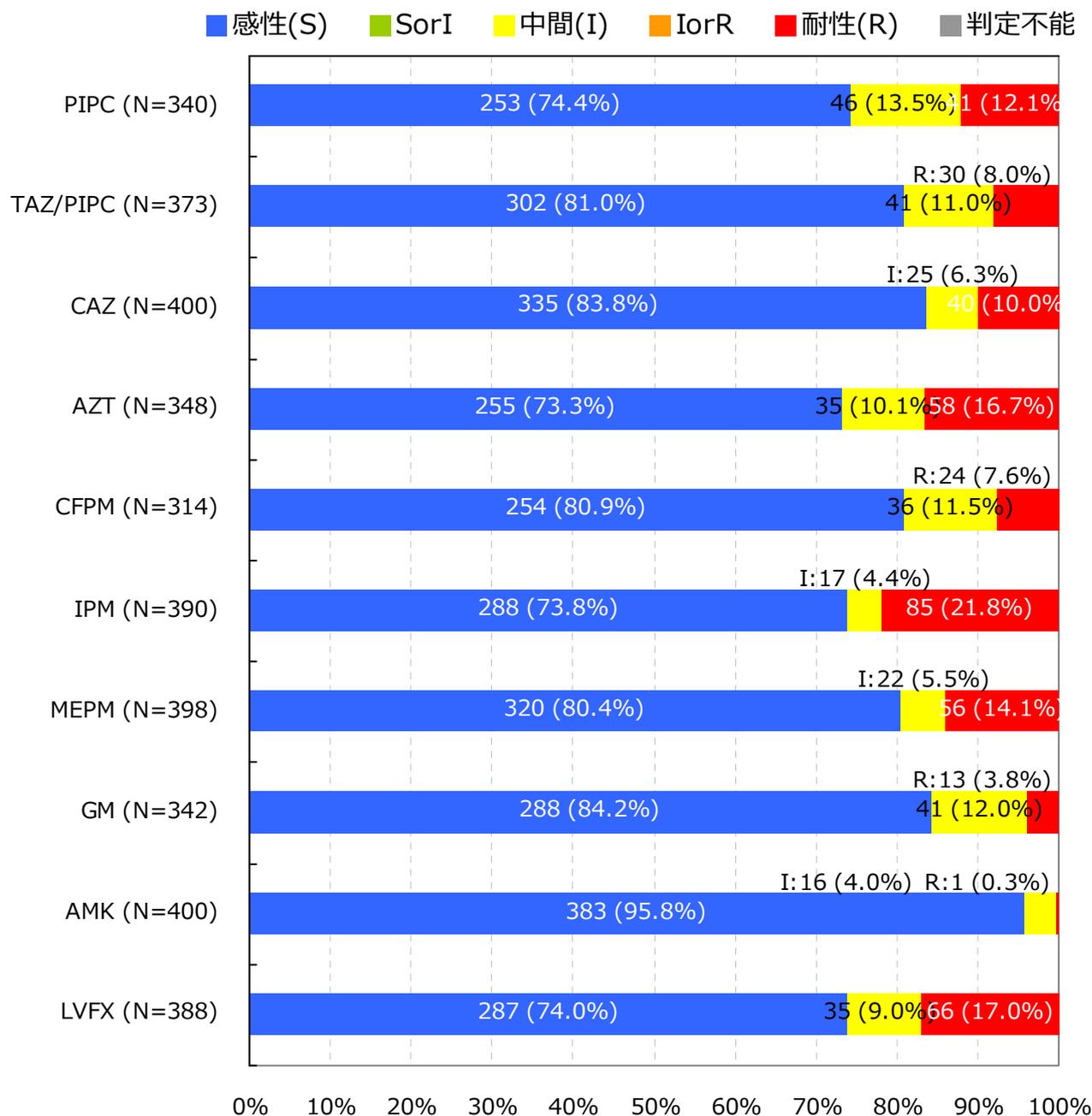
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2101と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Pseudomonas aeruginosa †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

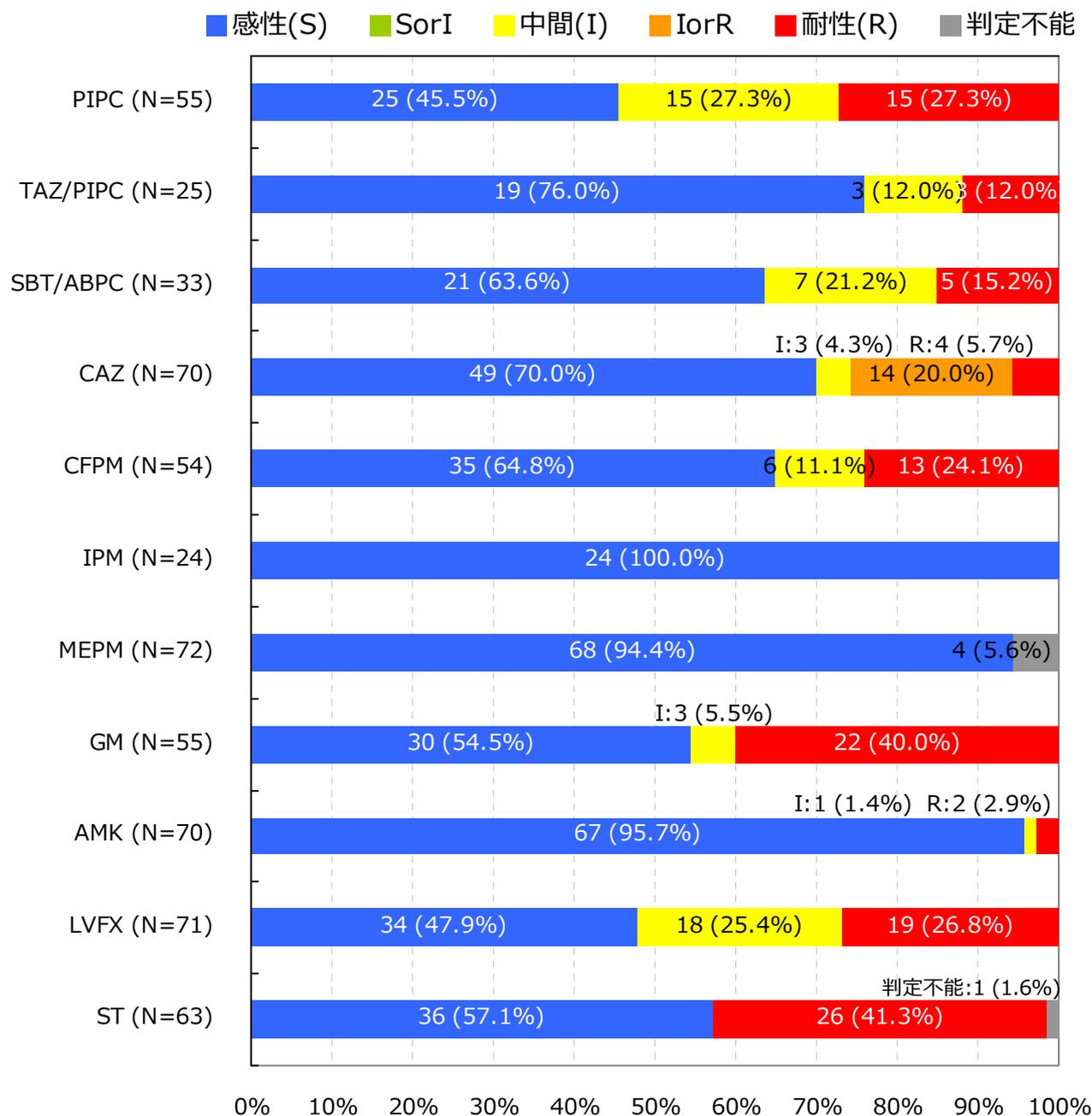
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：4001と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Acinetobacter spp. †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

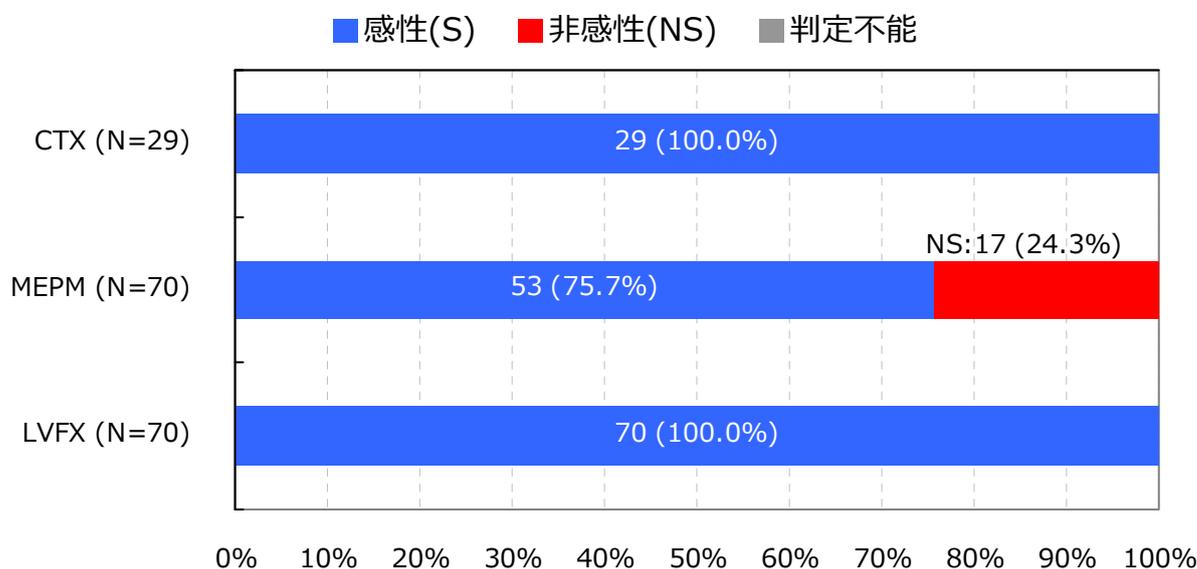
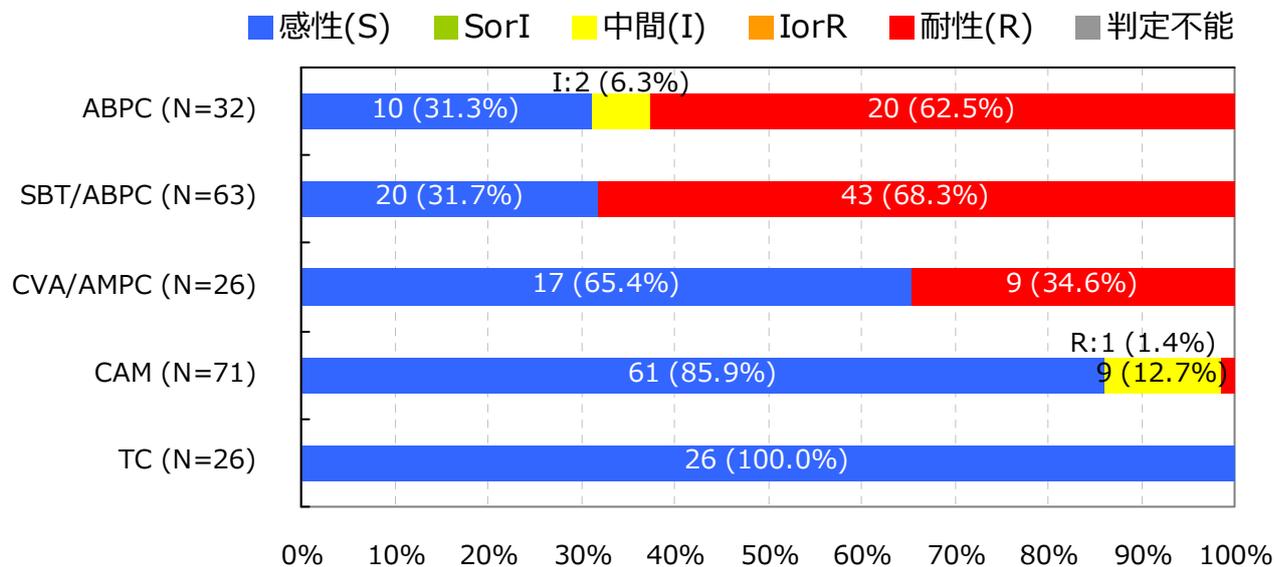
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 4400~4403と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Haemophilus influenzae †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 3201, 3202, 3203, 3205, 3208, 3211, 3214, 3217, 3220, 3223と報告された菌

【巻末資料 1 主要菌の菌名コード / 微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準】

主要菌の菌名コード（薬剤感受性条件なし）

| 菌名 | 菌名コード Ver.4.1 |
|-----------------------------------|----------------|
| <i>Staphylococcus aureus</i> | 1301,1303-1306 |
| <i>Staphylococcus epidermidis</i> | 1312 |
| <i>Streptococcus pneumoniae</i> | 1131 |
| <i>Enterococcus faecalis</i> | 1201,1202 |
| <i>Enterococcus faecium</i> | 1205,1206 |
| <i>Escherichia coli</i> | 2001-2007 |
| <i>Klebsiella pneumoniae</i> | 2351 |
| <i>Enterobacter</i> spp. | 2150-2156 |
| <i>Serratia marcescens</i> | 2101 |
| <i>Pseudomonas aeruginosa</i> | 4001 |
| <i>Acinetobacter</i> spp. | 4400-4403 |

「微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準」について

耐性菌の菌名※は以下の通り

MRSA : Methicillin-resistant *S. aureus* メチシリン耐性黄色ブドウ球菌

VRSA : Vancomycin-resistant *S. aureus* バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌

VRE : Vancomycin-resistant *Enterococcus* spp. バンコマイシン耐性腸球菌

PRSP : Penicillin-resistant *S. pneumoniae* ペニシリン耐性肺炎球菌

MDRP : Multidrug-resistant *P. aeruginosa* 多剤耐性緑膿菌

MDRA : Multidrug-resistant *Acinetobacter* spp. 多剤耐性アシネトバクター属

CRE : Carbapenem-Resistant Enterobacteriaceae カルバペネム耐性腸内細菌科細菌（2015年1月より集計開始）

* : 原則 S,I,R の判定は CLSI2012 (M100-S22) に準拠

† : 感染症発生動向調査の基準に準拠

2014年12月分データまでは CLSI2007 (M100-S17)、2015年1月分データより CLSI2012 (M100-S22) に準拠する。
薬剤耐性菌判定基準 (Ver.3.1) と 検査部門特定の耐性菌判定基準 (Ver.4.1) を基に作成した。

微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準

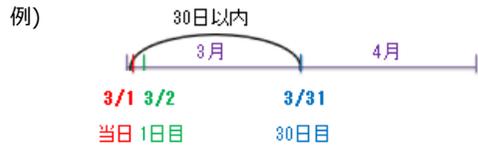
| 菌名※ | 概要* | 微量液体希釈法 (MIC 値) | 菌名コード Ver.4.1 |
|------|---|---|---|
| MRSA | MPIPC が "R" の <i>S. aureus</i> または選択培地で MRSA と確認された菌 | MPIPC $\geq 4\mu\text{g/mL}$ | 1301,1303 |
| VRSA | VCM が微量液体希釈法で "R" の <i>S. aureus</i> | VCM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ | 1301,1303-1306 |
| VRE | 下記のいずれかの条件を満たす <i>Enterococcus</i> spp. ・ VCM が微量液体希釈法で耐性† ・ 選択培地で VRE と確認された菌 注) 種の同定が行われていない <i>Enterococcus</i> sp. は除く | VCM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ † | 1201,1202,1205, 1206,1209,1210, 1213-1217 |
| PRSP | PCG が微量液体希釈法で耐性† の <i>S. pneumoniae</i> | PCG $\geq 0.125\mu\text{g/mL}$ † | 1131 |
| MDRP | 下記全てに該当する <i>P. aeruginosa</i> 1. カルバペネム系 (IPM, MEPM の何れか) が 微量液体希釈法で耐性† 2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈 法で耐性† 3. フルオロキノロン系 (NFLX, OFLX, LVFX, CPFX, LFLX, GFLX の何れか) が "R" | 1. IPM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ †、 MEPM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ † 2. AMK $\geq 32\mu\text{g/mL}$ † 3. NFLX $\geq 16\mu\text{g/mL}$ 、 OFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ 、 LVFX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ 、 LFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ 、 GFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ 、 CPFX $\geq 4\mu\text{g/mL}$ | 4001 |

| 菌名※ | 概要* | 微量液体希釈法 (MIC 値) | 菌名コード Ver.4.1 |
|----------------------------|--|---|-------------------------|
| MDRA | 下記全てに該当する <i>Acinetobacter</i> spp. 1. カルバペネム系 (IPM, MEPM の何れか) が "R" 2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈 法で耐性† 3. フルオロキノロン系 (LVFX, CPFX, GFLX の 何れか) が "R" | 1. IPM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ †、 MEPM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ † 2. AMK $\geq 32\mu\text{g/mL}$ † 3. LVFX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ 、 CPFX $\geq 4\mu\text{g/mL}$ 、 GFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ | 4400-4403 |
| CRE | 下記の何れかの条件を満たす腸内細菌科 1. MEPM が耐性† 2. IPM が耐性†、かつ CMZ が "R" | 1. MEPM $\geq 2\mu\text{g/mL}$ † 2. IPM $\geq 2\mu\text{g/mL}$ † かつ CMZ $\geq 64\mu\text{g/mL}$ | 2000-2691, 3150-3151 |
| カルバペネム 耐性緑膿菌 | IPM または MEPM が耐性† の <i>P. aeruginosa</i> | IPM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ † MEPM $\geq 16\mu\text{g/mL}$ † | 4001 |
| 第三世代セファロ スポリン耐性 肺炎桿菌 | CTX または CAZ が "R" の <i>K. pneumoniae</i> | CTX $\geq 4\mu\text{g/mL}$ CAZ $\geq 16\mu\text{g/mL}$ | 2351 |
| 第三世代セファロ スポリン耐性 大腸菌 | CTX または CAZ が "R" の <i>E. coli</i> | CTX $\geq 4\mu\text{g/mL}$ CAZ $\geq 16\mu\text{g/mL}$ | 2001-2007 |
| フルオロキノロン 耐性大腸菌 | フルオロキノロン系 (NFLX, OFLX, LVFX, LFLX, GFLX, CPFX の何れか) が "R" の <i>E. coli</i> | NFLX $\geq 16\mu\text{g/mL}$ 、 OFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ 、 LVFX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ 、 LFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ 、 GFLX $\geq 8\mu\text{g/mL}$ 、 CPFX $\geq 4\mu\text{g/mL}$ | 2001-2007 |

【巻末資料 2 公開情報の集計方法について】

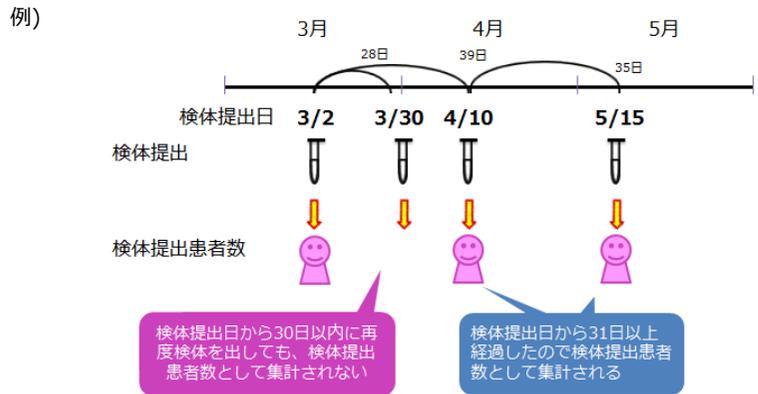
1. 日数の数え方

検体提出日の翌日を 1 日目とする。検体提出日が 3 月 1 日とすると、1 日目が 3 月 2 日、30 日目が 3 月 31 日となる。



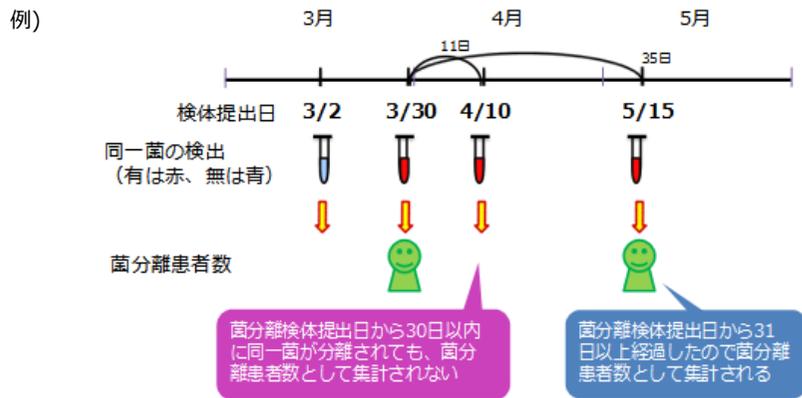
2. 検体提出患者数

検体提出患者数は、検体の種類や菌分離の有無に関わらず検体(入院検体)が提出された患者の数である。検体提出患者数は重複処理を行っており、30 日以内の同一患者からの複数の検体提出は 1 件とする。



3. 菌分離患者数

菌分離患者数も検体提出患者と同様の重複処理を行い、30 日以内に同一患者から同一菌が複数回検出された場合、菌分離患者数は 1 件とする。耐性菌分離患者数は、耐性菌の基準に合致する菌をまず抽出し、その中で上記重複処理を行っている。



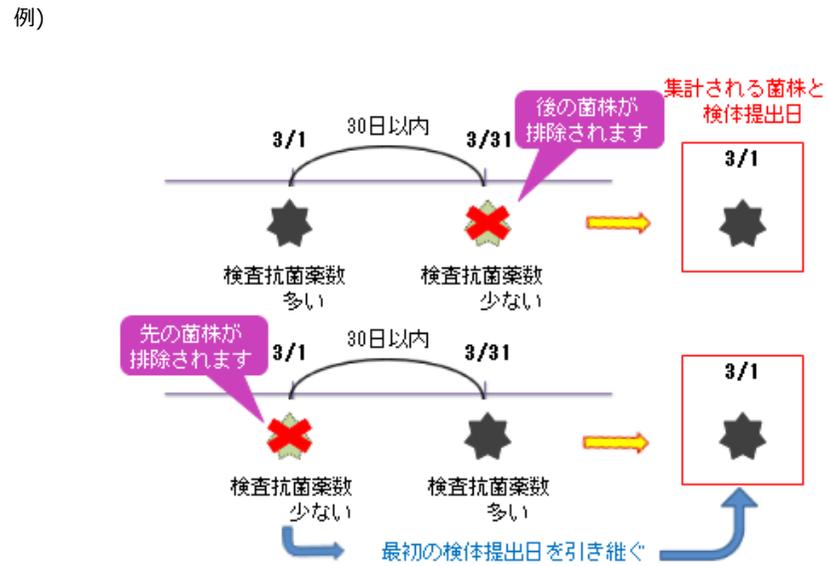
4. 抗菌薬感受性検査結果をもとにした同一菌と異なる菌との区別

30 日以内に同一患者から同一菌が検出された場合であっても、検査抗菌薬感受性結果に 1 つ以上不一致(下記①～④のいずれかに該当)がある場合は異なる菌株として集計される。

- ① MIC 値に 4 倍以上の違いがある
ただし、MIC > 2 は MIC ≥ 4 と考え、判定時は MIC = 4 として扱う
また、MIC < 16 は MIC ≤ 16 と考え、判定時は MIC = 16 として扱う
- ② SIR 判定では「S と R」の組み合わせ
- ③ +/- 判定では「-と++」または「+と+++」または「-と+++」の組み合わせ
- ④ 共通する検査抗菌薬数が 5 未満

5. 抗菌薬感受性結果の重複処理

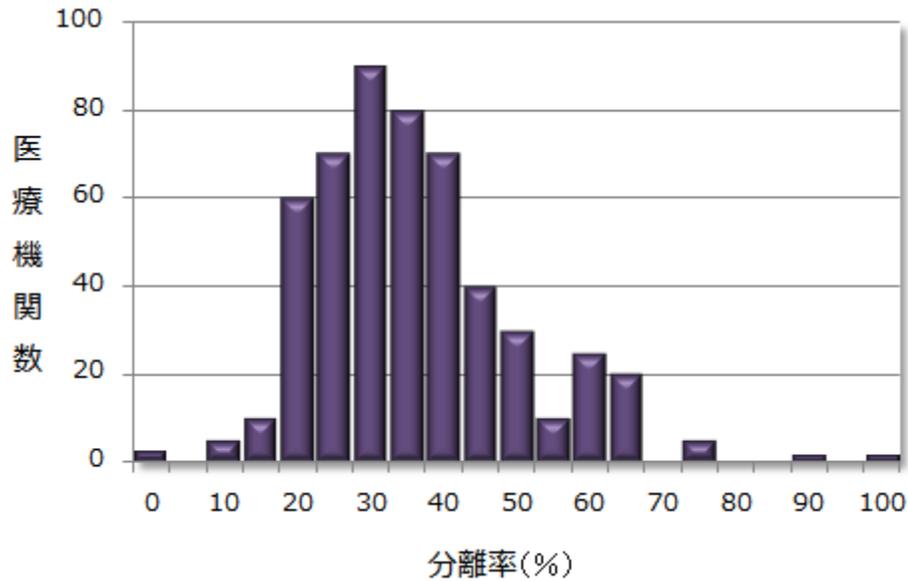
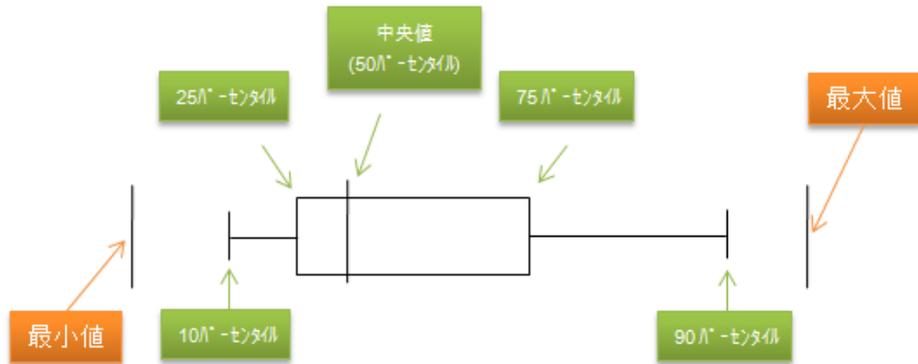
検体提出日が先の菌株の検査抗菌薬数が(30 日以内)の後の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、後の菌株の抗菌薬感受性検査結果は排除する。また、検体提出日が後の菌株の検査抗菌薬数が(30 日以内)の先の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、先の菌株の抗菌薬感受性検査結果を排除するが、先の検査の検体提出日を引き継ぐ。



【巻末資料 3 箱ひげ図について】

1. 箱ひげ図について

集計対象医療機関のデータのばらつきを示し、集計対象医療機関における自施設の位置を確認することができる。



※ パーセンタイル：値を小さいものから大きいものへと順番に並べ、全体を 100 として何番目であるかを表したもの。
 例えば、10パーセンタイルは、全体を 100 として小さいほうから数えて 10 番目の計測値を示している。

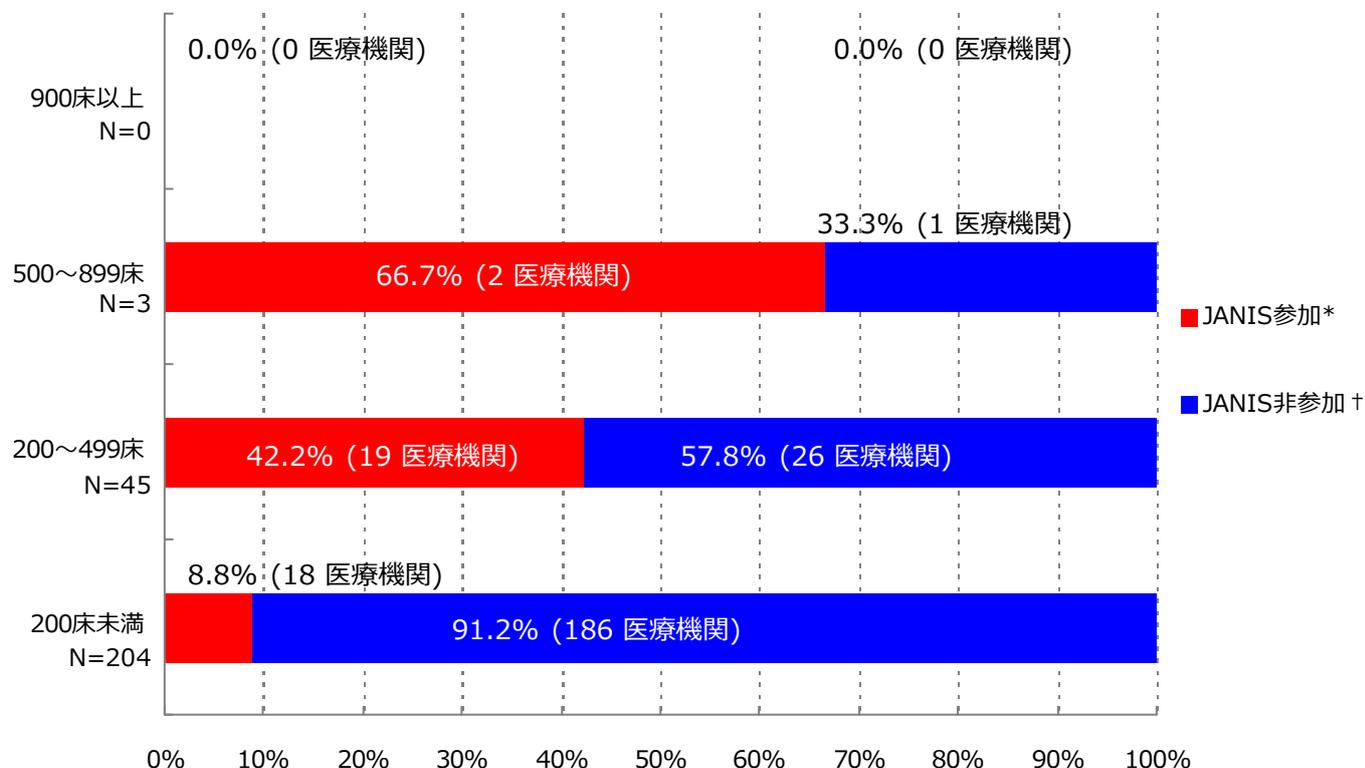
2. 公開情報の箱ひげ図



| 集計対象医療機関の分離率 (%) の分布 | | |
|----------------------|----------------------|------------------|
| 2010年 * | 2011 | |
| 1,069,216人 | 1,309,993人 | |
| 175,145人 (16.38%) | 210,382人 (16.06%) | 2.43 15.96 46.06 |
| 47,523人 (4.44%) | 64,588人 (4.93%) | 0.00 3.21 37.54 |



1. 集計対象医療機関数(39医療機関)



*JANIS参加 = 2017年1～3月 集計対象医療機関数

† JANIS非参加 = (2016年 都道府県別医療機関数 †) - (2017年1～3月 集計対象医療機関数)

| 病床数 | 2016年 都道府県別医療機関数 † | 2017年1月～3月 集計対象医療機関数 (都道府県別医療機関数に占める割合) | |
|----------|--------------------|--|-----------|
| 900床以上 | 0 | 0 | (0.0%) |
| 500～899床 | 3 | 2 | (66.7%) |
| 200～499床 | 45 | 19 | (42.2%) |
| 200床未満 | 204 | 18 | (8.8%) |
| 病床数不明 | - | 0 | (-) |
| 合計 | 252 | 39 | (15.5%) |

† 平成28年医療施設（動態）調査を参照した

2. 検査材料別集計対象医療機関数、検体数、分離菌数

| 検査材料分類 | 集計対象医療機関数 | 検体数 | 陽性検体数 (分離菌数) |
|--------|-----------|--------|-------------------|
| 呼吸器系検体 | 39 | 6,352 | 4,499 (9,721) |
| 尿検体 | 39 | 2,494 | 1,595 (2,264) |
| 便検体 | 37 | 1,670 | 1,134 (2,055) |
| 血液検体 | 38 | 6,998 | 1,058 (1,199) |
| 髄液検体 | 23 | 256 | 17 (18) |
| その他 | 39 | 3,266 | 1,586 (2,903) |
| 合計 | 39 | 21,036 | 9,889 (18,160) |

入院として報告された検体を集計

集計対象菌：コメントのみ(菌名コード9999)の報告以外の全ての菌

検査材料分類は以下に該当する検査材料コードを集計

呼吸器系検体：

101(喀出痰)、102(気管内採痰)、103(気管支洗浄液)、104(咽頭粘液)、105(鼻腔内)、106(口腔内)、
107(生検材料(肺))、109(その他(呼吸器))、404(胸水)

尿検体：

201(自然排尿)、202(採尿カテーテル)、203(留置カテーテル)、206(カテーテル尿(採尿、留置カテの区別不能))

便検体：

301(糞便)

血液検体：

401(静脈血)、402(動脈血)

髄液検体：

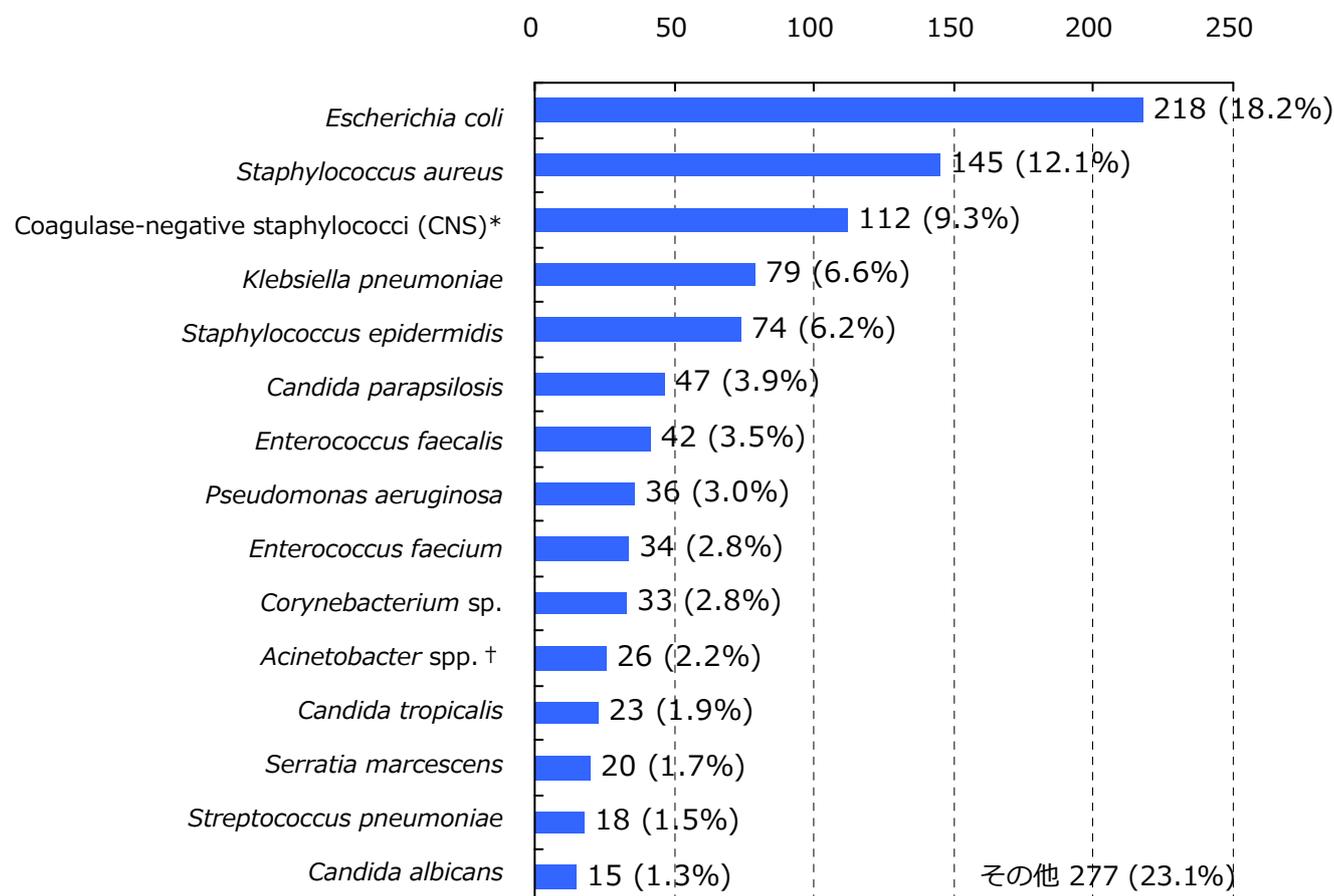
403(髄液)

その他：上記以外の検査材料コード

検査材料コード：JANISホームページ>各部門について>検査部門 <https://janis.mhlw.go.jp/section/kensa.html>

3. 検査材料別分離菌数割合

血液検体分離菌 (N=1,199)



*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌 (1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外)

†菌名コード：4400～4403と報告された菌

入院として報告された検体を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：静脈血(検査材料コード401)と動脈血(同402)

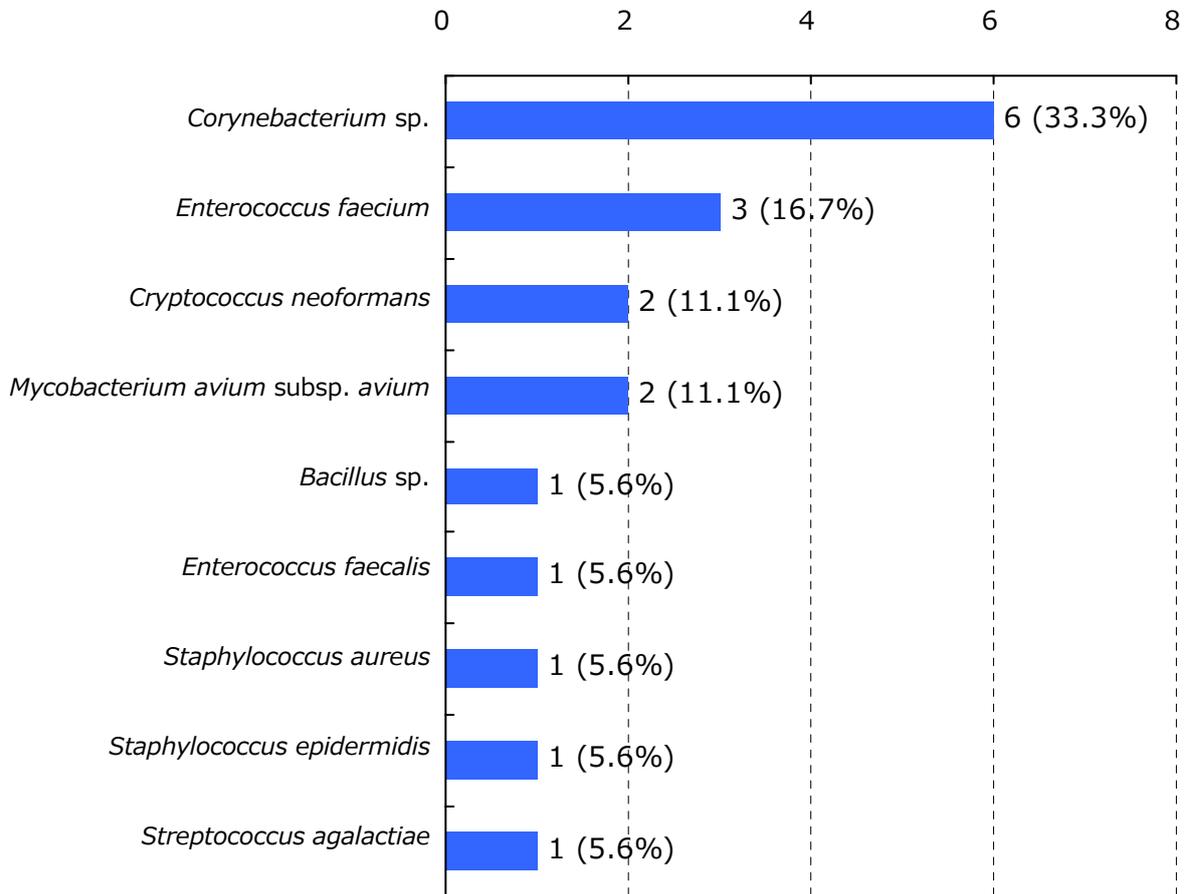
血液検体分離菌数割合 = (対象菌の血液検体分離菌数) ÷ (血液検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <https://janis.mhlw.go.jp/section/kensa.html>

3. 検査材料別分離菌数割合

髄液検体分離菌 (N=18)



入院として報告された検体を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：髄液(検査材料コード403)

髄液検体分離菌数割合 = (対象菌の髄液検体分離菌数) ÷ (髄液検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <https://janis.mhlw.go.jp/section/kensa.html>

4. 主要菌分離患者数*と全医療機関†の分離率分布

| | 検体提出・菌分離患者数 全体の分離率‡ | 集計対象医療機関の 分離率¶(%)の分布 |
|---------------------------|------------------------|-------------------------|
| 検体提出患者数 | 8,051人 | |
| <i>S. aureus</i> | 1,192人 (14.81%) | 3.23 14.76 27.44 |
| <i>S. epidermidis</i> | 243人 (3.02%) | 0.00 2.94 12.64 |
| <i>S. pneumoniae</i> | 111人 (1.38%) | 0.00 1.11 7.69 |
| <i>E. faecalis</i> | 366人 (4.55%) | 0.00 4.23 11.50 |
| <i>E. faecium</i> | 231人 (2.87%) | 0.00 2.02 9.73 |
| <i>E. coli</i> | 1,089人 (13.53%) | 4.40 13.04 42.86 |
| <i>K. pneumoniae</i> | 476人 (5.91%) | 0.00 6.00 12.96 |
| <i>Enterobacter spp.</i> | 268人 (3.33%) | 0.00 2.66 7.08 |
| <i>S. marcescens</i> | 148人 (1.84%) | 0.00 1.50 5.78 |
| <i>P. aeruginosa</i> | 642人 (7.97%) | 0.00 7.41 28.89 |
| <i>Acinetobacter spp.</i> | 98人 (1.22%) | 0.00 0.58 3.13 |

入院として報告された検体を集計

*分離患者数と検体提出患者数は30日ごとに重複処理(巻末参照)している

†ここでは全医療機関は集計対象医療機関を表す

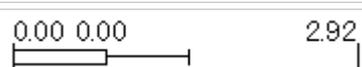
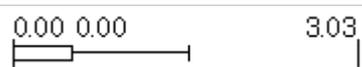
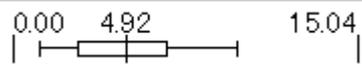
‡ここでの分離率は全体の分離率を表す

全体の分離率

= (集計対象医療機関の対象菌の分離患者数合計) ÷ (集計対象医療機関の検体提出患者数合計) × 100

¶分離率 = (対象菌の分離患者数) ÷ (検体提出患者数) × 100

5. 特定の耐性菌分離患者数*と全医療機関†の分離率分布

| | 検体提出・菌分離患者数 全体の分離率‡ | 集計対象医療機関の 分離率¶(%)の分布 |
|------------------------|------------------------|--|
| 検体提出患者数 | 8,051人 | |
| メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA) | 625人 (7.76%) | 2.22 6.70 21.05  |
| バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌(VRSA) | 0人 (0.00%) | 0.00  |
| バンコマイシン耐性腸球菌(VRE) | 1人 (0.01%) | 0.00 0.00 0.22  |
| ペニシリン耐性肺炎球菌(PRSP) | 43人 (0.53%) | 0.00 0.00 2.92  |
| 多剤耐性緑膿菌(MDRP) | 5人 (0.06%) | 0.00 0.00 1.17  |
| 多剤耐性アシネトバクター属(MDRA) | 0人 (0.00%) | 0.00  |
| カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE) | 5人 (0.06%) | 0.00 0.00 0.74  |
| カルバペネム耐性緑膿菌 | 98人 (1.22%) | 0.00 0.74 4.76  |
| 第三世代セファロスポリン耐性肺炎桿菌 | 33人 (0.41%) | 0.00 0.00 3.03  |
| 第三世代セファロスポリン耐性大腸菌 | 195人 (2.42%) | 0.00 2.35 10.71  |
| フルオロキノロン耐性大腸菌 | 353人 (4.38%) | 0.00 4.92 15.04  |

入院検体でかつ、検査法が原則微量液体希釈法又はEtestと設定されたMIC値が報告されている検体を集計

MRSAとVREは検査法によらず菌名コードで指定された場合はそれらを含む

*分離患者数と検体提出患者数は30日ごとに重複処理(巻末参照)している

†ここでは全医療機関は集計対象医療機関を表す

‡ここでの分離率は全体の分離率を表す

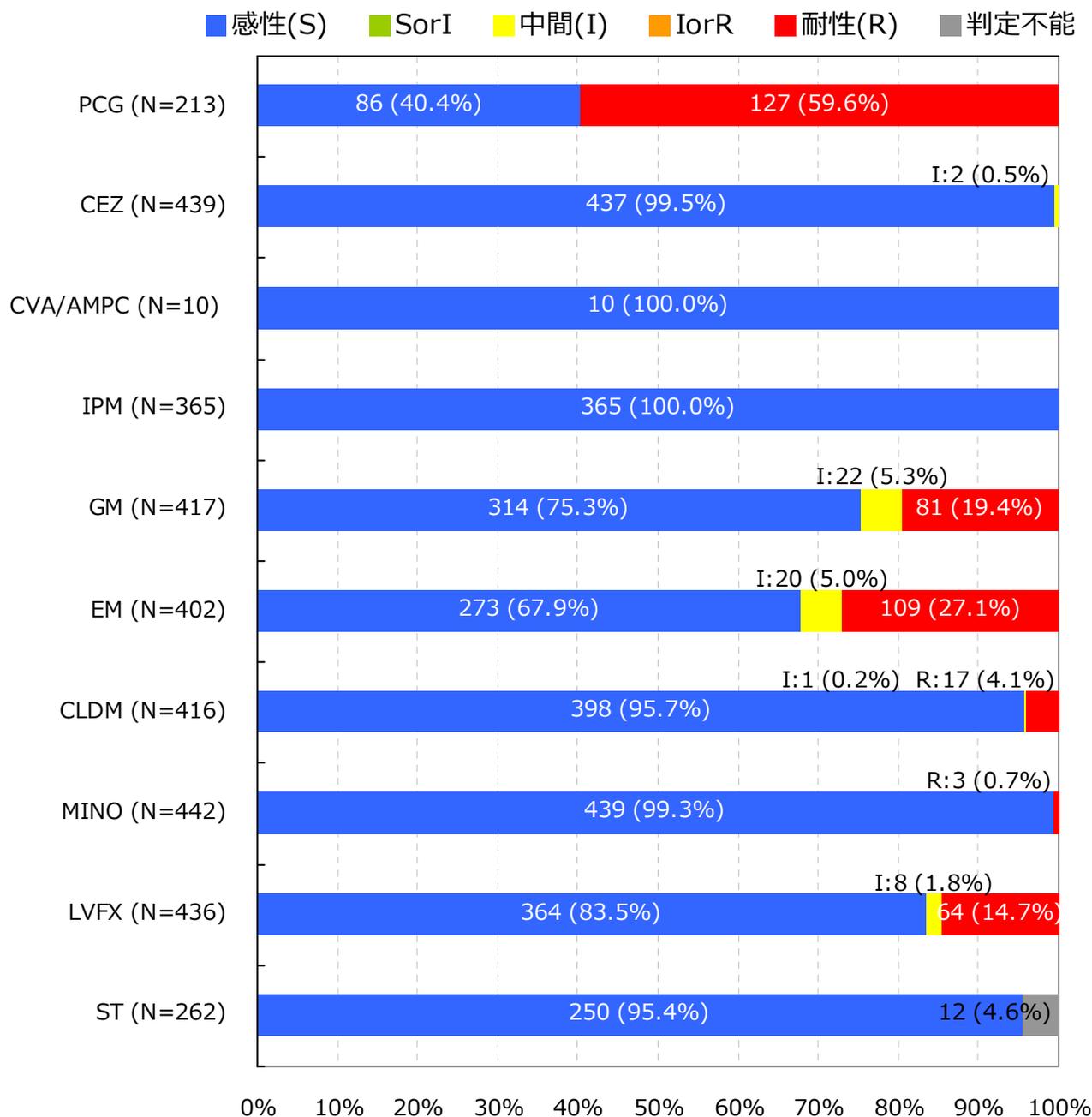
全体の分離率

= (集計対象医療機関の対象菌の分離患者数合計) ÷ (集計対象医療機関の検体提出患者数合計) × 100

¶分離率 = (対象菌の分離患者数) ÷ (検体提出患者数) × 100

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Staphylococcus aureus (MSSA) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

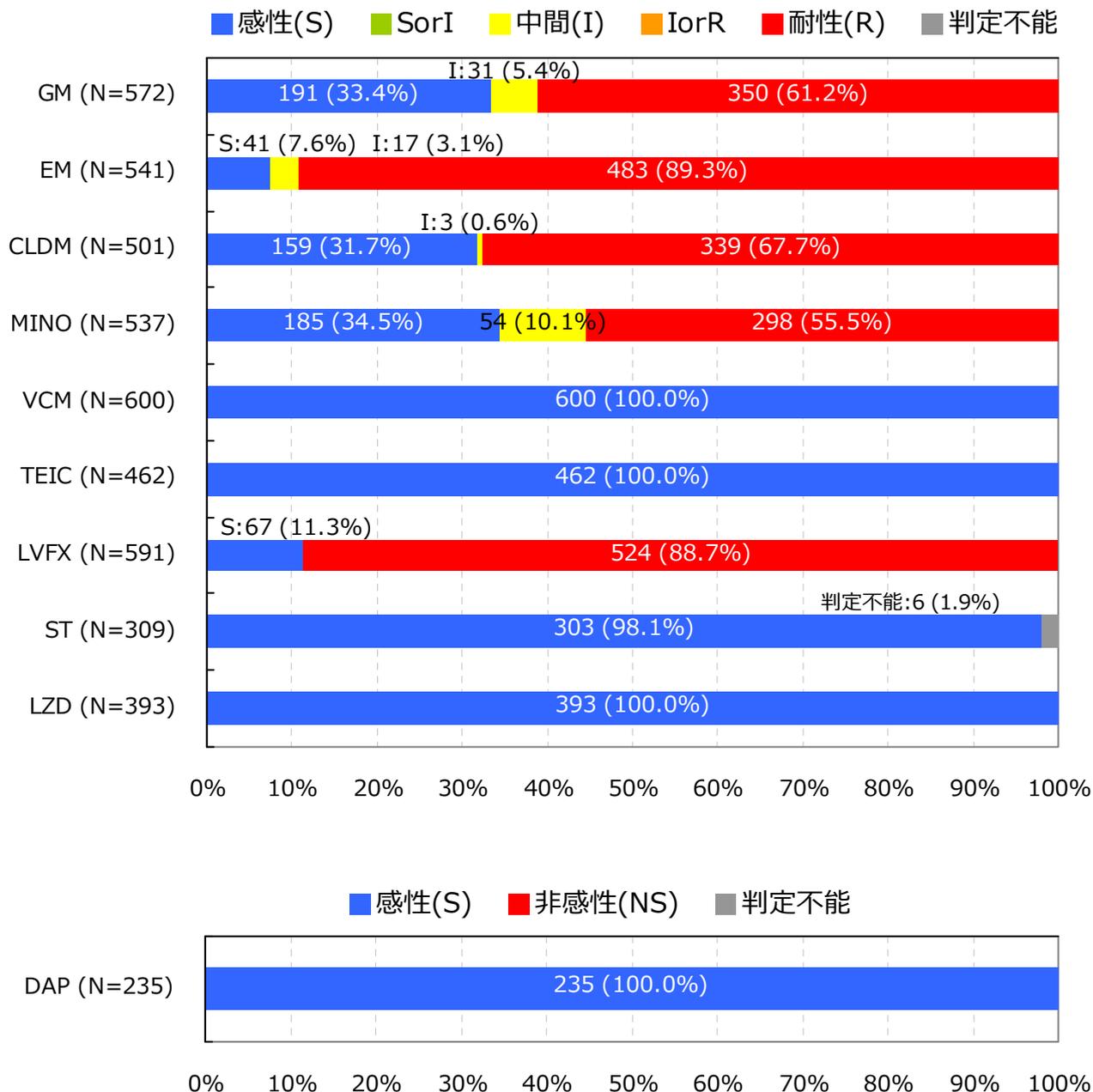
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1304, 1305, 1306と報告された菌および菌名コード : 1301と報告され抗菌薬コード : 1208 (オキサシリン) の感受性結果「S」の菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Staphylococcus aureus (MRSA) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

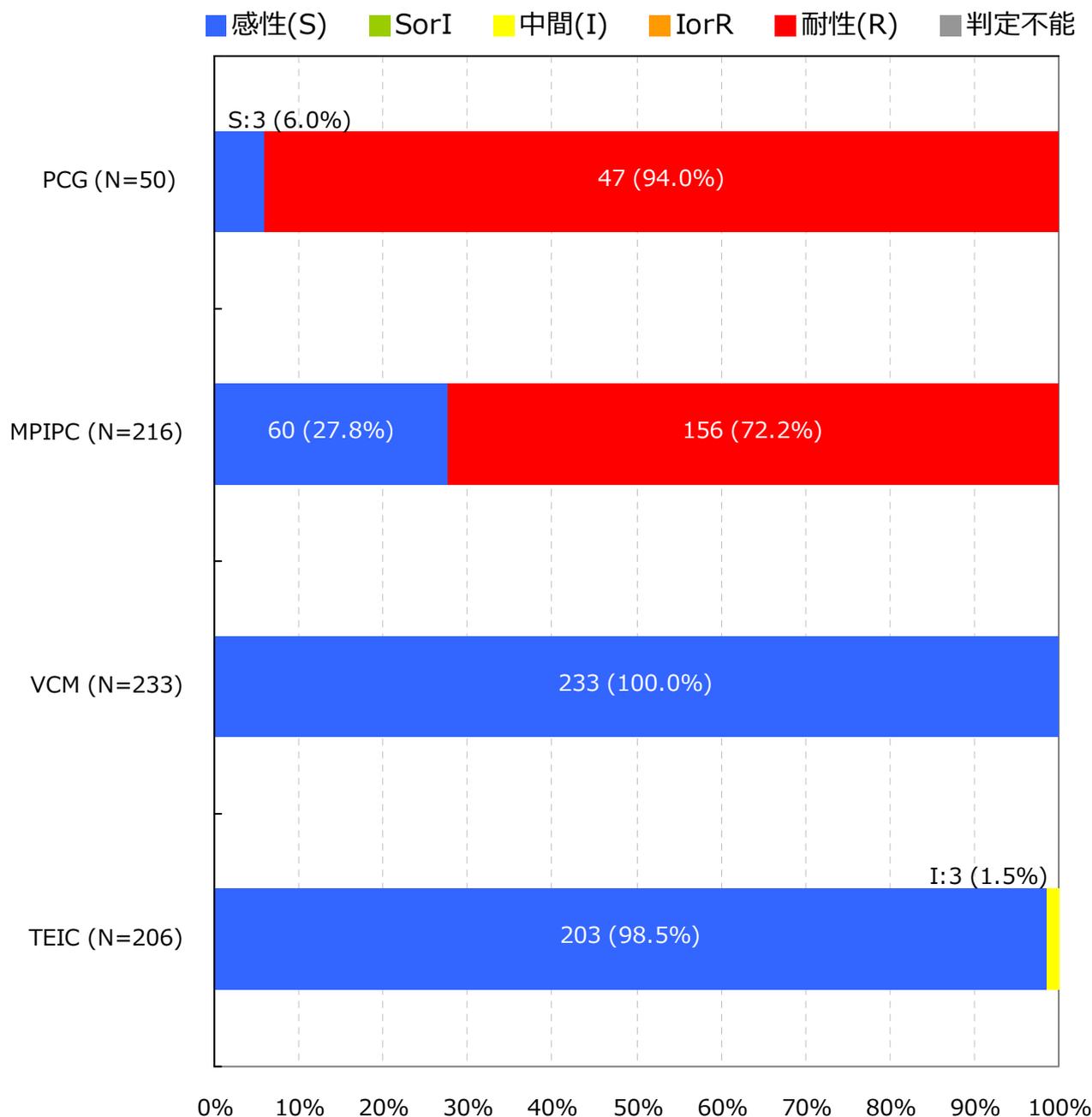
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1303と報告された菌および菌名コード : 1301と報告され抗菌薬コード : 1208 (オキサシリン) の感受性結果「R」の菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Staphylococcus epidermidis †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

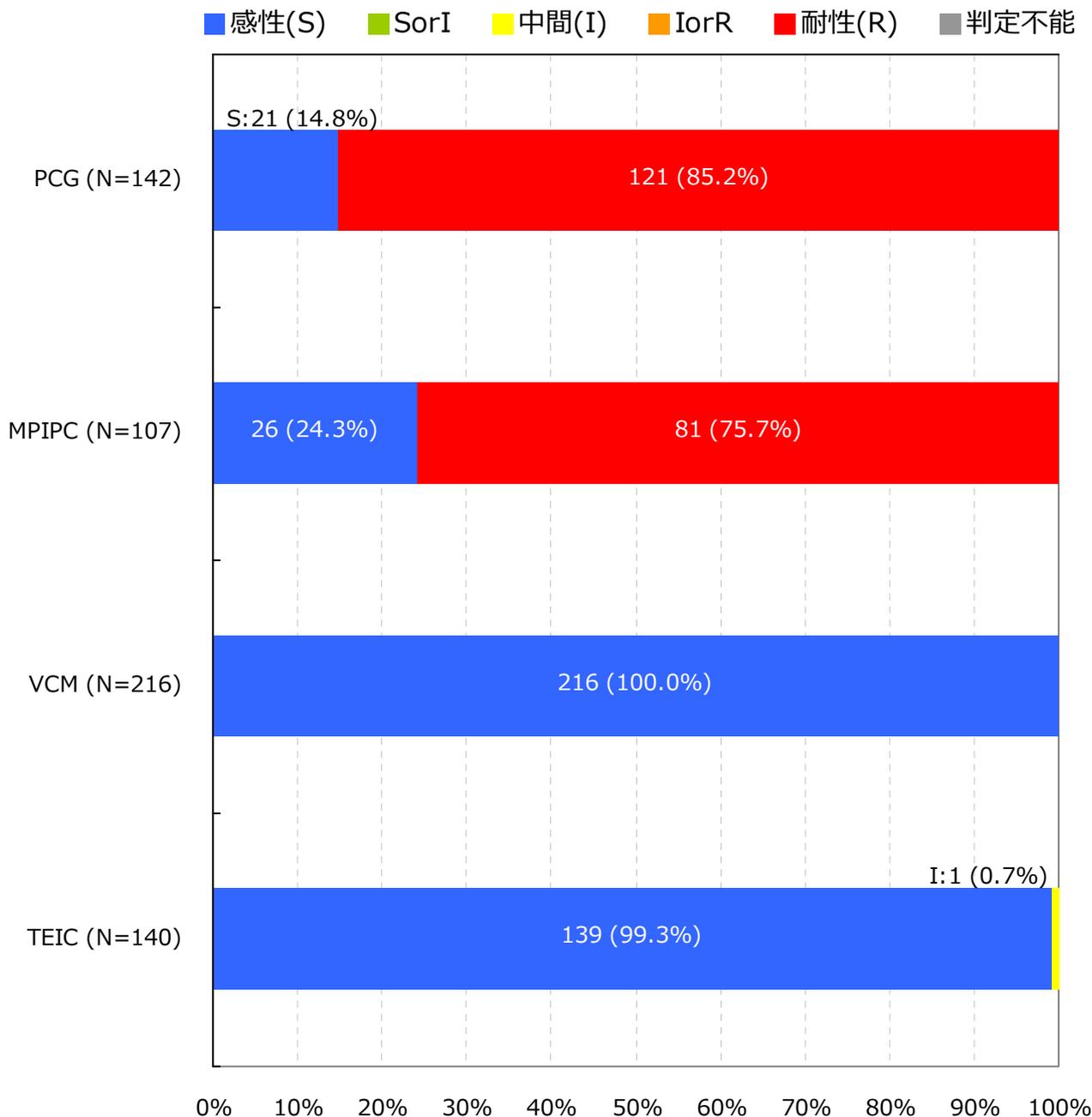
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1312と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Coagulase-negative staphylococci (CNS) †



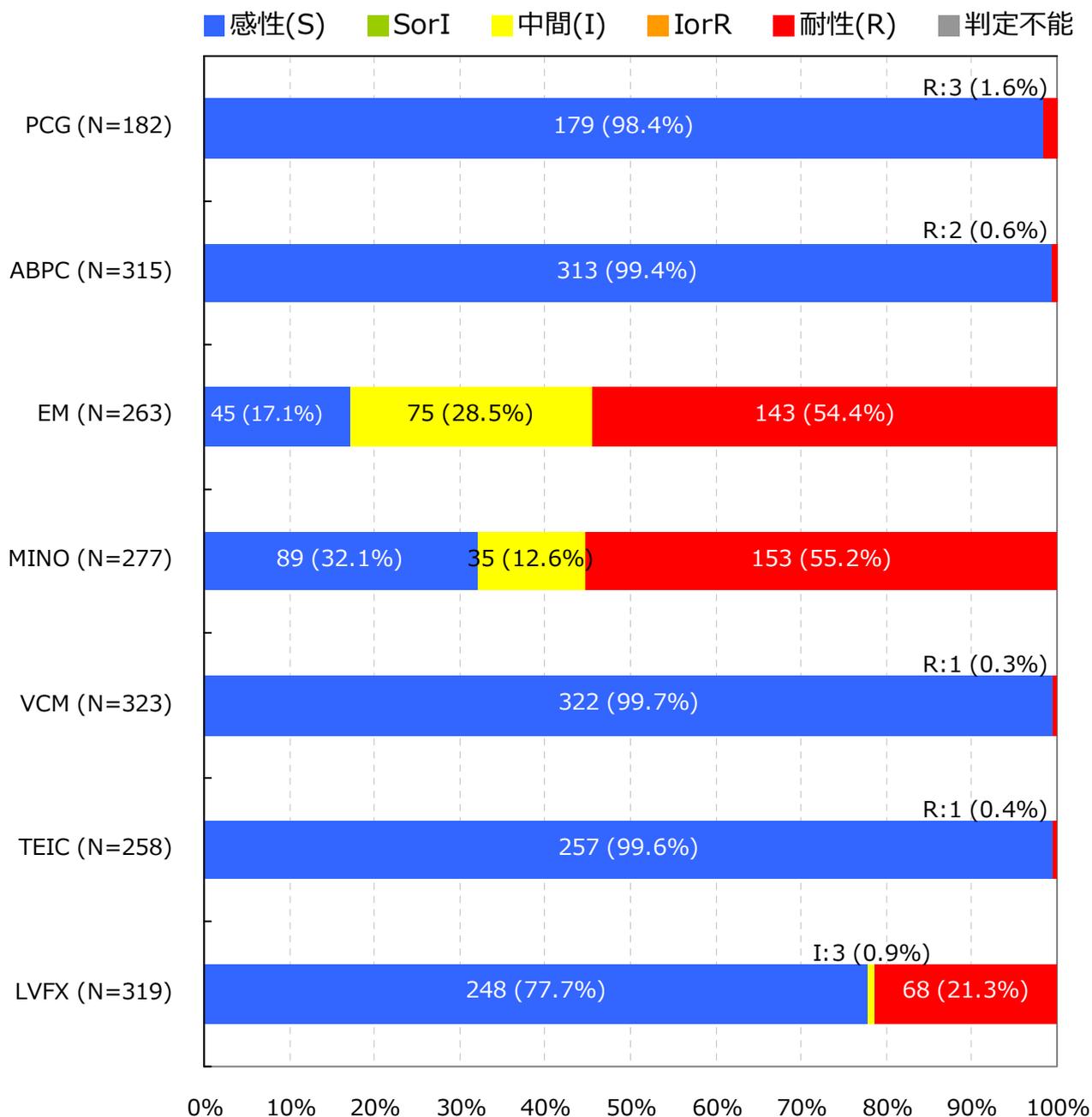
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1311, 1313～1325と報告された菌 (1312 : *Staphylococcus epidermidis*は対象外)

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Enterococcus faecalis †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

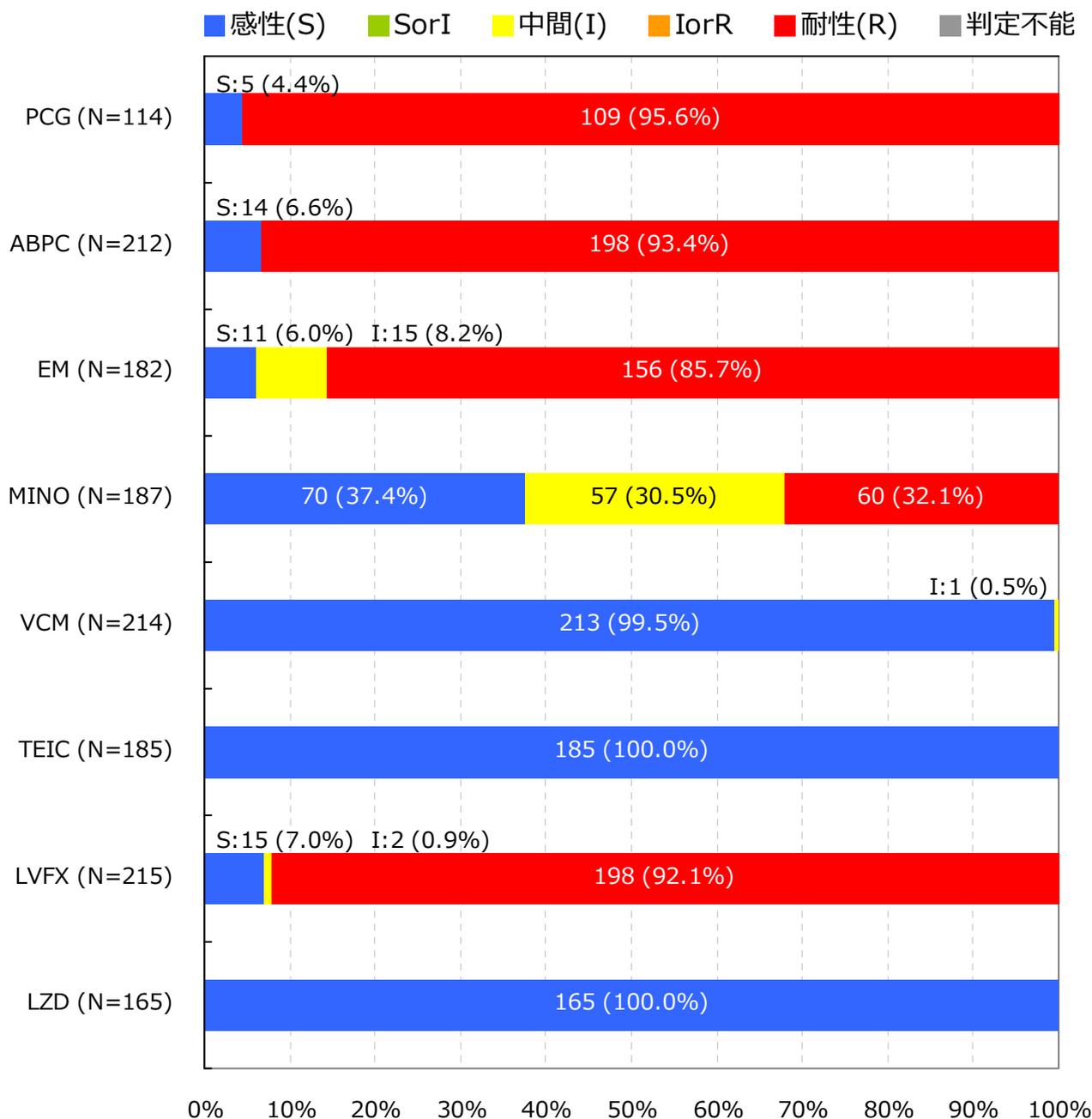
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1201, 1202と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Enterococcus faecium †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1205, 1206と報告された菌

(鹿児島県)

公開情報 2017年1月～3月 四半期報(全集計対象医療機関)

院内感染対策サーベイランス 検査部門

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Streptococcus pneumoniae(髄液検体) †

報告はありませんでした

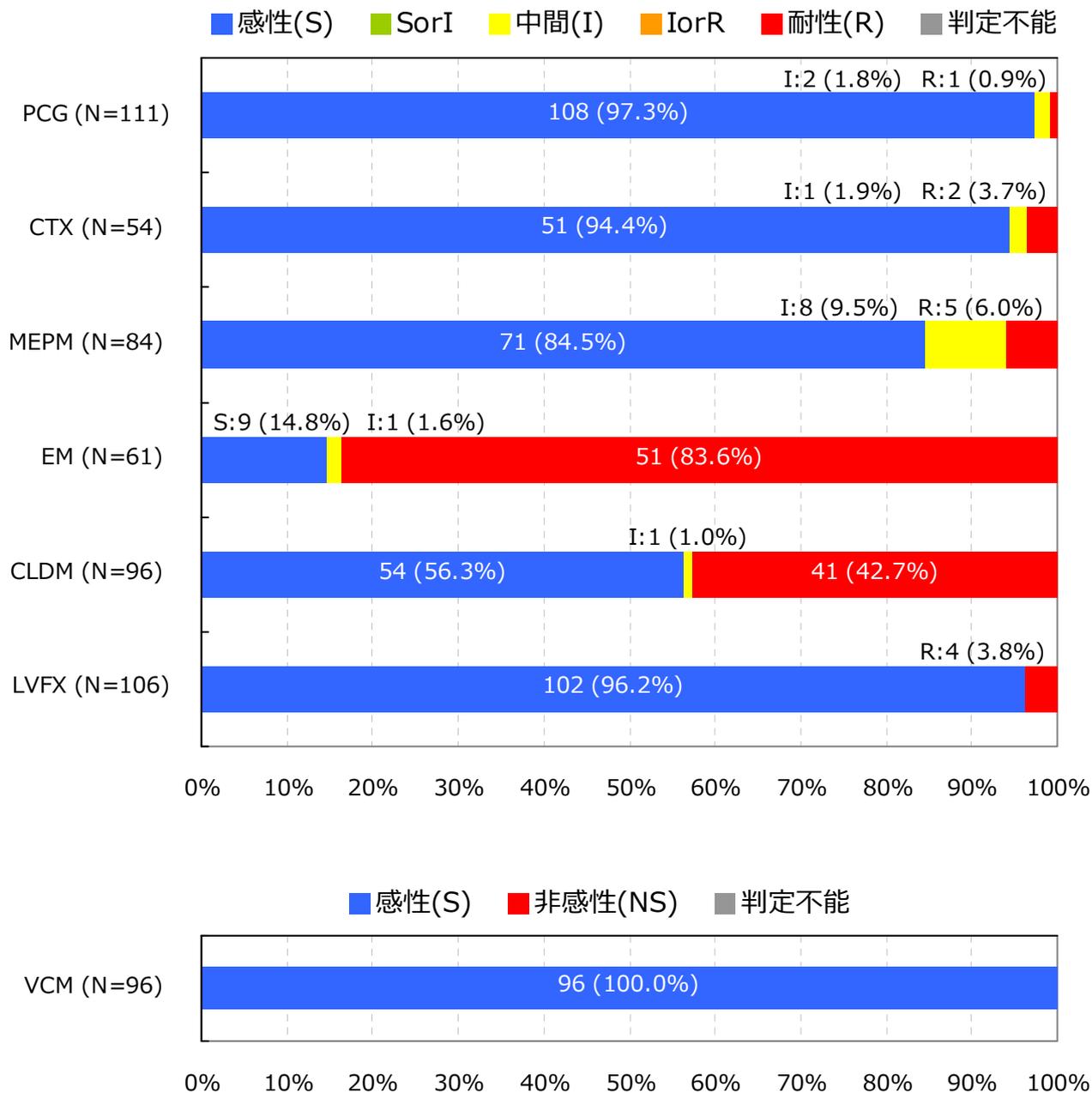
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1131と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Streptococcus pneumoniae(髄液検体以外) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

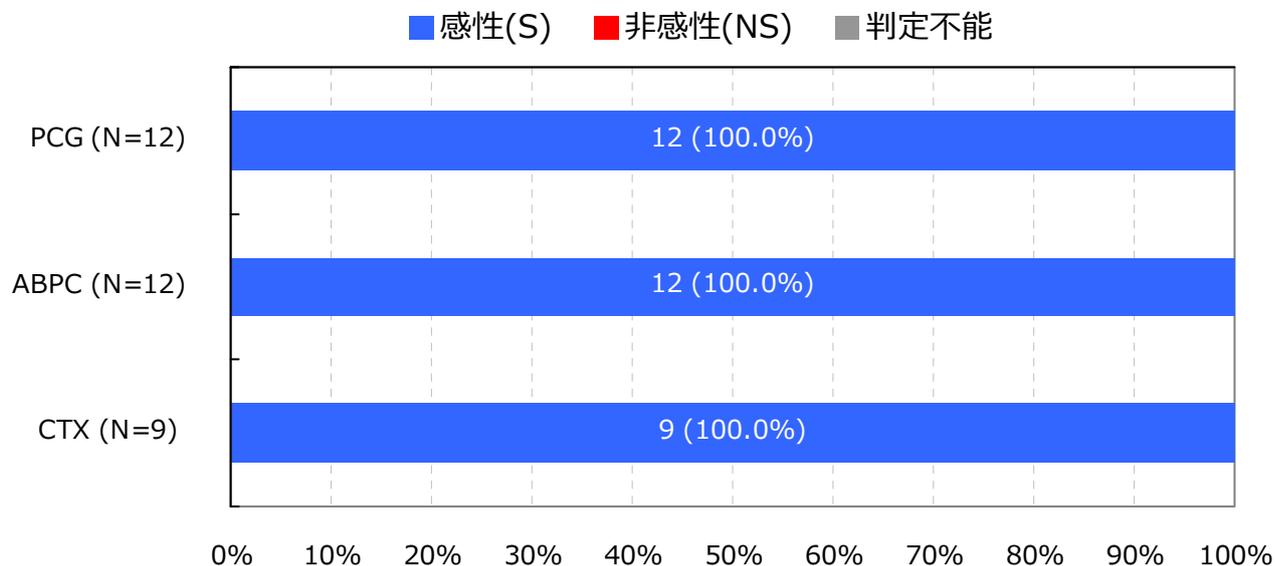
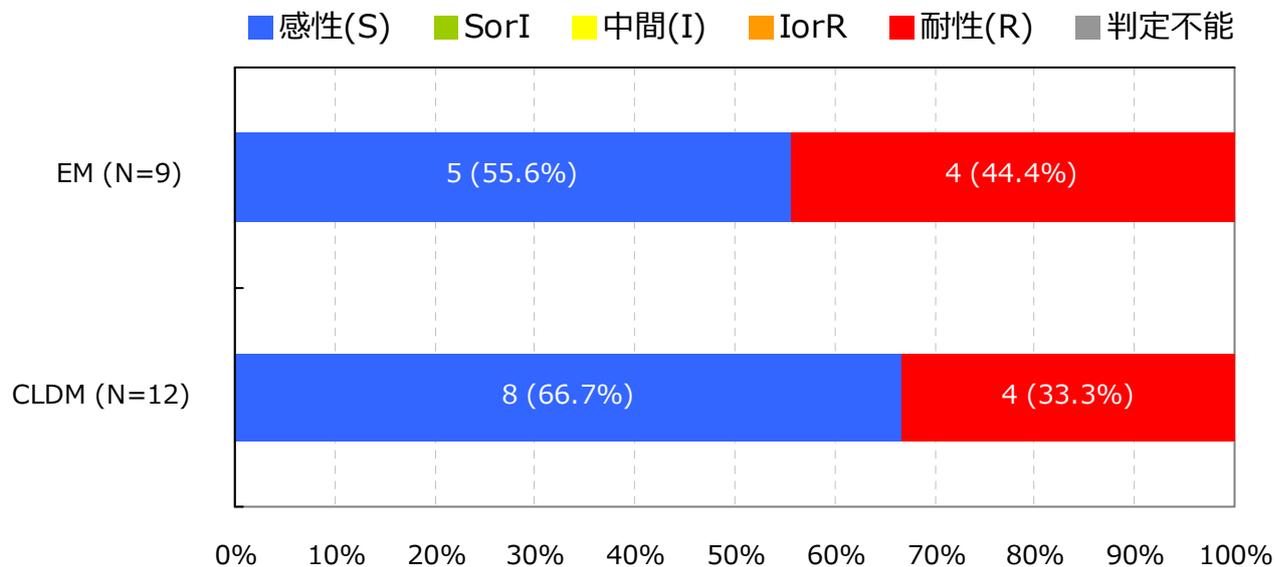
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1131と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Streptococcus pyogenes †



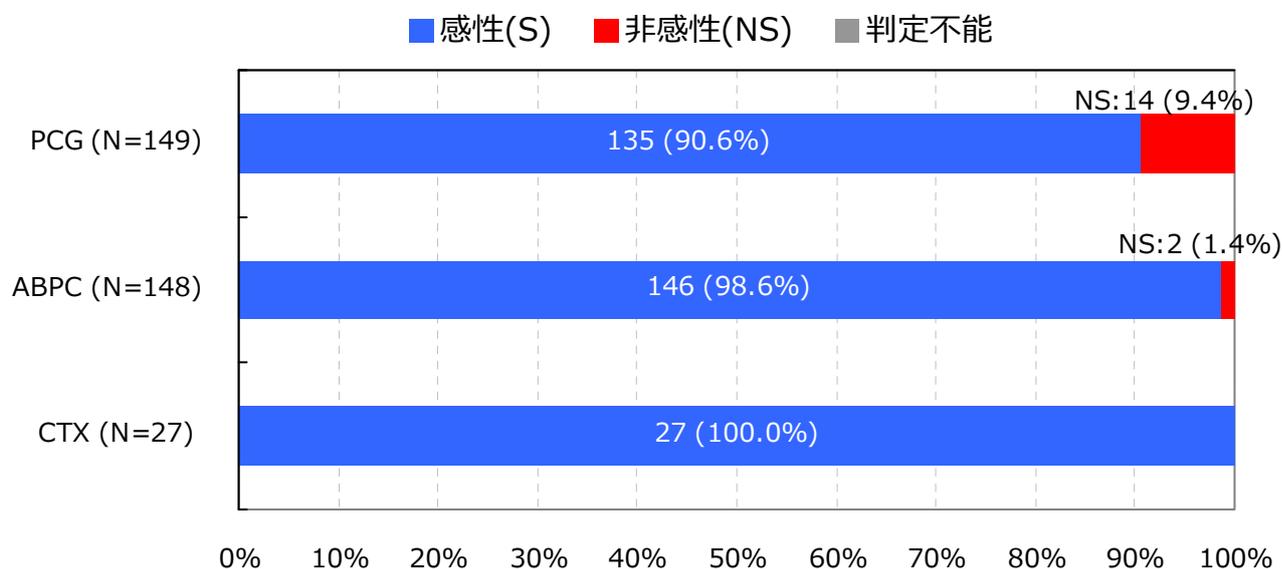
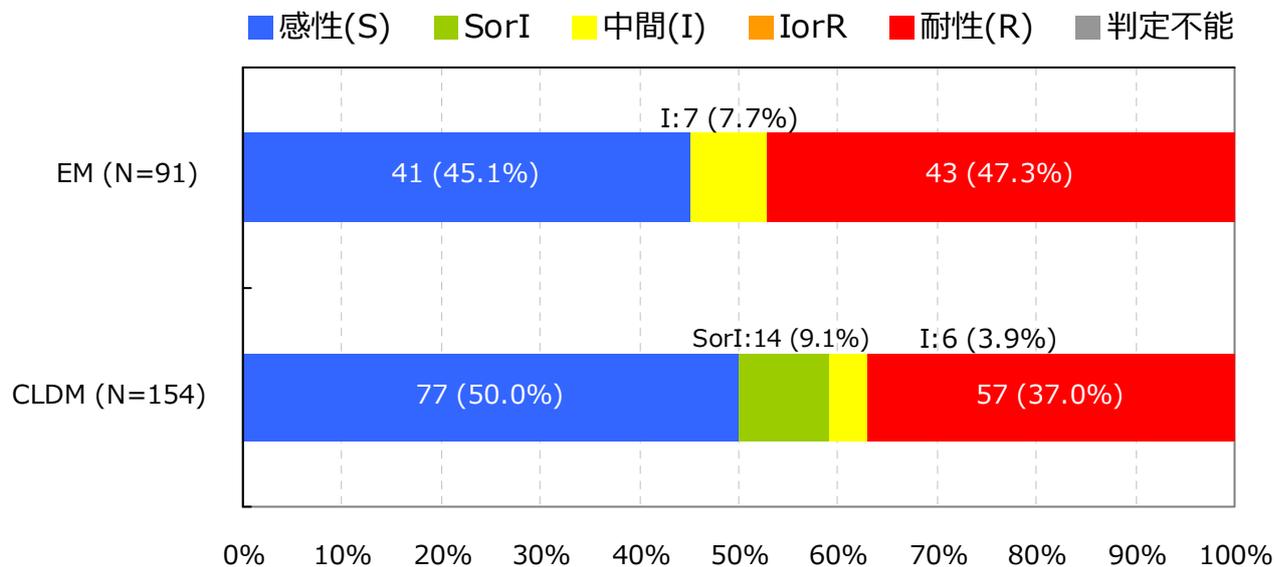
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1111と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Streptococcus agalactiae †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

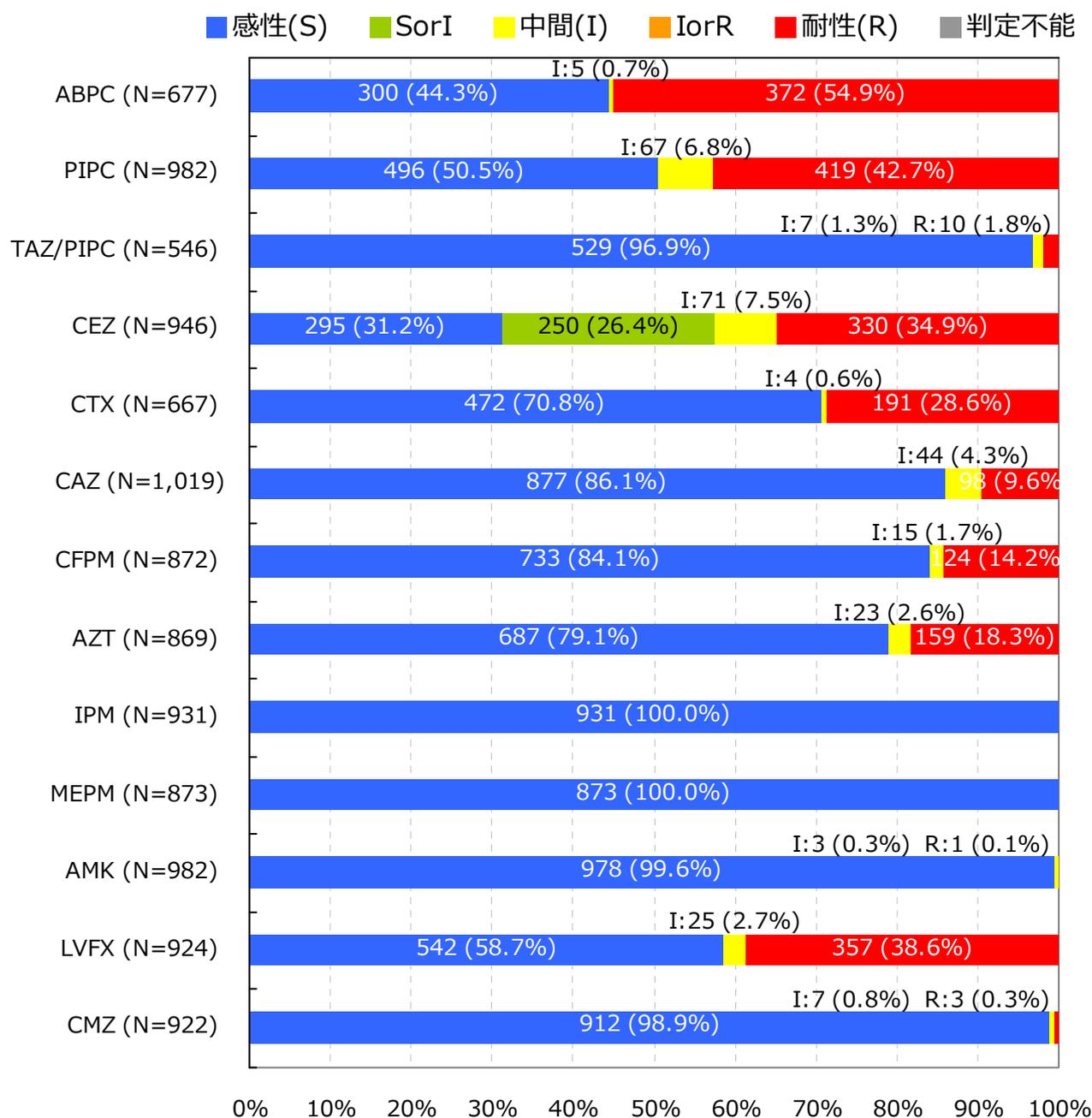
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1114と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Escherichia coli †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

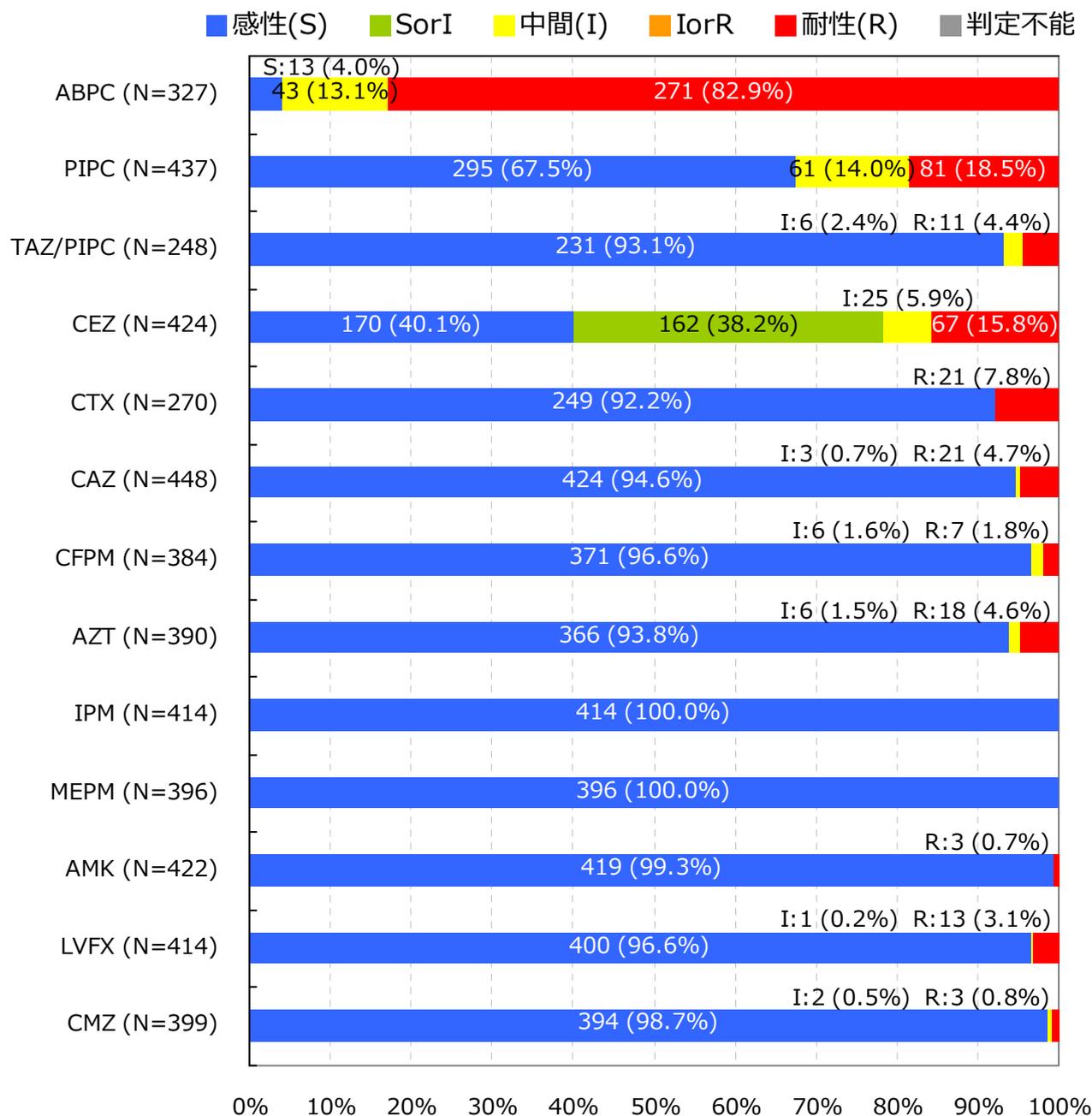
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2001～2007と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Klebsiella pneumoniae †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

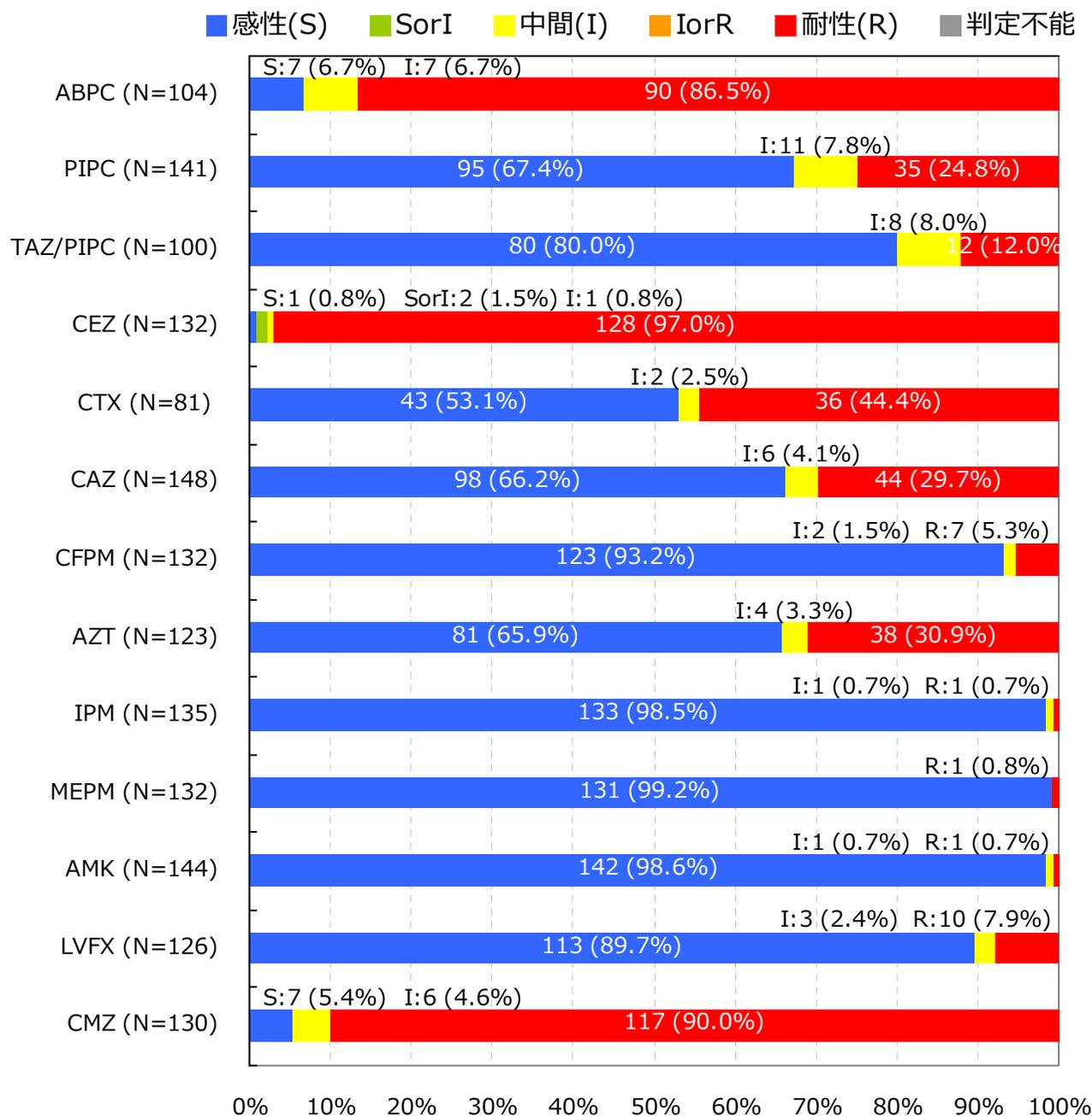
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 2351と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Enterobacter cloacae †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

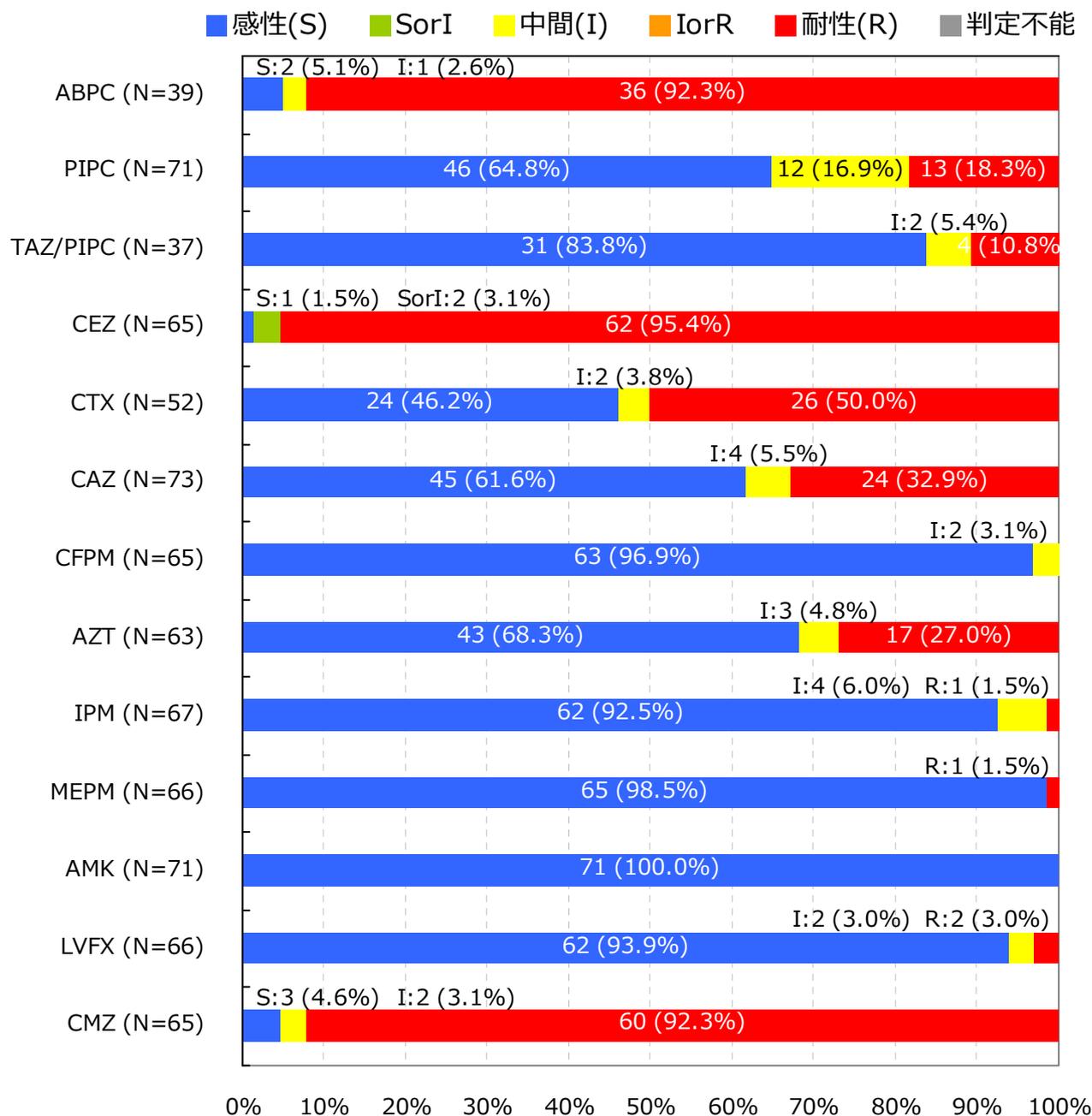
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 2151と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Enterobacter aerogenes †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

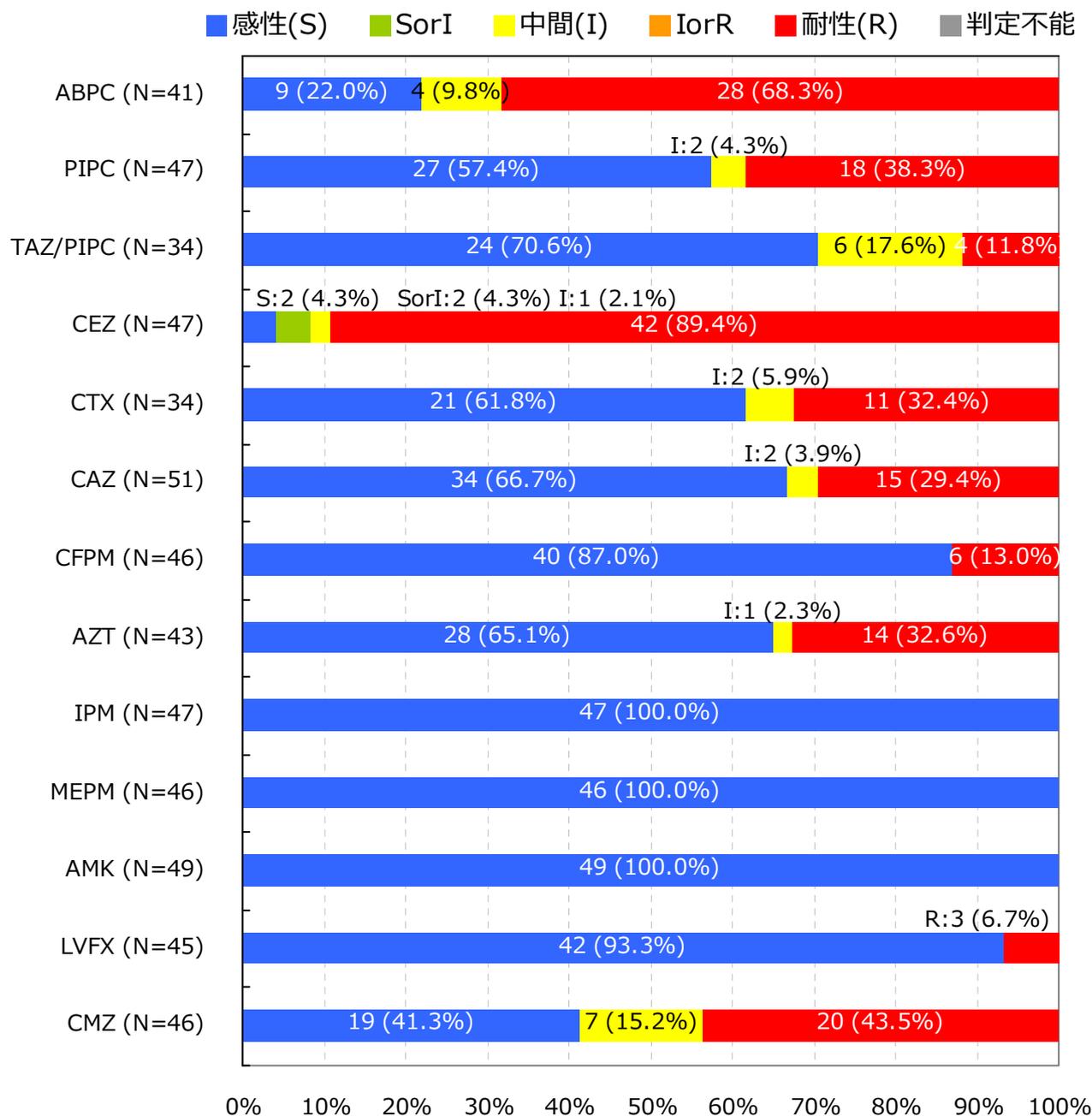
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 2152と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Citrobacter freundii †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

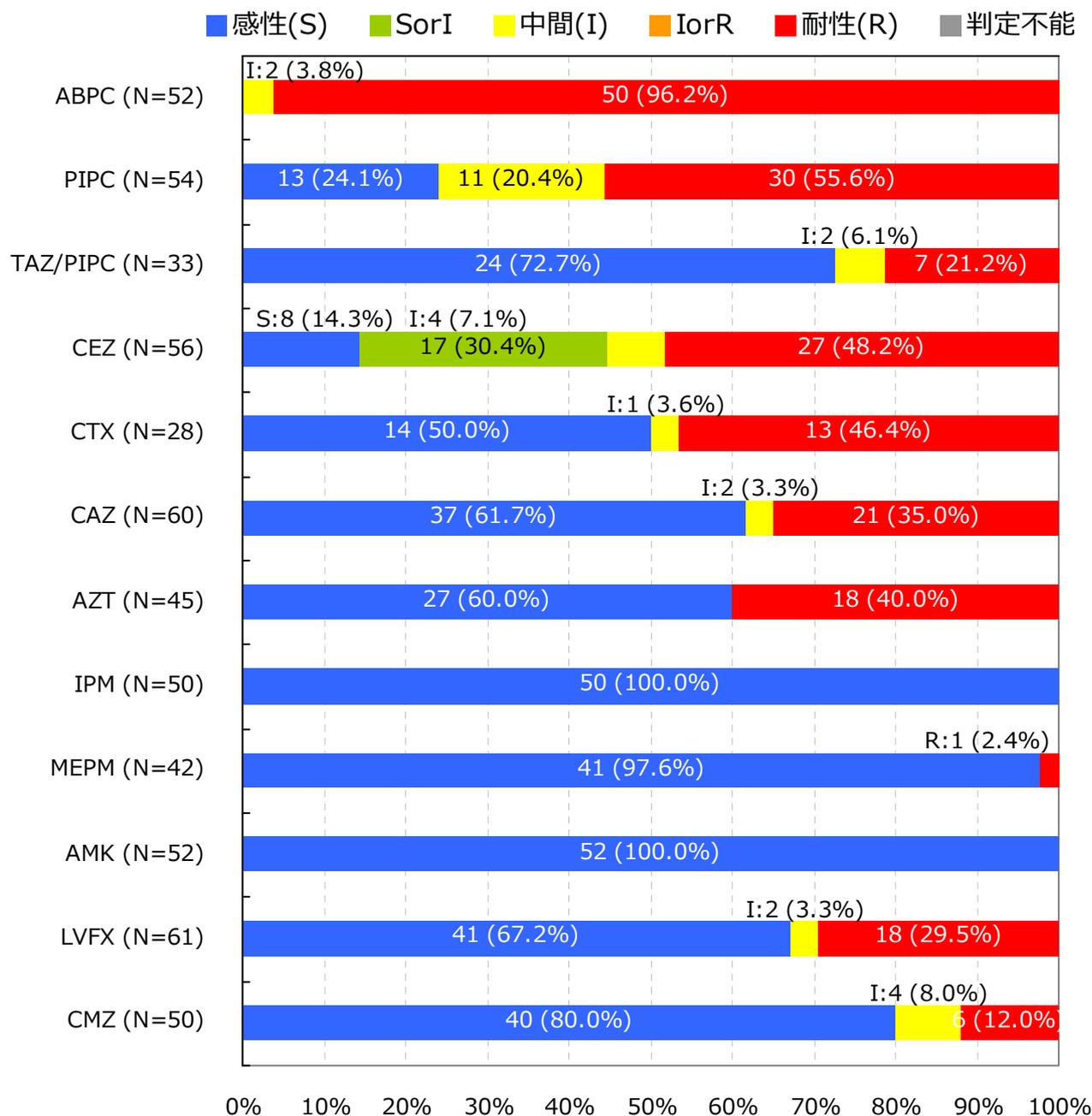
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2051と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Citrobacter koseri †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

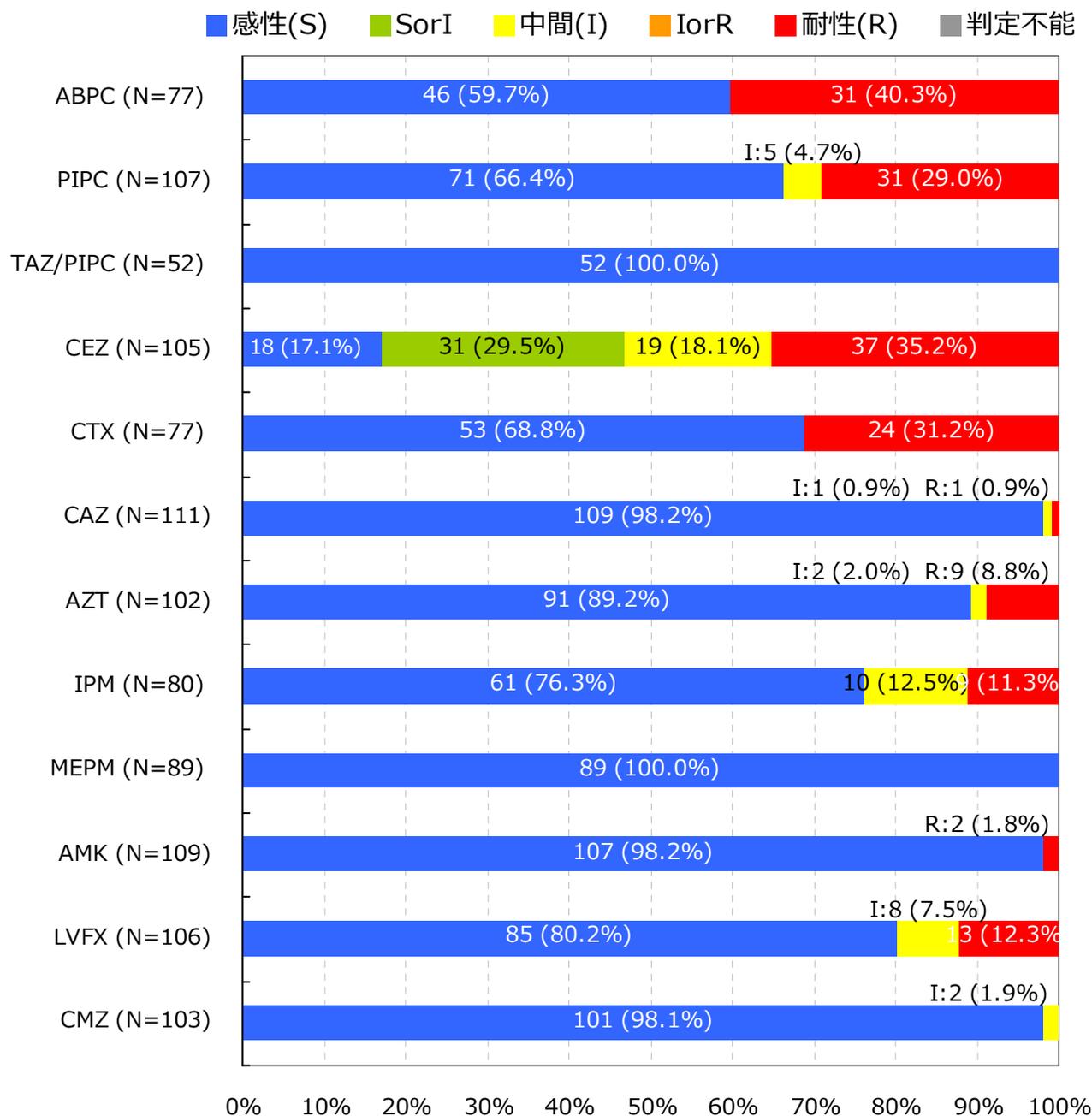
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2052と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Proteus mirabilis †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

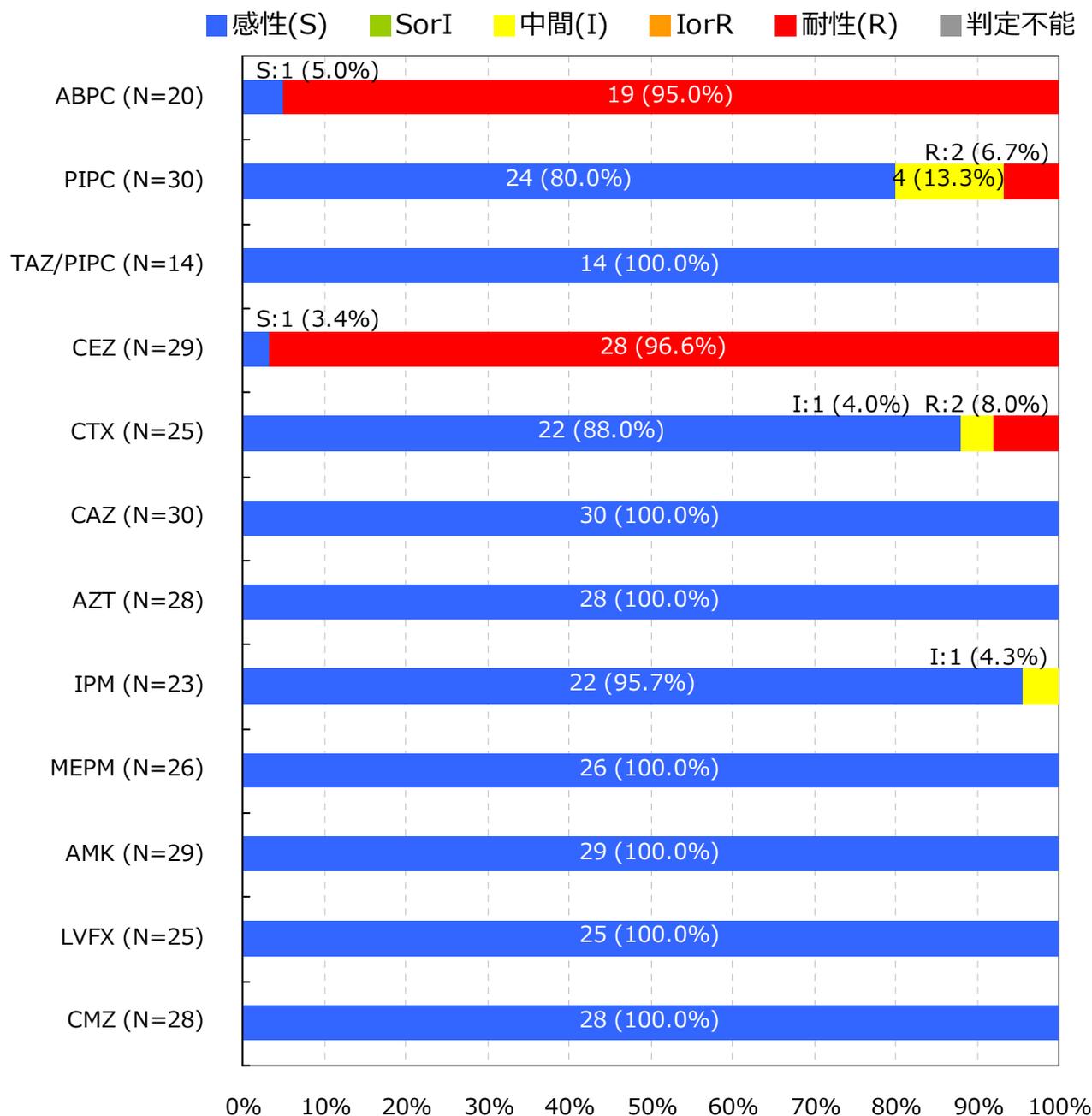
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2201と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Proteus vulgaris †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

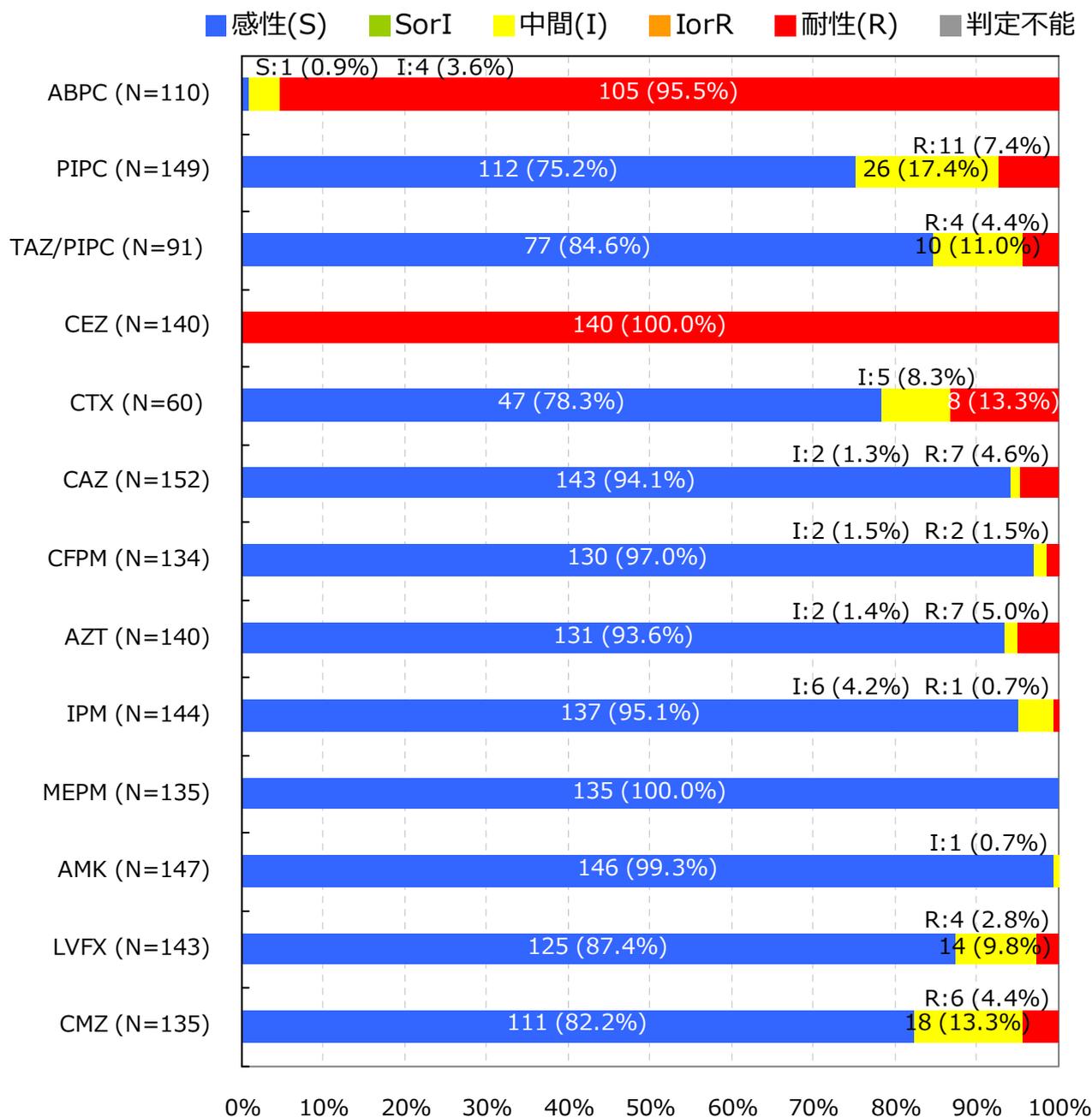
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2202と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Serratia marcescens †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

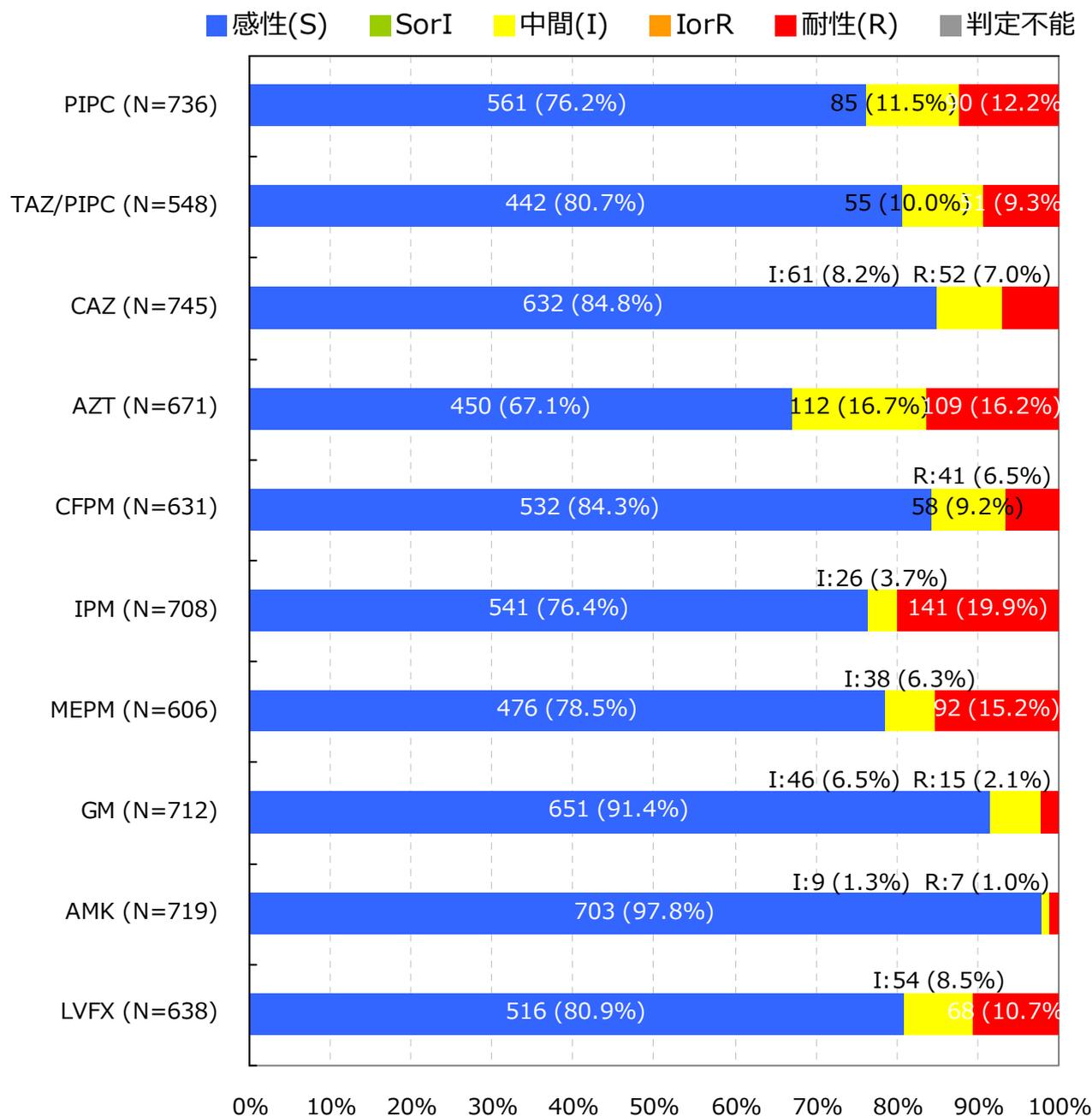
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 2101と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Pseudomonas aeruginosa †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

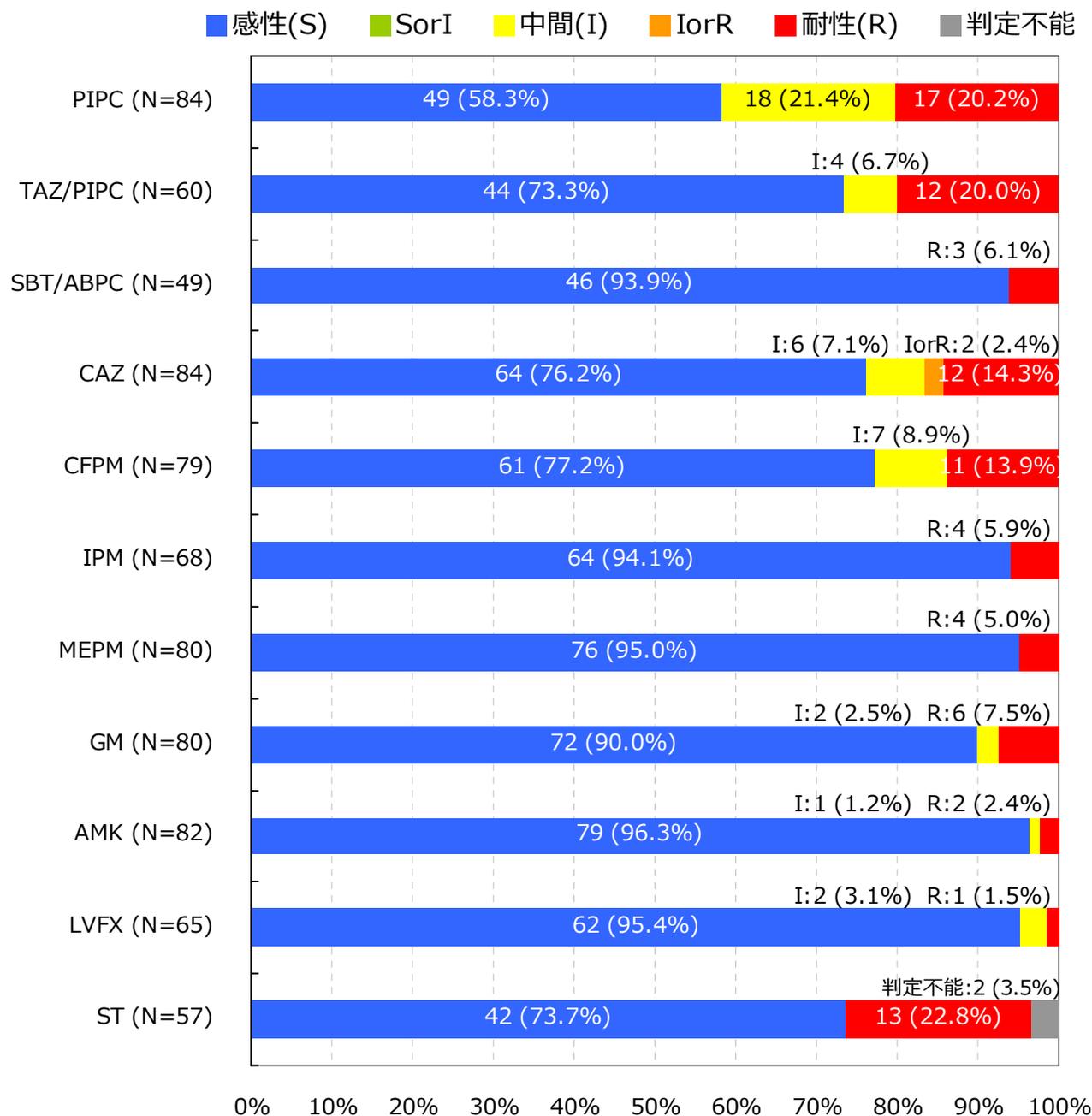
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：4001と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Acinetobacter spp. †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

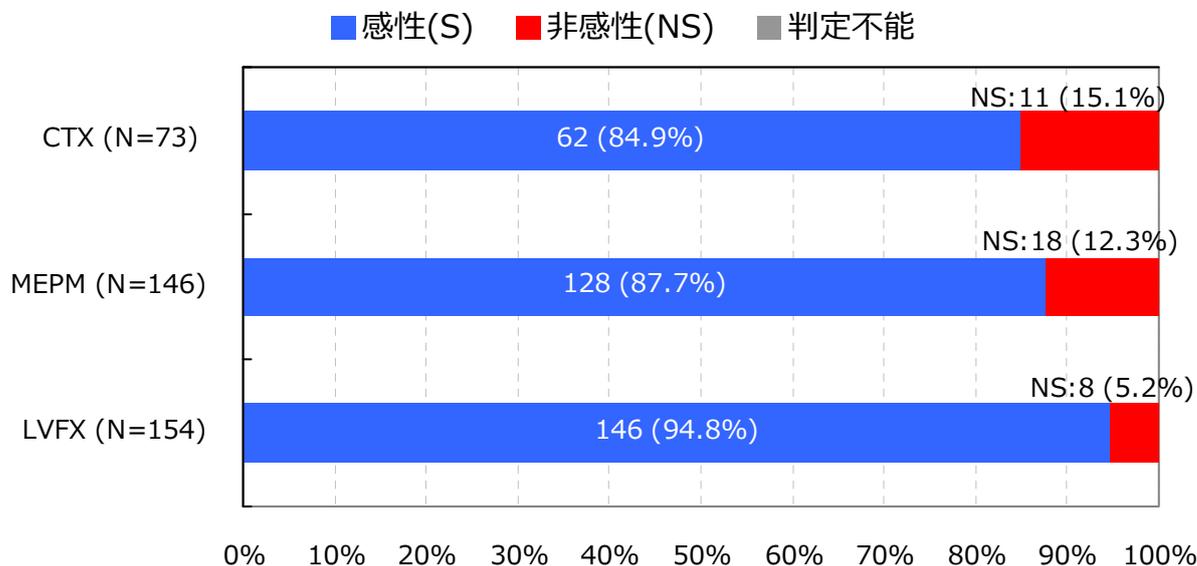
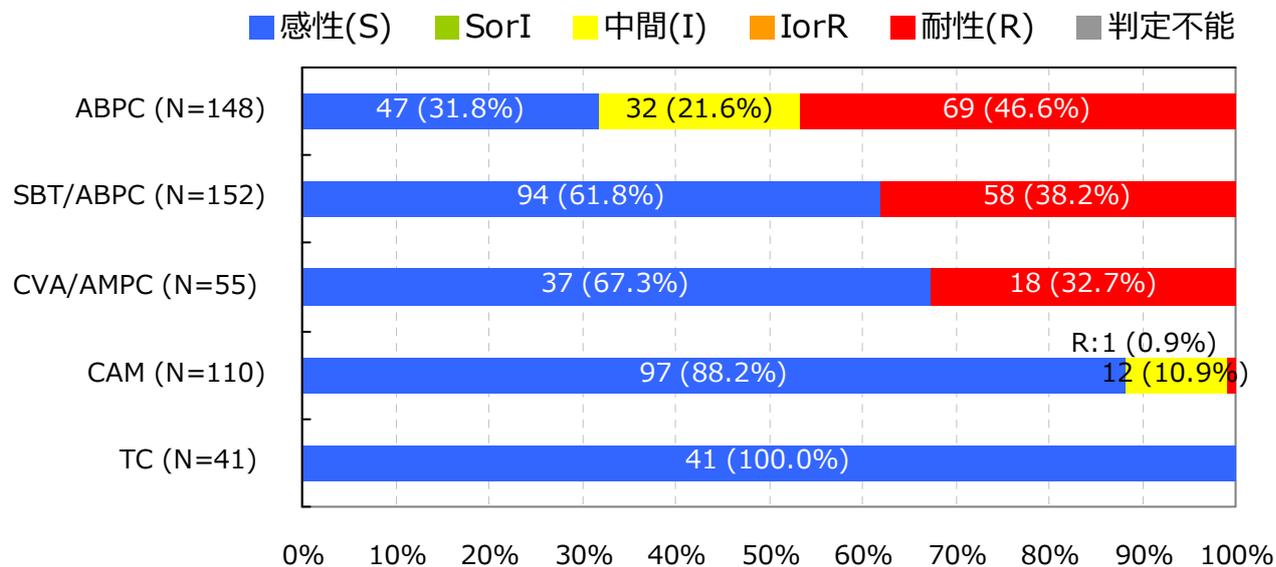
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 4400~4403と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Haemophilus influenzae †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 3201, 3202, 3203, 3205, 3208, 3211, 3214, 3217, 3220, 3223と報告された菌

【巻末資料 1 主要菌の菌名コード / 微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準】

主要菌の菌名コード（薬剤感受性条件なし）

| 菌名 | 菌名コード Ver.4.1 |
|-----------------------------------|----------------|
| <i>Staphylococcus aureus</i> | 1301,1303-1306 |
| <i>Staphylococcus epidermidis</i> | 1312 |
| <i>Streptococcus pneumoniae</i> | 1131 |
| <i>Enterococcus faecalis</i> | 1201,1202 |
| <i>Enterococcus faecium</i> | 1205,1206 |
| <i>Escherichia coli</i> | 2001-2007 |
| <i>Klebsiella pneumoniae</i> | 2351 |
| <i>Enterobacter</i> spp. | 2150-2156 |
| <i>Serratia marcescens</i> | 2101 |
| <i>Pseudomonas aeruginosa</i> | 4001 |
| <i>Acinetobacter</i> spp. | 4400-4403 |

「微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準」について

耐性菌の菌名※は以下の通り

MRSA : Methicillin-resistant *S. aureus* メチシリン耐性黄色ブドウ球菌

VRSA : Vancomycin-resistant *S. aureus* バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌

VRE : Vancomycin-resistant *Enterococcus* spp. バンコマイシン耐性腸球菌

PRSP : Penicillin-resistant *S. pneumoniae* ペニシリン耐性肺炎球菌

MDRP : Multidrug-resistant *P. aeruginosa* 多剤耐性緑膿菌

MDRA : Multidrug-resistant *Acinetobacter* spp. 多剤耐性アシネトバクター属

CRE : Carbapenem-Resistant Enterobacteriaceae カルバペネム耐性腸内細菌科細菌（2015年1月より集計開始）

* : 原則 S,I,R の判定は CLSI2012 (M100-S22) に準拠

† : 感染症発生動向調査の基準に準拠

2014年12月分データまでは CLSI2007 (M100-S17)、2015年1月分データより CLSI2012 (M100-S22) に準拠する。
薬剤耐性菌判定基準 (Ver.3.1) と 検査部門特定の耐性菌判定基準 (Ver.4.1) を基に作成した。

微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準

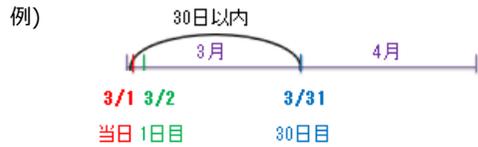
| 菌名※ | 概要* | 微量液体希釈法 (MIC 値) | 菌名コード Ver.4.1 |
|------|---|--|---|
| MRSA | MPIPC が "R" の <i>S. aureus</i> または選択培地で MRSA と確認された菌 | MPIPC $\geq 4\mu\text{g}/\text{mL}$ | 1301,1303 |
| VRSA | VCM が微量液体希釈法で "R" の <i>S. aureus</i> | VCM $\geq 16\mu\text{g}/\text{mL}$ | 1301,1303-1306 |
| VRE | 下記のいずれかの条件を満たす <i>Enterococcus</i> spp. ・ VCM が微量液体希釈法で耐性† ・ 選択培地で VRE と確認された菌 注) 種の同定が行われていない <i>Enterococcus</i> sp. は除く | VCM $\geq 16\mu\text{g}/\text{mL}$ † | 1201,1202,1205, 1206,1209,1210, 1213-1217 |
| PRSP | PCG が微量液体希釈法で耐性† の <i>S. pneumoniae</i> | PCG $\geq 0.125\mu\text{g}/\text{mL}$ † | 1131 |
| MDRP | 下記全てに該当する <i>P. aeruginosa</i> 1. カルバペネム系 (IPM, MEPM の何れか) が 微量液体希釈法で耐性† 2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈 法で耐性† 3. フルオロキノロン系 (NFLX, OFLX, LVFX, CPFX, LFLX, GFLX の何れか) が "R" | 1. IPM $\geq 16\mu\text{g}/\text{mL}$ †、 MEPM $\geq 16\mu\text{g}/\text{mL}$ † 2. AMK $\geq 32\mu\text{g}/\text{mL}$ † 3. NFLX $\geq 16\mu\text{g}/\text{mL}$ 、 OFLX $\geq 8\mu\text{g}/\text{mL}$ 、 LVFX $\geq 8\mu\text{g}/\text{mL}$ 、 LFLX $\geq 8\mu\text{g}/\text{mL}$ 、 GFLX $\geq 8\mu\text{g}/\text{mL}$ 、 CPFX $\geq 4\mu\text{g}/\text{mL}$ | 4001 |

| 菌名※ | 概要* | 微量液体希釈法 (MIC 値) | 菌名コード Ver.4.1 |
|----------------------------|--|---|-------------------------|
| MDRA | 下記全てに該当する <i>Acinetobacter</i> spp. 1. カルバペネム系 (IPM, MEPM の何れか) が "R" 2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈 法で耐性† 3. フルオロキノロン系 (LVFX, CPFX, GFLX の 何れか) が "R" | 1. IPM $\geq 16\mu\text{g}/\text{mL}$ †、 MEPM $\geq 16\mu\text{g}/\text{mL}$ † 2. AMK $\geq 32\mu\text{g}/\text{mL}$ † 3. LVFX $\geq 8\mu\text{g}/\text{mL}$ 、 CPFX $\geq 4\mu\text{g}/\text{mL}$ 、 GFLX $\geq 8\mu\text{g}/\text{mL}$ | 4400-4403 |
| CRE | 下記の何れかの条件を満たす腸内細菌科 1. MEPM が耐性† 2. IPM が耐性†、かつ CMZ が "R" | 1. MEPM $\geq 2\mu\text{g}/\text{mL}$ † 2. IPM $\geq 2\mu\text{g}/\text{mL}$ † かつ CMZ $\geq 64\mu\text{g}/\text{mL}$ | 2000-2691, 3150-3151 |
| カルバペネム 耐性緑膿菌 | IPM または MEPM が耐性† の <i>P. aeruginosa</i> | IPM $\geq 16\mu\text{g}/\text{mL}$ † MEPM $\geq 16\mu\text{g}/\text{mL}$ † | 4001 |
| 第三世代セファロ スポリン耐性 肺炎桿菌 | CTX または CAZ が "R" の <i>K. pneumoniae</i> | CTX $\geq 4\mu\text{g}/\text{mL}$ CAZ $\geq 16\mu\text{g}/\text{mL}$ | 2351 |
| 第三世代セファロ スポリン耐性 大腸菌 | CTX または CAZ が "R" の <i>E. coli</i> | CTX $\geq 4\mu\text{g}/\text{mL}$ CAZ $\geq 16\mu\text{g}/\text{mL}$ | 2001-2007 |
| フルオロキノロン 耐性大腸菌 | フルオロキノロン系 (NFLX, OFLX, LVFX, LFLX, GFLX, CPFX の何れか) が "R" の <i>E. coli</i> | NFLX $\geq 16\mu\text{g}/\text{mL}$ 、 OFLX $\geq 8\mu\text{g}/\text{mL}$ 、 LVFX $\geq 8\mu\text{g}/\text{mL}$ 、 LFLX $\geq 8\mu\text{g}/\text{mL}$ 、 GFLX $\geq 8\mu\text{g}/\text{mL}$ 、 CPFX $\geq 4\mu\text{g}/\text{mL}$ | 2001-2007 |

【巻末資料 2 公開情報の集計方法について】

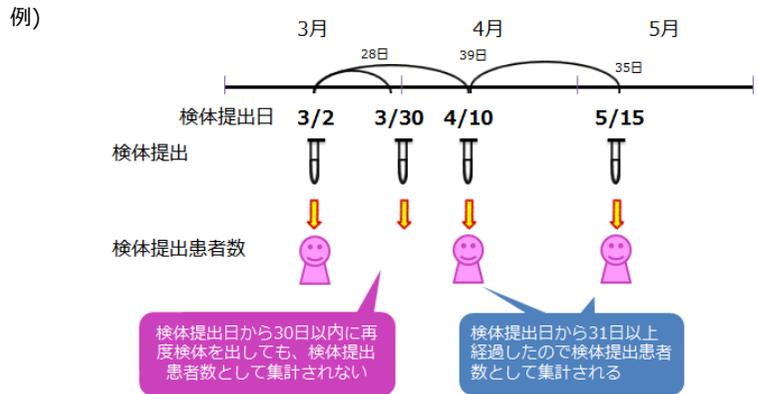
1. 日数の数え方

検体提出日の翌日を 1 日目とする。検体提出日が 3 月 1 日とすると、1 日目が 3 月 2 日、30 日目が 3 月 31 日となる。



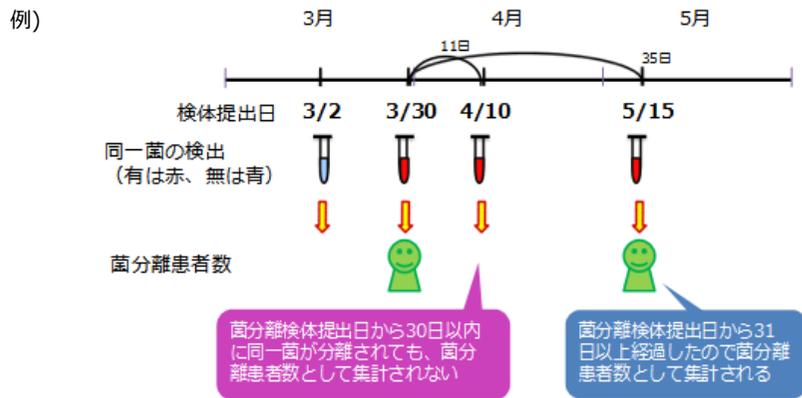
2. 検体提出患者数

検体提出患者数は、検体の種類や菌分離の有無に関わらず検体(入院検体)が提出された患者の数である。検体提出患者数は重複処理を行っており、30 日以内の同一患者からの複数の検体提出は 1 件とする。



3. 菌分離患者数

菌分離患者数も検体提出患者と同様の重複処理を行い、30 日以内に同一患者から同一菌が複数回検出された場合、菌分離患者数は 1 件とする。耐性菌分離患者数は、耐性菌の基準に合致する菌をまず抽出し、その中で上記重複処理を行っている。



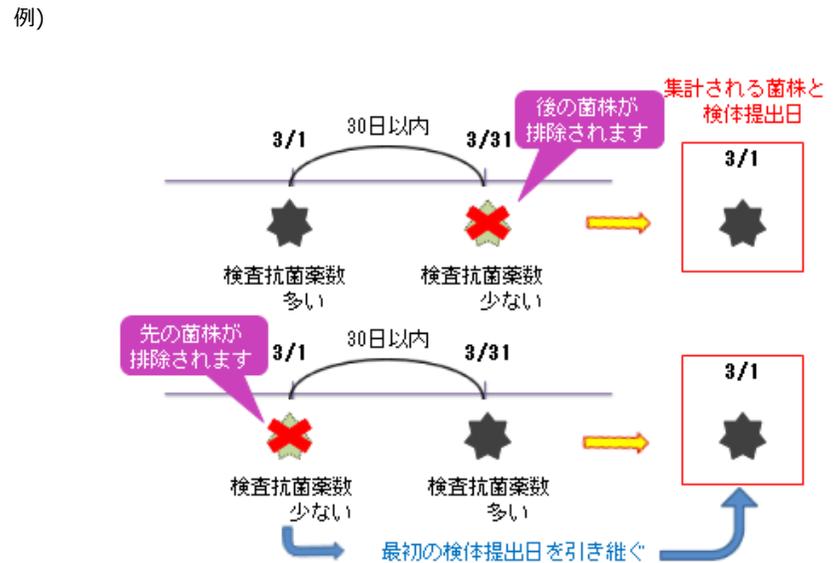
4. 抗菌薬感受性検査結果をもとにした同一菌と異なる菌との区別

30 日以内に同一患者から同一菌が検出された場合であっても、検査抗菌薬感受性結果に 1 つ以上不一致(下記①~④のいずれかに該当)がある場合は異なる菌株として集計される。

- ① MIC 値に 4 倍以上の違いがある
ただし、MIC > 2 は MIC ≥ 4 と考え、判定時は MIC = 4 として扱う
また、MIC < 16 は MIC ≤ 16 と考え、判定時は MIC = 16 として扱う
- ② SIR 判定では「S と R」の組み合わせ
- ③ +/- 判定では「-と++」または「+と+++」または「-と+++」の組み合わせ
- ④ 共通する検査抗菌薬数が 5 未満

5. 抗菌薬感受性結果の重複処理

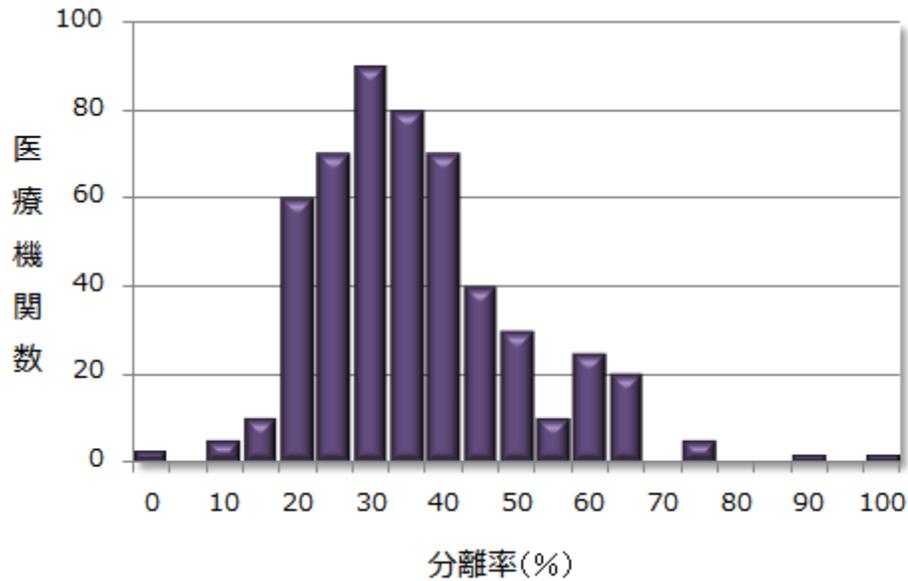
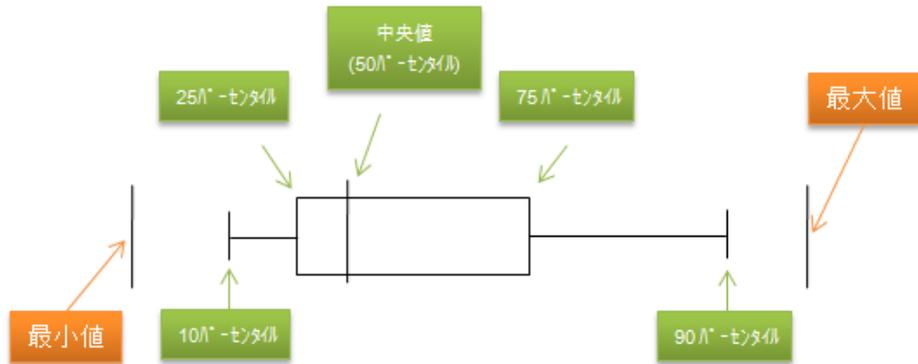
検体提出日が先の菌株の検査抗菌薬数が(30 日以内)の後の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、後の菌株の抗菌薬感受性検査結果は排除する。また、検体提出日が後の菌株の検査抗菌薬数が(30 日以内)の先の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、先の菌株の抗菌薬感受性検査結果を排除するが、先の検査の検体提出日を引き継ぐ。



【巻末資料3 箱ひげ図について】

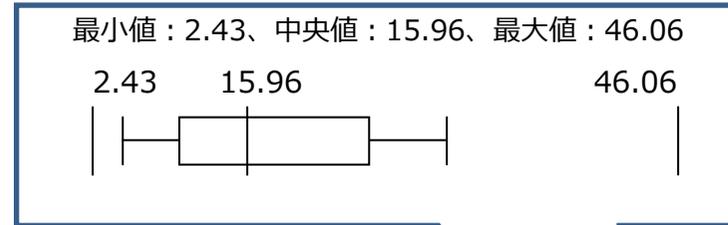
1. 箱ひげ図について

集計対象医療機関のデータのばらつきを示し、集計対象医療機関における自施設の位置を確認することができる。



※ パーセンタイル：値を小さいものから大きいものへと順番に並べ、全体を 100 として何番目であるかを表したものの。
 例えば、10パーセンタイルは、全体を 100 として小さいほうから数えて 10 番目の計測値を示している。

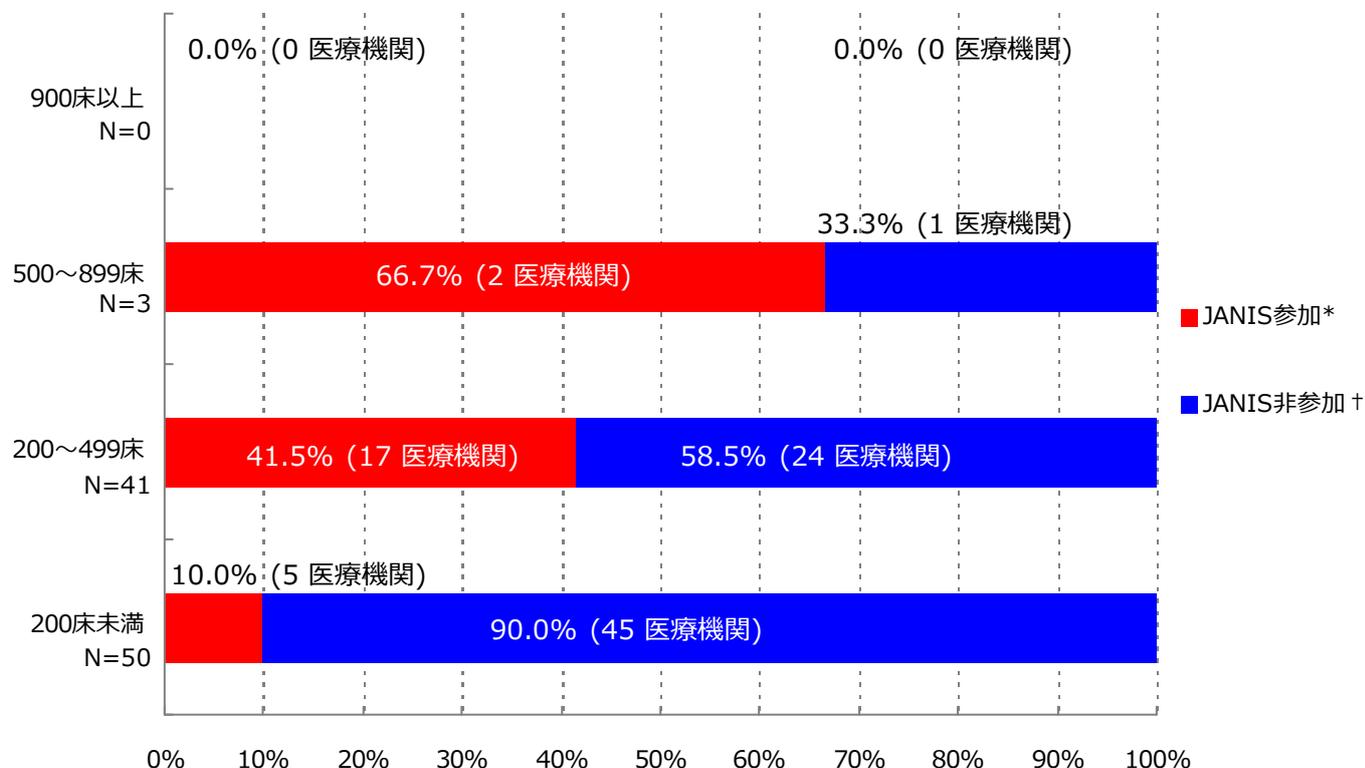
2. 公開情報の箱ひげ図



| | | 集計対象医療機関の分離率 (%)の分布 | |
|----------------------|----------------------|---------------------|-------------|
| 2010年 * | 2011年 | | |
| 1,069,216人 | 1,309,993人 | | |
| 175,145人 (16.38%) | 210,382人 (16.06%) | 2.43 | 15.96 46.06 |
| 47,523人 (4.44%) | 64,588人 (4.93%) | 0.00 | 3.21 37.54 |



1. 集計対象医療機関数(24医療機関)



*JANIS参加 = 2017年1～3月 集計対象医療機関数

† JANIS非参加 = (2016年 都道府県別医療機関数 †) - (2017年1～3月 集計対象医療機関数)

| 病床数 | 2016年 都道府県別医療機関数 † | | 2017年1月～3月 集計対象医療機関数 (都道府県別医療機関数に占める割合) | |
|----------|--------------------|------------|--|-----------|
| | 数 | 割合 | 数 | 割合 |
| 900床以上 | 0 | (0.0%) | 0 | (0.0%) |
| 500～899床 | 3 | (7.5%) | 2 | (66.7%) |
| 200～499床 | 41 | (100.0%) | 17 | (41.5%) |
| 200床未満 | 50 | (125.0%) | 5 | (10.0%) |
| 病床数不明 | - | (-) | 0 | (-) |
| 合計 | 94 | (235.0%) | 24 | (25.5%) |

† 平成28年医療施設 (動態) 調査を参照した

2. 検査材料別集計対象医療機関数、検体数、分離菌数

| 検査材料分類 | 集計対象医療機関数 | 検体数 | 陽性検体数 (分離菌数) |
|--------|-----------|--------|--------------------|
| 呼吸器系検体 | 24 | 9,232 | 6,041 (11,599) |
| 尿検体 | 24 | 6,500 | 3,346 (4,800) |
| 便検体 | 24 | 1,804 | 391 (548) |
| 血液検体 | 24 | 18,742 | 1,709 (1,862) |
| 髄液検体 | 20 | 365 | 4 (4) |
| その他 | 24 | 7,086 | 3,277 (5,459) |
| 合計 | 24 | 43,729 | 14,768 (24,272) |

入院として報告された検体を集計

集計対象菌：コメントのみ(菌名コード9999)の報告以外の全ての菌

検査材料分類は以下に該当する検査材料コードを集計

呼吸器系検体：

101(喀出痰)、102(気管内採痰)、103(気管支洗浄液)、104(咽頭粘液)、105(鼻腔内)、106(口腔内)、
107(生検材料(肺))、109(その他(呼吸器))、404(胸水)

尿検体：

201(自然排尿)、202(採尿カテーテル)、203(留置カテーテル)、206(カテーテル尿(採尿、留置カテの区別不能))

便検体：

301(糞便)

血液検体：

401(静脈血)、402(動脈血)

髄液検体：

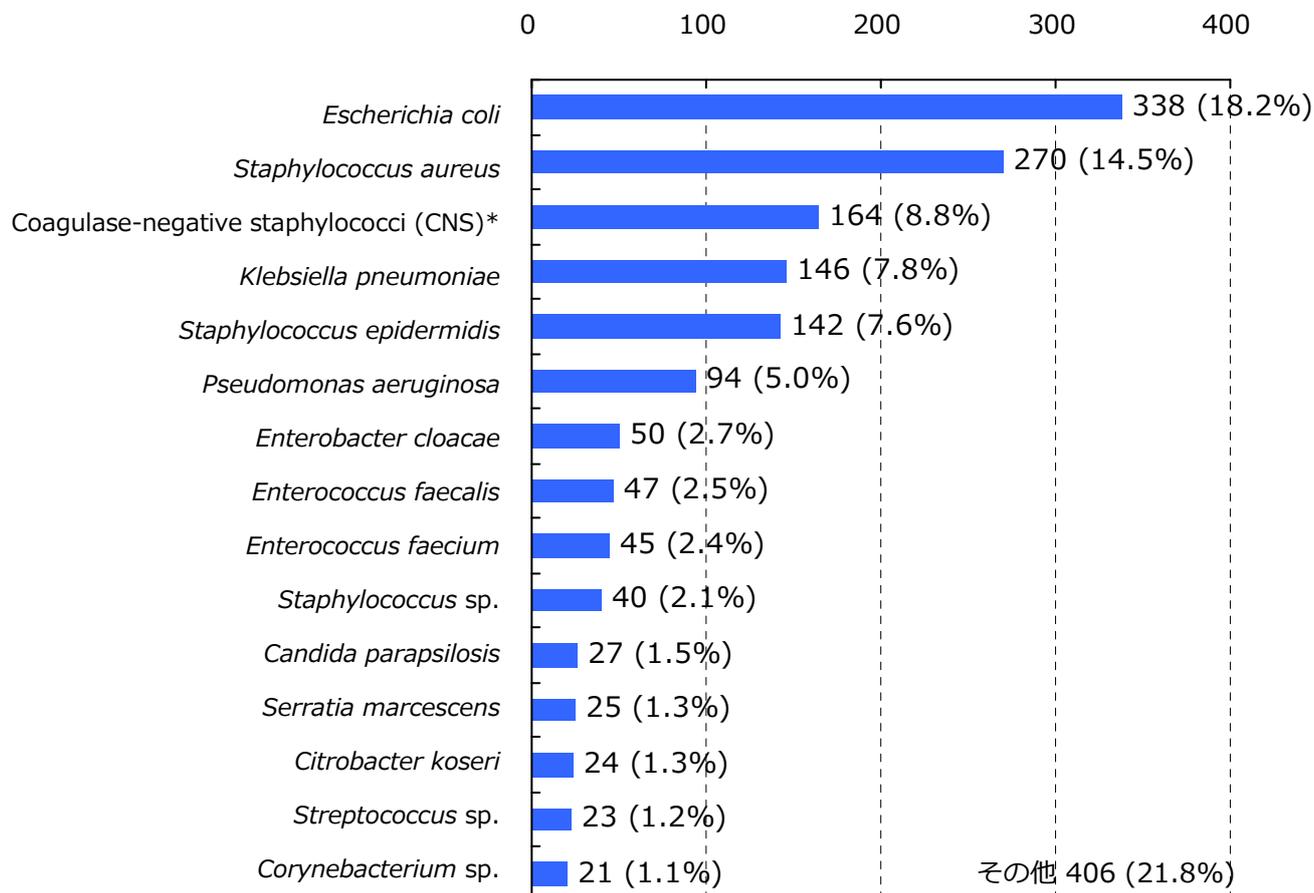
403(髄液)

その他：上記以外の検査材料コード

検査材料コード：JANISホームページ>各部門について>検査部門 <https://janis.mhlw.go.jp/section/kensa.html>

3. 検査材料別分離菌数割合

血液検体分離菌 (N=1,862)



*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌（1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外）

入院として報告された検体を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：静脈血(検査材料コード401)と動脈血(同402)

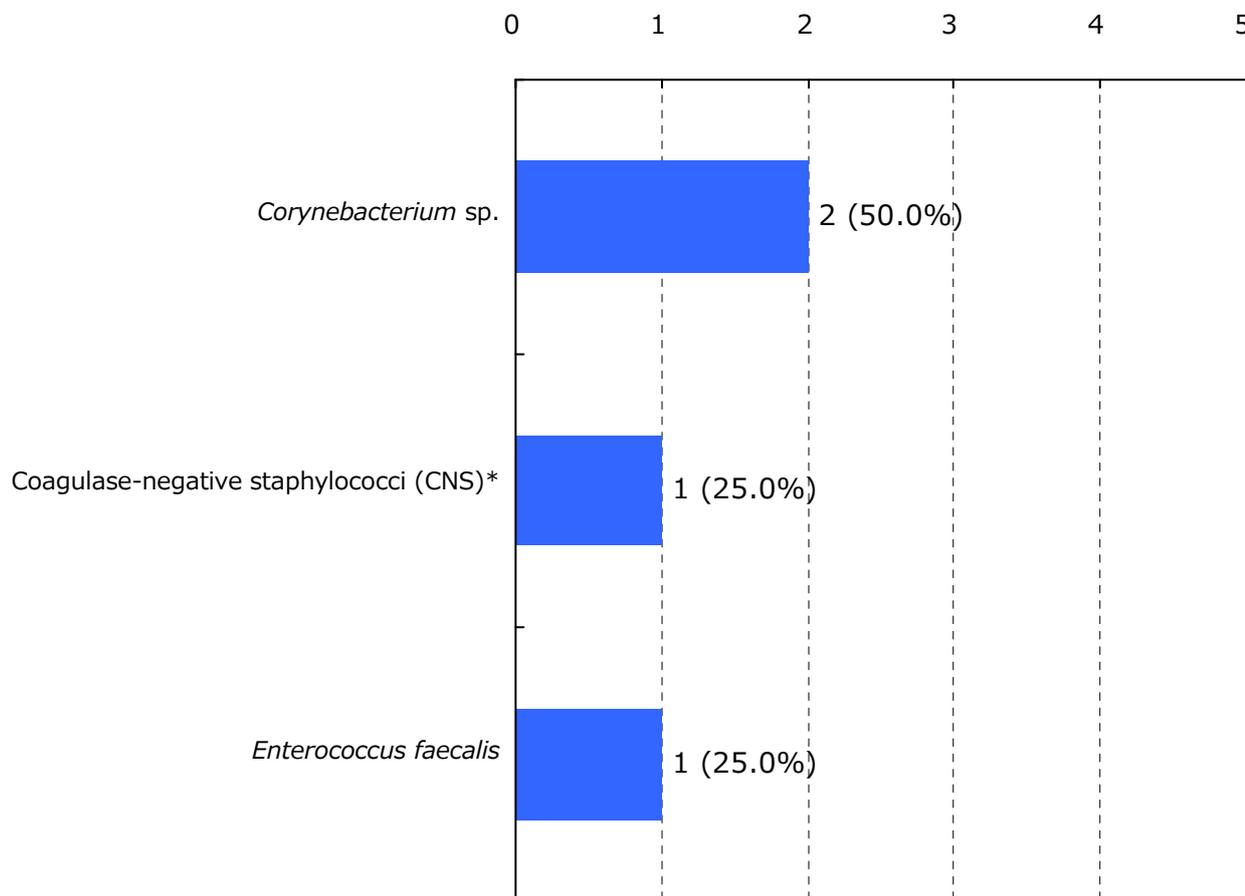
血液検体分離菌数割合 = (対象菌の血液検体分離菌数) ÷ (血液検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <https://janis.mhlw.go.jp/section/kensa.html>

3. 検査材料別分離菌数割合

髄液検体分離菌 (N=4)



*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌（1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外）

入院として報告された検体を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

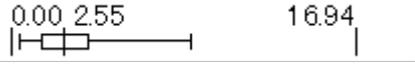
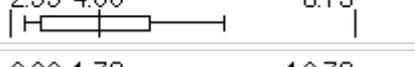
集計対象検査材料：髄液(検査材料コード403)

髄液検体分離菌数割合 = (対象菌の髄液検体分離菌数) ÷ (髄液検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <https://janis.mhlw.go.jp/section/kensa.html>

4. 主要菌分離患者数*と全医療機関†の分離率分布

| | 検体提出・菌分離患者数 全体の分離率‡ | 集計対象医療機関の 分離率¶(%)の分布 |
|---------------------------|------------------------|---|
| 検体提出患者数 | 13,082人 | |
| <i>S. aureus</i> | 1,712人 (13.09%) | 5.26 14.72 30.67  |
| <i>S. epidermidis</i> | 565人 (4.32%) | 0.00 2.55 16.94  |
| <i>S. pneumoniae</i> | 152人 (1.16%) | 0.00 1.08 4.00  |
| <i>E. faecalis</i> | 706人 (5.40%) | 1.62 5.07 15.45  |
| <i>E. faecium</i> | 241人 (1.84%) | 0.00 1.44 4.55  |
| <i>E. coli</i> | 1,709人 (13.06%) | 4.94 12.67 24.00  |
| <i>K. pneumoniae</i> | 999人 (7.64%) | 0.00 7.55 21.14  |
| <i>Enterobacter spp.</i> | 507人 (3.88%) | 2.55 4.00 8.13  |
| <i>S. marcescens</i> | 264人 (2.02%) | 0.00 1.73 10.78  |
| <i>P. aeruginosa</i> | 1,458人 (11.15%) | 7.06 10.60 33.33  |
| <i>Acinetobacter spp.</i> | 154人 (1.18%) | 0.00 1.02 8.00  |

入院として報告された検体を集計

*分離患者数と検体提出患者数は30日ごとに重複処理(巻末参照)している

†ここでは全医療機関は集計対象医療機関を表す

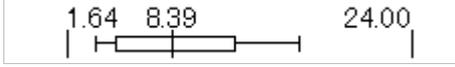
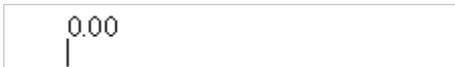
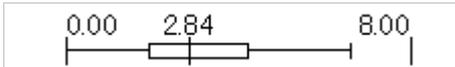
‡ここでの分離率は全体の分離率を表す

全体の分離率

= (集計対象医療機関の対象菌の分離患者数合計) ÷ (集計対象医療機関の検体提出患者数合計) × 100

¶分離率 = (対象菌の分離患者数) ÷ (検体提出患者数) × 100

5. 特定の耐性菌分離患者数*と全医療機関†の分離率分布

| | 検体提出・菌分離患者数 全体の分離率‡ | 集計対象医療機関の 分離率¶(%)の分布 |
|------------------------|------------------------|--|
| 検体提出患者数 | 13,082人 | |
| メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA) | 963人 (7.36%) | 1.64 8.39 24.00  |
| バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌(VRSA) | 0人 (0.00%) | 0.00  |
| バンコマイシン耐性腸球菌(VRE) | 21人 (0.16%) | 0.00 0.00 1.82  |
| ペニシリン耐性肺炎球菌(PRSP) | 84人 (0.64%) | 0.00 0.55 4.00  |
| 多剤耐性緑膿菌(MDRP) | 16人 (0.12%) | 0.00 0.00 1.36  |
| 多剤耐性アシネトバクター属(MDRA) | 0人 (0.00%) | 0.00  |
| カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE) | 22人 (0.17%) | 0.00 0.00 1.15  |
| カルバペネム耐性緑膿菌 | 135人 (1.03%) | 0.00 0.99 5.00  |
| 第三世代セファロスポリン耐性肺炎桿菌 | 103人 (0.79%) | 0.00 0.82 8.00  |
| 第三世代セファロスポリン耐性大腸菌 | 359人 (2.74%) | 0.00 2.84 8.00  |
| フルオロキノロン耐性大腸菌 | 523人 (4.00%) | 0.00 4.04 15.91  |

入院検体でかつ、検査法が原則微量液体希釈法又はEtestと設定されたMIC値が報告されている検体を集計

MRSAとVREは検査法によらず菌名コードで指定された場合はそれらを含む

*分離患者数と検体提出患者数は30日ごとに重複処理(巻末参照)している

†ここでは全医療機関は集計対象医療機関を表す

‡ここでの分離率は全体の分離率を表す

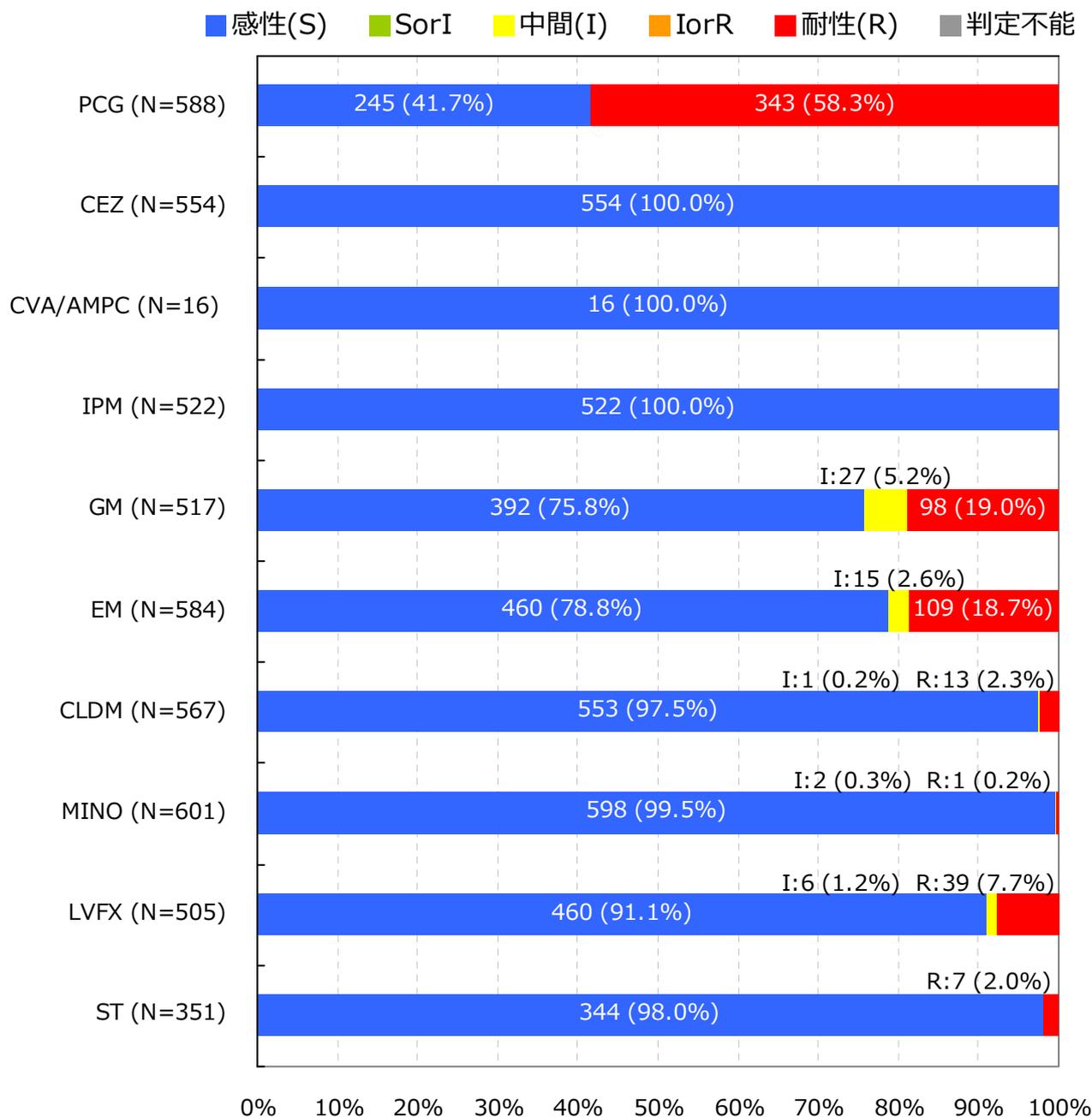
全体の分離率

= (集計対象医療機関の対象菌の分離患者数合計) ÷ (集計対象医療機関の検体提出患者数合計) × 100

¶分離率 = (対象菌の分離患者数) ÷ (検体提出患者数) × 100

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Staphylococcus aureus (MSSA) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

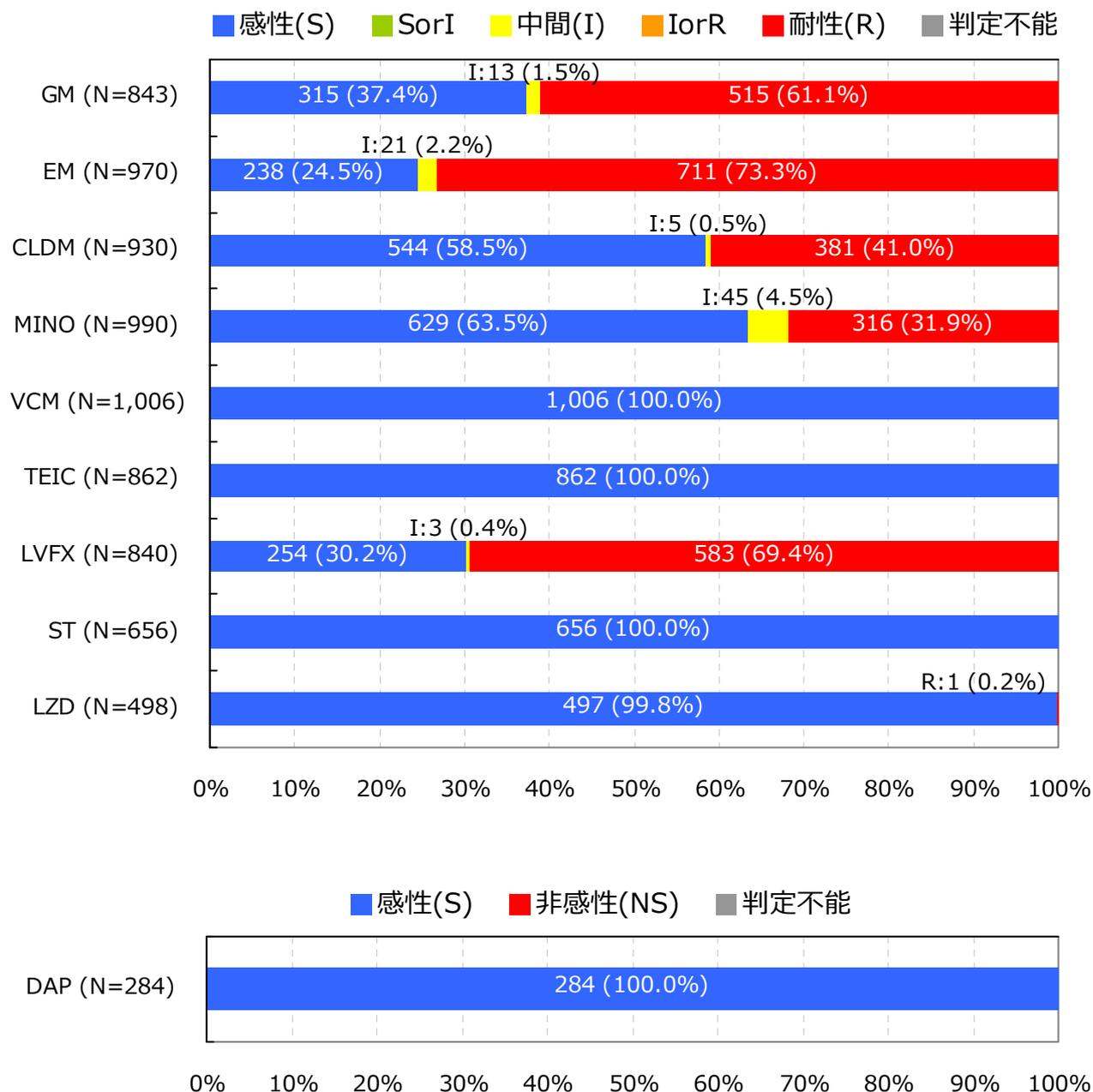
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1304, 1305, 1306と報告された菌および菌名コード : 1301と報告され抗菌薬コード : 1208 (オキサシリン) の感受性結果「S」の菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Staphylococcus aureus (MRSA) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

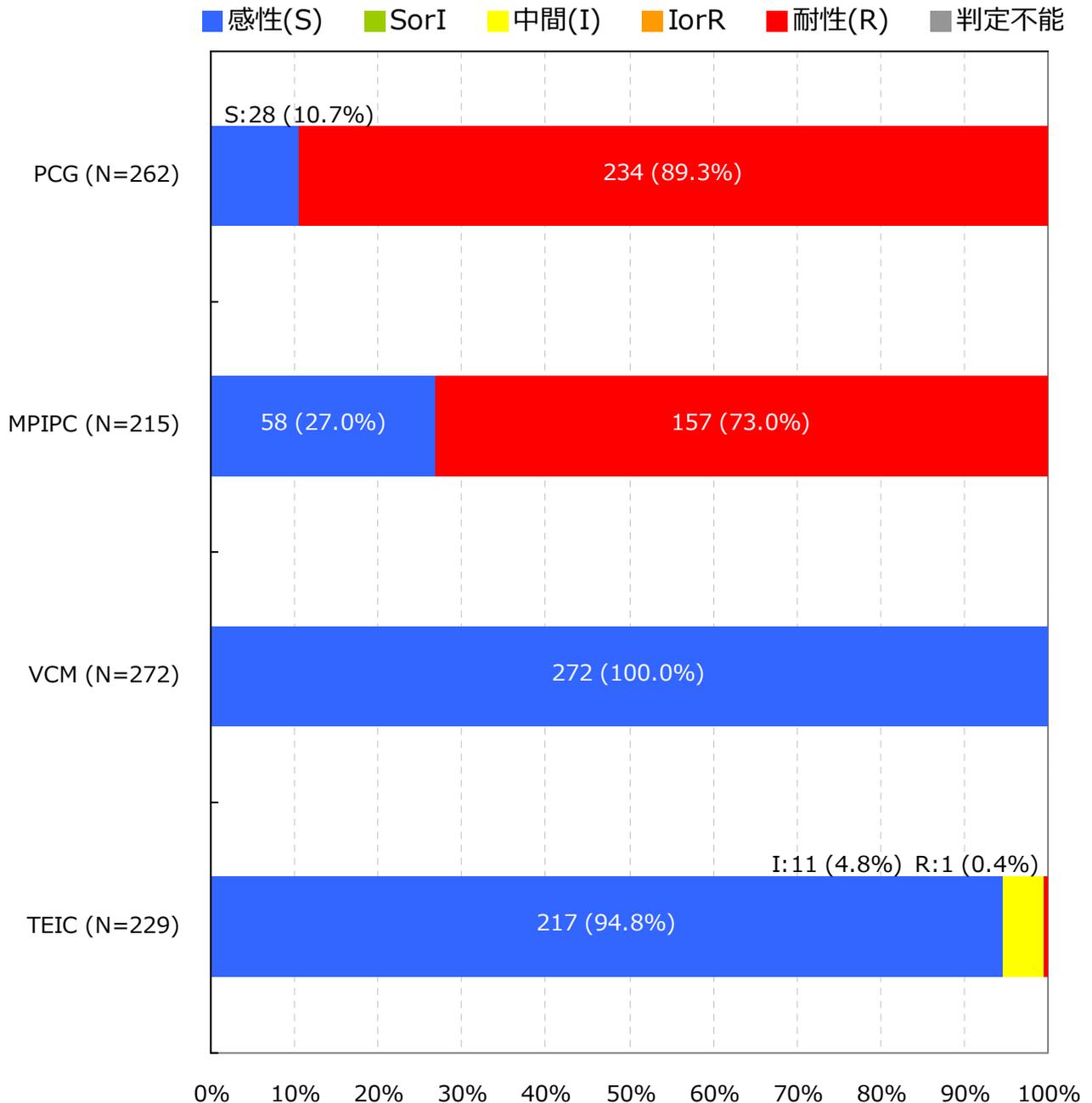
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1303と報告された菌および菌名コード : 1301と報告され抗菌薬コード : 1208 (オキサシリン) の感受性結果「R」の菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Staphylococcus epidermidis †



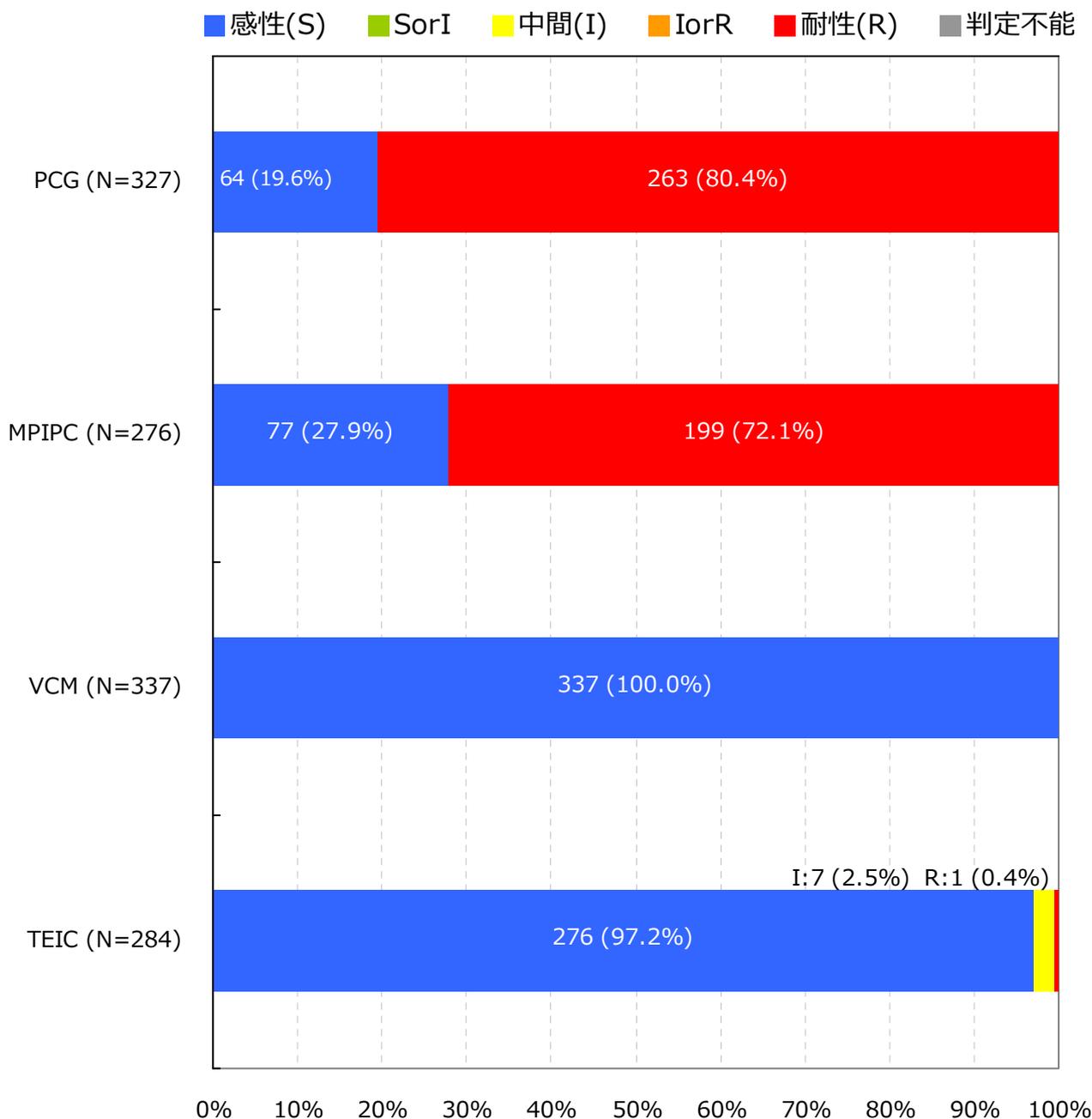
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1312と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Coagulase-negative staphylococci (CNS) †



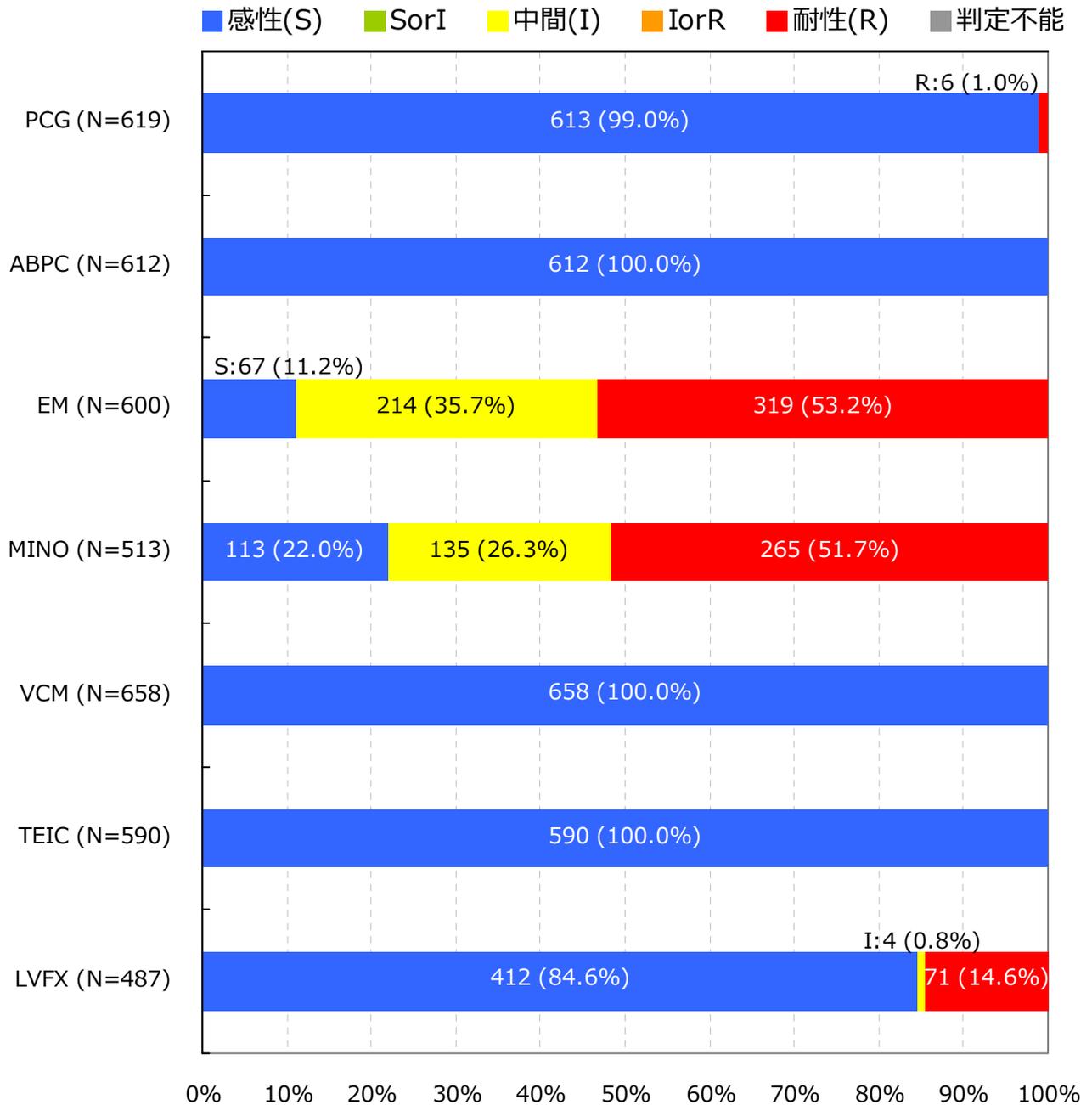
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1311, 1313~1325と報告された菌 (1312 : *Staphylococcus epidermidis*は対象外)

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Enterococcus faecalis †



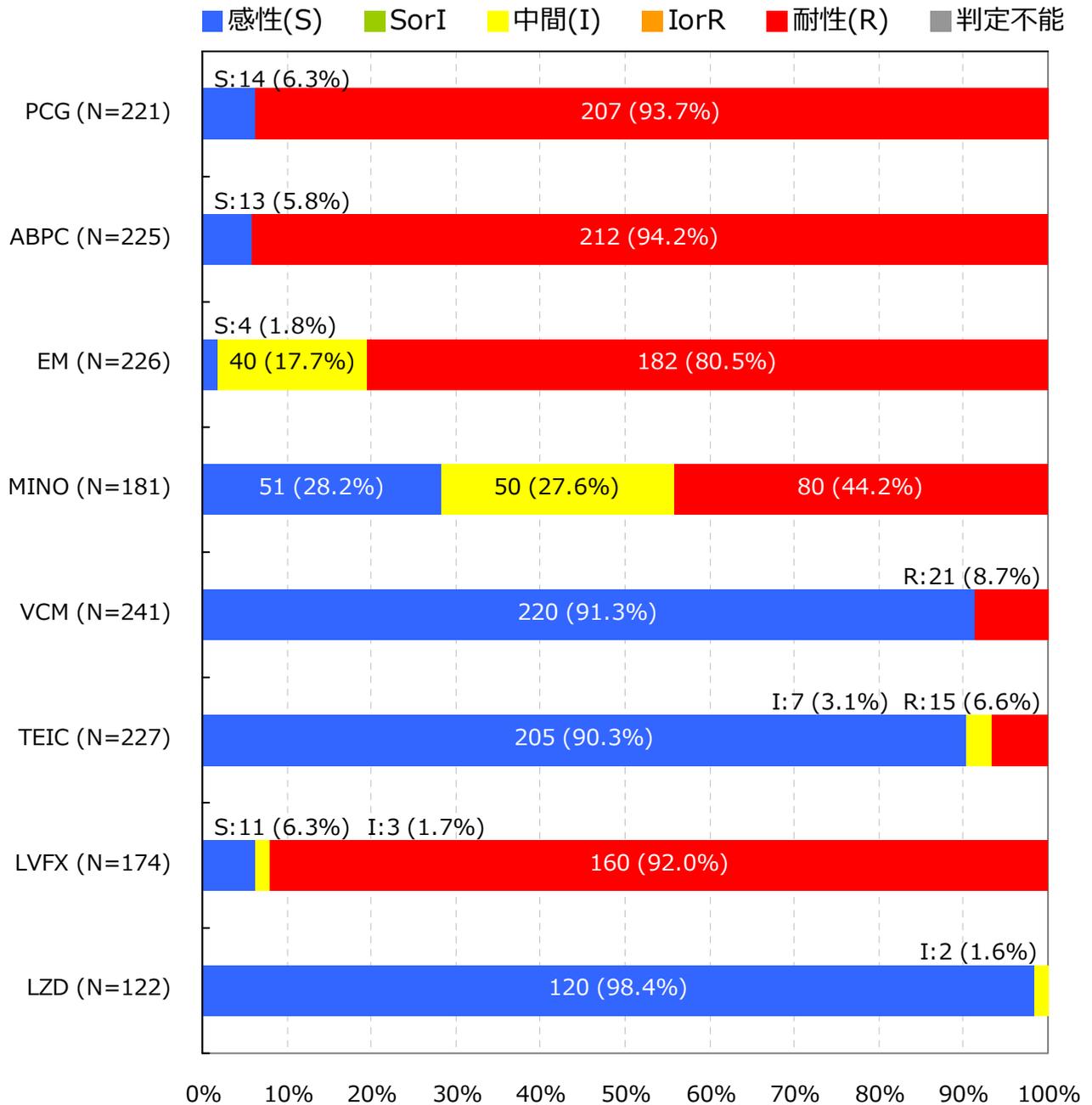
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1201, 1202と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Enterococcus faecium †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1205, 1206と報告された菌

(沖縄県)

公開情報 2017年1月～3月 四半期報(全集計対象医療機関)

院内感染対策サーベイランス 検査部門

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Streptococcus pneumoniae(髄液検体) †

報告はありませんでした

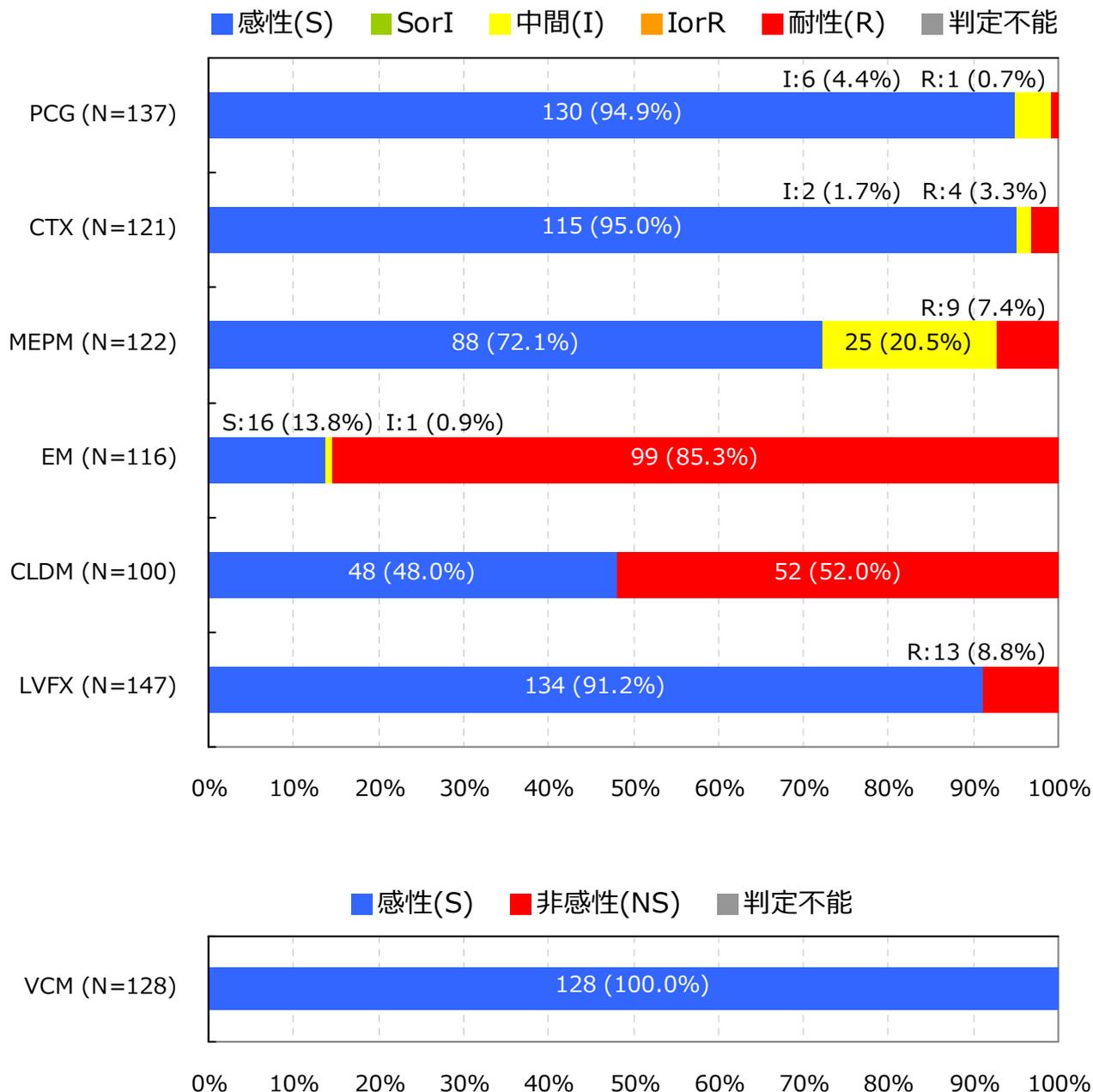
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1131と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Streptococcus pneumoniae(髄液検体以外) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

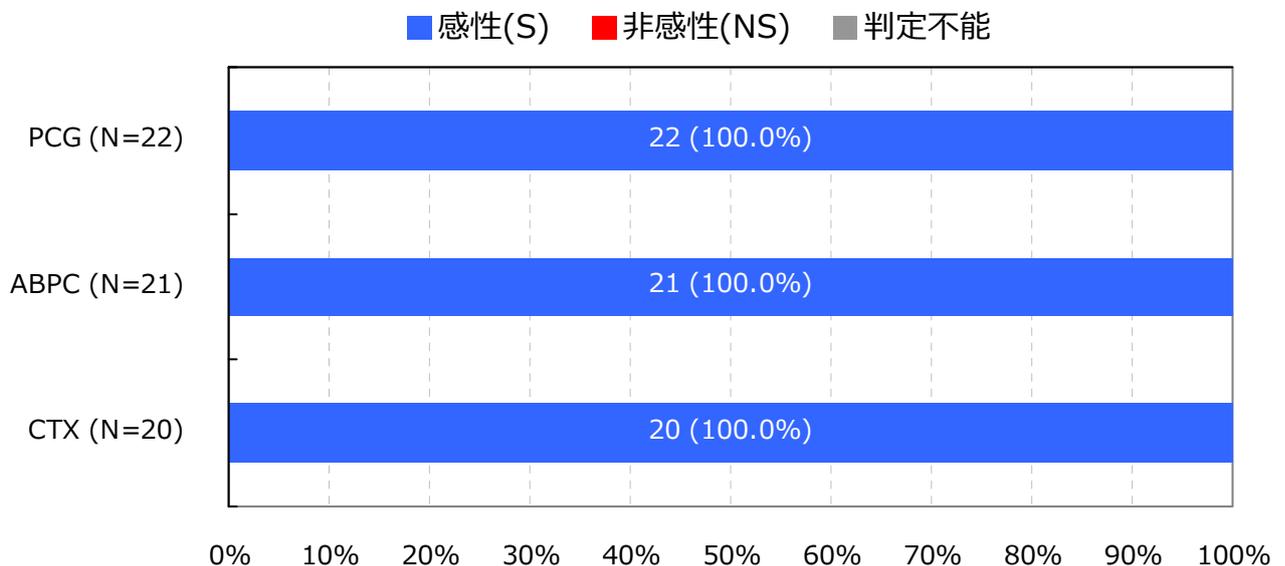
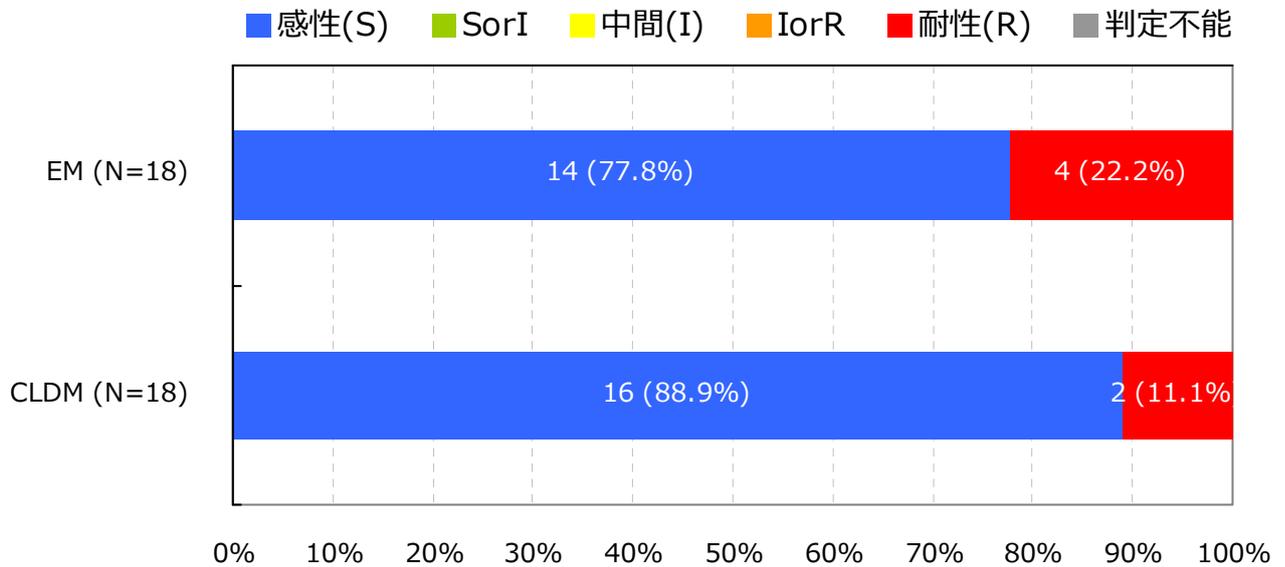
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1131と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Streptococcus pyogenes †



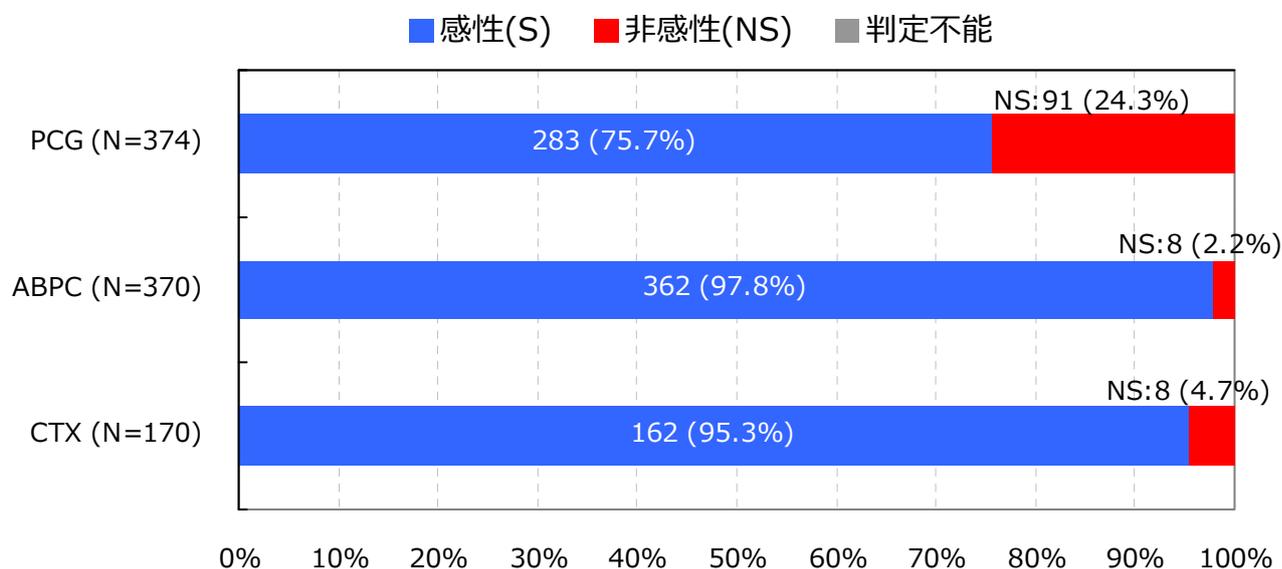
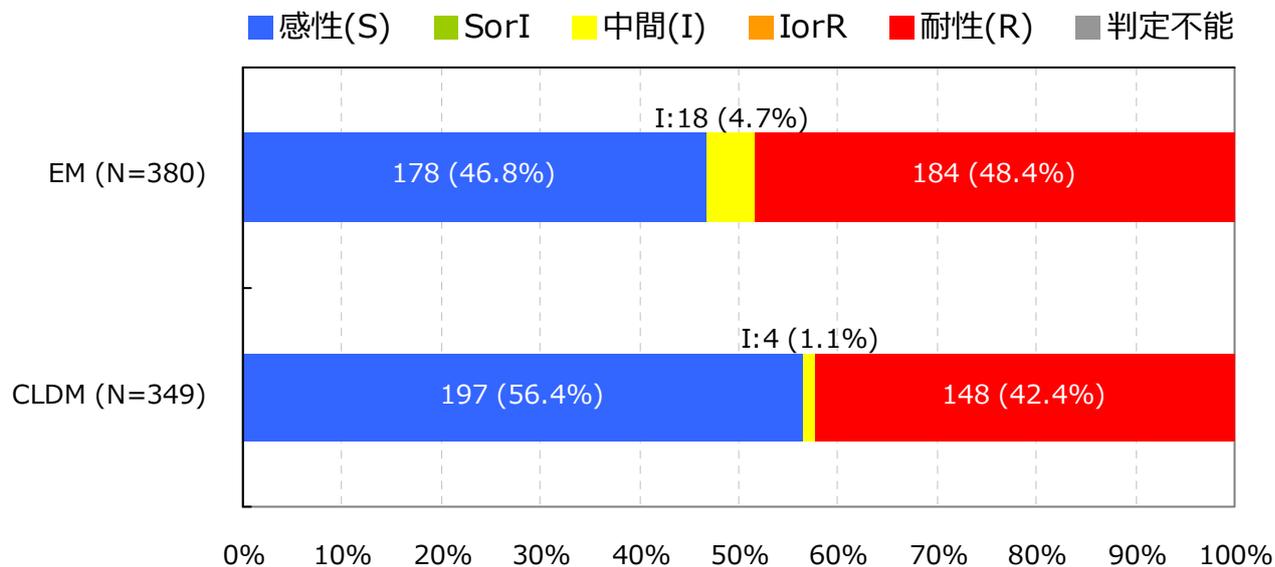
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1111と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Streptococcus agalactiae †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

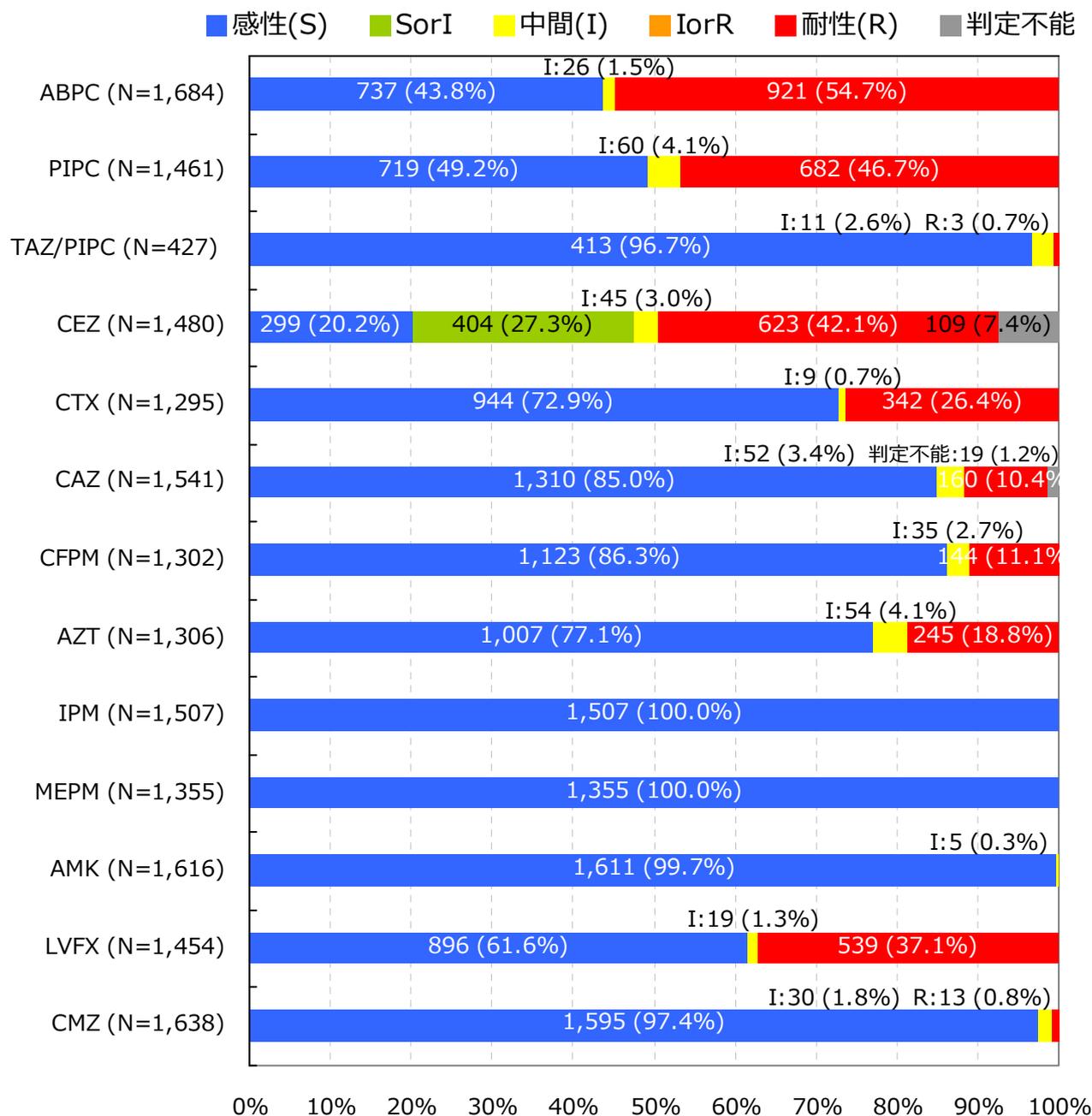
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1114と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Escherichia coli †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

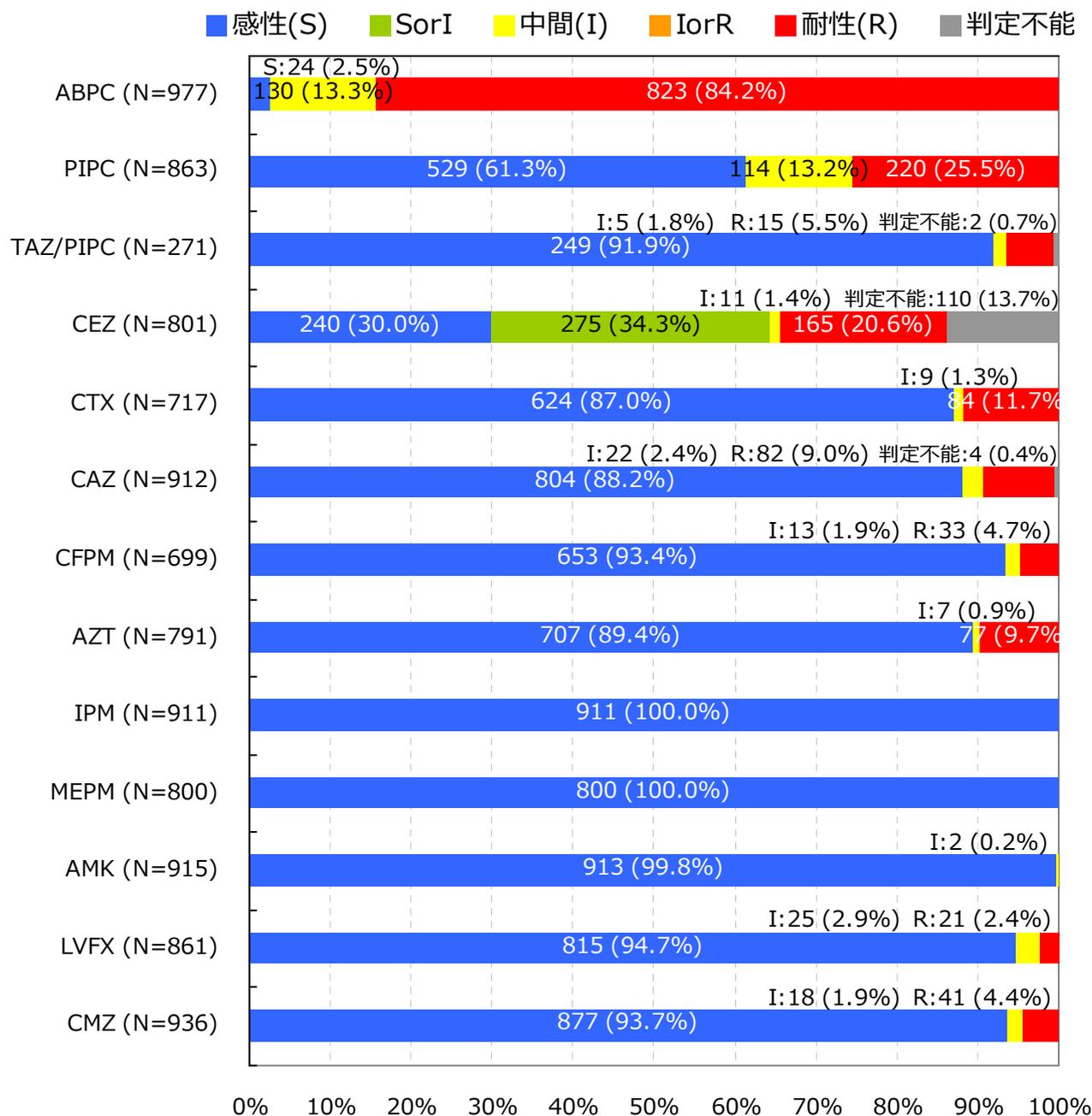
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2001～2007と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Klebsiella pneumoniae †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

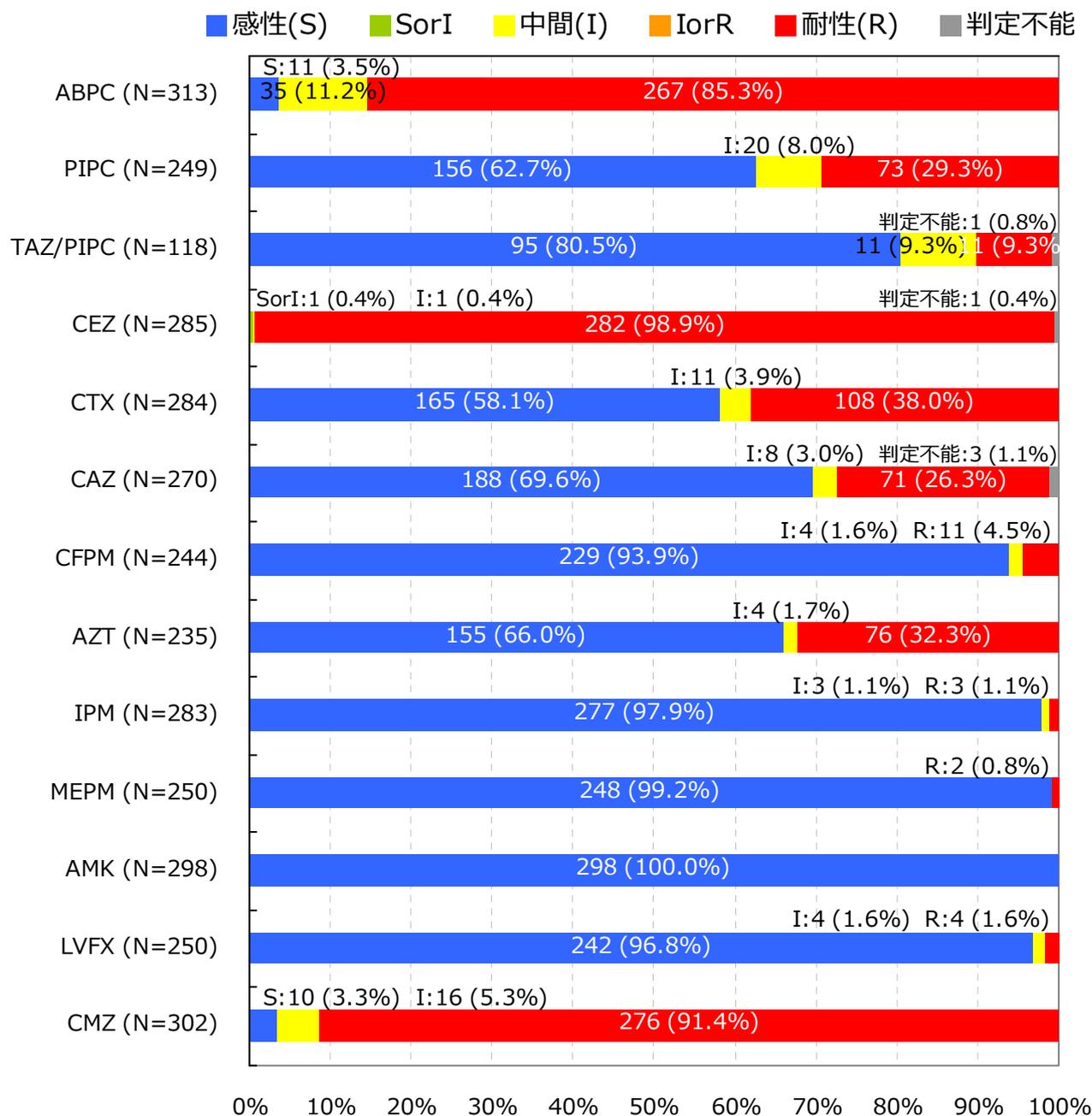
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 2351と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Enterobacter cloacae †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

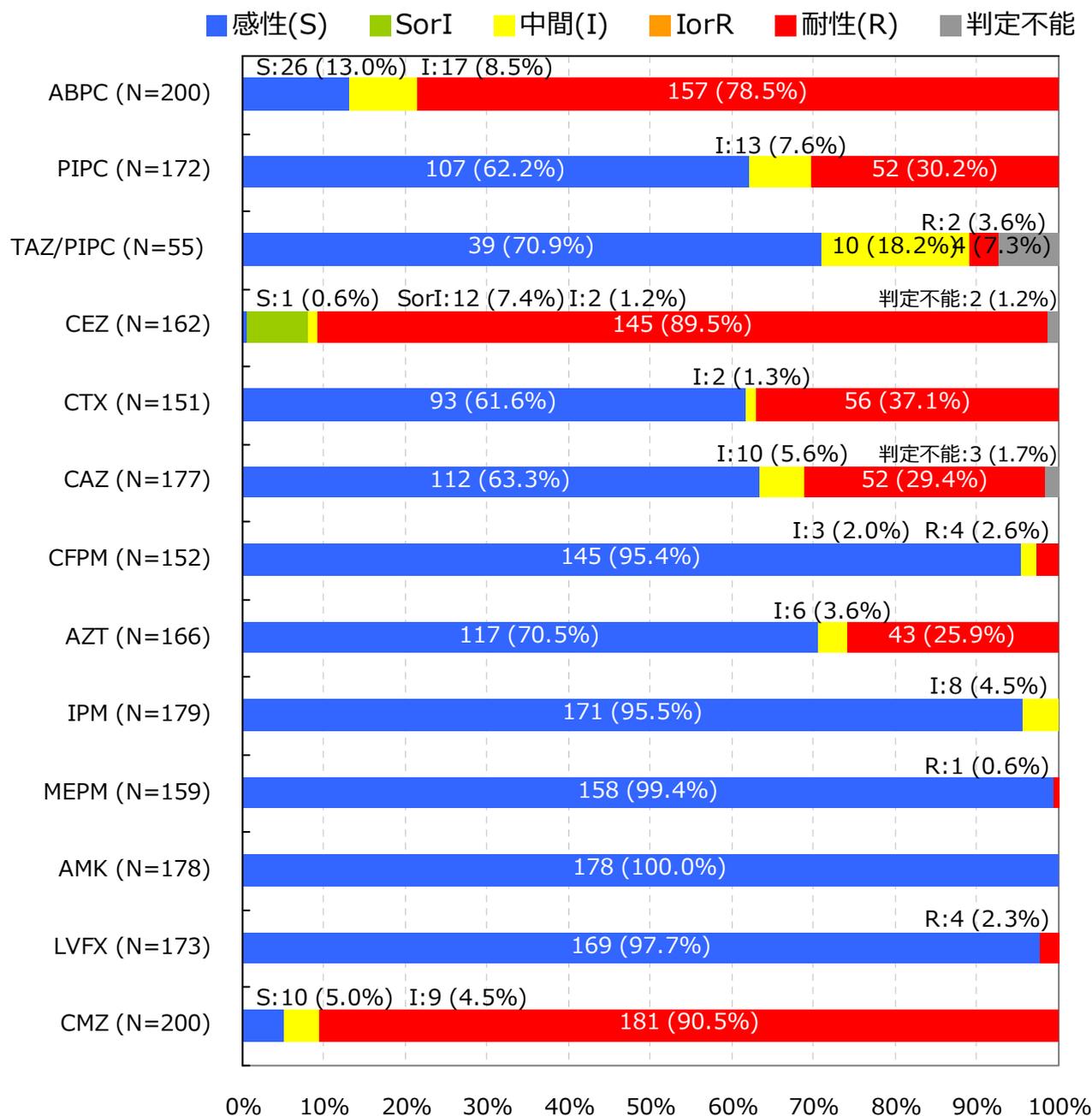
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 2151と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Enterobacter aerogenes †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

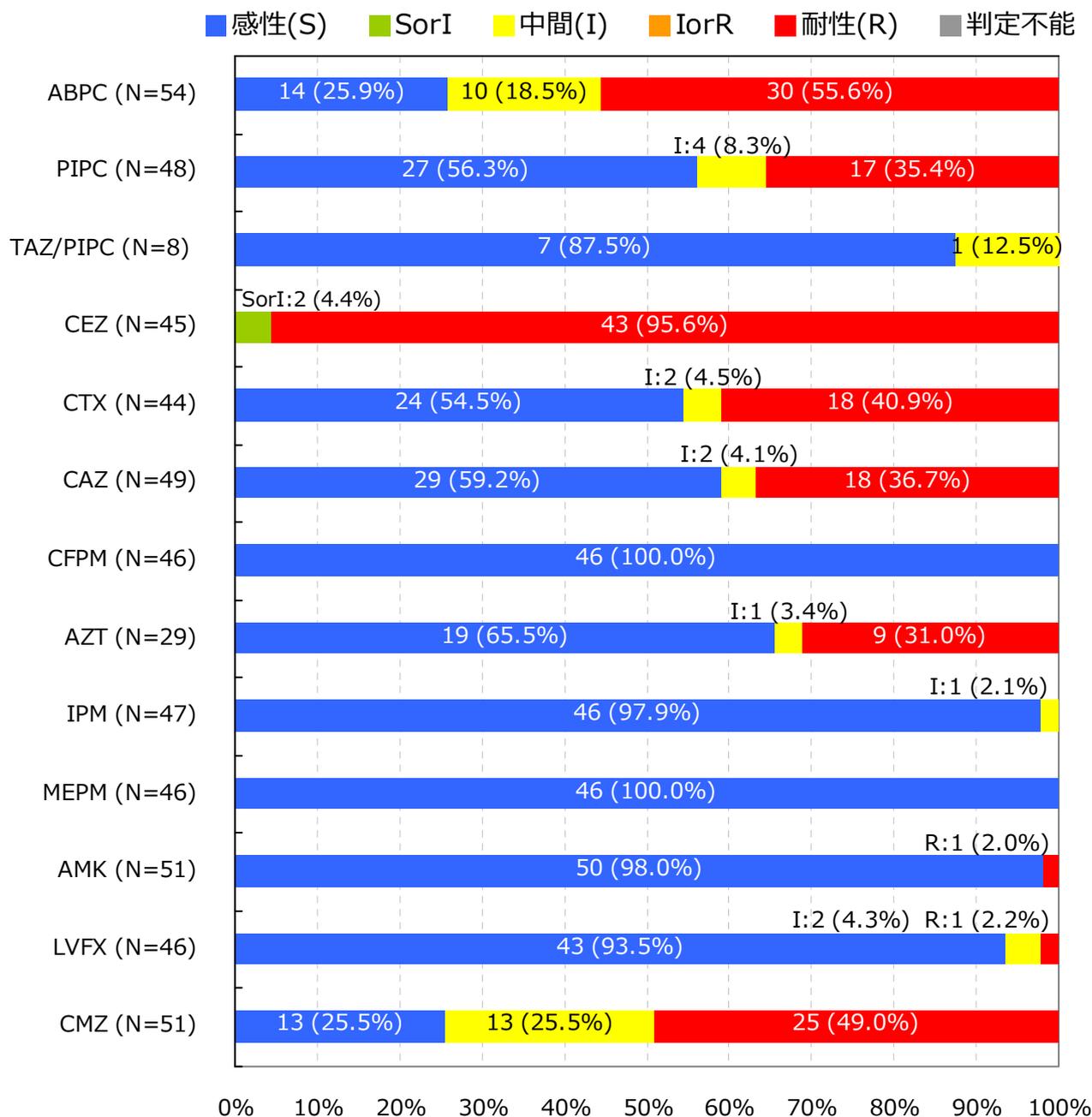
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 2152と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Citrobacter freundii †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

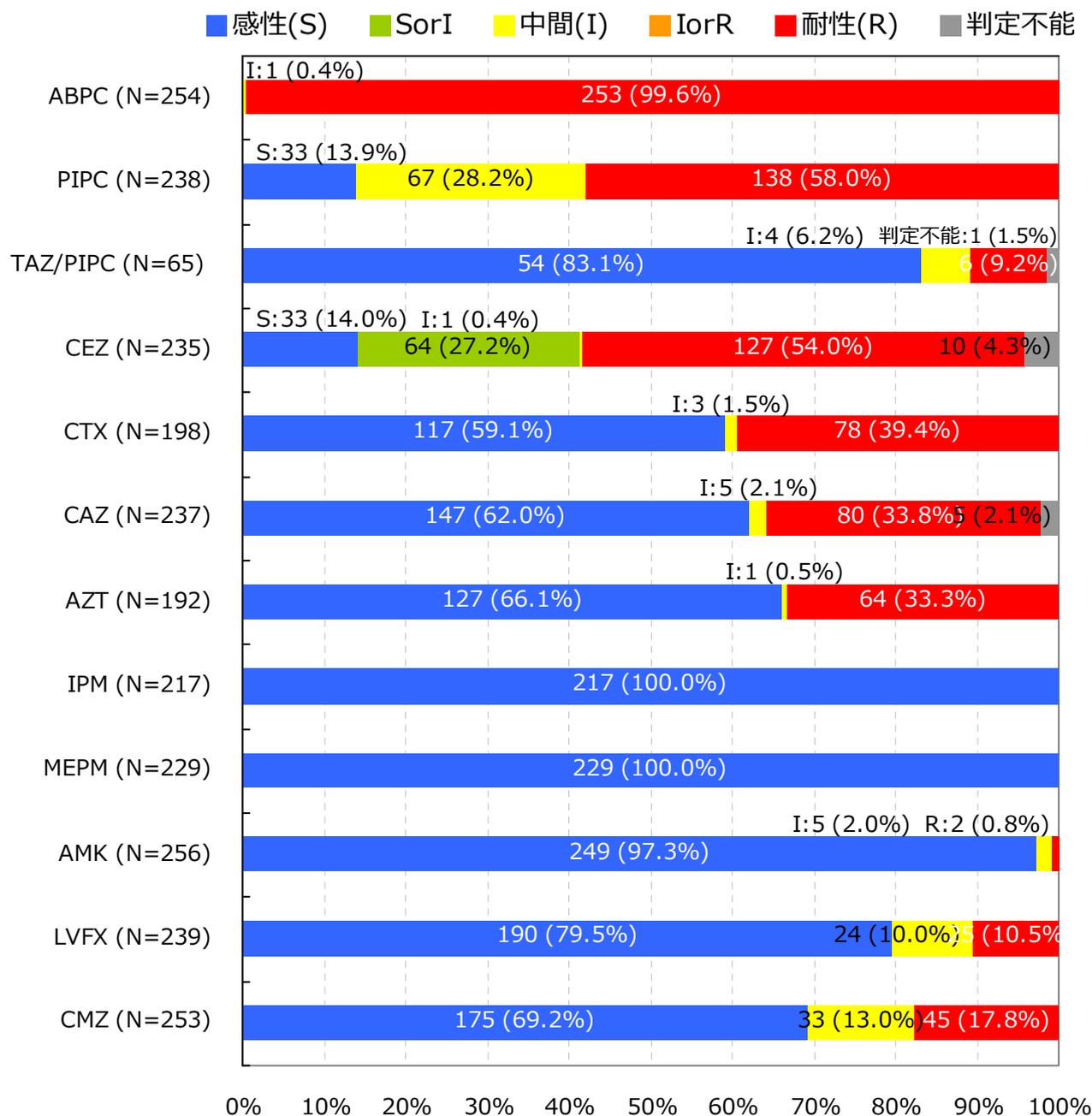
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2051と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Citrobacter koseri †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

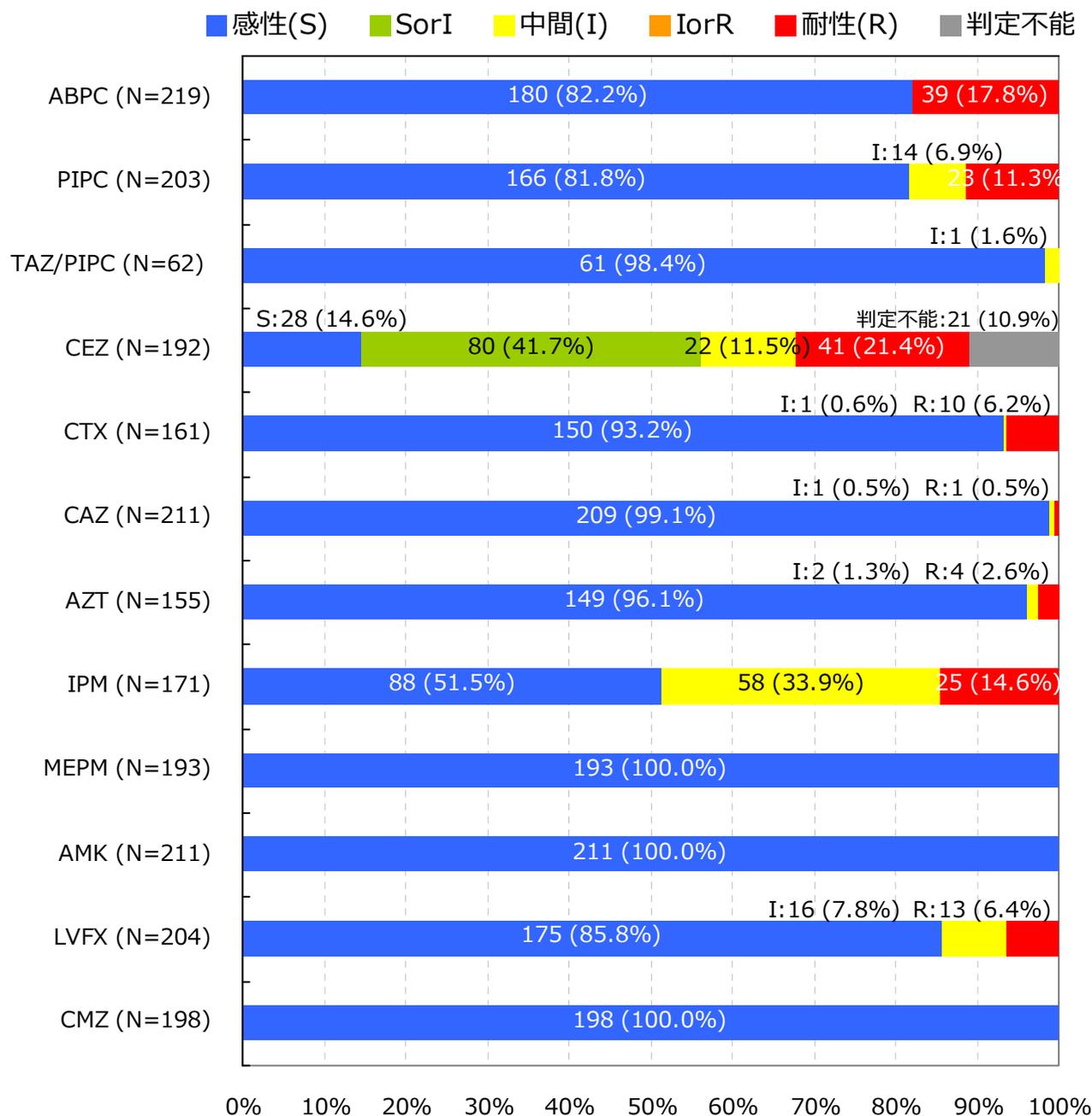
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2052と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Proteus mirabilis †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

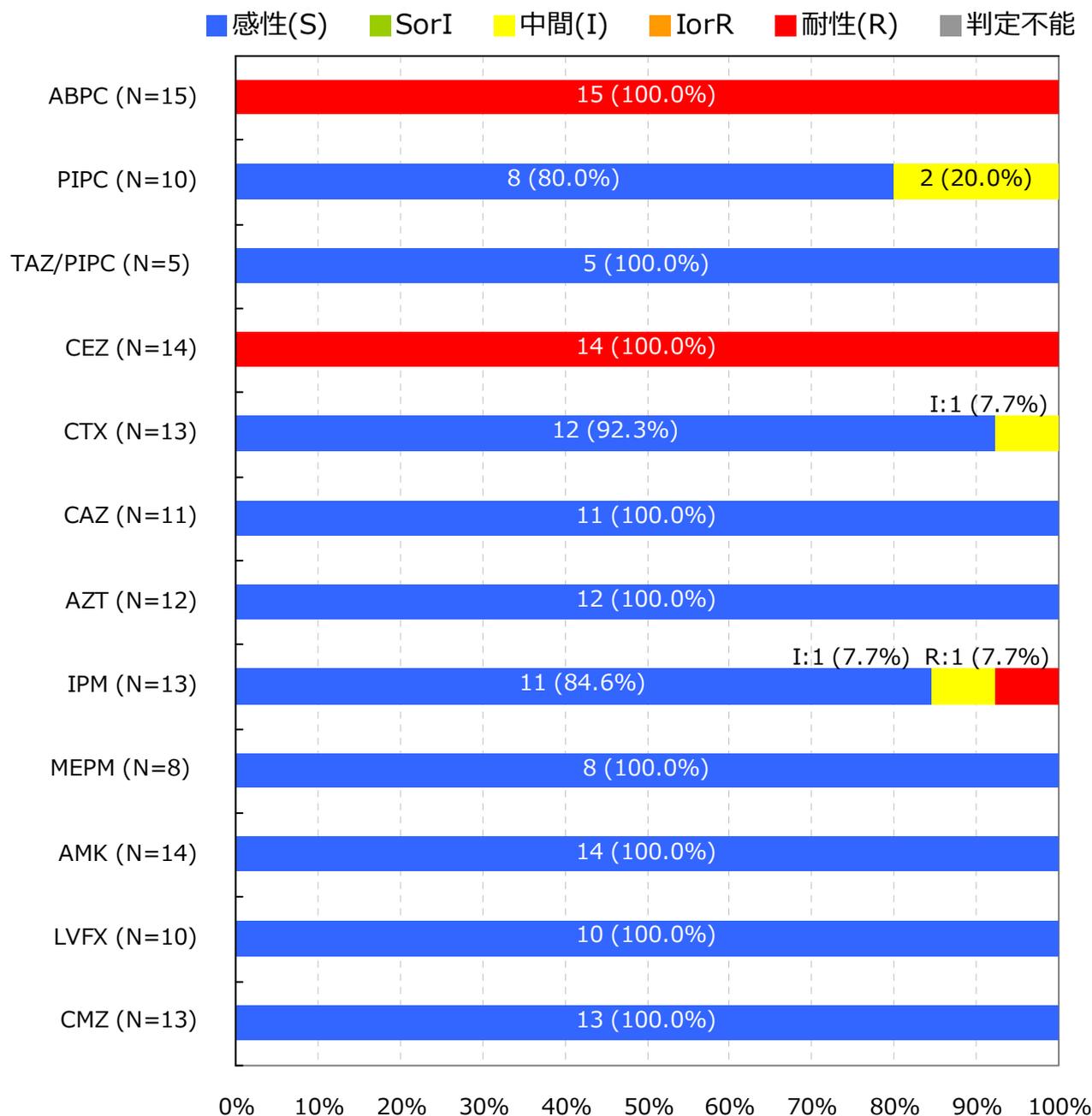
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2201と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Proteus vulgaris †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

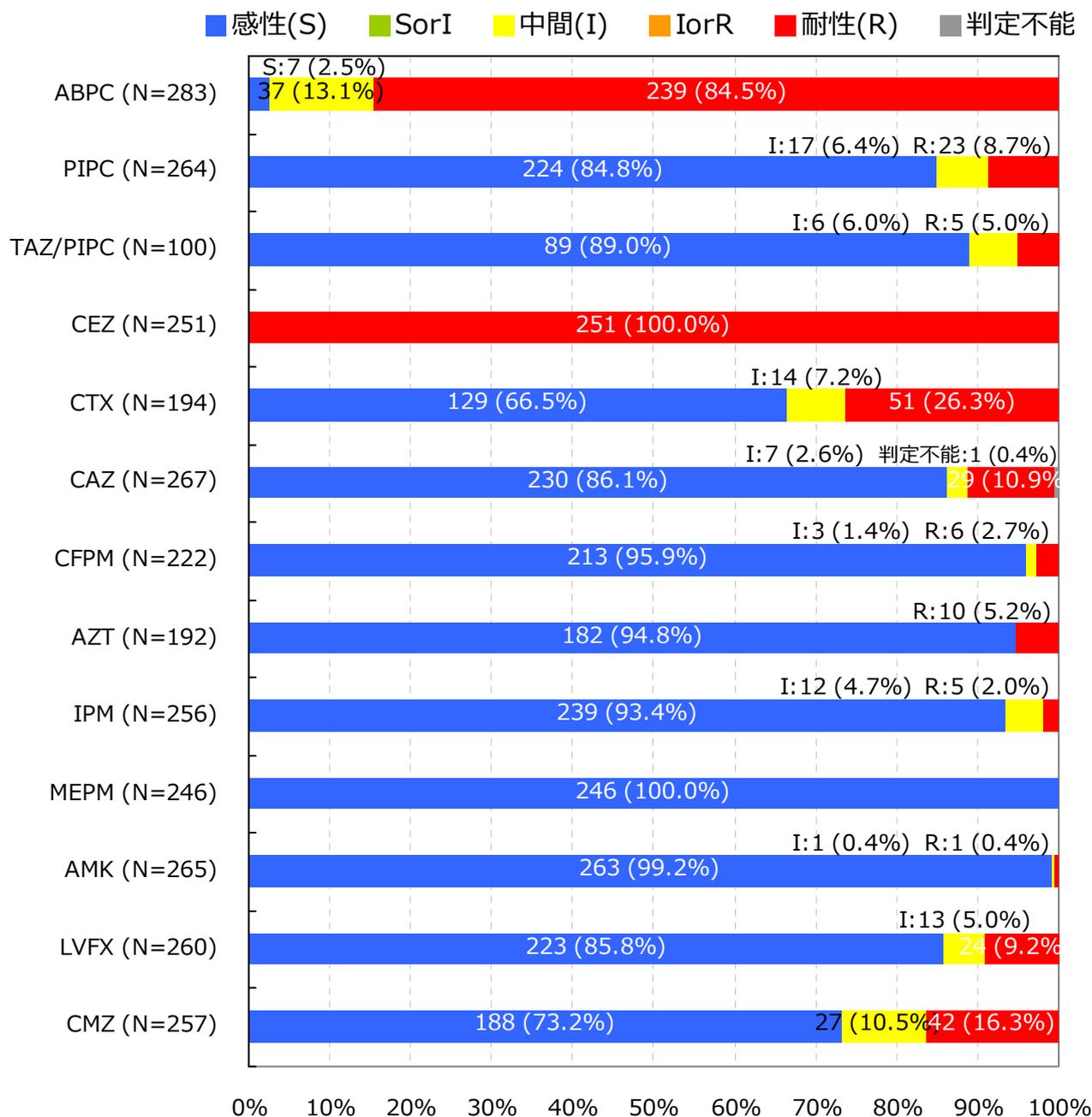
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2202と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Serratia marcescens †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

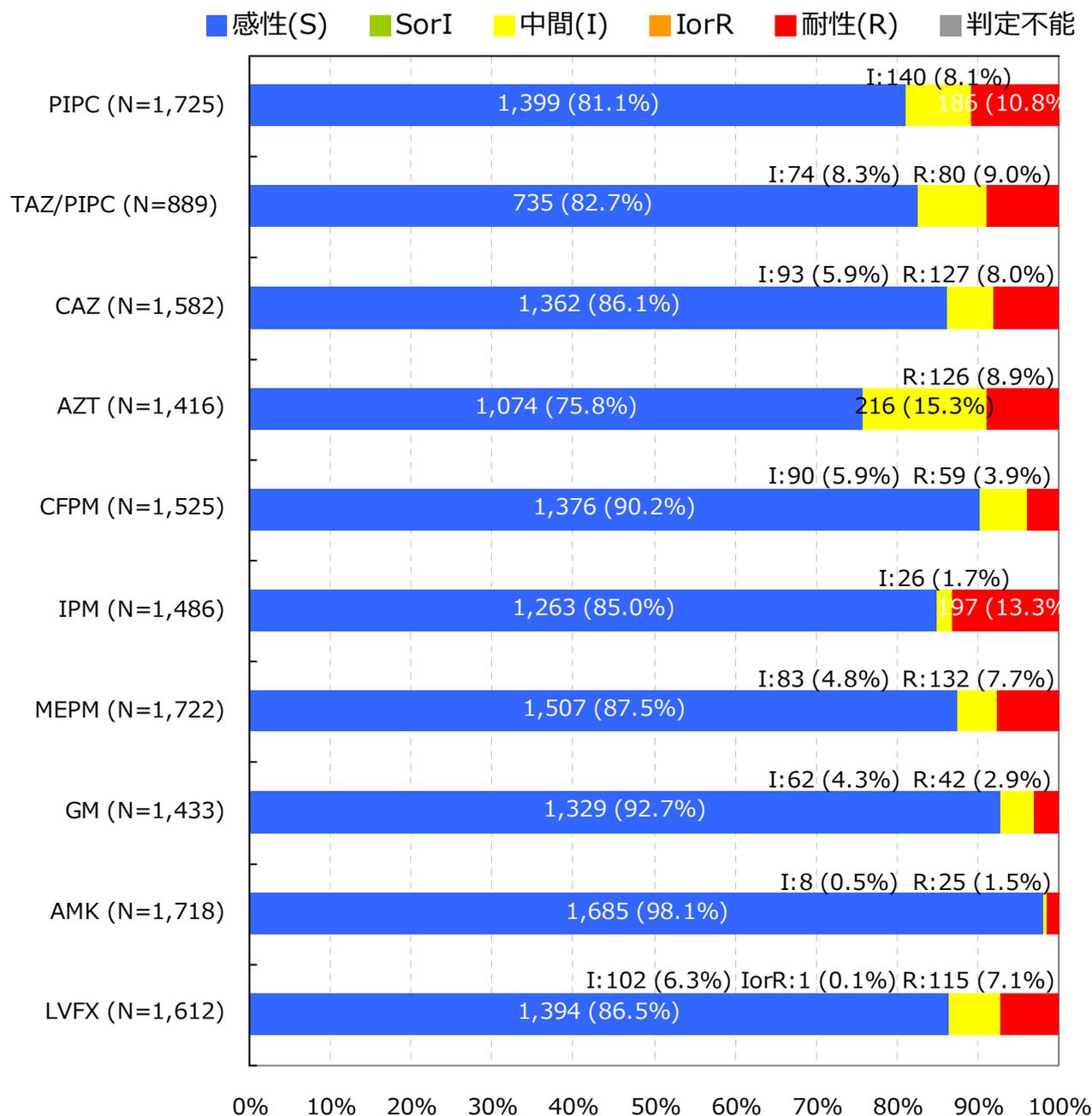
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 2101と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Pseudomonas aeruginosa †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

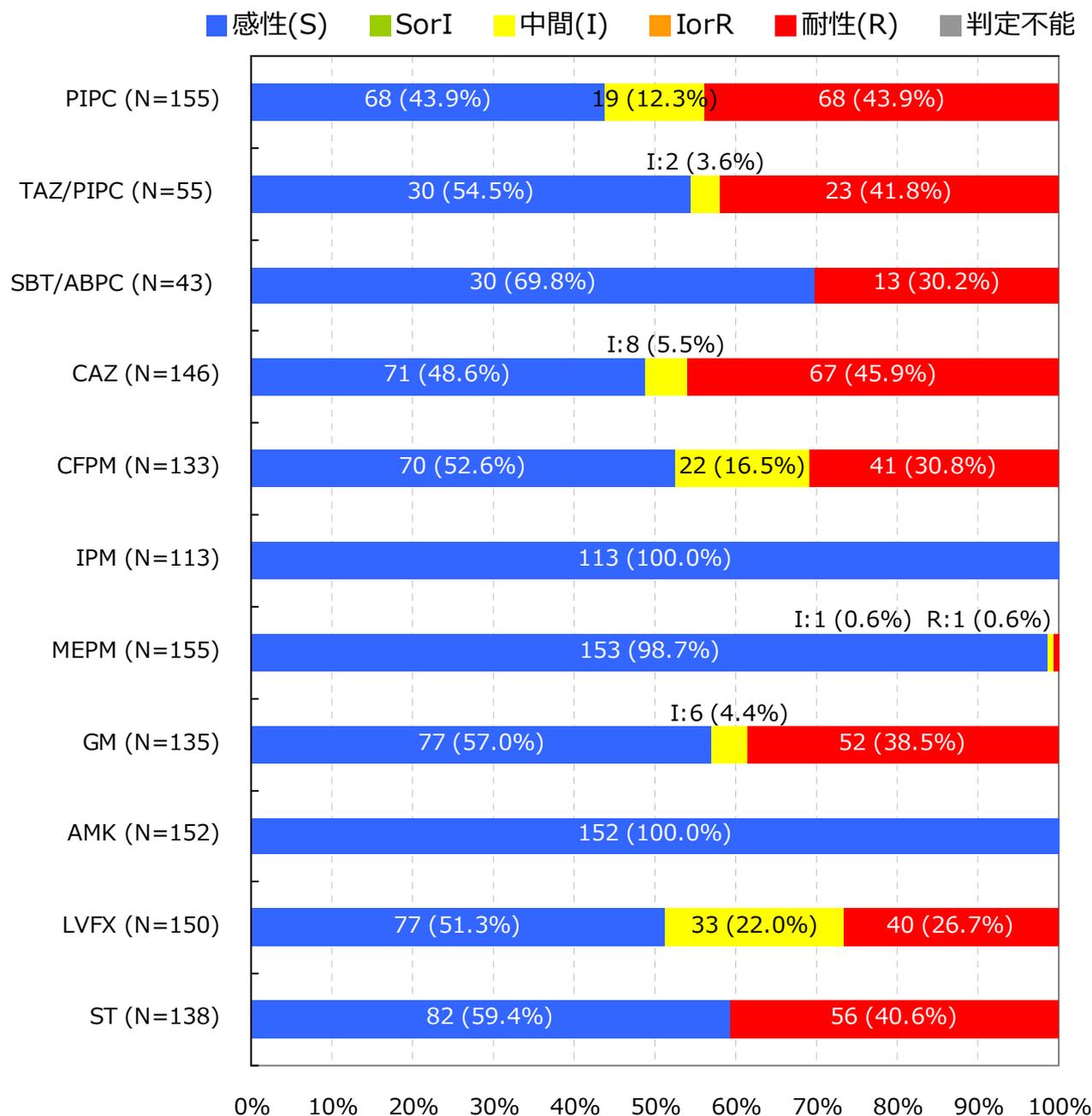
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 4001と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Acinetobacter spp. †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

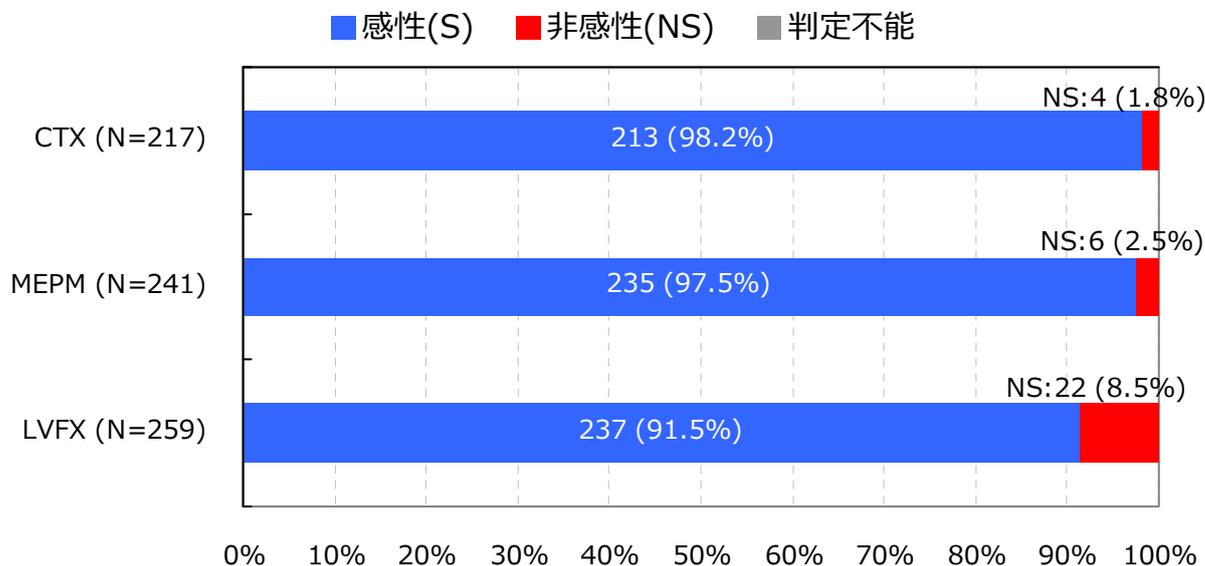
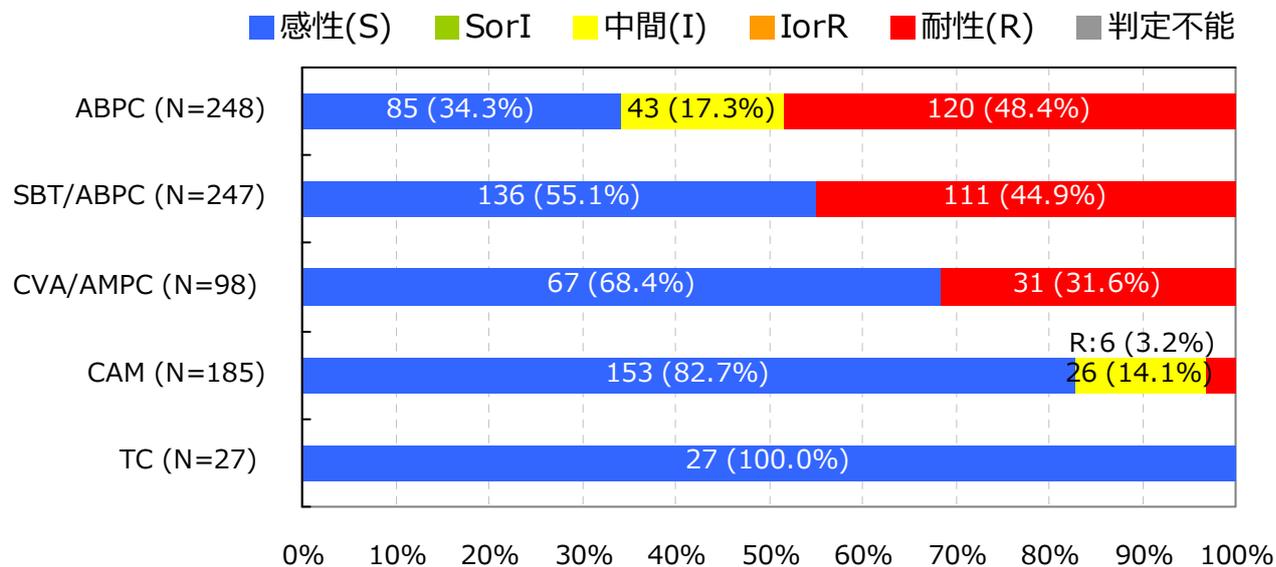
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 4400~4403と報告された菌

6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Haemophilus influenzae †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 3201, 3202, 3203, 3205, 3208, 3211, 3214, 3217, 3220, 3223と報告された菌

【巻末資料 1 主要菌の菌名コード / 微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準】

主要菌の菌名コード（薬剤感受性条件なし）

| 菌名 | 菌名コード Ver.4.1 |
|-----------------------------------|----------------|
| <i>Staphylococcus aureus</i> | 1301,1303-1306 |
| <i>Staphylococcus epidermidis</i> | 1312 |
| <i>Streptococcus pneumoniae</i> | 1131 |
| <i>Enterococcus faecalis</i> | 1201,1202 |
| <i>Enterococcus faecium</i> | 1205,1206 |
| <i>Escherichia coli</i> | 2001-2007 |
| <i>Klebsiella pneumoniae</i> | 2351 |
| <i>Enterobacter</i> spp. | 2150-2156 |
| <i>Serratia marcescens</i> | 2101 |
| <i>Pseudomonas aeruginosa</i> | 4001 |
| <i>Acinetobacter</i> spp. | 4400-4403 |

「微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準」について

耐性菌の菌名※は以下の通り

MRSA : Methicillin-resistant *S. aureus* メチシリン耐性黄色ブドウ球菌

VRSA : Vancomycin-resistant *S. aureus* バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌

VRE : Vancomycin-resistant *Enterococcus* spp. バンコマイシン耐性腸球菌

PRSP : Penicillin-resistant *S. pneumoniae* ペニシリン耐性肺炎球菌

MDRP : Multidrug-resistant *P. aeruginosa* 多剤耐性緑膿菌

MDRA : Multidrug-resistant *Acinetobacter* spp. 多剤耐性アシネトバクター属

CRE : Carbapenem-Resistant Enterobacteriaceae カルバペネム耐性腸内細菌科細菌（2015年1月より集計開始）

* : 原則 S,I,R の判定は CLSI2012 (M100-S22) に準拠

† : 感染症発生動向調査の基準に準拠

2014年12月分データまでは CLSI2007 (M100-S17)、2015年1月分データより CLSI2012 (M100-S22) に準拠する。
薬剤耐性菌判定基準 (Ver.3.1) と 検査部門特定の耐性菌判定基準 (Ver.4.1) を基に作成した。

微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準

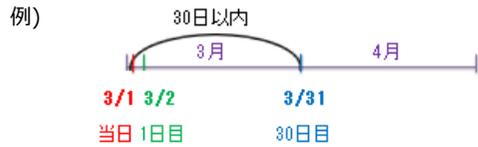
| 菌名※ | 概要* | 微量液体希釈法 (MIC 値) | 菌名コード Ver.4.1 |
|------|---|--|---|
| MRSA | MPIPC が "R" の <i>S. aureus</i> または選択培地で MRSA と確認された菌 | MPIPC $\geq 4\mu\text{g}/\text{mL}$ | 1301,1303 |
| VRSA | VCM が微量液体希釈法で "R" の <i>S. aureus</i> | VCM $\geq 16\mu\text{g}/\text{mL}$ | 1301,1303-1306 |
| VRE | 下記のいずれかの条件を満たす <i>Enterococcus</i> spp. ・ VCM が微量液体希釈法で耐性† ・ 選択培地で VRE と確認された菌 注) 種の同定が行われていない <i>Enterococcus</i> sp. は除く | VCM $\geq 16\mu\text{g}/\text{mL}$ † | 1201,1202,1205, 1206,1209,1210, 1213-1217 |
| PRSP | PCG が微量液体希釈法で耐性† の <i>S. pneumoniae</i> | PCG $\geq 0.125\mu\text{g}/\text{mL}$ † | 1131 |
| MDRP | 下記全てに該当する <i>P. aeruginosa</i> 1. カルバペネム系 (IPM, MEPM の何れか) が 微量液体希釈法で耐性† 2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈 法で耐性† 3. フルオロキノロン系 (NFLX, OFLX, LVFX、 CPFX, LFLX, GFLX の何れか) が "R" | 1. IPM $\geq 16\mu\text{g}/\text{mL}$ †、 MEPM $\geq 16\mu\text{g}/\text{mL}$ † 2. AMK $\geq 32\mu\text{g}/\text{mL}$ † 3. NFLX $\geq 16\mu\text{g}/\text{mL}$ 、 OFLX $\geq 8\mu\text{g}/\text{mL}$ 、 LVFX $\geq 8\mu\text{g}/\text{mL}$ 、 LFLX $\geq 8\mu\text{g}/\text{mL}$ 、 GFLX $\geq 8\mu\text{g}/\text{mL}$ 、 CPFX $\geq 4\mu\text{g}/\text{mL}$ | 4001 |

| 菌名※ | 概要* | 微量液体希釈法 (MIC 値) | 菌名コード Ver.4.1 |
|----------------------------|--|---|-------------------------|
| MDRA | 下記全てに該当する <i>Acinetobacter</i> spp. 1. カルバペネム系 (IPM, MEPM の何れか) が "R" 2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈 法で耐性† 3. フルオロキノロン系 (LVFX, CPFX, GFLX の 何れか) が "R" | 1. IPM $\geq 16\mu\text{g}/\text{mL}$ †、 MEPM $\geq 16\mu\text{g}/\text{mL}$ † 2. AMK $\geq 32\mu\text{g}/\text{mL}$ † 3. LVFX $\geq 8\mu\text{g}/\text{mL}$ 、 CPFX $\geq 4\mu\text{g}/\text{mL}$ 、 GFLX $\geq 8\mu\text{g}/\text{mL}$ | 4400-4403 |
| CRE | 下記の何れかの条件を満たす腸内細菌科 1. MEPM が耐性† 2. IPM が耐性†、かつ CMZ が "R" | 1. MEPM $\geq 2\mu\text{g}/\text{mL}$ † 2. IPM $\geq 2\mu\text{g}/\text{mL}$ † かつ CMZ $\geq 64\mu\text{g}/\text{mL}$ | 2000-2691, 3150-3151 |
| カルバペネム 耐性緑膿菌 | IPM または MEPM が耐性† の <i>P. aeruginosa</i> | IPM $\geq 16\mu\text{g}/\text{mL}$ † MEPM $\geq 16\mu\text{g}/\text{mL}$ † | 4001 |
| 第三世代セファロ スポリン耐性 肺炎桿菌 | CTX または CAZ が "R" の <i>K. pneumoniae</i> | CTX $\geq 4\mu\text{g}/\text{mL}$ CAZ $\geq 16\mu\text{g}/\text{mL}$ | 2351 |
| 第三世代セファロ スポリン耐性 大腸菌 | CTX または CAZ が "R" の <i>E. coli</i> | CTX $\geq 4\mu\text{g}/\text{mL}$ CAZ $\geq 16\mu\text{g}/\text{mL}$ | 2001-2007 |
| フルオロキノロン 耐性大腸菌 | フルオロキノロン系 (NFLX, OFLX, LVFX, LFLX、 GFLX, CPFX の何れか) が "R" の <i>E. coli</i> | NFLX $\geq 16\mu\text{g}/\text{mL}$ 、 OFLX $\geq 8\mu\text{g}/\text{mL}$ 、 LVFX $\geq 8\mu\text{g}/\text{mL}$ 、 LFLX $\geq 8\mu\text{g}/\text{mL}$ 、 GFLX $\geq 8\mu\text{g}/\text{mL}$ 、 CPFX $\geq 4\mu\text{g}/\text{mL}$ | 2001-2007 |

【巻末資料 2 公開情報の集計方法について】

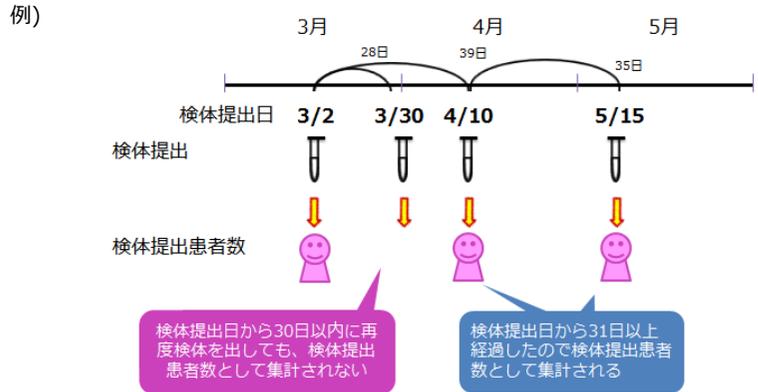
1. 日数の数え方

検体提出日の翌日を 1 日目とする。検体提出日が 3 月 1 日とすると、1 日目が 3 月 2 日、30 日目が 3 月 31 日となる。



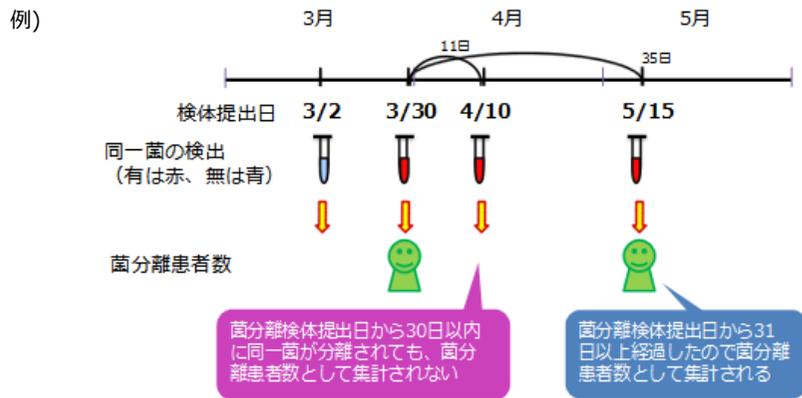
2. 検体提出患者数

検体提出患者数は、検体の種類や菌分離の有無に関わらず検体(入院検体)が提出された患者の数である。検体提出患者数は重複処理を行っており、30 日以内の同一患者からの複数の検体提出は 1 件とする。



3. 菌分離患者数

菌分離患者数も検体提出患者と同様の重複処理を行い、30 日以内に同一患者から同一菌が複数回検出された場合、菌分離患者数は 1 件とする。耐性菌分離患者数は、耐性菌の基準に合致する菌をまず抽出し、その中で上記重複処理を行っている。



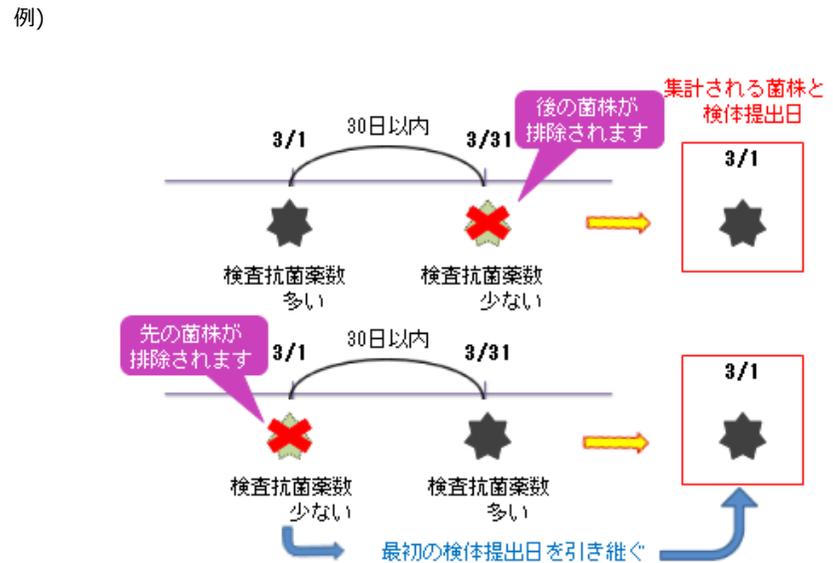
4. 抗菌薬感受性検査結果をもとにした同一菌と異なる菌との区別

30 日以内に同一患者から同一菌が検出された場合であっても、検査抗菌薬感受性結果に 1 つ以上不一致(下記①～④のいずれかに該当)がある場合は異なる菌株として集計される。

- ① MIC 値に 4 倍以上の違いがある
ただし、MIC > 2 は MIC ≥ 4 と考え、判定時は MIC = 4 として扱う
また、MIC < 16 は MIC ≤ 16 と考え、判定時は MIC = 16 として扱う
- ② SIR 判定では「S と R」の組み合わせ
- ③ +/- 判定では「-と++」または「+と+++」または「-と+++」の組み合わせ
- ④ 共通する検査抗菌薬数が 5 未満

5. 抗菌薬感受性結果の重複処理

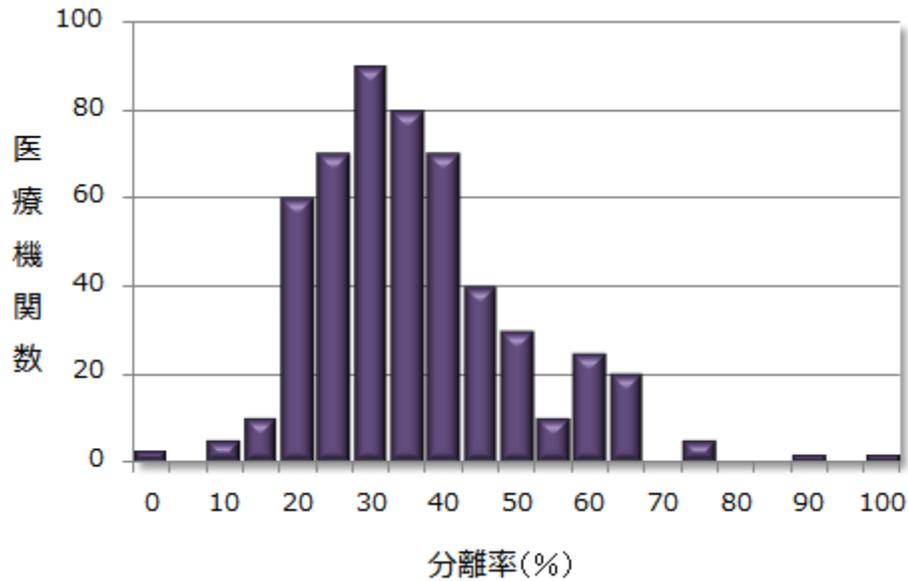
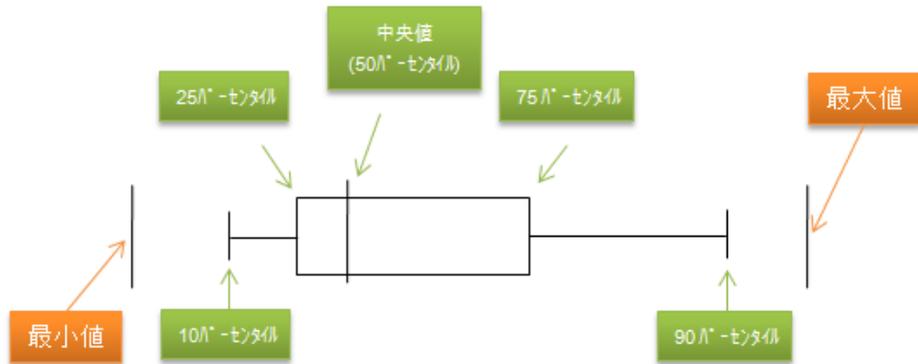
検体提出日が先の菌株の検査抗菌薬数が(30 日以内の)後の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、後の菌株の抗菌薬感受性検査結果は排除する。また、検体提出日が後の菌株の検査抗菌薬数が(30 日以内の)先の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、先の菌株の抗菌薬感受性検査結果を排除するが、先の検査の検体提出日を引き継ぐ。



【巻末資料 3 箱ひげ図について】

1. 箱ひげ図について

集計対象医療機関のデータのばらつきを示し、集計対象医療機関における自施設の位置を確認することができる。



※ パーセンタイル：値を小さいものから大きいものへと順番に並べ、全体を 100 として何番目であるかを表したものの。
 例えば、10パーセンタイルは、全体を 100 として小さいほうから数えて 10 番目の計測値を示している。

2. 公開情報の箱ひげ図



| 集計対象医療機関の分離率 (%) の分布 | | |
|----------------------|----------------------|------------------|
| 2010年 * | 2011 | |
| 1,069,216人 | 1,309,993人 | |
| 175,145人 (16.38%) | 210,382人 (16.06%) | 2.43 15.96 46.06 |
| 47,523人 (4.44%) | 64,588人 (4.93%) | 0.00 3.21 37.54 |